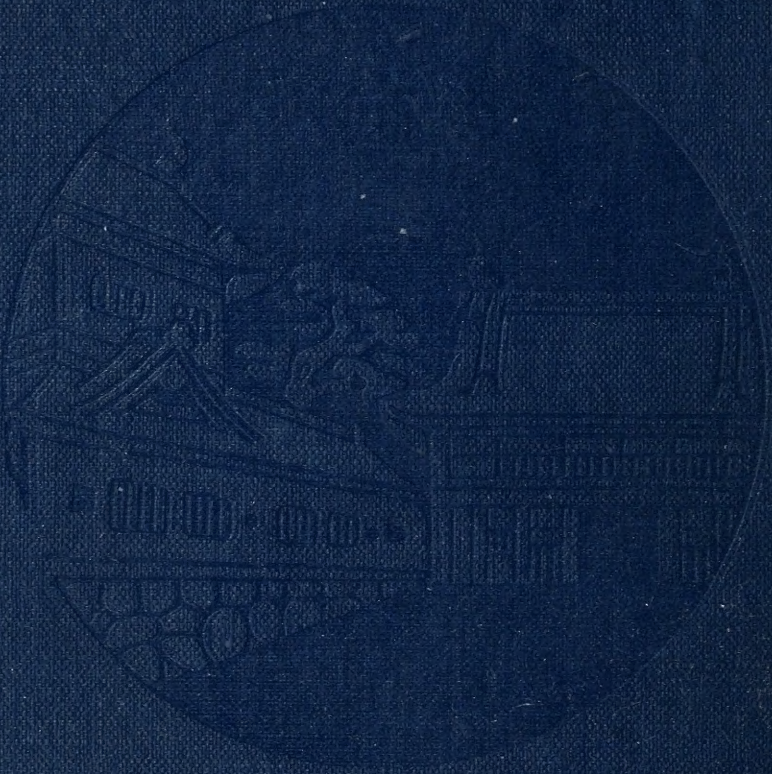


DS
897
S4S8
Suppl.1
v.4

Suzuki, Shōzō
Sendai sōsho

East
Asiatic
Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

Digitized by the Internet Archive
in 2011 with funding from
University of Toronto

http://www.archive.org/details/s1sendaisos04suzu

仙臺叢書別集第四卷

LIBRARY
APR 19 1968
UNIVERSITY OF TORONTO

仙臺叢書刊行會

DS
897
S458
Suppl. 1
V. 4

解譯豐杉勝譜

舟山萬年の書

仙臺飯川源氏所藏

仙臺叢書別集第四卷

目次

鹽松勝譜 第一卷……一五頁
同 第二卷……三一頁
同 第三卷……四六頁
同 第四卷……六四頁
同 第五卷……八〇頁
同 第六卷……九七頁
同 第七卷……一一三頁
同 第八卷……一二二頁
同 第九卷……一七六頁
同 第十卷……一九一頁
鹽松勝譜 第十一卷……二〇三頁
同 第十二卷……二二九頁
同 第十三卷……二四四頁
同 第十四卷……二六五頁
同 第十五卷……二八〇頁
同 第十六卷……三一一頁
同 第十七卷……三一六頁
同 第十八卷……三七七頁
同 第十九卷……三八九頁
同 第二十卷……四一一頁

目次終

解題

解譯鹽松勝譜は。香雪佐澤廣胖か 前輩舟山萬年の著作せる。鹽松勝譜に解譯を加へたるものなり。蓋廣胖か其原著の漢文にして通曉し易からさるを憂ひ、之に就て解譯を下したるは。原著者の功と共に沒す可らさるなり。松島鹽釜兩地の諸勝に於る撰著。古今少なしとなさす。然れとも其一部に限るものは。詳密にして繁冗に失し。其全部に渉るものは。廣汎にして粗漫に流るゝの憾なき能はす。其他の小著述は多しと雖も見るに足らす。而して集めて之を大成したるものは。實に此鹽松勝譜にして、其記事文章も亦金聲へて玉振るの概あり。萬年か此書を著はすや。前輩の書史を渉獵して。之を咀嚼し其精華を吐き絢爛目を奪ふの文辭となしたるは。勿論なから。其最も多とする所は、鹽松兩地の諸勝を記する、皆實地實歷の餘に出てたる事是なり。彼松島四大觀の幽・美・寵・雄なる勝景を創定して游覽に便したるか如き。之を證して餘あるなり。其名門山の一節に云く。

蓋鹽松之地。曲岸回渚連抱四合。隱如二一大環一而丘陵培塿不二必論一也。蓋譜之勝一矚萬頃者。亦何限焉。就レ中其最顯者。西有二芳山一。北有二富山一。東有二大高峯一。而所レ闕者獨南耳。所レ謂地維缺者 安得二蓬足塞一レ之也哉。余慨レ之。庚辰春偶登二此山一一矚。即知下當二一方一。與二彼三方一足上レ爭二奇地。乃定以爲二四山之一一。以補二南方之闕一。於レ是乎方面之勝全備矣

其れ此の如し。萬年は自ら鹽松の勝に於る。女媧氏なりといへるは。誣言にあらさるを知るへし。蓋實地實歷すと雖も。漫然看過し。村翁野嫗の觀音薩埵を。歷拜するか如くならんには。いかてこゝに至るへきや。萬年の松島に於る、全く之に異なり。其一景一勝必す之を觀て之を記し 其一島一洲必す之を踏み之を說く。小なる者既に此の如し 況んや大なる者をや。皆之を己れか視野の中に入れ。先つ其四大綱即ち四大觀を定め。松島四方面の勝景を之に分屬せしめ。而して之か

細目を其下に集め。次序秩然として此二十卷の鹽松勝譜を作り。後游に資す 空前絶後の大著作といふへきなり 且鹽松諸勝の外。宮城郡原の町附近より。鹽釜に至る沿道。及ひ其近旁の諸勝をも併記したるは。探勝游覽に於る。其便いかはかりそや。今や汽車あり電車あり。一瞬間にして此間を往來し。僅に其方面を一瞥するのみ。探游全しといふ可らす。左あれは今日於ても。其實景實境を探らんには。萬年か記載の惠を被むらさる可らす。抑文化發達の勢は。其利の存する所。名勝。舊蹟と雖も之を破壞して厭くことなし。故に保勝存舊の本意に背反すること多し。亦勢の已む可らさるもの。如何ともなす可らす。故に本書記載する所の地理。歷史。關係の地籍地目にして 既に已に桑滄の變に遇へるもの少からさるへし。是等の籍目に關しては。此書の記載に徵すれは之を知るを得るなり然らは則本書は。獨探游者其惠を被るのみならす。地理。歷史家。考古家も亦齊しく。其惠を被るものといふへきのみ 萬年の業亦偉なるかな。但松島。鹽釜其他の諸勝地に於る。詩歌俳句等極て多し。宜しく之を藝文部。記行 游記等の末に載すへきなり 然るに之を載せさるものは。例言に示すか如く。之を別卷として詩歌等を編集すへき預告あるか爲なるへきも。終に之を見さるは。未た編集に及はすして。世を去りしに由るならん。是れ最も遺憾とする所なり。我輩後進は。之を補足するの義務なしとせす。本會か本書を刊行するや。殊に此憾を深ふすと雖も。亦俄にこゝに至る能はすして已む亦復遺憾の極なりとす。

舟山萬年。名は光遠。通稱太郎兵衛濵陽と號す。萬年は其字なり。幼にして學を好み。儕南山か有髮の弟子なり 嘗て鹽松の勝景を記する。全書なきを憂ひ。親ら八百餘洲を實踐し。一々之を記し且圖して。全部二十一卷となせり。而して松島の四大觀を定む。曰く扇溪。（本書に。芳山さいふものは。櫻岡を主として。其山上に櫻樹あり松島の南に當るを以て。之を南都に比して斯く名る乎。）の幽觀。曰く富山の麗觀。曰く大高峯の雄觀。（一本壯觀に作る。）曰く

多門山の偉觀（一本美觀に作る。富山を麗觀とするときは。偉觀を以て可とすへきか如し）是なり。蓋萬年此大著述をなすに當り。鹽松間を歷觀する前後百回に及ふといふ。其志の厚き實に鹽松の眞知己といふへし。萬年詩文を善くし又畫を善くす。殊に好て官女の圖を作る。人其妙を稱すとなり。鹽松勝譜中。往々圖畫を挿むのみならす。其第二十一卷は。全く圖畫のみを編載せるか。皆其手自ら寫する所なり。亦奇才なるかな。蓋山水秀靈の氣。之をして然らしむるか。安政四年二月二十八日沒す。年六十七。仙臺新寺小路東秀院に葬る。

仙臺叢書別集第四卷

仙臺叢書刊行會編纂

鹽松勝譜題言

余嘗得名山勝概記。居恒發諸几研之間。禪誦之餘間。觀二三圖。讀三四篇。而熱然坐觀。則恍乎若置身於黃山白嶽之間也。後得西湖志。亦復爾。蓋宋元初明時我禪徒。遊學於兩浙七閩之地者多矣。然志專求法。不在探勝。則率皆忽過。而曠歸已矣。西京薦紳家枕藉天下之名勝。而終身歌詠。然足跡未踰皇畿。而四方則均之闇中摸索也已。今也昇平之久。士大夫類皆都服跧伏乎都邑。而罕好遠遊者。千百里之地。猶蓬礴望之。偶有遊焉者。既無辨奇常之懷。則亦唯矮子之觀場。隨人上下爾。曾不如觀黃山白嶽於名山記中者之詳也。東奧之勝參半乎天下。是以載其勝者。率懸一而漏萬。或瑣故絮說。觀玩可厭。或文辭紕繆。棘口枳吻。言之不文。尙亦勝之傳乎。舟萬年有慨于斯。徧遊其地。飫觀其勝。載圖隨註。自有鹽松圖志。蓋無以加焉者。然則此編也。萬年心血之所存。觀者無忽覽而曠玩。則萬年之志始了也矣。

文政癸未仲春花朝日

南山古梁題

鹽松勝譜序

山之高者。天下皆推芙蓉。水之潤者。天下皆推琵琶。斯二者。古今無有異詞也。蓋在我有截之邦。莫以尚之矣。予嘗一屐而登芙蓉。極其巓巍々乎。其若不可及也。然亦曰高而已矣。又嘗一舟而涉琵琶。絕其涯泱々乎。其若不可際也。然亦曰潤而已矣。山水之美者。天下皆推我松島。亦古今無有異詞也。然予嘗屢遊其地。屐登舟涉顚縱山水之觀。沸々乎其富。盈々乎其盛。度日踰月。終未能窮其概也。若美而已矣。則覺有不慊也。予於是乎。嘗有松島圖誌之擧矣。而地接其壤。海連波。相伯仲其名。四方來遊。亦必先後相經由者。有鹽浦焉。其勝亞於松島矣。則欲爲有述而未果也。偶舟萬年來。示其所著鹽松勝譜。請予一言。取而閱之。其倂紀二境。既先獲我心。至於其命辭雅馴。紀事識悉。則固又不可得而比也。稱述至于如斯。則庶幾無所慊哉。予於是。益知芙蓉之高。琵琶之潤。雖各擅其名乎。亦必將有所讓于我鹽松焉。則足以供四方之觀。而誇我鄉土之美矣。因嗟嘆之不已。遂言曰在易之觀。曰觀國之光。鹽松山水之美。與萬年紀述之偉。其可以當之矣。予不肖之言。或以爲私於所好乎。則世之知言者。其必有所擇也。遂爲序。

文政癸未仲夏　　仙臺　虎門櫻田鼓缶子

鹽松勝譜例言八則

一是編一ハ探勝ノ爲メ一ハ臥遊ノ爲メ。而シテ探勝臥遊。岐シテ別ルニ非ス焉。探勝ニシテ后臥遊ナリ。觀者忸レテ以テ臥遊ト爲シ。鹽松ノ眞山水ヲ忘ル勿レ。

一一區ニシテ二三名。若クハ四五名ナル者アリ。是レ或ハ土人ノ訛傳ニ因ル。或ハ操觚ノ士。雅馴ナラスト爲シ之ヲ改ム是編其繁錄ノ要ヲ厭ハス。遊者ヲシテ探索シ易カラシム。

一鹽松ノ行ヲ紀スル者ハ。僧宗久ヲ始メト爲ス。蓋シ宗久ナル者ハ丹州ノ人。光嚴帝觀應中ニ。東遊シ國字ヲ以テ其行ヲ記シ。名ツケテ都コ產ケト曰フ。其中諸レヲ徵スルニ足ル者諸區多シ矣。故ニ斷句ヲ華言ニ換ヒ。以テ區々條下ニ載ス。其他引載スル所ノ書。國字ハ換ユルニ華言ヲ以テス。近コロ如來先生ニ。松島紀行有リ。南山禪師ニ鹽松紀行アリ。而シテ人悉ク讀ミテ之レヲ知ル。故ニ收錄セス。且世ニ清氏松島日記ナル者アリ。其書眞ニ非ス。古人既ニ其妄ヲ辨斥ス。故ニ收セス。

一鹽松諸區ノ詩文ハ。古籍ニ見ル者甚タ少シ矣。元和以來探勝ノ文士騷客。陸續トシテ絕ヘス。則チ其詩其文應サニ吟誦スヘキ者多シ。而シテ余ノ寡陋緣索無シ。爰ニ纔カニ覩ル所ノ記ヲ載セ。他日ヲ竢テ之レヲ補ハント欲スルナリ。且載スル所ノ薰蕕ヲ擇ハサル者ハ。詩文ヲ掄撰スルノ書ニ非サレハナリ。

一鹽松諸區ノ國風ハ。朝紳ノ詠スル所。古撰集ニ見ル者數千首ナリ。其他家集私撰ニ見ル者枚擧ニ遑アラス。且旁ラニ俳諧發句及俳諧歌ナル者アリ。亦又數百首ナリ余初メ諸區ノ條下ニ載セント欲ス。而シテ前後區ノ脉絡ヲ絕チ。而シテ覽者ノ檢索ヲ煩ハスヲ恐ル。故ニ他日當サニ別ニ一卷ヲ編末ニ附スルコト、爲スヘシ。

一世ニ鹽松八景。松島十景。松島八景鹽浦八景ノ目有リ。夫レ鹽松ノ勝ハ。千態萬狀ナリ。豈ニ僅々名數ノ能ク盡ス所ナラン哉。故ニ余ハ取ラサルナリ。但シ其賦ヲ釆リ諸區條下ニ錄セリ。而シテ題下詠ニハ必ス曰フ。某八景ノ一而已ト。

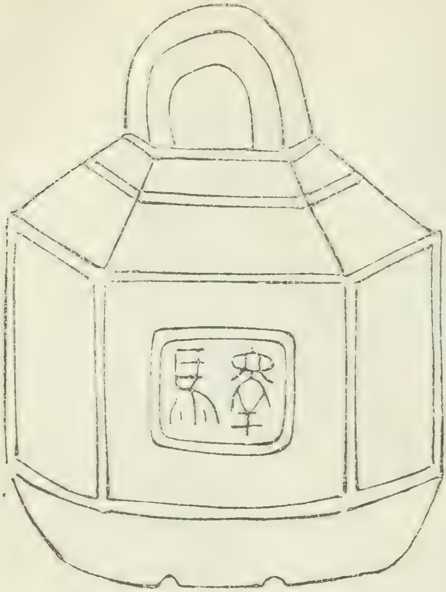
一鹽松全圖ハ。左容(洞巖佐久間翁)始メテ之ヲ製スルノ後諸子競テ之レヲ作ル。中ニ就キ谷文晁ノ圖スル所頗ル詳悉ナリ。其他各技巧ヲ極ムト雖モ。鹽松江山ノ廣キヲ以テ。而シテ強テ之レヲ。片楮尺紙ニ籠蓋セント欲スルモ。且其境ヲ精熟セス。是ヲ以テ其區域錯落スル多ク。其景象妄設スル多シ矣。余謂ラク鹽松諸區ヲ擧ケテ以テ圖ヲ作ル。猶ホ膠柱シテ皷瑟スルカ如シト。其詳ハ則チ松島編首ニ於テ云々ス。而シテ是編ニ載スル所。固ヨリ已ムヲ得サルニ出ツ。故ニ先ツ畫士ヲ戒メ。寧ロ重復ヲ爲シテ以テ露拙スルモ。潤色シテ以テ之レカ美ヲ觀セシムルコトヲ爲サス矣。圖ヲ按シテ名ヲ問ハス。先ツソノ是トスル所ヲ知ル。名譜タル所以ナリ。乃チ富山圖ノ如キハ。東齋ノ製スル所眞ニ逼ル。後作ノ士アリト雖モ敢テ之レニ及フ無シ。故ニ是編ニ之ヲ寫載ス。

一鹽松江山ノ廣キ。地宜物產寔ニ夥シ矣。而シテ之レヲ貢包獻ス重載シテ盛典ニ在ルナリ。是編ニ載スル所。僅々嗜好ノ屬耳。要スルニ探勝按蹟ノ士ノ裝齎シ易ク。而シテ餽遺ニ便ナラシムルナリ。

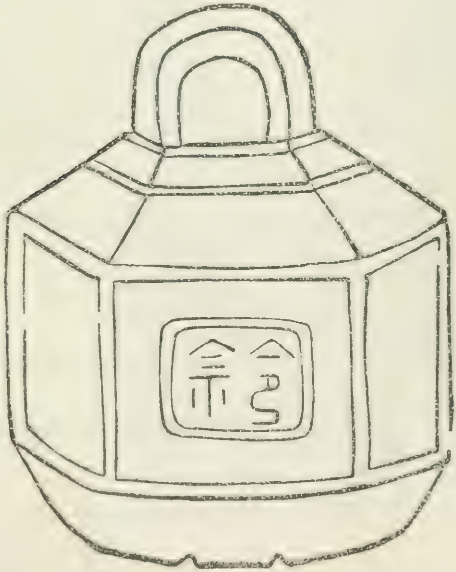
文政壬午ノ春花朝ノ日

舟山光識

寛仁元年供于鹽廟驛鈴圖

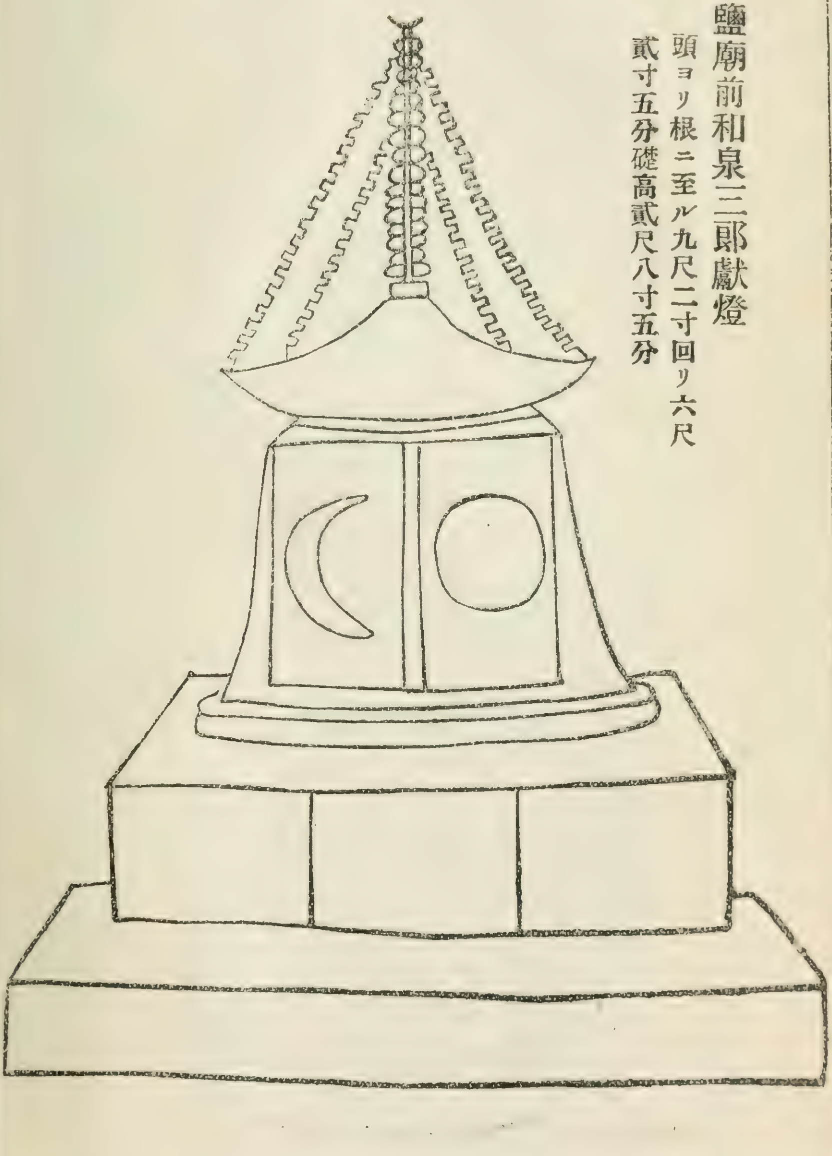


同上



鹽廟前和泉三郎獻燈

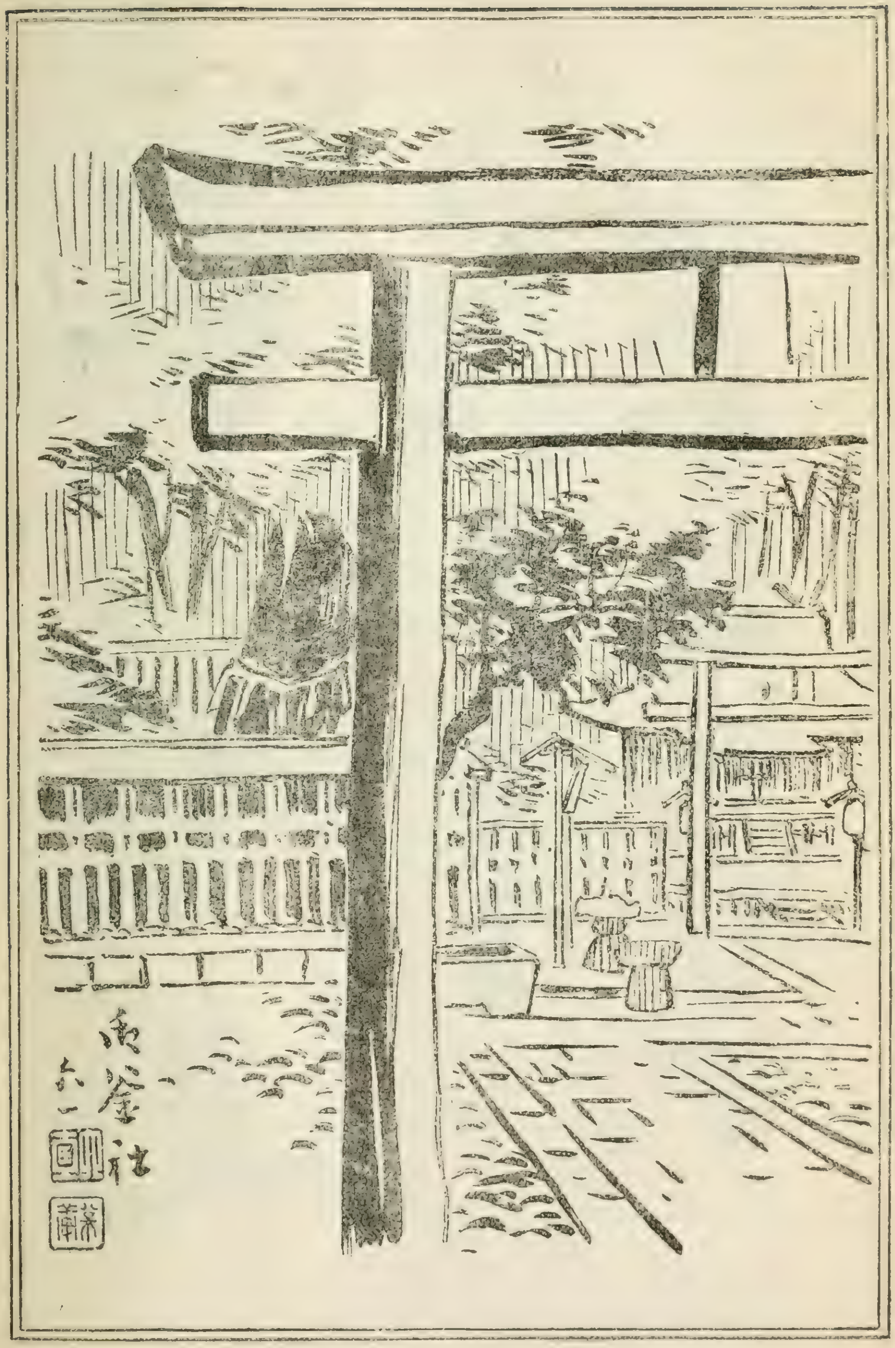
頭ヨリ根ニ至ル九尺二寸回リ六尺貳寸五分礎高貳尺八寸五分



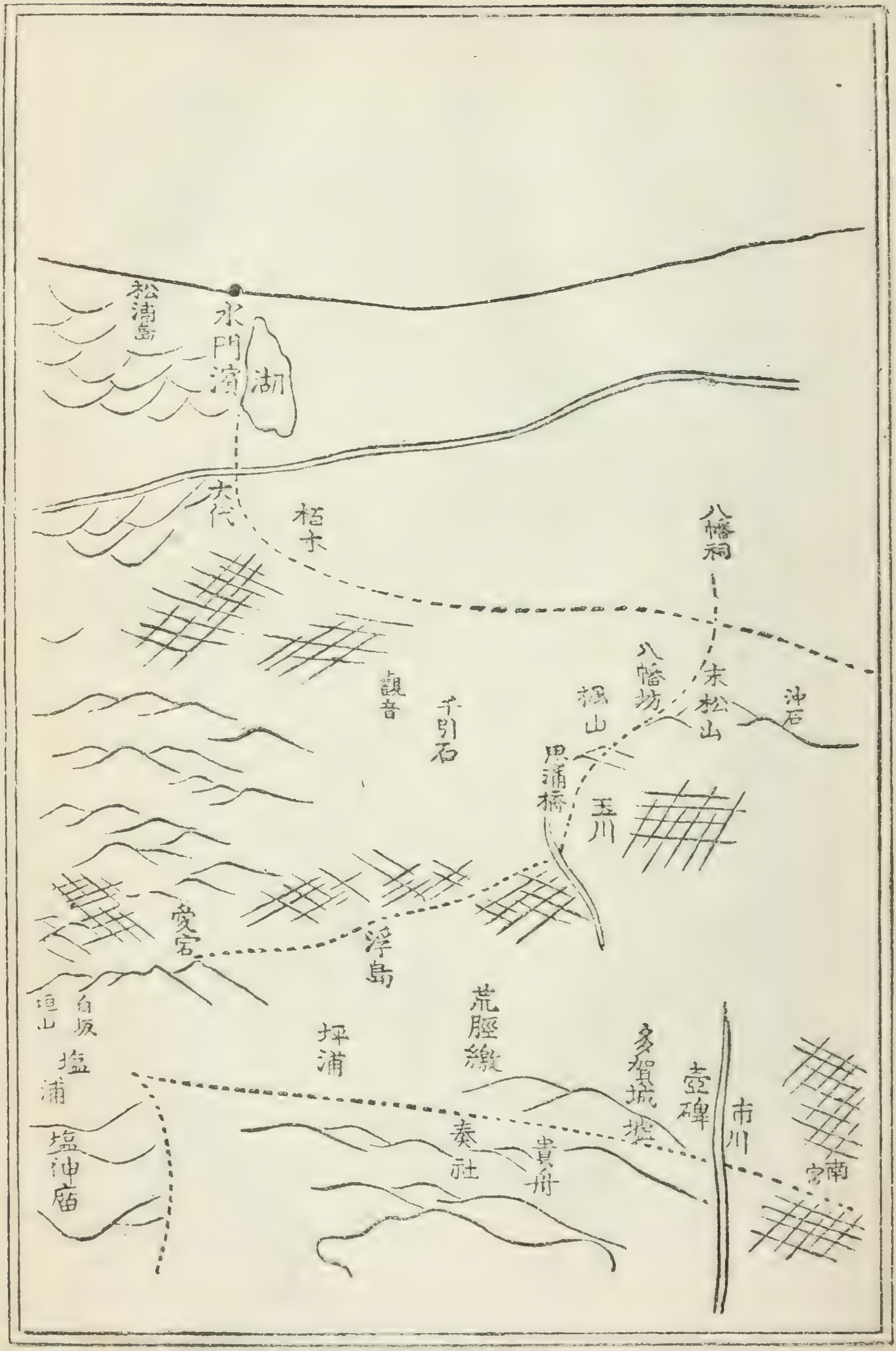
奉寄進

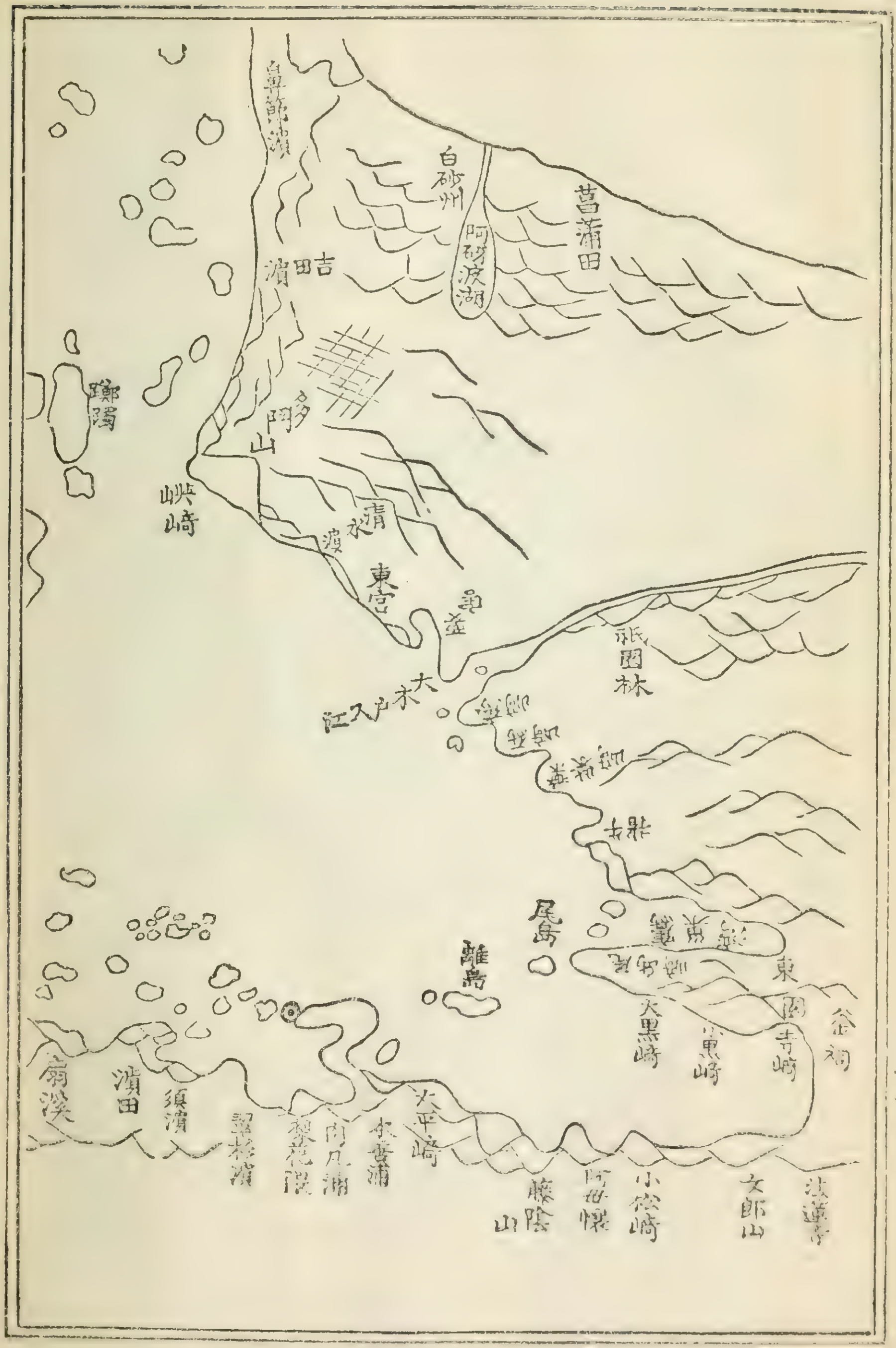
文治三年七月十日

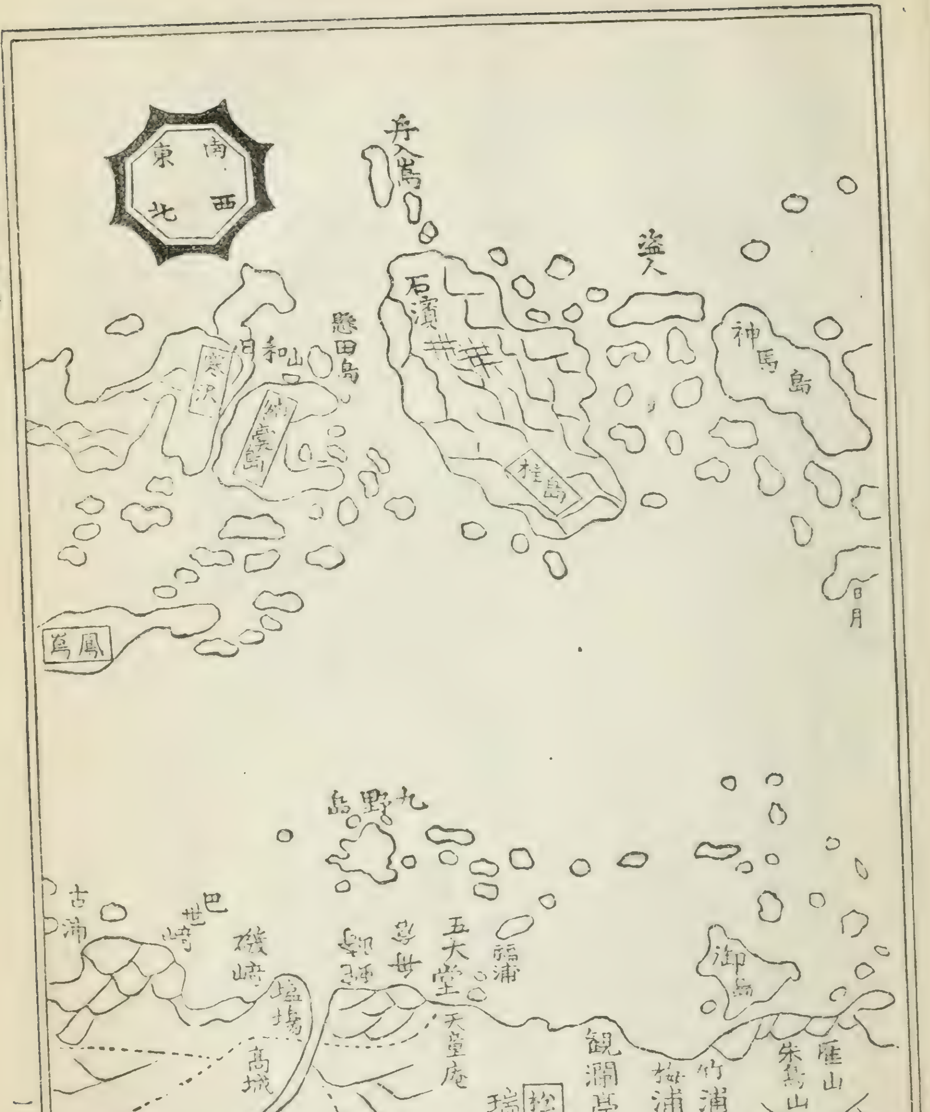
和泉三郎忠衡敬白

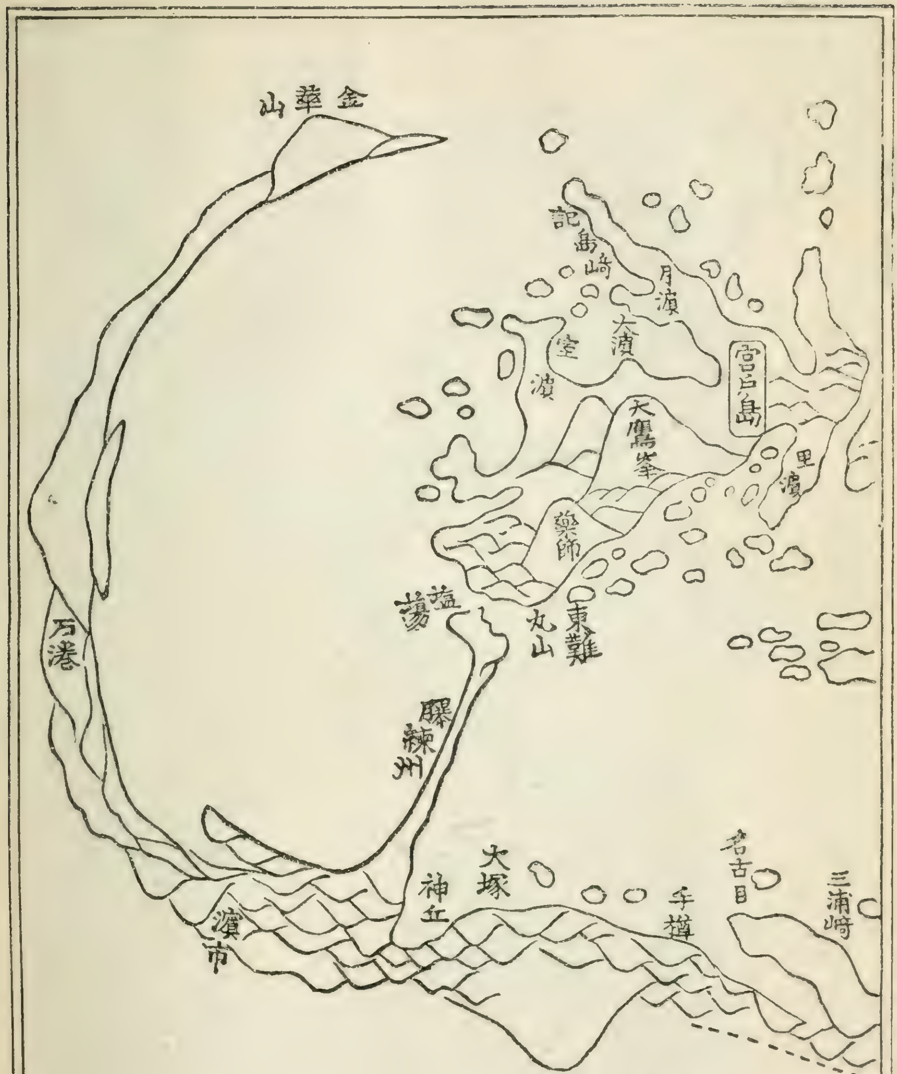

西宮社

千賀浦尾島


松島
水門濱
湖
大代
八幡祠
八幡坊
末松山
沖石
楓山
觀音
千引石
玉川
愛宕
浮島
白坂
塩浦
塩神廟
坪浦
壺碑
市川
奏社
貴舟
南宮


白砂州
菖蒲田
吉田濱
多門山
清水渡
東宮
尾島
離島
濱田
須濱
大平崎
小松崎
文郎山


南
西
北
東
舟入島
石濱
桂島
神馬島
懸田島
和山
寒沢
鳳嶌
日月
九野島
古浦
磯崎
塩場
高城
五大堂
福浦
天童庵
観瀾亭
松島
瑞巌寺
竹浦
長老坂
御島



金華山
月濱
大濱
宮戸島
大鷹峯
里濱
藥師
丸山
大塚
濵市
三浦崎
富山

鹽松勝譜卷之一

鹽浦部上目次

鹽竈浦　鹽竈神廟　神足石
鐵寶燈　神馬厩　憩息石
金華樓　法蓮寺附十二枝院　蓮性院
勝畫樓附洗眸閣　觀音堂　鹽竈入江
七曲坂　影向石　神輿殿
步斷橋　千尋淵　零丁石
行宮　愛宕山　烟波亭
融公亭蹟　垣山　白坂大悲閣
雌雄石　神釜祠　防波石
神牛石　青木明神　藤棠祠
琵琶峽　翠羽川　東園寺
駒犬城墟　江尻　寺崎
祓禊崎附降臨石　大黒崎附小黒崎　尾島崎
尾島　鷹巣灣　鷗羽島
牛渚　女郎山　小松崎
藤蔭山附藤蔭灣　大平崎　籬島
籬渡　見留賀小島　本善浦
肉几浦　芦洲濱　梅宮
梨花隈　蟾蜍島　崎山
蛇嶋崎附蛇嶋　幡嶋　翠杉濱
釜淵附釜嶋　內裏嶋　后島
都島　赤崎　須濱

鹽松勝譜卷之一

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

鹽浦部上

勢語ニ曰ク。我皇國六十有餘州。山水ノ奇絶ハ。以テ鹽竈ノ地ニ比スヘキモノナシ。余此地ニ遊ンテ始テ其言ノ信ナルヲ知レリ。此地左ハ松島ニ接シ。右ハ東宮嶼ケ崎ノ諸濱ニ隣リ。而シテ正面ハ。曲江萬頃洲嶼曲灣棊布星列シ。雲浪煙波其景致名狀スヘカラス。是故ニ河原左相遙想浮慕シテ。水石ヲ假リ以テ奇勝ヲ京洛ノ間ニ摸擬シ。又在五中將親ク此地ニ遊テ賞欣措カス。彩毫ヲ揮テ行色ヲ記シ。以テ遠遊ノ思ヲ寄ス加旃ノミナラス。商船常ニ輻湊シ漁舫ノ集會絶ヘス。即チ商賈漁鹽ノ利ヲ以テ。海陸轉輸ノ要ニ居ルモノナリ。而シテ鹽竈ノ神祠ハ。前ニ我藩祖貞公之ヲ修造シ。後チ肯公之ヲ宏張シテ。神戸座祝ノ闕ヲ補ヒ。四時祭享ノ規ヲ具ヘリ。是ニ於テカ四方禱賽ノ人遠近探勝ノ客。踵ヲ接シテ斷ヘス。而シテ妓ヲ置キ客ヲ待ツノ家。絃歌酬答日夜絶ヘス。此地啻ニ山水ノ奇絶ナルノミナラス。實ニ豐饒繁華ノ一都會ナリ。

鹽竈浦 或千家塩釜ト曰ヒ。千家ハ一ニ千賀ニ作リ。又鹽庭ニ作ル。或ハ略シテ塩浦トモ曰フ。

宮城郡鹽釜村ニアリ。太古鹽神始テ鹽ヲ煮ルノ地ナルヲ以テ此名アリ。山脉浦ヲ匝ツ。左ハ即チ鹽釜ノ廟法蓮ノ寺。右ハ即チ愛宕ノ宮大悲ノ閣ニシテ。東面一方ハ江ニ對セリ。相傳フ此地古ハ國府津ト稱ス。蓋シ多賀國府ニ近キヲ以テ此稱アルナリ。後又香津ニ作ル。是レ國府ト香ト國音近キカ故ニ訛リシナラン。上下兩巷アリ。家凡ソ千家故ニ又千家鹽竈ノ名アル也。肯公鹽神ノ廟ヲ增修シ。尚ホ土地ノ繁榮ナランヲ欲シ。居民ヲシテ永ク一切ノ租稅ヲ免シ。且ツ吉津ノ田租及ヒ二百五十金ヲ以テ。每歲每戶ニ之ヲ配賜シ。其他惠施ノ令九條アリト云

フ、是ニ於テ乎。居民日ニ密ニ戸口數倍シ。神祠梵刹連甍櫛比溢郭旁流。所謂屋上屋ヲ架スル者ニシテ。何ソ啻ニ千家ノミナランヤ。其巷凡十二アリ。西ヲ杉坂西巷ト曰ヒ。仙臺ヨリノ入口ニシテ　鹽神ノ廟ハ其北頭ニアリ　中ハ二井釜前本巷ト曰ヒ。東ハ新岸大岸ト曰ヒ　南ハ南巷船戸ト曰ヒ　北ハ即チ新巷門前御宮ト曰フ　其他白阪新宅等ノ小巷アリ　狹斜縱横勝テ數フヘカラス、或曰鹽浦ノ海　上古ハ七曲水門ト稱ス　所謂七曲トハ神釜祠前ヲ以テ一曲トナシ。女郎山下ヲ二曲。拔穀崎ヲ三曲。尾嶋前ヲ四曲籬島ヲ五曲。高崖（高崖考フヘキナリ）ヲ六曲　噢崎ヲ七曲トナス。　且ツ土人ノ勝ヲ謂フモノ。七浦。八崎　八嶋ト稱ス。七浦トハ　即チ藤浦。枇杷浦。笹浦。大木戸浦。本善浦。肉儿浦。二叉浦是ナリ　八崎トハ　即チ拔穀崎。寺崎。小黑崎。大黑崎。　尾嶋崎。　批杷崎。　鷲崎。女郎崎是ナリ。八嶋トハ。即チ内裏嶋。屆嶋　蛇嶋。蜻蛉嶋。都嶋。見留賀小嶋。幡嶋是ナリ。　是等ハ皆其大略ヲ言フノミ、詳細ハ後ニ列ス。

鹽竈暮煙　　靈巖

巖上青煙籠古竈。波光凝碧接天流。紅輪落處疎鐘動。月照蘆花一葉秋。

漁村市　　洞水

村民何畏有司權。馬載驢馱求酒錢。來往風塵不知足。沙頭人待釣船還。

鹽浦暮煙　　同

曾聽斯神鎭奧州。鐘鳴山答夕陽樓。谷澆藥雨千家月。竈簇藻烟萬里秋。

鹽松舟中歌　　南山

吾昧馬師旨。不吸西江一口水。亦乏支公錢。不買沃州半片山。但有七尺凌雲錫。跋陟山水從所適。昔年足跡遍中原。西北勝概多經歷。邈居十年東海濱。但與山水爲主賓。未嘗海上金華岳。松島鹽浦近堪親。此日同遊共語時。勝擧兼訪濟勝具。郊店期會原驛東。壯襟飄々始取路。一路清風吹偶骨。纔到鹽浦

一日已沒。天上陰晴明難期。薄夜放舟先乘月。月露瑩々照行杯。沿波泝月且低回。鐵笛一聲山水靜。離嶋便是小蓬萊。向曉慘澹海雲晴。須臾歡呼報朝霽。片帆重下千松洲。逶迤蒼々翠々際。蒼翠總是畫圖中。有客揮毫摸天工。舟移景轉心不給。擲毫悵然嘯長空。長空潮水盪落景。玻璃一色秋光冷。潮頭殷聽瑞巖鐘。假帆收艣入靈境。舍舟昏黑叩上方。寂歷香燈鎖禪房。禪房共說曹溪月。海天未見摩尼光。陰雲半翳黃金面。妙相惱人時隱見。肉眼相對不相逢。瞻仰擧頭不暫倦。海畔樓臺入嗟歎。深沈夜色更欲闌。龍鐘相顧撫枕席。千金誰能買一歡。纖纖七尺凌雲杖。此時何亦堪拔擢。擲來聊擬魯陽戈。向月一揮帝珠綱。松島之月人所求。年々多遇風雨愁。賽錫點開光明藏。天上人間兩夜秋。

鹽竈神廟

祭ル所ノ神三座アリ。左宮ハ武甕槌命。右宮ハ經津主命。別宮ハ岐神（岐神ハ一名猿田彦。又一ニ事勝國勝ト曰ヒ。一ニ鹽土老翁ト曰ヒ。一ニ鹽屋王子ト曰ヒ。又一ニ道祖神ト稱シ。又妻神ト稱ス。或曰延喜式ニ載スル所。宮城郡大社志波彦神社是ナリト。志波鹹ノ方言。鹽土老翁ヲ祭ル）ヲ祭ル所ナリ。太古天孫。經津主甕槌二神ニ命シ。葦原中國ヲ平定スル時ニ當リ。岐神ヲ以テ嚮導トナシ。周ク剷定シテ遂ニ陸奧國ニ到ル。而シテ武甕槌命ハ。常陸國鹿嶋ニ經津主命ハ下總國香取ニ遷リ。岐神ハ遂ニ此地ニ止リ。始テ鹽ヲ煮ルヲ以テ生民ヲ救ヘタリ。是ニ於テ民厥ノ厚德ヲ貴ヒ。其盛功ヲ崇メ、祠ヲ建テ、以テ之ヲ祭ルナリ。而ルニ世遠ク時遷トシテ傳フル所ノ神號。其說紛々一定シ難シ。且神祠ハ本山下神釜ノ處ニアリシカ。藩祖貞公ノ世。舊地ハ湫隘囂塵背宇ナルヲ以テ。此地ニ遷シテ祀リ。貴船紀二神ヲ以テ之ニ配祀ス。後肯公ノ世。貴船ヲ市川村ニ遷シ。紀神ヲ仙臺城北古内村ニ遷シ。而シテ規摸ヲ張大ニシ。武甕槌命。經津主命。岐神ノ三神ヲ以テ。陸奧

國一宮正一位鹽竈大明神ト號ス。是ニ於テ神號一ニ歸スト云フ。廟宇鉅麗雕繢滿眼。彩廊彫垣ハ內域ヲ繚ラシ。繪馬ノ堂調供ノ屋。及ヒ鐘樓寶庫外邊ヲ塡ム。西ハ乃チ配食ノ小祀ヲ列ス。南ハスナハチ廟門ニシテ。門ノ左右ニ守護ノ神像ヲ置キ。神像ハ衣冠弓矢ヲ持シ。其南數步ニシテ石階數百級。階下華表ニ榜シテ。陸奥國一宮ト云フ。ソノ左右ニ。定燈數十基ヲ列置ス。神祠ニ詣ルノ路三アリ。是レ其一ニシテコレヲ正路トナシ。土人コレヲ表坂ト曰フ 其二路ハ七曲坂ニシテ之ヲ中路ト爲シ捷徑ナリ。其三路ハ法蓮寺ノ下ヨリスルモノ。之ヲ裏坂ト曰フ。祝宮坐女凡二十有九人。毎七月十日ヲ以テ。大祭ノ日トナシテ 其滿潮ノ時ヲ以テ幣牲ヲ奠ス。是レ鹽神ヲ祭ルノ故ヲ以テナリ。祭ルニ別宮ヲ先ニス。嚮導神ノ故ヲ以テナリ。土人傳稱シテ鹽竈ノ枝祠ハ。十有五區アリト云ヘリ。卽チ青木（在ニ釜祠側。）奏社（在ニ市川村。）浮島（在ニ浮島村。）鼻淵（在ニ花節濱。）石根（在ニ花節濱海上。）吉田（在ニ吉田濱。）籬島（在ニ籬島。）東宮（在ニ東宮濱。）桂島（在ニ桂島。）紀（在ニ古內村。）北宮（在ニ春日村。）小刀（在ニ澤乙村。）柏木（在ニ笠神村。）冠川（在ニ岩切村。）南宮（在ニ南宮村。）等ナリ。類聚國史十六 神階部ニ曰ク 嵯峨天皇。弘仁三年壬辰七月十日。陸奥國宮城郡鹽竈神社。從二位ヲ授ク。

同百三十七。畿外奉勅宮社部ニ曰ク。舒明天皇四年七月 陸奥國宮城縣鹽竈神社。奉勅使（損膽良隅）。錦綿布蠶繭等ヲ奉ス。風土記ニ曰ク。鹽竈神社圭田五十六束 祭ル所ハ鹽土翁ナリ。推古天皇二年甲寅七月。始テ圭田ヲ奉シテ神事ヲ行フ。神社考引古事談ニ曰ク。昔中將實方。阿古野ノ松ヲ尋スルニ知ル人ナシ。一翁アリ謂テ曰ク。阿古野ノ松ハ出羽國ニアリト 奥羽ハ昔シ一州ナリシカ。今ハ分レテ二トナレリ。實方出羽國ニ赴キ。阿古野ノ松ヲ見ル矣。其翁ハ卽チ鹽竈明神ナリ。

神足石

別宮ト左宮トノ間ニ在リ。石ハ僅ニ二尺餘ニシテ。石上足跡二アリ、其一ハ全形ニシテ一ハ半ヲ痕ス。相傳フ鹽神ノ足跡ナリト。

鐵寶燈

廟門ノ右ニアリ。石ヲ以テ礎トナス趺ノ如シ。窓アリテ其蓋笠ノ如シ。頭端ヨリ根ニ至ル高サ九尺二寸。廻リ六尺二寸五分。礎ノ高サ二尺八寸五分。窓扉ハ日月ノ形ヲ穿チ。其上ニ奉寄進文治三年七月十日和泉三郎忠衡敬白ノ十九字ヲ鐫ム。扉ハ今朽損スルヲ恐レ。神庫中ニ藏ム、蓋シ忠衡ハ前奥羽兩州ノ太守秀衡ノ第三子。文治三年。今文政四年ヲ距ル五百八十六年ナリ。

神馬廐

神廟ノ東南垣ノ外ニアリ。世ニ孕婦アレバ。即チ馬沓一個ヲ借リ以テ其家ニ藏スレハ安產ス矣。後チ沓ヲ倍シテ之ヲ償納スト云フ

憩息石

神馬廐ノ東裏阪華表ノ側ニアリ、相傳フ太古鹽神鹽ヲ煮ルノ日憩息スルノ所ナリ。凡ソ鹽浦ノ奇石ト稱スル者七アリ。影向ト曰ヒ。防波ト曰ヒ。標ト曰ヒ。神牛ト曰ヒ。鹽降ト曰ヒ。雌雄ト曰フ。此石ヲ合シテ土人或ハ七神石トモ曰フ。

金華樓

神廟ノ東華表ノ東南數歩ニ在リ。懸崖ニ據リテ樓ヲ起シ。扁ニ曰ク金華。祠官藤塚氏構之ト。樓上眺ムル所ノ景。金華山ヲ以テ最ト爲ス、故ニ之ヲ名ツク。

金光山法蓮寺　附十二枝院蓮性院

金華ノ東ニ坂路アリ。岩ヲ刻テ級トナシ、坂ノ央ハニ門アリ。榜ニ法蓮密寺トアリ。文山佐々木氏ノ署スル所ナリ、門前ヨリ南ニ折レテ下レハ市廛ニ到ル。是レ則チ裏坂ナリ、門ニ入レハ磴道屈曲磴盡テ寺ニ抵ル。寺ハ神廟祈禱祝釐ノ事ヲ主リ。諸祝皆之

ニ繋ス焉。殿宇壯宏ニシテ不動・釋迦・地藏・文珠・觀音・藥師・普賢・彌陀・勢至ノ諸像ヲ安置シ、枝院十二アリ。曰ク相應院・延泰院・文珠院・壺持院・護延院・建立院（以上六院ヲ古六供ト曰フ）普門院（以下六院ヲ新六供ト曰フ。）和光院・上壽院・地藏院（舊神宮寺ト稱ス）彌勒院・龍滿院（舊護摩堂ト稱ス）ト云フ。各門西坂路左右ニアリ。高低地勢ニ隨テ列ス。其間ニ別ニ一寺アリ。蓮性院ト曰フ。是レ法蓮老衲ノ退隱處トナスモノナリ。

勝壽樓　附洗眸閣。及香積場共ニ伊達助三郎殿書ス、

樓閣ハ共ニ法蓮寺ノ裏。佛殿ノ東ニ在リ。扁シテ勝壽ト曰フ。綱山公ノ筆蹟ナリ。樓下ハ絶壁ニシテ海色欄ヲ浸シ。遠岸ハ白壁ノ如ク遠樹ハ莽華ノ如シ。島嶼無數ニシテ其最モ近クシテ、膝下ニ在ルカ如キモノハ。即チ雛島ナリ。樓上ノ佳望ハ。鹽浦第一ニ位シ。其名ヲ設クル實ニ誇言ニアラサルナリ。

勝壽樓　南山

嶋嶼爲雛岩作屛。高樓縹緲俯滄溟。雲霞日落千山紫。天地潮來隻眼青。梅浦風煙生遠思。神壇鐘鼓入清聽。一從鐵搭開幽鍵。長與龍宮占秘靈。

觀音堂

法蓮寺ノ西ニアリ。堂ニ准胝觀音ノ像ヲ置ク。是レ僧行基ノ製スル所ナリ。

鹽竈入江

法蓮寺ヨリ以西。七曲阪ノ下ニ至ルマテ。古昔ハ曲灣ヲナス、是故ニ鹽竈入江ト稱ス。今ハ變シテ市廛トナル矣。

七曲坂

神廟東南ノ隅ニアリ。登山三道ノ一ニシテ、十八ノ所謂中路ナリ。而シテ老杉鬱茂晝猶ホ暗シ。坂路七折シテ初テ巓ニ達ス。相傳フ太古鹽神ノ登山ハ此路ヨリ始ムト矣。

影向石

七曲阪ノ下ニアリ。七神石ノ一ニシテ。高サ八尺餘

幅三尺餘。皎滑鏡ノ如シ。相傳フ太古鹽神神姿ヲ照スヲ以テ。故ニ名ツクト。

神輿殿

七曲坂ノ下ニアリテ。神輿ヲ藏ムルノ殿ナリ。神廟祭享ノ日神輿ヲ奉シテ。市中ヲ巡行シ終ニ復タ此ニ藏ス。

歩斷橋

七曲坂ノ下、市店ノ間ニ小橋アリテ。其橋板斷續ス是レ即チ歩斷橋ナリ。

千尋淵

此斷橋ノ西ニアリ。古昔潮呑汐吐シテ深淵トナル。其深サ千尋故ニ名ツク。今ハ變シテ平地ト爲ル矣。

零丁石

歩斷橋ノ南ニシテ市廛中ニ在リ。七神石ノ一ニシテ高何尺。横何尺太古神鹽ヲ煮ルノ水底ニ岩根アリテ。時々潮水ヲ運フノ舟ヲ破ルヲ以テ、神此石ヲ目標トシテ其患害ヲ避ク。

行宮

歩斷橋ノ東北ニアリ。神廟祭享ノ日。神輿ノ寓スル所ナリ。土人之ヲ稱シテ御旅所ト謂フ。

愛宕山

神廟ノ南市店ノ後ニアル山ヲ愛宕山ト曰フ、山上ニ愛宕ノ神祠アリ。其東ニ二小祠アリ。一ハ天神ト稱シ菅公ヲ祭リ、一ハ稻荷神ト稱ス、

煙波亭

愛宕神祠ノ東ニアリテ。祠官藤塚氏ノ構フ所ナリ、縦横堵ヲ環ラシ茅ヲ編テ簷トナシ。舊ヲ伐テ楹トナス。亭上眺ムル所。江上一瞬勝畫樓ノ矚スル所ト。少シク其趣ヲ異ニシ。鹽浦ノ勝ハ。曾テ順徳帝御製ノ國風アリ。其中ニ雲浪烟波ノ語アリ、亭ノ名ハ蓋シ之ニ取ルト云フ。

融公亭蹟

愛宕山下市店ノ背ニアリ、其地方四五十歩許。隆然トシテ岡ノ如シ。相傳フ源左相融公、東遊シテ此地

ノ奇勝ヲ愛シ亭ヲ此地ニ營ミ以テ賞咏スト云フ。

余古籍ニ載スル所ヲ觀ルニ。公親遊セシニアラス。遙想浮慕シテ之ヲ六條鴨河ノ隈ニ營ムノミ。河原院水石ヲ假テ以テ此地ノ勝ヲ摸擬シ。潮水ヲ攝洲尼ケ崎ニ運ヒテ。鹽ヲ煮以テ娯樂トナス矣。夫土人虛妄ノ說固ヨリ取ルニ足ラス。今彼ノ指ス所ノ地形ヲ睹ルニ。假リニ融公ヲシテ。親ラ東遊シテ亭榭ヲ此間ニ構ヘシメハ。應ニ必ス此ニ在ルヘキ乎。暫ク爲ニ錄出ス。且河原ノ詩賦ノ如キハ。此地ニ關セサルニ似タリト雖トモ。本ト此地ノ爲メニシテ設ク。故ニ玆ニ錄ス。

河原院賦　　源順

有院無隣。自隔囂塵。山吐嵐之漠々。水含石之磷々。忝相遺幽居。雖忘前主法王垂叡覽。猶感後人。其始也軒騎聚門綺羅照地。常有笙歌之曲。間以弋釣爲事。夜登月殿。閑路之清可嘲晴。望仙臺蓬瀛之遠如至。是以四運雖轉。一賞無應。春玩梅於孟陬。秋折藕於夷則。九夏三伏之暑月。竹含錯午之風。玄冬素雪之寒朝。松彰君子之德。誓卒有苦有樂。一是一非。彼寛平之相府爲天融之禪扉。不待卑禽夜半之聲。夢先絕枕。豈因峽猿第三之叫。淚自霑衣。然猶山皃疊嵩。岸勢縮海。人物變兮時世改兮。風流不改廣鍾之穿沙抽日。波鷗戲波葉鷁之照水。浮時綵鴛添綵。是以感其事。論其時。登臺少熙々之樂。滿院多蕭々之悲。譬富貴於浮雲。誠天與也。比薫穢於蠹日。雖遭忍之嗟乎。黃閣早閑翠微易登。信脚踏彼綠草。信手拮此垂藤。攜何兮。得來遊屆曲橫首杖向誰兮。談往時一兩白眉僧。吾周知陵谷猶遷海田皆變。何地同万古之形體誰家全百年之遊宴。強吳滅兮。有荊棘姑蘇臺之露。瀼々暴秦衰兮。無虎狼咸陽宮之烟。片々何唯涼風坊中河原院而已哉。

河原院

城東鴨水猶自可垂綸。處々炊烟起。煮鹽憶古人。

垣山

一ニ奥鹽山ト曰ヒ。或ハ陣旅山ト曰フ。愛宕山ト並列シテ東方ニ在リ。兩山ノ間ニ路アリテ。玉河。末ノ松山等ノ諸境ニ通ス。相傳フ往昔坂上將軍利仁。東征ノ日軍ヲ此山ニ駐メ。東國ノ兵ヲ募集スト云フ。

白坂大悲閣

神釜祠ノ南。山腹ニアル坂ヲ白坂ト曰フ。源頼光ノ創造スル所ナリト。

雌雄石

白坂ノ側ニアリ。舊トハ二石アリシカ。今ハ一石ノ所在ヲ失ス。相傳フ太古鹽彦鹽姫ノ二神。生民ニ煮鹽ヲ敎フ。常ニ此石上ニ座シテ事ヲ監ス。故ニ雌雄ヲ以テ此石ニ名ツク。

神竈祠

神廟ヲ去ル南二丁餘。店ノ間ニ祠アリ之ヲ祀ル。蓋シ古昔ハ神廟此地ニアリ當時神釜ヲ以テ神ノ體トナスト。僧宗久東遊紀行ニ見ユ。釜ハ凡テ四口ニシテ。西南隅ニアルモノハ徑四尺。其他ノ三口ハ。徑各四尺八寸。相傳フ。國將ニ災殃アレハ。則チ釜水ハ變シテ五色同シカラス。是ニ於テ妖孽ノ兆ヲ患レ。預メ之ヲ祈禱スト云フ。傳ヘ曰フ古昔神釜七口アリシカ。盜アリ其三口ヲ扁舟ニ載セテ去ル。其人忽チ手足痿痺シ。恐懼シテ之ヲ籬島ノ東北海中ニ投ス。後其所ヲ稱シテ釜淵ト曰フ。或ハ云フ。神鹽ヲ煮ント欲テ釜ヲ龍伯ニ徵ス。釜淵ハ蓋シ龍伯釜ヲ献スルノ處ナリト。釜水ハ毎年七月十日。昧爽ヲ以テ新水ヲ以テ舊水ニ易フ。其水ハ必ス是ヲ釜淵ニ取ルハ是カ爲ナリト。又曰フ。釜ハ舊十五口アリシカ。今ハ四方ニ散在シ。二口ハ野田ニアリ。一口ハ釜淵ニアリ。四口ハ四竈ニアリ。二口ハ伊澤鹽竈ニアリ。一口ハ黑川郡志戸田ニ。一口ハ仙臺城南圓福寺裏ニアリト。是果シテ然ルヤ否ヤヲ知ラス。

僧宗久東遊紀行ニ曰ク。日暮鹽竈浦ニ到リ神廟ニ謁ス。神ノ躰ハ即チ鹽竈ナリ。乃チ廟前ニ坐シテ夜

ヲ徹ス云々。

縁記ニ曰ク。鹽老翁始テ此浦ニ降リ鹽ヲ燒テ以テ民ニ敎ノ、故ニ鹽竈浦ト稱ス、鹽竈今尙ホ存在ス矣。

佐久間洞巖翁、鹽竈社記考ニ曰ク、蓋シ此器タルヤ、太古神代ノ傳物ニシテ。其久シキコト三種ノ神器ト相先後シ。其貴キコトヲ云ヘハ上世神明ノ作ナリ。其重スヘキヲ言ヘハ。即チ人間始テ煮鹽ノ利ヲ知ルモノナリ。豈夏禹ノ九鼎ヲ竢チ周文ノ旋蟲ヲ望マンヤ。利世ノ製ヲ言ヘハ。乃テ夙沙ノ前ニアリ。敎民ノ功ヲ言ヘハ復タ后稷ノ下ニ亞ク。(斷句摘要下同シ) 又曰 往昔老翁此江濱ニ降リ。始テ鹽ヲ煮テ以テ民ニ敎ヘ 食ヲ將テ賑ヲ養フ。是ヨリ天下始テ滋味ヲ資クルヲ知リテ生民ヲ利ス、故ニ其器ヲ尊ンテ神明ト稱シ、其地ヲ呼テ鹽竈浦ト名クルモノ。實ニ神鹽ニ據ルナリ。依テ後世厥ノ厚德ヲ貴ヒ。厥ノ盛功ヲ重ンシ。祠ヲ此處ニ建テ。竈神躰ヲ崇奉セシ所以ナリ、宗久紀行ヲ以テ考フルニ。其時ハ舊器ヲ指シテ神躰ト曰ヒ民人ノ崇敬猶ホ往時ノ如シ。

防波石

神竈祠ノ側ニアリ。七神石ノ一ニシテ、縦何尺許衡何尺許、相傳フ神鹽ヲ煮ルノ日 洪波時々民家ニ侵入ス、神之ヲ病ヒ此石ヲ以テ水涯ヲ鎭シ、祝シテ曰ク、今ヨリ而後浪波永ク此石ヲ踰ル勿レト、後絶テ其患ナシト云フ。

神牛石

神竈祠ノ東、市店ノ背小池ノ中ニ在リ、六尺餘其形恰モ臥牛ノ如ク。鼻目角耳悉ク具シテ。天然ノ石質斧鑿ヲ經ル者ニアラサルナリ 是レ七神石ノ一ニシテ、最モ奇異ト稱スヘキモノナリ。然レモ池水恒濱讒カニ其脊ヲ見ルノミ。惟毎七月六日ニ於テ其池ヲ浚フ、是時ニ於テ全形ヲ見ルヲ得 相傳フ、竈神煮鹽ノ日、潮水ヲ運フノ牛化シテ石ト爲ル。後世士人祠ヲ其側ニ立テ、鹽牛祠ト曰フ 或日石畔ニ於

テ不浄ノ事アレハ、則チ必ス祟アリト。

青木明神

神竈ノ南背ニアリ。鹽竈枝祠十五區ノ一ナリ。

藤策祠

神牛石ノ東。人家ノ背ニ古藤樹アリ。其下ニ小祠アリ。相傳フ。和加佐彥命ヲ祭ル所ナリ。鹽神煮鹽ノ日。此神化シテ小童トナリ。紫色ノ襴嚊腹襦ヲ着ケ。藤策ヲ以チ駄潮ノ牛ヲ牧シ。後チ其藤策ヲ此ニ捨ツ。策遂ニ根ヲ生シ蔓延今ニ至ルト云フ。土人小兒ヲシテ必ス紫色ノ襴嚊腹襦ヲ服セシメテ以テ祝ス。神童ノ健態ニ效フナリ。

琵琶峽　峽ヲ謂テ甲斐ト爲ス。國語ニ見ユ。

垣山ノ東ノ山間峽ヲ爲ス。地形琵琶ニ似タリ。故ニ之ヲ名ク。今ハ水田トナル。土人或ハ琵琶喰ト曰フ。(喰甲斐ハ音相近シ故ニ訛リ。)相傳フ。太古神ノ煮鹽場ナリ。

翠羽川　附庚申堂

琵琶峽ノ傍ニ小流アリ。冬間ニ至レハ水鳥群遊シテ水面翠トナル故ニ名ク。傍ニ石崖アリ面平ナル削ルカ如ク。庚申青面金剛ノ像ヲ鐫ム。

東園寺

垣山ノ東南ニアルナリ。臨濟派ナリ。

駒犬城墟

東園寺ノ後ニ古壘ノ跡アリ。昔時留主氏岩蔵城ニアルノ時。其家屬ノ居ル所ナリ。

江尻

寺崎

法蓮寺ノ下干潟ニ沿ヒ南四町餘東ニ折レテ。漁家ノ前ヲ過キ崎アリ寺崎ト曰フ。

祓禊崎　附降臨石

寺崎ノ東ニアリ崎ノ前ニ巨石アリ。太古鹽神此石上ニ降リテ祓禊ヲ修ム。

大黑崎　附小黑崎

兩崎共ニ祓禊崎ノ東ニアリ。遞次シテ尾島崎ニ至

ル。

尾島崎

鹽浦ノ右祓殿崎ヨリ大小黒崎ニ至ル間皆山ナリ。山勢ノ走ル所江心ニ邐迤シテ其窮マル所ハ即チ尾島崎ナリ。凡ソ鹽浦ヨリ松島ニ往來スルモノ。潮退キ舟港ニ達スルヲ得サレハ。則チ暫ラク此崎ニ由リテ滿潮ヲ待ツナリ。

尾島

尾島崎ノ前ニアリ。崎ノ名ハ本ハ此島ニ因ル。凡ソ鹽浦ヨリ松島ニ至ル。此島ヲ以テ首トナス。而ルニ尾ト名クルハ松島ヨリシテ之ヲ呼フナリ。島上ニ妙音天女ノ祠アリ。相傳フ其像ハ僧正行基ノ製スル所ナリト

鷹巣灣

或ハ鷹巣浦ト曰フ。尾島崎ノ南ニ在リ。灣ハ屈曲西シテ東園寺ノ後ニ及フ。近歳土人其灣口ヲ杜絶シテ水田ヲ作ル。

鷗羽島

鷹巣灣中ニ在リテ。駒犬城塲ト相近シ。土人ハ浦島ト稱ス。

牛渚　缺追考

女郎山　以下鹽浦ノ左松島ノ界ニ至ル

或ハ如浪山ト曰フ。法蓮寺ノ北ニ在リ。山上ハ翠松蓊茂シ。其中ニ一老松アリ。虬然トシテ江ニ臨ム。之ヲ女郎松ト曰フ

小松崎

或ハ翠松崎ト曰フ。女郎山ノ東ニアリ。

阿母懷

或ハ姥ノ懷ニ作ル。小松崎ノ北ニアリ。江水山間ニ入リテ灣ヲナス。漁舟商船ノ就テ以テ風波ヲ避クル所ナリ。灣隅ニ洞アリ。嘗テ一老アリ之レニ居ル翁ハ鹽竈ノ人天明年間妻子ヲ辭シ扁舟ニ掉シテ來リ居ル。貝殼ヲ以テ洞額ヲ庇ヒ以テ風日ヲ避ク。海草ヲ藉テ居坐シ。他ノ長物ナク唯一竿一笛アル

ノミ。而シテ再ヒ里閭ニ入ラス、釣魚ヲ以テ酒食ニ換ヒ。釣多シト雖トモ價ノ多キヲ望マス、纔カニ一日ヲ支フレハ足レリトス。又タ釣少ナシト雖トモ價ヲ殺カス。買フ者慣レテ其意ニ逆ハスト云フ。家人時ニ酒食ヲ齎ラシテ之ヲ進ムレハ。則チ攬ケテ受ケス。亦言語ヲ交ヘス、親舊或ハ慰問セントスレハ。豫メ之ヲ知リテ遁逃ス。又能ク風雨ヲ豫想ス。是ヲ以テ商客漁夫等就テ之ヲ問ヒ。而シテ後出ツ。常ニ好ンテ笛ヲ吹キ、淸風明月ノ夜其聲凄然トシテ江濱ニ滿ツ。居ル事數歳其終ル所ヲ知ラス。

藤陰山　附藤陰淸

阿畔ノ懐ノ北ニアリ、山下ヲ藤陰隈ニ作ル、或ハ藤倉入江ト曰フ。昔ハ藤浦ト稱ス、往昔山頭ニ古藤樹アリ。蔓衍繁茂シ春來レハ花咲キ、花影江ヲ蔽フテ蔭ヲ爲ス、故ニ此名アリ、相傳フ。鹽神鹽ヲ煮ル時常ニ薪ヲ此山ニ採レリト。

大平崎

藤陰山ノ北ニアリ、其東面ハ即チ籬島ナリ。

籬島

一ニ間籬ニ作リ、或ハ笆籬ニ作ル。鹽浦ヲ距ル二里餘ニシテ島上竹樹蓊鬱トシテ中ニ神祠アリ。籬島明神ト曰フ。鹽竈枝祠十五區ノ一ナリ。此島ハ鹽浦ノ勝ニ於テハ最モ奇觀トナス、島ノ四邊ニ貝アリ。梅花ト名ツク。皎潔梅花ノ落ルカ如シ。余曾テ四五月ノ頃、初テ此島ニ遊ヒ視テ以テ眞ノ梅花トナシ。島上ヲ探ルニ一ノ梅株ナシ。再ヒ波際ニ下リ其貝タルヲ知ル。後源俊頼ノ詠スル。籬島梅花貝ノ國風ヲ讀テ。始テ數百歳前已ニ之ヲ賞スルヲ知ル、若シ夫レ探勝ノ客、拾掇リ去テ諸ヲ几頭案上ニ散置シ。或ハ庭園ニ撒點セハ。時ナラヌ氷葩現出シ。實ニ奇玩ト稱スヘシ。島中又竹箭ヲ產シ。其質堅厚ニシテ蠧セス。然レトモ禁アリ採ルヲ許サス、

中秋前一夕。自鹽浦放舟。翫月籬島

南山

白屋青嶂下。十家九酒樓。煙波靜諸島。月露冷扁舟。
縹渺滄江夜。依稀赤壁秋。清光帶微暈。雨候惱生愁。

籬渡

古此渡アリ。大納言師氏ノ詠セシ國風アリ。今ハ此渡廢ス。

見留賀小嶋

籬島ノ東畔ニアリ。島纔ニ一巨石ノ如シ。相傳フ。太古鹽竈神鹽ヲ煮ルニ方リ。潮水ヲ此ニ取レリト。又一ニ潮小島ト稱ス。

本善浦

大平崎ノ北ニアリ。

肉儿浦 肉儿ハ音滿奈伊多

本善浦ノ北ニアリ。

蘆洲濱

或ハ青津濱ト曰フ。肉儿浦ノ北ニアリ。漁家數戶アリ。

梅宮

芦洲濱ニアリ。鹽竈祠ノ一ナリ。

梨花隈

或ハ凍梨隈ニ作ル。芦洲濱ノ北ニアリ。其東面ハ則チ蟾蜍島ナリ。

蟾蜍島

島形蟾蜍ノ踞スルカ如シ。凡ソ諸島其形ノ似タルヲ以テ名ク。就中此島最モ眞ニ逼ル。

崎山

蟾蜍島ノ西北。梨花隈ノ北ニアリ。山上ハ翠松繁茂シ水色ト相映シ。山ノ東北ノ邊リニ漁家數戶アリ。

蛇島崎 附蛇島

崎山ノ餘勢東北ニ走リテ。江上ニ出ルモノヲ蛇島崎ト曰フ。崎前ニ一島アリ。蛇島ト曰フ

蟠島

蛇島ノ東方ニアリ

翠杉濱

或ハ須賀江ト曰フ。蛇島崎ノ北ニアリ。

釜淵 附釜島

翠杉濱ノ東ニアリ。相傳フ。古昔盜アリ。鹽浦ノ神釜ヲ扁舟ニ載セテ去ル。途ニシテ手足痿痺ス焉。恐驚シテ此ニ投ス。忽チニシテ水面逆卷キ盤渦シテ其深サ測リ知ル無シ。時ニ或ハ風浪ヲ起シ。行舟ヲ覆沒ス。過ル者必ス敬提ヲ致シテ去ル。此地或ハ曰フ神ノ鹽ヲ煮ル時。龍伯釜ヲ獻スルノ處ナリト。淵ノ北側ニ小島アリ釜嶋ト曰フ。

内裏島　后島　都島　赤崎

四島。皆翠杉濱ノ北ニアリ。

須濱

或ハ白洲濱ト曰フ。赤崎ノ北ニアリ。漁農相半シ數戸アリ。此地ハ鹽浦松島分界ノ處ニシテ。濱田扇谿ノ境ニ相接ス。

枇把崎　鳶崎 或ハ鵄崎ニ作ル

鹽松勝譜卷一 畢

鹽松勝譜卷之二

鹽浦部下目次

浮島附浮島神祠浮島橋　坪浦
荒脛神祠　奏社　貴船神祠
多賀城墟　壺碑　多賀神祠
神養院鹽浦法蓮末寺　野田玉川　玉河寺
掛絲觀音　千引石　思徬橋
笠石附八幡坊　末松山　沖井附興井里都島
沖石　黄金宅地　八幡古舘
八幡神祠　般若寺　柏木神祠自在院
大代　青松濱　觀江臺
鷺島　舞島英雄島　菖蒲田
白沙洲附阿谺波湖立石　韮峯附金色汀
鼻節神祠　鼻節濱　一木亭
順風島　英靈島　飛雀島
石巖神祠　吉田濱　吉田祠

淘島　嶼ヶ崎　多聞山
清水濱　東宮濱　東宮神祠附要害浦
神明宮　談合洞　藤木崎附祇園林
雀島　鳥島　大木戸浦
葉柴崎　笹之浦　二又浦

鹽松勝譜卷之二

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

鹽浦部下

此篇載スル所。鹽浦ノ西浮島坪浦ヨリシテ。多賀城墟玉川末松山等ノ諸勝ヲ歴テ。東ニ折レテ青松鼻節ノ諸濱ヲ過キ。轉囘海ニ沿テ西南スレハ。還タ鹽浦ニ至ル。其序次スル所。一ニ探勝ノ便ニ從フナリ。或曰ク。是書ハ鹽浦松島ノ爲メニシテ設ク。則チ直チニ沿海ノ地ニ採テ足ル。而シテ多賀城末松山等ノ諸境ニ及フ者何ソヤト。余曰ク。然ラス之未タ探考セサルノ故ノミ。夫レ鹽浦松島ハ骨ナリ。多賀城末松山諸勝ノ如キハ膚ナリ。骨アリテ膚ナケレハ。何ソ能ク體ヲ成サンヤ。且前諸境ハ古ニ在リテハ。海潮來去ノ地ニシテ。洲嶼曲灣皆是鹽浦ニ聯續スルノ勝地ナリ。古人詠スル所ノ國風ヲ見テ。歷

々證スヘキナリ。滄桑變移陵谷地ヲ易フ。是探勝ニ於テ却テ感興ヲ添フル者、其境ヲ熟スルニ非サルヨリハ。焉ソ能ク之ヲ辨スルヲ得ン哉。

浮島　附浮島神祠浮島橋

鹽浦西南ヲ去ル一里餘、浮島村ニアリ。昔海潮來去今變シテ田野トナル。田間ノ高丘ニ老松アリ、浮島松ト曰フ。國風ノ詠スル所ナリ。祠アリ浮島明神ト曰フ。是鹽竈枝祠、祭神詳カナラス、古浮島橋アリ今徴スル所ナシ、余諸集載スル所ノ國風此地ヲ詠スル者ヲ讀ムニ。凡河內躬恒ノ題スル所ノ、伊勢齋宮屛風圖。中務ノ題スル所ノ。村上上皇屛風圖。源能宣題スル所ノ。一條攝政家障子圖。壬生忠見題スル所屛風圖。平祐峯題スル所ノ。一條大納言家障子圖等ノ諸什。古人此地ヲ賞シ。嘯咏ヲ以テスル者夥シ矣。今唯田野復タ賞スル所アルナシ。今此地ノ形勢ヲ考ヘ。新タニ古昔ノ圖ヲ製シ。田野ヲ以テ海ト爲シ。丘陵ヲ以テ陸トナシ、曲灣洲渚或ハ想像ニ出ルト雖トモ。復タ勉強妄設ニ非サルナリ。圖成ル老成人ナシト雖トモ、尚典刑アリ以テ同心ニ示ス。尚クハ以テ古人浮譽妄賞ニ非サルヲ觀ン也哉。

坪浦

鹽浦西三町許ニアリ。古昔海水來去且傍ラニ温泉アリ。今絕フ。土人其迹ヲ指シテ湯壺ト云フ、坂路アリ湯坂ト稱ス。風土記ニ曰ク。坪浦ハ松山ノ右ニ在リ。温湯ヲ出タス。

荒脛神祠

鹽浦西二里許ヲ去リ。市川村ニ在リ。相傳フ。鹽神鹽ヲ煮ルノ日。神此山ニ入リ木ヲ伐リ以テ薪ヲ給ス。手足胼胝シテ脛最モ荒ル、故ニ神號トナスト。世脚疾アル者之ヲ祈リ。脛繳ヲ以テ之レニ賽スレハ。驗アラサルナシ。

奏社

鹽浦西三里許。仙臺ヨリ鹽浦ニ至ル道左ニ在リ。土人曰ク。鹽社ニ詣ル者。先ツ此神ニ謁シ、奏可ヲ待テ

後行ク否サレハ神享セスト、或曰奏社ハ是總社ノ祀祭ル所大貴己命 此神又播州飾磨郡姫路城中ニ在リ 或曰ク天思兼命ヲ祭ル。此神八百萬神ノ奏者、未タ孰カ是ナルヲ知ラス。

貴船神祠

奏社西二町許道左ニ在リ祭ル所高龗神ナリ、或曰ク其神二座高龗神ナリ 天神立命ナリ、天船主命ナリ 此祠貞山公嘗テ鹽竈廟ニ配祀ス、肯山公ニ迨テ此ニ遷宮ス

多賀城墟

市川村高平數町ニ在リ、田畝トナル、中ニ窪餘地アリ 方四十步許 土人之ヲ古鎭守ノ舘跡ト曰フ 文治年中源右府東征ノ日。寓スル所ハ。岩切村ノ古舘也。

續日本記曰 聖武帝天平九年四月戊午、陸奥持節大使藤原朝臣麻呂等言。以去二月十九日、與鎭守將軍大野朝臣東人。到陸奥國多賀柵。

又曰 麻呂等帥二百四十五人、鎭多賀柵。又曰。四月一日。東人到出羽國大室驛、入賊地。且開道而行。但賊地雪深 馬蒭難得 故同月十一日。東人廻至多賀柵。自導新開通道。總一百六十里。或刻石伐樹。或塡溪跡亭 從賀美郡。至出羽國最上玉野。八十里雖總是山野形勢險阻。而人馬往還。無大艱難。從玉野至賊地。

又孝謙帝 天平寶字四年春二月丙寅。陸奥國調庸者多賀以北諸郡令輸黃金。其法正丁四人一兩以南諸郡。依舊輸。又光仁帝寶龜十一年三月丁亥、上治郡伊治公呰麻呂反。率徒殺按察使紀朝臣廣純於伊治城。獨唯介大伴宿禰眞綱開圍一角而出、護送多賀城。

同年七月甲申、勅曰 爲討逆虜調發坂東軍士限來九月五日 並赴集陸奥國多賀城。其所須軍糧宜申官送兵

同年九月己未、勅將軍爲賊被欺。致此逗留。以今

月。不入賊地。宜居多賀玉造等城。能助防禦。益錬術。

又曰。桓武帝延暦四年四月辛未。陸奥按察使鎮守將軍大伴家持等言。權置多賀階上二郡。同七年三月庚戌。軍糧三萬五千餘斛。仰下陸奥國。運收多賀城。又糒二萬三千餘斛。並仰東海東山北陸等國。限七月以前轉運睦奥國。並爲來年征蝦夷也。

同月辛亥下勅曰。調發東海東山坂東諸國步騎五萬二千八百餘人。限來三月會於陸奥國多賀。其點兵者。先盡前般入軍。經戰敍勳者。及常陸國神賤然後簡點餘人堪弓馬者。同月乙丑。以多治比濱成。紀眞人。佐伯葛城。入間廣成。並爲征東副使。以紀古佐美。爲征東大使。是乃欲攻膽澤地也。同八年三月辛亥。諸國之軍。令於陸奥多賀城。分道入賊地。

後鳥羽帝。文治五年秋八月十二日。賴朝自柴田郡船迫。至多賀國府。居三日。同年十月朔。賴朝從平泉到多賀國府。因賞吏犒民。

同六年正月。泰衡家臣大河原次郎兼任。欲踰出羽大關山。而赴多賀國府。到于鎌倉。

壺碑

或ハ壺ノ石文。或ハ坪ノ碑ト爲ス。古ハ庭之レヲ壺ト謂フ。府庭ニアルヲ以テ此名ヲ得タリ多賀城墟ニ在リ。從六尺餘衡三尺餘。碑後石形三稜。天平寶字六年。惠美朝臣ノ立ル所。見雲眞人書スル所ナリ。楷法遒健。世或ハ評シテ。諸葛武侯ノ書ニ似タリト爲ス。青山公ノ世亭シテ以テ闌楊ヲ禁ス。世ニ傳フル所僞本多シ。物徂徠香國師ニ與フル書ニ曰ク。壺ノ碑ノ如キ。則チ之レヲ晋唐間ニ求ントスト。

續日本記。聖武帝神龜元年大野東人。爲按察使陸奥鎮守將軍。授從四位上勳四等。天正十一年四月壬午。爲民部卿兼春宮大夫。

又孝德帝。天平寶字四月正月癸未。藤原惠美朝臣。爲陸奥國按察使兼鎮守將軍。授正五位下。同月丙寅。授從四位下。同五年十月癸申。爲仁部卿。陸奥出

羽按察使如し故。同六年十一月丁酉。爲ニ東海東山節度使。十二月己巳爲ニ參議一。

風土記曰。陸奥國宮城郡坪碑　爲故鎭守門碑。惠美朝獦立し之。見ニ雲眞人清書也。記ニ異域東邦之行程一。令ニ旅人不レ爲ニ迷塗一。

多賀神社

祭ル所二座、一ハ武甕槌命浮島ニアリ。故ニ古來浮島明神ト稱ス。一ハ經津主命多賀崎ニアリ。兩社ヲ合シテ多賀神社ト曰フ。舊ハ祠官之ヲ分稱シテ。多賀府多賀崎兩社ト曰フ。延喜式神名帳ニ載スル所、宮城郡大社四座ノ一是ナリ。東鹽氏傳ニ曰ク。明應中鹽廟及多賀兩社共ニ壞圮。諸祝之ヲ新ニセント請フ。留主氏特ニ鹽廟ヲ營ス。乃チ多賀兩社ヲ移シテ之ヲ合祀ス。又貴船祠ヲ利府ニ只洲祠ヲ加瀨ニ移シ。小祠ヲ鹽廟ノ側ラニ營ミ。以テ配祀ス。是ニ於テカ六社ノ稱アルナリ。是ニ於テカ多賀兩社永廢ス。今祠ハ則チ村民其跡ニ就キ之ヲ營スルナリ。

鹽廟緣記ニ曰ク今ノ鹽竈社ハ多賀國府ニ在リ。是三社神、國府ニ天降ル故ニ多賀神社ト號ス。封内名蹟志ニ曰ク。多賀神社ハ。今ノ鹽竈一ノ宮也。鄕說ノ所レ謂浮島明神ナリ。觀迹聞老志ニ曰ク。多賀神社ハ。舊多賀城址中ニ在リ。今其祠スル所ノ神明ヲ詳カニセス。秘書ノ載スル所。多賀宮ハ。伊奘諾尊洗ニ右眼一出ス所。神號ヲ豐受忌魂。一名伊吹多主神是ナリ。又浮嶋神社記ニ載スル浮島神社ハ。多賀城東鹽竈南浮嶋村ニ在リ。其地昔海潮其下ニ來ル。古人ノ詠ヲ考テ見ルヘシ。今變シテ田野トナリ。田中ニ高丘アリ丘上ニ神祠アリ。是即浮島明神ナリ。祭神ヲ詳ニセス。東鹽氏傳多賀神社ヲ載ス。古祭禮ニ曰ク。三月中ノ日。宮城一郡ノ士多賀城ニ會シ、分テ二軍トナシ。一ヲ神軍、一ヲ賊軍ト爲シ、各將帥在リ神軍ハ三神輿。即チ武甕槌命。經津主命。岐神ヲ奉シテ。賊軍ニ向フ兵刄已ニ賊軍ニ接スレハ、賊軍甲ヲ棄テ兵ヲ曳テ走ル。神兵北ルヲ追テ鹽浦ニ至ル。賊軍

舟シテ遁ル。神軍亦タ舟シテ宰相島ニ至ル。大関三呼シテ凱旋ス。此祭儀ナリ。三衡ノ世猶之ヲ行フ。秀衡ノ子和泉三郎即之ヲ奉行スル事。古記ニ見ユ。而シテ留主氏ニ至リ全廢セリ。同書記鹽廟古祭儀頗ル詳悉。因テ其略ヲ玆ニ載ス。孟冬亥ノ日猪子神事。孟冬サヒラキ神事。同朔日布刈神事。此日ヤ祝長卒祝舟ヲ浮ヘテ大根祠ニ至リ。海帶及鰒ヲ取テ備フ。七月十日大祭。仲夏初申酉兩日大神事。同六日神插苗神事。同十一日始農神事。同二十七。二十八日兩日。大神事。仲春巳ノ日初耕神事。暮春十日。十一日兩日神事。同月酉ノ日タネマキ神事。仲春初午稻種卸ノ神事。孟秋酉ノ日大神事。是大古ノ事也。天智ノ朝以後。朔日ヨリ十日迄。大神事。仲秋初穗新米神事。季秋朔日秋收神事。此條朔ヲ亥日トアリ。

神養院

鹽竈法蓮寺末寺

野田玉川

市川村多賀城墟東南ニ在リ。國風ノ詠スル所ヲ以テ之レヲ考フルニ。古昔ハ海潮進退シテ其水甚タ巨ナリ。而シテ陵谷變遷今ヤ小渠トナリ。流水涓々纔ニ其處ヲ知ル耳。傍ラ碑アリ從四尺餘衡二尺餘。

碑文

歐陽子。難除州西溪詩曰除之城西無潤。獨城北有潤。亦水淺。而無負舟之力也。何江潮之至哉。余嘗謂天地之運何限。物換星移。陵谷易地。焉知除溪之非唐之時是。而宋之時非也。何啻詩人之務佳句哉。久之遊玉河。於是乎。徵余言焉。玉河我奥之名勝。世誰不知焉。考諸國風之什。則古時蓋巨水云。海風送潮滂湃而來。水禽千群。蜚鳴徘徊。湯湯乎大也哉。而今小汚池耳。天地之運爲爾。嗟呼世之探勝者何限。以其汚池故。不覺爲古之名勝。可爲長大息矣。法蓮萬春。學涉內外。文思蔚然。斌斌法門君子也。嘗慨名區勝境多變遷其名失之者。於玉川爲最。甚爲寄邇法蓮故

也。乃猛意任其事。慫慂隣黨建立表之、使世之探勝者覩乃猛意。任其事如有歐陽子。乃以答其難也。遂屬余爲銘。銘曰

誰謂河廣。哀此如帶。目睹雖達。口碑毋害。詢事靑雲。刻辭白石。將哉不朽。春公勸役。

玉屋富充伯耳撰

玉川寺

玉川ノ傍ニアリ。後花園帝文安元年、僧無着ノ開興スル所ナリ。

掛糸觀音

玉川東南ニアリ。村ヲ留谷ト云フ。堂アリ觀音大師像ヲ安ス。僧都惠心ノ製スル所ナリ、村婦蠶ヲ祈レハ驗多シ。則チ五色絲ヲ以テ賽シ。懸テ堂中ニ滿ツ故ニ稱名ス。

千引石

觀音堂南農家前ニアリ。大ハ一丈許。其狀瓢ノ如シ。而シテ半ハ地ニ陷ル。主人曰ク。往昔富豪人アリ。庭中ニ移サント欲ス。然レトモ千夫搖曳シ難シ。遂ニ止ム故ニ名ツク。

思湧橋

千引石ヲ去ル南ニ數町、留谷村ニ在リ。一ニ而和久ノ橋、土人之レヲ楓橋ト云フ。

右丘ニ楓數樹アリ。楓山ト云フ。此樹ハ獅山公（藩ノ五世吉村）ノ世、名勝其徵ナキヲ惜ミ、之レヲ植ヱシト云フ。

笠石　附八幡坊

思湧橋南。八幡坊中人家ノ背ニアリ、三奇石列起シ大各二丈餘、其狀累笠ノ如シ。土人曰ク。古昔田村將軍利仁東征ノ日部下ノ卒捨ル所ノ笠、化シテ石ト成ルト。是レ不經ノ言取ルニ足ラス。然レトモ石ノ形狀ハ便チ推知スヘシ。

末松山（末音壽衛）　附寶國寺

八幡坊々側寺アリ。寶國寺ト云フ。寺後ニ高丘アリ。累々墓ヲ爲ス。是末松山ナリ。往時ハ松樹山ニ遍滿

ス。今存スルモノ僅カニ五株。而シテ其最モ東ノ一株之レヲ末松ト稱スルナリ。僻能因歌枕ニ、本中末ノ三松アリ。袖中抄末中二松ト爲ス。風土記ニ曰ク、末松山ハ八幡ノ南ニアリ。其山三方而シテ嶺上ニ三松秀出セリ。島ノ地市川ノ道ヨリ之レヲ見レハ、則チ嶺上ノ峽ハ。白波浩々トシテ以テ奇觀タリト。或曰ク、本松ハ。岩截村ニ在リ。末松ハ此地ニ在リ。知ラス中松ハ何ノ處ニ在ルヲ。此地海濱ヲ去ル遠シ。而シテ山後ヨリ之ヲ望メハ。波濤將サニ松梢ヲ踰ントスルカ如シ。故ニ國風ニ波踰ルノ誓アリ。世コノ松ト宮城野ノ萩ヲ以テ、筆管ト爲ス雅澹愛スヘキナリ。

宗久紀行ニ曰ク、末松山ハ陸奥名區中。其殊顯ナルモノニシテ。之ヲ徒過スルハ探勝者ノ素心ニ非サルナリ。乃チ松毬數枚及松葉數莖ヲ採シ去ルト。

宮城野萩。壽衛松山松。二筆賦。以題爲韻。

辛丑仲夏十日。雨窓悶座。偶憶案頭所貯松萩兩種名筆。爲貴地操觚家所雅好也。予亦喜其清幽不俗。謾賦一篇以補王右軍筆經之闕云爾。

清閩中　朱華綠池

綠池氏遊遊海外寓於崎陽館宮。越國間禁。入境探風、博觀方物之誌。窮捜産語之叢。有二客自稱中書君。詣予請評曰。在昔蒙恬。中山屯營。獵取毛穎。封造管城。遺我後裔。遠適東瀛。一投萩氏一倚松卿。性耽翰墨。職掌文衡。片言乞錄。藝苑馳名。予曰。嗟綠沈漆竹。久擅風流。赤管霜毫。夙傳精雅。惟尖頭之勇。健行若遊龍。豈禿髮之衰。殘材堪倚馬。騰蛟起鳳。隨指使於即墨之卿。芳桂清風。應渲染於浣花之野。鼠鬚妙品。未足比其清華。麟角名珍。莫能方其瀟灑。維時客其萩姓者歌曰。宮城之野兮草名萩。有美一人兮氣横秋。比芳蘭於湘浦兮德音堪賞。譬香茝於沅水兮。芬味莫投。弱不勝衣兮。隨風颺去。談以明志兮於世何尤。詞壇掉臂兮歌舞。墨陳連芳兮氣求。問予懷兮渺々。舍文士

兮誰可與遊。」又其松姓者和曰、維壽衛之喬松兮。挺奇姿之森茂。張翠蓋以參天兮。列青氈於遠岫。柯偃蹇如龍盤兮。幹鬱結若鱗皺。矢孤危以風操兮、不改歲寒。甘澹薄以葆眞兮。獨登仁壽。風人之映。倚君子之居兮、猗㬎生芳。擧止軒昂、入幽華掩室兮。圖書並秀。」予聽畢情爲之移。神爲之契。知托體之淸奇。想爲物之鋒鋭、或入夢而生花。或凌雲而折桂。或幻五色於毫端。或畫雙娥於眉際。或麟史獲狩以絶書。或終軍從戎以投袂、或龍文寶鼎力僆獨扛。或璽紙銀鈎。腕落得勢。或文無加點。裁成丹詔於殿廷。或手不停揮。立就羽書於武衛。旣含毫而欲渺。不隨雕飾爲低昂。惟秉盾之精良。豈假淸幽於礙砌。」故其爲體也。機圓而潤。神靜而間。取澹遠之丰神。品似蒹葭秋水。採孤芳之雅操。格同淇澳春班。揮灑自如。惟守正乃能不曲、飛揚盡致、斯質直方可轉圜。落紙有聲。髣髴秋風鳴綠野。臨文不俗、依稀夜月照松間。喜學士之吐揚。常伴燃蘗於午夜。憐寒窓之刻苦。相資攻錯於他山。」且其爲用也、拂楮呻吟。欲歌欲泣、濡毫抒寫。或横或縱。似驚蛇之入草焉。似枯藤之伴松焉。似懸岩而勒馬焉。似墜石於高峯焉。力大如椽、漫道輕同弱草。鋒芒比刄。誰云鈍若頑樅。倘載酒於東皐。錯認伊人舊址。脱巡行於泰岱。却凝處士遺封。」矧夫遠隔中華。分區異地、極日本之邊陲。接扶桑之壤次。秋期野望。花纍々而垂條、冬嶺霜侵。樹蒼々而疊翠。海國共侈爲奇觀。文房資爲利器。是其脱穎也雖殊。而其書空也不二。」我朝聖天子。德化覃敷。聲敎洋溢。珍奇厥貢諸殊方。品玩聿獻於帝室。修文偃武、寶貴櫜簪。造士作人。雅重不律、故靑鏤有異數之頒。彩毫有三品之秩。珊瑚作網、毎偕粟尾齊名。玳瑁爲衣。詎別竹狀異質。則袪枝之吐穎而芳華。松管之凝毫而秀逸。當入南國以揚鑣。爰賦東方之名筆。

沖井　附與井ノ黽。及都島。

沖或ハ與ニ。或ハ熾。又起ニ作ル。共ニ音於喜ナリ。

寶國寺南數十歩。農家前ニ在リ。小野小町ノ和歌ニ。沖ノ江ヲ身ヲ焼ク是ナリ。或曰ク。八雲御抄興井ノ里アリ扶木集起井ノ里アリ。興井ノ里相混ス。而シテ松葉集分テ兩處ト爲ス。蓋シ此左右村落ヲ指スカ。又都島アリ或ハ皇都嶋ト曰フ。小町人ノ皇都ニ之クヲ送ルノ和歌之ヲ見ル。亦タ此地ニ在ルカ。地共ニ欠タリ。今ニシテ考フヘキナシ。或曰ク。宮戸都國音近シ。故ニ後人訛ルノミ。又曰ク宮戸島ノ側ニ別ニ都島ナル者アリ。又東宮濱ノ西ニ同名ノ嶋アリ。其説紛々暫ク之ヲ記シテ後ノ識者ヲ竢ツ。

沖　石

沖ノ井ノ傍小池中ニアリ。其石二丈余。土人誤テ源三位頼政ノ女。讃岐ノ賦スル所ノ石ト爲ス。

鴻ノ池

黄金宅地

沖ノ石西數十歩ニ在リ。土人曰ク。昔富人栗生氏某ト云フ者アリ。之レニ居ル。其家貲巨萬ヲ累ヌ。家僮數百人ト云フ。今地中時ニ黄金器物ヲ出ス故ニ名ツク。

八幡古館

伊澤四郎家景ノ臣。八幡兵庫ノ居館ナリ。

八幡神祠

末松山東南三里余ニ在リ。村名ノ八幡ハ神祠ニ據ルナリ。

般若寺

八幡神祠側ニアリ。神祠祈禱祝詞ノ事ヲ主管ス。

柏木神祠

八幡社ヲ距ル東三里。笠神村ニアリ。祠邊皆柏樹。是鹽竈枝祠ノ一ニシテ祭神詳カナラス。

自在院

鹽浦法蓮寺末寺

大　代

柏木神祠以東二町許。村巷アリ。漁農相半ハス。是レ大代ナリ。巷ノ半ハニ渠アリ。潮水來去ス。渠ニ沿フ

テ北西五里東宮濱ニ出ツ。渠ヲ渡テ東三里許。之ヲ水門濱ト云フ。

水門濱　附天女島・善逝堂・臥石。

一ニ湊濱ニ作ル。漁家數十戸有リ。此地水門ト名ツク。舊ハ延川此ニ到リ海ニ入ル。今水利ノ爲メニ之ヲ東南數里ニ徙ス。蒲生濱ニ到テ海ニ入ル。水門ノ名ハ空存ノミ。濱ノ西ニ湖アリ是舊時海口ノ跡。瀦シテ湖トナルモノ。湖中一島アリ。天女ト名ツク。上ニ天女祠アリ。南岸巨石アリ。臥石ト云フ。臥石ノ南水流アリ。是市川ノ末流ナリ。湖ノ北岸善逝堂アリ。堂ハ崖ヲ鑿テ之レヲ作ル。其廣三丈餘。中ニ藥王像及神像ヲ置ク。相傳フ。僧正行基ノ製スル所ト。

青松濱

一ニ松ケ濱ト云フ。水門濱ノ東北一里ニ在リ。漁家數十戸。海ニ面シテ居リ。波濤ノ餘勢常ニ檐下ニ及フ。

觀江臺

青松濱ノ南邊斷岸千尺上ニ臺アリ。臺上ノ矚スル處。西ハ列ノ諸嶽ニ至リ。南ハ相馬岩城ノ諸山ニ至リ。東ハ則チ滄海漂渺天ト連リ。唯見ルヘカラサル者ハ則チ北ノミ。臺下ハ奇石最モ多ク。白浪之レヲ濯ヒ。退潮ノ時石悉ク出ツ。席ノ如キ者アリ。竈ノ如キ者。井幹ノ如キ者。碁局ノ如キ者。帽ノ如キ者。笠ノ如キ者。鼓ノ如キ者。臼ノ如キ者。箕ノ如キ者。偃ス者。尖ル者。相曳ク者。相推ス者。負フニ似タル者。擔フニ似タル者。奇態萬出其狀ヲ盡ス可カラス。而シテ石間鰒魚多シ。得テ即チ之レヲ食フ。嚼ヲ得スシテ其味却テ美ナリ。故ニ退潮ノトキ四方來リ賞シ以テ奇觀ト爲ス。世此地ヲ以テ鹽竈松島ニ減セスト爲ス。亦タ妄ナラス矣。

松ケ浦島

青松濱ノ東巉岩相峙ツ。長松羅列シ岩下ニ一島アリ。之レヲ松ケ浦島ト爲ス。嶋上舊紫藤アリ。後嵯峨帝ノ國風ニ。漁夫有情ノ語アリ。而シテ今有情其人

アル無シ。誰カ別裁シテ其徴ヲ存スル者有ラン哉。

鷺島

青松濱東北ニ在ル小島ナリ。前後相分レテ二島アリ。

舞島

英雄島　二嶋トモニ鷺島ノ西ニアリ。

菖蒲田

青松濱東北四五里ニアリ、漁家海ニ面シテ居ル。神祠アリ菖蒲田明神ト曰フ。祭神ヲ詳カニセス。或曰ク、鹽竈枝祠ト。

白沙洲　附阿邪波湖・立石

菖蒲田東北ヨリ海ニ沿フテ二里許、白沙軟潔是レヲ白沙洲ト爲ス。其西山中ニ湖アリ。阿邪波湖ト曰フ。畔ニ巨石アリ立石ト云フ。此湖鯽魚多シ。其味美ニシテ他ノ産スル所ト異ナリ。

韮峰　附金色汀

或ハ新羅峯ト云フ。白沙洲東北ニアリ。滿峯自生ノ韮アリ故ニ名ツク、峯南海汀ヲ金色汀ト云フ。白沙金色ヲ雜ユ、晶曜日影ヲ受ケ閃爍眼ヲ射ル。採テ以テ壁ヲ塗ル、玲瓏愛スヘシ。

鼻節神祠

韮峯ノ北峻嶺上ニアリ、祭ル所猿田彦大神ナリ。此神一ニ岐神ト稱ス、祠官舊記ニ曰ク。岐神鼻節濱ニ天降ル。延喜式ノ所謂鼻節神祠是ナリ、此神鼻ニ節アルヲ以テ故ニ之ヲ稱ス。今鹽竈枝祠タリ。風土記誤テ多力雄神ト爲ス、舒明帝二年始テ圭田ヲ奉シ。祭事ヲ行フ。凡ソ神祠ニ詣ル兩路アリ。西ヨリスル者坦夷ニシテ是レ捷路ナリ。南ヨリスル者ハ正路ナリ。小橋アリ、華表石階數百級、危峻緣堵ノ如シ、而シテ嶺頭樹木森々。東北ハ則チ絕壁千仭海ニ臨ミ。神明崎ト云フ。此地青松ヨリ菖蒲田ノ諸濱ヲ經テ。東北此ニ至テ地極マル。潮汐ノ進退相觸ル、所。觀濤ノ奇比ナシ。石階下韮山ト相接シ。其間東望スレハ宛然畫圖ニ面スルカ如シ。

鼻節浦

神祠ノ西ニアリ。漁農相半シ海ニ面シテ居ル。或ハ花淵濱ト云フ。花淵國音相近シ故ニ誤ル。

一木亭

鼻節濱ニアリ。其大七八楹。棟梁楹椽總テ一木ヲ劉テ以テ之ヲ構ス。而シテ何ノ木タルヲ知ラス。之ヲ問フ。主人曰ク。僕ノ家七世ノ先。寛永年間一夜風雨晦冥。明テ前汀ヲ見レハ。長堤ノ如キ者アリ。就テ之レヲ見レハ則チ大材ナリ。數百人猶搖曳シ難シ。故ニ就テ劉割シ以テ此亭ヲ構ス。蓋シ今ヲ去ル二百年餘。而シテ探勝者往々竊削シ去リ。其痕偏ク在リ。前ノ大守英山公此ニ遊觀セラレ命アリ。之ヲ禁ス。

順風島

鼻節濱ノ東ニアリ

英靈島

順風島ノ東ニアリ

飛雀島

英靈島ノ東ニアリ

石岩神祠

鼻節濱五里東海中ニアリ。東西兩祠アリ。其間相距ル二町許。濤沫噴麗遠クシテ之ヲ望メハ。宛モ兩小雪山ナリ。土人曰ク。退潮ノ時舟偶々到レハ。水中石殿アリ。又曰ク。凡ソ海ニ航スル者拜禱セサルナシ。嘗テ一商舶アリ。颶ニ値フテ船將ニ破レントス。擧船此神ニ祈ル。船忽チ全キヲ得タリ。岸ニ到リ之ヲ視レハ。鰒魚數千船底ヲ擁セリト云フ。

吉田濱皮神祠

鼻節濱ヨリ海ニ沿フ二里餘。家數十戶アリ。漁家ノ南背高丘上ニ。老樹蔚茂ノ中ニ神祠アリ。是ヲ吉田神祠ト爲ス。鹽竈枝祠ノ一。祭神詳カナラス。

淘島

吉田濱前ニアリ。或ハ鍋島ト曰フ。全島一堅石亦奇ナリ。

嶼ケ崎

或曰ク善哉崎。或ハ代ケ崎ニ作ル。吉田濱西三里餘ニ在リ。漁家數十戶。北ハ躑躅神馬ノ諸島ニ對シテ、其間纔カニ二三町許。波濤是ヨリ西セス。鹽浦松島環海ノ口ナリ。

多門山

或毘沙門崎。嶼ケ崎ト稱ス。蓋シ此中ニ在ルナリ。山巓ニ多門天堂アリ。側ニ愛宕社アリ。其南數歩山神祠アリ。山上ノ眺ム所。東南ノ美極マル。蓋シ鹽浦松島ノ地。曲岸回渚連抱四合。隱然トシテ、大環ノ如シ。而シテ丘陵培塿必スシモ論セサルナリ。而シテ峯巒ノ勝。一矚万頃ト稱スルモノ。亦タ何ソ限ラン。中ニ就キ其最モ顯ル者。西ニ扇谿。北ニ富山。東ニ大高峯有リ。而シテ闕ル所ノ者ハ獨南耳。謂ユル地維缺ル者。安ソ簣足之ヲ塞クヲ得ンヤ。余之ヲ慨スル久シ。庚辰ノ春偶マ此山ニ登ル。一矚即チ知ル。當サニ一方ヲ表シテ彼ノ三方ト奇ヲ爭ニ足ルナリ。噫世特リ賢人ヲ知ラサルナリ。山水ノ顯晦亦タ時アル哉。此山余ヲ得テ始テ見ハル。時ナル乎但恐ル未タ知ラス山靈ノ怒テ秘ヲ洩スヲ。然レトモ余ハ鹽松ノ勝ニ於ケル。女媧氏ト爲ルナリ。

清水濱

嶼ケ崎ヨリ海ニ沿フテ西南一里餘。清水濱ト云フ。漁家僅カニ十五戶。其西南東宮濱ト爲ス。

東宮濱

清水濱ヲ距ル一里許ナリ。

東宮神祠 附要害浦

東宮濱ニアリ。西ニ灣アリ。要害浦ト云フ。漁家數戶アリ。灣口絕壁。神祠ハ其上ニアリ。鹽竈枝社ノ一。祭神詳カニセス。

鳳壽庵

東宮濱漁家南背ニ在リ。寺ハ南面要害浦ニ臨ム。

神明宮

東宮濱人家ノ東ニ小祠アリ。祭ル所大日孁尊ナリ

談合洞

要害口ノ西崖ニ洞アリ。

藤木崎附祇園林

談合洞ノ西南ニアリ。其間ニ灣アリ。灣窮マツテ渠在リ、即チ大代ニ通ス。灣ノ西隅ニ高丘在リ。雜樹森茂中ニ神祠在リ。牛頭天王ヲ祭ル。土人祇園ト曰フ。

雀島　鳥島

藤木崎ト相並ンテ西南ニ在リ。其西南ハ即チ葉柴崎ナリ。

大木戸浦

大木戸入江ト稱スル者。是ヲ指スニ似タリ。本ト大代境ニ有リト云フヲ見レハ。此所カ七浦ノ一ナリ。

葉柴崎或ハ波島崎ニ作ル

笹ノ浦

葉柴崎ノ西ニアリ。一帶ササノイリ浦ト云リ。ササノ江トシテ別ニ出スヘキカ。

二又浦

笹崎西ニアリ。崎西ハ即鷹ノ巣灣ナリ。此地鹽浦ヲ距ル僅カ二里許。尾崎ト相對ス。

鹽松勝譜卷之二畢

鹽松勝譜卷之三

松島部上目次

松　島　　松島浦　　瑞巖寺
朝鮮梅　　無相窟　　法雲庵附救災石火鈴
護國庵　　龍月庵　　寶珠庵
圓同庵　　大光庵　　聯芳庵
靑松庵　　萬松庵　　江月庵
傳曲庵　　紹隆庵　　得住庵
經　堂　　千佛閣　　解脫庵
陽德院　　葉山神祠　　愛宕神祠
湯　原　　正海峯　　上岡下岡
山王廟　　長老坂附二葉松長老石圓通院
西行退松　　藥王廟　　圓通院
天麟院　　不昧堂附雲居念佛三聖堂
軒端梅附紅蓮煎餅

鹽松勝譜卷之三

仙臺　舟山光萬年著

仙臺　佐澤廣胖校訂

松島部上

我東方日出ノ國ハ。奇山水ト稱スルモノ多シ。而シテ最モ顯著ナル者ハ丹波ニ天ノ橋立アリ。安藝ニ嚴島アリ。近江ノ琵琶湖。相摸ノ繪ノ島。出羽ノ象潟我松島ナリ。松島ハ前諸勝ニ比セハ。獨リ傑然トシテ。啻ニ野鶴鷄群ナルノミナラサルナリ。然ルニ世天橋嚴嶼トヲ合セテ以テ之ヲ三勝ト稱シ來リテ。各士ノ人士。喙説紛々長喙相競フ。誰レカ秉衡ヲ斯ニ得ン即チ之ヲ要スルニ。親遊親矚シテ能ク其ノ勝ヲ窮メテ其ヲシテ自省内悔セシムヘキ耳。豈言葉ヲ以テ言葉ヲ禦クヘキカヤ。夫レ山水ハ畿服中區ニ在ルモノ。奇景幽致ナシト雖トモ。或ハ治城ニ倚リ。或ハ闤闠ヲ挾ミ車輿歩騎晨ニ過キリ夕ヘニ經テ。之ヲ遊詠賞讚スヘク。故ニ其名籍々トシテ挺寓ニ聞フ然リ而シテ其實ナキ者多シ矣。松島ハ獨遐僻ニアリ。藩ノ士庶ト雖トモ。日常之ニ遊フヲ得ス。況ヤ天下ノ人ヲヤ。而シテ間々遊フ者アリ。亦惟レ往來數過之ニ加フルニ　舁夫舟子ハ道路ノ便ニ從テ。勝ノ向背ニ拘ハラス。時ニ或ハ山ニ訪ヒ水ニ語リ。答フル所ノ語言ハ。皆訛雜ニシテ多クハ通ラス。而シテ松島ノ勝是ノミト。遂ニ鸞鳳ヲシテ鳥鵲ト齊シク舞ヒ。錦繡ト麻布ト同服セシムル者。豈ニ歎スルニ勝フヘケン哉。江庵云ヘルアリ。藍朱彩ヲ成シ錯雜ノ變窮リナシ。宮商音ヲ爲シ。靡曼ノ態松島ノ勝ヲ極メスト亦タ然ラス乎。陸眺舟矚一歩ヲ進メハ一象ヲ變シ。一櫓ヲ搖カセハ一景換フ。即チ枝ヲ留ムレハ呼吸頭ヲ點ス。舟ヲ繫ケハ風搖キ水動キ。又亦タ狀ヲ異ニシ趣キヲ殊ニス。加之四時晝夜・曉夕・晴雨・風霜雪月ノ異ナルアリ。變幻萬狀。嗚呼誰レカ之ヲ窮ムルヲ得ン哉。蓋シ天下非常ノ

事アレハ。非常ノ才アリ。獨リ非常ノ勝アリ。而シテ非常奇癖ノ人無ランヤ。若シ眞ニ奇癖山水ヲ好ム人アラハ、則峻嶺深谷平ト雖モ。躋攀顚仆ノ苦シミヲ憚カラス。盛暑嚴寒ト雖モ。泥汙辟濕ノ勞ヲ顧ミス。一嶋一嶼ノ奇ヲ得レハ則席ニ藉テ日ヲ經。枕ヲ移シテ夜ヲ終フ。一境一區ノ幽ニ遇ヒハ則チ樹ニ蔭シテ月ヲ逾ヘ。菜ヲ結ンテ歳ヲ亘ル。是ヲ之レ烟霞痼疾ト謂フ。是ヲ之レ泉石膏肓ト謂フナリ。而シテ後應ニ四時晝夜。曉夕。晴雨。風霜。雪月ノ異ヲ窮ムヘキナリ夫レ此ノ如クニシテ。後始メテ與ニ松島ノ勝ヲ言フ可キ也。白石先生曾テ松島ヲ以テ。古ヘ稱スル所ノ。蓬萊ナル者ト爲ス。信ニ旨アル哉。世ニ或ハ曰ク。松島ノ勝ハ笑フカ如キナリ。或ハ曰ク粉然美人ノ面ヲ粧フカ如キナリト。是亦タ衆盲摸象ノ言。何ソ取ルニ足ン哉。南山禪師曾テ詩アリ。曰ク。天下有山水。各擅一方美。衆美歸松洲。天下無山水。眞ニ知言ト謂ツヘキナリ。

松島

宮城郡ニアリ。村モ亦松島ト曰フ。蓋シ松島ノ名ハ其來ル久シ矣。類聚國史ニ。舒明帝三年。松島八幡ニ勅使ヲ奉スルノ事ヲ載ス。則チ當時既ニ今ヲ距ルコト。一千二百餘年ナリ。其上亦タ幾許年ナルヲ知ラス。是ヨリ以來載籍ノ見ル所。紫式部ノ源氏物語。清少納言ノ枕ノ草紙ノ類。其他古人詠スル所ノ國風ニ至ツテハ。則チ亦タ繁ニシテ夥シ矣。世ニ或ハ曰ク。古豐聰王ノ達摩ヲ待ツノ地是レナリ。故ニ之ヲ待嶋ト曰フト。而シテ待松國音同シ。故ニ後年更メテ松ト爲スト。或ハ曰ク。僧見物此ニ住スルノ日。鳥羽帝大藏卿康光ヲ勅使ニ賜フテ。松樹千株ヲ栽ヱシム。故ニ千松島ト稱シ。後ニ略シテ松島ト曰フト。或ハ曰ク源右將頼朝ノ夫人平氏。之ニ使ヲ遣ル共ニ是レ前後無稽ノ言。何ソ取ルニ足ラン哉。或ハ曰ク先代舊事本紀。一名大成經中コロニ載セテ曰ク。豐聰王此ノ地ニ到リ。國風ヲ賦スト。而シテ此書

ハ即チ豐聰王自撰スル所ニシテ。其達摩ヲ待所ト爲ス者。徵アリト爲サルヲ得ンヤト。余曰ク然ラス彼ノ舊事本紀ノ書ハ。上州黑瀧ノ僧潮音ナル者ノ僞作スル者ニシテ。先賢既ニ其妄ヲ駁セリ。而シテ近コロ多田義俊氏辨明詳悉セリ。子未タ之ヲ深考セサル耳。其人唯々。蓋シ松島ハ此地ノ統名ニシテ前海後山南ハ鹽浦ニ接シ。北ハ磯崎ニ隣リ雄島ヲ右ニシ。五大堂ヲ左ニシ寺觀。浮屠山麓ニ列ナリ。遊舫。商舸津港ヲ塡ム。而シテ其間タ居民二百餘家其巷ハ則チ旅邸巷ナリ。凡ソ五巷其中旅邸洲崎ノ二巷客ヲ待ツテ生業ト爲ス。此樓海ニ面シ萬頃一矚洲嶼碁布セリ遠キ者ハ一葦之ニ航シ。邇キ者ハ跂シテ之ヲ望ムヘシ凡ソ遊者境ニ入レハ。先ツ應ニ禁ヲ問フヘキナリ。此地ハ是レ瑞巖寺ノ封彊ニシテ。海陸方各一里弋釣ヲ禁ス。故ニ鳥魚ハ近ク相狎レ。遊泳活潑人或ハ疑フ。以テ忘機ノ致ス所ト。

松島秋月八景之一

松島十分秋。留連飯月洲。金波暉桂楫。玉水曜蘭舟。啼斷猿崖白。眠驚鷺石愁。歸來人不寢。猶上庾南樓。

元薩天錫

風光招我海山阿。拍手吟魂奈何何。御島烟波松島月。到茲捲否富樓那。

南山

天下江山汗漫遊。中原勝概倦周流。仙臺曾謂尋常域。松島初驚七十洲。日暮斷雲藏列岸。風寒亂葉雨危丘。班荊劉覽偏寥豁。指點煙波俯素秋。

南山

松洲勝概屬閑身。一度登臨一度新。朝暮堪窮天地變。江山幾閲古今人。雲濤萬里應無國。鷄犬孤村似避秦。自咲留連勞矚眺。欲移幽跡此爲隣。

南山

松島烟波碧海流。瑞巖東畔命輕舟。潮通靺鞨三千里。雲接蓬萊七十洲。一洗身心皆似水。半分世界總如浮。薰風忽送他山雨。隔岸樓臺鎖暮愁。

南　山

巖樹高低皆梵宮。江山歷落畫圖中。渚田秋靜青鳧雨。水樹寒生紫蓼風。鐘鼓秖疑三竺接。煙波莫ㇾ與二十洲一通。樓々待ㇾ月騷遊客。齊倚二欄干一送二暮鴻一。

南　山

送三瑩禪人遊二松島一。

僧經足跡滿二中區一。堪ㇾ比松洲天下無。神島仙巖亡慮百。鸞停鵠峙不二相孤一。乾坤勝概群邦與。日月精華寰海隅。心境此行俱映發。何言冉々涉二征途一。

松島泛ㇾ舟偶賦ㇾ所ㇾ矚　南　山

天地奥區自不ㇾ凡。宛然鬼削與二神劖一。就ㇾ中松石最奇絶。五大堂西三四巖。

松島浦

南栖霞觀梅ノ諸渚ニ至リ、北ハ磯巴崎世ノ諸崎ニ及ヒ、東ハ宮戸寒風澤ノ諸島ヲ極メ、中間數十里。古ヘヨリ總稱シテ之ヲ松島浦ト曰フ。源ノ顯國カ國風ニ詠スル所。僧宗久カ記スル所見ルヘキナリ。土人曰ク、松島ノ浦ハ、時或ハ晴日ニ遇ヘハ、則チ和光融朗ニシテ。海水油ノ如ク細波ヲ擧ケス。萬頃斷シテ一葦ノ航ナク、岸上亦鳥雀ノ聲ナシ。鼓笛瓦釜寂然トシテ聲ヲ停メ。而シテ異香馥郁中天ニ管絃ノ聲アリ、頃刻ニシテ止ム。是ノ如キ一歲中數次。或ハ斷シテ無シ矣、土人之ヲ海青瀾ト謂フ。而シテ海青瀾ハ何ノ義タルヲ知ル者ナシ。余以爲ラク。是レ海青樂ノ訛ナリ。瀾樂國音近シ。蓋シ海青樂ハ、本邦ノ古樂典ノ名ニシテ。一名海山樂、或ハ海仙旋ト稱シ。又タ清和樂ト曰フ。大寶元年。五品藤原恒風ナル者ノ製スル所ト曰フ。後ニ清和帝勅シテ、船樂ニ用フ。承和中帝神泉苑ニ幸シ。此曲ヲ奏サシメ。神仙海中三山ニ遊フノ事ニ擬スルナリ。是ニ由テ之ヲ觀レハ松島ハ古シヘ稱スル所ノ蓬瀛ニシテ。神仙ノ遊息スル所。鈞天廣樂時アリテ人間ニ聞フルモノ、古人之レヲ諸樂曲中ニ事ノ合フモノ、之レニ名ツクルナリ。而シ土人誤リ傳ヘテ遂ニ其ノ義ヲ亡ナフ。今其事ヲ紀シテ世ニ問フ。冀クハ世人ヲシテ此地

ヲ知ラシメン是仙世界ナリ。決シテ塵區凡境ニ非ルナリ若シ或ハ余怪ヲ語ルヲ以テ。罪ヲ名敎ニ獲ルハ。敢テ辭スル所ニアラス。

瑞巖寺

古ハ松島寺ト稱ス仁明帝承和五年。僧慈覺圓仁草創シテ天台宗ヲ開ク所ナリ。後龜山帝文應中。平ノ時頼僧法身ノ爲メニ。身本作心。瑞巖先德設忌拈香偈中。有法身透得之句。故後人因更之。僧無住沙石集僧虎關元享釋書。及常州眞壁傳正寺開山牌銘共作心。再ヒ之ヲ建ツ。革メテ禪刹ト爲シ名ツケテ圓福寺ト曰フ。鎌倉建長圓覺兩寺ニ籍属ス。而シテ名緇英衲相繼キ居ルモノ九十餘世。而シテ法幢穨廢殿宇荒壞セリ。前ノ大守貞山公之ヲ一新シ。更ニ靑龍山瑞巖寺ト名稱シテ京師妙心寺ニ隷ス。蓋シ慶長九年秋八月ヨリ之レヲ經始シ。越テ十三年春三月落成シ。僧海晏之ヲ主トシ。殿宇壯宏。庫。齋。厨。鐘皷樓。門廡。墻垣悉ク具體セリ。凡叢林ノ宜シク有ルヘキ所ハ。備ヘサルナシ蔚乎トシテ東奥禪刹ノ冠タリキ。而シテ佛殿最モ麗ラカニ。壁障金碧爛絢目ヲ眩ス落成ノ日貞山公。親手ラ五鬣松一株ヲ殿前ニ栽ユ。且國風ヲ賦シテ曰ク。一松島ノ松ノ齡ニ此寺ノ末榮ユナン年ハ經ルトモ。一新寺長久ヲ祝シ賜フ矣。海晏寂シ月叟及碧堂ノ諸衲席ヲ紹キ。後ニ義山公。（仙臺藩二世貞公ノ遺命ヲ奉シ。僧雲居ヲ召ス。雲居一タヒ至レハ。叢規整肅鐘鼓魚板響ヲ改ム。義山公貞公ノ遺容ヲ摸刻シ。以テ中殿ニ安シ祝シテ伽藍ヲ護スルノ神ト爲シ。且雲居ヲ以テ中興祖ト爲シ其像ヲ設置ス其他佛像多シ矣中ニ就キ聖觀自在銅像一軀僧空海ノ製スル所。（或ハ云フ天竺佛圓福古來ノ奉スル所ナリ。列刹ハ則チ陽德。天麟。圓通。大童。林泉。映帶シテ羽翼ヲ合匝ス。枝院十有三。共ニ門ノ左右ニ列ス。是レ古圓福ノ老衲。曾テ小菴ヲ卓テ以テ終焉ノ處ト爲スモノ。舊ハ各所ニアリ。瑞巖造成ノ後移シテ玆ニ列建スト云フ。

宗久紀行ニ曰ク。鹽浦ヨリ海ニ沿フテ松島ニ至ル。漁家蜒戸風趣アルモノ多シ。寺アリ圓福寺ト曰フ。是覺滿禪師ノ開興スル所。而シテ僧徒百餘人住ス焉。(覺滿ハ法身六世ノ住ナリ。開興ノ僧ニ非ス。傳聞ノ誤ナリ)。

是レ古ヘ慈覺ガ天台宗ヲ開キ、法身ニ至テ之ヲ改禪ス。其間已ニ四百餘年ノ久シキヲ經タレハ。必ス應ニ緇賢英衲ノ事ノ採ルヘク徵スヘキ者アルハキナリ。然レモ世遠ク事逸シ、考索ニ由シナシ。今法身ヨリ以下今日ニ至ル。傳燈諸衲ノ名ヲ錄シテ以テ。松島事實ノ考證ニ備フ。若シ夫レ諸衲ノ事業ヲ詳カニセント欲セハ。乃チ延寶傳燈錄。本朝高僧傳等。諸書ノ在ルアリ、各其書ニ就テ之ヲ覽ル可キナリ。此書ノ不備ヲ責ム勿レ。

法身 圓福開祖　大覺 二世　義海 三世　覺雄 四世
知覺 五世　覺滿 六世　靈巖 七世　千峯 八世
獨照 九世　明極 十世　西溪 十一世　海山 十二世

大高 十三世　古月 十四世　龍門 十五世　椿谷 十六世
默翁 十七世　鈍夫 十八世　廉溪 十九世　寶山 二十世
決翁 二十一世　高嶽 二十二世　文溪 二十三世　機外 二十四世
天山 二十五世　草堂 二十六世　大林 二十七世　南堂 二十八世
歴山 二十九世　毒林 三十世　大室 三十一世　海翁 三十二世
方遠 三十三世　大雲 三十四世　芳林 三十五世　雪山 三十六世
東巖 三十七世　太雅 三十八世　寰中 三十九世　廣堂 四十世
雪符 四十一世　雪心 四十二世　笑堂 四十三世　月潤 四十四世
不昧 四十五世　篦源 四十六世　高嶽 四十七世　大淳 四十八世
天翁 四十九世　鎌堂 五十世　心宗 五十一世　實存 五十二世
秋江 五十三世　方中 五十四世　性菴 五十五世　茂林 五十六世
古潤 五十七世　寶溪 五十八世　玉雌 五十九世　天祥 六十世
建中 六十一世　陽仲 六十二世　英中 六十三世　定法 六十四世
徹宗 六十五世　東岩 六十六世　章山 六十七世　林翁 六十八世
郁叟 六十九世　金堂 七十世　天祿 七十一世　梅天 七十二世
雪山 七十三世　心月 七十四世　仙桂 七十五世　蘭州 七十六世
祖心 七十七世　天叔 七十八世　別天 七十九世　廣天 八十世

飛雲 八十一世　光嶽 八十二世　雪堂 八十三世　笑峯 八十四世
明室 八十五世　天光 八十六世　如山 八十七世　普天 八十八世
月嶺 八十九世　融嶽 九十世　一峰 九十一世　象山 九十二世
寶堂 九十三世　石門 九十四世　陽巖 九十五世 貞公經始瑞巖也。陽巖當住之日也。將落成年三月寂矣。故其年元旦偈。有淨土移得山門境。方丈花開五百間之句。寂後虛席一年而海晏繼之。
海晏 九十六世　月叟 九十七世　碧堂 九十八世
雲居 瑞巖開祖　洞水 二世　鵬雲 三世　大領 四世
通玄 五世　夢庵 六世　天嶺 七世　石髓 八世
百如 九世　白庭 十世

瑞巖曉鐘八景之一

疎鐘殘月寺。霜氣滿江天。淵滉南溟外。紆餘東海邊。鶴林添露聲。僧窟與禪圓。菱市三竿日。衆漁齎釣鮮。

宿瑞巖寺　南山

江山岑寂擁香臺。玉墻華幢映岸開。日落層巖風兕吼。雲低絕壑雨龍回。傳心不昧然燈色。諭法深慚捨筏才。玄賞須知隣寶所。暫依化壘此裵徊。

同　同

深秋尋淨界。中夜宿中峰。萬象歸孤月。衆聲入茂松。燈傳雙徑室。樓報六時鐘。心境清難寐。高窗露氣濃。

同

山徑紆餘晚轉迷。數聲雲磬識幽栖。清霄驚破天宮夢。杉月當窗老鶴啼。

朝鮮梅

瑞巖寺殿前ニ在リ。紅白二株アリ。貞山公曾テ征韓ノ役ニ得ル所ノ種ニシテ。茲ニ栽ヱシムト云フ。老幹鱗皴瘦枝樛曲。其花千葉一芬五六實。若クハ八九實ヲ結フ初メ花開ク時花心中ニ數小蕋ヲ簇發シ。而シテ香氣尤モ烈ナリ。范石湖梅譜及陳扶搖秘傳花鏡中ニ未タ曾テ載セサル所ナリ實ニ奇品ト稱スヘシ。

無相窟

一ニ法身窟ト曰フ。瑞巖寺門左ニアリ。窟中數十人ヲ座スヘシ。往昔圓福開祖法身ノ趺座スル所ナリ。

法身姓眞壁平四郎ト稱シ。常州猫島ノ人幼ニシテ父母ヲ喪ヒ、長スルニ及ンテ州牧某ニ仕フ。事ヲ爲シ偶マ合ハス。州牧怒リ履ヲ以テ蹴ル。履齒爲メニ折ル。平四郎大ニ之レヲ耻チ。潜カニ其履齒ヲ懐ニシテ去リ。遂ニ禪寺ニ入リテ僧トナリ。名ヲ法身ト更ム。後チニ商船ニ附シテ宋ニ入リ。佛鑑禪師ニ徑山ニ謁シ。居ル九年遂ニ法旨ヲ得テ皈リ。此窟中ニ遁居ス。初メ慈覺ノ此ノ山ヲ開クヤ。其徒相繼テ居ル。僧坊數十宇。後多ク年所ヲ經。坊舍廢壞緇則亦陵夷シ。僧ミナ巖栖穴處シ無頼者多シ。正元文應ノ際。北條時頼微行シテ此ニ至ル。時偶々黃昏徧ク坊舍ニ就テ宿ヲ乞フ。僧徒其禪流ヲ惡ミ。或ハ罵リ或ハ擯ス。時頼傍徨シテ逃レ。遂ニ此窟ニ至リ法身ヲ見テ。相共ニ大ニ喜ヒ。窟中ニ留ル數日。時頼鎌倉ニ皈ルノ後。兵ヲ遣ハシ台徒ヲ追ヒ。寺宇ヲ宏興シ法身ヲ延テ之ニアタラシム。後辭シテ南部洞内ニ隱退シ、山中ニ小宇ヲ營ミ之ヲ松島ニ擬シ。圓福寺ト曰フ。(今改テ法蓮寺ト云フ)。居ル數歳文永癸酉二月朔日此寺ニ於テ化ヲ示ス

元亨釋書ニ曰ク

釋法心壯年ヲ過キテ出家シ文盲ナリ。衲子宋地ノ禪行ヲ稱スルヲ聞キ、商船ニ駕シ臨安ニ入ル、徑ニ徑山ニ上リ。佛鑑禪師ヲ見ル佛鑑圓相中ニ於テ。一丁字ヲ書シテ之ヲ示ス。心席下ニ止マリ單提研究ス。性堅硬ニシテ座禪ニ耐フ。臀骨腫爛シテ撓マサルモノ九年ニ及フ。初メ丁字ヲ持シ心屑シトセス。漸ク歳餘ヲ經テ。席始メテ平穩ヲ得ルト云フ。本朝ニ皈リ松島ニ居リ、終ル七日前徒ニ謂テ曰ク某日ハ當ニ滅ヲ取ルヘシト。然レトモ法心恙ナシ。侍者信ヲ置カス。期ニ至レハ法心齋ヲ罷テ禪床ニ座ス。侍者遺偈ヲ乞フ。即チ喝テ曰ク。來時明々去時明々。是箇何者。止テ將ニ目ヲ閉ントス。侍者曰ク。一句ヲ缺ク望ミラクハ之ヲ足セト。法心聲ニ應シテ喝ト一喝シ泊然ト

シテ化ス。瑞巖先德設忌拈香偈ニ曰ク。遠上ニ徑山ニ分ニ風月。飯開圓福大道場。法身透得無ニ一物ニ元是眞壁平四郎。是未タ何人ノ作ナルヲ詳カニセス。世或ハ以テ法身自作ト爲スモノ誤レリ。

法雲院

瑞巖寺門左ニアリ。以下得住庵ニ至ル共ニ枝院ナリ。土人之ヲ十三塔頭ト謂フ。此庵ハ法心六世僧空巖ノ開基ナリ。空巖名ハ慧覺滿ト號ス。庵前ニ二石アリ。（今佛殿中ニ藏ス）。一ハ長サ五尺幅一尺五寸。一ハ其形三稜長サ三尺餘。相傳フ。空巖一日急呼シテ曰ク。咄々火々ト徒ヲシテ水ヲ二石ニ灌カシム。朝ヨリ日中ニ至ツテ止ム。之ヲ問ヘハ曰ク。徑山災アリ聊カ相救ハン耳ト。後チ二年徑山ヨリ書ヲ以テ之ヲ謝シ。且贈ルニ古鈴ヲ以テス。今瑞巖庫中ニ藏シ一ニ火鈴ト稱ス。其高サ八寸經五寸半。下ニ釁隙アリ土人毎年正月元日。早曉一僧ヲシテ之レヲ鳴ラシ。里中ニ巡行シテ以テ禳災ノ祝ト爲ス。曾テ執事僧適マ醉蹶シテ仆ル。鈴石ニ觸レテ散シ。僧之レヲ捜索シテ得ス。巡行ノ徒即チ呼テ火鈴火鈴ト云フ。釁ハ蓋シ此時ニ生スト。庵中空巖像ヲ藏シ。寧一山其上ニ題シテ曰ク。

超然氣宇不群。盎然和煦如春。早年誤飲ニ蘭溪水ニ。老去自見ニ松島雲ニ。婆和中方便。談管裡驗人。强把ニ虛空ニ描邈。何曾的是渠眞。如何是渠眞。智海機先著ニ眼筋ニ。

右松島圓福空巖慧禪師肖像。小師智海求讃

嘉元癸卯末。圓覺一山一寧

護國庵

法雲庵ノ東ニ在リ。

龍月庵

護國庵ノ東ニアリ。

寶珠庵

龍月庵ノ東ニアリ。舊ハ寶珠崎ニアリ。

圓同庵

寶珠庵ノ東ニアリ。

大光庵

圓同庵ノ東ニアリ扁シテ奚自ト云フ。僧明極ノ署スル所。明極ハ法身十世ノ僧。此庵ノ開祖舊ト大光山ニアリ。

聯芳庵

大光庵ノ東ニ在リ。

青松庵

瑞巖寺門右ニ在リ。法身七世靈巖ノ開基ナリ。靈巖ハ高僧傳ニ見ユ。而シテ松島住寺ノ事跡ヲ闕ク。靈巖曾テ松島八景ヲ撰シ。以テ詩及國風ヲ賦ス。後ニ獅山公別ニ八景ヲ撰シ。京師ノ縉紳名族ニ請テ。國風ヲ賦セシメ。一卷ト爲シ。世ニ行ハル。故ニ靈巖撰フ所ヲ以テ。古八景ト曰フ。獅山公ノ撰フ所ヲ以テ。新八景ト稱ス。

萬松庵

青松庵ノ東ニ在リ。

江月庵

萬松庵ノ東ニ在リ。

傳曲庵

江月庵ノ東ニ在リ。

紹隆庵

傳曲庵ノ東ニ在リ。

得仕庵

紹隆庵ノ東ニ在リ。舊ハ龜子崎ニ在リ。

經堂

瑞巖寺北ニアリ。崖腹ニ傍テ之レヲ建ツ。磴道數十級岩ヲ刻テ之ヲ造ル。元祿中僧通玄ノ營ム所。榜シテ光明藏堂ト云フ。八面廣二十二尺。中央ニ築山卯板一切經典ヲ架シ。架前ニ傳大師及普建普成ノ像ヲ置キ。是所謂輪藏ナルモノ。堂側ニ典藏寮名法輪有リ。

千佛閣

瑞巖寺門北ニ在リ。寛文庚戌ノ年。僧鵬雲之レヲ建

テ。以テ圓空法師製スル所ノ、釋迦坐像ヲ中央ニ安シ。千佛之ヲ繞ル。像ノ長各四寸。藩ノ氣仙郡ノ人淨西ナル者之レヲ作ル、

解脫院

仙佛閣ノ北ニアリ、相傳フ、古ハ醫生眞山玄川ナル者自ラ等身地藏像ヲ彫刻シ。堂ヲ建テ、之ヲ置ク。名ケテ解脫院ト曰フ、構造甚壯麗ニシテ畵棟碧瓦林間ニ照映ス、貞山公嘗テ游覽ノ時、此堂ヲ見左右ニ謂テ曰ク。一介ノ庸醫スラ尙ホ此福田ヲ植ルカト。因テ新タニ瑞巖大伽藍ヲ興サル、ト云フ。院舊ト山王廟側ニ在リ。正德甲午年、僧夢菴徙シテ之レヲ新タニス

陽德院附獨鈷水

瑞巖寺ノ北ニアリ、義山公生母田村夫人ノ爲ニ之ヲ建ツ。院中釋迦・文珠・普賢三像ヲ安ス、蓋シ夫人ハ貞山公ノ配。貞公卒後雲居ヲ師トシテ落飾シ。榮安壽昌尼ト號シ。承應癸酉ノ春卒シ。院後ノ嶺上ニ葬リ。廟ヲ建テ、遺像ヲ安シ。扁シテ法華院ト曰フ。造構甚タ麗ナリ、院後ニ靈泉アリ、獨鈷水ト云フ。古慈覺開山閼伽水ニ乏シ。偶々獨鈷ヲ以テ巖罅ヲ鑿ツ。手ニ隨テ噴出ス。其水甘洌ニシテ最モ茶ニ適ス。且炎暑久旱ト雖モ枯レス。松島ノ水是ヲ第一ト爲ス。而シテ葉山之レニ亞クト云フ。

葉山神祠

陽德院西北山ニアリ、葉山ト云フ、山上神祠アリ、土人之ヲ稱シテ葉山權現ト云フ。祭ル所遠喜津彥命遠喜津姬命ノ二神ナリ。相傳フ。醫生眞山玄川祠シテ之レヲ祭ルト。或ハ曰ク山上常ニ怪異多シ。時ニ或ハ天狗舞ヲ見ルコトアリト云フ。山下淸泉アリ、其水品獨鈷水ニ亞クト。

湯ノ原

瑞巖寺西北山後ニアリ。泉アリ淸潔底ヲ見ル、相傳フ。往昔ハ溫泉ナリト。而シテ平ノ時賴台徒ヲ驅ルノ後チ變シテ水トナルト。今ヤ浴盤熱ヲ用キテ之

レヲ浴ス。能ク諸病ヲ治ス。最モ疥癬ヲ患フルモノ。之レニ浴スレハ輙チ愈ユ。但シ人力ヲ煩ハスヲ以テノ故ニ浴客少シ惜ムヘシ。

正海峰

薬山ノ北ニアリ。峰上壇アリ高サ六尺周圍六丈許。相傳フ。往古天台ノ僧。僧正正海ナルモノヲ葬ル所。峰ノ名モ亦タ之レニ因ルト云フ。

上岡下岡

瑞巖寺北二里許ニアリ。兩岡相並ヒ岡上各神祠アリ。東ニアルヲ東明神。或ハ貴船祠ト稱シ。祭ル所高龗神ナリ。或ハ曰ク。北斗星ヲ祭ルナリ。西ニアルヲ西明神ト曰フ。或ハ加茂祠ト稱ス。祭ル所建津見命別雷命ノ二神ナリ。

三王廟

瑞巖寺西山上ニアリ。石磴百餘級岩ヲ刻ンテ之ヲ作ル。正宮アリ別殿アリ。古慈覺祠シテ鎭地神ト爲スモノナリ。舊ハ天童庵側ニアリ。祠宇荒壞ス。寛永十七年。雲居之レヲ新タニセント欲シ。其地狹隘ナル故ニ。移シテココニ建ツト云フ。毎年四月正月申ノ日祭儀ヲ行フ。

長老坂

山王廟ノ西嶺ニアリ。松島ヨリ仙臺ニ至ルノ道ナリ。坂上ノ東面敞カニシテ。彌望メハ彌無際。海上ノ島嶼ハ近ク膝下ニ在リ。宛然兒孫ノ父祖ニ侍スルカ如シ。道舊山下ニアリ。圓福寺ノ長老惠曉ナルモノ。一度ヒ之レヲ改メ。後ノ長老凉山ナル者。再ヒ今路ニ改ム。故ニ長老坂ト稱ス。或ハ曰ク。僧法身更衣ノ所。故ニ名ク。或ハ曰ク坂上海ニ俯セハ。萬頃一瞬故ニ眺浪坂ト名ツク。是妄浪取ルニ足ラス。坂畔一石アリ。僧形ニ似タリ。土人長老石ト名ツク。是ニ依リテ坂ニ命名スルモノト。又古松樹高サ十餘丈アリ。而シテ半幹以上ハ其葉細ク長ク。半幹以下ハ其葉廣クシテ短カシ。土人之レヲ二葉松ト云フ。

西行戻シノ松

長老坂南舊路傍ニ在リ、其樹老蒼蓊蔚相傳フ僧西行諸州ヲ歷遊シテ此ニ至リ松下ニ憩フ。偶國風ヲ賦シ。自ラ以爲ラク絶唱ナリト。傍ラニ牧童アリ見テ之レヲ笑フ。就テ其賦ヲ飜按シ。別ニ之レヲ詠ス。西行爲メニ愕然。牧童曰ク。松島ハ天下ノ名區。博士才人頗ル多シ矣。其小技ヲ負テ辱シメヲ此ニ貽サンヨリハ。是ヨリ去ルニ如カスト。西行大ニ驚キ倉黄トシテ去レリト。故ニ其松ヲ斯クハ名ツケシト。撰集抄ニ謂フ。西行松島ニ遊ヒ。僧見佛ヲ見テ。彼ノ草庵ニ停ル二月餘。撰集抄ナル者ハ。西行自著スル所ノ書ナリ。而シテ其言此ノ如シ。豈ニ松下ヨリシテ還リ去ンヤト蓋シ說アリ。凡ソ松島ニ遊フモノハ。阪路ハ往々西シテ行ク。步々其勝ヲ顧望シテコヽニ至ル。松下ハ勝景ヲ全ウス。故ニ眷戀竚立。或ハ退步故ニ名クルノミ。夫西行ハ國風ノ巨擘。四方天下ノ奇山水ヲ遊歷シ。多ク其賦詠ヲ留ム。而シテ松島特ニ之レ無シ。故ニ附會此說ヲ爲スナリ。今土人ノ說ク處ヲ覽テ。西行ト牧童ト唱酬ノ國風。鄙俚一笑スヘキナリ。豈ニ西行ノ賦スル所ナラン哉。

五葉庵

山王廟西南ニ在リ。土人櫻岡庵ト稱ス。扁シテ五葉庵ト曰フ。黃檗木庵ノ署スル所ナリ。

藥王廟

長老坂南ニアリ。寛永中僧雲居ノ建ツル所ナリ。廟中藥師銅像ヲ置ク。相傳フ。舊木像アリ。慈覺ノ製作ト云フ。龜首崎ニアリ。崎側ニ古ヘ得仕庵アリ。庵後ニ窟アリ。其像ヲ安ス。嘗テ里中ノ兒童繩ヲ像頸ニ繫ケテ以テ戲レヲ爲ス。路上偶々一老夫アリ。叱責シテ曰ク。汝等知ル無シト雖モ。佛像ヲ輕蔑セリ。其罪豈ニ免レンヤ。因テ之レヲ淨洗シテ再ヒ窟中ニ置ク。其夜老夫ノ妻忽チ病疾煩悶シテ人事ヲ知ラス。急叫シテ曰ク。我ハ是レ藥師佛ナリ。今日我レ之レト遊ヒ甚タ樂メリ。汝何ソ之レヲ叱シテ是レヲ駈ルヤト言訖ツテ忽チ覺ム。聞者奇異トセサルナ

シ。雲居之レヲ聞キ乃チ廟ヲ此ニ建テ、奉ス。後ニ此像盜失ニ罹リ。故ニ今像ヲ置クト云フ。山下八幡廟跡アリ。今移シテ五大堂ニアリ。

圓通院

瑞巖寺南ニ在リ。院ハ要山關公ノ爲メニ之レヲ建テ。洞水ヲ以テ開祖ト爲ス。蓋シ關公ハ。義山公ノ宗子諱ハ光宗卒年僅カニ十九。廟ヲ院後ニ建テ遺像ヲ置ク。像ハ衣冠白馬ニ騎ル。八幡姿ニ擬スルナリ殉死ノ臣八人。其像ノ左右ニ配列シ。八金剛神ニ擬ス。廟下大悲亭アリ。亭ハ舊關公ノ東都藩邸ニアルノ日。納涼ノ亭ニ係ルモノ。舟致シテ此ニ建テ今名ニ更ム。

天麟院

圓通院南ニ在リ。西舘翁主ノ建ル所ナリ。院中釋迦及觀音大士像ヲ置ク。翁主ハ貞公ノ長女。諱ハ寬姫曾テ越後少將源忠輝ニ嫁ス。忠輝罪アリ。信州諏訪ニ謫セラル。翁主仙臺ニ返リテ西舘ニ居ル。故ニ之レヲ西舘ト稱ス。翁主雲居ヲ師トシ洞水ニ參シ。頗ル禪旨ニ通シ。遂ニ落飾シテ全祥尼ト稱シ。萬治戊戌此院ヲ建テ。洞水ヲ開祖ト爲ス。寬文辛丑ノ年卒ス院後ニ葬ムリ。廟ヲ建テ、遺像ヲ安シ。榜シテ定照ト曰フ。

不昧堂附雲居念佛心月庵。

天麟院ノ南ニ在リ。堂中ニ彌陀像ヲ置ク。里人曾テ念佛社ヲ結ヒ。雲居撰フ所ノ往生要歌ヲ唱ヒ。每月六次ヲ會シ。會主ヲ輪番ト爲ス。會主他故アレハ。廢會多シ。寬文壬寅ノ年。相議シテ堂ヲ建テ、以テ道場ト爲ス。堂モト天童庵前ニ在リ。而シテ海上ノ眺望ヲ礙ク。遊者之レヲ病フ。故ニ元祿中コヽニ移ス。而シテ會社綿々今ニ至ルト云フ。蓋シ雲居撰フ所ノ往生要歌ハ。歌數百八分ツテ三段ト爲シ。每段首尾ニ歎佛回向唱歌一首アリ。先ツ彌陀佛ヲ稱スル六遍。而シテ百八歌中。彌陀佛ヲ稱スル。凡ソ六百四十遍一人ノ音頭高唱シテ。衆之レニ應和ス。其聲哀

然聞者感發ス。士人之レヲシテ雲居念佛ト云フ。雲居嘗テ此レヲ撰ヒ。其尾ニ題シテ曰ク。攪吟煉詠作ニ還丹。百八　歌一粒丸。直豁開金剛青眼。點來三界與レ人看。

三聖堂

圓通院ノ南ニアリ。堂中ニ觀音大士ノ像ヲ置キ。左ニ少林祖像ヲ。右ニ菅公像ヲ置ク。舊ハ特ニ大士ノミ安シテ。觀音堂ト稱セリ。天和辛酉ノ年鵬雲。之レヲ新構シテ。左右像ヲ置キ更ニ三聖堂ト稱ス。點眼偈アリ。曰ク。

一點々開三聖眼。德由品字不ニ曾揀。黃梅嫩桂或荷木。本是無生國裡產

相傳フ。大士像ハ。慈覺ノ彫刻スル所ナリ。或ハ僧都惠心ノ作ト爲ス者ハ非ナリ。蜂屋定國ナル者ノ信奉スル所ナリ。定國ハ濃州ノ貴族ニシテ。子孫民間ニ下リ。無貲ニシテ堂宇ヲ修メントス。故ニ本像ヲ負テ遍ネク化緣ヲ募ル。適々此地ニ來リ山水ノ美ヲ愛シ。留滯數日。而シテ自ラ奉スル所ノ尊像ハ。慈覺ノ彫刻スル所ニシテ。此地モ亦タ慈覺ノ開ク所以ヲ奇遇ト爲ス。因テ小宇ヲ結テ之レヲ安シ。亦タ隨テ其側ラニ家シ。留ツテ皈ラス。故ニ里中今尚ホ姓蜂屋ナル者多シ。蓋シ其子孫ナリト云フ。

軒端梅

三聖堂畔ニ在リ。古ノ觀音堂是ナリ。傳ニ曰ク。昔邑民掃部ナル者アリ。觀音堂畔ニ家シ。資産頗ル富ミ一子無ク妻ト共ニ大士ニ祈リ一子ヲ生ム　名ツケテ小太郎ト稱ス。幼ニシテ穎悟他戯ヲ爲サス。常ニ大士ニ奉ス。嘗テ大士堂下ニ就テ梅樹一株ヲ植ウ。是所レ謂軒端梅ナリ。太郎年甫メテ十五丰采風流ニシテ僻鄉鄙人ニ似サルナリ。掃部以爲ラク大士ノ賜フ所ナリ。尚クハ之レカ爲メニ壽アラント。上國ニ赴キ諸靈區ニ祈ル。路ニシテ出羽象潟ノ客ニ遇フ。意氣相得テ故人ノ如シ。長途與ニ俱ニ還ル。而シテ白川驛ニ至ル。是レ即チ奧羽ノ岐路ナリ。將ニ相

辭セントシテ。離觴ヲ稱ク。羽州客ノ曰ク吾ニ一女アリ。君ノ令郎ト年相若シ。而シテ未タ嫁セス。少シク容色アリ。望ミラクハ令郎ニ配シ。以テ箕箒ヲ執ラシメヨト。掃部大ニ喜ヒ。固ク約シテ別ル。家ニ皈レハ太郎已ニ病死ス。夫妻相持シ哭泣悲傷。未タ象潟ニ赴クニ及ハス。而シテ象潟ヨリ女已ニ至ル。夫妻益悲傷。女ヲシテ還テ改メ嫁セシメントス。女哀恨肯ンセス。之レヲ强レハ則チ自經セント欲ス。之レヲ如何トモス可カラス。女ノ意ニ任カス。女ハ奉養至孝居ル數年。夫妻相尋テ死ス。女ハ世ノ無常ヲ感シ。逝者ノ爲メニ冥福ヲ祈ラント尼ト爲リ。名ヲ紅蓮ト曰フ。庵ヲ結ヒテ居ル。適マ觀音堂下ノ梅ヲ見。夫ノ遺愛ヲ憶ヒ。遺恨ヲ其樹ニ托シ。國風ヲ賦シテ曰ク。

植置シ花ノ主ハ果無キニ軒端ノ梅ハ咲ストモ有レ

是ヨリ後花ヲ見ス。尼悽愴ニ堪ヘス。復タ賦シテ曰ク。

咲カシナ今ヤ主ト詠ム可シ軒端ノ梅ノ有ラン限ハ

其年花ノ開ク故ノ如シト云フ。是レ明初卞氏枯枝牡丹ノ事ト絕タ相類セリ。亦タ松島ノ一佳話ナリ。後ニ尼煎餅ヲ製シテ之ヲ鬻キ。以テ衣食ニ給ス。此地今尙煎餅ヲ以テ名產ト爲ス。而シテ尼始メテ之レヲ製スルノ故ヲ以テ。紅蓮煎餅ト稱シ。或ハタタ紅蓮ト稱セリ。而シテ常ニ之レヲ鬻カス秋冬ヨリ暮春ニ至ルマテ。軒端梅花ノ開落ヲ以テ度ト爲シ。以テ尼ノ淸操ヲ追慕スルナリ。凡ソ梅花ノ際遊テ皈ル者。相餽遺セサル者ナシ。或ハ相傳テ曰ク。梅樹老幹蒼蘚。要スルニ二三百年外ノ物。而シテ寬文中ニ至テ枯ル。今ノ樹ハ則好事者ノ之レヲ植ルモノ。而シテ今ヲ距ル百五六十年ト云フ。

鹽松勝譜卷之三畢

鹽松勝譜卷之四

松島部下目錄

五大堂　松島橋　八幡神祠
天童庵　天童宮千代墓　鳴瀬浦
箙崎　寶珠崎　通舸崎 附御舟藏
龍首崎　呼子崎　觀月磯
觀覽亭　笘屋汀　梅浦
一華庵　竹浦　法性院
象鼻巖　靑春磯　小松崎
渡月橋　雄島　坐禪堂
松吟庵　骨堂　賴賢碑
屏風島　福浦嶋　毒龍庵
德浦島　經ヶ島　格庵島
仙冠　旭日島 附天女祠
彩耥島　翁島　烏羽島
鷺島　般若島　九野島
雙子島 附雪島。藤島。湯島。麻衣島。筐石島。渚左島。
毘沙門島　朱烏島　霞浦
落雁峯　腕島　長鯨島
伊保島　布袋島　大黑島
華島　鹿子島　鷗島
夷島　錦浦　鶴崎
鞍掛島　大島　小町島
伊勢島　扇谿　海無量寺
鈴浦　梅崎　貝島
兜鍪島　鐙島　箕輪島
化粧島　舞島　濱田
都島

畢

鹽松勝譜卷之四

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

松島部下

此篇ニ載スル所。松島沿海ノ地ハ五大堂。觀月磯雄島ノ諸區ヨリ。南ハ扇谿。濱田。鹽浦ノ界ニ至ル而シテ海中ノ島嶼亦各其區々ニ近邇スルヲ以テ。諸ヲ其區々ノ次ニ載ス。凡ソ此地ニ遊フ者。首メ松島ヨリスル者ハ宜シク此篇ノ次第ヲ以テ。鹽浦ノ境ニ及フヘク。若シ又首メ鹽浦ヨリスルトキハ。宜シク篇末ヨリ之レヲ倒閲スヘキナリ其鹽浦ノ篇ニ於ケルモ亦タ然リ。覽者更互之レヲ詳ニセヨ。

五大堂

松島ノ左邊ニ二小島アリ。雙橋ヲ架シテ以テ陸ニ接ス。是レ五大堂ナリ。古ハ之レヲ觀月崎ト稱ス。今ハ龜首崎ヲ指シテ觀月磯ト名ツク。蓋シ松島ノ地形。雄島ヲ以テ右殿トナシ。此所ヲ以テ左殿ト爲ス。而シテ此島ハ勝ノ最モ左ナル者ニシテ。老松數株天橋遊龍ノ如ク。枝葉倒シマニ垂レテ嶮崖ヲ蔽フ。五大堂ハ人皇五十代桓武帝。延暦貳拾年坂上將軍利仁。東夷ヲ征シテ皈路。此ヲ過キ而シテ此堂ヲ建テ、以テ。多門ノ像ヲ置キ。號シテ毘沙門堂ト曰フ。像ハ後チ飛ヒ去ルト云フ事ハ。後ノ毘沙門島ノ條下ニ在リ。後慈覺開山ノ日。五大明王及ヒ不動矜羯羅。制陀迦ノ像ヲ製シ。以テ之ヲ安置ス因テ遂ニ五大堂ト名ツク。慶長五年關ケ原ノ役上杉景勝石田三成ニ與シ將ニ神祖ノ後ヲ襲ハントス。於是神祖貞山公ヲシテ其蹤ヲ躡セシム。公兵ヲ引テ先ツ白石城ヲ攻メテ之レヲ下シ。益進ンテ虜略ス。景勝遂ニ西スルヲ得ス。神祖後顧ノ患無クシテ。全勝ヲ得ルモノハ。公ノ力ナリ。初メ公發スルニ望ミ。五大尊ヲ夢ム。軍遂ニ勝利ヲ得以テ神助ト爲シ。

爲メニ此堂ヲ新ニス。後チ義山公洪鐘ヲ鑄樓ヲ建テ之ヲ懸ケ。僧雲居銘ヲ作リ。恒一之レヲ書ス。蓋シ恒一ハ明人。姓ハ林名ハ天澤。亂ヲ避ケテ我國ニ皈化スル者ナリ。或ハ曰ク。昔奥羽太守秀衡ノ五子。此ニ同盟シテ載書ヲ藏スト云フ。堂ノ前簷ニ鰐口ヲ懸ク。銘ニ曰ク。乾元元年正月十一日。草壁入道勸進五郎。爲二武運長久一。

松島橋

五大堂ニ架スルノ橋ナリ。其横板ヲ斷續シ。渉ル者爲ニ悸ヲ發ス一ニ洗橋ト稱シ。又渡江橋ト曰フ。戸部忠敬國風紫藤花ナル者是ナリ。余曾テ此ニ遊フ、一老嫗アリ頗ル松島ノ古事ヲ諳シ。談ヲ善クシテ曰ク。嫗ノ少時古藤尚ホ存ス。相傳テ以テ古人賦スル所ノ藤トナスナリ。然ルニ天童庵ノ僧某。秋後落葉灑掃ノ勞ヲ厭ヒテ。之レヲ剪伐ス。嫗初メ彼ノ僧ヲ敬シテ。常ニ菜蔬ヲ供セシカ。藤ヲ伐ルノ後ハ之レヲ絶チシト云フ。余因テ曰ク。昔僧元覺荊州陟屺寺ニ住ス。張璪古松ヲ壽壁ニ畫キ載之レニ贊シ。衛象之レニ詩シ、時ニ之レヲ三絶ト稱ス。而シテ覺悉ク之レニ塗ス。人其故ヲ問フ。曰ク無事吾壁ニ疥スル也ト。是レ禪僧ノ情態ニシテ。天童庵僧モ亦偶然ノミ。而シテ老嫗名蹟ヲ壞フルヲ惡ミテ之レト絶ス亦タ風流ノ事ト謂ツヘキナリ。世或ハ雄島ニ架スル處ノ渡月橋ヲ以テ。松島橋ト爲スモノ誤ナリ。

八幡神祠

五大堂二橋間ニ在リ。此松島ノ神祠佛閣中ノ最モ古キモノナリ。原ハ藥王廟ノ下ニ在リ。(世八幡崎ト稱ス。)寛永中此ニ徙ス。或ハ 推古帝廿五年。勅シテ廟ヲ此ニ置ク。(原本虫喰)後田村將軍(原本虫喰)多賀城ニアルノ日。之レヲ城ノ東南數里。八幡村ニ移シ。而シテ廟宇今ニ至テ猶儼然タリト。之レ或ハ然ラン。類聚國史ニ曰ク(畿外奉勅宮社部)舒明天皇。三年七月。陸奥宮城郡松島八幡奉勅使(早良連惟保)時疫ス、 舒明天皇三年ハ今文政四年ヲ距ル。

千貳百十八年ナリ。

天童庵

五大堂ノ西北ニアリ。庵中千手大士像ヲ置ク。此レ常流居士ナルモノノ寄スル所タリ。此所古二小寺アリ。而シテ一ハ觀月崎房ト曰ヒ。一ハ汀房ト曰フ。里人之レヲ二寺ト稱ス。天台ノ徒ヲ逐テ後チ密僧居ル。共ニ五大堂祭祀ノ事ヲ主トル。後チ寺ハ廢滅ス。僧濟舟ナル者アリ。其舊趾ニ就テ小庵ヲ建テ。其地天童ノ遺趾ナルヲ以テ。故ニ名ツケテ天童庵ト曰フ。貞享貳年。鵬雲其基趾ヲ廣メテ。以テ終焉ノ處トナスナリ。庵ハ東北海上ヲ矚シテ。松島ノ見サル處ヲ見ル。奇景異趣別ニ是レ一壺ノ天地ナリ。

寄居天童庵　賀献之

横江太白一峯青。無限潮音日夜聽。玉洞長停童子偈。金壇纔誦法王經。曠亭雨過烟侵浦。松嶼雲晴月落庭。應是三摩觀水地。枕頭欸乃睡初醒。

其二

江花江月俯禪扃。不料萍踪暫此停。地淨自宜移杖錫。境幽殊欲養芝苓。雲山久許眞山氣。滄海遙看處士星。我輩生涯誇濟勝。寧論短髮苦飄零。

天童宮千代墓

天童庵ノ西北隅ニ在リ。相傳フ。故此所ニ二小寺アリ。寺ニ一兒アリ。名ハ宮千代。是レ太白星ノ化スル所。容貌婉孌性敏慧ニシテ兒戲ヲ好マス。葷羶ヲ食ハス。好ンテ和歌ヲ賦ス。時ニ見佛雄島ニ居ス。兒常ニ隨テ法華經ヲ誦シ。聲韻清亮環珮鳴ルカ如シ。居ル數年見佛寂ス。兒亦タ尋テ死ス。此ニ葬ル。後チ人其墓ヲ過ル每ニ。墓中人語アルヲ聞ク。就テ之レヲ審ニスレハ。則チ和歌ノ前聯ヲ吟スルナリ。吟シ終テ長吁ス。其聲甚タ哀シ。聞ク者或ハ悲ミ或ハ怖ル。松島寺ニ僧徹翁ナルモノアリ。之レヲ弔祭シ。且ツ其下聯ヲ補足ス。其後吟熄ム。後チ二寺ノ僧。其事ヲ奇異トシ。其墓ヲ雄島見佛ノ遺蹤ニ徙サント欲シ。彼等之ヲ見ルニ唯一雙屐アルノミナリ。遂ニ其事

ヲ止ムト云フ。或ハ曰フ。宮千代ノ墓ハ宮城郡尼寺ノ西北隅ニアリト。是レ二寺尼寺音相近キカ故ニ謬ルナラン乎。

鳴瀬浦

天童庵ノ北ニアリ

箙　崎

鳴瀬浦ノ北ニアリ。其形矢箙ニ似タルヲ以テ之ヲ名ツク。

寶珠庵

箙崎ノ北ニアリ。昔寺アリ、寶珠庵ト曰フ。此寺ヲ瑞巖寺門側ニ移ス。是レ拾參枝院ノ一ニシテ。此地其名ヲ存ス。

通舸崎　附御舟藏

寶珠崎ノ東北ニアリ。一ニ津崎ニ作ル。或ハ巣崎ト云ヒ。巣ハ又須ニ作ル。崎上ニ　公ノ御舟ヲ藏ス。里人之レヲ御舟藏ト稱ス。

龍首崎

通舸崎ノ東北ニアリ。崎形龍首ニ似タルヲ以テ之レヲ名ツク。或ハ蛇崎ニ作ル　崎上ニ松島明神ノ廟趾アリ。廟ハ今高城驛ノ西ニ移シ。土人其廟趾ニ就キ、祠ヲ建テ祀シテ梨木明神ト稱ス。（崎ノ北ハ即チ高城川ニシテ。松島ノ地此ヲ以テ北界トナス。）

呼子崎

龍首崎ノ北ニアリ。一ニ呼聲崎ニ作ル。

觀月崎

古ハ之レヲ龜首崎ト曰フ。蓋シ松島ノ地之レヲ龜形ニ比シ。雄島五大堂ヲ以テ、左右ノ手ト爲シ、而シテ此磯ハ首ニ當ル、故ニ名ツク。或ハ松島ヲ以テ蓬瀛ト爲セハ。則チ龜背ニアルカ如ク然リ。則チ右ノ命名旨アル哉。或ハ曰ク。觀月ト名ツク者ハ。之レヲ望ムニ前後磯ハ。月ノ出ノ光ヲ受クル最モ先ナリ。故ニ名ツク、磯上ノ觀亦松島ノ首ナリ。故ニ貞山公渚宮ヲ其上ニ構フ。

觀月亭

観月崎上ニアリ。石壁ニ跨テ之ヲ構フ。公ノ渚宮ナリ二區アリ。一ハ観瀾亭ト曰ヒ。文山氏ノ署スル所ナリ。一ハ雨奇晴好ト曰ヒ獅山公ノ蹟ナリ。亭ハ舊ト豐太閤伏水ノ行殿ナリ。豐太閤之レヲ以テ貞山公ニ賜フ。公舶致シテ以テ之レヲ建ツ。舊態完全シテ一ヲ失ハス。而シテ今ヲ距ル貳百年。障壁金ヲ貼シ丹碧新ナルカ如シ。

観瀾亭數日前公遊此。　南山

大國風流苑囿傳。千松洲潤渺蒼烟。青螺遙辨雲中島。白月晴低波外天。壽鶴猶浮遊豫後。文鱗牲躍檻階邊。庶民爭說羽旄美。劇覽同臨海色前。

苫屋汀

観月磯ノ南ニ在リ。二品藤原俊成賦スル所ノ國風。所謂「立皈リ又モ來テ見ム松島ヤ雄島ノ苫屋浪ニ荒スナ」ナル者ハ。此所ヲ謂フナリ。或ハ波荒灣ト曰ヒ。或ハ廬屋渚トモ曰フ。

梅浦

苫屋汀ノ西ニ在リ。昔旭日島上梅樹數百株アリ。之ヲ梅浦ト稱ス。後悉ク枯ル矣鵬雲勝ノ徵ナキヲ惜ミ別ニ此所ニ植テ之レヲ梅浦ト稱ス毎春初メテ花ヲ放ケハ。香霧霏々十餘里ニ瀰漫ス。遠ク之レヲ望メハ。皓白殘雪ノ枝頭ニアルカ如シ。亦松島ノ一奇觀ナリ。

梅浦早春八景之一

梅浦一枝春。早機深雪津。傍磯疎影瘦。含暖暗香新。月照羅浮夢。花餘隴驛眞。江橋多落盡。漁笛若騷人。

一華庵

梅浦ニ在リ庵ハ舊ト扇谿ニアリ。雲臥ト名ツク。僧雲居ノ建ル所ナリ。後チ名ヲ慈光院ト改ム。古僧會通ナル者。之ニ居ス。會通姓ハ田中。嘗テ義山公ニ事ヘ罪アリ。遁レテ僧ト爲ル。後チ義山公ノ薨スルヲ聞キ。自裁シテ死ス。肯山公其死ヲ憐ミ。鵬雲ヲシテ庵ヲ此ニ徙サシム。其新版ヲ置キ名ヲ一華ト更ム。

竹浦

梅浦ノ西南ニ在リ。或ハ幽篁浦ト云フ。其地幽閑實ニ此君根ヲ托スヘキノ地ナリ。

竹浦夜雨八景ノ一

一夜千竿雨。砂汀蕭颯寒。漁燈害短焔。釣笛促淒酸。松㟁湘琴怨。蘭鳴楚佩難。曉光烟竹浦。餘滴灑琅玕。

遊竹浦

經盡翠嵐裡。秋風竹浦濤。江波微雨歇。山樹晩蟬鳴。寺與塵寰隔。人尋幽處行。壯遊知幾日。眞得薜蘿情。

法性院

竹浦ニアリ。公族藤田氏ノ女鐺子ノ建ル所タリ。鐺子雲居ヲ師トシ。尼ト爲リテ此ニ居ス。故ニ士人或ハ尼寺ト稱ス。

象鼻巖

竹浦法性院ノ門南ニアリ。巖形象ノ鼻ニ似タリ。故ニ名ツク。

青春礒

象鼻巖ノ南方ニアリ。

怚僧松

青春礒ノ南ニアリ。偃蓋徑上ヲ覆フ。昔僧雲居瑞巖寺ニ住スルノ日雄島ノ幽寂ヲ愛シ。常ニ來リ趺座ス。而シテ往來ニハ此樹下ヲ過ク。里中ノ少年相謀リ。戲ニ之レヲ怚サント欲ス。乃チ夜潜カニ樹上ニ在リ。雲居ノ過クルヲ待テ。其頭ヲ攝ム。雲居隨テ杖ヲ停メ。其然覺ラサルカ如シ。立ツコト久フシテ。手倦ンテ之レヲ釋ク。雲居徐行シテ顧ミス。彼ノ少年大ニ興ヲ失ス。後チ人ヲシテ之レヲ問ハシム。答テ曰ク。頭ヲ攝ミ之レヲ久フシ其手漸ク熱シ。豈少壯人ニ非ル無キヲ得ンヤト。士人因テ其樹ヲ目シテ怚僧松ト謂フ。相傳フ。雲居常ニ雄島ニ入リ安禪自適シ。或ハ一鉢日ヲ並セテ食シ。或ハ食セサル旬日ヲ歷。晝夜睡眠セス。更ニ寒暑ヲ忘ル。動モスレハ輙チ冥ス。衆來リ參シ救ヲ乞ヘハ則チ戒文ヲ授ケ。或ハ偈ヲ示ス。天堂地獄ハ他土ナラス。都テ人心善惡中ニアリ等ノ句アリ。而シテ愼ンテ人ト語ラス。諸方

之レヲ尊ンテ以テ見佛ノ再生ト爲ス。或曰ク。雄島路傍上ノ樹間、碑碣卒堵波累々相列シ。多クハ的倒シテ往來ヲ妨ク。一日雲居沙彌ヲシテ、之レヲ掃除セシム。其夜鬼女アリ。雲居ノ坐前ニ立テ曰ク、我ハ是石州某氏ノ女ナリ。汝何ソ我佛體ヲ傷ツク乎。雲居其由ヲ覺ラス。乃チ目ヲ閉チテ默座ス。明ルニ逮ンテ。昨日沙彌誤テ一碑ヲ毀ツヲ知ル。乃チ偈ヲ説テ之レヲ弔ス、或曰ク。是レ僧洞水ノ事。雲居ニアラサルナリ。而シテ雲居ノ行狀世ノ口碑ニアル甚タ多シ。今松樹ヲ紀スルノ次因テ僅カニ一二ヲ擧ク。

小松崎

青春磯ノ南ニアリ。竹浦ヨリ此ニ至ル。右ハ峭壁左ハ曲灣。崚路屈曲愛スヘシ。崎ノ盡クル所ヲ渡月橋ト爲ス。

渡月橋

小松崎ヨリ雄島ニ渉ルノ橋。窄クシテ下深ク。俯瞰目ヲ眩ス、相傳フ。僧見佛道ヲ雄島ニ修ムル十二年。此橋ヲ過キスト。

雄島

或ハ御島ト稱シ、又千松島ト曰フ。一ニ小島ニ作ル。崩崖峭壁古松鬱蒼。眞仙ノ遊息スル所、百靈ノ鍾集スル所。一タヒ此ニ渉レハ。眼目ノ塵心舌ノ垢盥滌ヲ待タスシテ除ス、東南海ノ州嶼一瞬遺ス所無シ。松島中最モ奇勝最幽寂ノ所。鳥羽帝文治中。僧見佛道ヲ此ニ修ム、道聲上聞シ。帝佛像寶器及御衣ヲ賜フ。故ニ土人之レヲ御島ト稱ス、蓋シ之レヲ尊フナリ、或ハ曰ク、昔慈覺開山ノ日。松樹千株ヲ以テ此ニ栽ヱ。以テ法鎭ノ標ト爲ス、故ニ千松島ト名ツク、或ハ曰ク、先代舊事本紀ニ曰ク。陸奥ニ至リ松島ヲ見ル。又海中ニ奇島アリ。往昔日本武尊此島ニ至ル、國首國民之ヲ宗ンテ御島ト言フ。上宮太子ノ國風ニ曰ク「松島哉御島者不見止日標方之月之都之外于尋者」彼ノ書ノ妄ハ前卷已ニ云々ス今復贅セス。島上ニ坐禪堂アリ。骨堂アリ。松吟庵アリ。而シテ古

碑累積。其最モ古クシテ隆ナル者ハ、頼賢ノ碑ナリ。

雄島夕照八景之一

雄島一洲秋。沉々返照幽。斜餘江水寂。繞射海邊愁。柳縣漁罾曝。松村暮靄浮。黄昏人不見。沙岸對閑鷗

坐禪堂

雄島ニアリ。寛永中雲居ノ建ル所ニシテ。一名把不住軒ト謂フ。昔僧見佛ノ趺座スル處ナリ。雲居瑞巌寺ニ住スルノ日。常ニ來テ此ニ寂坐シ。且見佛ノ道行ヲ追慕シ。其遺跡ニ就テ堂ヲ建テ。扁メ把不住軒ト曰フ。元亨釋書ニ曰ク。見佛上人松島ニアリ。草ヲ結ンテ居ス。精勤苦練十有二年。其間法華ヲ誦スルコト六萬部ニ滿ツ。其後數ヲ計ラス。專心持誦ス。世謂フ。既ニ六根ヲ淨シ鬼物ヲ使役シ。屢々靈應ヲ顯ハス。天仁帝(是レ鳥羽帝ノ誤ナラン)。道譽ヲ聞キ特ニ佛像寶器ヲ賜ヒ。以テ之レヲ旌異ス。新後撰ニ曰ク。宇都宮公綱ナル者アリ。彌三郎ト稱ス後僧トナリ蓮生ト名ツク。適マ東遊シテ松島ニ到リ。見佛ニ見エ法旨ヲ問フ。別ニ臨ンテ見佛國風ヲ賦シテ之ニ贈ル。撰集抄ニ曰ク。西行能州稻津ニ遊ヒ。巖窟中ニ於テ見佛ニ遇フ。國風ヲ賦シテ相唱酬ス。後チ其德ヲ欽シ眷戀止マス。遂ニ松島ニ到リ之ヲ見ル。彼ノ巖房ニ留ル殆ント二月ハカリ相傳フ。源右府頼朝ノ夫人平氏。曾テ右將ノ崇奉スル所ノ佛舍利二顆ヲ以テ之レヲ見佛ニ送リ。副フルニ手書ヲ以テス而シテ佛舍利及書ハ今瑞巖寺ノ庫中ニ藏ス。

松吟庵

坐禪堂ノ東數十歩ニアリ。寛文中。僧洞水ノ建ル所ナリ。昔庵アリ。妙覺ト曰フ。見佛ノ後僧頼賢ナル者居ス後チ廢ス。洞水見佛ノ遺蹤ヲ追念シ。其舊趾ニ就テ之ヲ建ツ。乃チ詩ヲ題シテ曰ク。

常掛壁間禪定箴。心如明月月如心。夜深風冷江山靜。唯聽古松一樣吟。

因テ松吟庵ト名ツク。庵中不動ノ像ヲ置ク。相州大山ノ像ニ擬製スルモノニシテ。威容嚴肅僧鵬雲ノ

奉スル所ナリト云フ。元亨釋書延朗傳ニ曰ク、朗奥州松島ニ至リ、一古寺ニ宿ス。廢頽甚シ。又人無フシテ清淨ナリ。且里人珍膳ヲ捧シテ至ル。其故ヲ問フ。對テ曰ク。昨夜夢ム。或ハ告テ曰ク。貴人廢寺ニ寓ス。予等盍ソ餉セサルト。故ニ來リ獻ズルノミ。相傳フ。此廢寺ハ妙覺庵ナリト。宗久紀行ニ曰ク。雄島上ニ寺アリ。來迎彌陀三尊及地藏ノ像ヲ置クト。此又妙覺庵ヲ指スト云フ。余曰ク。其佛像ハ疑フラクハ是レ島羽帝ノ見佛ニ賜フ所ニシテ。今何處ニ在ルヲ知ラス。

骨堂

座僧堂南ニアリ。深壙アリ。古來死者ノ毛髪遺骨ヲ藏スル所ニシテ。慶安年中洞水再ヒ之レヲ修メ。銘記ヲ作ル。宗久紀行ニ曰ク。雄島ノ南畔松樹鬱茂。傍ニ亡人ノ遺骨剃髪ヲ藏收スルノ所アリテ。人ヲシテ悽愴タラシム。因テ數日此ニ留ル。

賴賢碑

坐禪堂ノ南ニアリ、蓋シ賴賢ハ。弘安德治間此ニ住シ。觀鏡房ト稱スルモノ。其徒鎌倉建長寺主元僧寧一山ニ請フテ。其師ノ行狀ヲ撰セシメ。並書シテ此ニ建ルモノニシテ、碑ノ高サ一丈。廣サ三尺六寸五分。四周雷文上標ニ雙龍ヲ彫シ。龍上ニ梵文アリ。其左右ニ。奥州妙覺庵賴賢庵主碑銘並序ノ十三字。楷書ノ序ヲ勒ス。銘ハ則チ獨リ草字凡六百四拾三。書ハ大王ニ出ツ。老硬觀ルヘシ。

碑銘

巨福山建長禪寺住山唐僧一山一寧撰

德治丙午冬。予再居福山一。丁未冬有二僧匡心孤雲來、禮謁云。來レ自二奥州一。手二其師行實一通一。炷香禮足。請レ予曰。我郷奥州有二松島一。其側有二御島一。有レ庵曰二妙覺一。乃曩歳見佛上人來結レ茆而居。見佛清苦精進。身淸嚴口緘默日誦二法華經一。先十二年。中已滿二六萬部一。後至二八十二一入滅。厥後所レ誦。又不レ可二以レ數計一也。六根既淨。能役二使神物一。靈異頗多。道乃遍布二聲聞一朝野一。適

烏羽院當宇賜本尊器物、以旗異之。其島本名千松島。以見佛承御賜之故、時人乃易今名。凡松島左右、列島僅百數。獨此島名最揚。蓋由見佛之故也。吾之師、名頼賢、號觀鏡房、生於本州源氏。幼而端愿。父母俾出家。乃依長崎成福寺、爲童子。十五薙髮。而學天台及眞言。敎于講席久之。忽自悟謂文字之學、非出世法。至年四十二、今圓覺無隱範和尚住松島圓福寺。往依之居弟子列。復遊方參學、于東福。大覺于建長。佛源于壽福。孜々請扣、法無異味。仍回圓福。將終老焉。無隱遷相州淨妙。空巖慧和尚繼席。適此庵。乏主者。空巖乃擧師以補之。既居歷年、光大振興。凡法社之未完者、咸修備之。口誦法華。心住禪寂。廿二年、影不出山。鬱爲叢社。四衆攸歸。人謂見佛上人再生也。矧其天性慈和。略無畛畦。待物如一。淸濟安恬。精勤不怠。誠末法化物之儀軌也。世壽今八拾二、僧臘六十七。居處如平居。時度弟子三十餘人。匡心孤運等。以師之德之功、不著于後。我之責也。相與議立卒堵波、以紀之。敢求數語以信于後。予聽其語、又覽其詞。因思古之立道場振法門者、率由是道。賢師其由是道乎。賛寧師作僧傳、有興福一科。師其在斯科乎、旣有補於法門。故爲銘之。銘曰

人雖德馨。地由人與。御島之庵、見佛始營。賢師後居。乃臻厥成。淸明勝靜、開迷醒醉。慈善根力。克享修齡。弟子樹茲窣堵波。波紀其德行。予爲銘。

是歲三月十五日書。小師三十餘人匡心孤雲同立石。

題賴賢碑銘　　高玄岱

菩鎖雲封四百年。屹然如岸立無遷。賢師達觀天開鏡、妙覺空華口吐蓮。一字一鐫功用普。隨形隨摹筆端圓。誰敎巧奪神工手。直把老仙面目傳

屏風島

雄島ノ北竹浦ノ前ニ在リ。島ノ四邊ハ峭壁翠松偃

塞上ヨリ垂ル。宛然一畫屛風ナリ。

福浦島

五大堂ノ東南ニアリ。東邊ハ則チ茂林。西北ハ則チ修竹千個。密翠團欒其竹光滑ラカニシテ。器具ニ作リ其用最モ廣ク。最モ花器ニ適シ。水久フシテ壞レス又凋レス。花色亦鮮明開ク速カニシテ謝スル遲シ。多ク器ニ就テ實ヲ結フ。又一種アリ堅實中心ナシ。歴年蛀セス。土人用ヒテ刀眼ニ釘シ。土人多ク茶筅ヲ製シ。且ツ其ノ枝ヲ以テ箸ヲ作ル。共ニ此地ノ名産ト爲スナリ。

毒龍庵

福浦島ニアリ。寛永中。僧甫叟ナル者之レヲ建テ。洞水ニ請フテ開祖ト爲ス。庵中ニ智證大師製スル所ノ不動ノ像ヲ置ク。是レ古天台徒ノ崇奉スル所ナリ。又古笈ヲ藏ス。笈高サ三尺横一尺八寸。四面佛像及ヒ雲紋ヲ彫シ。中ニ一架アリ。架上ニ妙音天女。及ヒ十六童子ノ像ヲ安ス。像各三寸許製造巧妙ナリ。相傳フ。像及笈ハ。共ニ僧辨慶ノ奉スル所ナリ。文治中。源義經兄右將ト隙アリ。間關都ヲ出ツ。其臣辨慶等拾三人。假裝シテ道士ト爲リ。北陸ヲ經テ來テ秀衡ニ依ル。是レ其時負フ所ナリト云フ。庵ノ後ニ熊野神祠ノ蹟アリ。隆然墳ヲナスモノ三。昔法身ノ圓福寺ヲ開クヤ。天台ノ徒逃レテ此ニ在リ。深ク平時頼ヲ恨ミ。此神ニ請フテ以テ呪詛ス。故ニ土人之レヲ調伏墳ト云フ。庵前ニ一石アリ。彫シテ坐禪石ト曰フ。嘗テ洞水此島ノ幽邃ヲ愛シ。常ニ來テ此石上ニ趺坐ス。故ニ名ツク。

德浦島

福浦島ノ東ニアリ。舊名ハ戸倉一ニ解纜ト曰フ。後チ今ノ名ニ更ム。以テ福浦ニ對スト云フ。

經　島

福浦島ノ南ニアリ。島上ニ塚アリ。經塚ト名ツク。昔天台ノ徒追ハルノ日。慈覺以後傳フル所ノ經典ヲ以テ。悉ク火シテ此ニ瘞ム。故ニ之レヲ名ツク。或謂

フ。見佛誦スル所ノ法華經ヲ。捧ムル者ト爲スハ謬レリ島上ニ五重浮屠アリ享保中僧天嶺之レヲ建ツ。

格庵島

經島ノ東ニアリ。昔格庵ナル者アリ。土州人醫ヲ業トス。雲居ノ道德ヲ慕フテ來リテ此ニ居ス。因テ之レヲ名ツク。

仙冠島

經島ノ南ニ在リ。古遊仙アリ冠ヲ此島上ニ墮ス。故ニ之レヲ名ツク或ハ千貫島ト云フ古豪賈橘次ナル者アリ此ニ漁シ一晝夜ニシテ利ヲ得ル一千貫錢。因テ之レニ名ツク。是レ虚妄ノ說ナラン。

翠柳島

福浦島ノ北ニアリ

旭日島附天女祠

翠柳島ノ東ニ在リ。舊名ハ燒島島上ニ妙音天女ノ祠アリ。寬文中鵬雲建ル所ナリ。是ヨリ先キ洞水相州繪島ニ遊ヒ。天女ノ祠ニ謁シテ。心中感スル所アリ因テ詩ヲ賦シテ曰ク。

飄然江島尋神蹟。巖下感天女降臨。顯德掌中親崑玉。現慈膝上奏胡琴。若非正眼辨玄色。爭得思聲聞妙音。希有渺茫滄海月。出波心又落波心。

因テ其像ヲ圖シ。鵬雲ヲシテ此ニ祀ラシム。偶々祀成ルノ日。朝曦中ニ於テ天女ノ相ヲ現ス。故ニ更ニ旭日島ト稱ス。島上ニ舊ト梅樹數百株アリ。故ニ梅浦ト名ツク。後チ梅樹悉ク枯ル。鵬雲別ニ梅樹ヲ管屋汀ノ南ニ栽ヱ。更ニ之レニ名ツク。

彩書島

旭日島北ニアリ或ハ繪島ト曰フ。

翁島

旭日島ノ北ニアリ相傳フ。古松島山王廟ノ祭。會マ神樂ヲ奏ス。而シテ舞人各假面ヲ着ク。祭終テ其假面ヲ櫃ニシ。諸ヲ村長ノ家ニ藏シ以テ例ト爲スナリ。一夜櫃中聲アリ。群兒ノ相ヒ撲ツカ如ク然リ。起

テ之レヲ視レハ則チ物ノ出ルアリ、光ハ月ノ如ク飛テ此島上ニ落ツ。就テ之レヲ察スレハ則チ一翁面ナリ。時人以テ奇異ト爲シ。其假面ヲ以テ山王廟中ニ藏ム。因テ此島ヲ名ツケテ翁ト曰フ。面ハ今藏テシ瑞巖寺庫中ニ在リ。

烏羽島

朝日島ノ東ニアリ、或ハ苫島ト云フ。

鷺島

烏羽島ノ南ニアリ。

般若島

鷺島ノ北ニアリ。

九野島附雪島、藤島、麻衣島、湯島、筐石島、渚左島

般若島ノ北ニアリ。一ニ九子島ニ作ル。此レ松島ノ左邊島嶼中最モ大ナル者ニシテ。島形九裂梧葉ノ如シ。灣々屈曲石崖崎峭。四望共ニ奇ニシテ。東北最モ奇絶。數十里ノ外白練大洋ヲ横絶シ。而シテ金華ノ山其上ニ秀拔シ。縹渺雲際ニ接シ。島ノ四傍ニ數小島アリ。北ニアルヲ雪ト曰ヒ。藤ト曰フ。東ニアルヲ湯ト曰ヒ。麻衣ト曰フ。西ヲ筐石ト曰ヒ。渚左ト曰フ。

雙子島

雄島ノ前ニアリ。兩島相並ヒ。其形寶石ノ如シ、北ヲ玉島ト曰フ。南ヲ尼島ト曰フ。或曰ク尼ハ又摩尼珠ノ略ナリト。

毘沙門島

雙子シマノ南ニアリ。相傳フ。五大堂古毘沙門堂ト稱ス。阪將軍東征ノ日之レヲ建ツ。後チ慈覺五大尊像ヲ以テ其堂中ニ置ク。後チ毘沙門ノ像飛去テ此島上ニ落チ、遂ニ所在ヲ失ス。像ノ落ル處ノ故ヲ以テ之レヲ名ツク。或曰ク。其像今富山ノ東北竈岡村中。道士ノ家南光院ニ在リト。

朱鳥山

雄島ノ西南ニアルナリ。峻嶺海ニ俯ス。昔仙客アリ。此ニ栖ミ。常ニ朱鳥ニ騎シ島嶼ノ間ヲ往來ス。故ニ

之レヲ名ツク。後人或ハ訛リ。姉取山ト曰フ。（朱鳥姉取國音近キカ故ナリ）。

霞　浦

雄島ノ南ニアリ。或ハ栖霞潭ト曰フ。

落雁峰

朱鳥山ノ南ニアリ。一ニ雁山ト曰フ。山形雁ノ翔テ後チ集ルカ如シ。故ニ此名アリ。

腕　崎

落雁峯ノ東南ニアリ。崎形手腕ノ如シ。一ニ雁首崎ト曰フ。落雁峯ノ麓走テ海ニ出ツ。雁ノ首ヲ延テ。物ヲ啄ムノ狀ニ似タリ。故ニ此名アリ。土人或ハ茅野崎ト曰フ。

長鯨島

霞浦ノ東。毘沙門島ノ東南ニアルナリ

伊保島

長鯨島ト毘沙門島トノ間ニアリ。

布袋島

腕崎ノ東ニアリ。

大黒島

布袋島ノ東南ニアリ。

華　島

大黒島ノ東ニアリ。

鹿子島

華島ノ東南ニ二小嶼アリ。鹿子島ト曰フ。

鷗　島

鹿子島ノ東ニアリ。

夷　島

鹿子島ノ南ニアリ。

錦　浦

腕崎ノ南ニアリ

鶴　崎

錦浦ノ南ニアリ。崎形孤鶴ノ海ニ向テ立ツカ如シ。

鞍掛島

錦浦ノ東ニアリ。

大島

鞍掛島ノ東南鶴崎ノ前ニアリ。

小町島

大島ノ東ニアリ。

伊勢島

小松島ノ東南ニアリ、

扇谿

一ニ大澤ト曰フ。松島ノ南ヲ距ル七里餘。此レ鹽松環海中四山ノ一ニシテ。其勝松島ニ亞ク。陸路舟行共ニ宜シ。陸路ハ嶮ナリ。舟行ノ便ナルニ如カス。半嶺ニ寺アリ、海無量寺ト曰フ。後チハ磴道數十級。頂上西北ヲ蔽ヒ、東南ヲ開キ。峽勢左右ニ分レ海波ヲ其間ニ見ル。島嶼點綴扇面ノ畵ノ如シ。是レ此ノ名アル所以ナリ、頂上ニ小堂アリ。舊ト豊聽王ノ像ヲ置キ、之レヲ太子堂ト稱ス。和田某ノ建ツル所ナリ、延寶七年。鵬雲京師ニアリ。偶々男山ノ麓ニ遊ヒ。豊聽王ノ製スル所ノ達摩ノ像ニ謁ス。因テ佛工ヲシヲ之ヲ摸造セシメ。歸テ此堂ニ置キ。扁シテ熊耳峯ト曰フ。土人今達摩堂ト稱ス、或ハ其像ヲ以テ。豊王ノ手製ト謂フ者謬レリ。

海無量寺

扇谿ニ在リ、寛文中、鵬雲之レヲ建ツ。昔雲居ノ松島ニアルヤ。此地ノ幽邃ヲ愛シテ小庵ヲ結ヒ。雲臥ト名ツク。後チ洞水之レヲ修理シ。更ニ慈光院ト名ツク、僧會通居ル。後チ背山公鵬雲ニ命シテ、其庵ヲ梅浦ニ徙サシメ、(事ハ前梅浦一華庵ノ條下ニ見ユ)新ニ此寺ヲ建テ、海無量ト名ツク、如意輪大士ノ像ヲ置キ。又羅漢ノ小像ヲ藏ム、碼碯ヲ以テ之レヲ造ル。梵相淸癯劉製殊絕、相傳フ。鵬雲嘗テ崎港ニアリ來舶ノ載スル所ヲ得テ。此ニ藏ムト。寺ノ南數十步ニシテ小祠アリ、雲居彫スル所ノ僧泰澄ノ像ヲ祀リ。以テ鎭守トス。神號ヲ越知山權現ト稱ス。

鈴浦

扇谿ノ南麓ニアリ。扇谿ニ登ル者ノ此ヨリス。而シ

テ峽間數百步。人語屐聲山ト相應シ鈴聲ノ如シ。故ニ此名アリ。

梅　崎附觀梅浦

鈴浦ノ南ニアリ。昔崎上ニ梅樹數株アリ。崎南ハ即チ觀梅浦ト爲ス。凡ソ松島ノ地タル。翠松一色ニシテ。此崎特ニ梅花アリ。遊者舟ヲ此ニ維キ。賞翫時ヲ移シテ去ル。梅ハ今枯レ其名ヲ存スルノミ。

貝　島

鈴浦ノ東ニ在リ。

兜　島

鈴浦ノ東南貝島ノ正南ニ在リ。

鎧　島

兜島ノ南ニ在リ。

箕輪島

梅崎ノ前ニ在リ。

化粧島

箕輪島ノ東南ニ在リ

舞　島

化粧島ノ南ニ在リ。

濱　田

梅浦ノ南ニ在リ。漁家數戸海ニ面シテ居ス。是レ松島鹽浦接境ノ處ニシテ。瑞巖寺ヲ距ル八里餘。

都　島

濱田ノ東南ニ在リ。此レ松島鹽竈海上ノ界ニシテ。南ハ女御島ト相近シ。

鹽松勝譜卷之四畢

鹽松勝譜卷之五

富山部目次

高城驛附高城川同橋　嘉多浦附鹽場　石磯附舘崎
稻荷神祠附寶船寺　蟹松附願立寺　歸命院
兼觀崎　高山　第六天山
橘童子塚　砥泉
松島明神祠附劒岬・大日堂・白狐石・居綱泉附龍澤寺
木森附長慶寺・木守神祠・愛宕社
初原菅公廟　櫻嶺附一渡左坂　殿崎
手樽浦附琵琶阪　猿林附蛇島崎・同蛇洞・大白洲
小白洲
錢神　名古目浦附小舘崎・天王崎
簑浦附新田　古浦附呼子崎・長山崎
富山附大悲閣・大仰禪寺・松下菴
王塚附東安寺・不動明王廟・前嶋・夜鳥嶋・籠堂島・
杉穴入江　白練洲　東灘附丸山鹽場
鶴翼口

畢

鹽松勝譜卷之五

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

富山之部

富山ノ勝ハ阪將軍ノ後千有餘年、人得テ稱スル無シ。而シテ其ノ顯ル、今ニ貳百年。故ニ古籍ニ於テ載スル所ナシ。朝紳ノ詠言片言隻章絶テ之レニ及フナシ。何ゾ其寥々タルヤ。其地僻遠ナルヲ以テスト雖モ。亦數アッテ顯晦スルカ。抑モ山靈之レヲ秘シテ。人適マ之レヲ顯ハスカ。先遊者曰ク松島ニ穏クシテ。富山ニ昧キハ譬ヘハ。猶瑤池ニ觴シテ王母ヲ賓トセサルカ如シト。或曰ク。松島ノ勝ハ盡ク富山ニアリト。信ナル哉言ヤ。夫レ富山ニ登テ以テ鹽松ヲ俯臨スレハ。則チ環海一瞰逃形ナシ。瞭乎トシテ盆池ノ階前ニアルカ如シ。環海ノ外ハ則チ大洋ナリ。大洋ノ限ル所。南ハ相馬ノ崎。東ハ則チ金華ノ諸山。參差筆架ノ如シ。所謂尺吳寸楚モ啻ナラサルナリ。矚眺ノ間。覺ヘス。兩腋習習輕クシテ擧ラントス。因テ謂ヘラク。仙人雲霄ニアッテ蓬瀛ヲ。下視スル此ノ如キニ過キサルナリ。嗚呼何等ノ美景ゾ。何等ノ絶勝ゾヤ。人或ハ其顯ル、晩キヲ恨ミテ。其奇ヲ騷人墨客ニ炫フノ文無キノ胡ソ是レ其レ憫マン。天下ノ文無キヤ久シ。若夫弘仁天暦ノ盛化未タ遐荒ニ覃ハス。延久已降朝綱紐ヲ解キ。文事日ニ廢タレ。タヒ保元ニ壞レ再ヒ承久ニ替リ。元弘建武ノ後ニ糜爛ス。是ニ於テカ世纔カニ禪徒緇流ノ文ヲ傳ル有リト雖モ。猶ホ之レ無キカ如シ。況ヤ吾東奧ハ古昔毛人ノ據ル所ナリ。悍獷漸ク染ク其俗亂ヲ喜ム。故ニ前後牧守皆韜鈐ヲ任ト爲シ。武鷙ヲ以テ世ニ稱セラルル者。其人ニ乏シカラスト雖モ。文雅ニ於テハ絶テ聞ク靡キナリ。假

分富山其間ニ顯ハルヽモ。何ノ詩賦歌詠カ。以テ其美ヲ稱揚スルニ足ル者有ランヤ。豈翅ニ之レヲ稱揚スル無キノミナラス。反テ之レヲ汚辱ス。鹽浦松島古人ノ賦詠。其傳誦スル者世數人ナラス。人數首ナラサレハ。則チ富山ノ湮晦亦宜ナラスヤ。元和以來海宇昇洽。奎壁發彩文運大ニ開ク。其鴻業ヲ潤色シ。皇猷ヲ滲翻スルカ如キハ。姑ク之レヲ論セス。乃チ文士騷人肆業講學ノ暇。思ヲ山水ニ騁セ。探幽釣奇彩毫ヲ揮ヒ藻思ヲ抽ク。是ニ於テカ涓澮培塿ト雖モ。猶ホ其名ヲ馳ス。況ンヤ富山ニシテ遊揚セサルハケンヤ。人其美靈ヲ顯ハサヽルヲ得ス。其秘ヲ洩サヽルヲ得ス。豈時ヲ以テ顯ハルヽニ非ラサルヲ得ンヤ。且世ノ遊フ者。以爲ラク。松島以往唯富山アルノミト。殊ニ其間一境一區往テ奇ナラサル無ク。一磯一灣觀テ妙ナラサル無キヲ知ラス。第是レ水ニ由ル者ハ江心ヲ過キ。陸ニ由ル者ハ便道ヲ經。故ニ其勝ヲ窮ムル能ハサルナリ。若シ其勝ヲ竭サント欲セハ則チ宜シク海涯ニ沿ツテ行クヘシ。然レモ海涯ハ元ト道路ノ由ルヘキナシ釣途樵徑或ハ數歩ニシテ岐シ。或ハ數轉シテ窮ス。往々楊泣阮哭ヲ免レス。宜シク土人ヲ以テ導ト爲シ。以テ其勝ヲ窮ムヘキナリ。此篇ハ松島ノ界高城驛石磯等ノ諸區ヲ始トシ。富山ヲ中トシ曝練洲東灘ヲ終トス。若夫鹽浦ナリ松島ナリ。其篇ノ命スル所ヲ先ニシテ。其左右ノ諸區ニ及フ。此篇特リ然ラサルモノ亦探勝ノ便ニ從フニナリ。

高城驛

松島ヲ東北ニ距ル三里。高城郷ニ在リ。蓋シ高城郡ハ舊宮城郡ニシテ。國初メ高城國分ヲ以テ三郡ト爲シ。各治ヲ置ク。故ニ今驛ノ左右ヨリシテ。東北古浦富山ニ至ルノ地ヲ。高城郡ト爲スナリ。高城驛巷ハ三折シ。戸數凡ソ貳百餘。一月三市諸貨ヲ貿易シ。戸々富贍鹽松沿海驛邑ノ饒ナル。此ヲ以テ冠トス。

驛西數歩ニシテ水アリ。高城川ト曰フ。其水ハ東北數里品井沼ヨリ出テ。南流シテ高城驛ノ西ヲ經。松嶋ノ界ニ至リテ海ニ入ル。海口ヲ去ル數十歩卍橋アリ。橋南ヲ蛇崎ト爲シ北ヲ高城驛ト爲ス。故ニ橋ニ蛇崎高城ノ二稱アリ。海口川流ノ衝ク處ニ島アリ。籬島ト爲ス。島ノ以東嶋嶼彌縫東走。列シテ石濱殿崎ノ面前ニアリ。松島篇中既ニ之ヲ載ス。故ニ贅セス。

鹽場

高城川海口ノ北ニアリテ海濱廣斥。南通犲崎ニ對ス。是レヲ鳴瀬浦ト曰フ。土人或ハ誤テ嘉多浦ト爲ス。註。嘉多浦ハ松島ニアリ州圖ニ見ユ。鹽場ヲ置キ煮場ハ土ヲ穿テ孔ト爲ス。之レヲ塡塗シ以テ潮水ヲ納ル。土俗之レヲ名ツケテ壺ト曰フ。樋ヲ設ケテ釜ニ通ス。釜ハ亘リ丈許。釜ニシテ晝夜煮ル所應ニ一石ヲ得ヘシ。相傳フ。鹽神鹽浦ニアリ。鹽ヲ煮ルヲ敎フ。乃チ分テ一神ニ命シ。別ニ鹽場ヲ此ニ開ク。其神ハ則チ松島明神ナリ。土人曰ク。鹽浦神廟祭祀ノ日。神輿ヲ奉シ鹽浦街中ヲ遍巡シ。而シテ睨吏前行鹽ヲ撒キ。以テ道路ヲ淸ム。其鹽ハ則チ玆ニ取ル。蓋シ之レカ爲メナリ。

石濱

鹽場ノ東一里餘ノ所ニアリ。或ハ濱崎ト稱ス。漁農五六十家。西北ハ山ヲ負ヒ。東南ハ海ニ面シ。高城驛ニ隣ス。最モ運輸ニ便ナリ。故ニ商船常ニ輻湊ス。後方ノ山脈ハ。左折シテ東南ニ走ル。是ヲ舘崎ト曰フ。相傳フ。昔藤秀衡ノ第五子錦五郎通衡ノ舘趾ナリ。錦五郎嘗テ此地ノ奇勝ヲ愛シ。父ニ乞フテ之ニ居スト。崎上ノ矚眺尤モ奇ナリ。松島ヲ右ニシ手樽猿林ヲ左ニス。日下ノ嶋嶼點綴其勝殆ント松島ニ讓ラス。崎ニ殿崎アリ。後チニ見ユ。

稻荷神祠附寶積寺

石濱ノ西山上ニアリ。土人之ヲ石濱明神ト稱ス。祠中ニ豐太閤。神ニ贈ルノ國字書ヲ藏ス。相傳フ。豐公

ノ夫人淀姫ノ侍女某狐ノ魔スル所トナル。自ラ言フ石磯明神ノ使令ナリト。豐公之レヲ聞テ書ヲ以テ之レヲ督責スレバ。其女輙チ瘳ユタリ。其書署シテ曰ク。稲荷大明神殿ト。秀吉押書アリ。適勁賞スヘキナリ。祠北ニ寺アリ寶船寺ト曰フ。寺前ノ眺望。稲荷祠前ト奇ヲ同フス。

盤松附願立寺

石磯ノ北方一里餘ノ處ニアリ。根ヲ巖上ニ託ス。偃蓋扶蘇其狀蟹ノ郭索スルカ如シ。土人曰ク。松ハ昔枯死ス。土人代フルニ他樹ヲ以テス。枝葉狀宛然前樹ニ異ナルナシ。藩ノ先公之ヲ賞ス。故ニ土人相警メテ代ル勿ラシム。松ノ北數百歩田畝ノ間ニ寺アリ。願立寺ト曰フ。親鸞ノ宗ニ隷屬ス。寺ハ西高城驛ヲ距ル僅カニ數百歩ナリ。

歸命院

高城驛ノ西里餘田間ニ山アリ。石磴百餘級ニシテ巓上ニ達ス。寺アリ是レ歸命院ナリ。傳ヘ曰フ。國初藩ノ功臣。山岡志摩ナル者ノ創ムル所ナリ。志摩ハ嘗テ上杉氏ニ事ヘ。後チ去テ貞山公ニ事ヒ。屢功アリ。田祿ヲ此ニ賜フ。因テ蛇崎ヲ以テ居館トナシ。又別ニ小庵ヲ此山上ニ營ミ。暇日常ニ來テ念佛持齋ス。後チ利府驛。圓城寺主僧炭意ニ請フテ開祖ト爲ス。名ツケテ歸命院ト曰フ。山ヲ弘法ト號ス。世ニ傳フ。慶長甲寅ノ冬大阪ノ役。志摩貞山公ニ從テ軍中ニ在リ。嘗テ使シテ神祖ニ謁ス。神祖見ヘテ其齡ヲ問フ。曰ク七拾五。神祖曰ク。我軍二拾萬我齡最モ高シ。神祖時ニ年七十四。而ルニ我ヨリ尙ホ高齡ナル者アルカト。乃チ左右ニ命シテ飱ヲ賜フ。志摩之ヲ食スル八椀。神祖之レヲ健トシ。乃チ騎馬ヲ試ム。即チ超乘絶塵周旋度ニ當ル。神祖曰ク。矍鑠タル壯士ナリト。御衣孔雀ノ外套ヲ脱シテ之レヲ賜フ。軍中以テ榮トナス。初メ志摩ノ貞山公ニ仕フルヤ。世祿ヲ辭シテ曰ク。臣ハ自ラ臣ノ功勞ニ食ム。子孫ハ宜シク子孫ノ功勞ニ食ムヘキナリト。子孫皆家聲

ヲ隳サス。而シテ孔雀ノ外套幟章ノ處、今猶ホ其家ニ傳フト云フ。寺前ノ矚眺諸ヲ石礒、稻荷山、舘崎等ニ比スレハ。見ル所益々濶ク、環海東北一瞬ニ在リ。而シテ目下ハ則チ高城驛路ニシテ、往來織ルカ如シ。其最モ奇タル者ハ則チ鹽場ナリ、竈煙縷々裊々風ニ隨テ搖曳ス。古人國風詠スル所懷フヘキナリ。寺ハ最モ納涼ニ適シ、九夏三伏袷衣セサレハ則チ纊ヲ挾ムヘシ。而シテ冬月亦甚タ寒カラス。特リ景勝ノ美ナルノミナラス。寒暖躰ニ適シ養生ノ福地ト謂フヘキナリ。

兼觀崎

歸命院ノ南ニアリ。崎上ノ望ミ直ニ九野嶋ヲ指ス。以テ松島高城兩地ノ界ヲ爲ス。而シテ矚ル所、兩地ノ勝ヲ兼ヌ故ニ命名ス。

高　山

歸命院ノ西數百歩ニアリ。山突然高シ。故ニ土人之レフ高山ト稱ス。山上ニ五重ノ浮屠石アリ。何人ノ立ル所タルヲ詳ニセス。或曰ク、古天台ノ徒之レヲ立ツト。山上ノ勝院前ニ比スレハ、則チ見ル所又益々濶ク。松鹽環海大率遺ス無シ、應サニ扇谿鷲嶺等ニ下ラサルヘシ。而ルニ先遊未タ曾テ之レニ及ハサル者ハ何ソヤ。

第六天山

高山ノ西ニアリ、其上ニ第六天小祠アリ。祠ハ石ヲ以テ之レヲ造ル、古天台ノ徒、祠シテ之レヲ祀ルト云フ。山麓ニ涌泉アリ。樋ヲ設ケテ南ニ引ク。是ヲ湯原溫泉ト爲ス。事已ニ松島ノ篇中ニ詳ナリ。山ノ西ハ則チ擴山ナリ。山ノ南ハ則チ峰巒相連リ葉山ト爲リ、長老坂ト爲リ、各前篇已ニ之レヲ詳記セリ。高山ヨリ葉山ニ至ル、東ハ松島瑞巖寺ノ後山ト相對シ。中間ニ水田數百頃アリ。古老ノ曰ク。古潮水石礒嘉多浦ヨリ入リテ曲灣ト爲ルト。今此地形ヲ詳ニスレハ或ハ然ラン。

橘童子塚

高山ノ北小嶺上ニアルナリ。土人之レヲ兒塚ト稱ス。相傳フ。豪商橘次ノ兒ヲ瘞ムル所タリ、昔シ源公子牛若（即チ義經）橘次ニ從ヒ。鞍馬山ヲ逃レ東行シテ藤原秀衡ニ依ル。橘次路次ノ變ヲ慮ハカリ。己ノ子ヲ以テ公子ノ如クナシ。若シ變アラハ則チ之レニ代ラシム。遂ニ此地ニ至リテ兒病テ死ス。即チ茲ニ葬ムル。初メ兒公子ト長途相俱ニスルヤ。公子常ニ謂テ曰ク。我他日若シ志ヲ得ハ。汝ヲ以テ一隊將トナサント。兒大ニ喜フ。後チ公子兵ヲ起シテ西伐シ。遂ニ平氏ヲ滅ス。常ニ諸臣ト語リ此事ニ及フ。後チ右將ト隙アリ。再ヒ秀衡ニ依ルニ迨ヒ。時ヲ以テ之レヲ祭祀スト云フ。

砥泉

兒塚嶺ノ下歸命院ノ北ニアリ。水色青白ク尤モ刀劍ヲ磨クニ宜シ。昔跡五郎ノ館崎ニアルヤ。常ニ刀劍ヲ好ミ。諸方ノ水ヲ撰ンテ磨キ以テ利鈍ヲ驗ス。而シテ此泉水ヲ以テ第一トナス。因テ砥泉ト名ツク。

松島明神（附劍神。大日堂。白狐石。）

高城驛ノ西北砥泉ノ北頭ニアリ。紫山ト曰フ。山皐ヲ藤崎ト曰フ。山上ハ樹木鬱葱トシテ。神祠ハ其巓ニアリ。是レ鹽廟枝祠拾五區ノ一ナリ。傳ヘ曰フ。太古鹽神ノ命ヲ奉シテ。鹽場ヲ高城ニ開キシハ。則チ此神ナリト。或ハ曰ク。天御中主尊ナリト。土人之レヲ紫明神ト稱ス。神紫色ヲ愛惜ス。故ニ松嶋及高城驛ノ人。誡メテ紫色ノ服ヲ禁ス。若シ犯スモノアレバ神罰アリト云フ。祠ハ舊ト松島ノ蛇崎ニアリ。蓋シ蛇崎ハ舊山岡志摩ナル者ノ食邑ナリ。故ニ其家臣等此祠ヲ尊崇シ。四時必ス祭祀セリ。而シテ志摩卒スル後。家臣等流離轉散シテ。多ク高城驛ニ從リ。農トナル。從テ祠宇荒廢ス。故ニ驛民相謀リ。之ヲ松島ニ乞フテ祠ヲ此地ニ徙ス。祠側ニ道士ノ居ルアリ。五色光院ト曰フ。祭祀ヲ掌ル。其家ニ古笈及ヒ古刀ヲ藏ス。相傳フ。文治年中。源義經東國潜行ノ日

持スル所ナリト。又役角仙繪スル所ノ不動像ヲ藏ス。是レ其眞否ヲ詳ニセスト雖モ用筆設色細カニ精巧ヲ盡セリ實ニ是レ神手ナリ近代諸畫史ノ能ク及フ所ニアラス。余ヲ以テ之レヲ視レハ即チ唐宋名手ノ作スル所ナル歟。祠ノ西ハ山嶺相續キ古城趾アリ。劒岬ト曰ツ何人ノ居所タルヲ詳ニセス北隅ニ城門趾アリ土人之レヲ北門ト稱ス側ニ大日堂アリ。亦古城主ノ建ル所ナリ。岬ノ北田畝間ニ石アリ其大サ五尺白狐石ト名ツク。人或ハ之レヲ汚セハ必ス祟アリト云フ

居網泉 附瀧澤寺

紫山ノ南麓小徑ニ由テ西スル百餘歩ニシテ田間ニアリ。水甚タ淸潔旱スト雖モ竭キス。最モ茶ニ適シ。古老傳ヘ曰フ古此處海灣ニシテ潮汐此地ヲ來去シ。居ナカラ魚網ヲ投ス故ニ名ツク。泉ノ西北數百歩ニシテ寺アリ。瀧澤寺ト曰フ。宗ハ曹洞何人ノ創スル所タルヲ詳ニセス。

大森

瀧澤寺ノ西里餘ニシテ大森村アリ村内ニ寺アリ長慶寺ト曰フ。古天台ノ僧願海ナルモノノ開基スル所ナリ今更ニ臨濟ト爲リ瑞巖寺ニ隷ス。寺前ニ小祠アリ木守勝手ノ二神ヲ祭ル所ニシテ。亦天台ノ徒ノ置ク所ナリ。地ハ舊ト木守ト名ツク。守森國音相混ス故ニ今訛ル。寺前ニ銀杏樹アリ。是レヲ影向木ト曰フ。嘗テ寒澤寺(寒澤寺島上ニアリ)災ニ罹ルヤ。其寺所藏ノ彌陀佛。飛ヒ來リテ此樹上ニ挂ル。故ニ之ニ名ツク。而シテ像ハ則チ此寺ニ安置ス又一大老杉アリ太サ拾餘圍。嘗テ之ヲ伐採シテ船ヲ造ラント欲シ。斧ヲ加フレハ鮮血激出ス人々恐レテ止ムト。斧痕今猶存ス。

愛宕祠

高城驛ノ北ヲ距ル一里ニシテ近シ。山甚タ高カラスシテ危峭ナリ。上ニ愛宕太子ノ祠アリ。何レノ時ニ置キシヲ知ラス。祠前ノ眺望亦奇ナリ。

初原菅公廟

高城驛ヲ出テ東行スレハ三岐アリ其一ハ吉岡路其二ハ松山浦谷ノ諸邑ニ之クヘク其三ハ小野驛ヲ經テ石巻金華ノ諸境ニ通スル路ナリ而シテ毎岐右ヲ取レハ富山路ナリ第一岐ニ入ル四里許ニシテ村アリ初原村ト曰フ菅公ノ祠アリ古僧行藏ナル者京師北野ノ聖像ヲ摸製シ以テ此ニ安置ス像靈威嚴粛トシテ土人相警メ龕扉ヲ開クヲ禁ス犯ス者ハ必ス病疫スト之レヲ試ミルニ往々其驗アリ廟ニ鰐口ヲ掛ク鐘彫ニ曰ク久安元年六月廿五日ト久安ハ人皇七十六代近衛帝ノ年號ニシテ今文政癸未ヲ距ル六百七十九年ナリ

櫻嶺

高城驛ノ北第三岐是レヲ小野驛ト曰フ亦タ富山ニ之クヲ得ヘシ岐ニ入ル里餘ニシテ古渡跡アリ一渡ト曰フ舊ト一錢渡ト稱ス北ニ阪アリ左阪ト曰フ土人左ヲ讀テ阿寺ト爲ス何ノ義タルヲ詳ニセス阪ノ左ニ長嶺アリ嶺上ハ皆櫻樹ナリ是レ則チ櫻嶺タリ昔菅公芳野ノ櫻樹千餘株ヲ取リ以テ此ニ栽ユ其花盛開ノ時ニ及ンテ親ラ俳諧國風ヲ賦シテ之レヲ賞ス今其樹ハ皆數圍花時遠ク之レヲ望メハ雲ノ如ク雪ノ如シ實ニ奇觀ナリ人目シテ小芳野ト爲ス

殿崎

石磯鶴崎ヨリ海涯ニ沿ヒ東北里許ニ崎アリ是ヲ殿崎ト曰フ崎ノ北長灣西ニ入ル里餘手樽浦タリ灣ハ東崎ニ對ス長松羅列スル者叢林ト爲シ錢神ト爲ス而シテ崎前ノ海上ハ島嶼無數斷續シテ西南松島ニ及フ而シテ其島嶼ハ皆松島篇中既ニ載スル處ナリ其間舟船出沒魚鳥浮沈シ其勝松嶋以東ノ海涯第一タリ

手樽浦

殿崎西灣ノ奥隅ニアリ漁農アリ灣ニ面シテ居住ス松島ヨリ富山ニ至ルニハ海陸共ニ此浦ヲ經村

名ヲ手樽ト曰フ。廣大ニシテ東北富山ニ至リ。西南ハ高城。石濱ノ界ニ至ル。浦前ハ灣大ニシテ其口小ナリ。灣中洲嶼點綴其勝名狀スヘカラス而シテ浦上ヨリ之レヲ觀レハ其奇ヲ覺ヘス。浦北里餘阪路上ヨリ灣上ヲ俯臨スレハ。一眄遺ス所ナシ。余毎ニ此阪ヲ經未タ嘗テ賞觀時ヲ移サヽルハアラサルナリ阪ハ本ト名無シ余之レニ名ツケント欲シテ未タ得ス。嘗テ同士三四人ト之レヲ過ク。各草ニ藉シテ坐ス。余摺扇ヲ取テ踊スル所ヲ揮シ。其奇ヲ盛稱ス。同志曰ク。子摺扇ヲ持シ灣面ヲ指シ其狀宛然玉ヲ執テ四絃ヲ撥拂スルカ如シト。字ヲ請ノ琵琶阪ト曰フ。余曰ク。善シ即チ之レヲ告ク。土人之レヲ知テ後チ阪ノ名定マル。

猿林

手樽浦ノ東。地勢海上ニ入ル者三里許。是ヲ猿林ト曰フ。松樹羅列ス。松嶋前海嶋嶼上ヨリシテ。遠ク之レヲ望メハ。亦奇觀ナリ。土人一ニ蛇島ト稱ス。島ニ非スシテ嶋ト稱ス其由ル所ヲ解セス。或曰ク。地ハ舊ト陸地ト絶ス。故ニ之レヲ稱ス。其地ノ盡クル所ヲ蛇島崎ト曰フ。則チ手樽浦前灣口ノ東岸殿崎ト相對スル者ナリ。崎腹ニ洞アリ數拾人ヲ容ルヘシ。之レヲ蛇洞ト稱ス。崎前百餘歩ニシテ二島アリ其大ナル者ヲ大白洲ト云ヒ。小ナル者ヲ小白洲ト云フ。大白洲上ニ桃林アリテ雜樹ナシ。二三月ノ際ニハ。芳蘂鮮美落英繽紛潮ニ隨テ進退ス。實ニ武陵桃源ノ趣アリ。唯恨ラクハ嶋甚タ大ナラスシテ民屋田畝ナキヲ。然レトモ鹽松環海島嶼洲渚ハ。總テ是レ翠松一色ニシテ。芳華ヲ以テ奇觀タルモノハ。梅浦ト此島ノミナリ。余嘗テ土人ニ何人ノ栽ヱル所タルヤト問ヒシニ。其人ヲ聞カス。自然ニ生セリト。余益々之レヲ奇トス。蛇嶋崎ノ東ニ灣アリ。灣ヲ隔テヽ相對スル者ヲ。名古日浦ト爲ス。

錢神

猿林中ニアリ。民家兩三戸蕭條幽僻ニシテ。耕田釣

海桑宅樵山諸物具サニ足リ。他求ヲ待タス。而シテ錢神ハ、何ノ尊フ所ニシテ稱ト爲スカ。憶フニ古魯褻ノ俗。世ヲ此ニ遁ルカ。土人或ハ錢龜ト稱ス。蓋シ神龜國音相近シ。故ニ訛セシナラン。或曰ク、方俗蛇ヲ以テ貨神トナシ、夢ミル者必ス貨財ヲ得ト。此地一ニ蛇嶋ト稱ス。因テ錢神ノ名アル乎。

名古目浦

猿林ノ東ヲ隔テ、地愈々海ニ入ル、其地ノ盡クル所是ヲ名古目ト曰フ。漁農三拾四戸。左右ニ崎アリ右ヲ小舘崎ト云ヒ左ヲ天王崎ト云フ。右ニ堂アリ堂中ニ羽州三山ノ祠ヲ置ク。浦民香ヲ三山ニ進ムル者。先ツ堂中ニ在テ齋戒シテ後チ行ク、天王崎ニハ牛頭天王ノ廟アリ。崎東數十歩ニシテ島アリ。月星島ト曰フ。甚タ高カラスシテ。四邊皆十倒底スル者數仭ノ梯ナクレハ躋ルコトヲ得ス。

箕浦

名古目。天王崎ノ北。灣形箕ノ如シ。故ニ之レヲ取ル或ハ三浦ニ作ル。箕三國音同シ。因テ訛セシナラン天王崎ヨリ陰綫灣涯。而シテ西行スルコト二里許ニシテ農家アリ。是ヲ新田ト曰フ、蓋シ潟鹵ヲ以テ水田ト爲シ。新ニ農戸ヲ置ク、故ニ稱セリ。又西ニ行ク里餘是ヲ早川ト曰フ。又長堤ヲ作リ灣隅ヲ杜シテ田ト爲ス、凡ソ松島ヨリ舟行シテ富山ニ至ルヤ。一ハ手樽浦ニ着シ。一ハ此浦ニ着テ。陸ヨリスレハ則チ手樽ヨリ。徑チニ此浦ヲ經、其間一里餘アリ。浦西細徑ニ據リ行クコト二里、又北折スル一里許ニシテ。富山ノ南麓ニ達ス。

古浦

箕浦ノ東ニ小灣アリ、其奥ニ漁家拾四五戸相列ス、是ヲ古浦ト云フ。一ニ振浦ニ作ル。古ル振ル亦タ國音ノ訛ナリ古浦以東海涯連山、山小ニシテ禿タリ。一崎アリ海中ニ斗出ス。之レヲ呼子崎ト謂フ。一ニ呼聲崎ト稱ス、土人或ハ號呼崎ト名ツク。崎東里餘ニシテ又一崎アリ。長山ト云フ。之レヲ過クレハ則

チ大塚濱タリ。

富山

松島ヲ距ル拾貳里寅方ニアリ。一ニ富有山ニ作ル。相傳フ。西方富嶽ヲ雲間數千里ノ外ニ望ム。因テ名トナス。或曰ク勝ニ富ムノ謂ナリト。此山ハ鹽松環海四山ノ一ニシテ。山麓ニ農家八九戸簇ヲ爲シ。山下ヨリ嶺ニ至ル磴道數百盤。喬杉老檜晝猶暗シ。嶺ニ大悲閣在リ。相傳フ大同年中。坂將軍東征ノ日。僧慈覺彫ム所ノ觀音三像ヲ以テ。之レヲ三勝所ニ置ク。世之レヲ三觀音ト稱ス。所謂牧山箕嶽。及ヒ此地ナリト。或曰ク。田村將軍賊首大竹丸ナル者ヲ誅シ。其首ヲ此ニ埋メ。閣ヲ其上ニ建ツルナリト。閣中ニ坂上將軍ノ塑像ヲ安置ス。像ハ戎服シテ馬ニ騎ル。之レ何人ノ置ク所ナルヲ詳ニセス。夢庵松島記ニ曰ク。承應甲午天麟尼右富山觀世音ヲ興營シ堂閣ノ四面ハ。樹木蔭蔽シテ眺望ノ觀ナシ。堂ノ後方ニ路在リ。是レ小野驛ヲ經。石港ニ至ルノ路ナリ。堂前ヲ下ル數歩ニシテ。磴ノ東側ニ門扁アリ。大仰寺ト曰フ。寛文中。松島瑞巖ノ僧洞水之レヲ開興シ。退隱ノ處トナスナリ。夢庵松島記ニ曰ク。洞水十年不飯ノ誓ヲナシ。潜カニ富山ニ入リ。廬ヲ結ンテ屏居シ。紅塵ヲ践マス。白雲ニ長臥シ氷懷雪慮疇カ其趣ヲ知ランカト。松崎慊堂遊記ニ。雲居禪士ノ創スル所トナス。是レ告者ノ過ナリ。寺前庭上ヨリ南面ヲ俯臨スレハ。所謂松島ノ勝盡ク富山ニアル者ナリ。乃チ庭ノ觀ル所ハ。鹽松環海合抱中ニ在リ。而シテ左肩ニ當ルモノハ。寺後山樹遮蔽シ。意ヲ以テ之レヲ度レハ。則チ應サニ石港ヨリ。金華ノ地ニ至ルナリ。肘ニ當ルノ境ハ。則チ白練ノ洲間灘ノ山ヨリ。宮戸諸島ニ至リ。南折シテ指頭ニ及フモノハ。寒澤。嚢納。椎島諸區ナリ。又右肩ハ則チ高城灣。石礫。松島ノ諸境ニシテ。肘ヨリ次第シテ指頭ニ至レハ。則チ鹽浦。東宮。嶼崎。吉田。鼻節ナリ。其遠クシテハ松浦。水門。諸濱。稍々遠クシテハ相馬。巖城。諸山ナリ。其

近クシテ願下ニ列スルモノハ、手樽。名古曰。箕浦。古浦等ト爲ス、瀨崎犬牙川円ニシテ、環海中嶋嶼錯峙シ、舟船呼フヘシ、嘗テ之レヲ寺主ニ聞ク、天氣澄朗日虞淵ニ遁ルノ時。偶々富岳ヲ鹽浦ト嶼崎ノ間。千餘里ノ外ニ見ル。一點青色烟ノ如シト云フ、遊者初テ巓ニ登リ。矚スル所ナシ、因テ以爲ラク世ノ勝ヲ言フモノハ妄ナリト。後チ寺ニ入リ俯臨スレハ絶勝頓ニ仙境ニ至ルカ如ク。茫然自失ス。（世人言フ松島ヲ得テ富山ヲ得サレハ。譬ヘハ猶ホ瑤池ヲ履テ王母ヲ見サルカ如シト。豈信ナラスヤ）。寺ノ側ニ小庵アリ。松下庵ト曰フ。昔僧清山涌谷退院後。之レヲ經營シテ居ス、獅公嘗テ清山ト。某日駕ヲ抂ケテ庵ヲ訪フテ約ス。期ニ至テ他故アリ、因テ延期ノ命アリ、清山曰ク。僧ト期シテ違フハ何ソヤ。夫レ僧ノ世ニ住スルヤ。石上ノ坐樹下ノ宿。奚ソ明日ヲ待タント。因テ國風ヲ賦シテ曰ク。

花モ實モアス白雲ノ浮身ニテ何重ネテソ松ノシタ庵

ト又一首ヲ庵扉ニ題シテ曰ク

アクカレテ我ハ出ケル柴ノ戸ニ月コソヤカテ入代リヌレ

ト即チ去ル。庵ハ舊ト名ナシ、後チ清山國風中ノ語ヲ取リ、松下庵ト名ツクト云フ、

富山　田省吾

攢瓢尋訪海門東。蓬鬢參沙如御風。渺々水天帆鳥外。千房烟舍一望中。

登富山　釋古梁

松洲興盡未云歸。更上富山俯翠微。列嶂蒼茫籠宿霧。春潮蕩漾盪朝暉。數帆接影霞間出。群鳥如塵鏡裏飛。濤世無人踏東海。臨風絶頂振征衣。

同

高攀鳥道步懸巉。山頂班荊倚老杉。海運潮光搖島嶼。天低雨色壓檣帆。淸風能自洗心目。勝境頓知異聖凡。更欲揮毫題絶壁。巨靈贔負捧蒼巖。

水月井　藤花井カ

大仰寺門前ノ礎畔ニアリ。富春叟遊富山記ニ曰ク、井アリ圓徑六七尺、澂清以テ鬚眉ヲ鑑ムヘシ。一老藤相纏ヒ蜿蜒井上ヲ離ル、者丈餘。土人相傳フ。水月大士瓶中ヲ淨メテ流瀉スル所ナリ。井ヲ距ル十歩ニシテ乃チ寺門ナリ。松崎慊堂遊記ニ曰ク、坂道急峻小半里渴極テ井ヲ得。汲飮スレハ甘冽ナリ。余戯ニ名ツケテ雲居井ト曰フト。

註慊堂大仰寺ヲ以テ。誤テ雲居ノ創スル所トス。故ニ井モ亦誤テ之レニ名ツク。然レトモ雲居ノ名却テ自ラ善シ。

王塚

古浦ノ東ヲ距ル三里餘。富山ノ東北五里餘ノ處ニアリ、其間細徑多岐ニシテ。往々路ヲ失フテ大澤ニ陷ル。土人ヲ以テ導ト爲スニアラサレハ。則チ達スル困難ナリ。然レトモ處々奇勝多シ。相傳フ。濱名ハ由來久シ、古花山帝位ヲ遜リ。潜カニ諸州ヲ遊歷シテ。偶此ニ至リ石上ニ憩フ。後帝タルヲ識ル者アリ其所ヲ封シ以テ王塚ト稱ス。因テ遂ニ濱ノ名ト爲ス。今王ヲ以テ大ト爲ス。蓋シ王ト大ト國音近キカ故ニ訛スルナラン。濱ノ地形タルヤ。山ヲ帶ヒ海ヲ擁シ。漁農ノ家百戸許ニシテ。街巷縱横濱後人家ノ西背ニ寺アリ。傳安寺ト云フ。寺ハ曹洞宗ニ隷ス寺ノ南山上ニ不動明王ノ祠アリ。祠中ニ不動ノ石像ヲ置ク。像ノ高サ五尺餘。何人ノ製スル所タルヲ詳ニセス。靈威アリ。傳ヘテ曰ク。祠ハ舊ト濱ノ東小東澤ニアリ。嘗テ商船ノ海上ニテ颶風ニ値ヒ。加之ナラス。雲霧晦冥。針路ニ迷ヒ覆沒セントス船中不動ヲ信スル者アリ。一心稱名ス。時ニ岸上ニ火光赫々タルヲ見ル。船ヲ之レニ寄スレハ。則チ彼ノ地ニシテ火光未タ熄マス。就テ之レヲ熟視スレハ。即チ石像ナリ。擧船之レヲ奇異トス。乃チ相謀リニ船載スル所ノ貨物ヲ捐テ、。廟ヲ玆ニ轉營ス。其上梁ノ日一匠人暴カニ僵ル。衆驚テ之レヲ救フ。少焉アリテ蘇シテ曰ク。大人アリ至リ叱シテ曰ク。何ソ穢身ヲ

以テ役ニ與ルヤト拳頭セリ焉。衆愈々之レヲ巽トス。廟成テ像ヲ徙サント欲ス。像重クシテ動カス。因テ更ニ數夫ヲ加フ。愈々重シ衆相詰リ一夫不潔ナル者アリ。去レハ則チ輕擧ス。衆愈々益々之レヲ。巽シム遠近相傳ヒ禱請廟前ヲ斷タス。矚眺亦奇ナリ東灘。宮戸及ヒ鳳桂諸嶋。海ヲ隔テ、相對ス。濱前ニ二嶋アリ。大ナルヲ前嶋ト曰ヒ(或ハ松賀浦ト云フ)小ナルヲ夜島ト曰フ。(或ハ捕魚島ノ訛)。濱ノ東ニ籠堂島アリ。島上ニ狐穴アリ。土人曰ク。昔老狐アリ之レニ栖ミ。漁人捕獲スル所ノ魚ヲ以テ先ニ之レニ供ス。然ラサレハ魔セラルト云フ。崎北ハ山灣ヲ爲シ土人之レヲ杉穴ノ入江ト稱ス。灣口ヲ鶴翼口ト曰フ。其狀ヲ以テ之レニ名ツク亦奇ナリ。

白練洲

一ニ曝練洲ニ作ル。王塚濱ノ左鶴翼口ノ北ヨリ。地勢南ニ走リ。直ニ海上ヲ横斷スル四五里。廣サ百餘歩。地ハ皆白沙ニシテ。翠松其上ニ羅列ス。其地ノ極端ハ。宮戸嶋ノ北龍崎ニ對シ。而シテ其間海ヲ隔タツル數百歩ノミ洶濤此ヲ越ヘス。而シテ西南鹽松環海波澄黛蓄治淡相待テ以テ此洲アリ。古老曰ク、數拾年前洲上ノ松樹甚タ密ナラス。白沙皎潔數百丈ノ縞練ヲ曝スカ如シ。洲ノ窮マル所ハ則チ東灘タリ。

東灘

一ニ東那ニ作ル又唐那ト爲シ或ハ鬪灘ト稱ス。山アリ丸山ト云フ。突兀拔起シ上ニ八幡神祠アリ。山上ハ四望共ニ奇絶ナリ。西南ハ環海ニシテ、東北ハ金華石港ノ諸山ニ對ス。四山ノ外殊勝異景ナル。此山ヲ以テ最トナス或曰ク。洲ノ東北波浪常ニ惡シク。此山アリテ之レヲ禦ク。故ニ鬪灘ノ稱アリ。漁家數十戸相列シテ巷ヲ爲ス。巷ノ東ハ廣ク斥ケテ鹽場ヲ置ク。巷畔ニ碑アリ鹽場ノ由來ヲ記ス甚タ詳悉ニシテ其文長シ。故ニ載セス鹽場東南宮戸嶋ノ北。竜崎ニ對シ。其間海口ヲ爲ス。口ノ廣サ僅カニ數

百步ニシテ。潮汐洶湧トシテ東ヨリ來リ丸山ノ下ニ至リテ歛マル。海口ノ水底ニ巖アリ。廣平ナル龜ノ如シ。土人龜磯ト名ツク。舟船ノ茲ヲ過クル者之ヲ避ク。其西ニ二小嶼アリ。大ナルヲ大鬪難ト曰ヒ。小ナルヲ小鬪難ト云フ。土人或ハ大湯殿ト稱ス。其形羽州ノ湯殿山ニ似タルヲ以テナリ。二島ハ西南百刈巖。鯨島等ノ諸嶼ニ對シ。且宮戸島ニ濟ル者。龍崎ハ即チ舟筏ノ寄ルヘキナシ。又道路ナシ故ニ藥王庿下ニ寄リ里濱ニ及ブ。先遊曰ク。白練ノ一洲ハ、其奇以テ丹後ノ天ノ橋立ニ敵比スルニ足ル。若シ曠勝ノ廣濶ニシテ。且ツ繁ナルカ如キハ。則チ彼ニ踰ル遠シ。余曰ク君子爭フ所ナシ。奚ソ彼比相較比シ以テ爭端ヲ發カン哉。然レモ其景趣ニ於ケルヤ似タリト謂フヘシ。余嘗テ月夜松島ヨリ東難ニ泊ス偶マ僧希彥カ天橋立ノ詩ヲ思フ云ク。碧海中央六里松、天橋絕境是仙蹤。夜深人待龍燈出。月落文珠堂裡鐘ト。因テ數字ヲ換ヘ朗吟シテ曰ク。横斷蒼溟數里松。練洲絕境是仙蹤。夜深船泊丸山下。月落藥王庿裡鐘。一船爲メニ數盃ヲ傾ム今ニシテ追憶スレハ、爾時ノ光景宛然トシテ目ニアルナリ。練洲ノ東北ヨリ神丘濱市ノ地ニ至レハ則チ赤崎不老等ノ諸山及ヒ小島黃雀等ノ諸島アリ其他遺境曠區。或ハ當サニ多カルヘシ。世ノ遊フ者。鹽松探勝ノ餘力ヲ以テ。細カニ之ヲ探索スレハ。則チ妙輠ノ勝賞。猶ホ炙輠ノ如クナラン。

鹽松勝譜卷之五畢

鹽松勝譜卷之六

宮戸寒澤諸島之部目次

宮戸島
藥王廟　附瑠璃峯御厨場　皇都島附孤月・小鍋・落
月洞
龍　崎　附大湯殿・小湯殿島
大高峯　附觀音峯・觀音廟・觀音寺
里　濱
醫王寺　附石神祠・鰐魚淵・鰐魚崎・岸島・沖島・續島
鰐魚淵　附渡口・山神廟
蛤利濱　刈藻崎　附獨木橋・貝島・鷹島・起鷹島・
鷲準浦
月　濱　附神明廟・觀音堂・稻崎・愛太子廟・劒崎・大
櫃御洞崎・紀島・黑島・雀島・小櫃・中野・頭巾
大　濱　附火焰巖・八幡神廟　候峯　附候亭
椎　山　附螻島・蝸島・巾島・羽島・大根・小根・
室　濱　附前島・室濱崎・鷹島・蟷螂島・蝦蟇・崑崙・夜
叉・頭・夏雲・大濱嶺・神明廟・愛宕山。
潜ヶ浦　附大悲閣・釣浦・舍前崎・大雙松・小雙松・鶴
崎。
寒澤島　附寒澤寺・生埋菴・渡口・捨島・三百羅・寺崎
乾羅・乾綱・
日和山　附前島・夜景・起牛・臥牛。
掛田島
屛風巖　附大閉戸・小閉戸・琴島・鼓島・臼島・鐺島・差
池・委蛇蟒島・語島・沖刈藻・岸刈藻。
鳳　島　附神明廟・彩羽寺・雛島・百刈島・鷲島・茨木
田・長足峯・大嶺・肥島・瘦島。
納囊島　附寺大島・犬島・鞍島・腰掛・小屏・松樹・黃楊
根野。　某菴末卷ニ在リ。
柏樹島　濱戸浦
桂　島　附松崎神・桂島神祠・桂島菴・前島。
石　濱　附檑盆・飯餔・熊野廟・落星崎・鱸島・鯛島・魴

島・鮫島・石首金頭・比目・大口・河豚・華臍・沙噴船人・

縹錦浦 附芒草・藻根・裂島・金剛・地藏・唐島・架橋・星形・金島・燒島・盗島・兎島・高遠倉・沖高遠倉

放馬島 附洞轄・凡頭乾附・乾附・本乾附・立帆・燒嶼・雎鳩・青岸・白崎・湖子・躑躅・浪華・

鹽松勝譜卷之五 畢

鹽松勝譜卷之六

仙臺 舟山光萬年著

仙臺 佐澤廣胖校訂

宮戸寒澤諸島之部

夫レ宮戸・寒澤・桂島ノ諸境ヤ鹽松勝景ノ奥室ナリ其門ヲ得テ入ルニハ宗廟ノ美百官ノ富ヲ見ル可カラサルナリ矣。世ノ遊者鹽浦ヨリ松島ニ航シテ遠望スレハ唯一帶長堤ノ如ク。未タ曾テ其勝ノ奇絶ヲ知ラサルナリ。偶マ其勝ヲ説ク者アレハ。則チ以テ臨既ニ盡クト爲シ之ヲ觀ルヲ欲セス。或ハ纔カニ其一曲ヲ窺フ者アレハ則チ以テ鄙ヨリ以下ト爲シテ亦識ルナシ。所謂其門ヲ過テ其室ニ入ラス。其華ヲ撫テ其實ヲ食ハサル者ナリ。余初メ其域ニ遊ヒ輕舟島嶼ノ間ニ入リ。茫然トシテ往ク所ヲ知ラス。而シテ後チ左攀右渉前躋後覽。下上陟頓進退周旋シテ數十百回ヲ歷。其中島嶼ノ大小洲渚

ノ屈曲。峯巒ノ高低歷々指シテ數フヘキナリ。其境ヤ西北ハ。則チ鹽松ノ環海。州渚島嶼ノ間、水清ク且猗ナリ浮磬・蠙珠・斑石・文貝・海物・維レ錯ハリ。燦然翫フ可シ矣。東南ハ則チ大洋ノ潮濤。颲颶砰湃トシテ奔騰シ。啻ニ伍憒石尤ノミナラサルナリ。其奇異壯觀悉ク之レヲ狀スヘカラサルナリ矣。而シテ島々嶼々皆奇巖ニシテ。削壁怪崖幽洞咸ナ神鑱ニシテ鬼削。其上ニ生スル所ハ。瑤草・靈芝世ニアル所ニ非サルナリ。然リ徐福ノ船至ラサレハ。謝公ノ屐埋沒スルニ及ハス。稱セサル者ハ。所謂海中ノ神山。人間ヲ去ル遠カラサル者。豈此地ニ非ラサル無キヲ得ンヤ。余業ニ此ニ及フ。人多クハ以テ鹽浦松島ニ續貂スト。夏虫ノ疑氷ヲ奈何センヤ。嗚呼我門ヲ過テ我室ニ入ラス。我慽ミス勝區ノ悉シカラサル。畫圖ノ肖サルハ。是レ譜ノ慢ナリ。

宮戶島

或ハ皇都島ト云フ。相傳フ。小野小町國風別離ヲ賦スルモノ是ナリ。而シ其徵ナシ。事前鹽浦與井條下ニ詳ナリ。島ハ鹽松環海ノ東隅ニアリテ。最大ナルモノニシテ。周回貳拾餘里。東南補陀峯ヨリ。西ハ牛首ニ至ル　四里七拾餘步、南ハ稻崎ヨリ北ハ龍崎ニ至ル四里半六十餘步。北ハ東灘ニ接シ。西南ハ寒澤鳳島ニ隣シ。島上ニ田圃多ク民家半ハ農ニシテ半ハ漁ヲ業トス其民敦朴ニシテ淳古ノ風アリ。初メテ到レハ恍トシテ別世界ノ感アリ。武陵洞裏ニ必ス此ニ勝ラサルヲ想フ。邑ハ凡ソ四アリ。西ニアルヲ里濱ト曰ヒ。南ニアルヲ月濱ト曰ヒ。東北ヲ大濱ト曰ヒ北ヲ室濱ト曰フ世之レヲ宮戶ノ四濱ト曰フ。

藥王廟

里濱ノ東北瑠璃峯ノ下ニアリテ、里濱ト灣ヲ隔テ、相對ス。廟亦タ瑠璃ト稱シ。土人之ヲ藥師山ト曰フ。嶺ノ高サ數百仞。翠松一色實ニ瑠璃ノ稱空シカラス。天風戞トシテ洪濤ノ如シ。澎湃時ニ海潮ト相

應答シ。嶺上ニハ松樹遮蔽シ。其矚眺ハ大高嶺ノ四望敞然タルニハ及ハス。廟華整覆フニ銅瓦ヲ以テス。廟中ニ藥王ノ像ヲ置ク。相傳フ。僧慈覺ノ製スル所ナリト。或曰フ。後堀河帝貞應元年壬午。漁父海上ニ於テ網シテ之ヲ得テ。以テ之ヲ窟中ニ安置シ。後數月靈應アリ。故ニ邑民相議シ廟ヲ營ンテ以テ之ヲ安ンス。廟前ハ石階數十級。巖ヲ刻テ之レヲ作ル。階上ノ左右ニ石燈數基ヲ列ス。階下ニ鐘樓アリ。鐘ハ天文年中田村右京ノ女ノ奉スル所ナリ。階ノ右ニ二窟アリ。各方二丈許。左窟ノ奥隅ニ賛窟アリ佛像ヲ刻ム。中窟二井アリ。其深サ測ラレス。土人之ヲ鹽井ト謂フ。相傳フ。古ハ此井中ヨリ鹽涌キシカ享保年中變シテ清水トナル。今眼病ヲ患フル人。此水ヲ以テ洗ヒハ。治セサルハナシ。右窟ニ爐アリ厨アリ。巖ヲ刻テ之ヲ作ル。凡ソ此際ノ水涯皆壁ニシテ。壁下ノ砂ハ白キコト雪ノ如シ。窟ノ南數歩壁上平坦ノ處ヲ。御厨場ト曰フ。土人曰フ。昔藩祖貞公。嘗テ此島ニ獵シテ鹿羹ヲ命ス。而シテ鹿肉變セス羹遂ニ成ラス。乃チ隨フ所ノ衣笥中。忽チ御服悉ク燒ク。人以テ藥王ノ靈祟トス。貞公之ヲ悔ニ乃チ祭田ヲ附シテ以テ之ヲ尊崇ス。是レ其羹ヲ爲ル所タルヲ以テ。御厨場ト曰フ。

皇都島

藥王廟下ノ湾中ニ在リ。島上ハ翠松茂密。或ハ曰フ。小野小町國風賦スル所ナリト。側ニ二小島アリ。東ニアルヲ小鍋ト曰ヒ。西ニアルヲ孤月ト曰フ。

落月洞

藥王廟ノ西北ノ海涯ニアル巖腹ナリ。洞ハ正西ニ面シ。手樽三浦ノ諸浦ニ對シ。海上一道島嶼ノ落月ヲ遮蔽スルモノナシ。蓋シ瑠璃峯ノ西北ヨリ東灘ノ界ニ及フマテ。山嶺列峙シ。其下ハ皆危巖削壁攀躋スヘカラス。故ニ遊人徒タ舟賞スルノミ。而シテ峯巒盡クル所。東灘ト相對スル者ヲ。龍崎トス

垂水

落月洞ヲ距ル北ニ數十歩沃泉アリ、崖上ヨリ湧キ出ツ、崖下瀦ナ爲ス、清澈鑑ムヘシ。久旱涸レス、土人之ヲ稱シテ垂水ト云フ。舟船過ルモノ多ク之ヲ取ル。

龍崎

怪巖海ニ臨ミ龍首ノ如シ故ニ之レニ名ツク。又一名龍鼻崎ト云フ。松島ノ人或ハ蛇崎ト云フモノ蓋シ誤傳ナリ 大洋崎左ハ則チ鹽松環海。蓋シ鹽松環嶼中ニ大洋口ト稱スルモノ五アリ所謂嶼崎前桂島ノ一。(明道浦)寒澤・寒澤宮戸兩島界ノ一。(鰐魚淵)此ヲ合セテ五ト爲スナリ。龍崎ノ東背ハ則チ繪濱ト爲シ、椿田ト爲ス、各後ニ見ユ。

大高峯

瑠璃峯ノ東南ニアリ、一ニ雄鷹峯ト云フ。名跡志及ヒ開老志共ニ酡霰峯ニ作ル。春來レハ絳霞峯頭ヲ帶ヒ春色ニ醉フニ似タリ。故ニ之ヲ稱ス、鹽松環海四山ノ一ニシテ。四山中最モ高峻ナリ。其山岵四望敞然西南ハ環海水天滉瀁。島嶼。洲渚。斷續起伏シ。掌上ニアルカ如シ。遠クシテ羽ノ諸喬嶽ヨリ。相馬・巖城ノ諸山ニ至リ。東北ハ石港・金華ノ諸境以南、滄溟萬里ノ中一青葱ノ相遮ル者ナク。皆ナ一歩ヲ勞セス坐シテ指點スヘキナリ。其近クシテ目下ニ在ルハ、里月大室ノ四濱ヨリ、鳳・桂ノ諸島ニ至ル迄、丘壑錯列林巒碁峙、田畝・原隰・鷄犬・桑麻・屋廬・人物。皆ナ目睫ニアリ、渺トシテ勝絶ノ境ト謂ツヘシ、蟻垤ノ如ク、江村山落往來スル所ノ寸馬・豆人樹間ニ延緣シ。出沒定リ無ク指數スヘカラス。嶺ノ東ニ一嶺アリ、高峻僅ニ此嶺ト相頡頏ス名ツケテ觀音嶺ト曰フ。其山麓ニ觀音大士ノ廟アリ。廟前ニ寺アリ。觀音寺ト云フ、或ハ傳フ。昔僧慈覺彌陀藥師・觀音ノ三佛像ヲ製シテ之レヲ宮戸三嶺ニ安置ス。乃チ此嶺ハ彌陀像ヲ置クノ處ナリ、故ニ舊ト呼テ彌陀ノ峰ト曰フ。後チ像ノ所在ヲ失ス。峯ハ亦略稱シテ阿陀ノ峯ト曰フ。又益略シテ陀ノ峯共稱ス。而シテ

大高雄鷹其ニ。國音阿陀ト相近シ。故ニ此數訛ヲ致スナリ。余此地ヲ詳ニスルニ。瑠璃ノ峯ハ北ニアリ。觀音ノ峯ハ東ニ在リ。而シテ此峯傑然中ニ在ルヲ以テ。其説或ハ然ラン。或曰ク。富山ノ勝ハ奇絶ナリト雖モ。臨眺大率鹽松環海中ニアリ。此峯ノ臨眺ハ環海ノ外。別ニ一大勝景アリ。若シ仮リニ優劣ヲ比較スレハ。富士ノ勝ニ倍スルト謂フモ。過言ニアラサルヘシト。余曰ク。固ヨリ然リ。彼レ有テ此有リ。彼此唇歯更互集テ鹽松ノ勝ヲ大成ス。亦タ何ソ優劣之ヲ論センヤ。

里　濱

藥王廟ノ南ニアリ。一ニ沙土濱ト曰フ。邑ハ濱ヲ抱キ東面ハ民戸五六十巷ヲナシ。屋宇頗ル宏整ナリ。巷ノ東背ヲ醫王寺ト爲ス。

醫王寺

降阜上ニアリ。東北ハ仰テ大高瑠璃ノ峯ニ對シ。灣中ヲ俯鑑スヘシ。而シテ臯部・孤月・小鍋・屏風ノ諸嶋。各々奇ヲ獻ス。寺ハ舊ト天臺ヲ宗トシ。今改テ密乗ト爲ル。藥王廟祭祀ノ事ヲ主トル。寺主曰ク。藩祖貞山公嘗テ藥王ヲ崇敬シ。許多ノ田租ヲ附セント欲ス。主僧ノ曰ク。寒素清約ハ桑門ノ分ナリ。恐クハ後ノ居ル者。縱ニシテ却テ情タランコトヲ。之ヲ計スルニ粟菁ヶハ粱一日一升ヲ以テ。藥王ニ薦メ主僧ニ給スレハ足レリト。公乃チ附スルニ。毎歳租米三石六斗ヲ以テシ。仍ホ今ニ至テ律令ノ如シト云フ。寺ノ西方人家ノ背ニ小祠アリ。土人石神祠ト稱ス。何人ノ奉祀スルヲ詳ニセス。寺西地勢西ニ走ル者里餘其盡クル所ヲ鰐魚崎ト曰フ。崎ハ西寒澤ノ北隅寺崎ニ對ス。崎北ニ二小嶋アリ。一ヲ岸ト曰ヒ。二ヲ沖ト曰フ。沖嶋ノ西三嶋相連ル。之ノ名ツクテ續ト曰フ。蓋シ三島連續スルニ取ルナリ。

鰐魚淵 附山神廟

醫王寺ノ南ニ渡口アリ。是レ宮戸・寒澤兩嶋ノ界之レヲ鰐魚淵ト曰フ。土人曰ク。古鰐魚アリ棲ム。イハユル鹽松環海五口ノ一ニシテ。海ノ狹キコト一百

川ノ如ク兩岸絶壁々上ニ翠松羅列ス。枝葉水ニ鑑シ仰ケハオカニ蒼天ヲ見ルノミ。而シテ水深シ。故ニ大船巨艑石港ヨリ諸方ニ往ク者。先ツ此淵ニ及ヒ寒澤島前ニ就キ。風日ヲ察シテ從チ發ス。渡ノ東南ニ峻嶺アリ。松樹茂々陰セリ。土人之ヲ新山ト謂フ。嶺ニ山神廟アリ 新山權現ト稱ス。相傳フ。大同貳年之レヲ置クト云。是レ土人ノ記ニシテ信ヲ措クニ足ラス。山ノ東南水田數十頃アリ。是レ舊ト曲灣ナリシカ灣口ヲ塞絶シテ以テ田ト爲ス者ナリ。

蛤濱

末卷ニアク

刈藻崎

新山以南ノ地海上ヲ出ル貳里餘。是レヲ刈藻ト爲ス。崎端屈盤シテ勾ヲ爲ス。昔シ洪浪崎腹ヲ衝注シ。崎爲メニ崩開シテ澗ヲ成ス。澗ノ兩岸ハ絶壁數百仭。上合シテ下開シ。其上合スル處獨木ヲ架シテ橋ト爲ス。橋ノ長サ貳丈餘。澗底頽波傾瀾滲蘯ノ勢雷ノ如シ。聲遠近ニ聞ユ。之レヲ瞰スル者神ヲ驚カシ。之レニ臨スル者魄ヲ駭カス。崎前ニ五六嶋アリ。日明屋ト云ヒ。岸鷹ト云ヒ 沖鷹ト曰ヒ。茅ト云フ。其他末タ名ヲ詳ニセス。

鷲津浦

刈藻崎ノ東ニ灣アリ 是ヲ鷲津浦ト云フ。土人多ク灣隅ヲ杜シテ以テ水田ト爲ス、浦ノ東ハ即チ月濱ト爲ス。

月濱

宮戸嶋ノ南隅ニアリ 乃チ刈藻崎ノ東一ニ落月灣ト稱シ。戸數五十大洋ニ面ス。而シテ濱中隴畝多シ。故ニ漁ヲ以テ枝業ト爲ス。北背ノ岡上ニ神明廟アリ。觀音堂アリ。相並ンテ共ニ南面。其西ニ寺アリ。寶劍寺ト曰フ。土人曰ク。寺ハ古ヘ神劍ヲ藏ス。是寺號ノ由テ起ル所ナリ。濱ノ左海岸ニ奇巖アリ。巖下ニ洞穴アリ。土人潮ノ進退ヲ待テ便道ト爲ス。濱右ノ峻嶺ヲ稻崎ト曰フ。上ニ愛太子ノ廟アリ。廟前ノ山勢

東南ニ走リテ海ニ出ツ。是ヲ劒崎ト云フ、崎頭三峯峭崿樹ノ如シ。劒崎ノ前ニ巨嶋アリ。大櫃ト云フ。全嶋一石山、嶋ノ東隅ヲ御洞崎ト云フ。崎腹ニ巨大洞アリ。舟船帆檣シテ其中ヲ往來ス、故ニ大洞崎ト名ツク。相傳フ。古昔濱前ノ波浪常ニ悪シク。漁船ノ出入毎ニ多ク覆沒ス。土人之ヲ患ヒ相謀テ、此崎ヲ鑿テ以テ、潮勢ヲ割ケハ、則チ應サニ其患ナカルヘシト。然レトモ其術ナシ。偶マ寶劍寺僧衆ニ謂テ曰ク我神夢ニ感ス。必ス能ク之ヲ爲スト。乃チ寺中藏スル所ノ寶劍ヲ以テ海ニ沈メ、誠心禱請スレハ則チ海水爲ニ退クコト里餘。則チ土人之ヲ驅テ以テ之ヲ鑿チ、洞遂ニ成ル。其後永ク覆沒ノ難ナシ。洞ハ神助ニ據テ成ル、故ニ之レヲ御洞ト稱ス。蓋シ之ヲ尊フナリ、御洞崎ノ前ニ嶋アリ、紀嶋ト云フ。嶋甚タ危峻ナリ。上ニ喬松五六株アリ。此島嶼崎鼻節ノ諸濱ヨリ遠ク之ヲ望メハ、則チ他ノ諸嶋ヲ見スシテ。獨リ此嶋ヲ見ル。故ニ亦御洞崎ヲ稱シテ　紀島崎ト爲ス。島ノ四邊ニ小嶼五六アリ、東ニ在ルヲ里島ト曰ヒ。南ニ在ルヲ雀島ト云フ　大濱候峰等ノ諸境ヨリ之ヲ矚メハ、黃雀翼ヲ張テ飛ノニ似タリ、土人或曰ク。雀海ニ入テ蛤ト爲ル。海邊往々之ヲ觀ル。而シテ此嶋邊殊ニ多シ。季秋ノ月千百ノ雀群ヲ爲シ悲鳴シテ此島ニ弔スル數回ニシテ　後チ水ニ入ル因テ島ノ名ト爲スト　大櫃嶋ノ南ニ島アリ、小櫃島ト云フ。形大櫃ニ似テ小ナリ。其南ニアルヲ中野島ト云フ。島上ハ松樹密茂シ。側ニ小嶼アリ。頭巾ト云フ。其南ニ鳥嶋アリ。海老島アリ。横根嶋アリ。蓋シ小櫃以南ノ嶋嶼劒崎ノ陰ニアリテ。月濱ノ能ク矚スル所ニ非ルナリ。則チ稻崎愛太子ノ廟前ヨリ俯臨スレハ。刈藻・鼻節諸崎ヨリ。以テ相馬ノ諸崎ニ至ル。東ハ大濱候峯ヨリ里濱ニ至ル。左視右顧猶ホ馬背ニ在ルカ如シ。而シテ劒崎ハ馬背ニアリ、大櫃ハ頭ニアルナリ。

大濱

月濱ノ東ニアリ。漁家六七十戸。山ヲ後ニシ海ヲ前ニシ濱ノ東ハ則チ候峯タリ。里崎タリ。西南月濱。釼崎。大槓。紀嶋ノ諸區ニ對ス。面シテ山色巖彩他ノ諸境ニ比スレハ則チ奇異ナリ。濱ノ西海涯亦奇巖多シ其最モ賞スヘキ者ヲ火焰巖トナス。巖ノ形烈火ノ如ク。其色濃赭色ニシテ嚮邇スヘカラサルノ趣アリ。濱後ノ山下ニハ八幡神廟アリ。何人ノ奉祀タルヲ知ラス。道士多寳院ナル者アリ。祭祀ヲ掌トル或ハ日ク。僧慈覺之ヲ置ケリト

候峯

大濱ノ漁家ノ東頭ニアリ。磴路急峻巓ニ通リ平坦ナル所ニ。小屋數楹アリ。候吏居ル所ナリ。窓ヲ開テ南ヲ望メハ。海水天ト相接シテ凌空ノ想アリ。吏居ヨリ登ル數十歩ニシテ巓ニ至ル。巓上ハ平衍數歩。中央ニ塡ヲ爲ル。方一丈許是ヲ候亭ト爲ス。是レ異賊ノ襲來ニ供フルナリ。塡ノ南隅ニ架ヲ爲リ。以テ望遠鏡ヲ掛ク。鏡ノ長サ七尺餘闊リ八寸。試ニ望メハ舶船數十里ノ外ニ在ルモノ。人物器械燦然トシテ審ニスヘシ。又遠クシテ數百里外ニアル者。亦巨航大船タルヲ知ル。其功千里ノ外ニ在ルナリ。不虞ノ備是ノ如クナラサレハ。則チ何ヲ以テカ其用ヲ得ン。峯ノ北ハ蔭蔽シテ東西南ノ三面ハ開豁シ。其矚眺大高峯ニ比スレハ。則チ大同小異ニシテ。東南ハ蒼海渺茫トシテ。一石一嶼ノ眼眸ヲ遮キルモノナシ。中亭ノ東ハ峭壁千仭蘿ヲ挺テ。壁下ヲ俯瞰スレハ。石礎亂峙奔瀾激衝濤沫雪ノ如シ。其他嶋嶼數十相列シテ嶋足ハ皆波濤ノ琢磨スル所トナリ。奇狀怪態物ノ比スヘキナシ。

椎山 附是崎

山ハ候峯ノ南麓ヨリ以東。起伏透迤トシテ海ニ入ル三里餘。是ヲ椎山ト云フ。山上ハ喬松林立シ。左右ハ削壁ニシテ人跡至ル所少ナク。幽邃寂莫人或ハ偶々至レハ。必ス神異ヲ見ル崎ノ北ニ三小嶋アリ蝬ト云ヒ。蝸ト云ヒ。中ト云フ。崎ノ南ハ島嶼最モ多

ク其中大ナル者ヲ羽嶋ト云フ土人曰ク島上ニ多ク巽鳥ノ羽ヲ墮スアリ故ニ名ツクト羽嶋ノ西ニ二嶋アリ大ナルヲ大根ト云ヒ小ナルヲ小根ト云ヒ最小ナルヲ底根ト云フ。其西ニ又一嶋アリ前島ト云フ。

室濱

大濱ノ北ニアリ一ニ室芦灣ト云ノ漁家四拾餘戸篠峯ノ北ニアリ相距ル纔カ二三百餘歩ニシテ其間由溪嶮絶道路ノ由ルヘキナシ故ニ道ヲ大濱ノ西北ニ取レハ則チ二百十歩ニシテ達ス濱ノ東面ハ金華山ニ對シテ權由ハ濱ノ右斜ニ橫ハリ濱ノ左ヲ室濱崎ト云フ崎北ハ峯嶺連續危岸海ニ臨ム濱ノ東北島嶼數十餘島ノ形狀傀奇ナリ濱ノ南ニ峻嶺アリ南篠峯ト連接ス是レ大室兩濱ノ界トリ土人之レヲ大濱峯ト稱ス。嶺上ニ神明ノ廟アリ廟前ハ東海ニ俯シ濱後ニ田圃アリ。田圃ノ西ニ愛宕山アリ。愛太子ノ廟ヲ置ク。廟前ハ又能ク東溟ヲ眺メテ大濱嶺ト趣ノ異ニシテ絶勝ナリ。

潛浦

室濱ノ北ニアリ二灣アリテ一ハ北ヨリ南ニ入リ屈曲里餘是ヲ潛浦ト云フ他ノ一ハ灣口此ト同クシテ西瑠璃峯ノ東麓ニ至ル是ヲ釣浦ト云フ蓋シ潛ヶ浦ハ則チ水底ニ潛ミ以テ鰒魚ヲ獲釣浦ハ釣ヲ垂レテ以テ衆魚ヲ捕フ故ニ兩灣ノ名トナスナリ。灣口ノ北土人之レヲ金前崎ト稱ス。是レ釣潛崎ノ訛ナリ。灣口ノ南ニ大雙松小雙松ノ二崎アリ灣口ノ北ヲ鶴崎ト云ノ。鶴崎ト藥王廟ノ西龍崎ヲ去ル僅ニ里餘此際無名ノ島嶼六七アリテ龍崎ニ近キ者ヲ小鳥島ト稱ス。

寒澤島

一ニ寒風澤ト曰フ。或ハ寒風濤ト稱ス。東西里餘南北二里許リ東ハ宮戸島ニ接シ北ハ風島ニ隣シ西ハ納甕島ニ連リ。西南ハ桂島右濱ニ對シテ東南ハ大洋ナリ。海ハ灣ヲシテ島ヲ繞ル是レ西北納甕島

ノ界ニシテ則チ是レ鹽松海五口ノ一ナリ。大船巨船石港ヨリ諸方ニ往ク者。先ツ此ニ就キ風便ヲ待テ後チ發ス。故ニ居民百餘家津頭ニ列シテ。戶富ミ家賑ハヒ。器具整麗諸島中。繁華其右ニ出ルモノナリ。人家ノ東背ニ寺アリ。寒澤寺ト云フ。寺ハ鹽浦法蓮寺ニ隷ス。寒澤寺ノ東阜上ニ寺アリ。生理庵ト名ツク。庵ノ南數十步ニ觀音堂アリ。堂ノ左ニ小徑アリ宮戶島ニ之ク可キナリ。津頭人家ノ北ニ渡口アリ。納嚢島ニ渉ルヘシ。渡ノ北小灣中ニ一小島アリ。捨ト云フ。其北ニ灣アリ。三百羅ト云フ。三百羅以北地勢愈々北シテ。宮戶島ノ西ニ出ツ。其窮スル所ヲ寺崎ト稱ス。寺崎ハ東宮戶・鰐魚崎ニ對ス。三百羅ヨリ玆ニ至ル。其間ニ二島アリ。一ヲ乾羅ト云ヒ。一ヲ乾綱ト曰フ。

日和山

寒澤島ハ家ノ南頭ニアリ。山巓ハ長松五六株對列ス。松下ニ燈標アリ。高サ二丈許リ。中ニ二階ヲ設ケテ點火ニ便ナラシム。是レ暗夜舟船ノ津ヲ追フモノノ迷ハサルニ要スルナリ。燈ノ左右ニ數碑アリ。皆佛像及ヒ梵文ヲ彫ム。山ノ南ハ峭壁石仭海ニ臨ム。壁下ニ一島アリ。前島ト云フ。前島以南近フシテ石濱。遠クシテ吉田・鼻節ノ諸濱。皆矚眸ニ入リ。山ノ右ハ則チ納嚢島ノ東ニシテ。崎崖屈曲ス傍岸ニ數島アリ近キモノヲ夜景ト云ヒ。夜景島ノ南ヲ起牛ト云フ。臥牛ト云フ。土人或ハ起臼・臥臼ト稱ス。二島ノ南ニ掛田島アリ。

掛田島

或ハ陰田島ト稱ス。絶壁峻峭高サ數百尋。島足ハ波濤激盪舟船其下ヲ過キレハ。石壁上ヨリ崩墮シ。神飛ヒ魂消ス。土人曰ク。島ハ田ノ字ヲ掛ケルカ如シ。故ニ名ツクト。或ハ曰ク。長至ノ日陰尙多シ。因テ以テ名ト爲スト。島嶼中奇絶ト稱スヘキモノナリ。

屛風巖

日和山ノ左石厓高數丈。東ヨリ南ニ向ヒ數十步ニ

シテ一曲シ西ニ出ル者、又數十歩、宛然一屏風ノ如シ、大洋ヲ隔絶シテ風波入ラズ、灣中ハ舟船輻湊ス。此土ノ繁華ナル者、蓋シ奇巖アルニ依レリ、屏風巖ノ東南ノ地海上ニ出ル者、貳里餘、其地ノ盡クル所ニ兩崎アリ。西ヲ大閉戸ト云ヒ東ヲ小閉戸ト云フ。兩崎以東宮戸、刈藻島ニ至ル、其間四里許、灣崖凹凸大小島嶼數十ニシテ、其宮戸、刈藻崎ニ近キモノヲ、青島ト爲シ、筒礵島ト爲ス。其餘琴ト云ヒ、鼓ト云ヒ白ト云ヒ、鐺ト云ヒ、或ハ差池飛燕ノ如ク、或ハ委蛇ノ走ルカ如ク、曰ク跨ト稱シ、兩島殆ント跨カマルヘク或ハ語ト稱シ、二島頭ヲ交フヘク、又沖刈藻、岸刈藻アリ。其他士人ト雖モ、尚ホ稱呼ヲ詳カニセサルナリ。

鳳島

寒澤島ノ西北ニアリ、島ハ東西狹ク南北ニ長シ、周回五里餘、漁家三十餘戸、島ノ東南隅ニアリ。西北ハ松山鬱蒼山上ニ神明ノ廟アリ、漁家ノ背ニ舊ト寺アリ、彩羽寺ト云フ、士人或ハ訛シテ西雲寺ト爲ス、國音相近キニ因ルナリ、寺ハ今廢ス。相傳フ、古昔島上ニ鳳凰多ク棲ム故ニ名ツクト、島ノ四面各奇景ニシテ、北隅ヲ筐崎ト云フ、崎ノ北ハ則チ大小湯殿二島タリ、二島ハ已ニ宮戸、龍崎條下ニ見ル、其他東難ト宮戸トノ間海口以外皆斷中ニアリ、東ハ則チ寒澤ノ西北隅、寺崎、三百羅諸區ニ對シテ宮戸瑠璃大高ノ諸峯。其上ニ秀拔シ、西面ニ百刈叢アリ、大鯨島アリ、小鯨島アリ其他ハ問答天付等ノ小嶼六七相列ス。遠望スレハ玉塚、三浦、手樽ノ諸濱、富山ノ麓ニ列シ連ツテ。松島ノ諸洲ニ及フ、島ノ南ニ鷺島アリ。鷺島ハ南北ニ長ク東西狹シ、上ニ隴圃多クシテ鳳島ノ民、蔬菜ノ給ヲ茲ニ取ル、其南ニ小島アリ小人ト云フ。小人島ノ南ヲ壤田島ト爲ス。士人或ハ茨木田ト稱ス、亦巨島ナリ。島ハ皆山ニシテ、山ハ皆松樹ナリ。中央ノ最モ高キ所ヲ長頭峯ト稱シ。長足峯ト云フ。或ハ流森ト稱ス。南隅ヲ大峯ト云フ、壤田

島ノ南ニ四小嶼相列ス、共ニ累石島ト云フ、其他五六ノ小嶼其名ヲ詳ニセス、

納嚢島

鳳島ノ西南寒澤ノ西ニアリ、寒澤島ヲ隔ツル僅カニ一海口、東西北ハ皆山ニシテ、西南ニ灣アリ民家三拾餘戸、灣ニ面シテ桂島。石濱ト相對シ、屋宇頗富寒澤。鳳島ニ優ル、人家ノ東背山上ニ寺アリ、某寺ト云フ、寺ノ背海ニ臨ム所ヲ子崎ト云フ、或ハ根崎ト云フ、寺ノ南山下ニ水田數頃アリ、寺ノ北ハ地勢北ニ走ル數百歩是ヲ北鼻ト云フ、即チ北塡田累石ノ諸島ニ對シ島ノ西邊ニ島嶼多シ西北ニアルノ大崖ト云フ、神樹ト云ヒ掛鞍ト云ヒ、鶴脊ト云フ、正西ニアルヲ犬ト云ヒ、大ト云フ。大島ハ其形大ノ字ノ如ク。犬島ハ犬ノ字ノ如クニシテ。傍ニ一石アリテ點ヲ加ヘタルカ如シ、故ニ犬ト云フト、命名ノ巧ナリト謂ツヘシ、南面灣中ニ二島アリ。共ニ中島居ト云フ、其南ニ柏樹島アリ。別ニ後ニ出ツ、柏樹島居ノ東南ニ小嶼七八アリ、小人鳳島ト云フ。是レ又同名アリ、小爵ト云ヒ履ト曰ヒ、腰掛ト曰フ、東ハ則チ寒澤渡口ニシテ。渡頭山上寒澤人家ニ俯臨ス。東南ニハ則チ夜景。臥牛。掛用ノ諸島アリ、而シテ此際大洋潮汐ノ衝ニ當ル。崎碁島是皆洞穴アリ。激浪奔濤其中ニ入リ、奇異壯觀瑰偉雄麗ノ致、實ニ夥シ。西南灣前ニアル者ヲ。柏樹島ト曰フ。柏樹島ノ西ヲ松樹ト曰ヒ、黄楊ト曰ヒ。根野ト曰フ、柏樹島ヨリ岸ニ沿テ東南掛田島ニ至ル間、無名ノ島嶼ヲ得ル者十三アリ

某　庵附觀音堂

柏樹島

納嚢島ノ南灣前ニアリ、全島巨巖ニシテ、島ノ南腹ニ三洞アリ、各方五丈餘。各洞ニ方口三四アリテ、宛然巨室ノ如シ、中洞ニ二井アリ、又一口ヲ穿チ島后ニ通ス。相傳フ。昔此洞ヲ穿チテ巨舟ヲ造ルノ所ト爲ス舟成テ海淺クシテ之ヲ出ス能ハスシテ遂ニ止ムト曰フ。

冥戸浦

納嚢・桂島兩島ノ界是ヲ冥戸浦ト曰フ。冥戸或ハ妙道ニ作ル。又明戸ニ作ル。是レ皆國音ノ轉訛ナリ。鹽松在口ノ一ニシテ、松島ヨリ遠ク之ヲ望メハ、則チ此口ト嶼崎ノ前口トノ見ルノミ。浦ハ多ク海鰻ヲ産シ其味亦美ナリ。

桂島

島ハ東西ニ長ク其形琴ノ如クニシテ、西ハ額ニシテ東ハ尾ナリ。即チ額ハ桂島ニシテ。尾ハ石濱ナリ。桂島ハ民家在拾餘戸 高低地勢ニ從テ構營ス西隅即チ琴舌ノ所、崩壁百餘仭。其上翠松羅列シ。是ヲ松崎ト曰フ。神祠アリ。松崎明神ト曰ノ一ニ桂島明神ト稱ス。乃チ鹽竈枝祠拾在ノ一ニシテ。世或ハ松崎明神ト曰フモノ誤ナリ。土人曰ク、近コロ崎壁崩裂シテ祀路絶ス。島民乃チ人家ノ西背高キ所ニ。別ニ祠ヲ置クト。祠ノ東ニ寺アリ。桂島庵ト號ス。庵ノ南ニ水田數十頃アリ。水田ノ南ニ松林アリ。松林以外ハ大洋ニシテ。南ハ嶼崎鼻節ノ諸濱ニ對ス。近汀ニ一島アリ。前島ト曰フ。

石濱

漁家四拾餘戸アリ。東北納嚢島ニ對ス。前渚ニ二小嶼アリ。相並列シ。一ヲ播盆ト曰ヒ。一ヲ飾舗ト曰フ。是レ其形ニ據テ名ツケシモノナリ。波浪ノ打ツ所、舟楫ノ觸ハル所四邊磯缺シテ其形ヲ失フ。今ニ其名ヲ存スルノミ。濱後ノ山上ニ熊野三神ノ祠アリ。其經始ヲ詳ニセス。然レトモ林木交蔭叢柯隱景靈機恐ルヘシ。其古廟タルヲ知ルヘキナリ。蓋シ紀ノ熊野ハ古ヘ徐福ノ止マル所ナリト。而シテ廟前今其祠有リト。此地アルヒハ則古ノ蓬瀛ニシテ、徐福曾テ至ルノ地。亦タ知ルヘカラサルナリ。意アル哉祀ヲ置クコト。濱以東ノ地漸ク狹ク。其上馬背ノ如シ左右崩壁海ニ俯シテ左矚最モ奇ナリ。納嚢寒澤ヨリ以テ宮戸。刈藻ノ諸境ニ至ルマテ。歴々指點スヘシ。數島將サニ東盡セントシテ。又一崎ニ出ツ。是ヲ

落星崎ト曰ヒ。一ニ石濱前ト稱ス。崎下ハ細石錯落波濤洶々タリ。崎ノ前二十餘島アリ。鱸ト曰ヒ。鯛ト曰ヒ。魴ト曰ヒ。鮫ト曰ヒ。石首ト曰ヒ。金頭ト曰ヒ。比目ト曰ヒ。大口ト曰フ。又河豚、華臍、沙摸等アリ。余土人ニ問フテ曰ク。諸島ノ名多クハ其形狀ニ因ル。此際獨リ魚類ヲ以テ其名トナスハ何ソヤト。土人曰ク。是レ捕魚者ノ名クル所ナリ。其島邊以テ鱸魚ヲ得ヘク。其島側以テ鯛魚ヲ得ヘク。其島石首多ク、其頭金頭聚ル各島皆是ナリ。其島東ニアリテ最大ナルヲ船人島ト曰フ。島ハ東西里餘南北數十歩。蓋シ海上舟船ノ寒澤港ニ入ルモノ。此ノ島ヲ以テ標トナス。故ニ此名アリ。

聯錦浦

桂島以南嶼崎ニ至ル其間五里餘。是ヲ聯錦浦ト曰フ。洲嶼數百、奇巖怪崖千狀萬態。譬ヘハ猶數百匹ノ蜀錦ノ如シ。玄黃各異ニシテ文采各殊ナリ。則チ麟鳳藻薈ノ美。啻ニ其稱ニ背カスト謂フヘキノミナラサルナリ。或曰ク、古袈裟浦ト稱ス。是レ數十百片ノ錦繡ヲ。斷合シテ之ヲ成スカ如シ。故ニ名クルナリ。後チ其島ノ雅ナラサルヲ以テ。更ニ今ノ名ニ改ム。桂島、松崎ノ下ニ。無名島嶼五六アリ。其南數十歩ニ芒草島アリ。芒草其上ニ生ス。藻根島アリ藻菜其下ニ叢ル。藻根島ノ西南ニ裂島アリ。島ハ分裂シテ三トナル。裂島ノ東相距ル百餘歩ニシテ二島アリ。一ヲ金剛ト曰ヒ。怒テ臂ヲ張ル。一ヲ地藏ト曰フ。兀頭ニシテ立ツ。裂島ノ南ヲ唐島ト曰フ。或傳フ。古ニ島上ニ香木アリ。因テ加羅島ト名ツク。加羅ノ國音唐ト同シ。故ニ今唐トナスナリ。唐島ノ西ヲ架梁若シクハ橋梁ト曰ヒ。屋形ト曰フ屋室ノ如シ。屋形島ノ南唐金島ト曰フ、島腹ニ洞穴數拾アリ。金ヲ鑿チタル處ノ如シ。或曰ク。昔金ヲ出セシナリト。金島ノ西南ヲ燒島ト曰フ。巖石燒黑ス。盜島ト曰フ。島ハ何ヲ盜ンテカ、此汚名ヲ得ルカ。盜島ノ南ヲ兎島ト曰フ。頭ヲ縮メテ跧踞ス。兎島ノ東南三百餘歩、

大洋中ニ二島アリ。南ニアルヲ高遠倉ト曰ヒ。東ニアルヲ沖高遠倉ト曰フ。狀共ニ似タルニ因ルナリ、兎島ノ南ヲ放馬ト爲シ。浦上ノ島嶼中大ナルモノナリ、

放馬島

一ニ神馬島ト曰フ。島ハ南北里餘東西數百歩、相傳フ。太古經津主・武甕槌・岐神ノ三神、天孫ノ命ヲ奉シテ東征シ、遂ニ陸奥國ニ至レハ、蝦夷來同シテ率從セサルハナシ、乃チ馬ヲ此島ニ放テ。天下ニ服セサルヲ示ス。因テ名ツク、或曰ク。鹽神駕スル所ノ龍馬ヲ放ツナリト。島ハ幽邃淵寂ニシテ、昔僧雲居ノ瑞巖ニアルヤ。時々此島ニ遊ヒテ。幽玄ノ勝處ト爲ス。島西ニ三島アリ。北ヲ洞轡ト曰ヒ。或ハ禿頭乾付ト曰ヒ。中ヲ乾付ト曰ヒ。南ヲ本乾付ト曰フ。此間海水淺クシテ。潮退ケハ則チ潟斥ト爲ル。故ニ乾付ノ稱アリ。土人或ハ呼テ放火ト爲ス。蓋シ乾付放火ハ。國音同シキヲ以テ、此謬ヲ致スナリ。島邊多ク淺利貝ヲ産ス。大ニシテ其味美ナリ。之ヲ乾付淺利ト謂フ。又螺殼ノ琛。魚甲ノ錦、他ノ諸區ニ比スレハ則チ多シト爲ス。而シテ地ハ鹽浦ニ近キカ故ニ。遊子旅客變童或ハ單舟ニシテ至リ、或ハ疊舸ニシテ來リ。乃チ衣ヲ攝ケ裳ヲ褰ケテ、以テ綴拾スル者、疲勞ヲ言ハス謠詠相和シ。瀟灑淸約ノ趣實ニ賞スヘキナリ。乾付ノ南ヲ立帆島ト爲シ。燒鹽島ト爲シ。雎鳩島ト爲ス。放馬島ノ西南ニ靑崖島アリ。一ニ靑蘚島ニ作ル。土人曰ク。舊浮島ト稱シ。國風ノ賦スル所、即チ是ナリト、諸歌集傳記ニ稽フルハ。則チ浮島ハ別ニ鹽浦ノ西南ニシテ。此島ニアラサルヤ明瞭ナリ。此異[illegible]ノ[illegible]ル其由ヲ詳ニセス。島ノ四周ニ巖洞多シ。西南嶼崎ニ對シ。是鹽松環海五口ノ一ニシテ。西側ニ白崎アリ。或ハ馬背島ト云フ。白崎ノ西ニ一島アリ。岡子ト云フ。或ハ岡子山ト稱ス。靑崖島ノ東南隅ニ。大小二島アリ、大ヲ躑躅ト云ヒ、上ニ地藏ノ石像ヲ置キ、小ヲ浪華ト云フ。

蛤濱

鰐魚淵渡口ノ南數百歩。砂涯ノ處是ヲ蛤濱ト云フ。蛤甚タ多ク。隻手砂ヲ鋤ケハ砂淘シテ蛤盈チ掬スル頃刻ニシテ數斛ヲ得ヘク。且其味美ニシテ。他處ノ產スル處ニ異ナリ。濱前二島アリ。崎島ト云フ。崎島ノ南ニ前島アリ。前崎ノ南遠ク二島ヲ望ム。是ヲ東涯島ト曰フ。

某　庵附觀音堂

納囊島人家ノ後口山上ニアリ。庵前ニ觀音堂アリ。庵及堂ト共ニ某年間。島民莊右ナル者ノ創建スル所ナリ。堂中ニ又莊右夫妻ノ像ヲ置ク。蓋シ莊右ハ島ノ豪富ニシテ。性施與ヲ好ミ人ノ急ニ赴クコト己ヲ得サルカ如シ。島民曰ク。曾テ獅山公未タ儲嗣タラスシテ。松島天童庵ニアリテ學フ。一日學倦ンテ獨リ自ラ小舟ニ棹シテ島嶼ノ間ヲ徘徊ス。忽チ颶アリ舟ヲ飛ハスコト矢ノ如ク。狂濤奮湧將サニ沈沒セントス。人多ク岸上ヨリ之ヲ望ムモ之ヲ救フノ術ナシ。徒ニ跪踠スルノミナリ。

鹽松勝譜卷之六　畢

鹽松勝譜卷之七

鹽浦之部目次

拔禊川	一ノ澤	雲上寺
慈雲寺	華表原	普門院
見龍院	願成寺	稲荷山
鹽道	上ノ野原	一株松
獅子崎	芝浦	天滿崎
鬼頭崎	牛渚附祇園林	鹽通シ
千代崎	葦航寺	澤尻崎
金剛寺	君岡	舘崎
道昌寺	菖蒲田	長養寺
本源庵	菖蒲田神祠	養松院
水門濱附天女島	水門藥王廟	名山書庫

鹽松勝譜卷之七

仙臺　舩山光萬年筆

仙臺　佐澤廣胖校訂

鹽浦之部

祓禊川

水源二有リ其一ハ春日村ノ北山下ヨリ出ツ其一ハ鹽竈後ノ山ヨリ出テ、。合シテ一水トナリ南流シ。杉坂巷口ヲ經テ愛宕山下ニ至リ。東折シテ西巷ノ南背市店間及ヒ歩斷橋東ヲ過テ東流海ニ入ル。凡ソ鹽竈ニ詣ル者ハ。此水ヲ用テ盥漱或ハ沐浴シテ後登山ス。

一ノ澤

拔禊川ノ南ナリ。澤東ヲ愛宕山ト爲ス。

雲上寺

垣山東舍東南ニ在アリ。淨土宗ニ隷ス。其創始ヲ詳ニセス。

慈雲寺

雲上寺東ニ在リ。松島瑞巖寺末寺、僧牧叟ノ開創ナリ。

華表原

垣山西南ニ在リ、土人傳言フ、古華表アリ。鹽廟ニ至ル此處ヨリストゾ、今田圃トナリ其名ヲ存ス。或曰ク。石華表田中ニ沒在スト。耕者時ニ或ハ之レヲ見ル。故ニ其田ヲ華表田ト稱ス。

普門院

白坂大悲閣ノ側ニ在リ。法蓮寺枝院十二ノ一ニシテ。大悲閣ノ事ヲ掌トル。寺前ハ江面ニ臨シ亦タ佳境ナリ。

見龍院

普門院下ニアリ道士居ス。

願成寺

東園寺西南巷ノ南口ナリ、松島瑞巖末寺ナリ。傳ニ曰ク。圓福七世僧靈巖ノ創建ナリ。

稲荷山

東園寺南ニアリ、山上ハ海面ヲ東望シ、水天滉漾山下ハ丘陵蜿蜒起伏掌上ニ在リ、眞ニ浦南ノ佳景ナリ。

鑿道

稲荷山ノ東ニ在リ、山半ヲ鑿開シテ以テ道ト爲ス。其廣サ二歩。兩壁高サ數仞。平滑ニシテ斧痕ナシ。宛カモ一刀截斷スルモノノ如シ、此レヲ經テ尾島崎ニ達スヘキナリ。鑿道背左ハ石壁屏障ノ如ク然リ。是レ土人ノ石炉及諸石器ヲ作ルノ處ニシテ、石質柔カニシテ壞レス、松島出ス所ト同質ナリ。其石ヲ取リ割テ方ト爲ス、巓ヨリ足ニ至ル級段有ル無シ。故ニ截然トシテ屏障ノ如シ。

上ノ野原

梅ノ宮ノ北里許ニ在リ。山上曠平ニシテ四方一矚。鹽松陸路ノ一。此野ヲ經故ニ上野路ノ稱アリ。此間タ蕨薇ヲ生スル尤モ多シ故ニ毎花朝ノ節後。晴景麗日ニ遇ヒハ、則チ鹽浦人長幼來リ遊ヒ。青ヲ踏ミ蕨ヲ採リ。以テ娯樂ノ處ト爲ス。路傍壇シテ小祠ヲ

置ク。是レヲ春日神祠ノ蹟ト爲ス、仁明帝承和中。奥州ノ刺史藤富士麻呂ノ創スル處、後チ八百餘年ヲ歷、寛文中、肯山公之レヲ春日村ニ移ス。事後ノ春日祠ニ詳カニス。

一株松

上ノ原ノ北ニ在リ、樹老蒼孤立シ。其西ニ桁ノ宮ノ蹟アリ。

獅子崎

阿母懐ノ東ニアリ、崎頭ノ巖狀獅子ノ口ヲ張ルカ如シ故ニ名ツク。崎ヲ過レハ則チ地漸ク北ニ折ル。故ニ崎上ノ矚望尤モ濶ナリ碑アリ高サ五尺餘リ、横ハ是レニ半セリ。上標篆ニ曰ク。獅子崎ノ碑ト銘ハ則チ八分書ヲ用ユ、銘ニ曰ク。日東名區。千斯萬斯。奥海松島。孰爭雄雌。愛舟愛遊。即有獅崎。侯山面海。景勝最琦、左望富山。恵日晴曦。右仰鹽釜。慶雲藹滋。島嶼點波。如局布棊。松杉吟風。如竹和絲。兎興匪壽。無聽非詩。應接不暇。耳目歡怡。藝

之嚴島。形穢可思。丹之橋立。退舍可否。徠有神僊。護有靈祇。洽楽之辭。誰可能爲。人口是記。更我勒碑。傳之千歲。示之八維。文化歲次庚午夏六月　正三位刑部卿藤原貞直并篆。

芝　浦

琵琶崎ノ東南ニアリ

天滿崎

怒濱ノ東南ニアリ　此ノ間ノ崎中最モ高上ニ松アリ。土人相傳ヘテ曰ク、昔シ松下ニ天神社アリ。因リテ名トナス。社今廢ス或人ノ曰ク、天滿舊ト天馬社ニ作ル。太古鹽神御スル處ノ馬死シテ此ニ瘞ム。後世祠シテ是レヲ祀ル天馬社ト稱ス、天馬國音天滿ト同シ故ニ誤ル、天滿ハ菅公祠タリ、崎下洞穴アリ、是レヨリ彼レニ通ス　土人是レヲ天滿洞ト曰フ。

鬼頭崎

大木戸浦西ノ間ニアリ。崎鼻巖狀奇怪。因リテ名ヲ取

ル。

牛渚 附祇園林

鬼頭崎南ヲ經ル百餘歩。水廣ク砂淨クシテ西涯ニ漁家三四アリ。是レヲ牛渚ノ西トナス。頭ニ高丘アリ雜樹森々。上ニ牛頭天王祠アリ。土人是レヲ祇園林ト云フ（牛渚ハ鱠餘魚ヲ以テ名產トナス）。後ニ地宜ノ部ニ審ニス。

鑿通シ

牛渚ヨリ渠ニ沿フテ南二里餘。兩岸石壁百餘歩。壁高クシテ渠狹シ。是レニ由リテ。初メ山ヲ鑿シテ以テ漕通スル者。土人是レヲ截通シト云フ。西南大代ヲ距ル里餘。

千代崎

大木戸浦東涯ニアリ。崎西壁上洞アリ。屋室ノ如シ。而シテ楹・椽・窓・牖巖ヲ鑿チテ是レヲ作ル。中ニ數十人ヲ座スヘシ。且ツ隧道ヲ穿チテ諸方ニ通ジ。其ノ道屈曲廣狹。土人是レヲ胎内くゝりト稱ス。古老傳ヘテ曰ク。昔シ某年間不義ヲ謀リシモノアリ。乃チ此ノ洞ヲ穿チ佯リテ釣魚會ト爲シ。黨人ヲ此ニ會ス。後チ發覺シテ誅ニ就ク。

葦航寺

多門山南嶺上ニアリ。嶺ヲ海運ト號ス。萬治中。雲居禪師ノ創建スル所。松島瑞巖寺ニ隷ス。寺ノ南面瞻望亦佳ナリ。

澤尾崎

嶼崎ノ南ニアリ。其地ニ三崎アリ。相距ル各里許。而シテ中ニアルヲ間澤尾ト云ヒ。北ニアルヲ澤尾ト云ヒ。南ニアルヲ小濱澤尾ト云フ。古老曰ク。三崎ノ西舊ト藪澤故ニ名ヲ取ル。今皆田トナル。土人或ハ誤リテ左尻ト云フ。

金剛寺

吉田濱人家ノ背ニアリ。山ヲ竹林ト號ス。松島瑞巖寺巡覽記ニ曰ク。松島圓福十二世。海山慧開基。寺中守護スル所觀音像。（本郡三十三觀音ノ一）舊濱南

君岡ニアリ。國初此ノ寺ニ移ス。

君岡

一ニ黄備岡ニ作ル。土人或ハ呼テ吉田城ト爲ス。城ハ吉田神輿ノ南ニアリ。仙臺武鑑ニ曰ク。吉田城ハ勝國ノ時。吉田某居ル、或ハ傳ヘテ花淵氏ノ本城トナス。吉田某ハ花淵氏ノ家臣。花淵氏後チニ見ユ。封内古城録ニ曰ク。吉田城、東西二十二間、南北三十間。吉田某居ル。

舘崎

花淵濱人家南地盡クル所石壁海ニ枕ム、是レヲ花淵崎トナス。上ニ古城跡アリ。土人相傳ノ勝國ノ時留主氏ノ臣。花淵紀伊ナルモノ居ル。由テ花淵城ト稱ス。或ハ傳フ。紀伊此ノ城ニ存ルノ日。嘗テ大蛇ノ傷イテ伏スヲ見ル。意ロ之ヲ憐ミ。即チ家臣因幡ナルモノヲシテ。之レニ藥セシム。後チ數日一女子有リ。庭上ニ立チ曰ク。疇昔ノ日君ノ大惠ヲ被ムリ。而シテ之レニ酬エント欲シテ物ナシ。乃チ光絹一匹及ヒ昆布苗數莖ヲ出シテ以テ之レヲ贈リ、忽焉トシテ見ヘス。而シテ光絹ハ之レヲ用ヘハ盡キス。昆布苗ハ則チ之レヲ前海ニ植ユ。數年ノ後繁延シテ。吉田•嶼ケ崎諸濱ニ及フ。其ノ肥大ナルモノ。廣サ二三尺長サ數丈、味尤モ美ナリ。四方之レヲ珍トス。後チ花淵氏ノ亡ノルヤ。海潮暴湧風雨震電、乃チ昆布咸ク飛散シ。絶シテ遺種ナシ。光絹モ亦所在ヲ失スト云フ。今ニ漁家猶ホ昆布ヲ取リシ竿ヲ藏スルモノアリ。竿ノ長サ二丈許、堅木ヲ用ヘテ之レヲ製シ、竿ノ本末丁字形ヲナス。以テ昆布ヲ採取スルノ便用トナスト云フ。今菖蒲田濱ノ北ニ。諏訪明神祠アリ 花淵氏彼ノ大蛇ヲ祀ル所トナス。且ツ家ニ蛇ヲ避クルノ法ヲ傳フ、東遊奇談ニ曰ク。奥州水澤驛ハ仙臺ヲ距ル東北二百二十里。亦一都會ナリ。都下ニ花淵善兵衛ナルモノ在リ。其家避蛇神符ヲ出ス。人之レヲ佩レハ。則チ蛇蝎恐レテ敢テ近カス。余曾ツテ此驛ニ遊フ數日。偶マ一壯夫アリ、蝮蛇ノ爲メニ

咬マレ。惣身膨脹シテ菖蒲ニ勝ヘス。花淵氏神符ヲ與ヘ。即時ニシテ愈ユ。又一女子アリ蛇陰口ニ入リ。輿シ來リテ救ヲ乞フ。其門ニ入レハ蛇即チ出テ、走ル。効驗神ノ如シ。奇異ト云ツヘシ。

道昌寺

一本同性寺ニ作ル。花淵濱人家ノ西南背ニアリ。雲居禪師佛殿ヲ創建シ。扁シテ花淵山ト云フ。僧天嶺署スル所寺ニ正觀音（本郡三十三觀音ノ一）。及地藏像ヲ安ス。共ニ僧慈覺ノ製スル所。舊濱西富岡ニアリ。而シテ佛宇荒廢此ノ寺ニ移ス。寺中ニ稻荷神祠アリ。村民ノ置ク處

菖蒲田濱

花淵濱西南五里許ニアリ。漁農百餘戶海ニ面シテ居ル。小池在リ。菖蒲池ト名ツク。池舊廣大ニシテ。菖蒲滿之レヲ視レハ猶ホ稻田ノ如シ。因テ濱名トナス。

長養寺

菖蒲田濱人家ノ西背ニアリ。前海ニ三島アリ。故ニ山號ヲ三島ト云フ。相傳フ。古刹タルコト久シ。慶長年間。松島僧海晏之レヲ再建ス。

本源庵

菖蒲田濱右面ニ一崎アリ。削壁海ニ臨ミ。庵ハ其ノ上ニアリ。僧通元開創シ天嶺再建今ハ廢ス。

菖蒲田神祠

菖蒲田濱ノ後ノ山上ニアリ。一ニ諏訪神祠ト稱ス。或ハ鹽廟枝祠ト云フ。追考スヘシ。

養松院

青松濱漁家背ニ在リ。曹洞禪ナリ。明暦元年。僧雪橋大積寺ヲ開創ス寺後ニ一古碑在リ。松浦ノ碑ト稱ス。

水門濱　附天女島

青松濱西南二里許ニ在リ。水門一ニ湊ニ作ル。漁家四十戶在リ。地名水門ト稱スルモノハ。舊冠川。市川玉川相合シテ。此ニ至リ海ニ入ルナリ。國初水利

ヲ以テ之レヲ西南數里ニ移シテ、蒲生濱ニ到リテ海ニ入ル。水門ノ名虛シク存スルノミ濱西背ニ湖在リ、古川ト云ヒ前川ト云ヒ、細川ト云フ。長サ里餘、西北及ヒ藥王廟ノ前 之レハ舊時海口ノ跡ニシテ、瀦シテ湖トナルモノナリ。湖岸一島在リ、天女ト名ツク、舊ト湖ノ中央ニ在リ 今陸ニ接シ漁家背ヨリ上ル 三面絕壁危峻、上ニ妙音天女祠ヲ置ク、祠前ノ矚眺尤モ佳ナリ。湖ノ西南ニ巨石在リ。臥石ト云フ、余未タ之レヲ見ス。

水門藥王廟

水門濱西北ノ山足ニアリ、廟前湖ニ臨ミ 藥王及ヒ十二神ノ像ヲ置ク。相傳フ 僧正行基ノ製スル所舊之レヲ廟側窟中ニ安ス。村民廟ヲ建テ、之レヲ移ス。而シテ窟猶ホ存ス。側ニ寺アリ、密宗自在院ト云フ。香火ヲ掌ル。每歲四月八日ヲ祭日トナス、鄉民陸續トシテ到リ、更互市ヲナシ 耒・耜・鏤・笠・箕・篩・蠶・臺。其他農桑ノ具アラサルナシ。往來紛錯喧呼聚散蚊ノ如シ、辨識スヘカラス、凡ソ野祠・村廟祭祀ノ盛ナル。其ノ右ニ出ツルナシ。

名山書庫

裏阪華表前ニアリ 鹽竈祠官藤塚氏藏書ノ處ナリ。庫扉ニ篆シテ名山藏書ト曰フ、凡數萬卷、字紙精好皆ナ世ノ希有トスル所ナリ。

寄懷平處士在千賀浦　　源　義質

千賀浦上渺江烟、何處更隨鷗鳥眠、應咲穢心猶未息、明珠況復探龍淵

鹽　浦　　山本信有

水鄉近並蟹魚隣、江渚日兼鷗鷺親、解認衣冠多少累、簑衣一領未爲貧、

鳥起魚浮淵內外、筏來舟去水西東、心頭了了如曾記、想見雲林畫卷中、

得中爾言陸奧書却寄　　合　離

客路經秋感更多、煮鹽風景定如何、予今松島稱奇絕、不是伶仃不肯過。

鹽竈　鶴山

踏雲涉水此天遊、登眺陳山十二樓。竈裡彩烟秋不斷、隨風片々滿汀洲。

用發千賀浦望金華山　紀德民

望分千島海潮通。一朶金華擢碧空、駐棹回看鹽竈浦、蒼茫日落水煙中。

同舟中作　同

島嶼分波似奕棋。鬼工神斧逐舟移。嫣然一笑投毫去、詞句寧爭造化奇。

宿鹽浦阻雨　倉成寬

欲及松洲月。計程向松洲。洲々距此近、候晴將買舟。淒涼雨連日、溟濛氣何幽。良期過既望。心賞喜清秋。擁衾就高枕。屢起搔白頭。思家難為懷、慕景情未酬。探囊沽村釀。傾觴遣悶愁。舉頭望上帝。低頭對朋儔。

歸自鹽浦之明日。偶源太素至、席上有作因和之。

釋古梁

鹽浦曾來望碧空。名區已落夢魂中、迎君更說遊觀興。杖底重生百里風。

寄鹽竈祝官源子章。　同

鹽浦神宮幽古丘。江山顯敞對孤樓、飛檐晴落金華色。半壁寒生碧海流。奕葉禮祠從望秩。千年文獻徵春秋、漫傳源相名園似、勝概羨君供臥遊。

次韻鹽浦源子章仲旋却寄。　同

玉樹階庭興不孤。一經傳德見良圖。名家元自人才富、絕徼便知文教敷、授簡青襟裁秘思。投詩白社起幽思。高樓東望金華近。彩筆能爭秀色無。

和源子章贈韻。　同

絕境千秋海丘西。煙霞杳寂閟神栖、三回未盡名山興、一度攀來一度迷。

同和源仲旋。　同

見說孤樓倚翠微。金華突起駕潮暉。鍾來神秀毫端色、併與彩雲百里飛。

鹽浦晚興　　同

鹽煙籠山浦樓閣列、晴吹送水秋天畫、長洲落日沈、
百年幾回興盡時、一時心尚憶曾遊、興人生渺古今、

鹽浦竹枝詞　　宮本鼎

多賀城空跡寂寥、古碑一片立山腰、儒思仿佛碑頭
字、雨打風吹皆不消、

金華山詠寄山城子章　　白雲

金華山聳鬱中天、金華樓前大江邊、山上常有真人
氣、相慕相映玉樓前、玉樓百尺照雲水、翠黛千仞帶
素煙、借問何代此山頭、曾教嶽神鎮絕巔、黃金一分
改元日、祥瑞再奏詠歌年、憶君日日座樓上、歌管琴
尊會群賢、又憶東遊登樓日、壁上遍讀寄贈篇、別來
幾日興未盡、東方勝地轉興憐、富山大玄與松島、都
據金華勝景連、勝景豊爾扶桑國、青史偏載異域傳、
就中金華蓊鬱色、長入夢中無變遷、

次金華樓韻　　藤冲

老去投竿海上秋、魚龍得轉動詩眸、人間富貴無緣
客、只為煙波明月愁、

寄題煙波亭　　酒井忠見

煙波亭上碧、煙波鹽浦風光定若何、詩就飛揚意氣
限、東遊早晚聽漁歌、

題煙波亭　　林孟高

一望多漁舟煙水蒼、亭前潮湧欄楯下、三聞島入天、
人間茲遊跡、方外不求仙、自有朝陽鳳、餐霞東海
傳、

再賦煙波亭　　藤塚知明

波寂煙消四十年、山容水態自依然、而今亭就舊時月、
收拾煙波落檻前、

河原院　　宇鼎

城東明羽水、猶自可垂綸、處々炊煙起、兼嬾憶古
人、

鹽松勝譜卷之七畢

鹽松勝譜卷之八

鹽浦西路目次

坪浦附湯阪　母子澤附母子石多賀城墟
壺碑　國府舘跡　古井
鴻ノ池　五輪宅地　市川附橋
大堤　五萬崎　八幡神祠
白山神祠　丸山　勢至堂山
小蟹泉　大塘　加瀨湖
龜島　天祥寺附觀音堂　龜井泉
伊澤家景之墓　桂川　留主家系圖
舟岡神祠　十三塚　玉川寺
浮島勢至堂附法性院古舘跡　浮島附浮島松。浮島橋
多賀城　融公祠　塔原及礎石
裂石梅　化渡寺　豐聰太子堂
中要害山　彌勒阪　阪下塘及江中橋。大井

鹽松勝譜卷之八

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

鹽浦西路

此篇ニ載スル所ハ。鹽浦ノ西坪浦。多賀城墟ヨリ浮島。玉川。楓山。末松山等ノ諸勝ヲ經。東南ニ折レテ笠神。大代ノ諸境ニ至リ。出鍬。田子。蒲生ノ諸邑ニ及フ。序次ハ一ニ探勝ノ便ニ從フモノナリ。或曰ク。是書鹽浦松島ノ爲メニスレハ。則チ直ニ沿海ノ地ヲ探テ足ラン。而ルニ末松山。出鍬。田子ノ諸境ニ及フモノハ何ソヤト。余曰ク然ラス。深ク之レヲ考ヘサルノ故ノミ。彼ノ諸境タル古海潮來去ノ地ニシテ。洲渚。曲灣。皆鹽浦ノ勝ニ聯ルモノタル。古人ノ國風ニ因リ歷々證スヘキナリ。滄桑變遷陵谷地ヲ易フ。稽古者ノ注意スヘキ所ニシテ。其境ヲ熟スルニアラサレハ。焉ソ之ヲ辨スルヲ得ンヤ。詩ニ曰

ク。豈食魚則河之鯉哉ト。余此篇ニ於テ亦タ言フ。

坪浦 坪浦阪

鹽浦ノ西ヲ距ル里許。仙府ニ通スル道路ノ側ニアリテ、南玉川ヲ距ル遠カラス。昔海潮ノ來去スル所ナリ。故ニ浦ヲ以テ稱ス。旁ニ温泉アリシガ。今ハ絶エ土人其跡ヲ指シテ湯坪ト曰フ（坪ハ或ハ壺ニ作ル）。畔ニ阪路アリ。是ヲ湯阪ト云フ、其地ノ土ハ赤土ヲ帶フ故ニ又タ名ツク。風土記殘篇ニ曰ク。坪浦ハ松山ノ右ニアリテ、温湯ヲ出スト。府士萬葉ニ曰ク、湯坪ハ奏社ト鹽浦トノ間畢猴ノ旁ニアリテ。古昔温泉アリト

母子澤 附母子石

坪浦赤阪ノ西南ニアリ石ハ大サ八九尺アリテ、上ニ大小二足跡アリ、土人レヲ母子石ト名ツク、傳ヘ曰ク、古安部宗任已ニ擒セラレ。多賀城ニアリ。其妻一兒ヲ携ヘテ茲ニ流落スルヤ、徒行素跣流血淋漓シ。足跡石ニ痕ス。人見テ之ヲ哀ミ此石ニ就テ石浮圖ヲ建テ、其血痕ヲ鎮ム、後浮圖破壞シテ獨リ此石ヲ存ス。

多賀城墟

市川村ニアリ、丘陵數百歩、地悉ク田圃ナリ。府士萬葉ニ曰ク、多賀城ハ市川橋ノ東ニアリ、今農家多ク有リ、古城趾ニ四百余歩ノ堤防アリ、其中内城趾ト稱セシ東西五十六歩、南北五歩、閣趾ト稱スルモノアリ　今奏社ノ西ニアリ、地ハ古ハ止タ多賀ト稱シ或ハ多賀柵ト曰フ（天平九年）蓋シ柵トハ寨柵ノ謂ナラン、聖武帝神龜元年、大野東人始テ城ヲ此地ニ築キ之ヲ多賀城ト稱ス（寶龜十一年ニ見ユ）。陸奥守之レニ居ル。仍テ又多賀國府ト稱ス、源順ノ和名抄ニ曰ク、國府ハ宮城郡ニアリ、鎮守府ハ膽澤郡ニアリ（古國毎ニ守アリ、惟陸奥守ノ外鎮守將軍アリ、出羽ニ秋田城介アリ、筑紫ニ太宰師アリ、而シテ陸奥守ノ居所ヲ國府ト稱シ、將軍ノ居所ヲ鎮守府ト稱ス、其官或ハ攝ヲ兼ネ或ハ別ル　順ノ紀ス

ル所蓋シ攝ヲ兼ネサルノ時也。續日本後記ニ曰ク。仁明帝承和十年九月。始メテ陸奥國ニ鎭守府ヲ置ク。是レ府ヲ置クノ始ナリ。職原抄大全ニ曰ク。續日本紀天平寶字五年閏十二月。從五位下田中朝臣多太麿ヲ以ッテ。陸奥守ト爲シ鎭守副將軍ヲ兼ス。同九年鎭守將軍ト爲ル。鎭守ノ名アリテ未タ置府ノ名在ラス。其ノ後チ仁明帝承和十年九月始メテ陸奥ノ國ニ鎭守府ヲ設置ス。文治五年。源右將東征ノ日。玆ニ寓シ居ル二日。兵ヲ引テ東ノ方平泉ニ到ル。東國悉ク定マリ、歸途復タ寓シ吏ノ賞シ民ヲ犒ハス。(東鏡ニ曰ク文治五年八月大十二日己亥。曉景多賀國府ニ着キ。又タ海道大將軍千葉介常胤。八田左衛門尉知家等參會ス。千葉太郎胤正。同次郎師常。同三郎胤盛。同四郎胤信。同五郎胤通。同六郎大夫胤頼。同小太郎成胤。同平次郎常秀。八田太郎朝重。多氣太郎。鹿島六郎。眞壁六郎等。常胤ニ相具シ各々逢隈ノ湊ヲ渡リ參上ス云々。十二日庚子。今日二品多賀國府ニ休息セシメ給フ。十四日辛丑。泰衡玉造郡ニ在ルノ由風聞シ。亦タ國府中山上物見ケ岡ニ陣取ノ由其告在リ。兩方ニ亘ル。賢慮未タ決セスト雖トモ。玉造ニ在ルノ儀。猶然ルヘキノ間。多賀國府ヨリ黑河ヲ經テ。彼ノ郡ニ赴カシム、又タ曰ク、十月大朔日丁亥。多賀國府郡鄕庄園所ニ於テ。務事條々ヲ地頭等ニ仰含メラレ。就中國郡ヲ費ヤシ。土民ヲ煩ハスヘカラサル由ノ御旨。再三ニ及ヒ加之ナラス、紙ノ文ヲ府廳ニ張リ置カル云々。其狀ニ云ク。庄號ノ威勢ヲ以テ。不肖ノ道理ヲ國中ニ押クヘカラサルコト、秀衡。泰衡ノ先例ニ任ス。其沙汰致スヘキ者)。文治六年三月十五日。右將。伊澤家景ヲシテ奥州ノ留主タラシム。家景巖截村高森ヲ以テ居館ト爲シ、多賀城ヲ以テ治府ト爲ス。仍テ氏ヲ高森ト改ム國人之レヲ稱シテ留主殿ト云フ。後チ治府亦タ之レヲ居館ニ從ス。而シテ此ノ城遂ニ廢シ。國民俗ニ依テ巖截城ト稱シ。多賀國府ト曰フ。(宗

久東遊ニ記スル所。巖截村ヲ以テ多賀國府ト爲スハ。則チ國民ノ稱スル所タルヲ知ルヘシ）。續日本紀ニ曰ク、聖武帝天平九年四月戊午。陸奧持節大使藤原朝臣麿等言フ、去ル二月十九日ヲ以テ、鎭府將軍大野朝臣東人。陸奧ノ多賀柵ニ到ル。又タ曰ク。麿等三百四十五人ヲ帥ヒテ、多賀柵ヲ鎭ス。又タ曰ク。同月十五日。將軍東人多賀柵ヨリ發ス。又曰ク四月一日。東人出羽國大室驛ニ到リ賊地ニ入リ。且ツ間道シテ行ク。但シ賊地雪深クシテ馬芻得難シ。故ニ同月十一日、東人多賀柵ニ廻リ至リ。自ラ導キ新ニ通路ヲ開ク。總テ一百六十里、或ハ石ヲ刻ミ樹ヲ伐リ、或ハ澗ヲ塡メ亭ヲ疏シ。加美郡ヨリ。出羽國最上郡玉野ニ至ル八十里。總テ是レ山野ノ形勢。險阻ト雖モ人馬ノ往還大艱難無シ。玉野ヨリ賊地ニ至ルヲ得ルト。又曰ク、孝謙帝。天平寶字四年春二月丙寅。陸奧國調庸者。多賀以北ノ郡ナシテ黄金ヲ輸セシム。其法正丁四人一兩。以南諸郡ハ舊ニ依テ輸ス。又

光仁帝、寶龜十一年三月丁亥。上治郡伊治公ノ呰麻呂反シ。徒ヲ率ヒ按察使紀朝臣廣純ヲ伊治城ニ殺ス、唯獨リ大伴宿禰眞綱ヲ介ク、圍ノ一角ヲ開テ多賀城ニ護送ス。同年七月甲申勅シテ曰ク。逆虜ヲ討伐スル爲メ、坂東ノ軍士ヲ調發シ。來ル九月五日ヲ以テ。並ニ陸奧國多賀城ニ赴集シ、其須スル所ノ軍粮ハ。宜シク官ニ申シ兵ヲ送ルヘシト。同年九月己未。勅シテ曰ク、將軍賊ノ爲メニ欺カレ。此逗留ヲ致シ。此月ヲ以テ賊地ニ入ラスンハ。宜シク多賀。玉造等ノ城ニ居リ。能ク防禦ヲ加ヘ益々術ヲ練ルヘシト。又桓武帝、延暦四年四月辛未、中納言從三位兼春宮大夫。陸奧國按察使鎭守將軍。大伴家持等上言シ。權リニ多賀。階上二郡ヲ置ク。同七年三月庚戌。軍粮三萬五千餘斛ヲ仰セテ。陸奧國ニ下シ、多賀城ニ運收シ。又糒二萬三千餘斛並鹽ヲ。東海東山北陸等ノ國ニ仰キ。限ルニ七月前ヲ以テ陸奧ニ運轉シ。並セテ來年蝦夷ヲ征セントス。同月辛亥。勅ナ下シテ

曰ク。東海・東山・阪東諸國ニ調發スル。步騎五萬二千八百餘人。來三月ヲ限リ陸奥國多賀城ニ會シ。其點兵者先ツ盡ク前般ニ入リ。戰ヲ經タル叙勳者。及常陸國神賤弓馬ニ堪フル者ヲ。簡點シ同月乙丑。多治比濱成・紀眞人佐伯葛城・入間廣成ヲ以テ。並セテ征夷副使ト爲シ。紀古佐美ヲ以テ征夷大使ト爲ス。是レ乃チ膽澤ノ地ヲ攻ントスルナリ。同八年三月辛亥。諸國ノ軍令陸奥多賀城ニ於テ。道ヲ分ツテ賊地ニ入ル、

宗久紀行ニ曰ク。行テ多賀國府ニ至リ。奥ノ細道ニ由リ。南行末ノ松山ヲ濟ル。（或人ノ曰ク宗久ノ時ハ、已ニ國府ヲ岩切村高森ニ移ス。則チ其紀スル所ノ多賀國府ハ、高森ヲ謂フナリ。又日本名勝詩集ニ。高玄岱宮城八景ノ詩ヲ載ス。其中多賀暮雪ニ曰ク。古城廢壘十府池。多賀森邊暮雪奇。聞說源君犒レ民處。至レ今遺惠遠相思。是レ岩切村高森ヲ以テ。誤テ源右府寓スルノ所ト爲スナリ）

日本記ニ曰ク。崇神天皇十年七月群卿ニ詔シテ曰ク。民ヲ導クノ本ハ教化ニ在リ。今既ニ神祇ニ禮シ。災害皆耗然シテ。遠荒人等猶ホ未タ正朔ヲ受ケス」是未タ皇化ニ習ハサル耳。其レ群卿ヲ撰テ四方ニ遣リ。以テ朕ガ憲ヲ知ラシム。九月大彥命ヲ以テ北陸ニ遣ハシ。武渟川別ヲ東海ニ遣リ。吉備津彥ヲ西道ニ。丹道ニ丹波道主命ヲ丹波ニ遣ハシ。因テ之レニ詔シテ曰ク。若シ教ヲ受ケサル者ハ。乃チ兵ヲ舉テ之レヲ伐テ。既ニシテ其印綬ヲ授ケ將軍ト爲ス。是ヲ四道將軍ト曰フ。同冬十月乙卯朔。群臣ニ詔シテ曰ク。今反者悉ク誅シ。畿內無事ナリ。唯海外ノ荒俗騷動未タ止マス。其四道將軍等忽チ之レヲ發ス。丙子將軍等共ニ路ヲ發ク。十一年夏四月壬子朔己卯。四道將軍戎夷ヲ平クルノ狀ヲ以テ奏ス。是年異俗多ク皈シ。國內安寧ナリ。

擁書漫筆ニ曰ク。日本國書目錄一卷ニ在リ。正五位下行陸奥守兼上陸權介。藤原朝臣佐世。勅ヲ奉シテ

撰ス。事卷端ニ見ユ。

日次記十五。康治二年五月十四日ノ條ニ曰ク。大納言伊通。使ヲ送ル。故ニ古今集ヲ借ル註。孝經ヲ書寫シ使ニ付シテ。之レヲ送ラル。佐世（本朝博士）撰ノ所ナリ。十七卷佐世ノ草本ナリ。アキラカニ皆點アリ。世ノ寶物之レニ如カス。第九卷ノ奥朱書ヲ以テ云寛平六年二月二日。一タヒ勘了ス。時ニ謫セラレテ陸奥多賀國府ニ在リ。本朝文粹六。敦光朝臣陸奥守ニ申ス狀。京官人兼陸奥守ニ任シ。藤原佐世ニ例ス。寛平三年正月。陸奥守兼大藏少輔ニ任ス云々。

三代實錄。朝野群載。大系圖。大日本史二百十六（文學傳ニ出。）附士萬葉。弘仁十年正月丙午。峯守陸奥守。此時篁ハ父ニ從テ奥州ニ往ク。

釋千丈集ノ跋。小野篁參議正四位下峯守ノ子ナリ。

五十二代。嵯峨天皇弘仁ノ初。父ニ從テ奥州ニ往ク。

五十三代。淳和天皇天皇十年。東宮學士タリ。五十四代仁明天皇。承和元年。聘唐副使ト爲ル。五年船ヲ爭ヒ病ト稱シテ往カス。此時西道謠ヲ作ル。六年詔ヲ捍クヲ以テ。除シテ庶人ト爲シ。隱岐ニ配セラル。七年四月詔アリ京ニ皈ル。八年九月本位ニ叙セラレ。九年六月。陸奥ノ太守ト爲リ。秋八月東宮學士ヲ拜ス。十二年正月。四位下ヲ授ケ。十四年正月參議ト爲リ。近江守ヲ授ク。十五年。信濃守ヲ兼ヌ。五十五代文德天皇。仁壽二年十二月薨ス。年五十。一身ノ長ケ六尺二寸

多賀城懷古　　牛井行藏

城北空望野水淵。徘徊禾黍日離々。駐節懷古時回
望。山上惟餘一片碑。

多賀城覽古　　藤莊臨

昔作東蕃鎮。今爲北郊村。沙中樓瓦瓶。艸際壺碑存
花駐當時色。鳥招自古魂。當敎採勝客。佇立至黃昏。

壺碑　第二卷見合スヘシ

多賀城墟中ニアリ。佐久間洞巖翁壺碑考。及觀迹聞老志ニ曰ク。壺ハ苦本ノ切音惻。爾雅宮中衖ナリ。郭璞

曰ク。衖閤ハ間道ナリ。詩大雅其類維何ソ室家ノ壼。叉居ナリ。俗壼碑ニ作ルハ非ナリ。坪ハ洪孤ノ切音胡。酒器。坪ハ蒲明切音平。地平處。按スルニ。此碑ハ往時ハ城中館庭ニ在リテ、壼碑ト名ツクルモノナリ。

可成談ニ曰ク 梨壼桐壼ノ壼ト爲スハ誤ナリ。青木熟丸草廬雑談ニ曰ク。壼碑讀テ壼碑ト爲ス者。之レ誤ト謂ト雖トモ、然レトモ之レヲ熟考スレハ、則チ然ラス。壼壺字相似タリ。故ニ邦俗常ニ之レヲ誤リ書スルナリ。因テ古語ト爲ス。今庭ヲ謂テ坪ト云フ。坪邦訓壼ト同シ。 又地ヲ計ル坪ヲ以テ之レヲ數フト。之レニ由テ之レヲ觀レハ。則チ桐壼梨壺ノ如キ亦タ壼ノ字ニシテ可矣）、

從六尺五分衡三尺餘 碑後石形三稜ナリ。天平寶字六年。 惠美朝獦ノ樹ツル所。 見雲眞人ノ書スル所ナリ。中世以來草莽中ニ埋沒シ、世之レヲ知ル者ナキ數百年。元祿中ニ至リ再出セリ。 筆畫完全一字泐セス。 楷法遒健世或ハ評シテ諸葛武侯ノ書ニ似タリト爲ス、先君背山公亭ニ命シテ以テ闌搨ヲ禁ス。觀迹聞老志ニ曰ク。壼碑ハ我東奥ニ在ル久シ。而シテ累世人ノ其神妙ヲ知ル者無シ、空シク古城草莽ノ中ニ蕪沒スル幾千年。水戸黄門君。其文字ヲ吾太守綱村君ニ請ヒ。乃チ儒臣田邊氏ヲシテ雙鈎以テ遺ラシム。然レトモ未タ手搨ニ及ハサルモノ尤モ惜ムヘシ。元祿十二年。江定守及亡子義方ト地ヲ經。義方ノ術ヲ以テ之レヲ打去リ。其文字ヲ閱スルニ。筆勢高古字體寛闊。殆ント尋常ノ書ニ非ス、之レヲ考フルニ、中華ハ則チ蘇長公・趙松雪ノ上。而シテ陶弘景・顏魯公ノ亞ナリ、未タ曾テ日本ノ字躰ニ見ス。是ニ於テ切ニ怪ム。我朝此鳥迹アリ。未曾テ此ヲ以テ、妙ヲ傳ヘ其名ヲ後世ニ遺サス。仍テ之レヲ平信恕ニ告ク。信恕亦タ其妙手ニ驚ク、時ニ本朝書史ヲ編ム。乃チ之レヲ篇中ニ收ム。予亦タ屢好事ノ徒ニ示シ。之レヲ説テ本朝希有ノ書ト爲スノミ。後州

人略ホ其奇迹ヲ知ルナリ。

正德甲午ノ春。太守君僕ニ命シ雙鈎シテ以テ之レヲ進ム。筆者ノ姓名ヲ質ス。而シテ其證ヲ風土記殘篇中ニ得タリ。始テ見雲眞人ノ筆痕タルヲ知ル。其時ヲ得テ顯ル者ト謂ツヘシ。

弘齋平信恕、壺碑審定說ニ曰ク、書名ノ顯晦亦タ時運ノ泰否ニ繫ル歟。夫レ壺碑ハ。所謂筆法ノ妙書家ノ冠冕ナル者ナリ。而シテ世々之レヲ知ル者アル鮮ナシ。予往テ其書ヲ慕フテ其人ヲ知ラサルナリ。或ノ曰ク。中將姫ノ書ナリ。予既ニ論シテ以テ非ト爲ス。或人疑ラクハ唐人ノ書ト、衆議未タ決セス。佐子巖始テ之レヲ唱フ。壺碑ハ見雲眞人ノ書。日本風土記殘篇ニ出ツ。予之レヲ聞テ愕然、想フニ夫ノ風土記ハ。醍醐帝ノ時ニ始テ成ル。其書亡フルヤ久シ今焉ソ之レ有ラン。然ルニ子巖ハ信人ナリ。豈我ヲ欺ンヤ。且其博識多聞必ス觀ル所アリ。之レヲ念フテ措カス。一日田氏ノ家ニ於テ之レヲ獲其書タルヲ顧ルニ所謂什一ヲ千百ニ存シ。就中壺ノ碑ノ事迹ヲ觀ルニ。完然璧ヲ免ルアリ。予歎シテ曰ク。天也哉焉乎眞人ノ妙迹ト億ン、當時名ヲ偶野ニ獲セ。故朝縉雇テ之レヲ淨書セシム、今猶本ニ及ヒ、而シテ人之レヲ識ルナリ。空シク此ノ碑ヲ餘スノミ、天言フ能ハス　風土記殘編ヲ出シテ以テ人ニ示スナリ。名復タ後世ニ顯ル。然レトモ子巖其人微リセハ。則チ何ヲ以テ聞アルニ幽ラン。偉亦偉ト謂ツヘシ。粤ニ併セテ風土記ノ文ヲ收メ、以テ其傳ヲ永フスト云フ。時ニ正德六年丙申ノ春孟陬ノ日記之。

先哲叢談續編ニ曰ク。奥ノ宮城郡市川邑ニ、多賀城趾アリ。蓋シ中古鎭守府衙門ノ所在ナリ。天平寶字中。奥羽按察使惠美朝臣。見雲眞人ヲシテ之レヲ書サシメ、碑ヲ此ニ建テ四方路程ノ里數ヲ記セシム。世之レヲ多賀壺碑ト稱ス。續日本記。新古今和歌集。名寄歌枕）、又坪ノ石文ト稱ス、日本風土記殘編。夫木集。後世其所在ヲ失ス、沈晦世ヲ曠フスル者

數百年間、之レヲ識ル者ナシ。元祿中始テ之レヲ多賀城趾荒蕪土芥中ニ得タリ。洞巖好古ノ癖、乃チ搨摹摹勒毫釐爽ハス世ニ刊行ス。墨本傳ヘテ江戸ニ至リ。細井廣澤再ヒ之レヲ刻ス。其書絶妙ニシテ一ニ晉唐人ノ遺跡ノ如シ。是ヨリ以降人皆貴重ト爲スヘキヲ知リ。後ニハ仙臺公有司ニ命シ。新タニ其垣ヲ修メ屋宇ヲ葺造ス。蓋シ洞巖ノ請ニ從フナリ。其友弘齋平信恕壺碑考ヲ著シ。洞巖題跋ヲ作リ。其始末ヲ詳記ス。今ニ至リテ人之レヲ知ル者ナシ。實ニ皆洞巖ノ功ナリ。鎌倉實記ニ曰ク。壺碑見雲眞人之レヲ書ス。其書絶妙野道風亦タ及ハサル所也。風土記殘編ニ曰ク。陸奥宮城郡坪碑。在ニ鴻之池。（今廢）。爲ニ故鎮守府門碑。惠美朝獦建レ之。見雲眞人清書也。記ニ異域東邦之行程。令ニ旅人不一レ爲ニ迷塗ニ。觀迹聞老志曰ク。想フニ夫レ或ハ境内ニ達シ。京師ニ反命シ、逆賊ノ蜂起ヲ隣國ニ告ケ。或ハ兵ヲ募リ徒ヲ集ルノ砌。急遽倉卒ノ忙ハ。豫メ其備ヲ致シ。遠近ヲ量リ多寡ヲ考ヘ。日子ヲ定メ來往ヲ計リテ。緩急遲速ノ設ヲ擇ブヘキナリ。古人所レ謂凡事預則立事前定則不レ困者。此碑ニ於テ亦タ見ルヘシ。

安藤爲章。年山記聞ニ曰ク。壺碑ハ奥州宮城郡市川村ニアリ、佐々宗淳、嘗テ西山公ノ命ヲ奉シテ。彼處ニ至リ之レヲ摹シ。今點ヲ加フ。高六尺三寸。横三尺一寸。厚一尺。按スルニ。大野東人ハ、紀職太夫果安ノ子、天平十四年十一月卒ス。朝獦ハ惠美押勝ノ第三子。寶字八年九月十八日死ス、天平寶字ハ、孝謙帝ノ年號。六年ハ廢帝即位四年。靺鞨國ハ。舊唐書北狄傳ニ見ユ。京師東北ニアル六十餘里、東ハ海西ニ至リ、突厥南界高麗ニ接ス、北ハ室韋ニ接シ。即チ肅愼ノ地ナリ。又按スルニ。續日本記。天平寶字六年。太宰府ニ勅シテ。國ノ行程ヲ記セシム。憶フニ壺ノ碑モ亦タ其ノ類ナル乎。

篠崎子文。東海談ニ曰ク。壺碑末鞨ト稱スル者ハ。即チ肅愼今朝鮮ニ屬ス。古肅愼奥州ニ來泊スルノ事、

國史ニ見ユ物徂徠可成談ニ曰ク。南部ヨリシテ奥。コレ應サニ蝦夷ノ地ナルベシ。又曰ク。蝦夷ハ國名ニ非ス。種類ノ稱ナリ。國栖蛛蛛皆然リ 隼人亦タ種類ナリ。又曰ク。勳位ハ軍功ニヨリ位階ヲ賜フナリ。其等十二勳。一等ハ正三位ノ下。從三位ノ上ニ當ル。次第配當シテ十二等從八位。下ハ衣服庶人ニ同シ。黃袍ヲ着ル、蓋シ勳位次第功田ヲ賜テ之レヲ設ク。後世其事絕ユソノ故詳カナラス。又曰ク古ハ重複姓多シ。藤原惠美及備前王內藤安藤是ナリ。林笠翁。仙臺閑語ニ曰ク、蝦夷ハ種族ノ稱 國名ニ非サルナリ。日本記、駿河蝦夷・遠江蝦夷ノ語アリ。以テ知ルヘシ。又曰ク。末曷ハ古昔本邦ノ屬國タルカ。相傳フ。阪上將軍壺碑上書ニ曰ク。日本中央、末曷ノ如キ屬國ニ非サレハ。則チ何ソ中央ト稱スルヲ得ン。

藤貞幹好古小錄ニ曰ク。此碑往年宮城郡市川村土中ヨリ堀出ス。憶フニ。其地ハ則チ多賀城ノ廢趾カ。

末曷續日本記ニ曰ク。養老四年正月。渡島・津輕司。從七位上諸君。鞍男等六人ヲ遣シ。其風俗ヲ觀セシム。而シテ其ノ地方今知ルヘカラス。

從四位上勳四等、大野東人。按スルニ。續日本記。東人當年從四位下ニシテ。此碑從田宮東臚子曰ク。陸奥多賀城碑。中古兵亂ヲ經テ久シク土中ニ埋沒シ。人之レヲ知ルナシ。伊達吉村朝臣。財巨萬ヲ費シ地方貳里。深五尺ヲ堀リ。遂ニ之レヲ得タリ、文ハ已ニ諸書ニ見ユ。故ニコヽニ贅セス或說ニ曰ク。鎭守府門ニ在ルノ碑ナリ。而シテ鎭守府ハ。是レ膽澤郡今碑ヲ得ルノ地ハ。則チ宮城郡。其說合ハス。今碑面記スル所ニ因レハ。朝臣再ヒ之レヲ興ス。强テ其說ヲ爲ス時ハ。則チ原碑ハ別ニ膽澤郡ニ在ル乎。又碑文ノ里數。本邦古法六丁一里ヲ以テ之レヲ記ス。奥羽ハ今猶之レヲ用フ。古道程ト稱ス。且古昔ノ道路驛舍ハ。今ノ如ク自由ナラス。故ニ行程日數ヲ計リテ以テ糧ヲツヽム。令書註ニ、(可記軍法令)載スル處。

兵士一人糒六斗鹽貳升ヲ貯備ス是ナリ。此レ碑ノ道程ヲ記示スル所以ナリ。或ハ謂フ。碑額西字ヲ書ス。則チ此地以東又別ニ壺碑アル者。其說鑿ナリ矣。此地以東ハ即蒼海。何ソ碑アルヲ得ン。蓋シ西字ヲ書スルモノハ。鎭守府ニ來役スル者ヲシテ。地方位ヲ知ラシムルナリ。

續日本記。聖武帝。神龜元年。大野東人。爲ニ按察使陸奧守。鎭守府將軍。授ニ從四位上勳四等。天平十一年夏四月壬午。爲ニ民部卿。兼ニ春宮太夫。(國分次第曰。東平王是也。) 又廢帝天平寶字四年正月癸未。爲ニ陸奧國按察使兼鎭守將軍。授ニ正五位下。同月丙寅。授ニ從四位下。同五年冬十月癸酉。爲ニ仁部卿。陸奧出羽按察使如故。同六年冬十一月丁酉。爲ニ東海東山節度使。十二月己巳爲ニ參議。

伊藤東涯。輶軒小錄ニ曰ク。我東方碑碣ノ最モ古キ者。陸奧壺碑ニ如ク者無シ。昔源右將國風ノ什有ルヨリ。後世多ク之レヲ臆シ。當時已ニ古事ト成ルナリ。僧顯昭壺碑ト謂フ者ハ。古昔阪將軍弓弭ヲ以テ。石上ニ書スル者ト。謬傳ナリ。又曰ク。大野東人ハ。紀織太夫直廣肆巣安ノ子。神龜三年征夷ニ從テ功アリ。從四位勳四等ヲ授ク。天平三年。陸奧按察使兼鎭守府將軍ト爲ル。累官參議。大養德守征西將軍從三位。十四年薨ス。此碑ノ記スル所。神龜元年ニ書ス。按察使鎭守從四位ハ。則チ建碑ノ月。追書故ニ此違アリ。

伊澤長秀俗說辨ニ曰ク。俗曰ク。阪將軍弓弭ヲ以テ。大石上ニ書シテ曰ク。日本中央是レヲ壺碑ト爲ス。是末タ多賀城修造ノ文ヲ覩サル者ノ妄說ナリ。藤廣澤換鵞百譚ニ曰ク。吾友嘗テ羽州ニ赴キ。飯路奧州ヲ經。因テ壺碑ヲ探ラント欲シ。其所ヲ過ク。昇夫ニ問フ。夫曰ク。知ラス。已ニシテ去ル稍遠シ。復タ碑ノ狀ヲ以テ細カニ之レヲ問フ。夫曰ク。公何ソ先ナル者問ヲ失スルヤ。是ハ立石ナリ。踏石ニ非ス。答サル所以ナリト。今其所ヲ去ル已ニ數里。行程日ヲ

刻ス。同駕ヲ得スト。徒ニ悵然タルノミ。蓋シ碑ハ國訓石ノミ。踏ハ國訓フミ。踏文同シ。踏石ハ則ハチ文石、故ニ昇夫混同之レヲ誤ルナリ。

平澤元愷、漫遊文草ニ曰ク。十四日巳牌仙臺ヲ發シテ數十里、市川村ヲ得タリ乃チ壺碑ノアル所ナリ。嗚呼不朽ナルモノハ文ナリ千有餘載ノ久シキ。見雲氏ノ筆痕尚ホ今日ニ淋漓スルカ、多賀城址礎石尚ホ存シ。其瓦ハ硏ヲ作リ、好事ノ愛スル所ナリ。又南部石文村ノ條ニ曰ク。七ノ戸郷ニ至リ。坪村碑ヲ問フ。里正但坪村。坪川及石文村ヲ言テ、碑ノ所在ヲ知ラス。遂ニ坪村ニ至ル。村傍一水ヲ坪川ト曰フ。土人曰ク。此ヲ距ル數里小祠アリ千曳ト名ツク。是ヲ石文社ト爲ス。乃チ行ク唯一小祠ノミ石ヲ見ス。之レヲ野夫ニ問フ。則チ曰ク。石ヲ祠下ニ埋ム。因テ祀ルト。去テ野邊地ニ尋ネ其地ニ行ケハ一都會ナリ、乃チ逆旅主人ニ就テ。偵ス人有リ碑ノ所在ヲ知ル、此ヲ距ル十數里。石文村アリ、村後ニ小山アリ。山麓ニ古碑アリ、文字破壞讀ムヘカラスト。余聞テ神飛セ急ニ措具ヲ辨シテ以テ明日ヲ待ツ。鄙語ニ曰ク。寧ロ眞ニ似タルノ僞ヲ說ケ。僞ニ似タルノ眞ヲ說ク勿レト。其豈ニ然ラン乎。餘疑ヲ蓄フル已ニ久シ。今坪村ヲ聞テ心竊カニ之レヲ怪ム。又石文村アリ。而シテ古碑ノ在ルアリト云フ。翌日早起鄉導ヲ雇テ。以テ野邊地ヲ發ス。唯恐ル暘打一日ニシテ功ヲ終サルヲ。行十五六里。石文村ニ抵ル。乃チ民家ニ入リテ憩フ。因テ齎シ來ル所ノ小樽ヲ開テ飲ミ。主人ヲ延テ觴シ。徐々古墓ノ所在ヲ問フ。主人但タ引石ノ事ヲ說ク、其說潰々聞クニ足ラス。余謂ラク。土民古物ヲ知ラスト。丁寧反復以テ我意ヲ申フ、輙チ曰ク。父老ノ言未タ前聞セス、恐クハ謬傳ナリ。余始テ欺カルヲ知ルノミ、石文村僅カニ五六家。而シテ後山ナシ。何ヲ以テ其彷彿ヲ求メン乎。眞ニ似タルノ謊。人ヲ誤ル此ノ如ク其レ甚シ。

或曰ク。壺碑ハ別ニ南部北郡ニ在リ。其地ヲ壺村ト

曰フ。傍ニ石文村アリ、又壺川碑アリ。高四五尺。碑面ニ日本中央ノ四字ヲ彫ス。相傳フ。古阪將軍書之ト。後人アリ神夢ニ感シ。之レヲ土中ニ埋メ。其上ニ祠ヲ建テ。石文明神ト曰フ、故ニ碑今亡シ矣。

顯昭袖中抄ニ曰ク。壺碑ハ阪將軍東征ノ日。弓弭ヲ以テ日本中央ノ四字ヲ題スルナリ。言フ。ココロハ世々陸奥ヲ以テ。東方窮極ノ地ト爲スト雖トモ。蝦夷千餘島、猶ホ其東ニ在レハ。即チ此地ハ正ニ中央ニ當ルナリ、又曰ク。新撰歌枕ニ曰ク、侍中信家曰ク、碑長四五丈許。其地壺ト曰フ。因テ諸書ヲ閲スルニ。壺碑ヲ論スル者ハ。則チ長赤水東奥紀行。伴高溪閑田耕筆。源信亥柳庵隨筆等。共ニ其言ヲ引キ。南部ノ碑ヲ以テ壺ノ碑ト爲ス。此碑ヲ以テ多賀城修造ノ碑ト爲ス。或所謂古人賦スル所ノ國風ハ。皆ナ南部ノ碑ヲ詠スル者ト。余曰ク。是未タ深ク考サルノ誤ナリ。

僧慈圓ノ國風

陸奥乃壺乃石文行天覽無夫仁毛不書徒迷惠登波

僧寂蓮ノ國風

陸奥乃壺乃石文有登聞孰如戀乃界奈留羅無

則之レヲ碑文。國界ヲ紀スルノ意ニ取ルナリ。然ルニ何ソ皆南部碑ノ詠トスルカ。因ミニ曰フ。顯昭ハ南部碑アルヲ知ラス。東涯及長秀ハ。此碑アルヲ知テ南部碑アルヲ知ラス。赤水ハ南部碑ノ壺ト稱スルヲ知テ。此碑ノ壺ト稱スルヲ知ラス。古人ノ國風此碑ヲ詠スルヲ知ラス。後ノ覽ル者之レヲ詳ニセヨ。

和漢三才圖會曰。壺石碑。在多賀。昔此處有城名多賀城。大野東人築之。後惠美朝臣葛其舊蹟。建石碑。又曰。田將軍用鉾。書日本中央四字。云々。按田村丸征伐東夷時見碑乎、蓋蝦夷嶋以日本属國。則此處爲中央。亦宜哉。

源信充柳庵隨筆曰、多賀城碑、相傳。爲源右將國風所詠之壺碑。然今南部有壺村。又有碑明神祠。則多

賀城碑。自是多賀城碑。當與壺碑異也。因云。友人狩谷望之。故京遺文多賀城碑所記。朝獵位。置異續日本記所載。

白石先生蝦夷志序曰。蝦夷一曰毛人古北倭也。漢光和中。鮮卑檀石槐。聞倭善網捕。東擊倭人國得千餘家。徙置秦水上。令捕魚以助糧食。鮮卑東胡種。即今韃靼東北地。所謂倭人即此夷。俗善沈沒捕魚。於今亦然矣。夷多種落。曰渡島蝦夷。其在東北海中者。曰北蝦夷。曰東蝦夷。其徒居于內地者。北謂越國。東曰陸奧國。曰齶田。曰渟代。曰柵養。曰津刈。皆東北之別也。宋書曰。毛人五十五國。唐書曰。倭國東北限大山。其外即毛人。總言其內外種落也。夷種分居內地。其始不可得詳。景行天皇征東蝦詔曰。東夷犯邊界。以略人民。往古以來。未染王化。由是觀之其犯內地蓋由來既久矣。而叛服亦屢矣。齊明天皇四年。遣阿部臣率船師伐蝦夷。齶田。渟代。酋師迎降。渡嶋蝦夷交來會。乃定渟代。津輕二郡領而還。五年。復遣阿部臣。率飽田。渟代。津輕膽振鉏等酋師。且伐蝦夷。乃徇其地。遂置治於後方羊蹄而還。是歲秋。遣使率陸奧蝦夷以聘于唐。唐書曰。永徽中我行人。與蝦夷偕來。即此也。時高宗問我行人曰。蝦夷幾種。對曰類有三種。遠者都加留。次者麤蝦夷。近者熟蝦夷。今此熟蝦夷所謂三種。舉其在荒服者而言也。厥後凡稱蝦夷者。皆謂其在內地者也耳。天平寶字六年。東海東山節度使。藤原惠美朝臣。刻石於鎮守府門。以誌四方道里相距遠近。曰。去蝦夷國界一百廿里。其石於今。見在府城舊跡。則知宮城郡北方數百里。盡沒于夷地也。至其驅之荒徼。悉收東山地。因地為塞。則征東將軍阪上大宿禰。田村麻呂之功。蓋以為大也矣。史闕不傳其事。可勝嘆哉。厥後六百五十六年。若狹守源信廣。越海入于夷中。遂取其南界。以定北地。是歲嘉吉三年也。自此以降。子孫世々據其地。而迄于今。東顧之憂久絕矣。因輯舊聞以為蝦夷志焉。

題手臨壺碑見遺　　高　玄　岱

聞道千年壺石文。摹臨一紙致爭分。眞人鐵畫蒼然古。想見隨頭照夕燻。

題壺碑圖

古城控朔漠。玄石表東陲。名勒勳臣績。情傳元帥詞。典刑輕漢鼎。文字認秦碑。遠近明彊域。還能辨夏夷。

坪碑帖歌贈藤塚子章。　河　世　寧

懷昔天平寶字年。惠美將軍鎭東邊。英風時假穹盧草。拖鼓不鳴壓腥膻。餘力重修多賀柵。爲勒片石擬燕然。靺鞨毛人不近塞。疆場自此止戈鋋。三雲眞人碑墨妙。楷法森然風神傳。虞肉兼存歐家骨。淵龍已欲吐雲烟。誰人金石不期壽。陬碣後沒秦碑前。嗚呼此物有神護。名蹟高德天所憐。指之者誰藤氏子。學昔願接晉代賢。後園萬蕉先秋畫。小池水色玄又玄。看來字々皆飛動。使人展玩飄欲仙。肯許他時東道主。碑下三日共座氈。

觀多賀城碑　　倉　成　奚

路入東山郡縣長。古碑讀了感桑滄。蝦夷去近皇京遠。異日猶隣兩罔鄉。

得中爾言陸奧書却寄。　合　離

風土問來多賀城。將軍鎭守在天平。請君試剔壺碑見。靺鞨蝦夷幾里程。

壺碑　　賴　千　秋

碑記行程分幾條。讀來偏嘆去京遙。云是一千五百里。何人能不旅魂銷。

多賀城墟讀壺碑。　紀　德　民

多賀荒城弄水湄。風吹秋草夕陽悲。征夷重鎭王臣府。雄踞千年一片碑。

看壺碑。　藤　白　華

鎭府千年後。殘碑附水涯。妙辭爭石氣。豐字傲苔花。分界華夷審。記程海陸遐。如教賓客讀。何用指南車。

多賀神祠跡

觀跡聞老志ニ曰ク。舊多賀城址中ニ在リ。今其所ヲ詳ニセス。祠ハ今高崎村ニ移ス。後ニ見ユ。

日本詩古事選ニ曰ク。大野東人。按察使兼鎭守ニ任シ。神龜中蝦夷ヲ征伐シ。廣ク郡郡ヲ開キ。多賀城ヲ築キ。以テ東北ノ巨鎭ト爲ス

天平寶字六年。藤原惠美朝臣多賀城ヲ築ク。朝臣押勝ノ子ナリ。官參議東山東海節度使。從四位上。仁部省卿兼鎭守將軍ヲ歷タリ。

國府館跡

壺碑東北六七十歩ニ在リ。府士萬葉ニ。內城ト稱スルモノハ是ナリ。左右皆田圃ニシテ。秩然トシテ犂利アリ。地方三四十歩。是レヲ古國府館址ト爲ス。相警シテ犂スルコトヲ許サス。土人曰ク。多賀城墟之レヲ犂セハ。往々古瓦ヲ出ス。瓦ニ紋アリ。細布ニ似タリ。堅緻硯ニスヘシ。且綠瓦ヲ出ス所ノ處ヲ認ムルニ。門。屏。屋。舍ノ蹟。得テ詳識ス可キナリ。然レトモ人々瓦ヲ求ントシテ。多ク稼ヲ傷ム。故ニ秘シテ許サス。

古井

壺碑西南五六十歩林間ニアリ。今廢シテ僅カニ水アリ。水南ヲ土人倉下ト謂フ。古昔倉庫ヲ置ク地ナリト。

鴻ノ池

風土記殘篇ニ曰ク。壺ノ碑ハ鴻ノ池ニ在リ。池今廢シテ考索ニ由ナシ。或曰ク。鴻ノ池ハ國府ノ誤。池ハ地ノ訛。鴻ハ國音ヲ以テ訛リ。池ハ字形ヲ以テ訛ル。是言フ壺碑ハ國府ノ地ニ在ルナリ。又同書。末松山ノ記ニ曰ク。末ノ松山ハ。鴻ノ池市川ノ道ヨリ之レヲ見レハ。則嶺上ノ三峽白波浩々。以テ奇觀ト爲ス。是レヲ以テ鴻重ネテ訛リ島ト爲スナリ。或ハ曰ク。鴻ヲ以テ國府ノ訛ト爲スハ則善シ。而シテ池ヲ以テ地ト爲スハ。未タ穩當ナラサルニ似タルカ若キ乎。古城郭豈濠池ヲ鑿チ。以テ要害ト爲ス無ラン耶。後世城壘廢毀碑石或ハ池中ニ陥沒スルモ。亦未タ

知ル可ラサルナリ。因リテ遍ク地志ヲ考フレハ。則チ諸邦古國府ノ趾。其稱ヲ轉訛スル者多シ。玆ニ其一ヲ擧ケテ證ト爲セハ。攝津ノ國ニ鴻ノ池村アリ。又タ荒府ノ池アリ。共ニ古國府ノ跡ニ在ルナリ。而シテ鴻荒ト國音共ニ國府ニ近シ。先賢之レヲ論シ。以テ國府ノ謬ト爲ス。曾テ曾根好忠。及ヒ藤原ノ家隆ノ荒府ノ池ヲ。賦スルノ歌ヲ觀レハ。則チ其誤稱スルヤ由來久シ。士人相傳テ曰フ。多賀城墟ノ側舊ト鴻ノ池アリ。池中石アリ。鴻ノ蹈石ト名ツク。石面鴻ノ足跡アリ。因リテ名ト爲ス。余曰。鴻ノ蹈足ナル者。即チ國府ノ碑ノ謬。蹈國訓文ト同フス焉。文石即文。且タ鴻ノ足跡ナル者アリ。鳥跡ハ文字ノ謂。是レ石面文字有ルヲ云フ。豈壺ノ碑ニ非サルヲ得ンカ。士俗誤リ傳ヒテ不通ヲ致スナリ。後ノ識者之レヲ正セヨ。日本記。崇神天皇。五十七年十月。令ニ諸國ニ興ニ田部屯倉。北條五代記曰。北條氏康里見義弘。下總ノ高野臺ノ戰ヲ載スル條ニ。高野臺古キ文ニハ。國府臺。小府臺。臺岱共書キタリ。今所ノ者ニ問ヘハ。高野臺ト書クト云フ。見レハ字面ニアフタル高キ臺ナリ。

五輪宅地

多賀城墟北路ノ旁。農人ノ宅ニ有ル是レナリ。奥州名所圖繪ニ曰ク。多賀城墟北路ノ旁。農人ノ宅後。古五輪ノ塔アリ。破壞惟ニ石ヲ存ス。相傳テ。惠美朝獦ノ塔ト爲ス。今塔前ニ小祠ヲ存ス。朝獦ヲ祀ルナリ。士人因リテ其宅地ヲ呼ヒテ五輪屋舗ト稱フ。

市川 附橋

多賀城墟西邊ニ在ルナリ。圯橋ヲ架ス。市川橋ト曰フ。仙臺府往還ノ道路ナリ。水ハ利府驛東北ノ山中ヨリ出ツ。曾テ塘ヲ回シテ東南ニ流シ。八幡川ト爲リ笠神村ニ至リテ海ニ入ル。傳ヘ云フ。水舊ト多賀城下市街ノ間ヲ經。故ニ名ト爲ス。因リテ亦村名ト爲ス。未タ其是否ヲ詳ニセス。

大堤

土人之レヲ市川大堤ト謂フ。長十一町餘、横二町餘。

（一町三十六丈十一町三百九十六丈。）

五萬崎

市川圯橋東北ニ在ルナリ、土人傳ヘ言フ。古ヘ鎮守將軍大伴家持。五萬餘ノ軍ヲ屯スル處。因リテ名ト爲ス。續日本記曰ク、桓武帝。延暦七年三月辛亥。勅ヲ下シテ曰ク。東海。東山。坂東諸國。歩騎五萬二千八百餘人。來三月ヲ限リ。陸奥國多賀ニ會セヨト。同八年三月辛亥、諸國ノ軍ヲ陸奥多賀城ニ會シ。道ヲ分チテ賊地ニ入ル。

八幡神祠

國府舘址ノ東數歩ニ在ルナリ、傳ヘ曰フ。阪將軍東征。此城ニ在ルノ日。松島八幡祠ヲ以テ、城南八幡村ニ移シ、又タ小祠ヲ城中ニ建テ、朝夕禱祭スト云フ。

白山神社

八幡神祠ノ南ニ在ル地ナリ、金山ト云フ。何人ノ創ムルヲ傳ヘス。

丸山

多賀城墟ノ東ニ在リ。

勢至堂山

丸山東北ニ在ルナリ。相傳フ。昔シ山上ニ勢至堂アリ。今移シテ浮島村法性院ノ側ニ在リ、玆ニ其趾ヲ存ス。

小蟹泉

浮島村ニ在ルナリ、相傳フ泉下古ヘ小蟹多シ、故ニ名ツク。今土人之レヲ呼ヒテ、黄金泉ト曰フ。蓋黄金小蟹國訓近シ故ニ誤ル。

大塘

傳缺ク

加瀬湖

多賀城墟ノ北ニ在ルナリ。東西三里許、南北數百歩。三面皆山。獨リ西面ヲ開キ。長堤ヲ築キ閘ヲ設ク、時ヲ以テ湖下ノ田ニ灌ク。民其利ヲ蒙ル尤モ多シ。湖以北ノ地ヲ加瀬村ト爲ス。

龜島

加瀨湖ニ在リ。堤下百餘歩。水田中ニアリ。島ノ上ニ松樹數株アリ。相傳フ。舊ト湖ノ中心ニ在リト。國初湖ノ半ヲ絕チテ田ト爲スト。故ニ今陸ニ在リ。

天祥寺 附觀音堂

加瀨湖ノ北ニアリ。地ヲ龜島ト名ツク。因テ山號ト爲ス。是レ前湖ニ龜嶋アリ。故ニ名ヲ取ルナリ。舊增長寺ト稱ス。土御門帝。承元二年丁卯、伊澤家景創建シ香花ノ地ト爲ス。家景卒シ此ニ埋葬シ。更ニ加灘「灘一作瀨」寺ト稱ス。後政景上野介。其長子宗利「武藏守」ヲ葬リ又天祥寺ト改ム。伊澤氏亡フルニ及ンテ。寺モ亦廢ス。國初「一書曰。寬永中再興」松嶋瑞巖僧楙外ナルモノ再建。雲居禪師ヲ請ヒテ開祖ト爲ス。相傳フ。寺再建已前今ノ地西南百餘歩ニ在リシト。其地今窪ト曰ヒ。松崎ト曰ヒ。古井戸ト曰ヒテ。而シテ巨刹タリ。山門金剛神像ヲ置ク。「像首今猶ホ藏ス觀音堂中。」傍ニ五重ノ浮屠アリ。造構甚タ麗シト云フ。今寺前觀音堂アリ。承元二年。家景ノ建ル所。堂中佛工丹溪作ル所ノ大士ノ像。及佛舍利一顆ヲ安ス。共ニ家景ノ護持スル所ナリト云フ。堂下梅樹アリ。樹下小池アリ。是レヲ龜井ノ泉ト爲ス然レトモ舊堂及ヒ泉。實ニ舊寺跡古井戸ニアリ。今寺移建ノ後、新ニ鑿チテ名ヲ襲フ者。

龜井泉

天祥寺ヲ距ル西南數百歩。農家ノ東ニ在リ。一泓清瀲久ク旱スレトモ涸レス。地名古井戸此泉ニ因ルナリ。古老曰ク。泉畔舊ト古梅樹アリ。鱗皴疎瘦而數十年前枯レヌ矣。

府土萬葉龜井泉加瀨村ニ在リ。

寺アリ龜嶋山天正寺ト申ケルムカシハ增長寺ト
イヒケルヨシ

伊澤家景之墓

龜井泉ノ西農家ノ側ニ在ルナリ。墓表題シテ。元祖加瀨寺殿故從四位。左近衛將監瑞山雲公大居士。承

久三年。辛巳十一月十三日ト曰フ。土人曰ク舊ト字ナシ。碑半ハ土中ニ沒ス。農宗以テ藥砧ト爲ス。近歲水澤公子其墓ヲ修營シ。新タニ表文ヲ鐫ル。側又一碑ヲ立ツ。南山禪師之レカ銘ヲ爲ル。

桂川

傳闕ク。

留主家系圖

藤原姓大職冠鎌足後胤九條殿之族

○(一)家景 伊達左近將監 賜ニ奧州留主職ヲ。

家業 宮城小四郎 民部少輔

家廣 左衞尉 文永二年四月四日。號長寺竹林。

恒家 左兵衞頭

宗信 出羽守

家助 遠江守

家高 美作守

家冬 美作次郎

家佳 三河權守

家政 彈正小弼

家明 駿河守法名良辨公方氏滿時鎌倉ニ候ス

詮家 四郎

家持 美作守

邦家 出羽守伊達持宗二男

藤王丸 早世十才

景宗 左京亮。明應寺。伊達成宗男。郡宗三男。大林寺號光岩。

顯宗 留主相模守藤五郎。淨大寺號清公。

政景 從五位下上野介雪齋。伊達旗下ニ屬。慶長十二年二月二日卒。大安寺高庵玄覺。豐臣太閤沒ニ收其領。實伊達左京大夫晴宗男。輝宗弟。顯宗姑無ニ男子ー故爲ニ嗣養子ー。

宗利 伊達武藏

伊達家舊臣傳記曰。伊達上野介政景。當家十五世晴宗君之第三男。留主相模守顯宗。女ニ婿シテ嗣ヲ爲ス。留守家姓ハ藤原。其出自ラ詳ニセス。始祖左近將監家景ヲ以テ始祖トス。家景ハ大樹賴朝卿ニ仕ヘテ。奧州ノ留守所ニ補セラレ。ト。一ニ内宮城郡ニ住ス。其後子孫留守ヲ以テ稱號トス。十七世政宗君ノ世ニ當テ。政景始テ當家ニ屬シテ。臣下トナル。伊達ノ稱號ヲ賜テ一門ノ席ニ列ス。政景驍勇ニシテ將器アリ。數度ノ役ニ戰功アリ。中ニ就テ慶長五年庚子。最上援兵ノ將トシテ。直江山城守兼續ト戰テ。功アリ。慶長十二年丁未二月二日卒ス。年五十九。法名高庵玄覺大安寺ト號ス。

舟岡神祠

地舟岡ト名ツク。何人ノ創ムルヲ詳ニセス。相傳ヘテ。古祠ト爲ス。祠ノ側ニ古キ杉樹二株アリ。大其圍各丈餘。此追考ヲ俟ツ。利府驛ニ近キ所カ。

十三塚

舟岡祠東ニ在リ。地ヲ野中ノ古塚ト曰フ。十三相並フ。高サハ九尺周六七歩。相傳フ。古陸奥守多賀城ニ在ルノ日。埋葬ノ地タリ。或ハ曰フ。留主職伊澤氏庶子孫ノ墓ト。未タ孰レカ是ナルヲ詳ニセス。郷老曰ク。數年前土人拁キテ田ト爲シ。兵器數種ヲ得タリ。而シテ皆朽腐僅ニ形狀ヲ見ル。手ニ觸ルレハ即チ破壞ス。

玉川寺

多賀城墟ノ東南ニ在リ。後花園帝。文安元年。僧無着創始ス。後陽成帝。慶長五年。僧傳室再建ス。曹洞禪ヲ宗トス。土人曰フ。市川古ヘ玉川ノ上流。故ニ玉川ヲ以テ寺號ト爲ス。

浮島勢至堂附法性院

多賀城墟ノ東。荒脛神祠ノ東ニ在リ。地ハ浮島ノ村タリ。堂中勢至像アリ。相傳フ。是首鑴磨。閻浮檀金ヲ以テ之ヲ作ル。或ハ曰ノ。僧都惠心製スル所。堂舊ト市川村勢至堂山ニ在リ。法性院ト曰フ。其創始ヲ詳ニセス。廢セラルヽコト久シ。寛文甲辰。僧武山中興ス。曹洞禪寺ニ隷ス。寺前遥ニ東南海ヲ望ム。亦佳境ナリ。又寺前松樹アリ。土人之レヲ驪馴松ト稱ス。或ハ以テ浮島ノ松ト爲ス者ハ訛ナリ。

古館跡

浮島村ニ在リ。相傳フ。古ヘ志田小太郎ノ家臣。浮島太夫ナルモノ焉ニ居ル。

浮島附浮島松。浮島橋

勢至堂西南三四百歩ヲ距リ。水田中高丘アリ。丘ノ南北九十歩。東西之レニ半ハス。是レヲ浮島ト爲スナリ。藻鹽草ニ曰ク。浮島ハ奥州ニアリ。夫木集ウキ島陸奥一ニ駿河ニアリ。丘形舟ノ如シ。而シテ東首西尾々處石磴數十級。磴下ニ華表アリ。丘上ノ神

祠是レヲ多賀神祠ト爲ス。又ウキ島明神ト稱ス。祠ヲ繞ル古樹森々中ニ老松アリ。ウキ島ノ松ト曰フ。古ヘ國風ノ賦スル所ナリ。又古ヘウキ島橋アリ。源能宣ノ國風ニ見ユ。而シテ今徵スルニ所ナシ。然レトモ地勢ニ因テ之レヲ考フレハ。則チ島ノ西北相距ル百歩許。長堤ノ如キ者ヲ多賀城ト爲ス丘陵ノ餘勢ハ則チ古昔橋ヲ架スル所。或ハコヽニ在ルカ。觀迹聞老志ニ曰ク。ウキ島村ハ多賀ノ東鹽竈ノ西南ニ在リ。其他往昔海潮來去スルモノ。古人ノ詠ヲ考テ知ルヘシ。而シテ變シテ田野トナル、土人曰ク。ウキ島四邊ノ田。泥深クシテ脛ヲ沒ス。古昔海タルヤ明ケシ矣。因テ島形舟ノ如ク水ノ中央ニ在リ。故ニ浮泛ノ義ニ取リテ、以テ浮島ト稱ス。古人命名ノ苟モセサル見ルヘシ。世或ハ鹽浦海上放馬島ヲ以テ(一名青海島)浮島ト爲ス誤ナリ。余諸集ノ載スル所ヲ讀ムニ國風此地ヲ詠スルモノ。凡河內躬恒題スル所ノ、伊勢齋宮屛風ノ圖。中務ノ題スル所。村上帝屛風圖、源能宣題スル所、一條攝政ノ障子ノ圖。壬生忠見題スル所。屛風圖。平祐挙題スル所、一條大納言家障子ノ圖。諸什古人ハ此地圖畫ヲ賞シ。諸屛障ノ嘯咏ヲ以テスル者夥シ矣。惜哉。其圖傳ハラス。今タヽ田野復タ賞スル所ナシ。茲ニ因テ此ノ形勢ヲ考フルニ。新製古昔ノ圖。(圖ハ始ニ見ユ)田野ヲ以テス海ト爲シ。丘陵ヲ以テ陸ト爲シ。曲灣洲渚或ハ想像ニ出ルト雖トモ。復タ勉強妄說ニ非ルナリ。以テ圖成ル矣。老成人ナシト雖トモ尚ホ典刑アリ。以テ同心ニ示ス。尚ホ以テ古人ノ虛譽妄賞ニ非サルヲ觀ルニ足ル哉。

多賀城

延喜式神名帳載スル所、宮城郡四座ノ一。祭ル所武甕槌命・經津主命二神。今鹽竈左右宮是ナリ、古ヘ武甕槌命浮島ニアリ。故ニ古來浮島明神ト稱ス。經津主命ハ多賀崎ニ在リ。兩社ヲ合シテ多賀神社ト曰フ。蓋シ浮島・多賀崎其間相距ル僅カニ百餘歩。古來

多賀城堡內ノ地タリ。後世府城廢後其地ヲ分テ。市川。浮島。多賀崎數村ト爲ス。今高崎ニ作ル。又高橋村アリ亦同シ、其分邑ノ時經津主祠ハ高崎ニアリ。故ニ土人高崎神社ト稱ス。鹽廟緣起ニ曰ク。今ノ鹽竈社ハ。多賀國府ニアリ。三社神此國ニ天降リ。之レヲ國府ニ祠ス、故ニ多賀神社ト號ス。封內名蹟志曰ク。多賀社ハ。即今ノ鹽釜一ノ宮。鄕說ノ所レ謂浮島明神ナリ。舊祠官東鹽氏傳曰ク。明應中鹽廟、及ヒ多賀兩社共ニ。壞圮諸祝慶興新ヲ留主氏ニ請フ。而シテ留主氏特ニ鹽廟ヲ營ミ。多賀兩社ヲ移シテ之レヲ合祀ス。是ニ於テカ多賀兩社永廢ス矣。後邑民兩社ノ趾ニ就キ、各小祠ヲ建ツ。而シテ多賀神社ハ則チ其舊稱ヲ襲ヒ多賀崎神社ハ則チ更ニ神明祠ト稱ス。觀迹聞老志曰ク。誤載シテ多賀ト浮島ト別テ兩社ト爲ス、其多賀神社ヲ記シテ多賀神社ト曰フ。舊多賀城趾中ニアリ。神名秘書ノ所レ謂多賀宮。伊弉諾尊右眼目ヲ洗テ出ツ、神號ヲ豊受忠魂ト云フ。又伊吹田主神是也、浮島神社記ニ曰ク。浮島村ニアリ。田上ニ高丘アリ。丘上神祠アリ、是乃チ浮島明神ナリ。何神ヲ祀ルヲ詳ニセス、名蹟志亦タ聞老志ノ誤ヲ承テ。浮島神社ヲ別載セリ。其言全ク同シ。是皆深考セサルノ謬ナリ。夫多賀二神ハ。太古日神ノ命ヲ奉シテ。天孫ノ爲メニ葦原中津國ヲ征シテ功成リ。終ニ陸奧ニ至リ。此地ニ留リ。後武甕槌命ハ常陸鹿島ニ。經津主命ハ香島ニ遷リ。而シテ神子神孫ヲシテ國中ヲ分治セシム。國民其德澤ヲ蒙リ。敢テ忘レス其所處ニ就テ。祠ヲ立テ之レヲ祀ル。故ニ陸奧國二神ノ御子神社ナル者甚タ多シ。三十社アリ、延喜式載スル所、黑川天足別神社。亘理鹿島伊都乃比氣。鹿島緒名太神、牡鹿天足和氣。信夫鹿島、磐城鹿島。牡鹿香取。及伊豆乃御子。鹿島御子、行方鹿島。栗原香取。御子神社。是ナリ。東鹽氏傳記ニ曰ク。多賀神社古祭禮ニ曰ク、歲三月廿六日。宮城一郡ノ士多賀城ニ會シ。廿七日會スル所ノ士ヲ分テ二軍ト爲シ。一ヲ

神軍ト爲シ。一ヲ賊軍ト爲シ。各將帥アリ。神軍ハ則チ三神輿三神劍ヲ奉シテ之レニ隨フ、（三神劍一ニ天叢砂劍。二ニ十束知劍。三ニ八束利劍ト曰フ。是神世ヨリ傳フル所。神庫ニ秘藏ス。） 兩軍兵及既ニ接シ。賊軍兵ヲ棄テ、走リ。且ツ舟ニ遁ル神軍北ルヲ追テ鹽釜ニ至リ。神軍亦舟シテ宰相島ニ上リ、大鬨三呼シテ凱旋ス。此ヲ例祭ト爲ス、三衡ノ時之ヲ行フ。秀衡ノ子和泉忠衡等之レヲ奉行シ、事古記ニ見ユ、是乃チ太古二神。兇賊征討ノ因ナリ、留主氏後之レヲ廢ス、常陸鹿島社ニ似タル祭典アリ。之ヲ御軍祭ト稱ス。祭日同シカラス、七月十日夜之レヲ行ツ。而シテ彼ハ神功皇后征韓ノ日ニ起ル、神德ヲ以テ稱號ト爲シテ今ニ至ル。分辨シ可カラサル者。或ハ恐クハ之レ有ラン 鹿島志ニ、三代實錄ヲ引テ云ク。貞觀八年正月廿日、常陸國鹿島宮司言フ。大神ノ苗裔三十八社。陸奧國ニ在リ。古老云々。延暦以還大神封物ヲ割キ。後ノ諸神社ニ奉幣シ、弘仁而還絶テ奉セス、是ニ由リ諸神祟ヲ爲ス。物怪寔ニ繁シ。嘉祥元年。請テ幣奉シテ彼ニ向フ。陸奧舊例無シト稱シテ聽カレス。入關ノ宮司等關外ノ河邊ニ於テ、幣物ヲ拔棄テ、皈ル。自後神祟止マス。境內旱役彼國ニ下知シ。關ニ出入シ諸社ニ奉幣スルヲ聽シ。以テ神怒ヲ解ク、其幣大神封物ヲ用フ云々。

融公祠

浮島ノ西二百餘歩小丘上ニ在リ。土人之レヲ大臣宮ト稱ス。何人ノ置ク所ヲ詳ニセス、公ノ世ニ在ル。鹽浦ノ勝ヲ愛慕シ。其美ヲ當時ニ播揚ス。鹽浦第一ノ知己ト謂ツヘシ。此地祠シテ祭ル。實ニ淫祀ニ非サルナリ。（南山評。萬年亦源公千載之知己哉。）

塔原及礎石

浮島ノ南ヲ高崎村ト云フ阜アリ。曠平二里許。土人塔殘原ト稱シ。又訛テ塔越原ト曰フ。古昔七級塔アリ。是聖武帝。天平中勅建スル所。寺ヲ化渡寺ト號ス。其創塔ト先後ス。神祠佛堂甚多シ、而シテ年代悠

久皆ナ荒廢、獨七級塔巍然儼存。故ニ岡ニ此目アリ。後塔亦廢シ。今礎ト藥王廟豐聰太子堂跡ヲ存ス。礎石ハ大六尺餘。上面平坦中央ヲ鑿リ圓孔ヲ穿チ。亘リ二尺三寸。是塔ヲ樹ル心柱ノ孔ナリ。

續日本紀。聖武帝十三年辛巳。詔曰。

朕以薄德、恭承重任。未弘政化。寤寐多慚。古之明主皆能先業。國泰人樂。災除福至。修何政化。能臻此道。頃者年穀不豐。疫癘頻至。慙懼交集。唯勞罪己。是以廣爲蒼生。遍求景福。故前年馳驛。增飾天下神宮。（先是九年十一月癸酉。遣使于畿內及七道。令造諸社。）去歲普令天下。造釋迦牟尼佛尊金像。高一丈六尺。各一鋪。並寫大般若經各一部。自今春已來。至于秋稼。風雨順序。五穀豐穰。此乃徵誠啓願。靈貺如答。載惶載恐。恭敬供養。流通此經。王者我等四王。常來擁護。一切災障。皆使消殄。憂愁疾疫。亦令除差。所願遂心。恒生歡喜者。宜令天下諸國。各敬造七重塔一區。並寫金光明最勝王經。妙法蓮華經。各十部。朕又別擬寫金字金光明最勝王經。每塔各令置一部。所冀聖法之盛。與天地而永流。擁護之恩。被幽明而恒滿。其造塔之寺。兼爲國華。必擇好處。實可長久。近人則不欲薰臭所及。遠人則不欲勞衆歸集。國司等各宜務。在嚴飾。兼盡潔淸。近感諸天。庶幾臨護。布告遐邇。令知朕意。鄉老相傳。塔高十許丈。龕室堂之內。繪佛菩薩及天龍十六善神像。每級闢窓。以備遠望。結構甚壯麗。後屢經兵亂。不加修營。殆將廢壞。時自藤淸衡。至秀衡三世。修補之。泰衡亡後。不復修理。柱朽礎傾。遂倒焉。今視其趾。獨於礎南。古瓦壘々。是爲塔倒之方。而其紋細布與多賀城者全同。又大石數十。亂峙于前後。想是其遺礎。

裂石梅

塔原ノ東隅石アリ。六七尺。石腹馬蹄ノ痕アリ。人巧ノ利スル者ニ非ス。且梅樹石心ヲ穿テ生ス。太タ大

ナラスト雖トモ。苔蘚滿封。其花瘦寒幽香他ニ絶ス。叢シ奇種ナリ。

化渡寺

礎石西二百餘歩ニ在リ。相傳フ。古ハ塔原國府在任ノ諸公營修スル所、大伽藍タリ。七堂具足シ極メテ壯麗。而シテ久シク廢ス。中世小菴ヲ遺趾ニ建テ、名ヲ存ス。又廢ス。延寶中。禪僧雪橋茲ニ移建ス。地藏像ヲ安ス。僧正行基ノ製。寺前ニ熊野神祠及仁波多利神祠ハ。此寺古來奉祠スル所、今尚ホ存ス。

豐聰太子堂

化渡寺南ニ在リ。上古ハ寺中ニアリ。何時カ茲ニ移スヲ知ラス。堂ノ開建ハ寺ト同ジ。太子像ハ行基ノ作。今亡フ。安スル處ノ石像。何人ノ置クヲ詳カニセス。

中要害山

寺東ニアリ。山上坦平八幡公保砦ヲ置クノ處、

彌勒阪

塔南ニ在リ、秀衡平泉ニ在ルヤ。南白川ヨリ北外濱ニ至ル。其間廿餘里、行程毎里彌勒堂ヲ置キ。毎丁笠浮圖ヲ其前ニ立テ。各洪鐘一口ヲ挂ケ。前面ニ金色彌陀像ヲ圖現シ。往來旅人ヲシテ。有信無信共ニ勝縁ヲ結ハシム。此地是ナリ。

阪下塘及江中橋大井

塘ハ坂下ニアリ。橋ハ太子堂西ニアリ。又大井ハ農家前ニ在リ。相傳ヘテ。古井ト爲ス。其水清冽久旱涸レス。鄉老曰ク。州ノ刺吏多賀城ニアルヤ。邊匠ヲ此左右ニ居ラシメ。錬磨此ヲ用フ。井南今尚邊匠遺跡アリ。土人鍛冶屋敷ト稱ス。

鹽松勝譜卷之八之一 畢

鹽松勝譜卷之八之二

鹽浦西路之二目次

野田玉川　野田塘　竈田
箭工宅跡　西原山　向泉院附掛絲觀音堂
田子屋山　白駒泉　櫻井館跡
留湖天神祠　大窪山　西園寺
仁和多利權現祠　神明祠　船塚
箱塚　箱塚川　菊岡橋
西沼　圓滿光德院　不磷寺
寶國寺　馬埒跡　內八幡神祠
天童神祠　阜都石　八幡神廟
般若寺　八幡川　三所明神祠
本鄉原　櫻樹觀音堂　方八丁塚
猩々池　稻荷神祠　出鍬里
誓渡寺　中源寺趾　西光寺碑
多古浦島　念佛橋　觀音堂
柏木神祠　福田坊　福田川
南宮神祠　新田碑　安樂寺趾
稻荷神祠　山王祠　諏訪神祠
觀音堂　慈雲寺　奧細道
志田小太郞碑　途絕橋　志波彥神社附牛頭天皇
羽黑神社　東光寺　古壘蹟
十府池附十府浦十府里　巖截城墟　青麻神社
冠川　東光寺城　菁谷潭
松森城趾　今市巷附耕田寺、東福寺、　葉山神社
燕澤碑　比丘尼阪　善應寺
羽山權現社　稻荷社　小鶴池
小鶴館趾　案內里　大蓮寺
五智如來堂　布營丘　安養寺趾
天游館　萬壽寺　玉田橫野附玉田湖
原驛

畢

鹽松勝譜卷之八之二

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

鹽浦西路之二

野田玉川。

塔原ノ東南。鹽竈留谷兩村ノ界ニ在リ。鹽浦ヲ距ル三里ニシテ近シ。田間ニ小渠有リ。是ヲ玉川ト為ス。（源ハ母子澤ヨリ出テ、南流シ。八幡川ニ合ス。古老相傳フ。古市川・冠川ノ二水合シテ玉川ト為ル。今ノ水源ハ則チ其小流ノミ。水常ニ洿リ。雨ニ遇ヘハ則チ涓流有ルノミ。）小圯ヲ架ク。圯ノ南側ニ老松五六株アリ。其下ニ碑アリ。僧能因ノ國風ヲ鐫ル。今古人賦スル所ノ國風ヲ以テ之レヲ考フレハ。則チ古昔海潮進退シ。其水甚タ巨也。而シテ陵谷變移シ今小渠涓流。僅ニ其處ヲ識ルノミ。又古國風野田ト玉川トヲ分詠シ。或水變ヲ賦シ。（國風入江ト作ス。）或池塘ヲ賦シ。又獨渠ヲ賦スル者有リ、蓋シ亦タ此左右ノ地ヲ賦スルナラン。余嘗テ古老ノ說ヲ聞クニ曰ク。古昔市川・冠川ノ二水合流シテ、水門濱ニ至リ。（古ノ多賀ノ水門已ニ見ユ。）テ海ニ入ル。是ヲ玉川トナス。今ノ玉川ハ則チ古國風ニ詠スル所ノ。野田ノ入江ニシテ。則古ノ玉川灣奧ナリ。偶王屋文集ヲ閱スルニ。（藩ノ先儒富田充實字伯耳王屋ハ其號ナリ。）中ニ玉河碑文アリ。而シテ此地ニ其碑ナシ。想フニ文成リテ而シテ其事果サヽル乎。今擧テ茲ニ錄ス。

玉河碑文　　富田充

歐陽子難除州西澗詩曰。除之城西無澗。獨城北有澗。亦水淺而無負舟之力也。何江潮之至哉。余嘗謂天地之運何限。物換星移陵谷易地焉。知除澗之非唐之時是。而宋之時非也。何啻詩人之務佳句哉。久之遊玉河。於是乎徵余言焉。玉河我奧之名勝。世誰不知焉。考諸國風之什。則古時蓋

巨水云。海風送潮湧湃而來。水禽千群。甚鳴徘徊。嗟湯々乎。大也哉。而今小湾池耳。天地之運爲爾。嗟乎世之探勝者何限、以其湾地故不覺爲古之名勝。可爲長大息矣。法蓮萬春學渉内外。文思蔚然。斌々法門君子也。嘗慨名區勝境多變遷。其名失之者於玉河爲最甚。爲寄邇法蓮故也、乃猛意任其事。慫慂隣黨。建立表之。使世之探勝者睨乃識焉。且後世如有歐陽子乃以答其難也、遂屬余爲銘。銘曰。

誰謂河廣。哀此如帶。目睹雖遠。口碑毋害。詢事靑史。刻辭白石。翌哉不朽。春公勸役。

春宵玉水步月　　釋　虎班

碧玉何人營此投、涵川幾歲見方流。花邊艶々淸波湧。柳外亭々明月浮。迷霧幽禽啼曲渚。乘風騷客嘯芳洲。今宵勝賞誰論價。一刻千金與轉優。

野田塘

玉川ノ北ニ在リ。

竈田

玉川ノ東北（地鹽浦ニ屬ス）數百步ニアリ。傳ニ曰ク、鹽神鹽ヲ煮ルノ竈二口。此田ニ沒ス、今農夫相警テ穢身ヲ以テ。此田ニ入ラス。

箭工宅跡

玉川ノ西南ニ在リ。古昔國守多賀城ニ在ルヤ。矢人ヲシテ茲ニ居ラシム。土人今猶ホ之レヲ呼テ矢摶館ト謂フ。續日本後紀。仁明帝。承和四年。奥州始テ弩師ヲ置ク。陸奥國言フ、劒戟ハ交戰ノ利器。弓弩ハ致遠ノ勁機ナリ。故ニ五兵更ル〳〵用ヒ。一ヲ廢スルハ不可ナルヲ知リキ。况ンヤ復タ弓馬ニテ戰鬪スルハ。夷獠ノ生習ニシテ。平民ノ十其一ニ敵スルコト能ハス。然レトモ弩戰ニ至テハ。萬々ノ横機アリト雖トモ、一弩ノ飛鏃ニ對スルコトヲ得ス。是則威狄ノ至テ尤キ者ナリ。願クハ弩師ヲ置キ。督習セント欲ス。勅シテ許シ給ヒヌ。（名所圖繪、參州矢矧宿矢橋又ハ矢作ト書ス。國名風土記云。昔日本武尊

東征ノ時。此宿ニテ矢ヲ多ク作ラシメタマフヨリナツク。此事參考トスヘク。タメコ、ニ記ス。）

西原山

玉川ノ西北ニ在リ。

向泉院 附掛絲觀音堂

玉川ノ南數百歩ノ丘上ニ在リ。相傳フ。僧正行基ノ創建スト。後久ク廢セリ。正德三年。僧象田再興セシト。（巡覽記ニ曰ク。南叟西堂開基。松島瑞巖寺ニ隷ス寺前ニ觀音堂アリ。大士ノ像モ亦行基ノ製スル所 村婦蠶ヲ祈リ驗多シ。乃五色ノ絲ヲ以テ之レヲ賽ス。絲掛リテ堂ニ滿ツ。故ニ掛絲觀音ト稱ス。）

田子屋山

向泉院ノ後ニ在リ。

白駒泉

向泉院ノ南ニ在リ。土人白泉ト稱ス。昔坂將軍騎ル所ノ馬。地ヲカイテ此泉ヲ出スト。

櫻井館趾

古壘館アリ。土人曰ク。櫻井館何人ノ居タルヲ詳ニセス。

留潮天神祠

向泉院ノ西ニ百餘歩ノ高丘上ニ在リ。祠邊ニ雜樹密ニ茂リ。樹皆數圍ナリ。其古キ祠ナルコト知ル可キナリ。土人相傳ヘテ、鹽廟ノ枝祠ト稱シキ。曰ク鹽神鹽ヲ煮ルノ日。海潮屢湧キ多ク民地ヲ割キタリ。鹽神之ヲ病ヒ。乃此神ニ命シテ之レヲ防カシメ給フ。故ニ留潮ヲ以テ號ト爲ス。今鹽浦ニ有ル所ノ防波石ハ。則此神ノ置ク所ナリ。土人或ハ誤テ。菅公ノ祠ト謂フ者有リ。蓋古者廷臣ノ外州ニ血食セルハ。皆天神ヲ以テ稱シキ。而ルニ土官國神ト號シテ、以テ之レヲ別ツ。而シテ菅天神ノ名獨海內ニ顯ル故ニ誤レリ。

大窪山

紅楓山ノ後ニ在リ。

西園寺

笠石ノ南ニ在リ。地ヲ鶴谷ト曰フ。松島圓福二十七世ノ僧大林ノ創建ニテ、後久シク廢セリ。享保辛亥ノ年。僧仙林ト云フ者再建ス。松島瑞巖寺ニ隷ス。寺南ニ阪路アリ。赤阪ト曰フ。大代巷ニ出ル路ナリ。大代ハ此ヲ距ルコト里許。後ニ見エタリ。

仁和多利權現祠

西園寺ノ東北ニ在リ。

神明祠

西園寺ノ西南ニ在リ。地ヲ向陽ト曰フ。

船塚

地ヲ眉見塚ト曰フ。周回七十餘步。

箱塚

地ヲ前畑ト曰フ。周回九十餘步。

箱塚川

箱塚ノ東南ニ在リ。上流八幡川ト爲ス。東南菊岡ヲ經テ大代川ニ入ル。

菊岡橋

八幡村ニ屬シ、箱塚ノ東南ニアリ。

西沼

地ヲ助ケ森ト曰フ。沼周回百六十歩。

圓滿光德院

八幡坊中ニ在リ。慶長中、天童頼澄ノ創建ニシテ。僧傳海ト云フ者ノ開祖タリ。天台敎ヲ奉ス。蓋シ頼澄ハ藩ノ太夫。此ノ際左右ノ地ハ其ノ食邑ナリ。故ニ寺ヲ此ニ建テ祈禱所ト爲セシナラン。

不磷寺

光德院ノ西ニ在リ。其創始及ヒ何敎ヲ奉スルカヲ詳ニセス。相傳ヘテ古刹ト爲ス。今ハ禪刹タリ。僧一峯ヲ以テ中興ノ祖ト爲ス、而モ其年月ヲ傳ヘス。一峯ハ松嶋圓福九十一世ノ住僧ナリ。鄕老曰ク、此地蓋二蘭若アリ。一ヲ此寺トナシ二ヲ隣障寺ト曰ヒ。三ヲ般若寺ト曰フ、世之レヲ八幡村三刹ト稱ス。又三寺トモ、末ノ松山ノ下ニ在ルヲ以テ本松・中松・末ノ松ヲ以テ之ヲ稱ス。而シテ此寺一峯中興ノ後。改

テ小松山ト云フ。郷老又曰ク。昔一峯松島ヨリ此ニ退隱セルナリ。寺已ニ荒壞シテ上漏レ下濕フ。然レトモ一峯以テ心ト爲サス。關ヲ閉チテ默座ス。數月ヲ經テ偶々一僧アリ來リ訪ヒ。和歌ノ下聯ヲ詠ミテ曰ク。內外奈之仁雨牟不理無寺ト。一峯聲ニ應シテ曰ク。田螺乃身乃蓋破禮多理有爲乃法ト。僧聞テ敬服シ乃チ隨從シテ去ラス。苦修シテ緣ヲ募リ。相助テ再ヒ此寺ヲ營ム。

寶國寺

不礫寺ノ西ニ在リ。其創ヲ傳ヘス。舊隣障寺ト稱ス。聞老志ニ曰ク。八幡中ニ寺有リ。末松山隣障寺ト曰ヒ。一ヲ中松寺ト曰フ。八幡村三刹ノ一。慶長中。藩ノ太夫天童賴澄ノ再建ニシテ香花ノ地ト爲ス。寬永中。賴澄ノ子定義父ノ法謚ヲ取リ以テ寺號ト爲ス。今ノ額ニ更メ僧鐵牛ニ請ヒ。中興ノ祖ト爲ス。封內名蹟志ニ曰フ。八幡村中寺有リ。寶國寺ト曰フ。領內風土記ニ曰ク。寶國寺ニ遊ヒ壁上ヲ看ルニ。和歌一首ヲ押テ曰ク。吾爲仁殘志置計武法乃珠數々々遣留罪消與登天之ヲ察スルニ則女筆ナリ。寺僧ニ何人ノ作ナルカヲ問フ曰ク。小川某ノ母詠スル所ト。寺僧嘗テ小川氏ヲ訪シトキ。念珠ヲ遺ル。小川氏ノ母此歌ヲ詠シテ以テ。之ヲ返スト云フ。

馬埒跡

土人今馬場ト稱ス。相傳フ。古八幡神廟祭禮ノ日ニ。騎射禮有リ。是其跡也。古阪將軍ノ子。千熊騎射セシ處ナリト。而レトモ千熊ハ正史ニ見エサル所。獨野史之ヲ載スト云フ。

內八幡神祠

此地ヲ臺ト曰フ。慶長中。天童賴澄立テ之ヲ內ト稱シ。以テ本廟ニ別ツ。

天童神祠

內八幡ノ東北ニ在リ。慶長中。天童賴澄立ツ。土人曰ク。天童氏勝國ノ時。邑ノ天童ニ在リ。則チ其居城內ニ祭ル所ノ神。國初此地ヲ賜フ。因テ茲ニ祠ルト

云フ。（喜太郎神祠ハ。是天童神祠カ、別ニ此祠アル乎。追考ヲ俟ッ。）

皇都石

思湧橋南里餘ヲ八幡村ト爲ス。村巷アリ。八幡坊ト曰フ。阪ノ東隅ニ三奇石有リ。各丈餘共ニ之ヲ皇都石ト稱ス。而シテ南方一石ノ狀。世所謂須彌山ノ圖ノ如キ者尤奇ナリ。

八幡廟神

末松山ノ南二里餘ニ在リ。村名八幡ハ神祠ニ據レリ、土人之ヲ輿八幡ト稱ス、蓋輿ハ此地ノ舊稱。即輿井里ノ略。輿或ハ沖ニ作ル。又起ニ作ル。或曰、後冷泉帝、康平中。源義家鞢ヲ献ス。因テ又鞢八幡ト稱ス。廟ハ原松嶋ニ在リ。類聚國史ニ載スル所ノ。宮城郡松嶋八幡是ナリ。阪將軍東征多賀城ニ在ルノ日。之レヲ末ノ松山ニ移シ。建テ以テ祭祠ニ便ス。後順德帝ノ建保中。平右馬介ト云フ者。再ヒ茲ニ移ス、相傳フ。祠古甚タ巨麗ナリト、今村老野夫。淳々其盛時ヲ傳說シテ曰ク。古阪將軍茲ニ移セショリ。伊澤氏ニ至リ。鎮守留守ノ職ニ任スル者、尊奉セサル無シ。當時掌祠般若寺、寺產二千石。子院二十四。祠官三十人。慶安中。海水暴湧ノ變アリ。一村居民多ク漂沒シテ。魚鼈ノ餌ト爲ル、此時子院廢絕シ。祠官近村ニ在テ農ト爲ル。而レトモ猶祭祠ノ日ニ於テ來リ。其職ヲ奉ス。天正中。伊澤氏國除カレ。祠宇荒壞シ。邑民僅ニ之ヲ葺修スルノミ。貞享甲子。肯公數十金ヲ賜ヒ。再ヒ之ヲ起シ。厥後二十四年ヲ經。寶永丁亥五月四日災ニ罹リ。祠宇及古器。古文書。悉ク烏有ト成ル。今ノ廟ハ則邑民合力シテ之ヲ營メリト云フ、村老又曰ク。災ノ後存スル所。胡銅佛像一軀耳。像背鐫リテ曰ク。正元二年二月十五日。勸進沙門淨心敬テ白スト。又祠前ニ嘗テ古鐘アリ。延寶中、盜マル。相傳テ、其銘ヲ記ス曰ク。奉謹鑄鐘。奥州末松山八幡宮。大檀那介平景綱。（右馬介ノ後。）永仁七年二月朔日。今ノ鐘ハ則延享中。邑民ノ献スル所。（日本詩

古事選ニ曰ク。阪上田村麿ノ長五尺八寸。武力人ニ過ク。延暦中。征夷大將軍ニ拜シ蝦夷ヲ攻撃シテ屢軍功ヲ策スト云フ。

般若寺

八幡神廟ノ側ニ在リ。（八幡村二刹ノ一。）古來神廟祭祠ヲ掌ル事。而モ何人創セシカヲ傳ヘス。今僧賢容ヲ以テ中興ノ祖ト爲ス。而シテ容モ亦タ何時ノ人ナルカヲ詳ニセス。本ハ末ノ松山ニ在リ。順德帝。建保中。神廟ト共ニ茲ニ移ス。寺舊巨麗ナリキ。寺產二千石。子院二十四。神廟ノ條下ニ詳ナリ。鄉老曰ク。寺ハ舊鹽浦法蓮寺ニ隷ス。今復ニ隷ス。未タ實ノ然否ヲ詳ニセス。

八幡川

市川ノ末流ニシテ。東笠神村ニ到リテ海ニ入ル。

三所明神祠

千引觀音堂ノ東ニ在リ。

本鄉原　古所謂奧井鄉。

土老相傳フ。此地古八幡神廟ノ門ニ在リ。居民千餘家。頗繁華ノ地タリキ。呼テ八幡巷ト曰フ。而シテ神廟南遷ノ後尚舊時ノ如シ。而シテ龜山帝。應安中。海水暴カニ湧キ家屋漂沒シ居民散亡ス。而シテ今ノ利府驛ニ八幡巷有リ。其居民ハ則散亡ノ餘ト云フ。

櫻樹觀音堂

本鄉原ニ在リ。何人ノ創メナルカヲ詳ニセス。昔堂前ニ櫻樹有リ土人名樹ト爲ス。今枯レタリキ。

方八丁塚

本鄉原ニ在リ。土人曰ク。其事故ヲ傳ヘス。相傳ヘテ古塚ト爲ス。今ハ田圃ト爲リ。僅カニ其跡ヲ存セリ。

猩々池

末松山ノ東南里餘ニ在リ。地ヲ中野ノ地ト曰フ。農家ノ背ニ小池有リ。是レナリ。土人相傳ヘテ曰ク。昔八幡巷中酒家有リ。一夕偶マ異人來リ飲ム有リ。紅髮朱顏數斗ヲ飲テ去ル。後數々來レトモ其去ル所

ヲ知ラス。村中ノ惡少年、相謀リ之レヲ辱ント欲ス。酒家ノ比隣ニ老翁有リ。聞テ之レヲ憐ミ、來路ニ要シ譬テ之レヲ止ム。彼曰ク。辱メラル時ハ、玆ニ告ケン。然レトモ我ノ飲ント欲スル死モ且辭セス。況ンヤ狎辱ヲヤ。遂ニ來リ飲ム、惡少年等其歸路ヲ窺テ之ヲ傷ク。殆ト將ニ死ナントス。匍匐シテ翁ノ家ニ到リ。告テ曰ク。我當ニ死スヘシ。翁願クハ吾屍ヲ以テ之レヲ巷ノ東南ノ池中ニ投セヨ、且今ヨリ後六日潮大ニ至リ。村民咸魚鼈ト爲ラン。翁宜ク末松山ニ登テ以テ之ヲ避クヘシ。翁ノ厚惠ヲ蒙ル聊カ相酬ル耳ト。言終テ死セリ、翁憐テ屍ヲ此池ニ沈ムル。其教ノ如クセリ。期ニ至リテ驚濤果シテ湧キ。湯々トシテ山ヲ懷ミ陵ニ襄リ。一村漂沒シテ孑遺ナシ。而シテ末松山波濤及ハス、乃翁ノ一家獨全ヲ得タリ、遠近聞ク者咸謂ラク。暗ニ國風ニ末松山波濤越サスノ言ニ符スト。後有識者彼ノ猩々爲ルヲ知ル。因テ此池ニ名クト云フ。

稲荷神祠

猩々池東ニ在リ。何人創メシカヲ詳ニセス、

出鍬里

八幡村ノ南ニ在リ。村名中野里善ク河漏ヲ製セルヲ以テ稱セラル、四方賓客ヲ饗スル事有リ。之レヲ雇ヘハ即悉ク製具ヲ駄シ。其家ニ到テ之ヲ製ス。

誓渡寺

出鍬里ニ在リ、僧海翁ノ創建ナリ。海翁ハ松嶋圓福寺ノ法身三十二世ノ僧ナレト。其年月ヲ傳ヘス。寺中舊熊野祠アリ今廢シタリ。

中源寺趾

其他今神妻宅地ト稱ス、寺廢シタルコト久シ。今熊野祠ヲ置ク。（雷神祠・甚光明神祠・神明宮・阿彌陀堂・觀音堂。右中野村ニ在リ、）

西光寺碑

中野村ノ南ヲ福室村ト爲ス、村ヲ南北ニ分ツ。村北ニ寺アリ、鳳赤山西光寺ト稱ス。寺記ニ曰ク。正平二

年間四月。靈光知玉和尙ノ開基ニテ。鎌倉建長寺ニ隷ス。後數世燈外祖燈和尙ニ至リ。更ニ京師妙心派ト爲ル。寺中ニ古碑アリ。題シテ曰ク、正平七年三月十八日。土人誤テ相馬將門ノ墓ト爲ス。案ヘルニ。正平ハ、南朝後村上帝ノ年號ニシテ 七年ハ北朝後光嚴帝。即位文和元年ニ當レリ。古朱雀帝。承平中。逆臣將門。自ラ平親王ト稱シ。而シテ此碑モ亦タ平親王ノ墓ニシテ。年號正平國音承平ト同シ。故ニ土人混合シテ是ノ謬傳ヲ爲セリト。余疑フ、是レ南朝後醍醐帝ノ諸皇子。護良親王等ノ墓碑ニテ。藤房ノ如キ遁世ノ後。此寺ニ在リ諸皇子ノ冥福ヲ爲ス者ナラン。開山靈光知玉。日輪知光。單瑞祖傳。德岩祖誾等ノ傳ハ。追考ヲ俟ツ。夢窓錄編者ニ僧知光アリ、碑高五尺餘橫二尺餘。

多湖浦島

福室村ノ西ナリ。聞老志ニ曰ク。鄕俗田子ニ作ルト。今藻鹽草ニ據レリ。同名多シ。駿河ニ在ルヲ田兒ト爲シ。越中ニ在ルヲ多祜ト爲シ。共ニ萬葉集ニ出ツ。福田以北ニ在リ。(福田巷ハ村ノ南ニ在リ。)俗ニ田子村ト曰フ。躑躅ヲ以テ名產ト爲ス。此地古浦島ヲ以テ稱シキ。而シテ今田野村落ヲ見ルノミ。又曰ク相傳フ。賴朝東征ノ日軍ヲ茲ニ次ル。然ルニ東史逐日宿次ヲ記シテ此地ニ及ハス。疑フ可シ、或ハ傳フ、從軍シテ此地ニ陣スト。村中ニ樹神祠アリ。祠邊白藤花ヲ以テ名アリ。二渡明神祠アリ。又鳥井明神祠アリ、今廢シテ其遺趾ヲ在セリ、

念佛橋

狸々池ノ東ニ在リ、小祀アリ。念佛橋ト名ク。未タ其由ヲ詳ニセス。(菊田橋。町東橋。寺前橋。貫華堰。寺前堰。莊後堰。以上八幡村。)

觀音堂

○○○○○ニ在リ。地ヲ鎮守嶋ト曰フ。何人ノ創建ナルカヲ詳ニセス。土人鎭守嶋觀音ト稱ス。

柏木神祠(木ハ樹ニ作ル可シ)

八幡神祠ノ東ヲ距ルコト三里餘。大代村ニ在リ。鹽廟枝祠ノ一。土人曰ク。神柏樹ヲ愛ス。故ニ祠邊皆柏樹ナリ。相傳フ。神鹽神ニ從テ鹽ヲ煮。柏葉ニ包ミテ諸生民ニ頒チ與フ。故ニ柏木ノ稱アリ。土人曰ク。姙婦之レヲ祈レハ。患害有ルコト無シト。祠畔ニ道士有リ。明性院ト曰フ。祀ノ事ヲ掌ル。

福田坊

田子村ノ南ニ在リ。農兵歩卒居ル。又店有リ。西苦竹村ヲ經仙臺府城東門原驛ニ至ル。坊西ニ觀音堂像有リ。相傳フ。空海ノ製スル所ト。坊北ニ寺有リ。雲洞院ト曰フ。宗ハ曹洞禪。天文二十三年。僧梅巷東春ノ開建ナリ。門扁(見龍山)及堂扁。(雲洞院)共ニ僧月舟ノ蹟ナリ。

福田川

一ニ田子川ト曰フ、冠川ノ末流新田等ノ數村ヲ經。此ヲ過キ東蒲生濱ニ至テ海ニ入ル。

多賀城墟ノ西。仙臺府道路ノ左右諸區ハ。鹽松ヲ距ルモト稍遠ク。比篇關係スル所非サルニ似タリ。然レトモ遊フニハ。多ク府城自リシ東往西歸。必ス經ル所ニシテ徒過間行ハ。豈ニ惜マサラン乎。茲ニ其梗概ヲ擧ケテ以テ遊フ者ニ便ス。若夫レ西歸スル者ニ於テハ。宜ク首自リシテ順ニ之ヲ讀ミ。其東歸スル者ハ。即チ尾從リシテ倒ニ之レヲ閲スヘキナリ。

南宮神祠

市川圯橋ノ西二里餘ニ村巷有リ。南宮巷ト曰フ。西ニ小祠有ル是レナリ。封内名蹟志ニ曰ク。南宮祠ハ南宮村農家ノ乾野田中ニ在リ。今之レヲ紫明神ト謂フ。土人之レヲ色御前祠ト謂フ。相傳ヘテ鹽廟枝社ノ一ト爲ス。祭ル所ハ金山彥命ナリト。一宮記ニ曰ク。南宮ハ金山彥命ナリ。社家記ニ曰ク。南宮ハ金山彥命ニシテ火神ナリ。金神ニ非ス。離火南方ヲ司ル。故ニ南宮ト名ク。抑モ南宮ハ陽神ニシテ。南方ニ居リ。文武兼備故ニ國家崇メ貴ミテ。正一位勳一等

ニ叙ス、就中天武朱雀ノ朝。功ヲ我邦ニ施ト云フ。神社啓蒙ニ曰ク。南宮神社ハ。濃州不破郡ニ在リ、或傳フ。太古鹽神ヲ佐ケテ敎化ヲ四方ニ布クノ神。因テ諸レヲ方位ニ配シテ。以テ之ヲ祀ル、今鹽廟ノ四方ニ各祠有ル者是ナリ。東宮ハ東宮濱ニ在リ。已ニ西宮ハ巖截村ニ在ルコト見ユ。北宮ハ春日村ニ在リ。共ニ後ニ見エタリ、或曰大野東人多賀城ヲ置ノ日、方位ニ於テ各神祠ヲ建テ。以テ城ノ鎭護ト爲スト。未タ孰カ是ナルヲ知ラス。

新田碑

今市巷ノ東南ヲ新田村ト爲ス。村中ニ碑有リ。高七尺横四尺六寸。額ニ梵文ヲ彫ル、其下ニ記スル所ノ文字殘缺セリ。其中正和元年八月十九日等。僅カニ讀ム可シ。而シテ其書古雅愛ス可シ、

安樂寺趾

新田村ニ在リ。相傳ヘテ古寺ト爲ス。今廢シタリ。

稻荷神祠

新田村ニ在リ。其創メヲ詳ニセス。

山王祠

同村ニ在リ。南村ヲ山王ト曰フ。神祠ニ因レリ。

諏訪神祠

觀音堂

相傳フ。像江州三井寺觀音ノ像ヲ摸スト。

慈雲寺

南宮巷ノ西口ニ在リ、相傳舊。伊達郡成田村ニ在リ。宗ハ曹洞ノ禪ト。藩ノ士成田某世々香花ノ地ナリト。成田氏采地ヲ此ニ賜フノ後。寺又此ニ移建ス。而シテ其年月ヲ詳ニセス、寺僧曰ク、移建中興ノ僧ハ。武山俊藝ト名ク、寛文四年遷化ス。寺前ニ一古碑有リ。從四尺餘衡一尺餘。文字剝落十ニシテ五六ヲ讀ム可シ。而シテ書法古雅。近世流俗ノ書ニ比スルニ。固ヨリ大ニ類セス。

奧細道

南宮巷西三里許ヲ巖截村ト爲ス。巖截一ニ巖切ニ

作ル、又巖斷ニ作ル。巷有リ闇口街ト名ク。半ニ岐アリ。東北ニ向フ。是ヲ松島路ト爲ス。仙臺府城ヨリ。鹽浦ヲ經ス直チニ松島ニ至ルトキハ。則チ此岐ニ由ル。古此際道路アリ、奥ノ細道ト曰フ。宗久紀行ニ曰ク。行テ多賀國府ニ至リ。奥ノ細道ヨリ南行シテ。末ノ松山ヲ陟ルトハ是レナリ、觀跡聞老志ニ曰ク。古來封內東奥道ト稱スル者。或ハ口碑ニ存シ。或ハ載籍ニ見ユ。名取ニ於テハ則笠島ニ在リ。宮城ニ於テハ則木下ノ西ニ在リ。其道路今ノ路ト會スル者アリ。異ナル者アリ。此地亦分明ナラス、或曰巖切橋ノ北東光寺ノ前路是レナリ、朱桃金華山記行曰。七北田驛ノ半ニ細徑有リ。南向岩截村ニ至ル、此古所謂奥ノ細道ナリ、闔國野洲良。回國雜記標註ニ曰。奥ノ細道ハ。宗久紀行及聞老志等ノ書。之ヲ和歌ニ載スト雖トモ。未タ嘗テ既ニ之レヲ見ス、而續後撰集大納言志良ノ歌ヲ載スト。曰ク。跡絕奴誰仁問波摩志陸奥乃思非信夫乃奥乃通路。然リ而シテ其結何。或ハ細路ニ作ル。則チ其稱此ニ起リシ乎。

志田小太郎碑

闇口巷農家ノ前ニ在リ。二碑有リ。相並テ共ニ殘缺セリ。右馬頭衆蓁金重首白。實子利翁等ノ字。隱々僅ニ讀ム可シ。而シテ土人志田小太郎ノ碑ト爲ス。何ノ徵アルヲ知ラス。暫ク此ニ擧ケテ後識者ヲ俟ツ、

途絕橋

松島岐路ノ西ヲ距ルコト數步。農家ノ前ニアリ。一ニ戸絕ニ作ル。又渡斷ニ作リ。或ハ迹絕ニ作ル、古人國風ニ詠スル所、土人誤テ轟橋ト曰ヒ、或ハ轟驚ト曰ヒ、又轟行ト曰フ、觀跡聞老志ニ曰ク。今市河ヲ過テ。巖切ノ農家ニ入ル處ニ小圯アリ。鄉俗之レヲ轟行圯ト謂フ、是古ノ所謂途絕ノ橋ナリ。今其名ヲ誤リ呼ヒキ。府士萬葉ニ曰ク、古一紳士アリ此里ニ客居シ、密カニ女ニ通ス。之レヲ久フシテ女ノ父之レヲ覺リ。乃戸扇ヲ編ミテ橋上ヲ闔チ。以テ其通路ヲ絕ツ、後貴人タルヲ知リ。之レヲ撤ス、橋因テ戸絕

ノ名ヲ得タリト。回國雜記標註ニ曰ク。迹絶橋仙臺良方冠川ノ東ニ在リ。鹽浦松島岐路ノ左傍ナリ。橋邊ハ則奥細道・十府海等ノ地。連續セリト。

志波彥神社　附牛頭天祠

迹絶ノ橋ノ側ニ在リ。其地ハ即冠川ノ陽ナリ。因テ又冠川神社ト號ス　一ニ西宮明神ト稱ス。鹽竈方位四祠ノ一。延喜式神名帳ニ載スル所。宮城郡大社四座ノ一。祠廢シタリ。今牛頭天王祠ヲ置ク。覩跡聞老志ニ曰ク。冠川神社ノ址ハ。岩切河ノ北ニ在リ。土人之レヲ志波道上ト謂フ。蓋志波ハ鹽ノ方言。道上ハ同社ノ訛。道上同社國音近キヲ以テ。之レヲ誤レリ。是レ鹽神同社ノ義ナリト。又曰ク。緣起說ニ曰フ。祠官及里俗相傳フ。鹽神先天冠川ノ上リニ降リ給フ。因テ祠ヲ立テ神降明神ト曰フ。後鹽廟ノ枝祠トナス。且神降ヲ更テ冠ト爲ス。冠ハ首ナリ。元初ノ義ヲ取ル。且神降國訓冠ト同シ。（加牟理ト訓ム。）故ニ之レヲ改ム。封内名蹟志ニ曰ク。志波彥神社ハ。岩切村ニ在リ。道士光覺院有リ。其宅中古來稱テ志波道場ト曰フ。傍ニ小池アリ。即志波ノ彥祓川ナリ。又此地ニ牛頭天王ノ祠アリ。舊留主氏高森ニ居ルノ時。後山上ニ在リ。寛永中此ニ移ス。又曰ク。風土記殘篇ニ曰フ　志波彥神社。圭田六十八束二字田。所祭健速日命ナリ。天智天皇三年。始テ圭田ヲ奉シ。神祀ヲ行フ。但志波ヲ以テ志律トナス。是レ草字ヲ以テ之レヲ誤ルカ。天王ノ舊地ハ今ノ祠ノ西北二里餘。天王山ト云フ。東光寺ノ後山上ニ祠跡アリ。

羽黑神祠

相傳フ。昔伊澤家景創メタル祠ナリト。

東光寺

冠川神社趾ノ西ニ在リ。宗曹洞禪寺前ハ冠川ニ臨ム。相傳フ古刹宗天台敎ナリ。而レトモ何人ノ剏メシカヲ詳ニセス。或曰ク。後小松帝。應永中。僧祥山之レヲ創メシニ非ス。則チ再建也ト。一書ニ曰ク。天文戊申。本州岩瀨郡須賀川。長祿寺ノ僧。普嶽文統中

興ス。古稱ヲ改メテ禪トナスト。領内風土記ニ曰ク。東光寺ノ後山下ニ。慈覺大師ノ崖ニ刻ミタル藥王ノ像アリ。其山ハ則世ニ所謂本松山ナリ。朱桃金華山紀行ニ曰ク。冠川ノ橋ヲ過グレハ寺有リ。東光寺ト曰フ。古昔何宗派ナルヲ詳ニセス。今宗ヲ曹洞禪トナス。寺後ノ山上ニ慈覺摩崖鐫刻ノ藥王像有リト。則是レ慈覺ノ創セシカ。古碑アレトモ殘缺シテ讀ムヘカラス。而シテ承平年等ノ數字。纔カニ見ル可シ。其他古碑甚タ多シ。其中應長元年。立ル所ノ者一。嘉暦二年ノ者二。其文華嚴如來成正覺時。於ニ其身中。普見一切衆生。成正覺等。皆佛碣浮圖。然レトモ筆格醇古多ク見ル可シ。土人曰ク。古昔寺中ニ千躰佛堂有リ。寛永中。災ニ罹ル灰燼ノ餘埋テ土中ニ在リ。邑人偶土ヲ鑿チ之ヲ得ル者有リト。

古壘蹟

相傳フ。東光寺ノ畔ニ。古壘蹟アリ。今詳ナラス。仙臺武鑑ニ曰ク。東光寺城ハ。餘目某コヽニ居レリ。餘目氏勝國ノ時。留主氏ノ臣也。林以正ノ子。師岡崎侯ノ儒臣撰フ所ノ國分盛重ノ傳ニ註シテ曰ク。盛重ニ三男三女アリ。其第三女餘目ノ宗家ニ適ク是レ也。

十府池 附十府浦。十府里。

東光寺ノ北二里餘ニ在リ。地ハ十府又都府浦ニ作ル。國府ニ近キヲ以テ故ニ此名アリ。府又符ニ作ル。皆邦俗音訓ヲ假リテ以テ之ヲ稱スルナリ。此地古菅薦ヲ產ス。薦廣三尺其經十縷。府ハ經ノ方言。故ニ之ヲ十府菅薦ト稱ス。國風所謂君七經ニ寢ネ妾三經是レナリ。今農家ノ背ノ小池ニ菅草有テ叢生ス。土人之ヲ十府池ト稱ス。八雲御抄ニ云フ。十府菅薦兩說有リ。一ハ其十縷ヲ經テ以テ名ケ。一ハ其名ノ故ヲ以テ名ク。觀跡聞老志ニ曰ク。十府池國府館ノ南。農家ノ後ニ有リ。小池アリ。池中ニ垂柳アリ。柳下菅草頗多シ。又曰ク。今ノ利府驛ハ則古ノ十府ノ地。利ハ銳利ノ利。國訓十ニ通ス。後人誤リ讀テ以テ

便利ノ利トナス。且利府驛ノ畔ニ菅谷村アリ。一ニ菅生村ト曰ク。則古昔好菅ヲ生シタリシ地ナリ。土人采テ以テ薦席ヲ製ス。以テ證ト爲ス可キナリ。府土萬葉舊說ニ云フ。鄉老曰ク。十府ノ地巖截館址ノ下ニ非ス。卽チ今利府驛ナリト。利十邦訓ノ誤ナリ。和漢三才圖繪ニ曰ク。十將里古此處ヨリ菅コモヲ織リ出シ、十府ノコモト名ク。或曰ク。其編作目十數有リ。故ニ十賦ト稱スト。

巖截城墟

十府池ノ北ニ有リ。一ニ巉巖城ニ作ル。又岩切館ト曰ヒ又高森館ト稱シ。或ハ高峯ニ作ル。山形方峭ニシテ上坦平ナルコト砥ノ如シ。封內古城錄ニ曰ク、高森城東西十六間。南北五十間。二丸東西五十間。南北百十六間。此城主賴朝卿ノ時。甲斐國住人。膽澤四郎左近將監家景ノ居城ナリ。實ニ天險ニシテ鹽浦路上ニ往々之ヲ仰瞻ス。其佳矚亦知ル可キナリ。府土萬葉ニ曰ク。岩截村高森ハ留主氏ノ居ル所。則山巓ニ非スシテ山半平坦ノ處ニ在リ。土老曰ク。古城ニ一井有リ。井深三十餘丈。今埋マレリ。其跡猶存ス。相傳フ。文治中。伊澤家景源右將ニ從ヒ、東征シテ功有ト。奧州留主職ニ封セラレ。多賀城ニ在リ。後此地ヲ相シテ居館ヲ爲リ。多賀城ヲ以テ治府ト爲ス。後治府モ亦此ニ徙ス。遂ニ此地ヲ稱シテ多賀國府ト爲ス、僧宗久記ス所ノ多賀國府ハ。此府ヲ謂フナリ。事已ニ多賀城墟ニ詳ナリ。厥後數世再ヒ居館ヲ利府驛ノ北西鴻巢山ニ移シ。此城遂ニ廢シタリ。（土人舊ニ由リテ此地ヲ。多賀城府ト稱ス。）余少年時。古老ノ談ヲ聞ケリ曰ク。井未タ埋セサルノ日。邑ノ少年等井ノ淺深ヲ試ント欲シ。繩シテ下リ井底ヲ見レハ。白髮ノ老翁瓢簞ヲ枕ニシテ眠リ臥ス。急ニ繩ヲ引テ上ル。

青麻神祠

巖截墟ノ西北二里餘ノ山中ニ在リ。山腹ノ懸崖ニ窟有リ。祠ヲ其中ニ營ム。階梯急峻ナレハ。鐵鎖ヲ

設ケ縁ヲ攀チテ登ル、祭ル所。海尊仙ナリ、近歳伊豆佐賣神社ヲ以テ之レヲ稱ス。其實非ナリ。祠ヲ守ル者。淫祀ニ屬スルヲ嫌フ。而テ幸ニ隣村ニ伊豆佐賣神社有リ。久ク廢絶セリ。乃海尊祠ハ源豫州義經ノ家臣。常陸坊ト稱スル者。或曰。海尊一日衣川ノ上流ニ釣リ。偶々一老翁ニ見エ。其家ニ宿ス。翁之レニ食ハシムルニ。魚炙ヲ以テス。其色赤クシテ味甚美ナリ。其名ヲ問ヘハ赤魚ト曰フ、乃其ノ半ヲ餘シ。歸テ家人ニ頒チ與フ。家人皆怪テ食ハス。獨婢之レヲ食フ。乃身輕クシテ老ヘス。清悦平泉實記曰ク。義經ノ僮喜三太名清悦。或曰。海尊後ニ名ヲ清悦ト改ムト。未何レカ是ナルヲ詳ニセス。遂ニ山ニ入リテ仙トナリ、時ニ人間ニ隱見シ。而シテ壽永・元曆ノ際。源平接戰ノ事、及平泉秀衡ノ時ノ事ヲ談スル有リ。最モ喜フヘキナリ。世ニ清悦物語一本有リ。是レ親シク清悦ノ談ヲ聞ケル者ノ記セシ所ト云フ。仙臺武鑑ニ曰ク、貞公嘗テ巖手城ニ在リ。一日清悦ヲ召シ見テ。泰衡敗亡ノ事跡ヲ問ヒ。且義經ノ書ヲ看ンコトヲ乞フ。即二三通ヲ上ル。公養老ノ田ヲ賜ハラント欲ス。受スシテ辭シ去リ。終ル所ヲ知ラス。領內風土記ニ曰ク。岩截山中ニ靑麻神祠有リ、源義經ノ臣海尊ヲ祀レリ、海尊仙術ヲ得ノ後。更メテ清悦ト名ク。風土秘草ニ曰ク。靑苧權現社。岩切村山中ニ在リ。此地古靑苧ヲ植フ。故ニ地名ト爲ル。岩窟高一丈餘、古來大日・不動・虛空藏三佛ヲ祭ル。邑民久作ト云フ者有リ。後所兵衛ト更メ名ク。性淳朴正直ナリ。久ク眼疾ヲ患ヒ。遂ニ明ヲ失フ。貧窮日ニ逼ル、天和二年四月朔日。老人アリ、來リ告テ曰ク。今夜四更應ニ齊戒沐浴シテ。天ヲ拜スヘシ。吾汝ノ性淳朴ナルヲ感シ。且其盲ヲ憐ム、汝吾カ敎ニ從ハヽ。則日ナラスシテ愈エント。言ヒ畢リテ忽チ去リ。其ノ往ク所ヲ知ラス。久作信心骨ニ徹シ、老人ノ去ル所ヲ拜ス。其夜敎ノ如ク天ヲ拜シ。默然禱ルコト少焉クニシテ。星光目ニ滿チ四邊ノ草木亦分明ナリ。彌信心ヲ凝

シ。毎夜天ヲ拜スルコト、三十餘日ニシテ眼疾全ク愈エ。後老人復タ來ル。其相凡ナラス。白髮朱顏ニシテ。眼光人ヲ射ル。問テ曰ク。汝目疾愈エタルカ。久作恐懼提伏シテ之レヲ仰キ見ルコト能ハス。稽首俯伏シテ答テ曰ク。幸ニ慈恩ヲ蒙リ、目疾愈ユルヲ得タリ。其謝スル所ヲ知ラス。願ハ尊翁ノ姓名及居處ヲ敎ヘタマヘ。老人曰ク。吾ハ昔源延尉ノ臣。常陸坊海尊ナリ。今名ヲ淸悦ト改ム。四方ヲ周流シテ。姑下野州ノ山中大日窟ニ隱ル。今ヨリ此窟ニ移住セント欲ス。此窟祭ル所ハ何神ソヤ。久作答テ曰ク。村民嘗テ大日・不動・虛空藏・三佛ヲ祭レリ。老人曰ク。幸イナル哉。吾カ念スル所ハ。日・月・星ナリ。今ヨリ當ニ三光窩ト稱スヘシ。乃窟ニ入ル。或曰ク。海尊仙常ニ此山中ニ遊ヒ、樵ヲ采ル。嘗テ一樵夫有リ。其母風疾ヲ病フ。偶。山中ニ於テ仙ヲ見テ救ヲ乞フ。仙敎フルニ食用ニ。桑簪ヲ以テセハ。則病全ク痊エ。而テ且長壽ナラント。其他奇異甚多シ。因テ此ニ祠ル。遠近相傳ヘ。崇祀者斷ヘス。祠號青麻ハ。其義ヲ詳ニセス。或曰ク神ニ青嚢麻姑延年ノ方有リ。以テ民人ヲ救フ。故ニ神號ト爲ス。因テ又地名ト爲ス。水戸史館珍書考。及和漢雜笈ニ曰ク。大虛錄ニ云フ。（明朝書百三十卷。）嵩山ノ下ニ老仙アリ。恒ニ人ヲ避ク。樵夫ト雖トモ之ヲ見ルコト能ハス　張大生ト云フ者アリ。數々見ンコトヲ請ヒ遂ニ之レニ見ユ。其齡百歲許形容憔悴シテ言語通セス。乃筆語ス。老仙曰ク。我ハ元日本人。嘗テ亂ヲ避テ中元ニ入リ、勃海ニ住スルコト五百年。近歲此地ニ來ル。我ニ定名無シ。今暫ク稱シテ殘月ト曰フト　居ルコト幾クナラス。時ニ復見エス。此仙ハ則チ常陸坊海尊ナリ。馬場信意義經勳記ニ曰ク。友人安達東伯ト云フ者。諸州ヲ遊歷シテ奧ニ在ルコト最モ久シ、其奧ニ在ル日。一老翁有リ。數々來リテ寓居ヲ訪フ。而テ宇里行藏ヲ言ハス。之ヲ里人ニ問ヘトモ。里人亦之ヲ知ル者無シ。相馴ル丶コト久シ。詰問シテ遂ニ海尊仙ナルコト

ヲ知レリ。因テ道ヲ得タル所以ヲ問フ。翁曰ク豫州源公ノ高館ニ在ルトキ。偶出遊ス余モ亦タ諸臣ノ後ニ從ヒ。衣川ノ上ヲ徜徉シ水ヲ隔テヽ遠望スレハ彩雲地ニ垂ルヽ有リ。雲中一異人有リ。翩然トシテ下リ手ヲ擧テ我ヲ招ク。余辨慶ト往テ之ヲ見レハ則身長丈許狀貌奇異眼光人ヲ射ル。乃魚肉ヲ出シテ之ヲ食ハシメラル。甚美ナリ。余問何肉カ彼曰ク。是レ人魚肉之レヲ食ヘハ。則應ニ長生スヘシト。因テ辭シテ反ル。中流ニシテ之ヲ顧レハ見エス。又一片ヲ以テ源公ニ贈ル。公亦之レヲ食シ。而テ皆共ニ死セサルヲ得。而シテ今ニ至ル余道ヲ得タル後。名ヲ更メテ清庵主ト號ス。今又殘夢ト改ムト云フ。海尊善談。壽永元暦間ノ時事。甚詳悉ニシテ。其事大ニ平語等諸書ニ載スル所ニ異レリ。東伯毎ニ其談ヲ聞ケハ。則之ヲ筆ス。後東伯奥ヨリ還リ筆スル所ヲ以テ。余ニ示ス余此ニ於テカ。此記ヲ編ス。美濃長戶讓士讓。北道遊簿ニ曰ク。會津稚松城下ノ第五街ニ實相寺有リ元德間ノ創建ニテ。天文間ニ至ルマテ殘夢師禪之レニ居リ。僧臘甚高シ其源平隆替ノ概ヲ說クコト。殆ト親ク覩ルカ如シ。故ニ或ハ言フ壽永・元暦ノ間ノ人ト。性好ンテ枸杞ヲ食フ。體貌健ナリ。天海僧正ノ少キトキ。就テ其法ヲ受ク。當時無々老人ト云フ者有リ。一日殘夢ト相見テ曰ク。會我兄弟復仇ノ翌ヨリ。相見サルコト久シ。殘夢曰ク。信ニ然リト此レヨリ往來間無シ。亦タ福仙ト云フ者アリ。磨鏡ヲ以テ業ト爲ス。賃ヲ撰ハスシテ往ク。談笑日ヲ度ル。殘夢福仙ヲ見テ曰ク。渠ハ義經ノ旗下ナリ福仙人ニ告テ曰ク。殘夢ハ乃チ常陸坊ナリ。天正四年三月廿九日。殘夢偈ヲ碑ニ書ス。筆ヲ擲テ寂ス。文祿間ニ至リ人アリ其壙ヲ啓ケハ則空棺ナリ。其後商客アリ。殘夢ヲ越後ニ見ル。又保科靭負之レニ三穗松原ニ遇フ。重テ源平間ノ事ヲ問フ。殘夢曰ク。義經ハ醜男ナリ。辨慶ハ美僧ナリ。世人傳ル所醜美相反ス。此類極メテ多シ。但今ハ則我ト倶ニ

親者存スル無シ。吾言證トス可ラス。吾復何ヲカ言ント、此事極メテ怪シ姑異聞ヲ錄スルノミ。

冠川

一名巖萩川南岸ヲ今市巷トス。因テ又今市川ト稱ス。源ヲ和泉嶽ヨリ發ス。(泉嶽一名嶺白石嶽。奥羽兩州ノ境ニ在リ。)七北田驛ノ南ヨリ。此ヲ經テ南スルコト十五六里。蒲生濱ニ至テ海ニ入ル。相傳フ。鹽神東征ノ時、先此川上ニ降ル。故ニ神降川ト稱ス。後同訓ヲ以テ冠川ト更ム或ハ傳フ。鹽神此水ヲ渉ル。會マ駕スル所ノ馬。石ニ蹶イテ冠ヲ墮ス。故ニ冠川ト名ク。神馬蹶クヲ惡ミ。一社ニ石ヲ上流ニ押留セシム。其祠水上五六里ニアリ。留石明神ト號ス。(土人或ハ石凝留神ト爲ス者誤レリ。)而シテ今ニ至ルモ。祠下秩然トシテ一星石無シ。亦奇ナリ。冠川舊橋下ヨリ東南八幡村ヲ經ヲ市川ト合流シ、水門濱ニ至リテ海ニ入ル、國初川村某(三木兵衛ト稱ス。)水利及樹藝術ニ工ミニ。大ニ水ヲ開キ移シテ。今ノ流ト爲シ漑灌ニ便ス。

東光寺城

封内古城錄ニ曰ク、城上東南十四歩。南北二十四歩。伊澤氏ノ臣餘目某此ニ居ル。

霧谷潭

觀跡聞老志ニ曰ク。東光寺下ノ碧潭ヲ霧谷潭ト曰フ。

松森城址

封内古城錄ニ曰ク。本城東西四十五歩、南北十六歩。南ニ湟有リ。幅十五歩。長百四十歩、昔天正中、國分彥九郎盛重小泉ニ移リ住ス。二丸東西十六間、南北十六間。國分氏ノ臣高平大學ト云フ者居レリ。

今市巷 附耕田寺。東福寺

冠川ノ南ニ在リ。農兵歩軍コヽニ居レリ。獨巷ノ東口數家、行客ヲ待チ酒食ヲ鬻テ生ト爲ス此地仙臺府ヨリ鹽浦ニ至ル半程トナス。故ニ遊者多ク憩息ス。豆腐ヲ以テ名品ト爲ス。又家々角黍ヲ製ス。人多

ク餽遺ス。巷半ニ二小寺アリ東ヲ耕田寺ト曰フ。宗曹洞禪。承應三年本邑歩軍伍長。兵藤偶ト云フ者創建僧外麟ヲ以テ開祖トス。西ヲ寶生院ト曰フ。東福寺宗天台敎。其創ヲ詳ニセス。明暦四年。法印滿海中興ス。

葉山神祠

今市巷西道路坂ノ南四十丁葉山權現ノ祠アリ。祠前ニ女人禁制ノ札ヲ立テ社地ニ女人入ルコトヲ禁ス威靈ノ神ナリト此祠松島ニモアリ。小鶴巷ヨリ今市ニ至ル路傍ニテ。古樹森々トシテ今市巷西道上ヨリモ近ク見ユルナリ。此祠ノ別當ハ修驗ナリ(名追考ヲ俟ツ。)其先卜筮ヲヨクス。今市巷ニ出テ。通行ノ者ヲ占フテ世スキトシ居タルカ。會々貞公放鷹ニ出テタマヒ。此卜者ヲ見タマヒ。我今日ノ獲モノイカホトカトフヘシト言フ。彼乃筮シテ。今日ノ獲モノ六十三ナラント。貞公笑テ過サセタマヒシニ。獲モノ其言ニ違ハス奇ナリト思ヘタマヒ。歸リニ見タマフニ見ヘス。傍ノ者ニ問ハセタマヒテ。葉山ノ別當ナルコトヲ知リタマヒ。歸リテ後命シテ召サセラレ。其故ヲ尋玉フニ。彼者申上ルハ。君其節紫竹ノ杖ヲツカセラレシ故ニ。紫竹ハ其聲七九ト同ク因テ九九ヲ以テ考ヘ。七九六十三ノ御獲モノナリト申上タリト言上ス公甚感心マシマシ。采地若干ヲ玉ヒ今ニ連綿タリトソ。

燕澤碑

今市巷南二里餘ニ在リ村ヲ燕澤ト曰フ。地ヲ卷島ト云フ。觀音堂前ニ碑アリ高六尺廣サ之レニ半シ。上標ニ梵字羅字ヲ彫ス碑面欄行文字凡五十一。或ハ古文或ハ省畫。之レヲ讀ム頗ル難シ。是ハ鎌倉建長寺主。元僧祖元ノ書スル處ニシテ。近コロ好事ノ徒。多ク考ヘ之レヲ譯ス。其中鹽竈祠官。藤塚知明ノ著ス所ノ燕澤碑考。最モ其要ヲ得タリ。譯ニ曰ク。夫以直宜從道。人卜益舉敎。云刈丘斷匆砥弔亡魂。元前死次後隕矣。弘安第五天玄默敦祥。仲秋二十日彼岸。

修里末清俊謹拜。土人曰。碑舊在案內里。後山安養寺址。(見下)享保中。松島僧移于玆。

譚海云。寬政元年。奧州宮城郡燕澤。堀得一古碑。古文難讀。仙臺儒士著碑考。始知祭元僧一山禪師。弘安中。吊元寇十萬戰死之文也。碑中所謂清俊者。一山之弟子。當時居奧州。因受師命。建此碑。(誤以祖元爲一山。)

燕澤碑二首　備後菅晉帥禮卿

菅茶山燕澤碑詩自註曰。或云。碑寧一山所建。而寧歸化在二十年後。似可疑焉。蓋以寧碑在雄島。與此近境。因以誤傳爾。碑胡元僧某所立。在奧州燕澤。某承元命來日本。陽爲歸化。而覘我動靜。潛以報元。弘安四年夏五月。元人入寇。賊艦萬數。薄我博多津。我兵防戰。元人連敗。終爭舟奔潰。會東風暴發。賊衆覆沒無遺。生還僅三人云。某悔恨念經。追齋作文刻石。此即是文。怪譎不可讀。蓋以晦其跡也。近日奧人始索其事。打搨傳之好事。僊臺文學志村篤次。乞管內諸勝詩于四方。余賦此。

胡元威武震蠻夷。豈信東方有我師。萬里龍驤徒絕域。滿洋魚腹飽浮屍。靈風不納腥膻氣。貞石空留離合詞。客使尼搖猶不免。妖兇跡滅却堪奇。

其　二

龍山快事已成陳。燕澤遺蹤始此聞。縱作千僧供養善。能償萬艦壞沈人。隱覘不意招奇禍。謎語難諳咲怪文。東海如今波浪穩。時逢過客打青碑。

北山詩評曰。龍山大敗。眞千古快事。足塞外人之膽。而絕覬覦之心。鄭所南鐵函心史。有元韃攻日本敗北歌。激烈極矣。此詩可以併讀。

燕澤有古碑字異不讀　安　修

披棘入荒村。苔碑一片存。奇字誰能識。茫然想叔孫。

比丘尼坂

今村巷ノ西三里余坂アリ。是レヲ比丘尼坂ト為ス。側ニ老松一根アリ。五幹周圍二丈許。蔭覆數十歩、府士萬葉曰。比丘尼坂燕澤村ニ在リ、相傳フ、昔一尼アリ。精勤苦修里人ヲ敎導シ、且咒祝ヲ善シ。人ノ疾病ヲ治ス。慶長元年死ス。五輪塔ヲ其上坂ニ建ツ。因テ名ヲ取ル。塔今破碎ス。又曰。前説非ナリ。是道士ノ墓ナリ。道士尼ニ先スル數十年。此ニ居ル。里民之レヲ尊信シ。死シテ此ニ葬ムル。今ノ老松ハ則其墓木ナリ、或曰ク。前説コトコトク非ナリ。其老松ハ道士家庭前ノ樹ナリ。尼ノ墓ハ別ニ阪西茂林中ニアリ。因テ記ス、伊達譜ニ曰ク。貞公嘗テ東郊ニ獵シ、偶マ道士般若坊ナル者ヲ見。其家庭ノ松樹ヲ愛シ玉フ。道士則チ國風一首ヲ松枝ニ繫テ。之レヲ献ス。曰ク。庭ノ松御用トアレハ奉ル君モ千代マテ、我モ千代マテ。公之レニ酬エ玉ヒテ曰ク。心經ノ摩訶ノ下ナル般若坊一切公役無役ナルヘシ。且口糧若干ヲ賜フト云フ。其松樹ハ現今翠羽内城庭前ニ在リト云フ、坂上ノ居民十餘家。釀醴ヲ能クスルヲ以テ名アリ。又跳莵子ヲ出ス。共ニ後ノ地宜部ニ見ヘタリ。

善應寺

比丘尼坂百餘歩ニ在リ。元祿中。松島瑞巖僧通玄ノ開建スル所ナリ。宗ハ臨濟禪ナリ。京師花園妙心寺派下ナリ、初メ甘棠山經德寺ト號ス。正德中。藩公住僧天嶺ニ命シテ、雄山公ノ神位ヲ安シ。香花ヲ奉ス。因テ今額ニ改ム、

吾妻氏ノ話ニ。燕澤善應寺佛殿ハ。雄公品川ノ御殿ヲ舟致シテ建タルナリ。故ニ尋常ノ普請ニアラス。柱楹等モ皆四方面ナリ。且佛殿ノ障子屏面等ハ。ミナ雄公ノ書ナリト。又寺ノ北後ノ山ニ觀音堂アリ。堂ノ故事可レ尋田村將軍ノ故事アリトソ。

羽山權現祠

小鶴村ニアリ。其創詳ナラス。義山公祭田二石ノ地ヲ附ス。

稲荷祠　同上

小鶴池

比丘尼阪南二里餘小鶴村ニアリ。古ハ大湖タリシト云フ。今ハ小池トナル。覲迹聞老志・封内名跡志。並ニ小鶴ケ池ト云フ、古湖アリ近歳水涸レテ田野トナル。相傳フ。古多賀城西ニ豪民アリ極テ貪惡。婢アリ小鶴ト云フ容色アリ　主家之ニ待スル甚刻迫。一日小鶴ヲシテ苗ヲ植エシム。田畝頗ル濶シ。小鶴兒ヲ負テ之ヲ植ユ。之レニ乳スルニ遑アラス。兒ヲシテ背後ニ餓死セシム、爾後呵責ニ堪ヘス。此湖ニ投シテ死ス。士人之ヲ憐ミ。婢名ヲ取リテ湖ニ名ツク、今利府驛北春日社邊田中ニ小丘アリ。是レ其死兒ヲ埋ムルノ地ナリ。其田ヲ稱シテ千束田ト曰フ。源重之家集ニ載ス。重之奥州ノ刺吏タルノ日。此池畔ヲ過リ賦スル所ノ國風アレハ則池ノ由來遠シ。和漢三才圖會ニ曰ク。小鶴池ハ行方郡ニ在リ。其池鶴多ク下リ集リ。敢テ人ヲ恐レスト。聞老志曰ク。三才圖會此池ヲ載ス、而シテ行方郡今考フ所ナシ。彼或ハ受クル所アッテ之ヲ記スル乎。然ラハ則此地ハ乃チ古ノ行方ノ地乎、未タ之レヲ詳ニセサルナリ。

小鶴舘趾

小鶴村ニ有リ。相傳フ。勝國ノ時國分氏ノ臣。邊見丹波ナル者居ル。仙臺武鑑ニ曰ク。小鶴城ハ城主ノ名ヲ傳ヘス。封内古城録ニ曰ク。東西六十八間南北三十六間。

案内里

比丘尼坂西ヲ距ル三里許、茶肆七八家相列ナリ。豆腐ヲ以テ名產ト爲ス。世之ヲ案内湯豆腐ト稱ス。

大蓮寺

案内里ニ在リ。寺ハ舊里北山中安養寺趾ニアリ。僧大願ナル者之レヲ創ム。年月詳カナラス。寶曆年中、僧清蓮此ニ移建ス。

五智如來堂

大蓮寺ノ傍ニ在リ。堂中安スル所ノ像。大各八尺許。相傳フ。堂ハ舊安養寺趾ニアリ。僧大願ナル者創建スト。寶暦中ニ至リ、殆ント將ニ廢壞セントス。僧清蓮移シテ之レヲ新ニス。或ハ傳フ。清蓮ハ俗吉三郎ト稱シ。傳記載スル所。東都吉祥寺孌童、情娘菜舗阿七所刑ノ後僧トナリ。其冥福ヲ修ム。而シテ諸州名刹ヲ巡拜シ。遂ニ此ニ至リ乃チ移シテ此堂ヲ新ニス。厥後堂毀レ像壞レ。天明年間。僧木食緣ヲ募リ化ヲ勸メ。以テ再ヒ之ヲ建ツ、然レトモ之レヲ前ニ比スレハ則甚タ小ナリ。今寺門ノ旁大佛像一體アリ。是舊像五體ノ一ト云フ。

布營丘

按内里東道側ニアリ。

曉發仙臺到案内驛送天英法弟遊松嶋。

南山

郊天趁月意凄々。送客偶過莽蒼西。百步霜橋千跡馬。數家烟店五更鷄。轆轤伊軋人初起、阡陌微茫路尙迷。換得嘔啞城市響。立聞亂水落幽溪。

安養寺趾

案内里北里餘。燕澤・小田原兩村界ニアリ。（此地故アリ今小泉村ニ屬ス。）相傳テ古寺ト爲ス而シテ廢スル久シ。燕澤碑舊ト玆ニ在リ。土人今此山ヲ呼テ安養寺山ト曰フ悉ク田圃トナル。古老曰ク。安養寺廢後僧大願ナル者、其遺蹟ニ就テ堂ヲ建テ。五智如來ヲ安シ、側ニ小寺ヲ營ミ大蓮ト號ス。寶暦十一年僧清蓮ナルモノ之レヲ案内里ニ移ス。

天游館

案内里西山上ニアリ。登米公子ノ別墅館ナリ。扁シテ天游ト曰フ。烏石君嶽ノ書ナリ。館西細徑數十步。石標ヲ立テ、右ハ天游館。左ハ養氣庵ト云フ。被襟亭ト稱ス、左行スレハ亭アリ。乃チ被襟ナリ。館亭共ニ東南近ク田野ニ伏シ。遠ク海山ヲ望ミ。館北山間盤澤塘アリ輿平ト云フ。塘ノ北頭翠松茂密。秋時松蕈ヲ生スル最モ多シ。府城郊外ノ諸山産芝ノ地多シ。

而シテ此地ヲ最トナス。秋時守吏ヲ置キ濫採ヲ許サス。時或ハ邦君及諸公子ニ請テ翁主采芝ノ遊ヲ爲ス。

天遊館記曰

天明横艾攝提格年、藩公子玉山君、東郊得一舊宅舍焉。其地曰小田原。舍號天遊館。蓋退朝之暇、時觀遊。以使其氣莫塞閑湫底也。小田原、古玉田衡野之地。距仙臺七里、南對躑躅岡。古詠所稱。執兮繫兮。玉田衡野逸駒者是也。塗過二岡。撫老松而躋。老松高采女所栽。國初之時。采女從貞山公而來。有功、賜此地以家焉。其後鈴嶼平家焉。宅廣六十步圍百餘步。背松山。腹平田。爲二大階。南設二門。西自衛門入。則斗折作路。躋十餘尋。抵初階廣平可容車數十兩。三屋居。左有小蓮池。奇石可愛也。其東南之隅得田六七畝。雉雁時下啄。或云玉田之道。躋自東門。則羊腸七折。躡級三十步。乃抵上階。可列坐百人。新舍焉。即天遊館是也。館縱五步。横半之。左折作乙字樣。壁垣不堊、椽櫨用栗、束茅爲宇。虎鬚爲席。庭中不設泉石。皆從其自然也。南山栢巖之諸峯。大池大海、帆檣入欄流。少廻觀。則松嶋金華之諸勝、咸當其軒。以茂樹故不可盡見也。北則嶼平隄。近在簟牀之下。宛若硯潭不波。松樹蕃環。是鈴嶼平所築。因名。遠則七嶷鼎列、亦以樹故不可見也。於是移步西亭。望北隅。則白石峯聳天。及羽州諸嶺。白雪爛銀、突兀於樹抄。西則白鹿之嵯峨勢若俊猊。翠峯虎蹲于前郊中。諸山若盡奔朝於此以鎮國城狀云。亭距東館五十步所。寛不滿方丈而奇、葺以竹。布以瓦。施曲牀而踞之。有客則下盤而陳籩豆。擯相坐圓席而侍。可飲六七人也。風至則披襟稱快哉。之號披襟亭。乃從亭上西南仰、則金城百尋。樓閣巍然峙雲表。前大河。後高山。深林大道。四神相應。翠溪之烟霞、蒼然接東海十洲。可謂天府之國哉。南對瑞鳳茂陵。則巒嶺鳳舞龍蟠。而烏兎耽々乎其後。近之則衡野隴畝民之所稼穡。旦暮觀之。其

他山中無人迹。館上無人事。以睨嚶々之報爲春。以彼苗之秀爲夏。黍稷離々爲秋。雨雪霏々爲冬。春秋異觀。冬夏殊趣。亦足以知民情矣。蓋館之所以與也。壬寅夏五月。命記之。且作四時歌掛之西亭。容辭不敏不許。因謹記此。併賦歌四篇以附云。天明二年夏五月皐容謹撰。

四時歌

春

岑兮彼金華。在東海濱。旭日遲々兮。館上照臨。習々其風。奔々其鶉。公子于田。虎臣維順。負彼弓矢。施彼繳罠。于以戈雁。南畝之畛。于以網鯉。磧平之墳。鼐鼎有列。庖廚百珍。作羹作膾。鹽梅以親。言陳瑟琴。東館之林。言釀金罍。西亭之岑。何人獻之。八鑾之臨。

夏

巍々彼金城。在翠山之陽。維先公所城。永錫其烈光。凱風其和兮。零露其滂兮。麥秀芃々。桑生已昌。車馬出游。于彼二岡。[illegible][illegible]雲從。老松之傍。玉瑱其玼兮。言腰愛采其桑。攜筐執杖。姑言彷徨。陟彼七折兮。言腰言裹。息彼館兮。言机言茵。載踐籩豆。酌醴及醇。何人供之。美彼一人。

秋

木葉其黃兮。白露如霜。負彼蓑笠。出耜厥疇。簑巾言饁。衡野之丘。茹蘆漚麻。玉田之溝。西風凄兮。禾黍穡々于獲。于納。同婦收之。婦曰不足。夫曰靡妨。載云釀酒。鼓腹翱翔。或以喜兮。或以憂兮。如何如何。搔首勞傷。民之慼兮。洵如牧羊。仁人所恤兮。君子所賙兮。

冬

匪干匪戈。七游緩々。匪驥匪駿。兩驂慢々。君子行役。胡其能佃也。多子干從。胡能間也。朔風其烈兮。雨雪其洒兮。或射或鷹。或走或驅。搏狐與貉。獻雉及兔。公子喜賞之。畢賜以餔之。洸々武夫。拜舞孔娛。載炙或炮。滑酒如雨。蹲々于歌。蟠々于鼓。冀願夫子。

眉壽永祚。

萬壽寺

天游舘西ニ在リ。山ヲ高松ト曰フ、寺門ノ前ニ老松アリ因テ古來高松山ト稱ス、元祿丁丑、肯山公之レヲ創建シ、僧月耕ヲ以テ開祖ト爲ス。公ノ夫人萬壽殿夫人。(丹後守稻葉侯ノ女、)香花ノ地ニシテ子院十九。其一ヲ三萬院ト云フ。月耕ノ塔處ナリ。僧幽圭開建ス二ハ靈松院僧春嶺ノ創ナリ。三ハ大殊院幽圭、四ハ吟松院吟松、五ハ韶陽院無底。六ハ甘露院梅山七ハ慈照院泰猊。八ハ棲雲院璞宗。今廢ス。九ハ大通院十三毬院鶖店ノ創也。

玉田横野　附　玉田湖

案内里ヨリ西東照神廟前ニ至リ。南原ノ町驛ニ及フ。古玉田横野ノ地ナリ。今小田原村ト爲ス。舊小俵ニ作ル。東南ハ躑躅岡ニ連ル。取リ繫ケ玉田横野々放レ駒ナル詠。而シテ岡頭ニ馬醉木アリ。故ニ古國風起ル所以ナリ。觀迹聞老志ニ曰ク。東照神廟東北山間ニ湖アリ。玉田湖ト稱ス。此ヨリ以東ノ山下ヲ横野ト稱ス、封内名跡志ニ曰ク玉田横野ハ小田原村ニ在リ。萬壽寺ヨリ以東之レヲ横野ト謂フ。而シテ玉田今其地ヲ缺ク。萬壽中ニ幽泉アリ。稱シテ玉田清水ト曰フ。即チ今塔頭三萬院是レナリ其下流小田原清水ト合ス。土俗之レヲ玉田川ト云フ。

志士輙

桃花流水玉田川。艸色晴分衡野烟。遊騎簇來探勝客、
臨風詠返逸駒篇。

原驛

案内里西内二里餘ニアリ。舊玉田末野原ト云フ。國初驛ヲ置キ原巷ト稱ス。是レヲ仙臺治府東門ト爲ス、驛ノ東口岐アリ。東ハ福田坊、田子村ヲ經テ、鎌里ニ出テ末ノ松山ト八幡神祠ノ間ニ出テ、鹽浦ニ至ル。土人之レヲ八幡路ト云フ。遊者鹽釜ヲ後ニシテ、沖ノ井。玉川等ノ諸區ヲ先キニスルノ道ハ。此岐ニ由ルナリ。驛西ヲ躑躅岡ト爲シ。東南ヲ宮城野ト

爲シ。木ノ下藥王廟。國分尼寺等ノ諸區ト爲ス。
此篇載スル所。實ハ松嶋勝景ノ贅旒。然レトモ勝ヲ探リ蹟ヲ按スルノ客ハ。往來必ス經過ノ地ニシテ。徒過閑行スル豈惜ムヘカラサラン哉。

鹽松勝譜卷之八之二　畢

鹽松勝譜卷之九

松島左路

松島之部上目次

松島及詩	松島浦	瑞巖寺及詩
瑞巖寺扁聯	朝鮮梅。無相窟	大鐘樓
法雲庵	護國庵	龍月庵
寶珠庵	圓同庵	大光庵
聯芳庵	青松庵	萬松庵
江月庵	傳曲庵	紹隆庵
得住庵	千佛閣	光明藏
陽德院	獨鈷泉	愛蓮亭
圓通院	天麟院	蕭浦
瓊浦	不昧軒。心田菴	三聖堂
洲崎前	檐端梅	天童菴及詩
太白山王廟碑	松島橋	寶珠崎
普賢堂迹	喜多浦	箙崎
五輪濱	蛇崎	通舸崎

道鎮濱　愛宕山　三軒庵迹。風星庵
上岡下岡　汀房蹟　法師崎碑
寶珠庵跡ヶ　觀音堂

畢

鹽松勝譜卷之九

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

松島左踏
松島部上

松島

記文卷之三ニ詳ナリコヽニ略ス

中秋賞月於松島　貞山公

今宵待月倚吟筇。滄海茫々一氣濃。思見淸光佳興
存。道人緩打五更鐘。

和良說老人韻貞享四年丁卯　肯山公

江湖萬里水涵天。並樹瑞巖古寺前。三島十洲浮雙
眼。風流又是思蘇仙。

又

遊此地如太古人。情兼山水自相親。湯盤寫出一
江面。松島日新又日新。

松島勝景　林恒一明人

滿眼風烟自九巘。客遊主興共隨宜。曲洲環浦近彌好峻嶺回巖遠亦奇。

寄題松島　　釋　月　潭

聞說松島勝。山水甲東州。仙臺城郭近。瑞氣映滄洲。民物俱康阜。藩侯德政優。宅與古梵利。萬礎聳瓊樓。見佛遺蹤在。法心道蹟留。殘碑宋僧字。蘚蝕歲月悠。膺翁去未久。茲化播遐陬。繩々芳裔彩。董席振嘉猷。戢々犀顱萃。安禪不懈修。亘鏞撞旦夕。梵放薄雲頭。寺門臨江淵。烟波谿兩畔。小嶼千百點。星布翠螺浮。松梢飛白鶴。洞口臥蒼虬。鹽釜連汀渚。土腴草木稠。巖陰藏蜒舍。磯畔繫漁舟。天然一幅畫。摩詰筆難收。蓬萊與方丈。奚須別處求。聞勝欲呼策。迢々驛路修。旣乏凌雲錫。又無縮地謀。山牕清夜夢。且比作神遊。　右首載在聞老志

謝左容翁贈自製松島圖　　物　茂　卿

七十二嶼吮毫遲。一々生雲色逼幃。總訝蓬萊堪寫贈。不知瀛海是盆池。

寄左子巖　　同

海內風流總競雄。誰知好事左容翁。贈吾一幅瀛洲畫。恍若三年在奧中。

送藤子栢遊松島　　石　正　猗

仙臺東望五雲重。羨爾揚帆問舊蹤。到日海天何所見。蒼々七十二洲松。

松　島　　源　義　質

海臺縹緲好登攀。壯觀何須濡足還。地盡雲煙通日域。天空潮水繞神山。連鼇島勢浮波上。棲鶴松陰映坐間。若使漢皇遊此境。長留仙蹕謝人寰。

遙聞桐柏山人遊松島宴高樓賦寄　　同

高樓開宴大江濱。佳氣鬱葱松樹林。三島浪隨鼇首湧。十洲雲繞鶴巢深。應同象外遊仙境。誰憶人間踏海心。今日扁舟猶有約。差因多病未相尋。

客中遙聞藤子柯遊松島有此寄　　同

知君已泛木蘭船。松島風烟幾日旋。早晚海東歸去後親聞方外問神仙。

應安達翁請題松島圖　同

松島烟波海色寒。誰能寫得入毫端。匣中堪愛滄洲趣。不羨神仙縮地看。

余不堪秋暑。將賦苦熱行。時佐伯友遊松島。且攜其地圖歸贈。余喜爲謝　同

傳聞海上闢三山。忽復神仙縮地還。畫裏風濤寒欲起。不知秋暑在人間。

松島十五夜遇雨　紀德民

本朝三五月明秋。豈料松洲帶雨愁。痛飲令毫無意興。徹夜悲吟倚海樓。

同見漁火　同

月暗潮頭漁火寒。海樓消酒倚欄干。夜深點々隨波散。兩々三々處々殘。

同十六夜泛舟賞月　同

海天高吐蚌珠來。一片金華掌上開。唯覺擧舟神骨淨。冷然暫自月宮回。

發松島　同

戀賞難逢松島秋。曉來還懶上歸舟。能敎海屋波無賦。重及幽人賦勝遊。

松島舟中　藤太冲

縹緲仙槎滄海東。環環朝動萬松風。下臨芳嶼七十二。盡在絳霞青靄中。

旗峯先生遊松島。請覽余東遊負劍錄。因爲相示系以一詩。　賴春水　春水字名惟寛

一千五百邇里程。幾人松島按圖行。瓌岩奇樹非不美。吳江楓冷或無情。州嶼接成一山巒。惟看出水碧巉岏。安得樓臺高百尺。爲佗從前畫圖看。憑虛御風何處擧。自有登眺悅客顏。觀瀾之亭觀一年。臨瞰更有富春山。富春望遐觀瀾邇。遐邇俱盡松島美。八百青嶂堪可拾。始識人間畫圖是。是時不覺叫快哉。吟心眼界相豁開。白鷗馴客如舊識。萬里長風吹面來。更有舟遊々賞新。小嶼大嶼應接頻。三三兩兩各極態。十々五々送迎人。憶予距今十餘年。扶老攬勝薰風天。爲君說與曾遊事。併示負劍書一編。不

料君同烟霞癖。靑鞋布韈追蹤跡。五大堂上翠松間、請看題詩在石壁。

松　島　　同

一碧琉璃瀲不波。平灣無數點靑螺。月明宛似龍燈出。分付光輝夜色多。

松島歌送井子熈遊奧州。　牧　野　履

松島之歌將送君。吾試歌之君試聞。嚴島天橋稱三絕。松島形勝最出羣。波瀾萬頃天一色。島嶼如棋鏡面分。東有富山之崚嶒。北有雄洲之逶遲。白沙靑松參差浦。飛島歸帆斷續碕。須臾陰晴多變化。方丈蓬萊欲鬪奇。君今東奧賦壯遊。松島風月泛仙舟。滄浪一曲飄然去。凌虛雲漢犯斗牛。爾時吾覺心神王。直欲從君竟無由。憑君寄語群仙子。吾亦秋風問十洲。

松　島　　釋　古　梁

天下有山水。各擅一方美。衆美歸松洲。天下無山水。一島又一島。扁舟載勝移。纔論前後景。已失二三奇

題松島煙雨圖　　同

海天鬱難辨。衆島翠雲間。亦知塵外勝。不要俗人看。

適松島途中　　同

以下三首。自註曰。嚮余値災松島諸刹所遺甚渥。余僧謝价之。旣而蒙命。攝覺範之事。來往多擾。不復自適。頗傷宗盟。逾年而再建落成。頃得小閑有此行。且災後劬勤稍覺違和。乃兼以養神。意見詩中。

郊天收夜雨。垌樹宿雲低。鶴樂平田潤。客稀村逕遲。輿邊霜葉映。馬上夕陽移。漸覺松洲近。濤聲響閣碕。

二

投宿江上寺。斜陽授舘埀。岸懸秋樹暗。山坼夜潮奇。忘藥知無病。縱心得半醫。老來乏暫記。促燭草新詩。

松島曉矚　　同

起座江天曉。汪洋萬頃秋。魚龍晨氣靜。濤嶼日光幽。晴色促游客。淸風散宿鷗。病累渾如洗。更憑百尺樓。

松島阻風　同

涼天倚棹古松洲。慘澹空江生晩愁。潮氣低昂漁子宅。風威撼盪賈人舟。非將騷興弔湘魄。還爲吟魂畏石尤。蓬外暄豗蓬底寂。隔波遙望酒家樓。

游松嶋作和武景文韻　同

松洲鹽浦與縱橫。奇絕初酬丘岳情。雲錦滿囊裁勝槪。絮華逐筆勒芳名。游蹤已略東南美。歷覽新成縞紵盟。客裡知君遇秋色。天風海月夜愁生。

次某游松島之韻　同

聞道名區在此州。僧房借榻宿松洲。數帆凌亂誰探勝。孤棹夷猶君極幽。嶋狀衆形無不有。人從萬國總爭遊。淸貧何盡江山興。懷古知君生夜愁。

蚤發仙臺之松嶋　同

月落寒城曉。雁嘶霜甸秋。禪居常寂寞。旅食也風流。潮滿蛟龍府。雲連麟鳳洲。平生千首偶。半是屬浮游。

松嶋舟中　同

江山不相厭。縱棹且吟哦。勝遊十餘度。往々遺觀多。

去留衆嶼邊。挂席探松茵々稀嶼不窮日落與何盡（舟探茵宅恐邦所無）日斜島嶼冥。歸興暮寒生。水天同一色。孤棹瀾空明。

松嶋泛雪南山宿題　同

縹紗松洲雪作花。輿來蘭槳溯洞遐。廣寒人倚瑤霄殿。仙渚客浮銀漢槎。舞罷霓裳餘彩色。歌成黃竹映凝華。中流回首物皆白。知是蓬萊路不差。

送棲禪人游覽松嶋而還鄕　同

瑞巖主人外。相見海山寒。活句潮聲沸。壯眸秋色闌。從遊日月淺。身跡去來難。吟入還鄕曲。波心一笛殘。

泛松島　中井　行藏

誰言仙境斷人蹤。自喜扁舟載酒從。欲賦錦篇對奇絕。難裁八十嶋頭松。

松嶋作　紙衣　道人

懸帆破浪大洋秋。東盡扶桑望十洲。鮫室影涵霄漢淨。鼇山色入海濵浮。地幽深洞銜仙閣。氣鬱高亭結蜃樓。向夕遙看明月湧。誰知信宿此從遊。

到松島舍于樓尤宜臨眺者　倉成煢

誰驅神秀此來鍾。百嶼煙雲瑞氣重。應是僊人降謫地。不栽月桂只栽松。

同

雖後中秋賞。新晴及未弦。島靈似相待。恰好照瓊筵。

松島雪望。　桂園公子

松島四時優劣論。當歸今曉雪乾坤。玉樓已先疎鐘曙。瓊樹猶留宿鵲昏。雲母屏開山態峙。銀泥箋展水光翻。憖吾未呵吟毫凍。寫出行々雁字痕。

松島作。　武元質

晚潮生處泛吟篷。買得東南半席風。八十八洲吞盡後。一樓明月照胸中。

松島。　白鹿洞隱士

海樓春望對名區。鏡裏青山似畫圖。東極天開松島水。風烟遙勝洞庭湖。

同　同

萬頃一扁舟。行看島嶼浮。無巖不松樹。蒼翠映潮流。

松島浦　記文卷ノ三ニ詳ナリ

瑞巖寺　同上

和漢三才圖會曰。瑞巖寺在松島境內凡三里許。號松島寺。開山法身。中興雲居和尚。延福寺自慈覺創建開台宗。至法身改禪。其間經年已四百年。謂應有賢緇英衲事之可採可徵者也。然世遠事逸。無由考索。茲錄自法身以下。迄今傳燈諸衲之名。以備松島事實之考證。若夫欲詳諸衲之事業。則有延寶傳燈錄。本朝高僧傳等諸書。各就其書覽之可矣。

一瑞巖歷世諸衲ノ名號等コヽニアリ。然レモ卷二一本寺紀中ニアレハ之ヲ略ス。

宿瑞巖寺。　志士轍

西岸月落雀棲松。海閣覺眠曉寺鐘。響渡早潮迎旭日。青螺影湧幾重々。

登圓福寺方丈。　釋恒寂

圓福古叢正始臻。前臨海嶼後隣岫。雄基本自法心
創。結搆重因道膺新。楣上草花誰巧彫。壁間圖畫世
爲珍。可容八萬四千座。環堵空寬床絕塵。

宿瑞巖寺。　　釋　古梁

江山岑寂擁香臺。玉塔華旛映岸開。日落層巖風咒
吼。雲低絕壑雨龍回。傳心不昧然燈色。喩法深知捨〇
才。玄賞須知隣寶所。暫依化壘此裴徊。

又　　同

深秋尋淨界。中夜宿中峯。萬象歸孤月。衆聲入茂
松。燈傳雙徑室。樓報六時鐘。心境清難寢。高窓露氣
濃。

又　　同

山徑紆餘晚轉迷。數聲雲磬識幽栖。淸宵驚破天宮夢
杉月當窓老鶴啼

風土記希文按。名跡志開老志曰。承和五年、始開台
宗。且慶長十年。新起土木。與寺僧所傳不合。貞
公實錄云。慶長九年八月十五日、君至圓福寺。有方
丈再造之經營。而手張繩。同十年六月三日、有新始
材木自紀州熊野山運送云々。

扁聯

松島記　　覺範虎哉

聯　法身無相刹々法眼明。天嶺　瑞巖寺圓福禪寺。
洞　水
大悲圓滿塵々德容耀。　登　龍
同
桑海禪林。　天嶺　無相窟
同
五雲軒。　愰々着石髓　圓滿
獅　山　公
無相窟。

聯　法身無相風花雪月流傳。大悲圓滿草木國土放光。
此聯語筆者俟追考。
賴賢碑名曰。今圓覺無隱和尚、住松島圓福寺。往依
之居弟子列。由是無隱初圓福住後圓覺移住。

松嶋巡覽記曰。智覺則圓福四世。無隱範和尚之事也。可考。覺滿事跡出天嶺燕南紀譚。

靈巖撰。松島八景賦詩及和歌。明極。後醍醐帝。元享元年歸化。將軍尊氏崇敬之。

封內玉露集。十四世作膏照和尚信州松本。

同廉夫作廉溪同機外作穢外疑誤。

鵬雲扁曰。夢窓窟是巡覽記之語。同書扁額之部。又曰。夢窓天嶺書。前後不同可考。天嶺書誤也。

天台記曰。後深草帝。寶治二年戊申四月四日。從例修山王廟祭。衆徒於法師崎奏舞樂。此日平元帥道崇偶來觀焉。

寶治二年難信。同年者時賴。二十二歲之時也。可考。正元文應之際可然乎。

日本詩古事選曰。北條時賴。爲鎌倉王相。任相模守。後削髮號最明寺。嘗微行觀風四方。會來乞宿于佐野常世。時天雨雪。微服誰知雪滿簑。

松嶋天台記曰。三浦大助五代孫。三浦小次郎儀成。

燕南紀談曰。松嶋瑞巖。有法雲菴。則覺滿禪師。空巖和尚塔所也。禪師昔年臘月念。六日遷化矣。東海道人民聞師之入滅舍。歲末歲首祭儀皆走襄云。道風蒙于東者可知。余一日遊法雲。見禪師頂相。有寧一山贊筆者。曰超然氣宇不群。盎然和照如春。早年誤飮蘭溪水。老去自看松嶋雲。婆和中方便談管襄驗人强把虛空描邈何曾的是渠眞智海機先著眼節尋書贊尾云古松嶋圓福空巖惠禪師肖像。小師智海求贊。嘉元癸卯秋末圓覺一山一寧。余讀之知。師者蘭溪系傳。又與一山。不阻時世。又聞一山國師。昔年八倭。諸善智識中大手筆也。筆畫遒强。自然有具古人靈氣神化妙用者乎。又松島御嶋有一山和尚碑文。各以行艸落筆。此二章贊文俱遙今之語錄編者不示乎。

此文不了々暫從原文。

朝鮮梅無相窟　記卷二ニ見ユ略ス

法身座禪窟。

紀　德　民

高僧道骨彌天非。渤海風濤一葦歸。窟裏長留圓滿相。
石床猶見法雲飛。

大鐘樓

無相窟上頭ニアリ。慶長十三年貞公建ツル所。鐘銘ハ虎哉禪師ナリ。

法雲庵　記及ヒ碑文ハ卷二ニアリ。

護國。龍月。寶珠。圓同。大光。聯芳。靑松。萬松。江月　傳曲。紹隆。待住。千佛。光明ノ數庵。亦卷二ニアリ略ス。

陽德院及獨鈷泉。

瑞巖寺北ニアリ。慶安二年己丑。義山公生母田村夫人ノ爲ニ之ヲ建ツ。雲居禪師ヲ以テ開祖ト爲ス。院中釋迦。文珠。普賢ノ三像ヲ安ス。夫人ハ右京大夫田村清顯ノ女。貞山公ノ配ナリ。夫人婦德兼備リ。性剛正。貞公年鑑ニ曰ク。天正十八年庚寅。蒲生氏鄕譖テ公ノ謀反ヲ豐太閤ニ訴フ。時ニ夫人伏見亭ニ在リ。國人皆危懼ス。偶々夫人ノ書至ル。公之ヲ默讀シ。且歎シテ曰ク。眞ニ將軍ノ裔ナリト。左右其故ヲ知ル者ナシ。後ニ其書ヲ見ル者アリ。其略ニ曰ク。方今天下分崩。人心反覆已ニ大事ニ及フ。未タ君ノ去就如何ヲ聞カス。君宜シク公義ニ徇テ以テ進退セラレヨ。妾カ身此ニアルヲ以テ念ト爲ス勿レ。妾ヤ短刄常ニ懷袖ニ有リ。若シ暴亂ノ事ニ遇ハヽ。則人手ニ辱メヲ受ケスト。公薨後雲居禪師ニ從テ落飾シ。榮庵壽昌尼ト號シ。承應癸巳正月廿四日薨ス。院后ノ嶺上ニ葬ムリ。廟ヲ建テ、。遺像及夫人平生信奉スル所ノ彌陀像ヲ安ス。扁シテ寶華殿ト曰フ。造構奇麗銅瓦金椽。煥然林間ニ照映ス。夢庵松嶋記ニ曰ク。慶安己丑。義公當山ヲ創營シ。雲居祖翁ヲ請テ第一世ト爲ス。明年庚寅二月廿四日。祖翁開堂法會ヲ宏啓シ。義公筵ニ臨ミ隨喜セラレ。相尋テ田租百五十石ヲ給シ。永ク僧粮ニ充ツ。且祖翁像ヲ堂上ニ設ケ。尼公牌位ト連座ス。承應甲午。天麟尼公。母公壽昌尼大姉大祥忌辰。新鐘一口ヲ鑄以テ冥福ヲ追薦シ。洞水和尙銘ヲ作ル。然レトモ其聲嘶嗄遠ク發セス。延

寶丁巳。尼大姉二十七周忌辰。肯山公之ヲ改鑄シ。現住大領老兄。舊銘ヲ用ヘテ以テ彫刻ス。元祿丁丑十二月朔。院宇祝融ノ爲メニ悉ク煆ク。而シテ釋迦ニ大士及祖像靈牌幸ニ免ル。唯寶華殿巍然魯靈光ノ如シ。同壬午秋八月。肯公再ヒ丈室ヲ建テ。厨庫書院等ハ山僧之ヲ營ム。獨鈷泉ハ院后ニアリ。古慈覺開山ノ當時閼伽水ニ乏シ。偶々獨鈷ヲ以テ地ニ刺ス。淸水手ニ隨テ噴出シ。其水甘冽尤モ茶ニ宜シ。久旱枯レス。松嶋水品此泉ヲ第一。葉山ヲ第二ト爲ス。

愛蓮亭。

泉隈ニアリ。扁シテ愛蓮ト云フ。天麟五世江南ノ築ク所。獅山公曾遊時正ニ五月。池荷水ヲ出ツ翠色香潔愛スヘシ。寺僧木鷺ヲ荷間ニ挿點シ。以テ風致ヲ資ク。公即チ和歌ヲ賦ス。曰ク。波惠安禮也紅香婦蓮葉乃蔭仁隱德天求食留白鷺寺僧之ヲ和シテ

朝露に君か惠に今朝はまた色香も添はん池の蓮葉

圓通院及天麟院。記卷二ニ詳カナリ。

瀟浦

瑞巖門內ノ左右地是レナリ。松嶋天台記ニ無相窟ヲ蕭湘巖窟ト爲スモノ是ナリ。別ニ生薑浦。又松加浦ト爲ス。皆國音ノ訛松嶋七浦ノ一也。

瓊浦

天麟院背ニアリ。亦タ七浦ノ一ナリ。古大胡桃樹アリ。數十圍因テ名ツク。往昔蜂谷若狹ナル者此ニ居ル。鎌倉北條氏ノ命スル所。圓福寺警衛ノ士。儀成ノ子若クハ孫ナリ。

不昧堂。心月庵。三聖堂。軒端梅。前卷ニ詳カナリ略ス。

洲崎前。

洲崎卷ノ後ヲ云フ。八崎ノ一ナリ。崎下ノ比樓矚望甚タ佳ナリ。故ニ游客爭テ此ニ投宿ス。崎勢北走百餘步。瑞巖・陽德兩寺前ニ亘リ。左ハ萬松・傳曲・得仕等ノ諸院ヲ俯シ。右ハ桃手卷ニ臨ム。土老曰ク。崎上ヲ阿彌陀山ト名ツク。舊ト阿彌陀堂アリ。久廢ス今石像アリ。長五尺許リ。其製精妙。近世凡工ノ能ク及

フ所ニ非ス。古松四株アリ。呼テ勅使松ト曰フ。相傳フ。僧見佛御島ニ在ルヤ。鳥羽帝ノ勅使大藏卿康光。松樹千本ヲ賜ヒテ之レヲ栽ユ。其樹今猶存スル者此四株ノミ。余ヲ以テ之レヲ見レハ。其説非ナリ。御島ノ賴賢ノ碑銘ニ曰ク。見佛御嶋ニ在リ。鳥羽院本尊器物ヲ賜フテ以テ之レヲ旌異ス。嶋本千松嶋ト名ツク。見佛御賜ノ故ヲ以テ今名ニ易フト云フ。之レニ由レハ則賜フ所ハ松樹ニ非ス。假令之レヲ賜フテ栽フル所トスルトキハ。則御嶋ニシテ此地ニ非ス。然リ而シテ其樹ハ則賞ス可キ者ナリ。西隅ニ就テ一株一根アリ。兩幹髯甲夭矯蛟龍ノ如ク。蚪枝四出樛枒蟠屈。龍蛇ノ拏曲ヲ攫スルカ如シ。松嶋中古松ノ賞スヘキモノ多シ。而シテ此松ヲ以テ第一ト爲ス。松南數歩ニシテ碑アリ。高サ五尺余横三尺許。弘安六年建ル所。土人相傳テ。旭日ノ墓碑ト爲ス。旭日何人ナルヲ詳ニセス。他日ノ考ヲ俟ツ。

天童庵。

洲崎巷東北ニアリ。此地舊観月崎ト稱ス。松嶋諸勝記ニ曰ク。此所ニ古二小寺アリ。一ヲ観月房。一ヲ汀房ト稱ス。其號ヲ傳ヘス。兩寺相並フヲ以テ土人之レヲ二寺ト稱ス。天台徒遁ル、ノ後。審徒之レニ居リ。靈廟ニ香花ヲ奉スル僧ノ指揮ヲ受ク。寛永中雲居之レヲ興革シ。瑞巖子院ト爲ス。遂ニ改テ禪宗トナル。風土記ニ曰ク。此寺初メ靈鷲法蓮寺末寺ナリ。瑞巖寺前住洞水。法蓮寺ニ請テ之レヲ公府ニ告ケ。以テ改宗ス。(此記改宗ノ事ヲ誤ル。改禪ハ雲居ナリ。洞水ハ其基趾ヲ廣フスル者ナリ。)共ニ五大堂祭祀ノ事ヲ掌ル。僧濟舟ナル者アリ。其跡ニ就テ小庵ヲ建テ。此地天童ノ遺跡アルヲ以テ。今額ニ改ム。貞享二年。僧鵬雲重修。其基趾ヲ擴充シテ以テ終焉ノ處ト爲ス。後結構日ニ加リ。是レヲ以テ鵬雲ヲ開祖ト爲ス。且舊ニヨリ五大堂祭祀ヲ掌ル。庵東北海上ノ矚望。奇景異趣別ニ是別天地ナリ。

客居天童庵。　　賀　獻之

横江太白一峯青。無限潮音日夜聽。玉洞長停童子偈。金壇纔誦法王經。鹽亭雨過煙侵浦。松嶼雲晴月落庭。應是三摩觀水地。枕頭欸乃睡初醒。

二

江花江月俯禪扃。不料萍踪暫此停。地淨自宜移杖錫。境幽殊欲養芝苓。雲山久訝眞人氣。滄海遙看處士星。我輩生涯誇濟勝。寧論短髮苦飄零。

太白山王廟跡

太白山上ニ在リ。天童庵後橈手巷鑿上ヲ云フ　翠松蓊鬱東北ハ嘉多浦ニ俯シ。嶋嶼ヲ遠望シ亦タ勝境ナリ　相傳フ。此地天童兒ノ遺蹟。天童ハ世謂テ太白星ノ降化トス。故ニ山ヲ太白ト名ク。慈覺創建。古廟舊觀巨麗後屢圮レ。寛永間雲居今地ニ移シ。基趾ヲ存ス。

松島橋

五大堂ニ架スルノ橋ナリ。斷續タル橋板渉ル者悸ヲ發ス。一ニ洗橋ト稱ス。又渡江橋ト曰フ。鵬雲天童庵ヲ增修シ唐山天童山ニ擬ス因テ名ス。）戸部忠敎。紫藤花ヲ詠スルノ國風アリ。余此ニ曾游ス、一老媼アリ。頗ル松嶋古事ヲ諳シテ善談ス。曰ク。媼ノ少時。古藤尚存ス。古人詠スル所ノ藤ト爲ス。天童庵僧。秋後落葉掃灑ノ勞ヲ惡ミテ之レヲ伐ル。媼初メ彼僧ヲ敬シ。常ニ菜蔬ヲ供ス。之ヲ伐ルノ後之レヲ絶ツト云フ。余因テ謂フ。昔僧元覽荊州陟岵寺ニ住ス。張璪古松ヲ齋壁ニ畫ク。符載之レニ贊シ。衛象之レニ詩シ。時ニ之レヲ三絶ト稱ス　而シテ覽悉ク堊ス。人其故ヲ問フ曰ク。事無ク我壁ヲ疥スト。是禪僧ノ情態而シテ天童僧庵亦偶然耳。而シテ老媼名蹟ヲ壞ルヲ惡ミ之ト絶ツ。亦風流ノ事ナリ。世或ハ雄嶋吐月橋ヲ以テ是ト爲ス誤ル。

寶珠崎。附御舟倉。及普賢堂跡。

崎上船神小祠ヲ置ク。崎陰ハ公ノ游舫藏所。御船藏ト稱ス。御舟名鳳凰・孔雀・小鷹皆其大船也。其餘艀艇多シ。橈手毎月前江ニ大洋ニ調錬シ。棹歌數十章

アリ。天台記曰ク。最明寺道崇此ニ游フ。天台諸徒中普賢堂覺圓。首トシテ之ヲ殺サントスト。

喜多浦附釋餘居跡

一ニ片浦ニ作ル。七浦ノ一。灣ヲ回リ天童庵後。橈手巷背ヨリ愛宕山ニ至ル。上下岡ノ諸區皆俯臨ス。此邊ノ勝地ナリ。雲居。松嶋諸灣口小ニシテ杜キ易キ處。潮水ヲ絶チ遺ヲ種ント欲シテ果サス。鵬雲鑾席ニ至リ。土人請テ水田ト爲ス。此浦及梅浦等。其租凡七十餘石ト云フ。土人大ニ利トス。田ヲ稱シ蓮池ト云フ。或云。其勝景ヲ損スルヲ惜ム。

籠崎附船溜

崎形矢籠ニ似タリ。其東五輪濱南斥數十步。土人造船ノ處ト爲ス。

蛇崎

一ニ龍首崎ト爲ス。巖狀龍首ニ似タリ。高城川ヲ隔テ東ハ磯崎鹽場。北ハ高城驛。舊松嶋明神ノ祠アリ。鹽商枝利ノ。高驛西ニ移ス。其跡ニ小祠ヲ建テ梨木明神ト稱ス。初メ藩士山岡志摩ノ采地。今アリ蛇崎ト名ク。山岡氏高木驛ニ移リ路傍ニ今趾アリ。

道鎮濱

古天台僧道鎮ナル者巖棲ノ處崖巖洞窟今尙存ス。清泉アリ漾盈竭キス。驛民遠ク汲ム。

愛宕山

愛宕山光德浦西頭ニアリ。山足ヲ高城驛路ト爲ス。磴道急峻愛宕祠ヲ置ク。舊太白山ニアリ。夢庵松島記ニ曰ク。寛永庚辰。雲居祖翁山王廟ヲ西嶺ニ遷シ。寄迹ヲ開地ト爲ス。明曆丁酉。天童庵主靜淸ナル者。其跡ニ就キ祠ヲ建テ後圮ル。貞享四年春。華翁天嶺鵬雲先師ノ命ヲ承ケ此山上ニ移建ス。東ハ海上ニ俯シ。西北ハ大陽小陽等諸山ヲ望ミ。峯巒重秀畫ノ如シ。和漢三才圖會曰ク。愛宕權現松島ニアリ。山城愛宕山ヲ勸請ス。

三軒庵跡附風星寄迹

愛宕山平垣ニアリ。傳ニ曰ク。古ニ小蘭若アリ。其創

建ヲ詳ニセス。之ヲ三軒茶屋ト稱ス。久シク廢ス。天明中。俳流其跡ニ就キ菴ヲ結ヒ風星ト名ケ。勝客憩息ノ處トス。亦タ祀ル側窟中神明祠ヲ置クアリ。山巓東北ノ矚。磯崎靈場高城巷。近ク目下ニ列シ絶勝ノ處ナリ。

上岡下岡

土人上岡ヲ呼テ金比羅山ト云フ。兩岡相並ヒ高城路ヲ挾テ北高ク南卑シ。故ニ上下ヲ以テ稱ス。矚眺ノ佳松島東北ノ近區中第一ト爲ス。橈手巷ヲ距ル數百步。而シテ阪險ノ難ナク。亦タ聚落ノ喧ナク。飄然世途ノ窮ヲ知ラス。浩然天地ノ大ヲ知ラス。宜ナル哉小仙壇ヲ以テ之ヲ稱ス。各小祠アリ。北ヲ加茂祠。南ヲ貴船祠ト稱ス。滿山桔梗因テ桔梗山トモ曰フ。

汀房蹟 附不昧堂蹟

寛文中。里人廢趾ニ不昧堂ヲ建テ。念佛道場ト爲ス。元祿中。天童海望ヲ碍ヘ之ヲ徙ス。

法師崎 附寶珠庵趾 觀音堂趾

天童ノ東ニアリ。松嶋八崎ノ一。寶珠崎又長谷崎ト名ク。古ヘ寺アリ。台徒居ル。相傳フ。松嶋僧房亡慮百。法師崎特ニ巨麗ナリ。蓋シ毎歲山王廟祭禮ノ用ニ備フ長廊。五大堂前ヨリ水涯直チニ法師崎ニ至ル。天台記ニ云ク。寶治戊申四月十四日。例ニ例リ山王祭禮。衆徒。堂生。學生。咸神輿ヲ奉シ神樂ヲ奏ス。五大明王伊陀天前ヨリ長廊ヲ渡リ。法師崎寶殿ニ至リ舞樂ヲ奏スル是ナリ。台徒遁レ後廢ス。圓福改禪六世僧覺滿。古趾ニ就テ寶珠庵ヲ創シ。崎亦タ改テ寶珠ト呼フ。國初瑞巖落成。庵ヲ今ノ地ニ移シ。三枝院ノ一ト爲ス。後元文己未。潮音堂ノ營アリ。象外諸勝記追錄曰ク。元文己未夏。和田某丈六觀音大士像ヲ造リ。堂ヲ法師崎ニ建テ。之レヲ安ス。又側ニ小庵ヲ立テ。住者ニ本堂ヲ司ラシム。天嶺和尚堂ニ額シ潮音ト。庵ニ顏シテ心月ト云フ。崎ヲ長谷ト改ム。蓋シ大士像ハ。山城長谷寺ノ靈像故ニ改ム。石髓

碑ヲ建テ其事ヲ詳記ス。碑今御嶋醫王堂側ニアリ。寳暦甲戌正月八日夜。庵主火ヲ失シ。潮音。心月悉ク烏有トナル。後士人觀音石像ヲ立テ、其跡ヲ記ス。堂曾テ小鐘ヲ挂ク、今徙シテ陽德院ニアリ。銘ニ曰ク。

鐘之爲器。笹絶衆音。拔除諸苦。切用孔洪。是以大小佛閣。不可得闕也。粤東奥州松嶋居住。信男。範金鑄小鐘。以附之同邑長谷崎觀音堂。匪啻資助親眷。先亡后死冥福。復教幽昏群生開往生悟。功利不亦韙哉。圓堂司眞守禪人。令鐘上坐銘之。曰。音之丕惟鐘爲洪。驚覺昏忘。開通慧聰。幽顯蒙福。聖賢賛功。宏哉法器。利濟無窮。天童庵靈應。謹誌焉。

松嶋水主町施主。茂兵衛。願主　守眞

堂司　心月庵主守眞。寛保三癸亥。結夏日

鹽松勝譜卷之九　畢

鹽松勝譜卷之十

松嶋右路

松島之部下目次

觀月崎　觀瀾亭　竹浦
櫻岡附五葉庵　鷲峯　大石嶺
兎澤　櫛筒澤　葉山附葉山泉
葉山塘附不動瀑。大極窟。大陽峯。小陽峯。湯原温泉。
鬼窟膝附壇山　小町廬趾
小町觀音附壺貝崎。雁山。雁首崎。錦浦。扇谿
海無量寺　越智山權現　鈴浦附蛾山崎腹掛崖
筆架浦　梅崎附觀梅浦　濱田灣
赤沼　染殿祠附染草山　番嶺附傳曲庵趾碑
陶場附硏澤橋。同塘。　春日神祠附一枚田。寒澤泉
金神祠北宮附鐘樓山　勿來關跡　春照寺及山塚崎
利府驛　白金社　龍藏寺
圓福寺附楊岐寺　鵲巣山

心月寺附熊野神社。八幡崎。師岡館。曝背山。竹林城址。
不動明王祠　古壘址
長者莊跡　產屋原附大悲閣
延慶ノ古碑　觀粧阪附鏡池、羽黑神社。馬頭觀音。
觀粧城址

鹽松勝譜卷之十

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

松島右路
松島之部下

觀月崎

此編。目次ニアリテ事歷ヲ記セサルモノハ。已ニ前卷ニ載セス、重複スルヲ以テナリ。看官是ヲ諒セラレヨ。

觀瀾亭

亭ハ貞山公ノ創建スル所。正保乙酉ノ春燒失セリ。今ノ亭ハ舊伏水豐太閤ノ行殿。文祿中。之ヲ貞公ニ賜フ。公之ヲ江戶藩邸ニ建ツ、正保火後。義山公、舶致シテ此ニ建ツ。修葺相繼クト雖トモ、舊物完全一距ヲ失ハス。今ヤ二百年。障壁貼金丹碧嶄新ノ觀アリ。

和藤叔明侍宴觀瀾亭應令作二首。

源義質

聞君侍宴醉滄洲。不羨洞庭湖上遊。一自雲烟侵彩筆。何人重賦海天樓。

縹渺雲煙海上臺。十洲三島對筵開。羨君今日游仙境。從駕猶援瑤草回。

遙題松島觀瀾亭。同竹村伯實。

佐藤坦

觀瀾亭子枕清漪。聞昔遙從伏水移。（亭舊在伏水。豐太閤貺之黃門仙臺侯。）彷彿雨奇晴好景。宛然金石綺逾詩。（地名觀月崎亭中額揭雨奇晴好四字。）舟如芥點新磨鏡。嶼似枰存未覆棊。爲是英雄遺結構。使人憑吊想當時。

竹浦

此君。恰モ根モ托スヘキ幽閑ノ地。僧靈岩。竹浦夜雨ヲ以テ八景ノ一トナス。

遊竹浦

田省吾

經盡翠嵐裡。秋風竹浦清。江波微雨歇。山樹晩蟬鳴。寺與塵寰隔。人尋幽處行。壯遊知幾日。眞得薜羅情。

櫻岡附五葉庵

此地東ニ雁山。北ニ鷲峯。西ニ熊耳。南ニ曲灣アリ。農家兩三戸。水田數頃。實ニ幽邃閑寂ノ地ナリ。夢庵寺ヲ創シ。庵シテ五葉ト云フ。木庵ノ署。又一庵アリ古鏡ト云フ。獨立ノ書。古櫻樹多シ。因テ名ク。象外森曰ク瑞岩ヲ距ル三里。霞浦ヲ過キ官峯ヲ攀チ石濱ヲ涉リ雁山ヲ縣。岱隆粗遠ク塵ヲ避ク。庵ハ夢庵豹隱ノ處。一聯ヲ掛ク曰ク。窓前千秋靈光嘯熊耳一輪月。洞裏萬古秀色攀鷲峯半輪雲。獨麟禪師詩アリ。曰ク。千松嶋外潮侵徑。五葉庵前花滿山。實錄ト謂ツヘシ。

鷲峯

櫻岡北ニ隣ル。環海ノ瞩目近ク一瞬ニアリ。相傳フ。古神僧アリ。此山ヲ見驚テ曰ク。天竺靈鷲小峯ニ中ル。何ノ年此地ニ飛來ルカト。因テ名ク。鷲尾明神祠アリ。或ハ慈覺ノ置處ト。近歲大ニ靈異ヲ著シ。禱賽

者甚タ衆シ。天台記ニ曰ク。源右府松島台徒ヲシテ。弟義經ヲ咒咀セシム。台徒等此神前ニ法ヲ修ス。義經亡フ右府台徒ヲ賞スルニ。賀州織部絹千匹ヲ以テス。此說或ハ然ラン。

大石嶺

西行退松ノ西。大石四五亂峙。且眺望佳ナリ。西頭ハ即チ朱鳥山ト爲ス。

兎澤　大石嶺下深谷數百仭兎子甚タ多シ。

櫛笥澤　瑞巖寺背ニアリ。相傳フ。古籔澤ノ地因テ此名アリ。

葉山。附葉山泉

祠アリ。葉山權現ト云フ。埃捨錄ニ祠ハ遠喜津彦。遠喜津姬二神ヲ祭ル。或ハ傳フ。醫生眞山氏ノ創ト非ナリ。土人曰フ。山上常ニ怪異多シ。時或ハ天狗ノ舞ヲ見ル。故ニ祭ル者必ス齊戒シテ後行ク。堂宇頹圮ス。寛文乙己圓同庵主希閑興新シ。元祿九年。鵬雲重構ス。正德乙未。山僧再營ス。象外錄曰ク。藥王及十二神像ヲ。慈覺手摸シテ祠ニ安ス。今僅ニ二軀ヲ存ス。祠ハ則松島土地神ナリ。山西淸水澤ヨリ淸泉湧出ス葉山泉是也。久旱涸レス。品泉者謂フ。獨鈷泉ニ下ラストト。文化甲戌ノ夏。瑞巖主丹源知事定海ニ命シ。樋ヲ設ケ之ヲ雲厨ニ引キ水槽ニ受ク。恰モ小瀑ノ如シ。永ク寺用ヲ資シ。餘水ハ嘉多浦ニ至リ。鹹田旱暵ノ憂ヲ濟フ。

葉山塘。附不動瀑。大極窟

山陰ノ穹谷小瀑アリ。不動明王ヲ祀ル。其下ニ小塘アリ。又側ラ絕壁ノ間祠アリ。大黑窟ト云フ。古天象ヲ祀ルノ處乎。

大陽峯。小陽峯。

兩峯並峙。南ヲ大ト北ヲ小トス。峯頭高峻日景照映。朝ヨリ暮ニ至ル。故ニ名ク。其間ヲ蓮華澤ト云フ。蓮華ヲ以テ名アリ。

湯原温泉。

葉山西北間ニ温泉アリ。其源後山ヨリ出ツ。平時頼

台徒ヲ驅ルノ後。變シテ淸水ト成ル。近歳瑞巖僧疥癬ヲ病ミ百方治セス。偶々靈夢ニ感シ。此泉ニ浴シ忽チ愈ユ。遠近傳テ奇ト爲ス、泉水其味澁酸ナリ。寛政中。瑞巖主叔堂浴シテ奇効アリ。官ニ告ケ浴室ヲ構ヒ。且法華石一部ヲ嶺上ニ瘞メ。碑ヲ建テ以テ藥王及大師ノ冥助ヲ祈ル。

鬼嶺膝附塚上。

地ヲ石田山溪ト云フ。全石小陷穴アリ。相並テ膝ノ如シ相傳フ。古阪將軍惡鬼大竹丸ヲ伐リ。其頭ヲ富山ニ埋ム。當時鬼面縛平伏。膝頭石面ニ穿チ入ル數寸。是レ其痕ト云フ。塚山ハ湯原西ニ三塚アリ。高六尺周六丈許。相傳フ。天台僧正海ナル者護摩ヲ修ムルノ塚ナリト。

小町廬跡。

櫻渡戸村ニ在リ。小町イホリト稱ス。今小町イリト曰フ。傳ニ曰ク。古小町姫老テ惡疾アリ。此ニ隱レ廬ヲ結テ居リ。人ノ窺ハンコトヲ恐レ。櫻花ヲ折テ窓戸ニ掛ク。故ニ人櫻渡戸ト云フ。渡ハ掛ルノ方言ナリ。

小町觀音。附壺貝崎・雁山・雁首崎・錦浦。

相傳フ。堂中安スル處ノ像ハ。小町姫ノ尊奉スル所ト。壺貝崎ハ雁山東足海ニ臨ム。是ヲ壺貝ト云フ。土人岩狀ヲ以テ名ヲトル。雁山ハ一ニ飛雁峯ト云フ。山形雁ノ翔ルカ如シ。觀跡聞老志曰ク。春雪未タ消セサルノ日。之ヲ望メハ眞ニ玉山瓊峯ノ如ク。雁山殘雪ノ日アリ。雁首崎ハ。雁山麓南走シテ海ニ入ル。其狀雁首ノ如シ。故ニ此名アリ。聞老志。鴻首ニ作ル。錦浦ハ面前ノ嶋嶼點綴シテ文錦ノ如シ。因テ名ク。或云フ古彩石文貝多シ。故ニ名ヲ取ル。

扇谿

大澤ト稱ス。或ハ鷗沙灣ト爲ス。南山禪師ノ所謂峽勢近ク迫リ。天形遠ク開クモノ。島嶼點綴宛然扇面畫ヲ摺ルカ如シ。是扇谷ト名クル所以ナリ。其勝ヲ目シテ、扇溪ノ幽觀ト曰フ。此鹽松環海中。四山ノ

一。卷ノ四松島部下ヲ見合スヘシ。

海無量寺。

卷四ニ詳記ス。此ニ略ス。夢庵松嶋記ニ曰ク、安スル所ノ千手大悲像、東福門院皇太后。觀音ヲ信ス。宮庭池畔ノ柳老大枝葉叡覽ヲ得フ。旨アリ之レヲ伐ル。其夜三侍女同シク夢ム。偉人來告テ曰ク。柳樹ヲ伐リ觀音像ヲ作レハ。則宮中災ヲ攘ヒ福ヲ增サント。三女同時之ヲ白ス。太后觀喜。遂ニ良工ニ命シ。大小像六千體ヲ造ラシム、貞公ノ女天麟尼、之ヲ聞キ。近衛藤公ニ懇求ス。公之ヲ奏シ。因テ賜フ所ナリ。寛文辛丑ノ夏。尼公病革ルニ曁ヒ之ヲ貽ル。先師鵬雲後ニ茲山ニ藏ス。余因テ中者ノ言ヲ聞ク此ノ如シ。

游二海無量寺一記。　　佐子巖

鷗沙灣。在二飛雁峯以南一。鄉俗呼二大澤一。有二精舍一。曰二海無量寺一。幽閑深間可レ愛之地、而古人所レ謂寺遠無レ僧來。山深客過稀。自然計會焉。其行也。棹二扁舟一繫二柳陰一。而步二水汀一。行々分二蒙密一。過二幽溪一。細石磊落。芦荻蕭瑟。其境殆類下曲徑通二幽處一之意上。稍登二同磴一而入二于深松一。投二寺院一。而與レ僧話レ舊、坐久而海月昇二松梢一。江風度二峯頭一。張藉所レ謂、秋山無レ雲復無レ風。溪頭見レ月出二深松一者。宛然自來、夜闌更老。取二輕舟短棹一于寒江一。時秋夜沈々萬頃空。四顧寥々歸路遠。月色嬋娟落二江波一。淸影玲瓏沈二海底一。高興無窮吟心窈窕。幽趣今猶不レ忘。仍記レ之且以證二地理一。

登二海無量寺一。　　釋古梁

梵宇春山上。躋攀第幾禪、靈禽聞二命々一。法網入二玄玄一。冥觀依二淪日一。妙諦瀉二涌泉一。欲レ裁二塵外賞一。授レ簡愧二言詮一。

越智山權現。

僧泰澄像。雲居ノ彫刻。鵬雲海無量寺ヲ建テ。安シテ鎭守神ト爲ス。

鈴浦。附峨山崎・腹掛崖。

土人扇谿灣ト呼フ。峽間數百步、波聲山ニ響キ鈴聲ヲ作ス。故ニ此名アリ、峨山崎ハ筆架浦嶼ニ伏シ鈴

浦南ニアリ、腹掛洞穴アリ。木葉石ヲ出ス。好事者梯シテ之ヲ採ル。

筆架浦。

峨山崎下山間ニ入ル所ヲ云フ。浦ノ北隅ヲ垂水ト稱シ。水下ニ徑アリ。潮滿レハ則徑沒シ。深クシテ厲涉スヘシ、之ヲ過キ一農家アリ。水田數頃漁樵ノ外世人稀ニ至ル、之ヲ櫻岡ニ比スレハ。幽邃大ニ加ル余老父ニ其收獲ヲ問フ。曰ク、此地瑞巖封內前後皆松樹、秋時松蕈多ク生シ。瑞巖每歲邦君ニ獻スト

梅崎 附觀梅浦。

土人馬背崎ト稱ス、昔梅數株アリ。崎ノ西南ハ即觀梅浦ナリ。凡松島ハ翠松一色、而シテ竹翠ヲ以テ稱スルモノ。福浦ト竹浦トアリ。梅花ヲ以テ稱スルハ。梅浦ト此崎トノ耳。故ニ花時游者ハ舟ヲ此ニ維キ。賞翫時ヲ移シテ去ル、今ハ梅枯レ名ヲ存スルノミ。

濱田灣。

梅崎西南灣ヲ爲ス。最モ大漁家數戶海ニ面シテ居ル。即チ松嶋鹽竈分界ノ地是ナリ。松島ノ後長老坂ノ西南。道路二十餘里、巖袴村ニ至テ鹽浦路ト合ス。合テ又西南十餘里。而シテ仙臺府東門原驛ニ至ルナリ。玆ニ載スルハ。巖袴村ニ至ツテ止ル、若シ夫仙臺府ヨリ鹽浦ヲ經ス。直ニ松嶋ニ至ル者ハ、宜ク之ヲ倒閱スヘキナリ。

赤沼、

長老坂西四里路傍ニアリ。傳ニ曰ク、古多賀城ヲ修造シ。瓦ヲ製シ土ヲ取ルノ迹。溜リテ沼ト爲ル。其土赤シ。故ニ名ヲトル。沼蕈ヲ產シテ名アリ。

染殿祠。附染草山

赤沼東丘ニアリ。一ニ染草明神ト稱ス、相傳フ。阪將軍ノ愛妾璺玉ノ祠ナリ。璺玉嘗テ豪富ノ婢縫裁ヲ巧シ染色ヲ善クス。常ニ此ニ產スル玉蒻ヲ取テ染料ト爲ス。里婦染ヲ傚テ今ニ至ル。之ヲ德トシテ祀ル。玉蒻他產ニ比スレハ色甚タ美ナリ。

柳澤碑文。

封内玉露集赤沼地藏、延寶二年八月十日。奥州白川城主、本多能登守家士。小針彦四郎家中、片倉孫兵衛。其子嘉兵衛主從三人。親敵富永彌太郎、同弟五郎七ニ八ヲ討ツ。後年其甥地藏ヲ建テ供養ス。

番嶺。附傳曲庵趾碑。

赤沼艮隅ニ在リ、諸山中最高ノ峯ナリ。四望敞然東海ノ望最佳ト爲ス。傳ニ曰ク。昔弘安中胡元我ニ仇ス。詔シテ海國ニ備フ。時ニ伊澤氏斥候ヲ置クノ所ト。峯ノ東隅ヲ撞鐘嶺ト曰フ、古鐘樓アリ。斥候急ヲ告ルノ備ナリ。嶺上碑アリ。高四尺許、緇徒ノ立者ナリ。傳曲庵趾碑ハ、染殿祠路傍ニアリ。庵ハ瑞巖寺前ニ移シ。十三子院ノ一。碑ハ庵ノ此ニ在ル日立ル所ナリ。

攜東齋梅關。眞柳辰住。舟萬年。諸子遊利府驛。諸子登蟠山。余不得從因賦　南山　古梁

咫尺蟠山興。登來賞不休、何及旅亭酒、冥想而臥遊。

陶場。附研澤橋・同塘。

染殿祠西ニアリ。是ヨリ西南ヲ春日村トナス。茶ヲ鬻クノ家五六アリ、古昔古木榎アリ。世榎茶肆ト稱ス、古道路ナリ、南向岐アリ。是ヲ鹽浦・松嶋往來陸路ト爲ス、相傳フ。古多賀城ヲ造修スル皆製瓦ヲ茲ニトル。地中今ニ古瓦片ヲ出ス。其布文多賀城ト全ク同シ。研澤橋ハ。陶場西南ニアリ。塘ハ橋北山中ニアリ。又柳澤・新柳澤・沼澤ノ三塘アリ。春日一村ノ漑潤ニ給ス。

春日神祠。附一枚田。寒澤泉。

陶場西南ニ在リ、開老志曰ク。春日神社ハ春日村ニアリ。相傳フ。大職官第七世。從四位下陸奥按察使藏人頭、藤原富士麿。仁明帝。承和十年癸亥三月、陸奥國刺史トナリ。多賀城ニ居ル。十一年甲子。春日神社ヲ城北上野原ニ建ツ。後其職ニ任ル者世之ヲ祀ル。押領使秀衡ノ時ニ至リ、新タニ造營。洲人益之ヲ敬ス、文治五年巳酉、源右將東征ノ次。伊澤家景ヲ以テ奥州留守職ニ補シ。岩切村高森寨ニ居リ。相繼テ上

野介政景ニ至リ祭祀ヲ怠ラス。（一書。留主相模守顯宗入道雪齋造營。）天正十八年庚寅。豐公北條氏政ヲ征ス。政景不會ノ罪ヲ以テ采地ヲ沒ス、後修營ヲ加ヘス。祠官祝吏咸散去ス加之野火ニ罹リ。鼎彝文書一物ヲ遺サス。小民小祠ヲ立テ。其迹ヲ記スルノミ。寛文十一年。肯公此ニ移建シ。遷禮ヲ行ヒ祭田ヲ寄附ス一枚田中ニ塚アリ。孤松ヲ栽ユ。郷老曰ク。昔肯公神祠ヲ移建ス。祠前ニ清泉湧ク。土人淨地ト爲シ。請テ祭田ト爲シ。泉口ヲ塡シ塚ト爲シ松ヲ栽ス。此田小鶴兒ヲ瘞ムル處ト爲ス誤ナリ。寒澤泉ハ。神祠ノ西ヲ經テ。本村及近村ノ田ニ漑ク。水味甚甘美ナリ。水ヲ品スル者郡中第一ト爲ス。

金神祠一ニ荒神祠ト爲ス。相傳フ。龜山帝。文應元年庚申。刀匠國豐ナル者創祠ス。國豐絕技刀劍ヲ作ル咸尤物ナリ。而シテ傳ル所甚稀少ナリ。賞鑑家ノ未タ曾テ品評ニ入ラサルモノ惜ムヘキナリ。彼ノ宅迹土中往々鐵滓ヲ出ス。

北宮。附鐘樓山。

寒澤泉西南路畔ニ在リ。鹽神祠方位四祠ノ一。祭神大貴巳命、祠ハ舊鐘樓山ニアリ。何時茲ニ移スカ詳カナラス。鐘樓山ハ北宮北背ニ在リ。山上遺趾アリ。相傳フ。藤原秀衡西白河關ヨリ東平泉ニ至ル。一里每一鐘ヲ掛ク。其數凡四十八。是レ其一ナリ。

勿來關跡。

春日祠西南ニアリ。勿來一ニ勿越ニ作ル。共ニ國訓奈古曾。土人略シテ曾關ト云フ。曾我ハ惣ニ作ル。兩山壁峙高キ數十仞。峽間ノ阪徑峽險。一夫之ヲ防ケハ千夫進ム能ハス。眞ニ要地ナリ。蓋古昔ハ多賀城ヨリ此關ヲ經テ奧地ニ通スト云フ、新井白石紳書ニ曰ク。多賀府ヨリ黑川ヲ經テ玉造郡ニ赴ク。此路ヲ謂フナリ。山上櫻樹多ク、花時遠望スレハ雪ノ如ク雲ノ如シ。古八幡公東征ノ日。國風ヲ賦シテ賞スル處。或曰ク。勿來關ハ奧常二州ノ界ナリ。未タ孰カ是ナルヲ知ラス。僧慈鎮勿來關ノ國風。關上松島烟

霧ヲ眺ルノ句アリ。則此地豈ニ徵アルニ非スヤ。識者幸ニ之ヲ正セ。關上ノ半峯ヲ御在廳峯ト曰フ。土人傳ヘテ。八幡公次軍ノ處トナス。其所ヨリ近歲、古瓦・古器及矢鏃ノ類ヲ堀リ出ス。關ノ西小祠アリ。大山祇神ヲ祀ル、何人ノ創ヲ知ラス

春照寺。及山塚崎。

寺ハ淨土、天文中僧良久開建ス。觀音堂其創詳カナラス。塚ノ周回十五步。傳テ古塚トナス。

利府驛。

傳ニ曰ク。古都府浦。驛巷百餘戶。古留主氏ノ時。頗繁華ノ地タリ。寺アリ。圓成寺ト曰フ。念佛乘元龜二年。僧岑辨開建シ順陀中興ス、南口神アリ。箭着八幡ト稱ス。舊驛西ニ在リ、國初茲ニ移ス。

白金社。

風土記曰ク。多賀城主祈願ノ事アリ。芳野藏王權現ヲ勸請ス。

龍藏寺。

驛北山上ニ在リ。豐聰太子自製像ヲ安ス。故ニ太子山ト稱ス、元祿三年。僧鳳山創建ス。肯公命シテ鳳山ノ師。上州黑瀧潮音ヲ以テ開祖ト爲ス、寺中ノ矚目東ハ鹽廟山。及本村ノ丘陵、南ハ伊具・宇多・相馬諸山咸坐視スヘシ、子院六。龍華・梅岩・久昌・孝德・大林、今龍華アルノミ。

圓福寺。附楊岐寺。

子院龍華院。其國初仙臺石名坂ニ徙ス。楊岐寺。心月寺南ニ在リ。松島雲居禪師創建ス。

鴇巣山

此ヲ留主職伊澤氏ノ城墟ト爲ス。相傳フ。伊澤氏初メ多賀城ニ中コロ岩切ニ最後此ニ居ル、（一書元龜中居ニ于此。）富主屋探勝紀事ニ曰ク。利府驛西山麓人家聚ヲ爲ス、乃チ木村藤馬ノ邑、々北鴇巣山アリ。留主家景氏ノ古墟

心月寺。附熊野神社・八幡崎・師岡舘・滕背山・竹林城趾。

澤音村ニアリ。曹洞宗、慶長四年。僧雲留創ム。熊野

神社ハ、鵠巣西南上ニアリ。留主氏之ヲ置ク。八幡崎ハ、矢着八幡ノ舊趾、相傳フ。源義家東征ノ日。弓力ヲ試ミ其箭ノ駐スル所ニ社ヲ建ツ。因テ此崎名ヲ存ス。師岡館ハ。伊澤氏ノ臣師岡某居ル。古城錄。東西四十六歩・南北六十六歩。曝背山ハ。諏訪神社妙音天女社皆詳ナラス。竹林城趾。仙臺武鑑曰ク。伊澤氏ノ臣菅谷左近居ル。東西二十歩・南北四十五歩。

不動明王祠

菅谷西南山足ニ在リ、小瀑アリ。瀑下小祠ヲ置ク、近歳靈應アリ。禱祈者斷ヘス。瀑背山上洞穴多シ、舊土ヲ以テ之ヲ封ス、六七年前。土人之ヲ掘リ。陶器刀劒ノ類ヲ得タリ、或曰ク。昔留主氏ノ家臣。死者ヲ埋ムノ地ナリ。諸器今山下道安寺ニ藏ス。寺ハ曹洞禪雪橋大積創建ナリ

古壘址。

相傳フ勝國ノ時。留主氏ノ臣菅谷左近ノ居館ナリ。

伊豆佐女神社。

驛西五里路傍ノ丘上ニアリ。飯土井神社ト曰フ。延喜式ニ載ス。宮城郡大社四坐ノ一。飯田氏郊居內菅谷村ノ丘ハ。往昔ノ社地ナリ、祭日九月九日。風土記殘篇曰ク、圭田二十八束、三宅田、所、祭講昨比女也、天武二年。奉ニ圭田一行ニ神禮一。有ニ神家巫戸等一。文德實錄曰。仁壽二年七月辛未、陸奧國伊豆佐女神授ニ從五位下一。

長者莊跡。

伊豆佐女社東背ニ在リ古宮門長者ハ鄕ノ豪富。大同中、阪將軍東征多賀城ニ在リ、屢其家ヲ過ク。或ハ傳フ。宮門ハ九門ノ訛。其宅門九アリ。故ニ鄕民之ヲ稱ス。土人其宅地ヲ伊豆神社丘ト爲ス。誤ナリ。

產屋原巷 附大悲閣

伊豆社南民家四五十戸。相傳フ古豪富宮門ノ婢璧玉將軍ノ寵アリ身ムアリ。期ヲ過テ產セス。宮門語テ曰ク。璧玉ノ身ハ豈狐狸ノ種乎。乃チ產室ヲ野外ニ營シテ居ラシム。十有三月ニシテ產ス、生兒美ニ

シテ玉ノ如シ。宮門悦ヒ子ト爲シ、名テ千熊ト稱ス。事已ニ前卷ニ詳ナリ。因テ此地ヲ產屋原ト云フ、巷ニ璧玉姬ノ尊奉スル所ノ大悲閣アリ。孕婦之ヲ祈レハ產甚安シ、利府ヨリ南宮・岩截ニ至ル、其間古白萩莊ノ古地ト云フ。

梅岡。

東雲院南ニアリ。留主氏岩截ニアリ。梅數百株ヲ栽エ。今其名ヲ存スルノミ、

延慶ノ古碑、

村ヲ上谷澤ト云フ。路傍ニ碑アリ。高六尺許横之ニ半ス。記文剥落ス、延慶三年等僅ニ讀ムヘシ。之ヲ七人試力石ト云フ。昔邑中ニ平田五郎ナル者アリ。嘗テ他ヨリ日暮ニ歸ル。時秋末渠水盡ク涸ル。群狐爭テ渠中ノ魚蝦ヲ喰ヒ。五郎來ルヲ知ラス。五郎之レヲ圯上ヨリ叱ス。群狐驚散ス。而シテ渠中物アリ耿々然タリ、之レヲ視レハ玉ナリ、乃チ齎シ歸リテ之ヲ坐上ニ置ケハ。光一室ヲ照ラス。五郎大ニ喜ヒ珍襲ト爲ス。翌夜人アリ頻リニ扉ヲ敲ク。起テ之ヲ見レハ、一婦人再拜シテ曰ク、婢ハ野狐假ニ婦粧ヲ爲ス。疇昔ノ夜渠中ノ魚蝦ヲ貪リ。主公ノ經過ヲ覺ヘス、且主公ノ叱聲ニ驚キ。遁走シ所持ノ玉ヲ脫遺セリ。野狐此玉無ケレハ。朋類ニ齒スルヲ得サルナリ。主公之ヲ憐ミ返シ賜ラハ。報スルニ怪力ヲ以セント、低頭垂涙拜伏ス。五郎武夫其狀ヲ恤ミ玉ヲ返與ス、不日去テ試ニ此碑石ヲ擧ク。其輕キ束芻ノ如シ。是ヨリ怪力絕倫ノ聞ヘアリ。土人目シテ試力碑ト呼フ、

貞山公年鑑ニ曰ク。公嘗テ讒譖ニ遭ヒ。伏水城ニ至テ豐太閤ニ謁見陳謝ス。此日片倉景綱佩刀ヲ持シ。平田五郎草履ヲ握ル。時ニ五郎左手玄關ノ柱ヲ擧ケ。右手草履ヲ礎上ニ挾ム。城中爲メニ震動ス。人之ヲ聞テ驚カサルナシ、

觀粧阪。附鏡池・羽黑神社・馬頭觀音、

阪ハ神谷澤岩截兩村間ニアリ、池ハ古小鶴碑ノ照

貝池ト云フ、阪西羽黒神社及ヒ馬頭観音アリ。其詳ヲ欠ク。

観粧城趾

古城録曰ク、假粧城ハ、東西五十歩、留主政景之ヲ築キ。別保ト爲ス。封内繪圖附録曰ク、岩截村山上ニ在リ。政景之ヲ築ク。

鹽松勝譜巻之十畢

鹽松勝譜巻之十一

富山路目次

高城驛　鹽場　石磯附殿崎
稲荷神祠　神明祠　寶船寺
盤松　願立寺　豐聰太子堂
古壘址　歸命院　延命寺趾
兼観崎　白狐石　高山
第六天山　橘童子塚　砥泉
松島明神祠　居網泉　郡山氏後山
瀧澤寺　長慶寺犬杉樹　館崎
手樽浦　錢神　猿林
名古目浦　箕浦附早川　蒲地
平尾洲　廣浦附廣澤　圓山
古浦　石浦　呼子騎
長山崎　富山　水月井
雲液池　安禪谷　晦谷

濟興寺　青松庵趾　越地藏
磯田　三蓋澤　第六天堂
山岡院　八幡祠　六六藥王堂
漆崎　挿花嶺　朽木橋
長音寺　道祖神祠　古壘
櫃石　藥師堂　躍阪
大塚濱　鏡神社　不動明王廟
洞安寺　足蹤院　大東澤小東澤
杉間灣　白練濱　東灘丸山
罵逃崎　稻荷神祠　赤阪
五郎祠、新山權現祠　毘沙門堂、南光院大佛像
岩倉山　餘景濱　不老山
野蒜巷

鹽松勝譜卷之十一

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

富山路

富山ノ勝ハ。坂上田村麿將軍ノ後チ。千有餘年人得テ之ヲ稱スルナシ。而シテ其顯ル丶、今已ニ二百年。古籍ニ於テ載スル所ナシ。朝紳ノ詠言片語・隻章絕テ之レニ及フ無シ。何ゾ其ノ寥々タルヤ。其ノ僻遠ヲ以テスト雖トモ。亦數アリテ顯晦スル乎。抑山靈之レヲ秘シテ人適々之レヲ顯ス乎。先哲皆曰ク。松島ニ稔顯シテ富山ニ昧キ者ハ譬ヘハ猶ホ瑤池ニ觴シテ王母ニ賓セサルナリ。或曰ク。松島ノ勝ハ全ク富山ニ在ルナリト。信ナル哉言ヤ。夫富山ニ登リ以テ鹽松ニ俯臨スレハ。則チ環海一矚逃形ナク。瞭乎トシテ盆池ノ階前ニ在ルカ如クナリ。環海ノ外即チ大洋ノ限ル所。南ハ則チ相馬ノ諸崎。東ハ則チ金

華ノ諸山嵯峨筆架ノ如シ。所謂尺呉寸楚モ啻ナラサルナリ。矚眺ノ間覺エス兩腋習々驟ニ輕擧セント欲ス。因リテ謂ヘラク。仙人雲霄ニ在リテ蓬瀛ヲ下シ視ル。此ノ如キニ過キサルナリト。人或ハ恨ム其ノ顯ル、ノ晩キヲ。而シテ其奇ヲ騷人墨客ノ文ニ炫カスナキヲ胡ソ是レ其レ恤ヘン。天下ノ文無キヤ久シ。夫レ弘仁・天暦ノ盛化ノ若キ未タ遐荒ニ覃ハス。延久已降朝綱紐ヲ解キ。文事日ニ廢ス。保元ニ一擾シ。承久ニ再替シ。元弘建武ノ後チニ禁爛ス。是レニ於テヤ世纔ニ禪徒・緇流ノ文ヲ傳フ有リト雖トモ。而シテ猶之レ無キカ如キナリ。況ンヤ吾カ奥。古昔毛人ノ據ル所トナル。悍獷漸ク染ミ其俗甚タ亂ル。故ニ前後ノ牧守皆韜鈐ヲ任ト爲ス。武鷙ヲ以テ世ニ稱セラル、者其人ニ乏シカラス。而シテ文雅ニ於テ絶エテ聞ユル靡シ。假令富山其間ニ顯ハル、モ。何ノ詩賦歌詠以テ其美ヲ稱揚スルニ足ル者有ラン耶。豈翅タ之レヲ稱揚シ之レヲ汚辱スル無キノミナラン。鹽浦松島古人ノ賦詠。其ノ傳誦スルモノ世數人ナラス人數首ナラサレハ。富山ノ湮晦モ亦タ宜ヘナラス乎。元和以來海宇昇洽奎璧發彩文運大ニ開ケ。其鴻業ヲ潤色シ皇猷ヲ藻黼スルカ如キ。姑ク此ニ論セス。乃チ文士・騷人業ヲ講學ノ暇ニ隸ヒ。思ヲ山水ニ騁セ幽ヲ探リ奇ヲ釣リ。彩毫ヲ揮ヒ藻思ヲ抽キ。是ニ於テヤ涓滴培塿ト雖トモ。猶ホ其名ヲ馳ス況ンヤ富山ニシテ遊揚セサル可ケン乎。人其美ヲ顯ササルヲ得ス。靈其秘ヲ洩サヽルヲ得ス。豈時ヲ以テスルニ非レハ顯ハル、ヲ得ン乎。且ツ世ノ遊フ者以爲ラク。松島以往唯富山アルノ耳。殊ニ知ラス其間ノ一境一區往クトシテ奇ナラサル無ク　一磯一灣觀ルトシテ妙ナラサル無キヲ。タ、是レ水ニ由ル者江心ヲ過キ。陸ニ由ル者便道ヲ經。故ニ其勝ヲ窮ムル能ハサルナリ。若其ノ勝ヲ竭サント欲セハ。則宜ク海涯ニ沿ヒテ行クヘキナリ。然レトモ海涯元ト道路ノ由ルヘキナ

シ。釣途樵徑或ハ數歩ニシテ岐レ。或ハ數々轉シテ而シテ窮シ。往々揚泣阮哭ヲ免レス。宜ク土人ヲ以テ導ト爲シ以テ其勝ヲ窮ムヘキナリ。此篇松島ノ界。高城驛石磯等ノ諸區ニ始マリ富山ニ中シ。曝練淵・東灘・神丘。不老山諸境ニ終フ。夫ノ鹽浦ヤ松島ノ若キ。先ツ其篇ノ命スル所。而シテ其左右ノ諸區ニ及ヒ。此篇特ニ然ラサル者亦タ勝ヲ探ルノ便ニ從ヘル也。

南山禪師曰。起筆奇拔其說亦前人所未及也。觴賓若列子之言。又曰勝之汚於文。古今之一慨也。萬年爲發其寃快哉。涓澮細流也。又曰條理井々文不勝曜温籍而實錄。有裨於探討。蓋距富山關焉未有斯文也。南山讀畢題。

高城驛

松島ノ東北三里ニ在リ。蓋シ宮城郡。國初三治ヲ置ク。中ヲ本郡トナシ、西南ヲ國分ト爲シ。東北ハ乃チ高城タリ、高城ノ治スル所。松島ヨリシテ東北富山左右ノ地ニ至ル也。高城驛ハ三巷ニ折レ。凡二百餘戸。一月三市諸貨ヲ貿易シ。戸々富贍鹽松沿海驛邑ノ饒此ヲ冠トス。驛西水アリ高城川ト曰フ、源ハ東北數里品井湖ヨリ出ツ（湖ハ元祿七年。之レヲ鑿テ以テ惡水ヲ引ク。）而シテ南流シ。高城驛ヲ經西松島ノ界ニ至リテ海ニ入ル。海口ヲ距ル數十歩。虹橋アリ。橋南ヲ蛇崎ト爲シ。北ヲ高城驛ト爲ス、故橋ニ蛇崎高城ノ二稱アリ。且松島ノ矚目此ニ至リテ觀ヲ改メ別ニ勝景ヲ開ク。因テ又タ名ケテ分景橋ト曰フ。海口川流ノ衝ク處ニ島アリ。翁島ト爲ス。島ノ以東島嶼彌縫布列シテ石磯・殿崎ノ面前ニアリ。其詳カナルハ則チ島嶼編中ニ載ス。

宿高城驛　　藤白華

嶋寺鐘邊白。湖松鴉外青。驛樓初皷夢。遙在早梅汀。

鹽場

高城川海口ノ北ニ在リ。而シテ海濱廣斥。南ハ通舸崎ニ對ス。是レヲ鳴瀬浦ト曰フ。鹽場ヲ置ク。相傳

フ。鹽竈ノ神鹽浦ニアリテ鹽ヲ煮ルヲ敎ユ。乃チ分ケテ一神ニ命シ。別ニ鹽場ヲ此ニ開ク。其神ハ則チ松島明神ナリ。故ニ鹽浦ト曰フ。神廟祭祀ノ日。神輿ヲ奉シテ遥ク鹽浦街中ヲ巡ル。而シテ祝吏前驅鹽ヲ撒キ以テ道路ヲ淸ム。其鹽ハ則チ玆ニ取ル。蓋シ之カ爲メ也。風土記。斥鹵。舊在鹽竈村。貞享元年移于此。

石磯。殿崎。

鹽場ノ東ニ在リ。或ハ磯崎ト稱ス。漁農五六十戸西北山ヲ背ニシ。東南海ニ面シ。高城驛ニ隣ル。運輸ニ便ナリ。故ニ商船常ニ塡委ス。後山ヲ左折シテ南走ス。是レヲ殿崎ト曰フ。鄕老相傳ヘテ曰フ。昔シ樋爪五郎季衡居ル所ノ館址ナリ。季衡嘗テ此地ノ奇勝ヲ愛シ。秀衡ニ乞テコヽニ居ル。崎上ノ矚松島ヲ右ニシ手樽ヲ左ニス。而シテ日下ノ島嶼點綴其勝絶佳。崎東ハ則チ館島アリ。後ニ見ユ。

季衡ハ淸衡ノ孫。父ヲ淸綱ト云フ。泉十郎基衡ノ弟ニシテ樋爪五郎ト稱ス。淸綱ノ第二子兄俊衡樋爪太郎ト稱シ。妹ハ佐藤庄司ノ妻。乃チ繼信・忠信ノ母ナリ。

廣胖曰ク。季衡ハ淸綱ノ二子。此書二兄アルモノヽ如シ。後考ヲ期ス。

稻荷神祠。

石磯ノ西背阜上ニ在リ。土人之レヲ石磯明神ト稱ス。何レノ時祠ヲ置クヲ詳ニセス。祠中豐公所贈ノ國字書ヲ藏ス。相傳フ。豐公ノ夫人淀姫ニ侍女アリ。狐惑ニ係ル。自言フ。石磯明神ノ使令ト。百法驅禳ノ效ナシ。豐公ニ訴告ス。豐公聞テ稻荷神ニ牒移シ。以テ之ヲ督責ス。狐即チ逃ケ去ル。其書適勁賞ス可キナリ。今尙其家ニ存ス。

神明祠。

其創ヲ詳ニセス。

寶船寺。

稻荷神祠ノ北ニアリ。永祿五年壬戌。僧桂庵ノ創。曹

洞禪ヲ宗トス。寺前稻荷祠前ト眺望ヲ同フス。

蟠松。

石磯ノ北里餘ニアリ。根ヲ岩上ニ託ス。假蓋扶蘇其狀蟠ノ郭索スルカ如シ。相傳フ。古松曾テ枯ル。士人代フルニ他ノ樹ヲ以テス。而シテ枝葉形狀宛然前樹ニ異ナルナシ。藩ノ先公巡遊ノ次之レヲ愛賞ス。故ニ士人相警メテ伐ルコト勿レト。

願立寺。

蟠松ノ北數百歩。田畝ノ間ニアリ。慶長十五年庚戌。了榮法師ノ創建ナリ。西ハ高城驛ヲ距ル僅ニ數百歩。燈前親話ニ曰ク。高城村ニ寺アリ。親鸞敎ヲ宗トス。願立寺ト號ス。寺ハ海ニ近シ。平田四方ニ遶リ。從來井ニ宜シカラス。纔ニ地ヲ穿チテ流水ヲ引キ以テ井ニ換フ。寶永某年夏日。主僧水ヲ汲ム。偶々白蛇水中ニ在リ。脂膏水面ニ浮フ。僧桶ヲ以テ之レヲ擊ツ。白蛇聲ヲ發シテ死ス。兩三日ノ後。白蛇多ク庭中ニ集ル。僧又之レヲ殺ス。又大ニ聚リテ悉ク之レヲ殺ス能ハス。既ニシテ堂ニ登リ室ニ入ル。寺僧之レヲ如何トモスルコトナシ。妻子ヲ携ヒテ邑人ノ家ニ移ス。冬ニ至リテ歸住スト云フ。

豊聰太子堂追考ヲ俟ツ。

古壘址。

歸命院ノ西ニ在リ。舊ト神楯城ト稱ス。高城某ノ居ル所。其人ハ則チ藩士高城氏ノ先。封內古城錄ニ曰ク。神楯城。戰國ノ時。高城周防居ル。城上東西十九歩。南北五十歩。封內繪圖附錄ニ曰ク。神楯城ハ。高城本鄕ニアリ。高森城主留主相模守顯宗ノ男。高城式部少輔宗綱。輝宗君ヨリ高城ノ莊十二邑三千五百石ノ地ヲ賜ヒ。御一家ニ列スル時。住ミシ城跡ナリ。宗綱ハ今ノ一族高城氏ノ祖ナリ。

歸命院。

高城驛西山上ニ在ルナリ。石磴百餘。盤リテ嶺ニ達ス。傳ヘ曰フ。國初藩ノ功臣山岡志摩ナル者ノ創建スル所ナリト。志摩曾テ上杉氏ニ事フ。後チ去リテ

貞山公ニ事ヒテ屢々功アリ。田祿ヲ此左右ニ賜フ。因リテ蛇崎ヲ以テ居館ト爲ス。又別ニ小庵ヲ此山上ニ營ミ。暇アレハ常ニ來リテ佛ヲ念シ齋ヲ持ス。後チ利府驛園城寺僧岌意ヲ請ヒテ開祖ト爲ス。命ケテ歸命院ト曰フ。山ヲ弘法ト號ス。世ニ傳フ。慶長甲寅冬。大阪ノ役志摩貞公ニ從ヒテ軍中ニ在リ。使シテ神祖ニ謁ス。神祖見テ其齡ヲ問フ曰ク。七十五。神祖曰ク。我カ軍三十萬。我齡最モ高シ。(神祖時年七十三)而シテ亦タ我カ上ナル者アル乎ト。乃チ左右ニ命シテ飧ヲ賜フ。志摩之カ八椀ヲ食フ。神祖之ヲ健トス。乃チ騎馬ヲ試ム。則チ超乘絶塵折旋度ニ當ル。神祖曰ク。矍鑠乎壯士ナリト。則チ御服ヲ脱シテ之ニ賜フ。軍中以テ榮トス。初メ志摩ノ貞公ニ仕フルヤ世錄ヲ辭ス。曰ク。臣自ラ臣ノ功勞ニ食ス。子孫宜ク子孫ノ功勞ニ食スヘキナリト。故ニ其子孫微ナリ。而シテ孔雀外套幟章ノ屬。今尚ホ其家ニ傳フト云フ。寺前ノ矚眺之ヲ石磯・稻荷山・殿崎等ニ比スレハ。見ル所益々濶然。環海東北一瞬ニ在リ。而シテ目下ハ則チ高城驛路。往來人物陸續斷エサル蟻ノ如シ。其最奇ナル者則チ賣場ト爲ス。竈烟縷々裊々風ニ隨ヒテ搖曳ス。古人ノ國風詠スル所懷フ可キナリ。寺尤モ宜ク涼ヲ納ルヘシ。九夏三伏衣ヲ袷セサレハ則チ纊ヲ挾ス。而シテ冬月亦寒ニ堪エ特ニ景勝ノ美ノミナラサルナリ。寒暖體ニ適ス養生ノ福地ナリト謂フヘキナリ。

伊達家舊臣傳曰。山岡志摩重長。姓藤原。初稱成田總右衛門。後由君命改山岡志摩。賜采地三百貫。命國老。寛永三年閏四月沒。其子隼人長勝襲其嗣。十八世忠宗君之時。寛永十八年九月。長勝子志摩泰長死而無嗣其家亡。

罩甲陣羽織ナリ戒庵漫筆並ニ文藻行潦武備之部ニ出ツ。

延命寺趾。

高城氏香花ノ地廢スル久シ。

兼觀ヶ崎。

歸命院ノ南ニ在リ。崎上ヨリ望メハ直チニ海上ヲ指ス。松島・高城兩地ノ界ト爲ス。依テ此ノ崎ノ矚スル所。兩地ノ勝ヲ兼ヌ故ニ取リテ名ク。土人又兼見カ崎ニ作ル。

白狐石。

兼觀ヶ崎ノ北ニ在リ。石ノ大サ五六尺。人或ハ之レヲ汚ストキハ。必ス祟リヲ爲スト。

高山。

歸命院ノ西ニ在リ。此左右ノ諸山ニ比シテ高キヲ取ル。故ニ名ク。山上五重ノ石浮屠アリ。何人ノ立ル所ナルヲ知ラス。或ハ曰フ。古松島延福天台ノ徒之レヲ立ツト。山上ノ矚。歸命院ノ前ニ比スレハ則チ益々濶シ。松島前海大率ネ遺スナシ。應サニ扇谿。鶯峯等ノ勝ニ亞クヘキナリ。而シテ先遊未タ嘗テ之レニ及フ者ナキハ何ソヤ。

第六天山。

高山ノ西ニ在リ。上ニ第六天ノ小祠アリ。祠石ヲ以テ之レヲ造ル。相傳フ。古ヘ天台ノ徒祠シテ之ヲ祀ル。西ハ則チ大陽・小陽ノ諸嶺ヨリ。峯巒相連リ葉山ト爲リ。長老坂ト爲ル。且高山ヨリ葉山ノ東南ニ至リ。松島瑞巖寺ノ後山ト相對シテ中間水田數百頃。古老曰フ。古ヘ潮水石磯鳴瀨浦ヨリ入リテ曲灣ト爲ルト。今詳ニ地形ヲ察スレハ。即チ說或ハ然ラン。山南ノ峯々巒々起伏シテ諸山ニ接連ス。

橘童子塚。

高山・第六天兩山ノ間ニアリ。土人之レヲ兒塚ト稱ス。相傳フ。豪商橘次ノ兒ヲ瘞ムル處ト。昔源公子牛若。（牛若ハ義經ノ小字一ノ字遮那王。）橘次ニ從ヒ鞍馬山ヲ逃レ。東行シテ秀衡ニ依ルヤ。橘次路次ノ變ヲ慮リ。己ノ子ヲ以テ公子ト爲ス。若シ變アラハ則チ之レヲ代ヘントス。兒遂ニ此ニ至リテ病ンテ死ス。即チ茲ニ葬ル。初兒公子ノ長途ト相與ニスルヤ。公子常ニ謂ツテ曰ク。我レ他日志ヲ得ハ。即チ汝

ヲ以テ一隊ノ將ト爲サント。兒輙チ喜フ、後公子兵ヲ起シテ西伐ス途ニ平氏ヲ滅シ。諸臣ト語リテ此事ニ及フ、後チ右將ト隊アルニ迨ヒテ、再ヒ秀衡ニ依ルヤ。時ヲ以テ之ヲ祭祀スト曰フ、

得ニ中衛青陸奥書ヲ却寄。　　合　　離

坂東雄鎮古諸侯。頒得五十四郡樓。最是行商如ニ橘二。黄金白璧不ニ相酬ー。(古五十六郡。後五十四郡)

砥泉。

兒塚嶺下歸命院ノ北ニ在リ。水色青白尤モ宜ク。刀劍ヲ磨クヘシ。昔樋爪五郎ノ殿崎ニ在ルヤ。恒ニ刀劍ヲ好ミ。諸方ノ水ヲ撰テ之ヲ磨キ利鈍ヲ驗ム。而シテ此泉ヲ以テ第一ト爲ス。因リテ砥泉ト名ク。

松島明神祠。

高城驛西北砥泉ノ北頭ニ在リ。山舊ト紫藤多シ。故ニ紫山ト曰フ。山鼻ヲ藤崎ト曰フ。山上ノ樹木鬱葱。祠ハ其巓ニ在リ。是レ鹽廟枝祠ノ一ナリ。相傳フ。太古此神鹽神ニ従ヒ鹽ヲ製ス。或ハ曰フ、天御中主尊ナリト。土人之レヲ紫明神ト稱フ。傳ヘ曰フ。神紫色ヲ惜ム。故ニ松島及高城驛ノ人、相傳ヘテ服ノ紫色ヲ禁ス。犯ス者必ス神罰アリト。祠舊ト松島蛇ヶ崎ノ上ニ在リト。蓋シ蛇ヶ崎ハ。舊申岡志摩ノ食邑。故ニ其家臣此祠ヲ尊崇シ。歳時必ス祭祀ス。志摩卒後家臣離散ス。而シテ高城驛ニ徙リテ農ト爲ル。後祠宇荒廢ス。故ニ村民相謀リテ松島ヨリ。今ノ地ニ徙サンコトヲ乞フ。山下ニ道士アリテ居ル。五色光院ト曰フ。祭祀ヲ掌ル。其家古篋及ヒ古刀ヲ藏ス。相傳フ。文治中源義經東國潛行ノ日。持ラス所ナリト、又役ノ小角繪ク所ノ不動ノ像ヲ藏ム。未タ其眞否ヲ詳ニセス。而シテ筆ヲ用ユル色ヲ設クル。細ニ精巧ヲ盡ス。實ニ是レ神手。近代諸畫史ノ能ク彷彿スル所ニ非ルナリ。余ヲ以テ之レヲ視ル。則チ唐宋名手ノ作ル所乎。祠ノ西ノ山ノ巓ニ相續キテ古城蹟アリ。何人ノ居ル所タルヲ傳ヘス。北ニ城門ノ趾アリ。之レヲ北門ト謂フ。側ニ大日如來ノ堂アリ。亦タ古

城主ノ置ク所ナリト云フ。

紫山神祠　　源五城

華屏三十丈。寧可ニ衆山群一。將レ間靈宮處。時々見ニ紫雲一。

日本古事選。葛城金峰山之間。令下役鬼架ニ石橋一。更數日猶未レ成。小角大怒。鞭ニ笞役鬼一。

小角得レ山終不レ歸。巢鳩。仙跡誰能追ニ役鬼一。草蘆。一夜長橋驅レ石成。蹈海。鞭ニ笞鬼神一役小角。小草。岦封鞭鬼窟。支荷。

居網泉。

紫山西南足ニ在リ。居民六七戸。是ヲ居網ノ里ト謂フ。里南百餘歩。田間清泉アリ。久ク旱スト雖トモ竭キス。最モ茶ニ宜シ。且流出シテ左右ノ田數十頃ニ漑ク。遂ニ高城川ニ入ル。高城巷ニ井ナシ。常ニ川水ヲ用ユ。而シテ旱潦水竭ク。或ハ濁レハ咸ナ來リテ此泉ヲ汲ム。古老曰フ。高城驛ヨリ此ノ際ニ至ル。左右ハ古皆海濱タリ。潮水來去ス。此ノ處ニ居テ而シテ魚網ヲ投ス。故ニ地名ト爲シ。又泉名ト爲ス也ト。今此ノ際ニ遊ヒ。崎尾山足ヲ觀ルニ。懸崖。洞穴ノ状ハ則チ波浪嚙食ノ痕。宛然トシテ新タナルカ如シ。乃チ知ル滄桑ノ變。其久遠ニ非ルヲ。古老ノ說實ニ然リ。

郡山氏後山。追考ヲ俟ツ。

瀧澤寺。

紫山ノ西北ニ在リ。曹洞宗ヲ宗トス　天文壬子僧家屋洞仙ノ創ナリ。

長慶寺。及大杉樹。

瀧澤寺ノ西里餘ニ在リ。地ヲ木森ト曰フ。相傳フ。古天台ノ僧願海ナル者ノ開建スル所ニシテ。松島台徒逐ハレテ後廢シタリ。後チ後醍醐帝。嘉暦中。僧明極再建ス。圓福松島ニ隷ス。巡覽記ニ曰ク。長慶寺圓福十世明極ノ開基ナリ。寺前ニ小祠アリ。祀ル所木守勝手ノ二神。亦天台徒ノ置ク所ナリト。地售ト木守ト名ク。而シテ守森國訓同シ。故ニ訛ル。又銀杏樹

アリ、是ヲ影向木ト曰フ、嘗テ寒澤寺。寺ハ寒澤島ニ在リ後ニ見ユ）災アリ 其寺ニ藏スル所ノ彌陀像。飛ヒ來リテ此樹上ニ掛ル。故ニ之レヲ名ク。而シテ像ハ則チ安シ、雲ノ如ク雪ノ如シ。實ニ奇觀ナリ。人目ケテ小芳野ト爲スト。阪盡キテ二農家アリ。路ヲ夾ンテ相對ス。岐アリ是ヲ第三岐ト爲ス。阪ヲ下ル里許第四岐ニ至ル。第四岐榜木ヲ樹テ題シテ富山路ト曰フ距ル二里餘ナリ。此ヨリシテ東北ノ地。桃生郡ト爲ス 直行路漸ク東ス。野ヲ右ニシ山ヲ左ニシ。四五里ニシテ一茶店アリ。一軒亭ト曰フ。路ノ右ヲ荒莊ト曰フ。又里許右ヲ西澤ト曰ヒ。手白山ト曰フ。又四五里阪アリ。若張阪ト曰フ。阪上一酒亭アリ。阪ヲ下レハ穴口ト曰フ。水アリ忠衡渠ト曰フ。源ハ富山ノ西北麓ヨリ出ツ。此ニ至リテ路底ヲ鑿チテ以テ水伏ト爲ス。北流シテ小野川ニ合ス 穴口ヲ過クレハ民屋八九路側ニ列ス。左邊ノ山上鹿島ノ神ノ小祠アリ。又里餘小野川ト爲ル。川ノ東ヲ小野驛ト爲ス。驛ヲ過キテ路岐ル。東ヲ石ノ卷金華山ノ路ト爲シ東北ヲ中奥諸郡ノ路ト爲ス。凡ソ高城驛ヨリ小野驛ニ至リ。十五里餘ナリト云フ。

舘崎。

磯崎殿崎ヨリ海涯ニ沿ヒテ。東北三四里崎アリ是ヲ舘崎ト曰フ。其長灣西ニ入ル里餘。手樽浦ト爲ス。灣東崎ニ對シ長松羅列スル者錢神ト爲ス、猿林ト爲ス。而シテ崎前ノ島嶼無數。西南ニ連リ桂島ニ及フ。其間舟船出沒シ魚鳥浮沈ス 松島以東海涯ノ勝匹偶ナシ

手樽浦

舘崎西灣ノ奥隅漁農數家灣ニ面シテ居ル。村名モ手樽ト稱シテ大ナリ。 松嶋ヨリ舟ニテ富山ニ遊フニハ。多ク此ノ浦ニ泊シ。又箕浦ニ宿泊ス。東北ハ富山ニ至リ。西南ハ高城・石磯ニ界ス。浦前灣大ニシテ口小。其内洲崎錯列シテ名狀スヘカラス 而シテ浦上ヨリ之レヲ觀ルニ。其奇ヲ覺ユス。浦東ノ阪路上

俯シテ灣上ヲ望メハ。一瞬遺スナシ。余此阪ヲ經ル毎ニ。未タ曾テ賞觀時ヲ移サンハアラサルナリ。而シテ阪本ト名ナシ。余之レヲ名クル所以ヲ思ヒテ未タ得ス。嘗テ同志ト三四人ト之レヲ過ク。各々草ヲ藉キテ坐ス。余摺扇ヲ取リテ矚スル所ヲ指揮シ。盛ンニ其奇ヲ稱ス。同志曰ク。子摺扇ヲ持シ灣面ヲ指ス。其狀宛然手撥ヲ執リテ四絃ヲ拂フカ如シ。請フ此阪ヲ目ケテ琵琶ト曰ハント。余曰ク善シ。即チ之レヲ士人ニ告ケテ之レヲ知ラシム　而後阪ノ名稱定マル。

錢神。

手樽浦漁家ノ東數里ニ在リ。民屋兩三戸。蕭條幽僻ニシテ田ニ耕シ海ニ釣リ。宅ニ桑シ山ニ樵ス。諸物具足シ他ニ求ムルヲ待タス。而シテ錢神何ノ尊ム所ニシテ稱ト爲スヤ。憶フニ古ヘ窮褒ノ俗。世ヲ此ニ避クルカ。士人或ハ錢龜ト稱ス。神龜國音近シ故ニ訛ル。或人曰ク。方俗蛇ヲ以テ貨神ト爲ス。夢ミル者必ス貨財ヲ得。此ノ地近ク蛇道ニ對ス。因リテ錢神ノ名アルカ、

猿林

錢神ノ東地海ニ入ルモノ里餘。是ヲ猿林ト曰フ。松樹羅列松島前海ノ島嶼上ヨリシテ。遠ク之レヲ望ムモ亦奇觀ナリ。林前崎アリ蛇ガ島崎ト曰フ。因リテ名ヲ得タリ。崎ハ則チ手樽浦前灣口ノ東岸。舘崎ト相對スル者。崎東小灣隅ノ小林猿林ト相接スル者。小猿林ト曰フ。林ノ盡クル所崎アリ。白濱崎ト曰フ。腹ニ洞アリ數十人ヲ容ル可シ。祠前大白小白ノ二洲アリ。崎東小灣ヲ隔テ相對スル者ヲ、名古曰ノ浦ト爲ス。其灣奥ヲ胡桃澤ト爲ス、

名古曰浦

猿林ノ東ニ小灣ヲ隔ツ。而シテ地愈々海ニ入ル。其地盡ル處是ヲ名古曰ノ浦ト曰フ。漁農十五六戸。左右ニ崎アリ。右ヲ小舘崎。左ヲ天王崎ト曰フ。右崎ニ堂アリ。中ニ羽州三山ノ祠アリ。浦民香ヲ三山ニ進

ムル者。先ツ堂中ニ在リ。齋戒シテ後ニ行ク。左崎ニ牛頭天王庿アリ。崎東ハ則チ月星ノ二島アリ。

箕浦。附早川。

名古曰天王崎ノ北灣形箕ノ如シ。故ニ名ヲ取ル。土人或ハ三ノ浦ト作ス。天王崎陰ヨリ。灣涯ニ緣リテ西ニ行ク里餘。農屋アリ是ヲ新田ト曰フ。蓋シ潟鹵ヲ以テ水田ト爲シ。新ニ農戸ヲ置ク。故ニ新田ト稱ス。又西行數百歩早川ト曰フ。又タ長堤ヲ作リ灣奥ヲ田ト爲ス。凡ソ松島ヨリ舟シテ富山ニ至ル。一ニ手タル浦ニ着キ一泊ス。此浦陸ヨリスレハ則チ手タル浦ヨリ。直チニ此浦ニ至ル。其間僅ニ里餘。浦ノ西北細徑ヲ取リ行クコト三里許リ。始テ富山西南麓ニ達ス。

蒲地。

早川ノ東ニ在リ。漁農アリ兩家。以下呼子崎ニ至ル皆箕浦東北涯ノ地ニ在リ。矚眺各奇趣アリ。

平尾洲。

蒲地ノ東ニ在リ。一農家アリ。洲ノ東潟鹵ノ南スル所。名古曰新田ニ對ス。

廣浦。廣澤。

平尾洲ノ東小灣ノ所是ヲ廣浦ト爲ス。浦ノ背ヲ廣澤ト曰フ。又タ廣浦澤ト稱ス。此際北富士ヲ頭上ニ仰クコト在リト云フ。

圓山。

廣浦ニ在ルナリ。山至テ小而シテ眺望甚タ奇ナリ。

古浦

廣浦ノ東ニ在リ。古一ニ振ルニ作ル。亦國音ノ訛。漁農兩三家。山ヲ後ニシ海ヲ前ニシ水田ヲ左右ニス數百頃。長仲總ノ樂志想フ可シ。

石浦。

古浦東ノ山背ニ在リ。海水山間ニ入ル者里餘。潮退ケハ則チ潟トナル。故ニ古浦ヨリ大塚ニ往ク者。其時ヲ候ヒ以テ捷徑ト爲ス。若シ大塚ヨリスル者ハ。浦北山上ヨリ潟ト爲ルヲ俯視シ。而シテ之レヲ過

クヘカラサレハ。則チ浦ノ後ノ山上富山路ニヨリテ。南小岐ヲ取リ古浦ノ人家ノ背ニ出ツ、而シテ石浦ノ捷徑ニ比スレハ、則チ大ニ紆回ス。

呼子崎。

石浦以東ノ地。東ニ走リテ海ニ入ル里餘。是ヲ呼子崎ト爲ス。一呼聲崎ト稱ス。土人或ハ名ケテ呼崎ト稱ス。崎ノ西遠ノ名古日浦ニ對ス。其間ノ大灣矚眺殊絶。崎南ノ壁下洞穴數口アリ　土人之レヲ蝦夷穴ト稱ス。曰ク。古昔蝦夷居ル所ノ洞ト。或ハ曰フ。文應中天台ノ僧徒、松島ヲ逃レテ而シテ來リテ玆ニ居ル。未タ孰レカ是ナルヲ知ラス、崎前島アリ松賀島ト爲ス。

長山崎。

呼子崎東北ニ一崎アリ。長山崎ト曰フ。兩崎間相距ル纔ニ里餘。之レヲ七十里濱ト稱ス、何ノ義ヲ取ルヲ知ラス。崎陰ハ即チ大塚ナリ。

富山。

松島ヲ距ル十二里。寅ノ方ニ在リ。一富ニ作ル山アリ。相傳フ。西望或ハ時ニ富嶽ヲ雲間千余里ノ外ニ見ル。因テ名ト爲スト、或ハ曰フ、勝ニ富ムヲ謂フナリト。所謂鹽松環海四山ノ一是ナリ。山麓農家八九簇ヲ爲ス。山下ヨリ麓ニ至ル磴道數百盤、喬杉老檜晝猶晦シ。巔ニ大悲閣アリ、相傳フ、大同中、阪將軍東征ノ日。觀音三像ヲ以テ之ヲ三勝所ニ置ク。世稱スル所ノ三觀音。所謂牧山・箟岳・此地是ナリ　或ハ曰フ、阪將軍賊首大竹丸ナル者ヲ誅シ、其頭ヲ埋メ閣ヲ其ノ上ニ建テシト、閣中又阪將軍ノ塑像ヲ置ク。像ハ戎服馬ニ騎ル、是未タ何人ノ置ク所ナルヲ詳ニセス。夢庵松島記ニ曰ク。承應甲午、天麟尼君。富山觀音堂ヲ興營ス。閣ノ四面ハ樹木蔭蔽見ル所ナシ。閣後路アリ、當ニ小野驛石港諸境ニ出ツヘシ。閣前下ル數步磴ノ東側ニ門アリ。扁シテ大仰寺ト曰フ。巡覽記ニ曰ク、額アリ富山大仰寺ト曰フ。高泉筆。寺ハ寛文中。松島瑞巖ノ僧。洞水老後隱棲ヲ創ス

ル處タリ。世或ハ僧雲居ノ創建ト謂フハ誤レリ。寺前庭上南面俯臨スレハ。所謂松島ノ勝ハ全ク富山ニ在ルモノナリ。乃チ庭ノ觀ル所。鹽松環海合抱ノ中ニ在リ。左肩ニ當ル者ハ、寺後ノ山樹遮蔽意ヲ以テ之レヲ度レハ。則チ應サニ石港ヨリ金華ニ至ルヘキノ地ナリ。肘ニ當ル境ハ、則チ白練ノ洲闘瀨ノ由。以テ宮戸ノ諸島ニ至ルヘシ。南折指頭ニ及フ者ハ。寒風澤・嚢納島・桂島諸區ト爲ス。右肩ハ則チ高木驛・石磯、肝衡ハ則チ松島而シテ鹽浦ハ則チ伏シテ見エス。肘ヨリ次第シテ指頭ニ至ル、則チ嶼ケ崎ナリ、吉田ナリ。鼻節ナリ。遠クシテ松浦・水門ノ諸濱、益遠クシテ相馬岩城ノ諸山ナリ　其近クシテ顯下ニ列スルヲ手樽ト爲シ、名古目ト爲シ箕浦ト爲シ、古浦濤崎ト爲ス。　門川タル汀渚ニシテ環海ノ中ニ犬牙シ、島嶼錯峙舟船呼フ可シ。夫ノ四時變幻晴雨轉換、怒風笑烟ノ趣ニ至リテハ、則チ言語ノ能ク及フ所ニ非ラサルナリ。故ニ其景ニ題シテ妙勝ト曰フ。嘗テ之レヲ寺主ニ聞ク曰ク。天氣清朗日虞淵ニ逼ルノ時、偶々富岳ヲ鹽浦ト嶼崎トノ間ニ見ル。千余里ノ外一點ノ青色烟ノ如シト云フ。遊フ者初メテ巓ニ登ル矚ル所ナシ、以テ世ノ勝ヲ言フモノ、妄ト爲ス。後チ寺ニ入リテ絕勝ニ俯ス。頓ニ仙境ニ至ルカ若シ、憮然自失ス。寺ノ側ニ小庵アリ。松下庵ト曰フ。乃チ洞水壯年四方ニ遊ヒテ歸ル。福浦島ニ居ル四年。後チ此ニ遁レ草庵ヲ營ム。居ル十年後チ起チテ瑞巖ヲ掌ル。老後大仰寺ヲ創ス。夢庵松島記ニ曰ク。洞水十年歸ラサルノ誓ヲ發ス。潜ニ富山ニ入ル、蘆ヲ結ヒ屏居紅塵ヲ踐マス。白雲ニ長臥シ氷懷雪慮。孰レカ其ノ趣キヲ知ランヤ。封内風土記ニ曰ク。青山公嘗テ富山ニ遊フ、洞水ノ草庵ヲ訪フ、乃チ和歌ヲ賦シテ之ヲ與フ曰ク、

海山の眺もよきや柴の戸のさすかに高き松の下庵

洞水酬フ曰ク。

海山のあかぬ眺を忘れすは復來ん折を松の下庵

後僧西山修營シテ居ル。青山公嘗テ西山ト。某ノ日ヲ約シテ駕ヲ枉ク。庵ヲ訪フノ期ニ至リ公他故アリ。因リテ期ヲ延ハスノ命アリ。西山曰ク。僧ト期シテ逢フハ何ンソヤ。夫レ僧ノ世ニ住ムヤ。石上ノ坐樹下ノ宿。奚ソ明日ヲ待タン。因リテ國風ヲ賦シテ曰ク。

花も實も明日白雲の浮身にて何重ねてと松の下庵

又一首ヲ賦シ。庵扉ニ題シテ曰ク。

あくかれて我は出ぬる柴の戸に月こそ我に入り代りぬれ

即チ出テ、京師ニ之ク。西山和歌ヲ善クス。朝紳爭ヒテ交接ス。又西山松下庵ニ在ルノ日。詠スル歌トテ。

露の身の有か無かの置ところそれにも風のさはる世の中

送ニ奥僧大潮東歸一　　物　茂　卿

問君歸去與雲遊。風雨蕭々五月秋。爲問富春山下客。只今猶自着ニ羊裘一。

客ハ富春叟ヲ云フ。東都人。嘗仕ニ柳澤侯一諫不レ聽。後改ニ富逸字白休一號ニ春叟一。致レ爲レ臣而去。隱ニ奥州一後住ニ伏見一。

富山。　　田　省　吾

擔（擔一作提）一瓢尋訪海門東。蓬萊寥々如レ御レ風。渺々水天帆鳥外。雲房烟舍一望中。

同　　紀　德　民

白雲高踏梵王樓。萬點晴分松島秋。初信秦皇遥問レ藥。大東元自有ニ瀛洲一。

上ニ富山一。　　倉　成　奚

窮搜恐レ有レ遺。狂走如レ無レ及。捨レ舟上ニ富山一。千島遥相揖。

同望ニ金華一　　同

千山爭泛海波間。山盡雲烟又泛レ山。山吐ニ金華一搖ニ海

日霞標閃出玉容顔。

登富山。　釋古梁

松洲輿盡未云歸。更上富山俯翠微。列嶂若茫籠宿霧。春潮蕩漾盪朝暉。數帆接影霞間出。群島如麋鏡裡飛。濤世無人踏東海。臨風絶頂振征衣。

又　同

高攀鳥道歩懸巉。山頂班荊倚老杉。海運潮光搖島嶼。天低雨色壓檣帆。淸風能自洗心目。勝境頓知異聖凡。更欲揮毫題絶壁。巨靈贔負棒蒼巖。

富山精舎。　藤太仲

海東飛下小芙蓉。絶頂香臺十二重。中有霜髯高臘士。指揮如意掣游龍。

登富山　半井行藏

扁舟泛去輿堪乘。歩上富春懐子陵。起水鳥如千里霧。還山人似六朝僧。灣前鳳利歸雲覆。天外金華瑞氣凝。向夕風波搖島嶼。或疑白石作羊輿。

其二

海西岳々富春峯。不識登行幾萬重。座石平臨千賀浦。隔烟遥聽一聲鐘。古木聳邊鳴白鶴。彩雲垂處睡蟠龍。已生天際眞人想。欲逐巖頭羽客蹤。

富山峯　同

富嶺千尋試一攀。海天東秀金華山。誰知羽客居峯上。下咲吾曹屈世間。

暮下富山。入高樹山路山缺處。望松島因賦。　同

日落山頭烟霧披。遥看松島聚灣陲。水雲出沒三千點。疑是仙人圍奕棋。

水月井。

大仰寺門下數歩ノ礒側ニ在リ。水甘洌大旱純波匱シカラス。富春山又富山ニ遊フノ記ニ曰ク。井アリ圓徑六七尺。澂淸。鬚眉ヲ鑑スヘシ。老藤相纏リ蜿蜒ス。井上ニ離ルコト一丈餘。土人相傳フ。水月大士淨瓶中流シ瀉ク所ノ處。井ヲ距ル十歩乃チ寺門ナリ。

松崎慊堂遊東陬錄ニ曰ク。阪道急峻小半里。渴極ツ

テ井ヲ得。汲テ飲ム甘洌ナリ、余戯テ雲居井ト曰フ。

雲液池。

水月井戸ノ下數十歩ノ磴側ニ在リ。

安禪谷。

富山ノ北陰ニ在リ。大ナル樅ノ木ノ下舊ト板屋アリ方丈許。坐禪堂ト名ク、數年前ノ土橋今ニ其遺礎ヲ存ス、昔シ僧洞水寂坐ノ處ナリト。土人因リテ名ト爲ス。

晦谷、

安禪亭下ニ在リ此際ニ四谷アリ。總稱シテ晦谷ト曰フ。土人或ハ闇黑澤ト名ク。谿深ク樹密ニシテ幽冥闇黑、古來人跡未タ嘗テ至ラサルノ地ナリト。土人曰フ。大仰寺ノ僧谿ノ樹ヲ伐ラント欲ス。樵夫數人谿口ニ宿ス、其夜衆ノ怪妖露ハル、最後忽チ大聲アリ、左右ニ發ス。天崩レ地裂クルカ如シ。衆懾伏敢テ起タス。曉ニ向テ咸ナ逃ケ歸ル。事遂ニ止ム。或ハ傳フ、溪中温泉湧ク、近歳藥草ヲ採ル者アリ偶々路ヲ失シテ溪中ニ入リ。温湯ノ岩足ニ沸湧スルヲ見ル。乃チ澡洗シテ歸ル。後チ數人ヲ率テ之レヲ尋ヌ遂ニ復タ獲ス。

濟興寺、

富山北麓、阜上ニ在リ、相傳ヘテ古刹ト爲ス、何人ノ創建ナルヲ詳ニセス。廢スル久シ。正保中。僧仲叟再建シ。松島瑞巖寺ニ隷ス。而シテ富山大仰寺歷世僧退隱ノ處トス。蓋仲叟ハ僧洞水ノ法子ニシテ忠首座ト稱ス。寺ノ東北田疇多シ。農家處々簇ヲ爲ス。是ヲ畑中ノ里ト謂フ。村ヲ上下堤ト曰フ。此ヨリシテ東北ヲ桃生郡ト爲ス。

青松庵趾。

上下堤村ニ在リ。其地ハ追考ヲ俟ツ 松島瑞巖落成移シテ枝院ト爲ス。此地今遺趾ヲ存ス。（上下堤可考ニ干地圖。）

越地藏。

畑中里ノ東ニ在リ小嶺アリ是ヲ地藏越ト爲ス、上

ニ一農家アリ。

磯田。

地藏越西南ノ山間ニ在リ。土人五十田ニ作ル。一農家アリ。左右水田數頃アリ。

三蓋澤。

地藏越ノ南ニ在リ。澤中三塘アリ。水色湛然藍ノ如シ。其深サ測ラレス。各々閘ヲ設ケテ以テ澤間ノ田ニ灌ク。澤ノ南嶺上ハ則チ大塚路タリ。

第六天堂。

畑中ノ里、東北ヲ要害ノ里ト曰フ。里ノ東北ノ田間ニ小堂アリ。是ヲ第六天堂ト爲ス。其創建ヲ詳ニセス。

山岡院

第六天東北小山ノ上ニ在リ。臨濟宗ヲ宗トス、松島陽德院ニ隷ス。傳ヘ曰フ。承應三年。藩祖貞公ノ功臣山岡志摩ノ子長勝創建シ。僧洞水ヲ請ヒテ開祖ト爲スト。志摩ノ事前ノ歸命院ノ條下ニ見ユ。院中志摩夫妻ノ義像ヲ安ス

八幡祠。

山岡院ノ北ニ在リ。其創祠ヲ詳ニセス

六六藥王堂。

山岡院東北ノ山上ニ在リ。一ニ六々島ト稱ス。古昔道路ナリ。古昔勿來關ヨリ奥ノ諸郡ニ往クニ此所ヲ經。而シテ崎三十六アリ。故ニ六六ノ稱アリ。或ハ曰フ。昔シ三衞奥羽ヲ鎭スルノ日、南白河ノ關ヨリ北ハ外ケ濱ニ至ル。二十餘日程。毎里佛像ヲ置ク。(邦俗謂之一里佛。)毎丁浮圖ヲ建ツ。面圖現金色彌陀謂之一丁佛。)又白河關ヨリ平泉ニ至ルノ間。別ニ三十六堂ヲ建テ。各藥師ノ像ヲ置ク。之レヲ六六藥師ト稱ス。是レ其一ト云フ 未々孰レカ是ナルヲ詳ニセス。

漆崎。

六六藥王堂ノ東北ニ在リ。土人或ハ曰フ、蔦崎國音ノ訛ナリト。崎北ノ田間居民五六戸アリ。亦タ漆崎

ノ里ト曰フ。里ノ東ハ則チ揷花嶺ト爲ス。

揷花嶺。

舊ト建旗嶺ト曰フ、傳ヘ曰フ、古ヘ八幡公賊ノ爲メニ敗ラレ。已ニシテ白旗幟ヲ此ノ嶺上ニ建ツ。則チ散卒漸ク聚ル。之レヲ收メテ東征ヲ復ス、故ニ名ヲ取ル。

富山ノ北地藏越。畑中ノ里ヨリ、以テ濱崎揷花嶺ノ地ニ至リ上下堤村タリ。而シテ其左右載スル所ノ外。尙ホ數區アリ、然レトモ海濱已ニ遠ク。勝景ノ賞スルニ足ル無シ。遺跡ノ記ス可キナシ。玆ニ略ホ其區名ヲ擧ク。苟モ遺漏スルニ非ス。

愛宕祠。古壘傳曰古提氏所居。飛行壇。愛子

清水澤。小低。水越。小池。宮田。平崎。

長者平、産生崎　日當。萩窪。加布綫。

福澤。富澤　五輪澤。

右愛宕祠ヨリ五輪澤ニ至ル。十有八區。五輪澤ニ在リ。上下堤村ニシテ余未タ之レカ地ヲ探索セス、玆ニ其ノ名ヲ擧ケテ以テ他日ノ考ヲ俟ツ

朽木橋。

揷花嶺東北、田間ノ小圯是ヲ朽木橋ト爲ス　橋畔ノ水田ヲ盥ト曰ヒ・案ト曰ヒ・鑑ト曰ヒ。皆地勢蒲勝ニ隨ヒ圖術象ヲ成ス、其名ノ如シ。橋北ノ居民雨戸地ヲ長澤ト曰フ。長澤ヨリシテ東北ヲ淺井村ト爲ス、

長音寺。

朽木橋東南ニ在リ。曹洞禪ヲ宗トス　志田郡中ノ目村萬年寺ニ隷ス、傳ニ曰ク。應永二十三年、僧良秀（林翁）開建スル所、門左ニ塘アリ、左右山間ノ田ニ漑ク

道祖神祠。

長音寺ノ東南ニ在リ。祭ル所猿田彥命。一ニ幸ノ神ト稱ス。何ノ時置クヲ詳ニセス。傳テ以ア古祠ト爲ス。祠南ノ細徑富山ヨリ大塚ニ至ルノ路。此ノ際皆山々咸ク毙。往々眺望美ナリ。

古壘。

道祖神祠ノ東北ニ在リ。祠ノ東ノ地矢上ト曰フ。居民南戸アリ、矢上ノ北隆キ阜アリ。本ノ淺井舘ト曰フ、後チ改メテ三分一所宗景ノ居城トナル。宗景ハ深谷義景ノ家族月鑒ノ子。(月鑒即義景之正胤此爲家族者謬矣。)是ヨリ先キ月鑒小野城ニ在リ、其莊ヲ三分ニス、(深谷莊小野鄕此爲小野莊謬矣。)三子ヲシテ之ヲ領セシム。其一淺井邑二大手邑。(地即在壘西)三神丘邑。(地在野蒜村。一作龜岡)鄕籍ヲ考フルニ、則チ大手神岡共ニ邑名ニ非ス、乃チ村中ノ小名ナリ。是ニ於テ平氏ヲ更メテ三分一所ト曰フ。土人傳テ曰フ。壘ハ古昔淺井氏居ル。因リテ淺井舘ト稱ス。村名モ亦タ此ヲ取ルナリ。或ハ曰フ古建保中。鎌倉ノ亂ニ和田一族滅亡スルヤ。三郎義秀(號朝夷奈三郎)遠ク此ニ遁レ姓ヲ變シテ淺井ト稱ス。此壘ハ則チ義秀ノ築ク所ト。阜上八幡神小祠アリ。亦古壘西南民屋地ヲ追手ト曰フ。(今作大手而追大國訓近故訛。)邦俗城壘ノ前門ヲ追手。後門ヲ搦手ト曰フ。此レ古城門ノ地ナリ。

觀跡聞老志曰、三分一所。在淺井村。是則三分一所宗景居城也。宗景。乃深谷義景家族月鑑之子。谷本景重之兄也。先是月鑑在小野城。兄弟各三分小野莊而領之。其城凡三區、其一淺井村、其二大手村。其三上岡村。於是曰三分一所。此地以領小野莊三分之一而名之。永井月鑑。一作長江月鑑。谷本一作矢本。

伊達舊臣傳記曰。長江播磨勝景。初晴清入道月鑑齋。鎌倉權五郎景政之曾孫。長井太郎義景之後也。文治已酉。源右將。以桃生郡深谷莊。封義景。義景世居小野村。至月鑑齋。三分小野莊。居三子。月鑑齋。反貞公。而通最上。見誅。

櫃石。

古壘ノ北水田ノ中ニ在リ。大サ丈許形ヲ以テ名ヲ取ル。土人傳ヘ曰フ。古ヘ朝比奈三郎。此石ヲ扛ケテ以テ我力ヲ試ムト。

藥師堂。

櫃石東ニ在リ、何人ノ創メシヲ詳ニセス、北ニ一農家アリ、地ヲ石田ト曰フ。石田ノ北ヲ川下村ト爲ス。

躍坂。

淺井村ノ南ニ在リ、一ニ舞踏坂ニ作ル。阪ノ南ハ即チ大塚濱トナス、

熊野神祠。　神明祠。　荒神祠。　太子堂。

右四區淺井村ニ在リ。追考ヲ俟ツ。

人入。　胡桃。　山田。　小西。　清水澤。　大栗。

日陰。　小濁。　塚丸。　熊入。　舟石。

右十一區名淺井村ニ在リ。追考ヲ俟ツ。

大塚濱。

富山ヲ距ル東五里餘。呼子崎ニ在リ。長崎東北濱ノ地形タル。山ヲ後ニシ海ヲ前ニス。漁農百許家街巷縱横。中巷ト曰ヒ横巷ト曰ヒ。西巷ト曰ヒ東巷ト曰フ。國初以來驛傳ヲ置ク。土人曰ク。地舊ト王塚ト名ク、濱ニ古天子ノ陵アリ。故ニ取リテ名ク。而シテ王大國訓近シ故ニ訛ル。蓋シ此地古塚アリ。凡ソ十有六。而シテ濱ノ東頭山上ニアル者之ヲ王塚ト謂フ。塚最大ナリ、其高サ二丈許。上坦平ニシテ數歩、三松樹アリ、土人或ハ誤リ。古天子ノ陵ニシテ。人汚セハ必ス神譴アリト謂ヘリ。　其西相距ル數十歩阪路アリ、舞踏阪ト曰フ、阪上ノ路傍二ツノ塚アリ。云フ是レ妃嬪ノ墓ト。阪下ニ一ノ塚アリ。鼠塚ト曰フ。特リ何ノ名タルヲ知ラサルナリ。濱ノ西ニ不動アリ、廟背十二ノ塚アリ。　其中大ニシテ松樹四五株アル者ヲ崩塚ト云フ。古天子此ニ在シテ崩ス。故ニ名ツク。或ハ皇子塚ト云フ。即チ皇子ヲ葬ムルノ處ト。未タ其孰カ是ナルヲ知ラス、　其他ハ則チ塚小ニシテ松樹アル者五。皆左右臣僚ノ墓ト云フ。

鏡神社。

大塚濱背上ノ山ニアリ。古鏡ヲ以テ神體ト爲ス。鏡ハ相傳テ古天子供御ノ器ト爲ス。　而シテ常鏡ニ異ナリ、圓形亘リ尺餘。兩鐶アリ以テ掛ケスヘシ、一像

ヲ鑄シ。冕シテ坐スル者。帽シテ后妃ノ如キモノ。各蓮花ニ坐シ。製作精緻銅色瑩潤信ニ古物ナリ。余初メ視テ以テ背紋藻花ニ換ルニ。人物ヲ以テスル者トナス。而シテ熟察スレハ。則チ背面ニ非ルナリ。因テ謂ラク。是照物ト爲シテ設クル者ナラムト。土人ノ所謂古天子ナル者。其考妣ノ神像ヲ鑄テ。之ヲ尊崇奉祀スル者ナリト。祠下人家背ニ道士ノ家アリ。化藏院ト云フ。祀事ヲ掌リ。其家ニ古文書及刀劍諸器物ヲ藏ス。皆古天子ノ御物ナリ。而シテ數十年前災ニカヽリ一物ヲ存スルナシ。

不動明王廟。

化藏院南山上ニアリ。不動ハ石像高サ五尺餘。何人ノ製スル所ナルヤ詳ナラス。靈威アリ。土人曰ク。像本濱東小東濱ニ在リ。商舶アリ海上ヲ過ク。颶ニ値フテ將ニ覆沒セントス。之ニ加フルニ雲霧晦冥向フ所ヲ知ラス。船中不動ヲ信仰スルモノアリ。一身稱名ヲ唱フ。時ニ岸上光アルヲ見ル。其狀火船ノ如シ。就テ視レハ石像ナリ。舉船之レヲ奇トス。乃チ相謀リ一船載スル所ノ貨物ヲ捐テヽ。廟ヲ茲ニ移營ス。其上梁ノ日。一匠人暴カニ僵ル。衆驚キ之ヲ救護ス。少時ニシテ蘇生シ曰ク。大人アリ至リ叱シテ曰ク。何ヲ以テ身ト役トヲ穢スト。則チ一擧毆倒セラルト。衆愈之レヲ異トス。廟成テ像ヲ移ス。愈重クシテ擧ル能ハス。數夫ヲ加フ愈々重シ。衆共ニ相懲戒ス。一夫不潔者アリ。之レヲ去ラシム。則チ輕ク擧ル。衆愈々益々神靈ト爲シ。遠近相傳禱請斷ヘス。廟前ノ矚眺亦タ佳ナリ。東灘・宮戸及鳳・桂ノ諸島。海ヲ隔テヽ相對ス。

洞安寺。

化藏院ノ北ニアリ。曹洞禪ナリ。本邑足蹤院ニ隷ス。寛永二年八月。僧全嘉開建ナリ。

足蹤院。

大塚濱西北山中ニアリ。元和九年。僧著室刹ヲ建ツ。土人曰ク。此地曾テ巨人ノ蹤アリ。故ニ取テ寺號ト

爲ス。山名亦タ巨八ト呼フ。

大東澤。附小東澤。

大塚濱ノ東是ヲ大東澤ト爲ス。灣形屈曲山間ニ入ルモノ里許。灣東小山ヲ隔テ、又一灣アリ。之レヲ小東灣ト曰フ。土人曰ク、大塚不動像ハ舊此灣ノ東岸ニアリ。其基石今猶ホ存ス。

杉間灣。

小東澤東ニアリ。灣口ヲ鶴翼口ト云フ。水中石アリ名ツク。形鶴ノ翼ヲ張リ。將ニ飛ントスルニ似タリ。而シテ常ニ僅カニ其背ヲ見ル。退潮ケハ則チ全形ヲ現ス。灣名ノ因テ起ル所以ナリ。大塚ヨリ白練洲東灘ノ諸區ニ往ク。是ヲ捷徑ト爲ス。鶴石ノ傍又一大石アリ。水底ニアリ。亦鶴ニ似タリ。春潮大退潮ノ時ニ非サレハ見ルヘキナシ。土人鶴根ト稱ス。

白練濱。

一ニ曝練洲ニ作ル。大塚濱ヨリ鶴翼口北ヲ左ニシテ。地勢南走シ。直チニ海上ヲ横斷スル四五里。廣サ百餘歩。地皆白砂其上ニ翠松羅列シ。其地ノ窮マル所ヲ丸山ト爲ス。而シテ東大洋ト爲ル淘濤踰ヘス。而シテ西南鹽松環海。波澄黛蓄淡治相得テ以テ此洲アルナリ。古老曰ク。數十年前洲上ノ松樹甚密ナラス。白沙皓潔數百丈ノ縞練ヲ曝スカ如シ。故ニ白練洲ノ稱アリ。土人或ハ長洲ト名ツク。洲ノ窮ル處ハ則チ東灘タリ。

東灘丸山。

一ニ東那ニ作ル。又唐那或ハ闘灘山アリ丸山ト云フ。突然拔起シ而シテ山巓双峯ヲ爲ス。故ニ土人雙頭峯ト曰フ。山上ニ鹽神ノ小祠アリ。此近歳鹽場ヲ開ク日置ク所ナリ。土人又鹽神山ト稱ス。山上四望共ニ奇絶。西南ハ環海ニ俯シ。東北ハ金華、石港諸山ニ對シ。鹽松四山ノ外殊ニ異景ニ富ム。此山ヲ以テ最トナス。或曰ク。洲ノ東北波浪常ニ惡ク。此山アリテ之ヲ禦ク。故ニ闘灘ノ稱アリ。山下ノ東北漁家鹽戸數十相連リ巷ヲ爲シ。巷東廣斥鹽田ヲ置ク。側ニ

碑アリ。鹽場ノ由來ヲ記ス。文長シ故ニ載セス。近來山西ニモ新場ヲ開ク。鹽戸一百餘ヲ置ク。鹽場ノ東南宮戸島北。龍ケ崎ニ對シテ其間海口ト爲ス。廣サ僅カニ數百步。潮汐奔突東ヨリ來リ。丸山下ニ至リテ歛蹙ス。且宮戸島ニ濟ル者。龍ケ崎ハ舟船ノ寄スヘキナク。又道路モナシ。故ニ藥王廟下及里濱ニ寄ス。先遊者曰ク。白練ノ一洲ハ其奇以テ丹ノ天橋ニ敵スルニ足ル。又曰ク。若シ矚勝ノ廣且繁ヲ以テスレハ。則チ踰遠ナリト。余曾テ月夜松島ヨリ東灘ニ泊シ偶々僧希彥天ノ詩ヲ憶フ。曰ク。

碧海中央六里松。天橋絕境是仙蹤。夜深人待龍燈出。月落文珠堂裡鐘。因テ數字ヲ換ヘ朗吟シテ曰ク。

横斷滄溟數里松。練洲絕境是仙蹤。夜深船泊丸山下。月落藥王廟裡鐘。一船爲ニ數盃ヲ侑ム。今ニシテ爾時ヲ追憶シ。光景宛然トシテ目ニアリ。

罵逃崎。

丸山西南足ニアリ。是内外海風吐吸ノ處常ニ疾風多シ。漁人舟子過ル者且逃レ且罵ル。故ニ名ヲ得。

稻荷神祠。

白練洲ノ北山下ニ小祠アリ　何時之レヲ置クヤ詳カナラス。近歲頗ル靈應アリ。祈請者多シ。祠東ニ二農家アリ。大佛ノ里ト曰フ。東地ヲ神丘トナス。

赤阪。

大佛里東ニ在リ。崎皆石々皆赭色。命名スル所以ナリ。崎上ニ小祠アリ。赤崎明神ト云フ。何神ヲ祀ルヲ詳ニセス。大佛農家前ヨリ此崎下ヲ經テ。海涯ニ沿テ東行シ。野蒜濱市ノ諸區ヲ歷テ。石港。金華ノ諸境ニ至ル。土人此道ヲ稱シテ大佛道ト云フ。土老曰ク。崎下洞穴アリ。三四十年前。波濤常ニ崎足ヲ擊ツ。餘勢洞中ニ入ル。人退濤ヲ伺テ疾走シテ洞中ヲ過ク。尤モ捷徑トナス。而シテ今ヤ海退キ陸トナル。二百餘步。洞穴亦タ隨テ埋沒ス。

五郎祠。附新山權現祠。

赤阪東北山上ニ在リ。土人相傳フ。祠ハ平權五郎景

政ナリ。故ニ五郎祠ト稱ス。古八幡公東征前後十二年。景政從テ功績アリ。遂ニ小野鄕ニ城キテ居ル。其城ヲ鶚館ト云フ。子孫相繼テ居ル。此際皆其食邑ニシテ異治アリ。民人崇敬爲ニ祠ヲ立ツ。外ニ二アリ。一ハ小野鄕。一ハ大窪村ニアリ。又タ矢本村ニ景政祠ノ跡アリ。余按スルニ。五郎ハ御靈ニ作ルヘシ。國音ノ訛ナラン。相ノ鎌倉及攝ノ大阪此祠アリ。共ニ景政ヲ祀ル。東鑑ニ曰ク。建久五年正月。御靈社奉幣八田知家爲ニ御使。是レナリ。其北一小祠アリ。新山權現ト稱ス。祀ル所大山祇神。或云桓武天皇第五女。

毘沙門堂。附南光院大佛像。

赤阪ノ東北ヲ神丘ト名ツク。一ニ龜丘ニ作ル。道士家アリ。南光院ト云フ。院前堂アリ。多門天ノ像ヲ置ク。長サ五尺許。奇石ナリ。延曆中。阪將軍東征ノ日。松島五大堂ニ置ク所。後飛去テ其所在ヲ失ス。其事松島五大島及毘沙門島條下ニ詳ナリ。而シテ何時茲ニ安スルヤ詳ニセス。土人曰ク。古漁人網シテ之ヲ海中ニ得タリ。之ヲ院東五郎山間ニ安ス。而シテ堂圮ル、ノ後茲ニ移建ス。近來復タ圮ル。今院中ニ置ク。院前山下窟アリ。石人像ヲ置ク長五尺餘。何人ノ製ナルヲ詳カニセス。

岩倉山。

毘沙門堂東ニ在リ。山下ノ海濱ヲ岩倉前路ト云フ。旁ニ二農家アリ。東山間水田數頃アリ。田北ニ塘アリ。以テ田ニ漑ク。塘西ノ山足ヲ毘沙門堂舊趾トナス。其遺礎猶存ス。

餘景濱。不老山。

岩倉山東ニ在リ。山ハ海ニ臨ミ。波濤常ニ山足ヲ打チ。洞穴ニ入リ岩背ニ灑リ。雷吼雪濺。其觀白練洲以東第一ト爲ス。相傳フ。山舊名念佛壇ト曰フ。肯山公嘗テ此ニ遊ヒ。其勝ヲ美トシテ其名ノ不雅ナルヲ惜ミ。絕勝當ニ人ヲシテ老サラシムヘシト曰フ。乃チ今名ニ更ム。山下ニ一島アリ。要害ト云フ。潮退ケハ則陸ニ接ス。土人此左右地ヲ呼テ餘景濱ト稱ス。

其勝景松島ノ餘勝。此ニ至テ猶未タ盡サルヲ謂フ、

野蒜巷。

不老山東ニ在リ村名野蒜ヲ分テ上下トナス。此ノ下ヲ野ビルトナシ、巷ヲ新巷ト云フ。居民八十餘戸。川アリ。鳴瀬川ト云フ或ハ成瀬ニ作ル。源ハ加美郡藥來山ニ出ツ四釜川ニ會シ小野驛ヲ經テ此ニ至テ海ニ入ル。海口ヲ鷄冠港ト云フ、土人或ハ土佐港ニ作ル、港涯白髭神祠アリ。土人川口明神ト稱ス。相傳フ、寛永中。邑民祠シテ祀ル。航海スル者祷祀維敬ス。祠後峭壁數仞屏風岩ト名ク。狀名ノ如シ、岩足二洞穴ヲ穿チ共ニ背ニ通ス。江北官倉囤ヲ置キ川ニ面ス。其西ニ寺アリ定林寺ト云フ山ヲ大惠ト號ス、臨濟禪松島瑞巖ニ隷ス。相傳フ。寛文辛亥ノ年。瑞巖洞水創始スト。川東ヲ濱市ト云フ。漁農五十餘戸。相傳フ、古平景政小野郷ニ居リ。此地ヲ魚市トナス。勝國ノ時ニ及ヒ廢シ今其名ヲ存ス。

鹽松勝譜卷之十一畢

鹽松勝譜卷之十二目次

嶋嶼

鹽浦左路至罩杉灣

籬島　見賀小島　尾島

蟾(ヒキ)島　蛇島　旛島

夜盜島　神釜島附檜樹島。阿島　宰相島附女御島

鷗島附葉紫島黄雀島　三小島　要害島

放馬島　馬脊島。丘子嶋　躑躅島附浪華島。琦島。美嶼島。巨舟島附問答島、兎島。雌鳩島。　潮乾島附小潮乾島

腰袋島附茶臼島　屋形島附浪淘島、掛鐘島　坐僧島

羊腹島附砧杵島、立烏帽子島。高島根。

權現島附榎樹島。小鍋島。飛雀島。太鼓島　小鼓島

沖雙子島附大黑島。小黑島。　石岩神祠附長鳴島

大島根附男子島、貝島　中島附百尋根及沖ノ島

松浦島附鳶崎及鲞嶋　御島　坐禪堂

松吟庵　妙覺庵跡　藥師堂　骨堂　賴賢碑文
見佛堂　稻荷神祠　五大堂　福浦島　毒龍庵
妙音天女祠附蕨崎蛤泉　天神坊崎附江月濱
千部島附引通　燒島附黃雀、彩書　旭日島。妙音天女祠跡。獺島。羅漢。鳥羽　鶯島　鵜島附玉巵。蛇島、博山
白濱二島　月島。星島。松賀島　夜烏島。狐守
鶴石附鶴根。龜石。知水島　北經島附沖經島
小鬪灘　大鬪灘　龜磯附赤崎根　岸ノ明神祠
中ノ明神　沖ノ明神

鹽松勝譜卷之十二

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

嶋嶼。

鹽浦左路至二翠杉灣一。

鹽浦ヨリ松島界ニ至ル十二島。（中女御島一名十二后島通計三十三島）

籬島

鹽浦ノ津頭ヲ去ルコト二里餘、一ニ間籬島ニ作ル。又笆籬ニ作ル。或曲木ニ作ル。島上竹樹蓊鬱タリ。神祠アリ。籬島明神ト曰フ。鹽廟枝祠ノ一ト稱ス。或ハ傳フ。神舊曲木明神ト稱ス。太古鹽神天降ノ時、民人穴居シテ野處ス、乃テ分テ此神ニ命シ始テ宮室ヲ作ラシム。而シテ上棟下宇巧ニ曲木ヲ用フ。是ノ故ニ其功績ヲ稱シテ神號ト爲ス。此ニ因テ又取テ名ト爲セリ。曲木國音訓籬ト同シ。故ニ古人國風皆籬

ト爲シ以テ賦詠セリ。因テ遂ニ島神號ニ易エ亦島名ニ更ム此島鹽浦ノ勝ニ於テ最奇觀ト爲スコト。猶ホ御島ノ松島ニ在ルカ如シ。故ニ古來薦紳ニ詠言スルモノ亦最多シトス。島ノ四邊ニ貝アリ。梅花ト名ク。皎潔タルコト落梅花ノ如シ。余嘗テ四五月ノ際ニ當リ初テ此島ニ遊ヒシ時。視テ以テ眞ノ花ト爲ス、而シテ島上ヲ探リタルニ一株モ無シ、再波際ニ下リ其貝タルヲ察ス。後源俊頼籬島梅花貝ノ國風ヲ讀ミ。始メテ數百歲ノ上。已ニ之ヲ賞セシヲ知レリ、若シ夫レ探勝ノ客拾掇シ去リ。諸レヲ案上ニ散置シ。或諸レヲ庭際ニ撒點シテ以テ四時ノ花ニ充ツルモ、亦奇玩ト稱スヘシ。島又竹箭ヲ出ス。其質堅厚ニシテ蠧セス。禁有リ探ルコトヲ許サス。

見賀小島。

籬島ノ東側ニ在リ。一ニ水松小島ト稱ス、嶋小ナルコト一巨石ノ如シ。相傳フ。鹽神鹽ヲ煮ルトキ。潮水ヲ此ニ取ルト因テ又潮小島ト稱ス。潮或鹽ニ作ル。

尾島。

尾島崎ノ前ニ在リ、崎ノ名本此島ニ因レリ、凡鹽浦ヨリ松島ニ至ル、此島ヲ首トナス。尾ト名クルハ松島ヨリ呼ヒタルナリ、島上ニ妙音天女祠アリ、傳ニ曰ク。其像僧正行基ノ鐫ル所ナリト。

蟾島。

籬島ノ東北里餘、崎山ノ前四十步餘ニ在リ。島形蟾蜍ノ居ルカ如シ。松島ノ人或之ヲ高麗狗島ト稱ス。

蛇島。

蟾蜍島ノ東二百四十步。蛇島崎ノ前ニ在リ。土人曰ク。嘗テ大蛇アリ島角ヲ纏ヘルコト數重。偶マ雷之ニ震フ。蛇韲粉ト爲リ。島モ亦タ崩ルヽ者半ナリト。奥州俚諺集ニ曰ク、鹽竈浦前ニ小島アリ。蛇島ト名ク。相傳フ。古大蛇アリ島ヲ纏フコト八重故ニ名ク。

旛島。

蛇島ノ東南百八十步餘ニ在リ。島崖四垂シテ旛旒ニ似タリ、故ニ名ツク。一名裸島、島ニ草木無シ。亦

苔蘚ナシ。眞ニ裸島ナリ。

夜盗島。

膝島ノ東北六十餘歩ニ在リ。古盗夜鹽浦ノ神釜ヲ帰舟ニ載セテ去ルトキ。此ヲ過クルニ及ヒ手足痿痺シテ起ツ能ハス。乃釜ヲ海ニ投シテ去ル。島因テ此ヲ取テ名ク。

神釜島。附檜樹島。阿島。

夜盗島ノ西北三十餘歩。神釜淵ノ側ニ在リ。島形釜ニ似タリ亦奇ナリ。檜樹島ハ神釜島ノ西翠杉灣中ニ在リ。阿島ハ檜樹島ノ西北赤崎ノ前ニ在リ。一名阿字島。形梵文阿字ニ似タリ。故ニ名ツク。

宰相島。附女御島

夜盗島ノ南ニ在リ。此際紫禁女御ノ兩島有リ。則宜ク宰相ノ島アルヘシ。命名セル所以ナリ。女御島ハ宰相島ノ北ニ在リ。一ニ皇后島ニ作ル。又侍嬪島ニ作ル。小島十二相列シ。恰モ婦人巾幘ヲ被リ宮掖ニ朝スルニ似タリ。島嶼中最奇ナル者ナリ。(鹽浦ヨリ右踏嶼崎前海ニ至ル二十島中。三小島一名三島。通計二十二島)

鷗島。附葉柴島。黄雀島。

鹽浦尾島ノ東南。鷹巣灣口ニ在リ。近歳土人堤ヲ作リ灣口ヲ杜キ水田ト爲ス。堤此シマニ據テ築ク故ニ陸ニ接ス葉柴ハ尾島ノ東ヲ距ル里ニシテ近シ。葉柴崎ノ前ニ在リ。土人曰ク。島舊崎鼻。而シテ近歳崩壊シ中間斷絶シテ陸ト成ルト。黄雀ハ葉柴ノ南東藤樹崎ノ前ニ在リ。

三小島一名三島。

黄雀島ノ南。大木戸浦ノ前ニ在リ。一ニ美豆小島ニ作ル。土老曰ク。古三小島有リ。相並テ崩壊シ。今其一ヲ存シ。其名ヲ存ス。蓋シ美豆ハ即チ三ノ國訓。古人國風ニ賦スル所ノ美豆小島ト云フ。國風ニ小黒崎ヲ以テ之ニ連詠ス。所謂小黒崎ハ即チ尾嶋崎ノ西ニ在ルモノ是レナリト。而シテ其説或ハ然ラン。今的證無レハ考フ所無シ。

要害島。

三小島ノ東南二百步許。要害灣中漁家ノ前ニ在リ。島陸間纔ニ六七步。數十年前其ノ間塞リテ陸ニ接ス。

放馬島、

三小島ヲ距ル東三里餘。嶼崎前六十餘步ニ在リ。一名神馬島。或ハ青海島ト稱ス。又青崖ニ作ル。鹽浦島嶼中最大ナル者ナリ、東西二里許南北百餘步。上ニ田圃數十頃有リ。嶼崎濱民菜蔬ヲ此ニ給ス 傳ニ曰ク、太古經津主。武甕槌。岐神ノ三神。天孫ノ命ヲ奉シテ東征シ。陸奥國ニ至ル、蝦夷來リ降リ率キ從ハサル莫シ 乃馬ヲ此島上ニ放チ。天下服セサル者ナキヲ示ス 島因テ名ト爲ス。或曰ク。鹽神駕スル所ノ龍馬ヲ放チタリト。島幽邃淵寂ナリ。昔僧雲居瑞巖ニ在ルヤ。時々此ニ遊ヒ修觀ノ處ト爲ス。或曰舊浮島ト稱ス。古人國風ニ賦スル所是レ也ト。然レトモ浮島ハ別ニ鹽浦ノ西南ニ在リ。其地歴證有リ、此島ニ非ルヤ明ナリ。異說ノ來ル未タ詳ニセサル所也。

馬脊島。附丘子島

放馬島西南側ニアリ。丘子島ハ馬脊島ノ南側ニ在リ。乃チ嶼崎ヲ距ルコト三十餘步。

躑躅島。附浪華島。琦島。美嶼島。

放馬島ノ前五六十餘步ニ在リ。島ハ大洋潮汐ノ衝ニ當リ。波濤奔リテ岩石ニ觸レ、洞穴ニ錯礫スルノ奇。名狀スヘカラサル也。近歲土人島ノ西角ニ於テ、地藏石像ヲ安ス。浪華島ハ躑躅島ノ東數步ニ在リ。此際濤沫常ニ華ノ如シ。故ニ名ク。琦島ハ放馬島ノ東南ニ在リ。呼テ崖高遠倉ト曰フ。美嶼島ハ琦島ノ東ニ在リ。之ヲ沖高遠倉ト稱ス。

巨舟島。附問答島。兎島。睢鳩島。

美嶼島ノ東北ニ在リ。一名不毛島。東北千島。地藏二島ニ近シ、二島ハ後ノ桂島ノ部ニ見ユ。問答島ハ。美嶼ヲ距ル北二百步。放馬ノ東南兎島ノ隅ニ在リ。狀兎頭ヲ縮メテ踡踞セルニ似タリ、睢鳩島ハ兎島ノ

西ニ在リ。島邊雎鳩多シ。因テ名ク一名建帆ト呼フ。

潮乾島。附小潮乾島

雎鳩島ノ東北ニ在リ。島邊海淺クシテ潮退ケハ則斥鹵トナル。故ニヒツケノ名有リ。或ハ放火島ト稱ス。蓋方言乾ノ甚シキヲ謂テ乾ト云フ。付國音放火ト同シ。故ニ此轉訛ヲ致セシナラン。島邊アサリ貝大ニシテ味美ナリ。小潮乾島ハ潮乾島ノ南ニアリ。二島相並フ故ニ小ト洋ト之ヲ別テ稱セリ。

腰袋島。附茶臼島。

潮乾島ノ東北ニ在リ。上禿ニシテ潮乾島ニ近シ。故ニ七人僧乾島ト稱ス。（六帖鑽鑰佩墜部本草皮腰袋。）茶臼島ハ潮乾ノ北ニ在リ。宛然茶臼ノ形ナリ。（打鐘等諸島後ノ桂島ノ部ニ見ユ。）且南直ニ巨舟島ヲ指ス。七人嶼崎島海界標ト爲ス。

島嶼。

鹽浦ノ路嶼崎前海ヨリ南西。青松濱前ニ至ル。二十有五島。中沖繹生島一名二島。通計三十六島。

屋形島。附浪淘島。掛鐘島。坐僧島。

嶼崎島ノ前ニ在リ。七人前島ト稱ス。浪淘島ハ屋形島ノ南東ニ在リ。一ニ百合島ニ作ル。吉田濱民之ヲ大鍋島ト曰フ。掛鐘島ハ屋形ノ南ニ在リ。七人一ニ賭金ニ作ル。或曰濱民金ヲ賭テ游泳ヲ試ミ。汀渚ヨリ此島ニ及フ者能ク金ヲ得タリ。因テ名ト爲ス。（藤秀衡水戰ヲ習ヒ鐘ヲ此島ニ掛クカ考フ可シ。）坐僧島ハ掛鐘ノ南澤尾崎ノ下ニ在リ。島形僧ノ如意ヲ持シテ麾スルカ如シ。

羊腹島。附砧杵島。立烏帽子島。高嶋棧。

坐僧ノ南澤尾ノ下ニ在リ。島小ニシテ危峻巖崖羊腹ノ如シ。上ニ細竹茂生ス。故ニ一ニ叢竹島ト名ク。左右ニ奇石多シ。砧杵島ハ小濱澤尾崎ノ前ニ在リ。狀上豐下殺潮退カサレハ則チ柄見エス。潮益退ケハ柄益長シ。且遠クヨリシテ之ヲ望メハ。初生ノ菌ノ如シ。側ニ二小島アリ。婦人碁ニ對スルカ如シ。坐僧以下此島ニ至ル陸ニ接近ス。故ニ海上ヨリ之ヲ

望メハ。陸ト別チ無シ。立烏帽子島ハ砧杵ノ東ニ接近ス。蓋烏帽子ハ本邦ノ製ニシテ。立折·風折·引立等數製有リ。此レ狀ヲ以テ名ヲ取レルナリ。高嶋根ハ。土人傳テ曰ク。舊島ニシテ高峭ナリ。嘗テ双龍闘テ島ニ觸ル。島爲メニ崩壞セリト。今水底ニ其足ヲ存ス。高嶋根ト稱ス。

權現島。附榎樹島、小鍋島、飛雀島、太鼓島。

花淵濱ノ前百餘歩ニ在リ。小祠有リ。土人權現ノ祠ト稱ス。一ニ英靈島ト曰フ。陸ノ間海淺クシテ潮退ケハ厲揭渉ルヘシ。榎樹島ハ權現島ノ北島至テ小ナリ。小鍋島ハ榎樹ト相並テ北ニ在リ。亦小ナリ。飛雀島ハ權現島ノ東南四里餘ニ在リ。太鼓島ハ飛雀島ノ南里許ニ在リ。土人之レヲ西風島ト稱シ。或ハ西頼ニ作ル。是レ國音西風ノ訛ナリ。

小鼓島。

飛雀島ノ南ニ在リ。一ニ太鼓根ト稱シ。又片鼓島ト名ク。島元狀ヲ以テ名クト曰フ。崩壞都度改名ス故ニ此數稱アリ。

沖雙子島。一名二島、附大黒島、小黒島、

小鼓島ノ東二里餘ニ在リ。二島相並ヒ。狀亦似タリ。故ニ雙島ト名ク。松島ニモ亦雙生島有リ。故ニ洋ト稱シテ以テ之ヲ別ツ。大黒小黒ハ共ニ花淵南山後ニアリ。能ク瞰スル所ニアラス。

石巖神祠。附長鳴島。

花淵五里海中ニ在リ、鹽竈枝祠ノ一、東西兩祠アリ。相距百餘歩、濤沫之レヲ望メハ、宛然タル兩堆雪ナリ。潮退ケハ水中石殿アルヲ見ル。海ニ航スル者拜禱セサルナシ。嘗テ一商舶アリ颶ニ遭ヒ。船殆ント沈沒セントス 此神ニ祈リ免レテ岸ニ到リ之レヲ視レハ、鰒魚數千萬船底ヲ擁シ居レリ。以テ神助ト爲ス。海日融和時ニ弦管ノ聲ヲ聞ク。長鳴島菲峯南灣ノ中ニアリ。

大島根。附男子島、貝島、

大黒島南ニアリ、島中最大ナル者今崩壞ス。潮退ケ

ハ纔ニ其基足ヲ見ル。土人之レヲ花淵菖蒲田界標ト爲ス。男子嶋ハ菖蒲田前ニアリ。又英雄布袋ノ名アリ。其南ニ貝島在リ、一ニ辨天ト稱ス。

中島。附百尋根及沖ノ島。

貝嶋南ニアリ。或ハ多門前鷺島ト名ク。菖蒲田三島ト稱ス。百尋根ハ中島數里南ノ海底ニアリ。舟ニテ過クル者波浪觸レ湧クヲ驗ト爲シ之ヲ避ク。菖蒲田青松濱界ト爲ス。沖島中島南ニアリ。一ニ猫島又後鷺ト稱ス。

松浦島。前卷觀江臺下見合スヘシ。附鳶崎及鰲嶋。

洋島ノ西一里餘、觀江臺下ニ在リ。小ナル一奇島也。聞老志曰ク。青松濱以東巉岩相峙チ長松相連ナリ。下ニ一島在リ、蒼龍ヲ戴ク松浦島也。左右奇岩甚タ多シ。其尤ナル者鯛ト呼ヒ。石ヲ生スル者釜ト爲ス。鳶崎舊嶋地ニ非サル也、海ニ入ル數十歩。此懸崖急峻波濤其足ヲ蝕シ。崖壁漸ク崩レ中斷シテ島ナル。臨海ノ處宛モ鳥啄ノ如シ。故ニ名ク。鰲島並ヒニ狀ヲ以テ名ト爲ス。

松島島嶼之部

松島右路ヨリ鹽浦界ニ至ル。二十有二島中。二子通計二十三島。

御島。

扁聯

醫國殿　天嶺。　把不住軒　了堂。

見佛堂　後考。　松吟庵　同上。

松島右青春崎前ニアリ、相距ル十餘歩橋有リ架ス。是ヲ渡月ト爲ス。島本雄島ト稱シ。又小島ニ作ル、或ハ千松島ト云フ。四邊斷岸峭壁洞窟多シ。其中皆佛像梵文ヲ刻ム、島上古松鬱蒼。眞仙ノ游息スル處百靈ノ鍾集スル所。一タヒ此ニ渉レハ。心目豁然、東南海上ノ洲嶼一矚遺ス無シ。松島中最奇最勝幽寂ノ處。故ニ古來朝紳ノ詠言最多シト爲ス。相傳フ。昔鳥羽帝。天仁中。僧見佛此ニ修道シテ道聲上聞ス。帝佛像及法器御衣ヲ賜フ。故ニ土人之レヲ稱シテ御島

ト曰ヒ。之ヲ尊テナリ。或云。昔慈覺開山ノ日。松樹千株ヲ賜テ此ニ栽ヱ法鎮ト爲ス。故ニ千松島ト名ク。松島天台記ニ曰ク。元永二年己亥。鳥羽院。大内藏卿康光ヲ勅使ト爲シ。嫣松一千本ヲ植ウ。因テ千松島ト名ツク。舊事本記ニ曰ク。陸奥ニ至リ松島ヲ見ル。海中奇島アリ。往昔日本武尊。此島ニ至ル。土民之レヲ崇メ御島ト言フ。上宮太子國風曰ク。松島ヤ御島ハ見スト ヒサ方ノ月ノ都ノ外ニ尋ネハ。此書ノ妄前卷已ニ辨ス今復贅セス。

坐禪堂。前四卷ヲ見合スヘシ。

松吟庵見佛堂アリ。古碑累植其最モナルモノハ賴賢ノ碑ナリ。巡覽記云。御島ハ見佛修道ノ遺跡。故ニ古來邦俗石搭石碣ヲ立テ。以テ先亡冥福ヲ資ス。故ニ關東諺ニ曰ク。御島ハ奥州ノ高野ナリト、

雄島　白鹿洞隱士

松洲月崎下。幽處架橋通。樹々潮聲合。岩々島勢雄。
境閑天地外。勝入畫圖中。長愛華僧筆。留碑在海東。

諸勝記ニ曰ク。雲居祖翁瑞岩ニ住スルノ日、見佛遺蹤ヲ追念シ蝸廬ヲ結ヒ。暇アレヘ則來テ安禪自適ス。或ハ一日ヲ併テ食ヒ或ハ食ハス。歷旬晝夜睡眠セス、更ニ寒暑ヲ忘レ、動モスレハ其衆來リ參シ救ヲ乞フ。翁戒文ヲ授ケ或ハ說偈ヲ示ス、天堂地獄ハ他土ナラス。都テ人心善惡ノ中ニ在ルノ語アリ慎テ人ト語ラス。諸方之ヲ尊テ見佛再生ト爲ス。或ハ傳フ。御島上路傍樹間。碑碣堵坡累々相列シテ傾倒シ。多ク往來ヲ妨ク。一日一沙彌ヲシテ除カシム沙彌偶々一碑額ヲ傷ク、其夜鬼女アリ。雲居ノ坐前ニ立ツ。我ハ是レ石州某ノ女。汝何ソ吾佛體ヲ傷ツクヲ之レ爲スト。雲居其由ヲ覺ラス。目ヲ閉テ默坐シ。初テ知ル昨日ノ沙彌一碑ヲ傷ルヲ、乃チ偈ヲ說テ之ヲ示ス。鬼女即チ拜謝シ去ル。其碑坐禪堂北ニアリ。高僅カニ一尺五寸。中ニ法諡ヲ題シ右ニ年月ヲ記シ左ニ石見州某氏ノ女ト記ス、余嘗テ其ノ事ヲ聞キテ一奇ト爲シ、此ニ游フ每ニ其碑ヲ索捜シ

テ遂ニ見ス。此事此地ノ事ニ非ズ。事法性院ニ在リ、且僧亦タ雲居ニ非ス、洞水・鵬雲ノ中歟考フヘシ、蓋シ境ハ人ヲ得テ顕レ。人ハ境ヲ得テ傳フナリ。年八十二ニシテ終フ。甕塵埃拾録ニ曰ク、見佛天仁二年春三月ヨリ保安ニ至ル年間、法華六萬部ヲ誦ス。保安三年秋八月。帝賜フニ彌陀・観音・勢至・文珠・普賢ノ五像、及法器御衣ヲ以テス。見佛乃チ其像ヲ庵後岩窟中ニ安ス。

松吟庵。　妙覺庵跡。　薬師堂。　骨堂。　頼賢碑文。

前四巻ニアリ畧ス。

見佛堂。

御島北隅ニアリ　之ヲ奥ノ院ト云フ。諸勝記追録曰。長治元年、見佛上人伯州ヨリ來リ、御島ニ妙覺庵ヲ結ヒ居ル。十二年間法華六萬部ヲ誦シ塔ヲ建ツ。後數百年遠近來禮勝緣ヲ結フ者絶ヘス。享保壬子。僧良哉廣ク化緣ヲ募リ。堂ヲ塔上ニ營ミ。彌陀・観音・勢至像、及松島三開祖。並ニ見佛・頼賢碑ヲ置キ。六時念佛道場ト爲ス。後堂傾頽圮ス。明和中、僧無參之ヲ一新シ、輪奐舊ニ倍ス、又久廢ス。享保中、僧了哉化緣三萬ヲ募リ。此堂ヲ建ツ。又圮レ無參再建ス、相傳フ。古天童宮兒常ニ此堂ニ隨侍ス、堂側燈アリ。毎夜火ヲ點ス、以テ鬼ヲ鎮ス。之ヲ羇旅洲前ヨリ望メハ。燈影熒々極テ幽寂ノ趣アリト。

雄島讀ニ頼賢碑一。（傚ニ唐古一。）　釋古梁

飛梁渡ニ碧潭一。幽絶雄諸嶋、海岳適ニ良遊一。雲岩適ニ遐討一。眞侶曾棲上。精廬養ニ妙道一。貞珉勒ニ異蹤一。文字粢ニ玄藻一。魑魅避ニ靈助一。樵牧敬ニ神造一。靜者寧期傳、射言名更保。撫境思ニ高風一。歆ニ文坐ニ幽草一。秋氣集ニ冲懷一。晩流自浩々。

稲荷神祠。

松吟庵西ニ孤穴アリ。小祠ヲ立テ稲荷神、又新右衛門明神ト曰フ。頗ル靈異多シ。天明間。石巻ノ商舶江戸ニ在リ。貨物ヲ載セ將ニ發セントス。人アリ便航ヲ求ム。余ハ松嶋人名ハ新右衛門郡下ニ在ル久シ

今皈ルト。乃チ纜ヲ解ク風順ニ波平ラカニ三日ニシテ寒澤ニ入リ。啃船ヲ以テ新右衛門ヲ松島ニ送ル。彼曰ク。請フ船ヲ御島ニ寄セヨト。舟着ケハ則彼忽チ見ヘス。送ル者島上ヲ求ムレトモ見ヘス。松島中物色ス皆々云フ。松島曾テ新右衛門ナル者無シト。送ル者茫然遂ニ船ニ上リ去ル。時ニ御島上狐聲欣々タルヲ聞ク。因テ疑フ、彼ハ狐怪ナリト。商船石巻ニ至ル。向キノ日江戸ヲ發スルヤ。商船凡ソ五隻。洋中颶ニ遭ヒ皆溺沒ス。而シテ此船獨無事ナリ。因テ覺フ。彼新右衛門ナル者ハ。是レ神狐ニシテ載スル所ノ船ヲ擁護スルナラント。乃チ祠ヲ立テ之ヲ崇奉スト。盤川員談海ニ曰ク。明和中、東都墨水ノ南眞崎明神ノ傍ニ稻荷祠アリ。祠前ニ老媼アリ。茶肆ヲ開ク一狐アリ。祠中ニ栖ム。媼ニ馴レ常ニ食ヲ與フ、游客茶肆ニ息フ者。之ヲ見ント欲セハ則媼之ヲ呼フ。其聲ニ應シテ出ツ 客茶實ヲ擲チ與フ。都下相傳テ游者多シ。一日狐出テ人語シ媼ニ告ケテ曰ク。

狐近日將ニ故鄕奥州ニ還ラン再見期ス可カラス。狐ヤ媼ノ大慈庇惠ヲ蒙ムル久シ。物ノ之ニ報スル無シト。乃チ吟箋ヲ出シテ媼ノ前ニ置ク。媼之レヲ見レハ和歌ナ、曰ク。月ハ露々ハ草葉ニ宿カリテ夫コソ夫ヨ宮城野ノ原。後チ寛政四年ニ至リ。都下萱場街ノ富商三右衛門ナル者。頗ル好事家吟箋ヲ見大ニ奇トシ。重價之ヲ買フ 時ニ仙臺侯ノ侍醫工藤平助。富商ト相知リ因テ之レヲ見ル。其書神采適勁。流俗ノ書ニ比スルニ大ニ類セス。大ニ奇トス。借去テ侯ノ覽ニ供ス。左右侍臣皆其和歌ヲ評ス 一人曰ク、是レ松島宮童ノ賦スル所。其事迹傳テ能ク稱セリ。然ラハ則チ彼狐ハ松島ニ栖ム者。常ニ土人ノ談ヲ耳ニシ。別ニ臨ミ書シテ媼ニ與フル者。皆以テ然リト爲ス。當時相傳テ奇談ト爲ス。余此事ヲ取テ考フルニ、狐ノ媼ニ別ルルト。商舶ニ便スルト。歳時相符ス。即チ彼狐ノ媼ニ辭シ。商舶ニ駕シテ松島ニ皈ル知ルヘキナリ。因テ並セテ此ニ載ス。他日新衛

祠前ニ之レヲ誦セハ則能ク三聲ヲ發シテ、之ヲ應スルヤ否。

松島東北至ニ石磯。手樽浦。東灘界。三十八島。中五大堂二。普賢堂。二白島二。兄弟二島。通計四十二島。

五大堂。前四卷ニ詳記ス故ニ略ス。阿八幡神祠一名二島。

宗久記行ニ曰ク。松島東隅島アリ。橋ヲ架ス五大堂ト曰フ。即チ五大尊ヲ安ス。松島夜話曰、松島門東崇キ數十歩五大堂アリ。慈覺大師ノ開基。祭記ニ曰ク。舞樂ヲ奏シ舞人着クル所ノ假面。今猶瑞岩庫中ニ存ス。

福浦島。

五大堂南二百七十歩ニ在リ。島ノ長里餘。東邊ハ茂林。西北ハ修竹千箇。密翠團欒竹質光滑。器具ヲ作ル、其用最モ廣ク甚タ弓材及花器ニ嘉シ。水持久シテ涸レス。花色鮮明開ク速ニシテ萎ム遲シ。多クハ器中ニ實ヲ結フ。又一種ノ堅實ナルアリ。中心ナク歷年蛀セス。土人用テ刀眼ノ釘トナス。且印材ト爲シ雅潔尤モ愛ス可シ。土人多ク茶筅ヲ製シ。其枝ヲ以テ箸ヲ造ル。共ニ此地ノ名產ナリ。夢庵松島記曰ク、福浦ハ小島ト雖トモ。茂林・修竹ノ美アリ。其清秀殆ント言ヘカラス。凡此島ニ濟レハ則神思冷爽羽化換骨セントス。

青龍庵。卷四見合スヘシ。

巡覽記曰ク。此庵洞水最初修業ノ地ナリ。洞水方ニ游テ皈ル。其道徹セサルト稱シ、此島ニ居リ修觀四年出ス。後法達亦タ此ニ居リ。嘗テ口占ノ偈アリ。曰ク。

　幻幻幻時離二幻世一。空空空處ト二空齋一。松根月下坐禪影。寫出岩中須菩提。

庵後ニ壞ル。元文中。天嶺新重セリ、庵後ニ調伏塚ト稱スルアリ。文化四年、瑞巖叔堂發シテ之ヲ見三甕アリ。甕中各小刀一口アリ。乃命シテ之ヲ毀ツ。

妙音天女祠。附蕨崎蛤泉。

毒靑龍庵西ニ在リ。舊旭日島上ニアリ。鵬雲之レヲ建ツ。危峻至ル者之ヲ病フ。天嶺此ニ移ス。蕨崎ハ福浦南隅ニアリ。最モ早ク蕨ヲ生ス。每歲早ク採テ。瑞巖精舍新歲饗客ノ爲ニ供ス。蛤泉ハ蕨崎東北ニアリ。白フシテ蛤ノ如ク。羹汁ト爲ス味亦似タリ。故ニ名ク。

天神坊崎。附江月濱。

妙音天女祠北ニ在リ。古庵アリ。台徒居ル後廢ル。士人略曰。圓福三十二世海翁。其坊址ニ就キ庵ヲ立テ江月ト名ク、貞公瑞巖ヲ營ムノ日。門側ニ移シ十三枝ノ一ト爲ス、崎上址ヲ觀月濱ト名ク。巡覽記ニ曰ク。觀月濱ハ福浦東邊ニアル是レナリ。北ハ五大堂ト相對シ。島常ニ舟ヲ置カス。毒龍庵僧此岸ニ事アラントスル後舟ヲ常置セリ。

千部島。附引通

仙冠島ニ隣ス。或ハ千歩島ト爲ス、島上常ニ歩虛ノ聲ヲ聞ク、引通島ハ千部西。福浦ヲ距ル百十歩ニアリ。曾テ醫生格庵地ヲ相シテ杉苗數千ヲ栽エ、滿島森綠ヲ爲ス。

燒島、附黃雀彩鳥、

引通北七十歩ニ在リ、舊朝日ト稱シ、今ノ旭日ヲ燒島ト呼フ、寛永中、洞水之ヲ更ム、黃雀島ハ燒島ニ接シ、一ニ蓬萊ト名ク。彩鳥ハ其北ニアリ。一ニ繪ノ島ニ作ル、

旭日島。妙音天女祠跡

燒島東ニ接近シ。舊名燒島。天女祠ハ、寛文中。鵬雲之ヲ建ツ、是ヨリ先。洞水相ノ繪島ニ游ヒ、所感アリ。詩ヲ賦ス曰ク。飄然江嶋詩ニ神續。若下感ニ天女降臨。顯德掌中視ニ崑玉。現慈膝上奏ニ胡琴。若非ニ正眼辨ニ玄色。爭得患聲聞ニ妙音、希有渺茫蒼海月出ニ波心ニ分落ニ波心。因テ其像ヲ圖シ歸リ、此ニ鵬雲ヲシテ祀ラシム、祠成ルノ日。偶々朝曦中天女ノ相ヲ現ス、故ニ旭日島ト稱ス。又笹町重之天女像ヲ祠中ニ奉ス。

松島記曰。貞享丙寅六鵬雲再營。寶永巳丑。夢庵重修。後天嶺福浦ニ移ス。福浦舊梅樹數百アリ。一ニ梅浦ト稱ス。乃靈岩ノ撰フ所八景ノ一。後チ梅悉ク枯ル。鵬雲天女ヲ祠スルノ日。其廢ヲ惜ミ別ニ梅樹ヲ苫屋汀西ニ栽ヱ。之レニ名ク。

獺島。附羅漢・烏羽。

青柳島東ニアリ。羅漢ハ九野ノ東ニアリ。此島富山ヨリ遠望スレハ、宛然巨鼇ノ首ヲ伸ヘ游泳スルノ狀アリ。因テ富山人ハ鼇島ト呼フ。烏羽ハ其北ニアリ。一ニ苫島ニ作ル。

富山島嶼部。

松島東北界。石礁前東北ヨリ。白練洲以外野蒜濱一二十有二島。

鷺島。

石礁前海六十步ニアリ、島ノ西南翁島ヲ距ル三百五十餘步。南東烏羽ヲ距ル三百三十餘步。此際島嶼少疎、東北鵜島ヲ距ル六百步。

鵜島。附玉巵・蛇島・博山。

鷺島東北六百餘步ニ在リ。或ハ浮島ニ作ル非ナリ。玉巵ハ手樽前灣中ニ在リ。蛇島ハ蛇崎數十步因テ名ヲトル。博山ハ名古目浦西南灣中ニアリ。

白濱二島。

蛇島東百二十餘步ニ在リ。二島相並ヒ同名大小ヲ以テ之レヲ分ツ。相距ル纔ニ十五六步。大白上松間ニ桃樹數十株アリ。二三月ノ際。芳華鮮美落英繽紛潮ニ隨テ浮沈シ。實ニ武陵桃源ノ趣アリ。恨ムラクハ小島民屋田畝ナシ。然レトモ鹽松環海總是翠松一色而シテ華奇ヲ發スル者ハ。梅浦ト此島ノミ。

月島　附星島・松賀島。

小白東北三百餘步ニアリ。西名古目浦天王崎ヲ距ル。二百餘步、島形彎々初月ノ如シ。故ニ名ク。星島ハ小ニシテ其側ニ在リ。名ヲ得ル所以ナリ。島甚タ高カラスシテ四邊皆削成ス。游者梯セサレハ躋ルヘカラス。松ケ島ハ。月島東北ニ在リ。此島松樹最茂

密欝翠鬱セス。實ニ昇平ノ上瑞ニシテ。松賀ノ稱誣サルナリ。

夜鳥島。附狐守。

大塚濱前ニ在リ。松賀ヲ距ル東北三百歩。或ハ捕魚島ト云フ。狐守ハ。夜鳥北大東澤前ニアリ島上狐窟多シ。昔老狐アリ阿夏ト名ク。過ル者常ニ乳子ノ聲ヲ聞ク因テ名ク。漁人捕ル所ヲ先ツ之レニ供ス。否サレハ則チ魅セラル。

鶴石。附鶴根。龜石。知水島。

[illegible]狐守東多聞灣前ニアリ其側ニ鶴根アリ。其南ニ龜石アリ。知水ハ龜石ノ北白練洲涯ニアリ。洲島ノ間纔ニ二三歩。潮退ケハ陸ニ接ス。土人曰ク。潮汐將ニ至ラントスレハ。全島悉ク濕ヒ。退ケハ乾ク故ニ水[illegible]知リト名ク。

北經島。附沖經島。

[illegible]水シリ東ニ在リ。四邊削成シ躋ル可カラス。相傳フ[illegible]神僧アリ。常ニ島上ニ在リ。讀經念佛後其經卷ヲ悉ク島上ニ埋テ去ル。沖經島モ亦神僧ノ遺蹟ナリ。土人曰ク。二島舊海中ニ在リ。老翁七八十齢ノ如キモノアリ。歳々之レニ土ヲ置キ。今ニシテ一ハ洲上ニ在リ。一ハ水涯ヲ距ル僅カニ十餘歩。

小鬪灘。大鬪灘。

兩島灘。丸山南。大洋潮汐吐吶ノ間ニアリ。一ニ大湯殿小湯殿ト爲ス。夜鳥島ト稱スルハ誤ナリ。

龜磯。附赤崎根。

丸山東百歩餘。水底暗礁ノ狀龜ノ如シ。渡舟者必ス之ヲ避ク。赤崎根ハ赤崎前海百餘歩ニアリ。近歳海退キ陸トナリ。其處ヲ知ラス。兄弟二島ハ。赤崎松林中ニ二島相並ヒ。大小同狀ヲ爲ス。故ニ名ク。土人曰フ。百年前ハ海中ニ在リ。亦桑滄ノ變ナリ。

岸ノ明神祠。附中ノ明神。沖ノ明神。

兄弟島東北五百歩。不老山下餘景濱前ニアリ潮退ケハ則チ陸ニ接シ。其東三百餘歩ニ。中明神。百五十歩ニ。沖明神アリ。土人中ト沖トヲ合テ。雙神島ト

稱ス。

鹽松勝譜卷之十二　畢

鹽松勝譜卷之十三目次

島嶼
鹽松環海南宮戸寒澤嶋嶼部
宮戸島　藥王廟　鹽井
厨場　瑠璃峰　落日洞附垂水
龍崎　大高峯　里濱附醫王寺
石神祠附仲心庵熊野祠。瀬戸濱　鰐ガ淵附午首。
文蛤濱。　刈藻崎　波靜浦附山神祠
月濱附神明宮。天神祠　寶柱寺。　稻崎附掛月岩
觀音峯附觀音寺　小月濱赤崎火焔岩
大濱附八幡祠　不動堂。　筆樹崎
椎山附崑崙崎。大濱嶺　鹿島祠。　室濱
洞香庵附太子堂。二渡權現。白幡明神祠。
潜ガ浦附補陀山及觀音窟　補陀山附瘤石山
避雨洞附双松崎　疊石。　大鮫灣。小鮫灣。細浦。室崎
讓善浦。椿田。箭ハツ崎。綿濱。　皇都島

大鍋島附小鍋。屏風、涯島。沖島。　連屬島。四島
裂岸。前島。芒草島。　岸高島沖。高島
瞠哉島。中野島。鷦鷯島。爵島。　大橫島附御洞崎
烏鵲島。海蝦。橫根。波慣。大小寧
比類寧島。羽島。育子島。織子島。無名
卯花島。崎根。黑島。小鷹。大鷹。雷根。　蜑寢島
瞭哉二島。曲瓊。戒服根。松之島。　寒澤島
津口。三百浦。寺崎。寒澤寺。松林庵。觀音堂。東源寺
日和山。屏風崖。大小平戸。御崎。　鹿磯。矓網島。寄
網島。前島。
夜景島。冠軸。三山島。　青島。東涯島。倚立島
鳳島。　東峨崎。虹崎。神明祠。管崎。二島。道入根
百刈根。大小鯨二島。振鷺。小人島
長頭島。道士浦。黃雀島。鵙鶚島。笹石。螺石
納囊島。及庵附觀音堂。熊野祠。四邊十二島。
明月洞。夜神樂崎。正右洞。採藥崎。　眞島崎。擲瓦
崎。不毛崎

濵戸浦。中島居島。鶺鴒島。　栢樹島。小人島。登鷲
島
掛田島　鞍掛。大島。犬島。神樹。漆樹
桂島。　桂島明神。松崎。諫鼓崎。　桂島庵
牛啼崎。琵琶首崎。石濱。淨國庵。山神祠
落星崎。兒島。雛子島。崖屋島。船入島
水島。沖高島。岸屋高島。雷盆。飯鉢二島。松崎。駒島。
小駒
分裂島三。　鐘島。　鐘打島。鷺島。架橋。金剛
言島。附小言。水戸島　舞鶴島。地藏島
千鳥島

鹽松勝譜卷之十三

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

島嶼

鹽松環海東南　宮戸寒澤島嶼部。

夫レ宮戸。寒風。桂諸島ヤ。鹽松勝景ノ奥室。其門ヲ得テ入ラサレハ宗廟ノ美百官ノ富ヲ見ス。世ノ遊フ者鹽浦、松島及ヒ富山自リシテ之ヲ遠望シ。惟タ一帶長堤ノ如キヲ見。未タ嘗テ其勝ノ奇絕ヲ知ラス。偶々其勝ヲ說ク者有レハ。則以テ譜既ニ灌クト爲シテ之ヲ觀ルヲ欲セス或ハ纔ニ其一斑ヲ窺フ者有レハ。則チ以テ鄙以下ト爲シテ。亦識ル無シ。所謂ル其門ヲ過テ其室ニ入ラス。其花ヲ撫テ其實ヲ食ハサル者ナリ。余初メ其域ニ遊ヒ。輕舟島嶼ノ間ニ入ル。則チ茫然トシテ往ク所ヲ知ラス。而ル後左攀右涉前躋後觀上陟下頓進退周旋數十迴ヲ歷厥中島嶼ノ大小洲渚ノ屈曲。峯巒ノ高低。歷々指數ス可キナリ。其境ヤ西北ハ則チ鹽松環海。洲渚島嶼ノ間。水淸クシテ且ツ漪チ。浮磬蠙珠・班石・文貝・海物維レ錯ハリ。粲然翫フ可シ。東南ハ則チ太洋潮濤厲颶硨湃シテ奔騰啻ナラス。憤石ニ伍シ尤モ也タ奇異壯觀悉ク狀ス可ラス。且ツ島嶼壁崖岩竇ノ奇。瑤草靈芝ノ異ハ姑ラク是ヲ舍キ。其精彩氣色之ヲ鹽松近前ノ遊人。日夜狎賞嬲翫スル者ニ比スレハ。則チ大ニ同シカラス。蓋シ此ノ際世人到ル者稀ナリ。霧露日月ノ精ヲ受ケテ。烟霞常ニ凝浮シ。實ニ一段ノ賞心。富貴俗子ト言ヒ難キ所ノモノ有ルナリ。然ルニ徐福ノ船至ラス。謝公ノ屐及ハス。漂沒シテ稱セラレス。古ヘ所謂ル海中神山去人不遠者。豈ニ此ノ地ニ非サル無キヲ得ンヤ。余カ業此ニ及ンテ。人多クハ以テ貂ヲ鹽浦松島ニ續クト爲ス。亦夏蟲ノ水ヲ疑フヲ奈何ンセンヤ。我ガ門ヲ過キテ我カ室ニ入ラサル我レ憾ミス。嗚呼勝區ノ悉クサヽル、囑

圖ノ肖サル是レ志憂ナリ。

宮戸島四邊三十七島中。連屬島一名。四島瞭哉島二島。通計四十一島。

宮戸島

鹽松環海ノ東隅ニ在リ桃生郡ニ隷ス一ニ皇都島ト稱ス又宮渡ニ作ル或ハ傳フ小野小町姫國風別離ヲ賦スル者是レナリト而シテ其ノ徵ナシ事已ニ與井ノ條下ニ詳ナリ此ノ島ヤ環海島嶼中ノ最モ大ナル者ニシテ周回二十餘里。東補陀山ヨリ西午首ニ至ル四里百七十餘歩南稻崎ヨリ北龍崎ニ至ル四里半六十歩餘北ハ東灘ニ接シ。西南ハ鳳島・寒澤島ニ隣リ上田圃多ク。居民半農半漁戸富ミ家足リ其民敦樸淳古ノ風有リ。初メ到ル恍然別ニ一世界ヲ造ルカ若シ想フニ武陵洞裏。未タ必シモ此ニ勝サラサルナリ邑凡ソ四西ニ在ルヲ里濱ト曰ヒ南ニ在ルヲ月濱ト曰ヒ。東北ヲ大濱ト曰ヒ室濱ト曰フ世之ヲ宮戸四濱ト稱ス。

畑中白華 十太夫

數家孤島居潮浪夕陽疎山寺鐘鳴鑕清田潮去鋤。
新花寒食雨。皈雁海郵書。垂暮漁歌起。羇人斷腸初

藥王廟

里濱ノ東北瑠璃峯下ニ在リ、里濱ト灣ヲ隔テ、相對ス廟華整覆スルニ銅瓦ヲ以テス廟中安スル所ノ藥王像相傳フ、僧慈覺製スル所ト、或ハ曰フ後堀河帝ノ貞應壬午漁父海上ニ於テ之ヲ網シ得、以テ窟中ニ置キシニ後チ屢々靈應有リ。故ニ島民相議シ廟ヲ營ミ以テ之ヲ安スト廟前石階數十階ヲ刻シテ之レヲ作ル。階上左右石燈ヲ列ス。階下鐘樓有リ鐘ハ天文中田村右京兆ノ女ノ奉ル所樓下ハ削壁臨ムニ地無ク。而シテ松樹偃蹇倒垂龍蛇ノ如シ樓ノ面數歩船ヲ寄スルノ所有リ凡ソ東灘・王塚諸區ヨリ宮戸島ニ濟ル一ハ里濱ニ泊シ。一ハ此ニ寄ル此ノ際崖下白砂皎潔雪ノ如シ人多ク之ヲ取リ。之ニ和スルニ胡麻黒砂等ヲ以テシ以テ壁ヲ塗ル。又

諸レヲ園庭ニ撒舗スレハ。則チ皎潔愛ス可キナリ。

鹽井

藥王廟ノ階下南側ニ三窟有リ各々方二丈許リ左窟ハ奥隅ニ贅窟有リ佛像ヲ刻ス 右窟ハ爐アリ床有リ。皆岩ヲ刻シテ之レヲ作ル。中窟ニハ井有リ是ヲ鹽井ト爲ス。其深サ測ラレス。土人曰フ。舊ト鹽ヲ涌カシタリ。享保中ニ至テ變シテ清水ト爲ル。今眼ヲ病ム人。此ノ水ヲ以テ洗ヘハ治セサルナシト。

厨場

藥王廟ノ南數十歩ニ在リ。土人曰フ 昔シ藩祖貞公。此ノ島ニ獵シ。命シテ鹿羹ヲ爲サシム。而シテ鹿肉變セス羹終ニ成ラス。時ニ隨フ所ノ衣篋中 忽チ火ヲ出シ服御悉ク燒ク人以テ藥王ノ靈然ラシムルト爲ス。貞公之ヲ悔ヒ 乃チ祭田ヲ附シ以テ之ヲ尊崇ス是レ羹ヲ爲ルノ所。故ニ厨場ト稱ス。土人之ヲ尊ミテ御膳場ト曰フ

瑠璃峯。

藥王廟ノ後口ニ在リ高サ數百仭。峯脊長嶺東南ニ及ヒ大高峯下ニ蜿蜒シ而シテ峯嶺總テ是翠松一色。瑠璃ノ稱徒ナラス 而シテ天風擊盪洪濤澎湃ノ如ク。時ニ海潮ト相應答ス。遊人此ニ至リ心耳一洗幽悄ニ禁ヘス、

落日洞 垂水。

藥王廟西北百餘歩。海涯岩足ニ在リ 洞ハ正西ニ面シ遥ニ三浦手樽諸浦ニ對ス。其間海上一道。島嶼ノ落日ヲ遮蔽スル者無シ。故ニ名ヲ取ル。蓋シ瑠璃峯ヨリシテ北。東灘ノ界ニ及フマテ山嶺連續シ。上ハ松樹稀植荊棘蹊無ク。其下ハ皆危崖削立攀緣ス可ラス。遊者徒ニ舟ニテ賞スル而已。而シテ其盡ル所。東灘丸山ト海口ヲ隔テ、相對スル者ヲ。龍崎ト爲ス 垂水ハ落日洞ノ北ニ在リ。崖上沃泉有リ。土人之ヲ垂水ト曰フ、

龍崎

崎岩海ニ臨ミ舊ト龍首ノ如シ。故ニ名ト爲ス。一ニ

龍舁崎ト名ツク 今ハ崩壊名ノミ存ス。松嶋人或ハ呼テ蛇崎ト爲スハ誤レリ。崎ノ西北河口ヲ隔テ、。東灘丸山ト相對ス。右ハ太洋左ハ環海。蓋シ鹽松環海口ト稱スル者五。所謂嶼崎濱ノ前一。桂島一。寒澤一。寒澤宮戸兩島ノ界一。此ヲ合セテ五ト爲スナリ。崎ノ東ハ則チ繪濱ト爲シ椿田ト爲ス。

大高峯。

峯ハ瑠璃峯ノ南ニ在リ 一ニ雄鷹ト爲ス 或ハ大鷹ト曰フ 又略シテ高峯ト曰フ。名跡志及ヒ聞老志共ニ 陀霞峯ニ作ル 言フ春來降霞峯頭ヲ帶ヒ 春色ニ醉フニ似タリ 故ニ之ヲ稱スト 或ハ傳フ 古僧慈覺彌陀。藥師。觀音ノ三佛像ヲ製シ 之ヲ三峯ニ安ス 即チ此ノ峯ハ彌陀像ヲ置クノ處ト 因テ呼テ阿彌陀峯ト曰フ 後略シテ阿陀之峯ト曰ヒ 又陀之峯ト曰フ 而シテ大高。雄鷹。及大鷹國音訓近シ 故ニ此ノ數訛ヲ致セルナリ 余此地ヲ詳ニセス 則チ瑠璃ノ峯ハ南ニ在リ。觀音ノ峯ハ（後ニ見ユ。）東ニ在リ。而シテ此ノ峯傑然中ニ在リ 則チ説或ハ然ラン 峯ハ鹽松環海四山ノ一ニシテ 四山中最モ霆カニ峯峙ヲ絶ス 故ニ四望敞然西南環海 水天渺漾 島嶼洲渚斷續起伏 霞錦爛灼萬寶照灼雜廁シテ 掌上ニ在ルカ如ク 遠クシテハ羽ノ諸喬嶽ヨリ 以テ相馬岩城諸嶄山 東北石港金華諸山以南 滄溟萬里ニ至リ 眼界中一青葱ノ相遮ル者無シ 其近クシテ目下ニ在ルハ 里。月。大。室ノ四濱ナリ 寒澤。鳳。桂諸島ニ至テ丘峯錯列林巒碁峙 田畝連接原濕縱橫 雞犬桑麻屋廬人物。皆指シテ數フヘシ。而シテ一歩ヲ勞セスシテ 盡ク廻顧ノ中ニ在リ 眞ニ天然ノ畫圖ナリ 故ニ其勝ニ題シテ大高大觀ト曰フ

登大高峯。　釋　古梁

海東剰覽碧松洲　天地奥區勝ニ概秋。自似置ニ身忉利上。俯臨粟散百千州

里濱。附壽王寺。

藥王廟南ニ在リ 灣ヲ隔テ、廟ニ相對ス 聞老志灣

沙士ニ作ル、民戸五六十巷ヲ為シ、屋廬頗ル齋整、醫王寺ハ巷後隆阜上ニ在リ。東北ハ大高・瑠璃ノ峯ヲ仰キ、灣上ヲ俯鑑シ灣中ハ孤月・小鍋・屏風諸島、各奇ヲ献シテ絶勝ナリ、寺舊天台宗、其創建ヲ詳ニセス、國初密乘ニ改メ藥王廟祭祀ヲ主ル、相傳フ、藩祖公之レヲ崇信セラレ嘗テ田租若干ヲ附セントト欲ス、主僧曰ク、寒素清約ハ桑門ノ分ナリ、恐クハ後者裕ニシテ惰セント、之ヲ計ルニ黍稷稻粱ノ如キ、一日一升以テ藥王ニ薦ムヘシ、以テ主僧ニ給スヘシト、公乃チ租米毎歳三石六斗ヲ附シ今ニ至ル、

石神祠、附仲心庵・熊野祠。(俟ニ追考ニ。)瀬戸濱。

醫王寺西人家背ニ在リ、祠宇至ツテ小ナリ、何人ノ置ヲ詳ニセス、石上明神ト稱ス、余聞ク濱ニ二度權現祠アリ、此祠ヲ謂フカ、仲心庵曹洞宗其創詳ナラス、瀬戸濱ハ里濱西北海ニ入ル數十歩、其西ハ筒島ニ對ス、

鰐ガ淵、附午ヵ首・文蛤濱。

鰐淵ハ瀬戸濱南里濱巷西ニアリ、環海大洋五口ノ一ニシテ、宮戸・寒澤・兩島ノ界ナリ、常置航アリ、彼是相通ス、其間相サル四五十歩、一巨川ノ如シ、海ノ深キ測ラレス、故ニ大船巨舟就テ安ヲ取ル、渡頭ノ左右兩岸絶壁。々上翠松羅列枝葉水ニ鑑シ亦奇景ナリ、土人曰ク、昔鰐魚アリ潜ム因テ名ク、其南ハ則午首地海ニ入リ、形馬頭ニ似タリ。故ニ名ク、文蛤濱ハ、午首南百餘歩ニアリ、濱海淺ク文蛤甚タ多シ、土人曰フ。蛤ヲ采ルニ潮退キ水淺キヲ窺ヒ、砂ヲ掬スレハ砂漏シテ蛤掬ニ盈ツ、頃刻ニシテ數斛ヲ得ヘシ、且美味他ノ産スル所ニ異ナル、

刈藻崎、

文蛤濱一里南、午首以南地窮ノ處ニ島アリ。芒草ト云フ、相距ル僅カニ五六歩、地老曰フ、島ハ舊崎鼻洪濤衝汪シテ。崎腹崩開島トナル也。兩岸絶壁數仭、上合下開、其上合ノ所ニ獨木ヲ架ス、長二丈許、橋上ハ頽波傾瀾奔盪シ勢雷霆ノ如ク聲遠近ニ聞ユ、之

ヲ瞰ル者神ヲ驚カシ魄ヲ愕カス。崎上舊小祠アリ今廢ス　昔里濱ニ一女子アリ、幼ニシテ孤。常ニ海藻ヲ採テ以テ自給ス。年已ニ十五六。容貌甚美ナリ　邑ノ少年多ク之ヲ挑ム　中ニ二人アリ　情意最深切　些ノ厚薄アルナシ　女子之ヲ病ヘ　如何トモスルナク乃チ身ヲ此ニ投シテ死ス　二少年悲哀ニ堪ヘス　亦タ供ニ隨テ死ス　邑人憐テ祠ヲ建テ歳時之ヲ祭ルト云フ

波靜浦（ハシヅカ）附山神祠。

刈藻崎東海水北ニ入ル二里餘、午首東背口窄ク奥廣ク波頭入ルニ及ハス　浦面靜平鏡ノ如シ。故ニ名ク　山神祠ハ東北岸上ニアリ　土人之ヲ新山權現ト稱ス

月濱　附神明宮・大神祠・寶佳寺。

宮戸南隅ニ在リ。里濱ヲ距ル二里半、聞老志月浦ニ作ル、民戸三四十、大洋ニ面シ田圃多ク　濱民漁ヲ以テ技業ト爲ス、神明宮ハ北背丘上ニアリ、天神祠ハ其南ニ在リ、寶桂寺ハ其北ニアリ　密教傳テ古刹ト爲ス、舊寶劒ヲ藏シ　寶劒寺ト號ス　月濱土人今稱ニ改ム。

稻ケ崎。附掛月岩。

月濱西頭崎崇峻上ニ在リ　愛太子小祠アリ。祠前崎勢南走馬背ノ海ニ入ルカ如シ、其盡ル處ヲ劍崎ト曰フ。崎頭尖聳劍ヲ樹ルカ如ク。右ハ刈藻花淵諸崎ヨリシテ　遠ク相馬諸山ニ至リ、左ハ大濱筆樹峰。椎山ヨリ、遠ク金華諸峯ニ至ル迄。其崎足ヲ俯視スヘシ　掛月ハ其左汀ニアリ。岩狀奇怪海月初テ昇ル容岩頭ト恰モ粧鏡ノ玉臺ニ架スルカ如ク　眞ニ奇觀ナリ。

觀音峯。附觀音寺。

月濱東北里餘ニアリ。峯高峻大高ト頡頏シ　矚眺亦之ニ亞ク。傳ニ曰ク。僧慈覺大士像ヲ製シ之ヲ峯頂ニ安ス。因テ名トス。今移シテ觀音寺ニ置ク。寺ハ峯ノ南麓ニ在リ。僧着空之ヲ創建ス、未タ着空何時ノ

人タルヲ詳ニセス。

小月濱 附赤崎・火焔岩。

掛月ヨリ大濱界ニ至ル。其間里餘 沙汀淨潔是ヲ小月濱ト爲ス、寺崎ハ其東ニアリ。奇岩赤色故ニ名ク。溪流帶ノ如ク源ヲ觀音峯ニ起シ。此ニ至テ海ニ入ル。月・大兩濱ノ界ト爲ス。火焔岩ハ東沙汀上ニ在リ岩色濃赭狀烈火ノ如ク。嚮邇スヘカラサルノ趣アリ。

大濱。附八幡祠・不動堂。

月濱東一里餘ニアリ。漁農三四十戶。前ハ海後ハ山。東ハ則チ葉立・椎山。崑崙崎。南ハ月濱 稻崎・劒崎。及大迫・紀雀諸島ニシテ。山色岩彩他ノ諸境ニ比セハ。則チ大ニ奇異ナリ。遊者此ニ至リ濟勝ノ力ヲ增ス數倍。八幡祠ハ人家北背ニ在リ 旁ラニ道士多賓院有リ。祭祀ヲ掌ル。不動堂ハ其西ニアリ。

筆樹嶠。

大濱東ニアリ。上ニ候亭アリ。故ニ又候峯ト云フ 阪路急崚未タ頂ニ及ハス數步ニシテ。翠微屋數楹アリ候吏居ス。窓ヲ開テ南望スレハ 海水天ニ接シ飄々空ヲ凌クノ想アリ 吏屋ヨリ登リテ巓ニ至ル平坦數步中央ヲ壇ト爲シ 方丈許之ヲ候亭ト爲ス 是ヲ異賊襲來ノ變ニ備フルナリ 壇上架ヲ設ケ望遠鏡ヲ掛ク 鏡長八尺餘 圍八寸 試ニ望メハ則チ舟船ノ數百里ニ在ル者 人物器械粲然審ニスヘシ 顧フニ其望力千里外ニアル可キナリ。不虞ノ備此ノ如ナラサレハ何ヲ以テ其用ヲ得ン 巓徹東西南三面シテ矚眺專ラ海ヲ瞰ム故ニ其景致ハ大高峯ニ及ハス 壇東峭壁千仭羅ヲ握テ俯瞰ス 壁下石磯亂峙奔瀾衝濤沫雪ヲ爲シ 其他嶋嶕無數 波濤齧磨奇狀物ノ比スルナシ

椎山 附崑崙崎・大濱嶺・鹿島祠。

候崎ノ南麓ヨリ東走シテ透邐海ニ入ル一里許 是レヲ椎山ト爲ス 上皆喬松左右峭壁 人迹罕ニ至ル幽邃寂寞必ス神異ヲ見ル。崑崙崎ハ。一ニ黑崎ニ作

ル。崎前ニ羽島アリ。因テ又タ羽島崎ト號ス、大濱嶺ハ、南筆樹峯ニ接シ。大。室兩濱ノ界ト爲ス。嶺上鹿島神祠アリ佳境ナリ

室濱

大濱東北二里。大濱嶺北下ニアリ、聞老志霧灣ニ作ル。奥州俚言集曰 古八幡公此濱ニ游ヒ 和歌ヲ詠ス 偶々筆ヲ遺ス樫枝ヲ折テ筆ニ代ヘ 書シ終テ之ヲ捨ツ 根鬚ヲ生シ遂ニ繁茂大樹ト爲ル 居民二十餘戸、東海ニ面シ右ハ椎山 左ハ室崎・室磯・細浦 西背ハ田圃數十頃、其西北ハ則チ層巒疊嶂透邐起伏シ。大高・琉璃・觀音ノ三峯ニ及フ。

洞香庵 附太子堂。權現。白幡明神祠、

室濱民家西北背ニ在リ。曹洞禪。太子堂ハ庵側ニ在リ、祭ル所豐聰王。權現祠ハ庵ノ西山ニ在リ、其創建詳ナラス。土人傳テ鎌倉景政ノ祠ト爲ス 景政八幡公ニ從ヘ 東征功アリ 封ヲ桃生ニ受ケ 此島亦タ封内ナリ 故ニ民人此ニ祠ス、又里濱ニモ同稱神アリ。

潛ヶ浦 附補陀山。及觀音窟。

室濱北海山間ニ在リ 北ヨリシテ南屈里餘、兩岸削成岩質紛𥧌 其奇名狀スヘカラス 浦中鰒魚多シ 蜑婦之レヲ采ル 沈ンテ海中ニ入リ 良久フシテ數頭ヲ得テ出ツ 故ニ潛浦ト名ク 浦口山上巻柏多シ

浦陀山。附瘤石山。

潛浦東岸ニアリ 一名燧石山半腹ニ窟アリ 山下ヨリ窟ニ至ル 石磴三段百四十餘級ニシテ初テ達シ、窟前坦半數十歩 鐘樓アリ長廊アリ 窟ノ縱丈許衡之ニ倍ス 口ニ扉ヲ設ク 太子像ヲ安ス 潛浦觀音窟ト稱ス 窟ヨリ嶺ニ至ル數十丈 一山全石撮土ナシ 樹皆石罅ヲ挾シテ出ツ 崎嶇虬曲石ト爭ヒ怒ル 近歳土人燧石ヲ採ル 白徹水晶ノ如シ 而シテ其質堅剛鑿リ易カラス、コブ石山ハ。補陀ト並ンテ北ニアリ 山ハ圓ニシテ髡 大石數十贅瘤ノ如シ 之ヲ仰ケハ將ニ落ントスルノ狀ノ如シ。山上東北海ヲ眺ス、

避雨洞 附双松橋。疊石。

潜浦右崖下ニ在リ洞中數十人ヲ坐スヘシ漁人雨露ヲ避ルノ處或ハ醴洞ト稱ス急雨暴風此洞ニ入テ之ヲ避クレハ其快醴ヲ嘗ムルカ如シ雙松崎ハ洞ノ東南ニアリ嶠上古松二株アリ故ニ名ク二株松南又一崎アリ小双松ト稱ス崎下磐石アリ平坦當ニ數十席ヲ列スヘシ蓋シ邦俗席ヲ謂テ疊ト爲ス故ニ疊石ト云フ漁人常ニ休憩ノ處ト爲ス此際海底多ク海參ヲ產ス近歲ニ至リ益多シ土人曰地脉金華山ト通ス故ニ此物多シト

大鮫灣。小鮫灣。細浦。室崎。

疊石ノ南灣ニアリ大鮫ト爲ス其灣南又一アリ稍小小鮫ト名ク細浦ハ小鮫ノ南ニアリ。室崎ハ又其南ニシテ其南ハ即チ室濱ナリ

譲善浦。椿田箭ハツ崎。繪ノ濱

潜浦北海水屈曲西山間ニ入ル數百步ニシテ。瑠璃峯東麓ニ及フ是ヲ譲善ト稱ス。椿田ハ矢ハツト共ニ其ノ北ニアリ繪ノ濱ハ椿田ノ西北ニアリ一ニ江濱ニ作リ松林百餘步林後田數十頃アリ

皇都島。

宮戶里濱前ニアリ島上ノ松樹蓊蔚密翠掬スヘシ或ハ誤テ小野小町姬國風ヲ賦スル處ト爲ス興井條下ニ見ユ土人相警メ躋ヲ許サス若シ濟ル者ハ必ス怪異ヲ見ル

大鍋島 附小鍋。屏風。涯島。沖島。

皇都嶋北數十步ニアリ陸ヲ距ル僅ニ十數步東灘。泊里濱ヨリ舟中之ヲ望メハ島陸分タス獨リ醫王寺前ヨリ望メハ殊ニ奇絕下二島亦然リ小鍋ハ其間相距ル僅三四步屏風ハ六七步島至テ小狀一折屏風ニ似タリ涯島ハ小鍋南百八十餘步里濱巷北涯ニアリ沖島ハ北百六七十步一名孤島又小島西南大小東灘ヲ距ル一里百五十餘步ト云フ

連屬(ツツキ)島 四島

里濱西背瀨戶濱前ニ在リ西島連續因テ名ク各五

六歩、其中西北ノ一島岩狀特ニ奇ナリ、島畔水底多ク石形圓平、大ハ則チ八九寸、小ハ五六寸、土人取テ屋鎮トナス。

裂キ岸、前島、芒（カヤ）前島

鰐魚淵南ニアリ、連續島ヲ距ル一里二十余餘　島崩裂三トナル、故ニ此稱アリ、前島ハ其南五十歩北、文蛤濱ヲ距ル三四十歩、カヤ島、ハ前島ノ南里餘、刈藻崎前ニアリ、島崎ノ間獨木ヲ以テ通ス、事既ニ刈藻崎ニ見ユ、島西南ハ傦立東涯諸島ニ對ス、

岸高島、沖高島、

芒草南六十餘歩ニアリ、一ニ鷹島ニ作ルハ非ナリ、鷹島ハ別ニ室濱ニアリ、沖高島ハ、南二百四十餘歩ニアリ、寒澤ヨリ之レヲ望メハ、衆島ノ東シテ月其上ニ出ルノ概アリ。一ニ迎月ト云フ、西ハ東涯ヲ距ル百八十歩、中間ハ宮戸、寒澤兩島海界ト爲ス、

瞪（メアキ）哉島、中野島、鷦鷯（ミソサザイ）島、爵（スズメ）島。

茅草東波靜浦前ニアリ、岩洞奇怪ノ狀、覽者瞪目ス故ニ名ツク、中ノ島ハ瞪島東二百六十餘歩、仰ケハ稻崎ニ對ス、一ニ小櫃島ニ作ル、ミソサ、イ嶋ハ瞪島西ニアリ、此際ノ島嶼多クハ鳥名ヲ以テス、此島至テ小、故ニ此稱アリ、ス、メ島ハ、中野ノ南三十七八歩ニアリ、土人曰ク、爵入ニ海中ニ爲ル蛤ト、海邊恒ニ之ヲ觀ル、此島邊殊ニ多シ、季秋千百ノ雀群ヲ爲シテ、悲鳴嘖々島ヲ巡ル數回、後ニ水ニ入ル名ヲ得ル所以ナリ、

大櫃（オネカラト）島、御洞崎、

中野東南五六十歩ニアリ、此際島嶼中最モ大ナル者ナリ、石色岩彩畫圖ノ如ク、東南隅ヲ御洞崎ト云フ、崎下ノ峭崖巨洞アリ、一ニ大洞崎ト名ク、小船ハ則檣帆シテ洞中ヲ往來ス、古ハ濱前風波アレハ、漁舟ノ出入ヲ險阻ス、沈溺ニ相係リ濱民之ヲ病ヒ、相謀テ此險ヲ穿テ以テ潮勢ヲ割ント欲ス、而シテ海水瀰漫波濤常ニ洶湧施スヘキノ術無シ、偶々寶桂寺住僧衆ニ謂ラク、我神夢ヲ感ス。必ス能ク之ヲ成

サント、乃チ寺中藏スル處ノ寶劍ヲ海ニ投シ、誠心禱請連日、潮忽ニ退キ廣斥ヲ爲ス里餘、乃チ濱民ヲ驅テ以テ之ヲ鑿チ洞遂ニ成ル、後永ク覆沒ノ難ナシ、民皆神助ニ據ルト爲シ、稱シテ御洞ト云フ、之ヲ尊フナリ、崎前ハ則紀島ナリ、崚峭上ニ長松羅列與ケ崎・花淵ヨリ遠望スレハ、他ノ諸島ヲ見ス、因テ此島ヲ海岸ノ標紀ト爲シ、島名ト爲ス、土人紀島崎トモ呼フ。

烏鵲（カラス）島、海鰕（エビ）、横根（ヨコネ）、波慣（ハナレ）、大小寧（オオネコネ）、

カラス島ハ、大櫃西南二百餘歩ニアリ、島形宛モ帆舶ヲ張ルカ如ク然リ、烏鵲ト名ク、其故ヲ解セス、エビス島ハ、大櫃ノ東百二十餘歩ニ在リ、一ニ黑島ト名ク、ヨコネ島ハ、エビスノ東六七十餘歩、大島前ニアリ、即チ筆樹・椎山ノ下ニシテ無名島嶼頗ル多シ、ハナレ一ニ離島ニ作ル、横根東百餘歩ニアリ、大寧ハ横根東南七十餘歩ニアリ、或ハ大根又大寢ニ作リ、小寧ハ大寧東北十五六歩ニアリ、一ニ小根小寢ニ作ル、

比類（ヒルト）寧島、羽島、育子（コモチ）島、繼子（ママコ）島、無名、

小寧東北十五六歩ニ在リ、島狀大小二寧ニ比類ス、故ニ此稱アリ、土人大小二寧ニ合シ、三寧島ト云フ羽島ハ比類東南二百餘歩崑崙崎前ニアリ、島上時ニ異鳥ノ墮羽ヲ觀ル、故ニ名ク、コモチハ崑崙北七八十歩ニアリ、左右奇岩大小錯峙、宛モ衆兒ノ慈母膝下ニ在ルカ如シ。ママコハ、育子ノ東四十歩ニアリ、島小ニシテ獨リ隔絶ス、故ニ此名アリ、無名ハ候峯東崖ニアリ、其他無名小嶼奇石甚多シ

卯花島、崎根、黑島、小鷹、大鷹、雷根

室濱前海ニアリ、土人前島ト稱ス、卯花ハ晶花ノ方言、賤家多ク栽シテ籬トナス、島低クシテ長ク濱前ニ横ル、潮汐觸激、濤沫噴灑、宛モ水晶花籬ノ如ク然リ、崎根ハ卯花北數十歩室崎ノ下ニアリ、黑島ハ、其東北百餘歩ヲ距リ、小鷹ハ其東百二十餘歩ニアリ、其北十六七歩ニ大鷹アリ、雷根ハ小鷹東南數十歩

ニシテ、盤石海ニ橫リ終ニ頭ヲ顯シ波濤觸湧ノ聲雷霆ノ如シ故ニ名アリ、

蜒寢島(アマネ)、

黑島ノ北百餘步ニアリ、蜒婦等海底ニ潛リ鰒魚ヲ採リ輙チ此島ニ憩息假寢ス因テ此名アリ或ハ雨念島ト稱ス歲大旱テレハ濱民島上ニ於テ雨ヲ龍神ニ祈念ス

瞭哉(メムキヤ)二島 曲瓊(ムカタマ) 戎服根(ヨロイネ) 松之島

蜒寢ヲ去ル四十餘步、疊石前海ニ在リ「二島相並ヒ一ニ日明ニ作ル曲瓊ハ潛浦左崎下ニアリ島頭水ヲ出ル八九尺、洞穴嵌空天劃神鏤眞ニ奇島ナリ、戎服根ハ、其東二百三十步ニ在リ磐石海底ニ橫リ、纔ニ其背ヲ見ル、松ケ島ハ、戎服ノ西北五百餘步ニアリ、松樹茂密故ニ名ク

四島、)

(寒澤四邊十島中、寄網二。三島山三。東涯二。通計十

寒澤島、

一ニ寒風澤ト云フ開老志塞風澤ニ作ル島ノ大サ宮戸ニ亞ク東西二里餘南北數百步東ハ宮戸ニ接シ北ハ鳳島ニ隣リ西ハ納囊ニ連リ西南ハ桂島。石濱ニ對シ島前ハ大洋灣ヲ成シ灣奥ノ東北ハ鳳島左右ニ通ス是レヲ松鹽環海五口ノ一ト爲ス而シテ大舶巨舟ハ石港ヨリ諸方ニ往來スルモノ先ツ此ニ就キ風便ヲ待テ後ニ發ス故ニ居民百餘戸皆津頭ニ列シ戸富ミ家贍ヒ器具整麗諸島中ノ繁華其右ニ出ル處ナシ

渡口。三百浦・寺崎。寒澤寺。松林庵。觀音堂。東源寺、

津頭東北ニアリ、納囊ト僅四五十步ヲ阻ツ常置航アリ三百浦ハ三小灣アリ其西北ニ相並ヒ長頭。振鷺。鳳ノ諸島ニ對ス是レヲ曰フ廣サ各百步因テ名ク寺崎ハ數百步東北ニアリ寒島東北ノ窮髮ナリ其東北ハ大小東灘箱崎ノ諸島ニ連屬シ崎南ヲ鰐魚潭ト爲ス寒澤寺ハ八家東南後ニアリ鹽釜法蓮寺ニ隷ス法印實圓創建ス彌陀畫像ヲ藏ス傳テ

神物ト爲ス、寺曾テ火アリ、像即チ飛去遠ク高城驛長慶寺裏樹上ニ落ツ遂ニ彼寺ノ藏トナル、其條下ニ見ユ松林庵ハ東南百五六十歩丘上ニアリ、松島瑞巖寺末寺ナリ、巡覧記曰ク實漢座元開基ナリ觀音堂ハ、其南數十歩ニアリ、創建詳ナラス、東源寺再考ヲ俟ツ。

日和山。屛風崖、大小平戸。雪御崎、

人家南ニアリ山甚タ高カラスシテ、南邊削壁海ニ臨ミ矚望善シ舟船津ヲ發スル風日ヲ候スル處上ニ長松五六株アリ松下神明祠前ニ燈標ヲ置ク高サ二丈許內二梯ヲ設ケテ以テ點火ニ便ス其要ハ昏夜舟舶津ニ入ルモノヽ爲ニ供スルナリ燈ノ左右皆佛像及梵字ヲ彫ス屛風崖ハ山南ニアリ、海ニ臨ミ屈曲匚字ノ如ク恰モ一屛風ノ如ク、隔絕シテ大洋ノ暴風洪波津頭ニ入ラス、舟船輻湊スル所以ナリ此地ノ繁盛ハ蓋此奇岩アルニ因ル、大小平戸ハ日和ノ南東三百餘歩ニアリ。何ノ義ニ取リ名クルヲ知ラス、雪御崎ハ小平戸東南ニアリ、崎下潮汐奔衝濤沫雪ノ如シ、故ニ名ヲトル

鹿磯(シカサキ)、鼈網島(アホレ)、寄網島(アヨセ)、前島

小平戸東地狹ニシテ堤ノ如シ、海ニ入ル數十歩其窮所ニ小山アリ、之ヲ鹿磯ト云フ、凡ソ島嶼ノ四邊峭崖皆削ルカ如シ。宮戸。寒澤兩島ノ棄鹿、海ニ游フ往來渉ル可キノ岸ナシ、獨リ此崎ニ寄ル。故ニ名ヲ取ル、崎ヨリ海ニ沿テ北里餘ハ、則チ鰐魚淵渡頭ナリ鼈網ハ三百浦ニアリ小島ナリ寄網ハ二島相並ヒ相距ル數十歩前島ハ日和山前六十歩ニアリ大洋ノ波濤此島ニ至テ足初テ歛蹙ス

夜景島(ヤケ)、冠軸島(カブトシマ)、三山島(ミツヤマ)

寒澤津前納囊東南眞島崎下ニアリ島ハ納囊ニ屬ス此ニ載スルハ、矚賞彼ニ在ラスシテ此ニ在ルカ故ナリ冠軸ハ前島東南二里許リ大洋中ニ在リ、狀ヲ以テ名ク、三山ハ冠島ノ東數百歩、大平戸西下三小島ト並ヒ立ツ。

青島。東涯島。筒立島。

三山島ヲ距ル東三里　鹿崎東南三百六七十歩ニアリ、東涯ト十五六歩距ル、其北ハ鰐淵筒立島之ニ並フ

（鳳島四邊十島中筐崎島二。島通計十一）

鳳島。

寒澤三百浦北ニアリ、一ニ朴島ニ作ル、古鳳凰アリテ栖ム故ニ名ヲ取ル島ノ周回五六里山多ク田少シ東南ニ漁家二十三戸アリ　山ニ背シ海ニ面シテ居ル　開老志曰　鳳島海岸ニ牡蠣ヲ産シ極テ巨大甘美名産ナリ　島民置ク所ノ神明祠アリ

東峨崎　虹崎　神明祠　筐崎　二島、道人根（キヨウニンネ）

鳳島東隅ニアリ　今東サキニ作ル、東灘・宮戸ノ諸區ヲ望ム　尤佳境ナリ　虹崎ハ鳳ノ西隅ニアリ　今西崎ニ作ル　西ハ納囊採藥ニ對セリ　神明祠ハ後山ニアリ　創建詳ナラス　筐崎二島ハ相並ヒ其ノ間十歩許リ、鳳島ノ東北數歩ニアリ、四邊峭崖嶺上多ク茅草ヲ生ス。道人東ハ二島ノ西側ニアリ。磐石アリ之ヲ曰フ、古道士アリ　道筐二島上ニアリ　修煉潮水ニ浴シ此石上ニ立ツ　今釣舟漁船過ル者、誤テ石ニ觸ルアレハ其日絶シテ獵ナシ　故ニ土人相識テ近カス

百刈根　大小鯨二島　振鷺島　小人島

筐崎北數十歩　海底磐石ノ最大ナル者ナリ　鯨二島ハ鳳ノ西北百二十餘歩ニアリ　鷺ハ鳳西六七十歩ニ在リ　島ノ大サ鳳島ニ亞ク　田數十頃在リ　四邊灣礁凸凹大ニ趣在リ　小人ハ鷺西百餘歩ニ在テ小ト雖トモ岩狀奇異愛スヘシ

長頭島（ナカツムリ）　道士浦（ヤマフシ）　黄雀島（スヽメ）　鵰鶚島（ミサコ）　笹石　螺石

小人西百餘歩ニ在リ　或ハ長津森又巨島ニ作ル　周回四里上ニ峯嶺多ク西ヲテリツクモリ　南ヲ大モリト曰フ　古異人在リテ棲ム　短身長頭世ノ圖スル所ノ南極老人ナル者ニ似タリ　因テ島名ト爲ス　西南ハ納囊北ハ漆崎ニ對ス、道士浦ハ　長頭ノ西南灣ニ在リ。スヽメハ、長頭ノ西二十五六歩ニ在リ、以下

螺石ニ至ル、凡ソ四島ハ、松島人之ヲ總稱シテ螺石ト曰フ、ミサコハ、雀ノ西側相距ル僅ニ四五歩ニ在リ、笹島ハ其北ヲ距ル八九歩、イホ石ハ、ミサコ石南五六歩、島上岩狀或ハ螺鬟ノ如シ、故ニ名ク、

納囊島及庵、觀音堂、熊野祠、四邊十二島、

鳳島西南寒澤西ニ在リ、一ニ野野島ニ作ル、一海口ニシテ大亦之レニ亞ク、居民二十戶、島ノ西南ニ居シ、桂石二所ニ對シ、居室巨富之レヲ寒澤ニ比セハ、利俗囂雜ノ煩ナク、閑逸蕭寂且ツ水田多クシテ、税輕ク徭簡、物力餘リ有リ眞ニ樂土ナリ、庵ハ島ノ人家後山上ニ有リ、前ニ觀音堂ヲ安ス、享保中、島民正右ナル者、庵堂併テ創建スル所ナリ、堂中ニ正右夫妻ノ塑像ヲ置ク、正右ハ島ノ豪富、性施ヲ好ミ人ノ急ニ赴キ、自已ノ私ヨリ甚シ、其善行美跡傳フ可キ者多シ、此ニ其一ヲアクレハ、昔獅山公未タ世子タラサルノ時、松島天童庵ニ在テ學フ、一日學ニ倦ミ、獨自ラ輕舟ニ棹シ、島嶼間ヲ徘徊ス、時ニ颶飈カカニ發シ、舟飛フ矢ノ如ク、狂濤奮湧將ニ沒セントスル者屢ナリ、人多ク岸上ヨリ之ヲ望ム、而シテ之レヲ救フノ術ナク、徒ニ號呼スルノミ、公初テ棹ヲ採リ舟ヲ回サントスレハ、風益暴レ濤益狂フ、乃チ棹ヲ投シテ坐シ、叉手稿然タリ、既ニシテ舟ハ濱戶浦ニ及ヒ、大洋ニ入ラントス、舟適マ柏樹島（納囊ニ在リ）ニ寄ル、然レトモ洪浪島上ニ懷キ殆ト免レス、正右之ヲ遠見シ大呼シテ曰ク、咄々漂流人有リ、即チ僮僕數十人ヲ以テ、百計之レヲ救フヲ得タリ後公封内ヲ巡視シテ此ニ過ル、先ツ正右ヲ召シテ曰ク、颶風ノ難厚意久シク報セス、乃チ欲スル處ヲ問フ、曰ク、有ル無シ公之ヲ强ユ、則チ默思之レヲ久シテ曰ク、願クハ島上ノ租税ヲ輕クシ。島民ト共ニ恩澤ニ浴セント、公之ヲ容ル、故ニ此ノ地租税他ニ比スレハ三分ノ一ニ過キス、是ヲ以テ島民正右ヲ德トシ像ヲ設ケ之ヲ祀ルト云フ、熊野祠亦タ島民ノ祠祀ト云フ、

明月洞 夜神藥崎 正右洞 探藥崎(クスリカサキ)

人家西崎腹ニアリ 圓形丈餘 藥崎ハ其北ニアリ 鞍懸島ヲ下臨ス 正右洞ハ一ニ左右鑿道ト云フ 神樂ノ北地東北ニ走ル里餘 其盡ル處ヲ漆樹崎ト爲ス 洞ハ其ノ中間ニ在リ 古來島民舟船ノ寒澤ヲ宮戸ニ往來スル者 漆崎ヲ經ルノ迂廻ヲ病フ 正右之レヲ穿チ 以テ島民ヲ便ス 唯タ島民ヲ便スルノミナラス 是ヲ過ル船舟風雨ニ値ハ輙チ皆就テ之レヲ避ク 探藥崎ハ洞口ヨリ入リ 其ノ東南ニ出テ、長灣アリ 之レヲ鵰浦ト曰フ 島民灣奧ヲ杜キテ水田トナス 灣ノ東南岸ヲ探藥ト爲ス 東北ハ鳳島ニ對シ東南ハ寒澤三百浦ニ臨ミ 西南ハ寒澤渡ナリ

眞鳥崎 擲瓦崎(カハラナケ) 不毛崎(ケナシケ)

寒澤渡頭西南ニアリ 人家ヲ俯臨ス 瓦ナケ崎ハ其南ニアリ 不毛崎ハ又タ其ノ南ニ在リ 之ヲ納囊南隅崎ト爲ス 大洋ノ波濤奔注岩實ノ奇怪、名狀スヘカラス。

濱戸浦 中島居島 鵜躋島(ウノオリ)

納囊、桂二島間ニ在リ 舊其途ニ作ル 因稱ヲ以テ今名ニ改ム 鹽松環海五口ノ一 中島居ハ 納囊ノ人家前ニ在リ 舊名不鳴鳥居 曾テ水鳥アリ名ヲ知ラス 朝來テ夕去ル 只此島ノ左右ニアリ 其鳴ヲ聞者ナシ 因テ島名トナス 鵜躋ハ中島ノ南十歩ニ在リ

松島人是レ亦中島居ト稱セリ

栢樹島 小人島 登鵞島(ノホセカシマ)

中島居西八九歩ニ在リ 或ハ河沙藏ト曰フ 全島一巨岩穿テ三洞トナス 大サ各二丈許 方正修潔屋室ノ如シ 毎洞窓牖三四アリ 以テ明ヲ取ル 中洞一口ヲ穿通ス 島背各二井アリ 水淸クシテ其舟舶島前ヲ過ルモノ必ス汲去ル 左右炉アリ 厨アリ 皆岩ニ刻シテ之ヲ作ル 土人曰フ 享保中 富民正右之ヲ穿テ 造船ノ處ト爲ス 乃チ船匠百餘人ヲ充タシメ 丁々鏗鏘ノ聲日夕斷タスト 相傳テ當時ノ喧噪ヲ說ク 小人ハ其ノ南五十餘歩ニ在リ 振鷺島西ニ同名

アリ、已ニ見ユ。登慧ハ小八ニ並ヒ、松島八之亦タ小
人ト云フ。

掛田島

小登二島ヲ距ル東南三百五十餘歩、不毛崎前ニ在リ、一ニ鷹ノ巣、又陰多ト稱ス。島狀峻峭田字半天ニ掛ルカ如シ、故ニ名ク 或ハ謂フ 長至ノ日陰尚多シ、陰多ト稱スル所以ナリト 又曰ク 鷹常ニ其嶺ニ巣ス 故ニ名アリト 觀迹聞老志曰、納囊東ニ一島アリ、鷹巣ト云フ 山形殊ニ崔嵬層崖石ヲ疊ム一盆石ノ如シ、逆浪斷岩ヲ遶リ潮聲曲磯ニ鳴リ、皆勝絶ナリ 島東寒澤津前前島ヲ距ル百九十餘歩 南石濱落星崎小島ヲ距ル百八十餘歩

鞍掛 大島 犬島 神樹(サカキ) 漆樹(ウルシ)

納囊人家ノ北、夜神樂島南ニアリ 松島ニ同名アリ 大島ハ 鞍掛西百三十餘歩ニアリ 一名手代 西側ニ一奇岩アリ、水鳥飛顧ノ狀ノ如シ、犬島ハ 大島ノ北百五十餘歩ニアリ。狀大島ニ似テ小。旁一石アリ。一點ヲ加ルカ如シ 故ニ犬ト云フ、命名ノ巧ト謂ツヘシ 神樹ハ鞍掛東北百餘歩、漆樹ハ、其ノ東北四百餘歩ニアリ、島北ハ長頭・螺石諸島ニ對ス、

（桂島四邊二十七島中、盃雷二、分裂三、駒二、通計十七島。）

桂島

納囊島西南ニ在テ、濵戸ヲ隔テテ相對ス。一ニ桂華又桂子ニ作ル、島上秋夜月色清朗、桂華桂子ヲ墜ス故ニ名クト 亦タ巨島ナリ、島形琴ニ似テ、戌額・長尾額ヲ桂島ト爲シ 尾ヲ石濱トナス 田圃多シ 居民二十戸、東北濵戸ニ面シ 高低地勢ニ從テ居ル、

桂島明神祠 松崎 諫皷崎

桂島ノ西琴舌ノ所峭崖百餘仭アリ、其上翠松鬱茂松崎祠ト云フ舊此ニアリ、鹽竈枝祠十五區ノ一、後崎崖崩斷祀路絶シ、濱民相謀リ、舊祠東人家ノ西背高所ニ新營シ祭祀ヲ便ニス、東北人家背ノ奇岩、海ニ臨ム所ヲ諫皷崎ト稱ス、傳ニ曰ク 崎狀隺皷ノ如

シ、苔色蒼然故ニ之レヲ堯ノ諫鼓ニ譬テ名ト爲ス。後チ崩壊舊狀ヲ失シ其名ヲ存スルノミ

桂島庵

人家南背丘上ニアリ瑞巖末寺、其剏詳ナラス庵西南水田ニ臨ム昔僧西山此庵ヲ修觀シ嘗テ和歌ヲ賦ス

　友ナレヤ松吹ク嵐浦ノ波夜ノ寢覺ニ山ノ端ノ月

西山後チ富山ニ住ス巳ニ見ユ

牛臥崎 琵琶首崎、石濱、淨國庵、山神廟、

松崎西南ニアリ、狀臥牛ノ如シ、頭所尤モ奇ナリ尖岩對峙双角ノ如シ、且崖足洞竇ノ奇名狀スヘカラス、琵琶ハ、牛崖ニ從テ海ニ沿ヒ、東南五六百歩ニアリ、亦タ狀ヲ以テ名ヲ取ル、桂、石二濱此ヲ以テ南邊ノ界ト爲ス、石濱ハ桂ノ東南ニアリ、居家二十餘戸東北ハ納甕ニ對ス淨國庵ハ石濱漁家ノ後ニアリ、其創詳ナラス、瑞巖末寺、山神祠ハ、後山上ニアリ、創始詳ナラス或ハ曰フ、文安中、島民祠スト、然シテ林木交レ陰叢祠隱レ景靈機深奥其ノ古祠タルヲ知ルヘシ

落星(イシハマ)崎、兒島、雛子(トリコ)島、岸屋島、船入島、

落星崎二十餘歩ニアリ雛子ハ、兒島ノ南四百餘歩ニ岸屋ハ其東十五六歩ニ船入ハ雛子ノ南二十餘歩ニアリ南北百餘歩東西三四十歩、海上ノ舟船寒澤ニ入ル者皆此島ヲ以テ標ト爲ス、故ニ名ク、明神祠アリ後考ヲ待ツ

水島、沖高島、崖屋高島、雷盆(スリハチ)、飯鉢二島、松崎、駒島、小駒、

舟入東三十歩ニアリ、甚タ小、或ハ美津ニ作ル、沖高島ハ、其東三十五六歩ニアリ、高峻攀ヘカラス、岸屋島ハ沖高ノ北十歩、島狀岸屋ニ似テ高シ。雷盆ハ石濱人家前渚ニアリ、二小島相並ヒ巨石ノ如シ、壞崩其根オカニ存ス、松崎ハ桂島西北松島ニアリ、故ニ名ク其西北二百歩駒島アリ、小駒ハ、又其西二百歩ニアリ、

分裂島三

松崎ノ西八十歩ニアリ、島舊一ナリ、後チ裂テ三トナル、土人各命名ス。其一ヲ藻根又ハ藻畝、二ヲ茅草、三ヲ分裂ト云フ、島足ノ水際白砂雪ノ如シ、宮戸藥王廟下ト全ク同シ、

鑛(カネ)島。

分裂西南六十餘歩ニアリ、島腹皆竇穴洞徹礦山ノ如シ。一ニ鼎島ト云フ。見ル所ノ方面ニヨリテ狀ヲ異ニス、故ニ異稱アリ、東牛崖ヲ去ルノ南隅百二十餘歩ニアリ、

鐘打島、鷺島、架橋(カケハシ)、金剛(ニワウ)

鐘ノ北九十歩ニアリ、或ハ金氏ト云フ、島西茶臼ヲ距ル百二十餘歩、鷺ハ其北六十歩ニアリ、二王ハ其東南百八十餘歩ヲ隔テ、其狀金剛力士ノ怒テ兩劈ヲ張ルニ似タリ、故ニ名ク、

言島(モノイヒ)、小言、水戸島

金剛南十五六歩ニアリ。大・小二アリ。相距ル數歩。昔晋ニ石ノ言フアリ、此島亦言ヘルアルカ、或曰、昔與崎・桂島ノ漁人屢海界ヲ爭フ、各此島ヲ以テ己ノ所屬トナスナリ、郡吏定議以テ橋ヲ二島間ニ架シ界トナス、是ヨリ爭ヒ長息ス、郷俗諍論ヲ以テ物言トナス、因テ島名トナス、水戸ハ其東百餘歩ニアリ、

舞鶴島、地藏島

桂島南背、牛崖、琵琶首兩崎間ノ汀前ニ在リ、島民舞島又前島トナス、南水戸島ヲ距ル百八十餘歩、地藏ハ言島ノ西南百餘歩ニアリ、狀禿頭ニシテ立ツカ如シ、一ニ薩陀島ニ作ル

千鳥島

言島ノ南九十餘歩ニ在リ、南巨舟ヲ距ル百五十餘歩(巨舟ハ前卷ノ鹽浦島嶼中ニ見)其間ハ島嶼兩區ノ海界ナリ、

鹽松勝譜卷之十三　畢

鹽松勝譜卷之十四

地宜部目次

藻鹽　昆布　水松

五彩霰　南京糖　梅花

水飴　感德丸　藻鹽糖

沙魚　棘鬣魚　鱸魚

海鰻　鰻鱺魚　篭竹

梅花貝　古瓦　蘆

鮒　可溺子　蹲鴟

鰒　文貝　金色沙

牡蠣　鱠殘魚　淺利貝

十府菅席　桑箸　ヲホロ豆腐

角遠古之　醴　跳菟兒

湯羹豆腐　松蕈　松剝鹵纎

松葉淡婆姑　牡丹　茶筅

竹箸　紅蓮煎餅　石爐

陶器　竹　實竹

蠶板　鹿角菜　蕨

桔梗　松島膏藥　卷柏

雨漏草　石長生　海州骨碎

石斛　木葉石　王綱

蓴菜　金性丸　太藺席

蛤利　白砂　ヒウチ石

海參　松島金

物產目次終

鹽松勝譜卷之十四

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校計

地宜部

鹽松江山ノ廣キ。地宜物産寔ニ殷充ナリ。而シテ筐貢包獻ノ重ハ。則チ載テ盛典ニ在リ。是ノ編錄スル所僅々翫好ノ属ノミ。要スルニ探勝按蹟ノ士裝ニ易ヘ。「齎シテ歸遺ト爲スナリ。（歸遺ハ土産ナリ。）

藻鹽。

鹽浦ニ出ツ。古鹽神ノ鹽ヲ製スル二方アリ。一ハ則チ海藻ヲ採リテ之ヲ燒ク。是ヲ藻鹽ト曰フ。二ハ則チ潮水ヲ汲ミ即チ之ヲ煮ル。後世鹵土水ヲ取ルノ法。石釜ヲ用キルノ方出ツルニ及ンテ。鹽精ニシテ饒シ。是ニ於テ古製咸ク廢セラル。而シテ鹽浦獨リ僅ニ藻鹽ヲ製ス。然レトモ其ノ之ヲ製スル者。僅ニ自家ノ用ニ供スルニ足ルノミ。享保中。官私製ヲ禁ス。是ニ於テヤ鹽浦ノ藻鹽全ク廢ス。蓋シ古來朝紳國風此ノ地ヲ詠スルヤ。多ク鹽烟ヲ賦シテ以テ興像ヲ敗ル。故ニ世ノ遊人・騷客。或ハ名勝ノ徵ナキヲ惜ム。偶々獅公鹽廟ニ事アリ。其次浦ノ勝ヲ遊覽ス。時ニ里正邊見正右衛門ナル者。國風一章ヲ上ル。公見テ之レヲ感シ。即命シテ其ノ禁ヲ蠲クト云フ。國風ニ曰ク。

海士ノ燒ク藻鹽ノ烟人問ハヽ千賀ノ浦波ヲ伊加々答ヘン

昆布。

華淵前海ニ出ツ。其製造貨物ハ。則チ鹽浦及ヒ松島ニ於テ之レヲ鬻ク。而シテ鹽浦越後屋ナル者。其製菓子昆布・花昆布・根昆布・椒昆布等數品アリ。就中花昆布ハ百花ノ樣ヲ爲タリ。其製最モ精ナリ。又タ淺綠ト名クル者最モ上品タリ。甞テ之レヲ武者小路黃門ニ上ル。黃門之ヲ美トシ。賜フニ淺綠ノ名。及

ヒ和歌一首ヲ以テス。曰ク。
ナカムラン八十島カケテ淺緑霞ヅタテル鹽竈ノ
浦
延喜式交易雜物陸奥曰ク。昆布六百斤全細一千斤。

水松(ミル)。
鹽浦。松島皆之レアリ。

五彩霰(コシキアラレ)。
鹽浦家々之レヲ鬻ク。餅米ヲ以テ之レヲ製ス。木欒子ノ如シ。染メテ五色ト爲ス。絲ヲ貫キテ念珠ノ如シ。粲然愛スヘシ。然レトモ食ニ中ラス。止タ小兒ノ弄ニ供スルノミ。

南京糖。
鹽浦ニ出ツ。其製糯籾ノ屬。甘脆最モ口ニ可ナリ。

梅花(ヒシホ)。
鹽浦ニ出ツ。金山寺豆豉(ヒシホ)ノ類。而シテ香味淸絕ナリ。

水飴。
鹽浦松島倶ニ之ヲ出ス。其色潔白之ヲ甞ムルニ滓ナシ。

感德丸。
妙ニ眼疾ヲ治ス。鹽浦宮町櫻井某家之ヲ製ス。相傳ソ鹽竈神夢ニ授クト

藻鹽糖。
鹽浦赤阪古梅園ノ製ニシテ之ヲ鬻ク。

沙魚(ハセ)。
鹽松皆アリ。鹽浦最モ多シ。秋末冬初餌ヲ受クルノ候ハ釣舟江ニ滿ツ。詩小雅。魚麗于罶。和漢三才圖會云。彈塗魚。俗ニハセ。川末近海ノ處多シ。常ニ水底ニ潜行シ。小蝦ヲ以テ餌ト爲シ。綸ノハシ釣ヲ去ル二三寸許處。鉛錘ヲ着ケ鈎ヲ地ニ附シ俟テ揚ク。秋冬ノ交貴賤以テ遊興ノ一ト爲ス。形色鯒ニ似テ小細鱗體略ホ滑カニ。口濶腮大眼上ヲ向ク。斑點微黑ヲ帶フ。尾亦小斑有リ岐ナシ。虎彈魚。袮彈魚。飛彈魚等ノ類多シ。

棘鬣魚。

鹽浦松島皆之レ有リ。邦俗誤ツテ鯛ニ作ル。

鱸魚。

鹽松同ク有リ。夏日炎熱ニ酔ヒ。或ハ藻間ニ浮フ。竿頭鉤ヲ施シ掛テ之ヲ取ル。

海鰻。

鹽松海環リテ多ク有リ。鹽浦ノ出味太タ輕シ、絶テ膏氣無シ。四方之レヲ稱ス。

鰻鱺魚。

鹽浦松島共ニ多ク有リ

篠竹。

鹽浦・松島隨所之レ有リ。其質硬ニシテ折レス、籬島己ニ見ユ。

梅花。

同上。

古瓦

多賀城墟及ヒ塔ケ原ニ出ツ。己ニ詳ニス。蓋瓦多ク野焼兵燹ヲ經、夫ノ硯材ニ作ルカ若キ者　宜ク焼ヲ經サルモノヲ撰フヘシ　又タ案内里西安養寺ノ跡、亦タ之ヲ出ス　其質多賀城出ス所ノ者ト全ク同シ。而シテ世之ヲ知ル者希ナリ。觀蹟聞老志ニ曰ク。事ヲ好ムモノ多賀城。及ヒ木ノ下ノ古瓦ヲ取リ　以テ硯ト爲ス。堅剛細密書房ノ具ト爲スニ足ル。

多賀城瓦研歌。　頼　襄。

東奥昔建多賀城、城廢碑存空聞名。去京一千五百里。曾知碑本記道程。吾欲一往觀王略。未理鞋襪夢空行。田翁贈我瓦半玦。得之城趾手摩刮。驀背爲研發墨光。質如洮石聲如鐵、摩挲浪紋豁素心。恍登遺墟望靺鞨。憶昔重鎮扼西喉。臣東人臣猶修。當時邊籌奉廟算。往々貂蟬出兜鍪。漢議不錄郅支頭。唐節遂委營胡西。鬼武呑攫四十郡　此城定遭復隍秋。曾收狼邦歸衮黼。重視鳳詔混文武。殘壘未復又沸羮。舊部入援聊破斧。河北遂歸獨眼龍、猴公草々理疆封。豈暇文精諮故吏。空將儲胥附老農。鴉背無日劚蒙茸。鴛羽有時逢犂揰。謝君好古同吾病。

使吾盜濼萬古胸。嗚呼溯自文政至寶。字無限變遷同此地。邊霜淬礪一片翠。製造猶見異澆季。昔曾受箭今受筆、多汝文事兼武備。作詩叙古汝應記、

自註云。洮河唐西北邊出硯材。青黑色。後三年之戰　朝議以爲私鬪。不下官府。源氏乃弃武衡家衡之首于途而歸　略似陳湯矯誅郅支。而匡衡等議不下賞　安錄山營州雜胡。　以喩秀衡襲祖父六郡酋長。而爲鎭守將軍。　狠邦鳳詔用源頼義表中字。　而叙建武中興遣北畠氏。鎭奥事。其時詔背言。文武古不岐。沸羹破斧。言足利犯闕奥軍入援。李克用眇一目。稱曰獨眼龍

雜識　　釋古梁。

多賀城古瓦有布紋。堅密可研、然千年外物。殊不易得、得之者極爲寶惜焉、江都一友人簡而求之懇至徧求之不得　聞一士人之家藏之、文綾珍襲不啻銅爵瓦也　以書畫數幅換得之。以遺友人。自謂其喜可知　自後寂無報、經數月有書云、僕好遠遊。脚跟生厚皮。欲得布紋瓦片以硤之、都下近陶者絶無有布紋者。依鹿得之。然每浴用磚漸就漫滅。請暇日命莊丁堅嵒之付商舶見貽矣

脚跟生厚皮用布紋瓦片磚之極妙　出物類相感志

友人盡讀之。

多賀城古瓦硯銘　　應洞巖當

金玉其相、甸圭如璋。德音無瑕、何以不藏。秉心塞淵、日求厥章。以介眉壽。萬壽無疆

經多賀城跡。尋古瓦不得。入林間。適聞少婦唱歌。因作

武龍羽人

何邊存古瓦。千古少人知。稍似銅臺跡。歌聲春女悲

松管筆以本松山松作之以與宮城野萩管共稱爲文房雅品。

宮城野萩壽衛山松二筆賦以題爲韻並序

清閩　朱華綠池

辛丑仲夏十日雨窓閑坐　偶憶案頭所貯松萩兩

稱名筆、爲貴處操觚家所雅好也。余亦喜其淸幽不俗、奚賦一篇。以補王右軍筆經記載之闕云爾。

綠池氏遨遊斗外。寓於崎陽館中。越國間禁入境探風、博觀方物之誌。窮捜產語之叢。有二客自稱中書君。詣予請評曰、在昔蒙恬、中山屯營、獵取毛穎、封管城。遣我後裔遠適東瀛。一投萩氏。一倚松卿。性耽翰墨。職掌文衡。片言乞錄、藝苑馳名。予曰、嗟綠沈漆竹久擅風流。赤管霜毫、夙傳精雅。惟光頭之勇健、行若遊龍。豈禿髮之衰殘、材堪倚馬。騰蛟起鳳、隨指使於即墨之鄉。芳桂淸風、應渲染於浣花之野。鼠鬚妙品、未足比其淸華。麟角名珍、莫能方其瀟灑。維時客其萩姓者歌曰、宮城之野兮草名萩。有美一人兮氣橫秋。比芳蘭於湘浦兮、德音堪賞。譬香芷於沅水兮、芬味莫投。弱不勝衣兮、隨風颺去。談以明志兮、於世何尤。詞壇掉臂兮歌舞、墨陣連芳兮氣求。問予懷兮渺々。含文士兮誰可與遊。又其松姓者和曰、維壽衛之松兮、挺奇姿之森茂。張翠蓋以參天兮、列靑氈於遠岫。何假寒如龍盤兮、幹鬱結若鱗皺。矢孤危以風操兮、不改歲寒。甘澹薄以葆其兮、獨登仁壽。風華掩映、倚君子之居兮。楮墨生芳、舉止軒昂、入幽人之室兮圖書並秀。予聽畢、情爲之移、神爲之契。知托體之淸奇。想爲物之鋒銳。或入夢而生花、或凌雲而折桂。或幻五色於毫端。或畫雙娥於眉際。或麟史獲狩以絕書、或終軍從戎以投袂。或龍文寶鼎、力健獨扛或硬紙銀鈎、腕落得勢。或文無加點、裁成丹詔於殿廷。或手不停揮、立就羽書於武衛。既含毫而欲眇、不隨彫飾爲低昂。惟秉質之精良、豈假淸幽於礙側。故其爲體也、機圓於潤。神靜而閑、取澹遠之丰神。品似蒹葭秋水。探孤高之雅藻。格同洪澳春斑。揮灑自如、惟守正乃能不曲。飛揚盡致、斯質直方可轉圜。落紙有聲、髣髴秋風鳴綠野。臨文不俗、依稀夜月照松間。喜學士之吐揚。當侍燃藜於午夜。

怜寒窓之刻苦。相資攻錯於他山。且其爲用也、拂楮呻吟、欲歌欲泣、濡毫抒寫、或横或縱、似驚蛇之入草焉、似枯藤之絆松焉、似懸岩而勤馬焉、似隆石於高峯焉、力大如椽、漫道輕同弱草。鋒芒比及。諺云鈍若頑縱。倘載酒於東皐。錯認伊人舊址。脫巡行於泰岱。却疑處士遺封。矧夫遠隔中華。分區異地、極日本之邊陬。接扶桑之壤次。秋暮野望、花槃々而垂條、冬嶺霜侵、樹蒼々而疊翠、海國共侈爲奇觀。文房用資爲利器。是其脫穎也、雖殊、而其書空一也不二、我朝聖天子、德化覃敷、聲敎洋溢、珍奇厥貢諸殊方、品玩聿猷於帝室。修文偃武、寶貴橐簪、造士作人、雅重不律、故青鏤有異數之頒。彩毫有三品之秩。珊瑚作綱、每借衆屋齊名、瑇瑁爲衣、詎別竹脉異質。則萩枝之吐穎而芳華、松管之凝毫而秀逸、嘗入南國以揚鑣、爰賦東方之名筆。

蘆(コシ)。

八幡村、及ヒ蒲生ニ出ル者、篳篥ヲ作ル、其音清亮山城鵜殿ノ產ニ減セス

鮒(フナ)魚。

隨所アリ 阿。赤羽湖、及ヒ加瀨湖ニ出ルモノ骨柔ニシテ味美ナリ、

可溺子(ソハキリ)。

出鍬里ニ出ツルモノ、製造精絕、他產ノ比ス可キ無シ、

蹲鴟(サトイモ)。

隨所之アリ 而シテ田子村ヲ名產トナス、圃僅ニ數十步一畝ヲ隔テハ則チ佳ナラス 觀迹聞老志曰ク田子村ハ好蹲鴟ヲ產スルヲ以テ一國之レヲ稱ス、

鰒(アハヒ)。

鹽松海所在之レアリ 而シテ青松。花淵。吉田。宮戸最モ美ト爲スナリ 肉肥エ殼外ニ溢レ出ツ 土人曰ク、寬永丁丑ノ洪水 吉田。花淵海中鰒咸ク死ス、遺種有ル無シ 其明年郡吏村田吉輔ナル者、濱民ヲシテ金華海上ニ、鰒ノ大ナル者三千餘口ヲ捕ラシメ、

以テ之レヲ種ユ、而シテ漁ヲ禁スルモノ三年。故ニ復スト云フ。

文貝。

海濱隨所之レアリ、南青松濱最モ多シ、

金色沙、

金色汀ニ出ツ。

牡蠣(カキ)。

鹽浦•松島隨所之レアリ、而シテ東宮濱、及鳳島名産タリ、

鱠殘魚(シラウヲ)。

大代•牛渚ニ出ツ、相傳フ、舊ト此ノ魚ナシ、安永中。藩侯命シテ此ノ種ヲ東都品江ヨリ舶致シ、以テ此ニ種ユ、後數年生息浸々廣ク處々ニ産ス、然レトモ此ノ地ノ多クシテ。且ツ美ナルニ及ハサルナリ。

淺利貝。

處々ニアリ、而シテ潮乾島(ヒツケ)ノ左右ヲ以テ名産ト爲ス。

十府菅席、

古昔都府ノ地多ク之レヲ産ス。席ヲ織リテ以テ四方ニ布ク、今小池アリ、僅ニ其草ヲ存スルノミ、觀跡聞老志ニ曰ク、鎌倉右相(實朝)ノ國風ヲ觀、始メテ十府ノ菅席古製甚タ美アルモノアルヲ知ル、(國風ニ曰ク、文席緒仁成廝天仁戀和飛奴下折布良之十府之菅薦、)或ハ染メテ彩ヲ爲ス、或ハ織紋ト爲ス、故ニ之ヲ縉紳貴遊ニ供ス、之ヲ雅客ノ綺筵ニ用ユ、宜也名産ノ稱ヲ擅ニスルヤ、而シテ之レヲ賞詠スル者多シ、今高城驛左右ノ村里、太蘭席ヲ出ス、蓋シ其遺製ナリ、

(太蘭席見後。)

桑箸、

青麻神祠ニ出ツ、常ニ食スルニ此箸ヲ用ユレハ、絕エテ風疾ノ患ナシト、事已ニ青麻神祠ノ下ニ見ユタリ、

朦朧豆腐(オホロトウフ)、

今市巷驛店皆之ヲ製ス乃チ豆乳其味甚タ美ナリ人之ヲ稱シテヲホロ豆腐ト謂フ　又玲瓏豆腐ニ作ル。（學語編。ヨセトウフ。豆乳。ヲホロ是ニテ然ルヘキ歟。）

角遠古之(ツノチコシ)。

又今市巷ニ出ツ餅米ヲ用ヒ或ハ黄粱蒸乾シテ再ヒ之ヲ炒リ。和スルニ飴ヲ以テシ獸角ノ狀ヲ爲ス名ケテ角ナコシト曰フ。（順和名抄ニアリト可レ考。）

（鹽竈ニ住スルモノ糊饒ヒテ之ヲ買フ家ニ回リテ隣家ニ分送ス鹽浦道路土宜ト名ツク。）

醴(アマサケ)(?)

比丘尼坂上家々之ヲ售ク

跳莵兒

比丘尼坂ニ出ツ　蒲葉ヲ以テ小莵兒ヲ爲クリ椒仁ヲ以テ眼ト爲ス之ヲ竹片上ニ坐セシム。竹背其半ヲ絲ニシ細片竹ヲ以テ前端ヨリ其絲ヲ銜マセ此ニ反シテ後端ヲ漆シ以テ之ヲ席ニ置ク　少焉クシテ膠離レ片竹席ヲ擊チ莵跳躍ス　小兒喜ヒテ之ヲ嬉遊ス　遊フ者俚道セサル者ナシ

湯葉豆腐

案内里ニ出ツ　其製秘傳アリ　之ヲ切ル細縫絲ノ如クシテ斷エス　世之ヲ呼ヒテ案内湯葉豆腐ト曰フ

譚海ニ曰ク　仙臺府城東半里許巷アリ原ノ町ト曰フ　訛リテ按内ノ里ヲ原ノ町ト爲ス　湯葉豆腐ヲ以テ名產ト爲ス其製細緻毛髮ノ如シ　箸ヲ用ヒテ之ヲ挾ミ以テ客ニ供ス　未曾斷絕セス。時アリテ邦君ノ調膳ニ供ス是レ他邦ノ有ラサル所　實ニ土產(?)ト稱スルニ足ル

松蕈(マツタケ)

松島々上多ク之ヲ生ス　芳香淸絕大ニ他產ニ異ナリ　曾テ遊客アリ甚タ之ヲ美トス　松島ノ僧ニ謂ヒテ曰ク　師松島ニ住ス　獨リ山水ノ福ノミナラサルナリ　亦タ食福アリ　僧曰ク　子輕メテ之ヲ賞ス　而シテ魚ト熊ノ掌ニ孰若シ　客曰ク　我熊ノ掌ノ舍テ

、而シテ之ヲ取ラン　人亦多ク以テ然リト爲ス也
ト秋月蕈盛ンニ生ス時ニ遊客輕舟ニ棹シ島嶼ノ
間ヲ徘徊ス　松陰深キ所ヲ撰ミ舟ヲ寄セテ之ヲ采
ル筐筥ニ盈チテ而シテ歸ル士人之ヲ狩蕈舟ト謂
フ　誹諧發句ニ　松島ヤ蕈獵舟ノ眞帆片帆是也

松剔齒纖（マツヤツシ）

松島ニ出ツ　松ノ枝ヲ以テ之ヲ製ス

松葉淡婆姑（マツハタハコ）

松島ニ出ツ　松葉ヲ以テ之ヲ製ス　以テ煙草ニ換フ
而シテ香氣遙ニ煙草ノ上ニ出ツ　但シ製方ノ易カ
ラサル是ヲ以テ甚タ少シ

牡丹

、松島處々之レナキノ家ナシ　而シテ茂盛セサルノ
樹無シ大ナルモノ丈餘小ナル者數尺ニ下ラス　或
ハ一株花ヲ開ク數百朶ナル者アリ　亦タ海濱ノ奇
觀タリ

茶筅

福浦島ノ竹ヲ以テ之ヲ製ス、　松島椛卒巷ノ家ニテ
之ヲ鬻ク

竹箸

福浦島ノ竹ノ枝ヲ以テ之レヲ製ス　或ハ國風ノ什
ヲ彫ル字細ニシテ髮ノ如シ　靑緑ヲ以テ之ヲ塡ス
雅潔愛スヘシ宴筵ニ必需ノ物ナリ

紅蓮煎餅

松島ニ出ツ　即チ紅蓮尼始テ製スル所ナリ　粳米ノ
粉ヲ以テ蒸調ス　靑豆ノ粉ヲ加ヒテ以テ攤シ　薄ラ
ケテ紙ノ如クス　其形チ初生荷葉ノ如シ　乃チ數十
葉ヲ重ネ束ネ閉藏シ　風セス用ニ先ツテ之ヲ出ス
毎葉之レヲ焊ス焦ス可ラス　淡黄色ヲ以テ妙ト爲
ス　世間多ク之レヲ擬製ス　然レトモ製造氣味及ハ
サル懸遠ナリ　且ツ之ヲ焊セハ蝦蟇ノ背ノ如シ獨
食フ可ラサルノミナラス　亦醜ム可シ（大典師學
語編鬆糕（センヘイ）薄脆同上）

石爐

松島ニ出ツ之レヲ松島爐ト稱ス 又近歳鹽浦及ヒ花淵濱、處々之レヲ製ス

陶器

松島近歳之レヲ製ス、

竹

福浦島已ニ見ユ

實竹

福浦島ニ出ツ 竹ニ中心無キ者 所謂ル無孔竹 但タ大ナルモノ無シ 六七寸圍ニ過キス 而シテ其理太タ細カナリ 印材ト爲ス最モ妙ナリ。

𧏛板

松島ノ前海 諸木久シク沈ミ水底ニ在ル者 采リテ而シテ之レヲ鋸スレハ 則チ𧏛食漏枝ノ如シ 其紋愛スヘシ。文臺詩箋ノ類ヲ製スル最モ妙ナリ。

鹿角菜（ヒチキ）

松島。鹽浦俱ニ之アリ 而シテ松島ノ製之ヲ寒水ニ浸シ凍融數回之レヲ食フ 柔脆ニシテ他産ニ異ナリ

蕨

鹽・松諸山多ク之アリ 而シテ福浦島蕨崎ニ產スル所 其最モ早キヲ以テ珍ト爲ス 已ニ見ユ

桔梗

桔梗山ニ出ツ

松島膏藥

松島觀瀾亭ノ守吏之レヲ製ス 一切瘡腫ヲ治ス 奇効アリ、

卷柏（イワヒバ）。

松島島嶼之ヲ生ス。而シテ宮戸島・漢善浦口左右崎上最モ多シ。而シテ其大ナルモノ數尺 亦他ノ有ラサル所ナリ

雨漏草（アマモリクサ）

即チ瓦韋 松島島嶼處々ニ之アリ

石長生（シノブクサ）

海州骨碎（ツノマタ）

松島島嶼之レ有リ。一ニ城垣草ト名ク。

石斛

松島島嶼所在之アリ。南山禪師、鹽松紀行ノ附錄之レヲ載ス曰ク。諸島多ク之ヲ生ス。皮根ヲ包ミ以テ掛蘭ニ代フ。雅澹愛ス可キナリ。延喜式。貢藥。陸奥六種。其中石斛八十斤。

木葉石（コノハイシ）

鈴浦ニ出ツ。木葉ノ如シ。文理具ニ在リ。彫リ刻ム者ノ如ク然リ。陳眉公秘笈。載スル所新安西王喬湖石ノ類。

王餘（カリヤス）

一名菉又作ニ藎草一。

蓴菜（ジュンサイ）

又蒓赤沼ニ出ツ。已ニ見ユ。

金性丸

赤沼村路傍ノ農家ニ出ツ。此ノ藥方ヲ傳フ。萬病ヲ治ス。

大蘭席（ナキムシロ）

高城驛左右ノ村里ヨリ出テ。席經十綫。是レ十府菅席ノ遺製。

蛤利（ハマクリ）

處々之レ有リ。而シテ宮戸島ノ蛤利濱最モ多シ。（那古曾見浦ノ産剃刀貝。）（室濱其他ノ海濱隨在之。）

白砂

宮戸藥王廟前崖下。及ヒ桂島ノ西裂島下ニ出ツ。其色皎潔白雪ノ如シ。此砂壁ニ塗シテ妙ト爲ス。又盆山ニ用ユ可シ。南谿子西遊記曰ク。備後ノ州白砂ヲ出ス。其色雪ノ如シ。是レ他州ニ無キ所。盆石ヲ好ム者甚タ之ヲ珍重ス。南谿子嘗テ備ノ産ヲ知ル。而シテ未タ此ノ地ノ産ヲ知ラサルナリ

燧石（ヒウチイシ）。

宮戸島ニ出ツ。補陀山已ニ詳ナリ。

海參

（キンコナマコ寒澤ヲコモ漢名。）

宮戸島室濱左右ノ海ニ出ツ已ニ詳ナリ

松島金。

相傳フ藤原秀衡嘗テ金鈔四種ヲ鑄テ以テ民用ニ便ス。（一ニ曰ク永字金後之ヲ秀衡小判ト稱ス二ニ曰ク定字金。三ニ曰ク分銅四ニ曰ク松島金）其一ニ曰ク松島金或ハ松島小判ト稱ス。金質精醇形モ亦古雅。而シテ今世甚タ稀ナリ。或ハ傳フ松島金ナル者ハ則チ松島ニ於テ之レヲ鑄ル狀圓長中央花紋アリ紋ノ下松島ノ二字ヲ欵ス故ニ世之レヲ松島小判ト稱ス。

鹽松勝譜卷之十四畢

物產目次

穀品　木品　花品　果品　蔬品　藥品　草品
竹品　羽屬　獸屬　鱗屬　介屬　貨屬　蟲屬

右十四品

物產

穀品

稻　麥　豆

木品

松島松　勅使松　兩葉松　西行退松　試僧松　萬里汀松　浮島松　末松山松　本松山松　中松山松　比丘尼坂松　蟠松 高城驛東　松下庵松 富山　瑠璃松 宮戸里濱　松島橋藤　雙松峯松　宮戸室濱　鞭藤　鹽浦　羅漢松 大澤　松浦島藤　楓山楓 留谷　樫樹峯樫 宮戸大濱

花品

朝鮮梅 松島瑞巖　檐端松 松島心月庵　梅浦梅
松島 裂石梅 鹽浦多賀南　梅宮梅鹽浦　梅岡梅
神谷澤 白濱島桃花　天麟院牡丹　松島赤崎玖瑰
神丘

果品

菱　藕 赤沼　芡　蓮房

蔬品

松蕈 松島處々　菌 松島處々　赤沼蓴及菱　昆
布 花淵處々　水松 七濱處々　鹿角菜 同　蕨
松島處々擅山番峰青麻諸山　薇
海州骨碎 七濱諸島　蹲鴟　田子松

藥品

茯苓 松山諸山及島嶼　琥珀

草品

桔梗 松島桔梗山及處々　芝 赤沼處々
蘊草蘋荇 赤沼處々　蘆葦 鹽浦松島處々
蘆花 午濱最多　卷柏 室濱青鹿　雨漏草 松島處々

石長生 松島島嶼　石斛 同　王芻 赤沼爲最
菅 所々

竹品

福浦竹　同筍　實竹　竹浦竹　籬島竹即篦竹
利府竹

羽屬

鶴 松島小鶴湖其他和歌景物　鵠　鷹　角鷹　宮
戸　鷄鴨　大高寒澤　百舌　杜鵑　鴻　雁　此處
不產于此追考　鳧　鷺　鴨　鶉　鸛
鷲 宮戸　千鳥 漢名可レ考玉川其他海濱多在ニ松島鹽浦和
歌景物ー

獸屬

鹿 補浦櫻岡　猿　兎　松島朱鳥山下谷間ニ居ル

鱗屬

鱸魚 鹽松　海鰻 同　河豚 同三四月之間晴日
之ヲ釣ル船上竿ヲ架シ得ル即チ乾シテ乾魚ト爲ス
棘鬣魚 七濱四濱等　魦(カチカ) 鹽松江上　鮒(フナ) 可レ考赤羽

赤沼加瀬　鱠余魚　牛消又鱠殘魚トモ云

介屬

蝦 所々　小金澤金蟹東那小蟹　鰒 花淵　蛤

文蛤又蛤利宮戸蛤濱　牡蠣 七濱芳津所々　海參

宮戸　梅花貝 籬島　蜆 高木川

貨屬

五彩霞 鹽浦　南京糠 同　梅花豆鼓 同

水飴 同　古瓦 多賀　松筆管 末松山

可漏子 出釟里　金色砂 花淵濱　白砂 宮戸

松花石 松島　木葉石 嘁山崎　貝灰可ヽ考鹽浦島所々

桑箸 青麻　ヲホロ豆腐 今市

湯豆腐 按内　角糝 今市　醴 比丘尼坂

跳兎兒 同　松劉齒纖 松島　松葉淡婆姑 同

茶筅 同　竹箸 同　紅蓮煎餅 同　陶器 同

蘊板 同　石爐 松島鹽浦所々　松島膏藥 守吏

金性丸 赤沼　太繭席 高城　十府菅席 利府

燧石 宮戸室濱　松島金 松島

虫屬

蝙蝠 松島所々洞窟ニ　蜥蜴　蟋蟀 名古曰古浦等ニ産ス

剃刀貝。山下氏ノ説ニ一名マテ貝。或ハアケマキ。漢名蟶 又一種ニ眞 馬刀ヲマテト訓シテ、巻懐食鏡ニ見ユ、是ハ誤リナリ。馬刀ハドブ貝也、ドブ貝ハ片貝也、其形別ニ圖アリ。茶舗藻鹽草ニテ釜シキヤウノ器ヲ製シ出シ又産物ノ一ナリ。

延喜式二十八兵部省。　陸奥國

甲六領　横刀二十口　弓六十張。　征箭六十具。胡簶六十具。　兵庫寮ニ治ム。

同　二十六主税寮。　同。

正税六十萬三千束。公廨八十萬三千七百十五束　東國司料六十四萬一千二百束。　東鎮官料十六萬二千五百束、祭鹽竈神料一萬束。東國分寺料四萬束、學生料四千束、文珠會料二千束　救急料十二萬束。

同。　二十二民部省。下年料別貢雜物。　同

筆百管。零羊角四具。

同。同。同。　交易新物。同。

鹿革。鹿皮。獨犴皮。數隨得。砂金三百五十兩。昆布六百斤。索昆布六百斤。細昆布一千斤。

同。　三十七典藥寮。　陸奧國六種。

甘艸十斤。秦膠四十斤。大黃百二十斤。石斛八十斤。人參四十五斤。附子百二十斤。猪脂二斗。

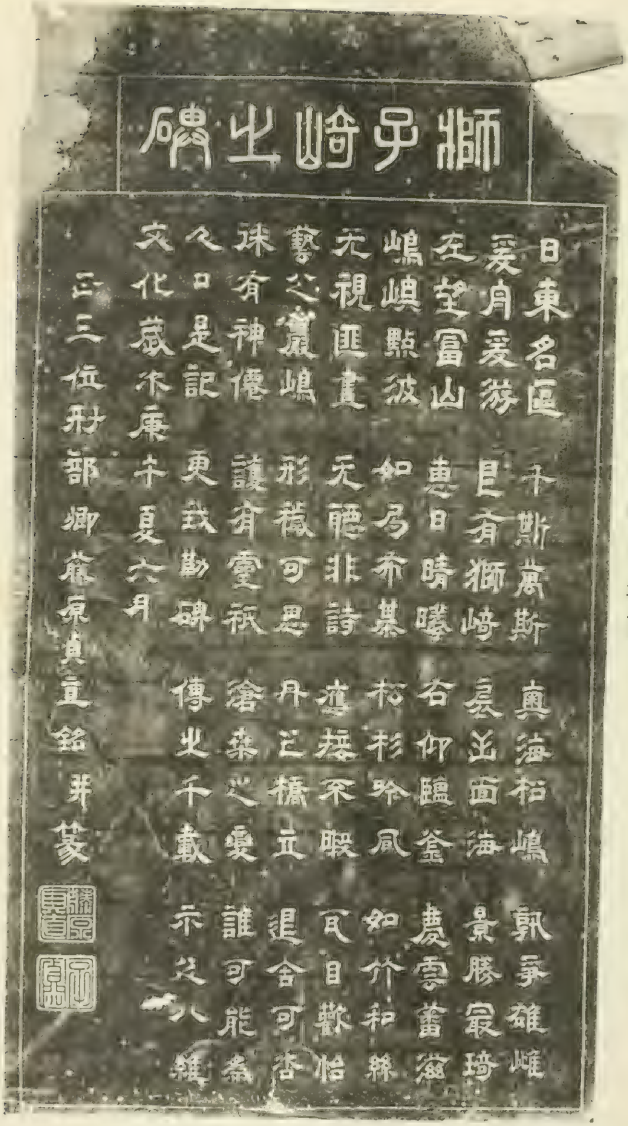
貢藥諸國有之。

物產目次畢

鹽松勝譜卷之十五目次

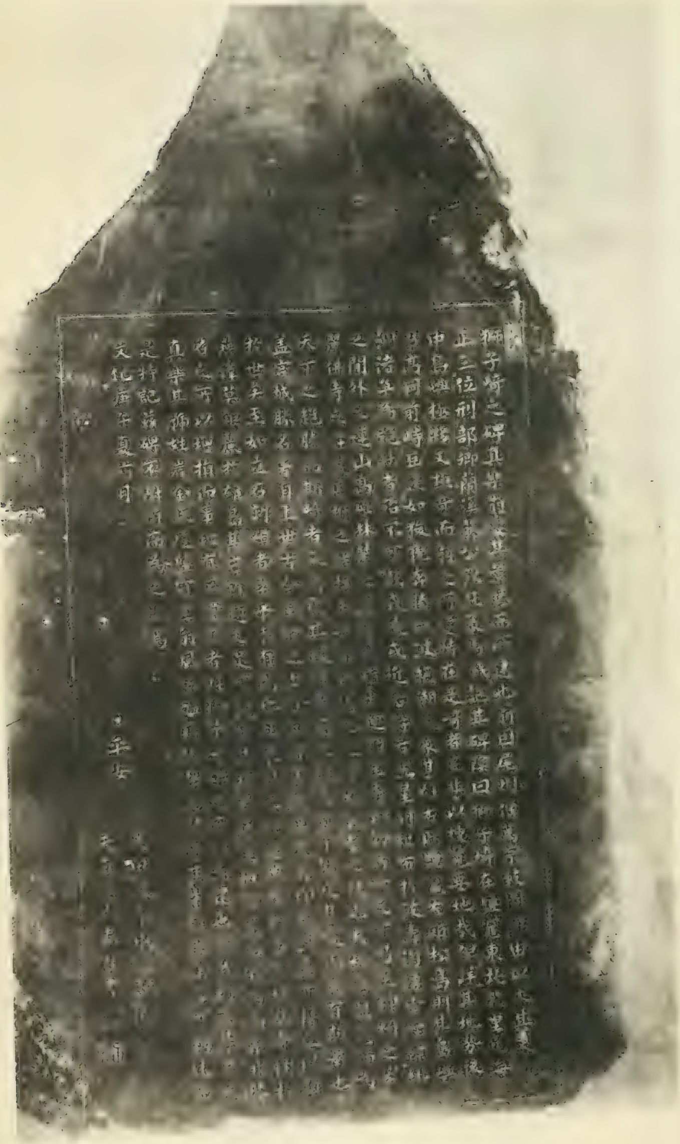
碑碣部上。附鐘鼎扁額。
鹽廟額。
同華表額。
同鐘銘。
和泉三郎鐵燈銘。
鹽廟所藏驛路鈴圖。
後阪華表額。
法蓮寺門額。
同勝畫樓額。
同洗眸閣額。
金華樓額。
神釜圖。
東園寺碑。
獅子崎碑。
籬島畫碑。
松浦碑。

宮城縣宮城郡鹽釜町獅子崎碑表面



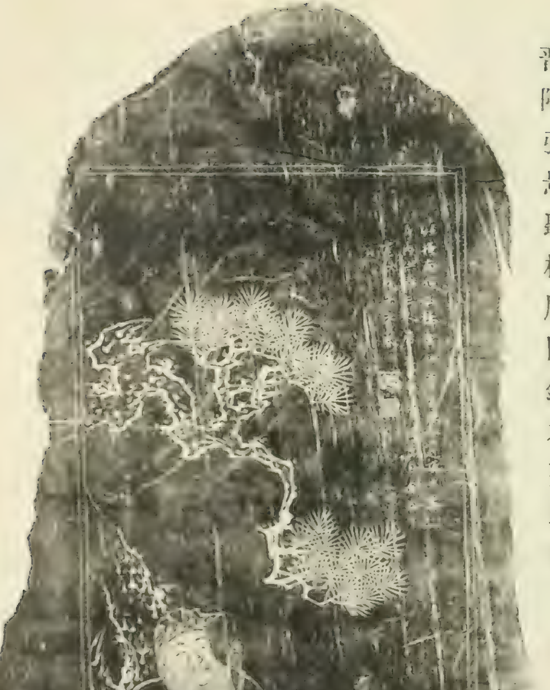
仙臺　清水東四郎氏藏

宮城縣宮城郡鹽釜町獅子崎碑裏面



仙臺　清水東四郎氏藏

宮城縣宮城郡鹽釜町籬島畫碑
晉陶弘景聽松風圖鈴木芙蓉筆



仙臺 清水東四郎氏藏

壺碑。
多賀城古瓦圖。
多賀城墟所掘得古器圖。
同款器圖。

畢

此目次中。和泉三郎鐵燈銘。及鹽竈所藏驛路鈴圖ハ。前壹卷ニ記ス茲ニ略ス。而シテ壺碑以外ノ條目ハ。原本其記ナシ。廣胖他日附錄ヲ編集シ其缺漏ヲ裨補スルモノトス。編者記ス。

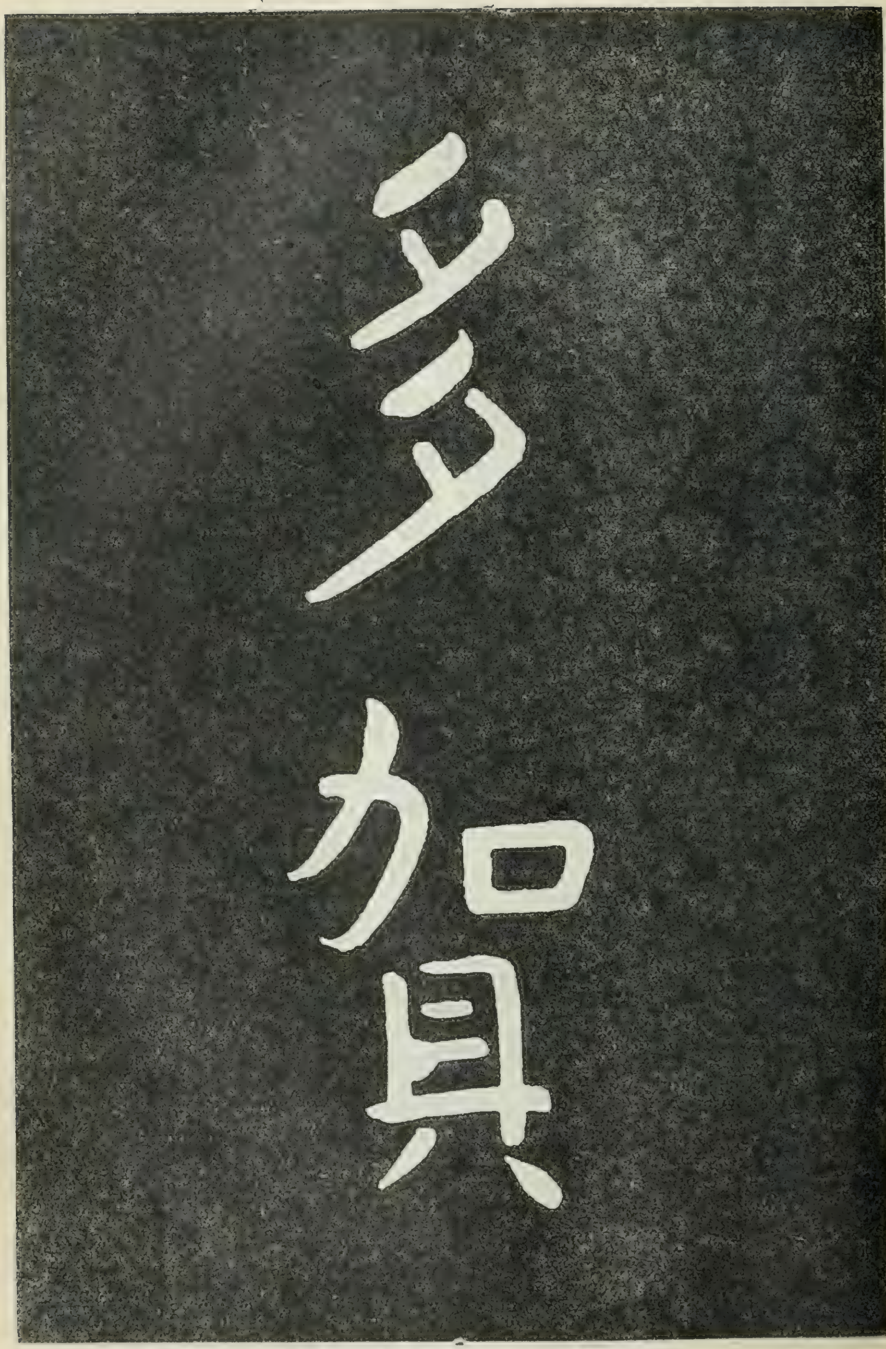
鹽松勝譜卷之十五

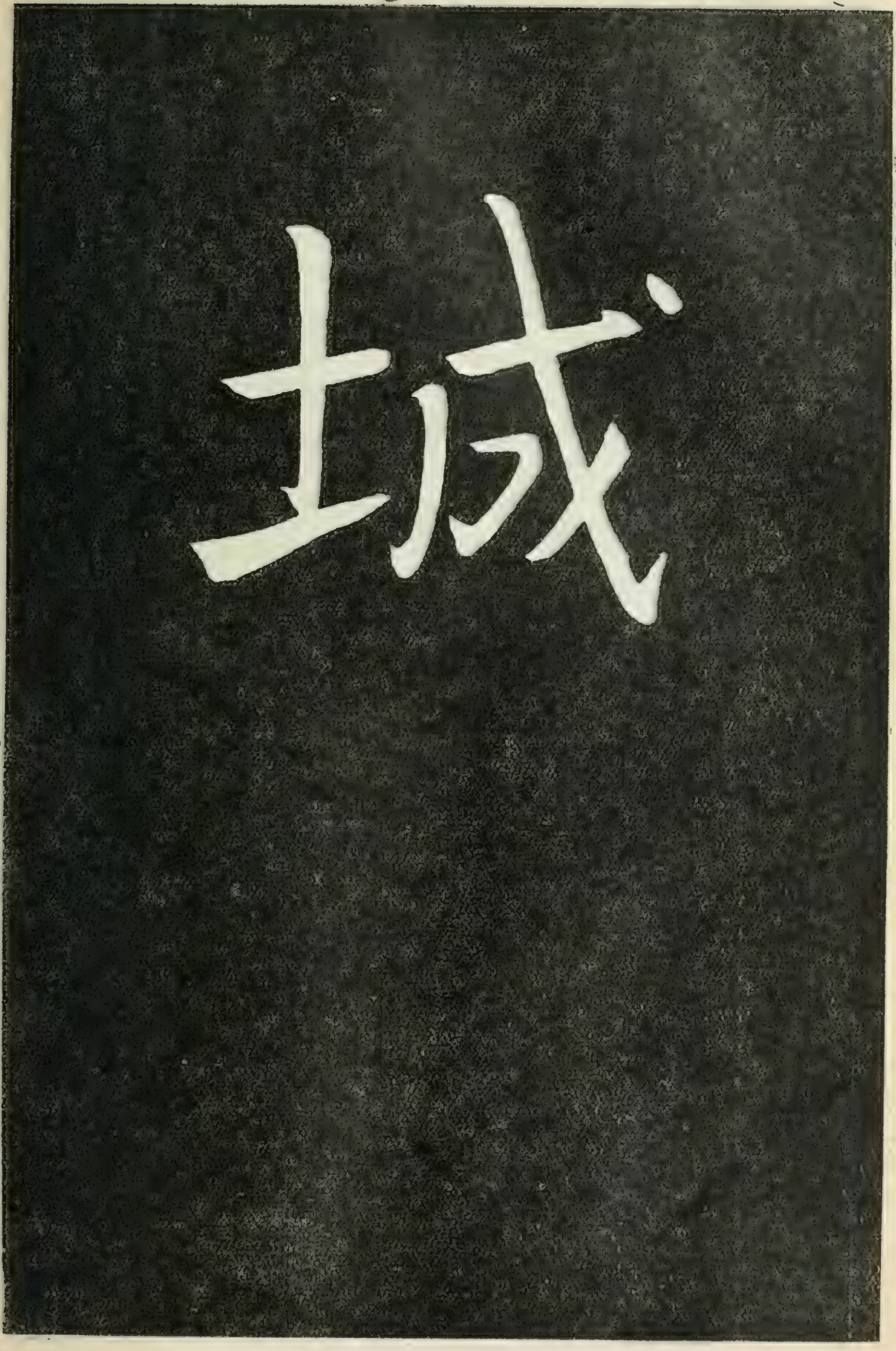
仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

碑碣部上。附鐘鼎扁額

凡勒言于金石者。豈有不量千載不朽者哉。然星霜之久。委草莱沒泥土固無論。雖其現存者乎。無人得而見。則與朽者何別焉。松島鹽浦之地。碑碣鐘鼎之屬不爲少。蒐而篇之。千載且暮展而觀之。重一室乃彙而輯之。次及扁聯古文書古器物。以爲一篇。以供世間好古之覽。且著古人量不朽之意。

西


多賀

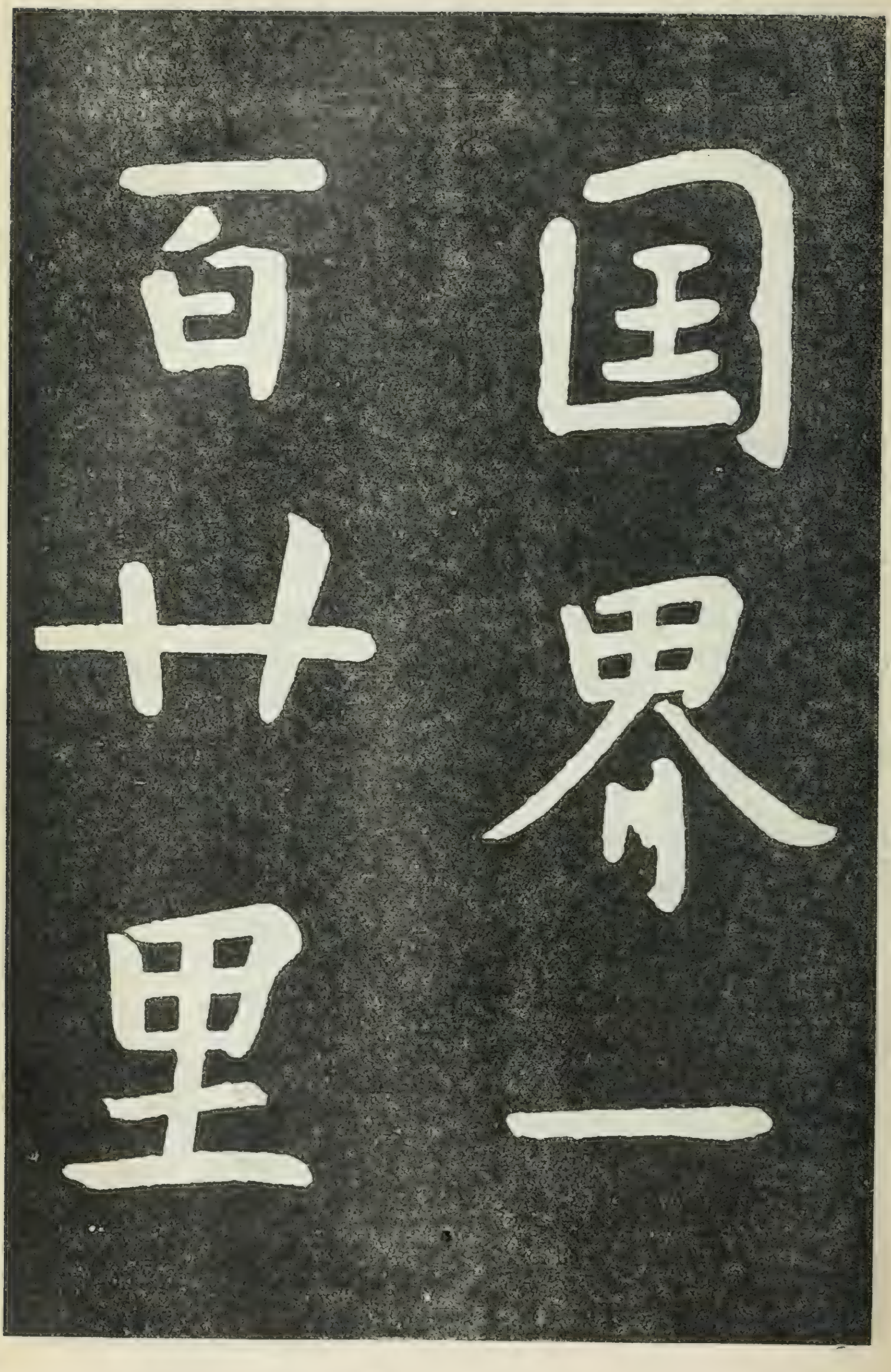

城

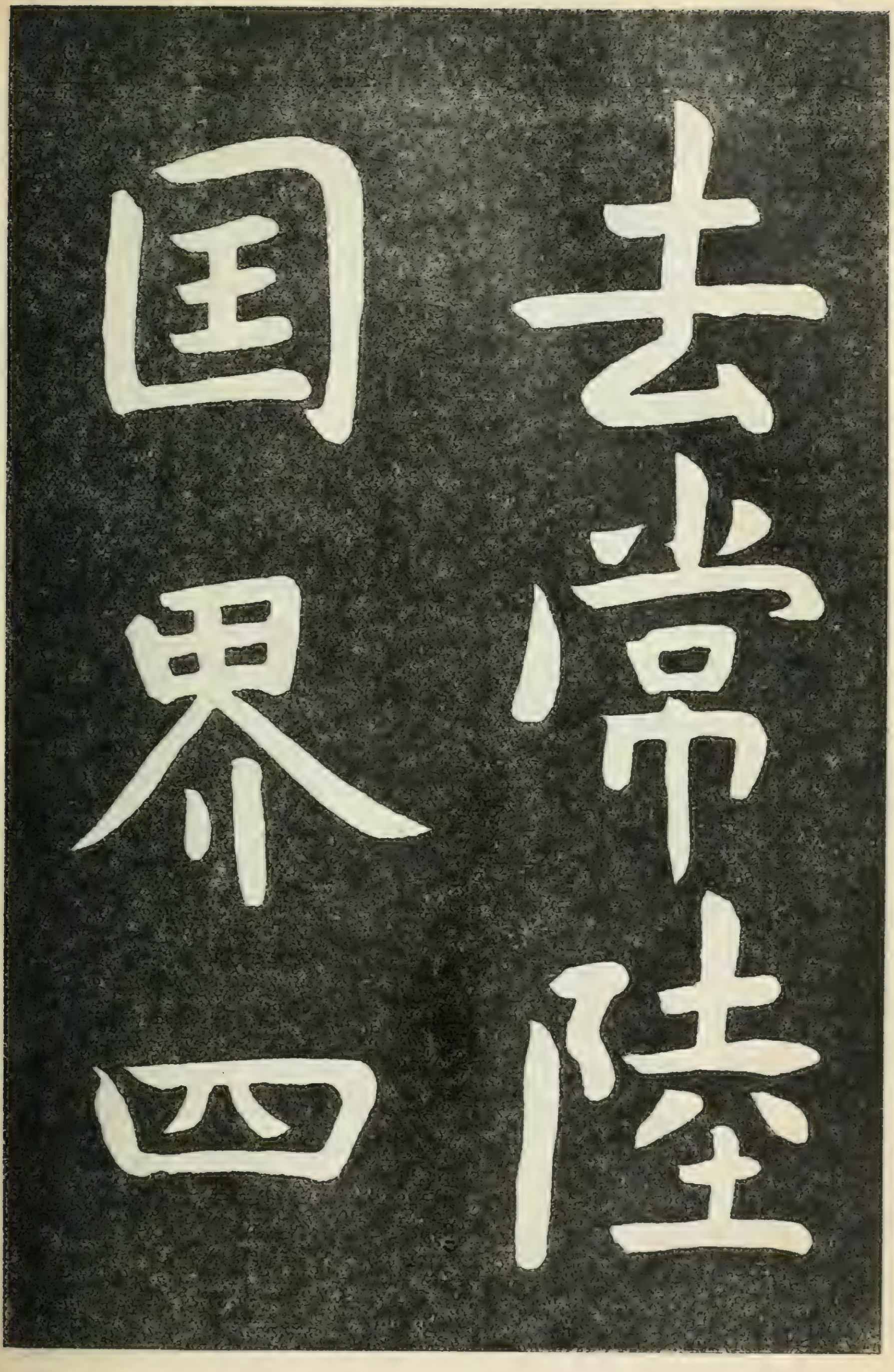
去京一

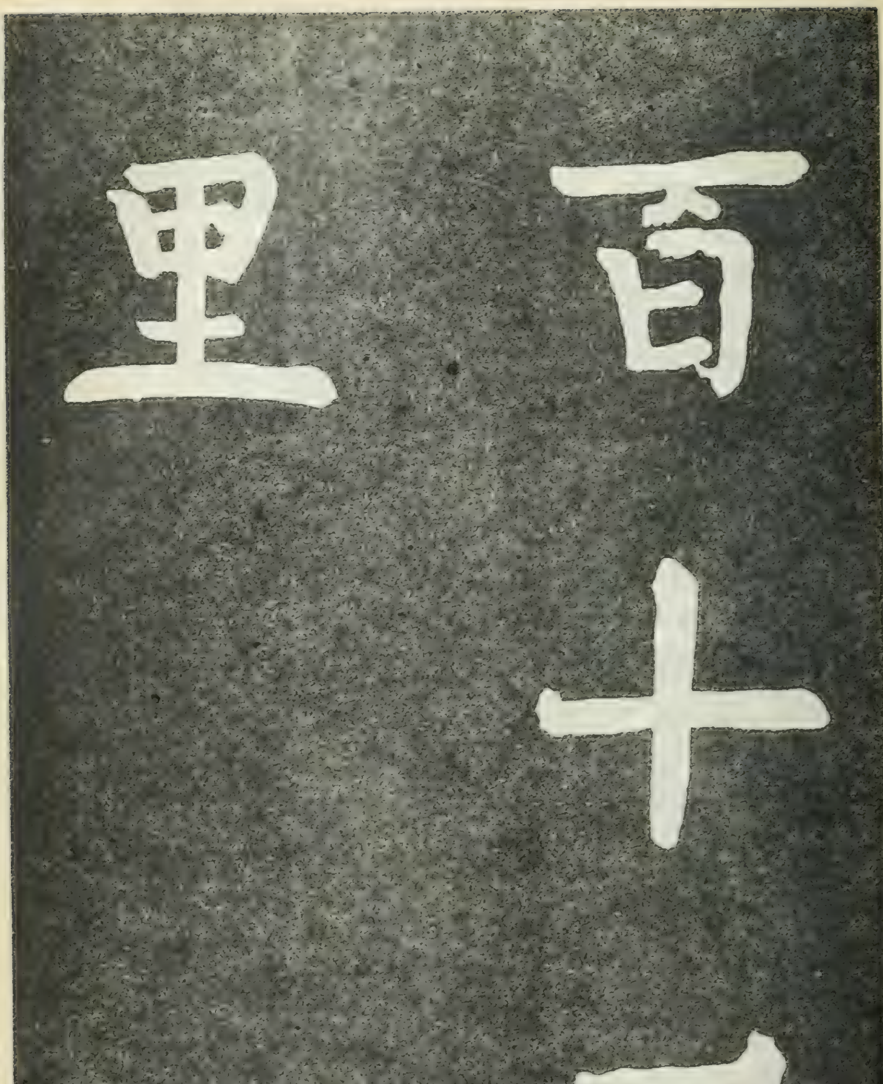
千五百

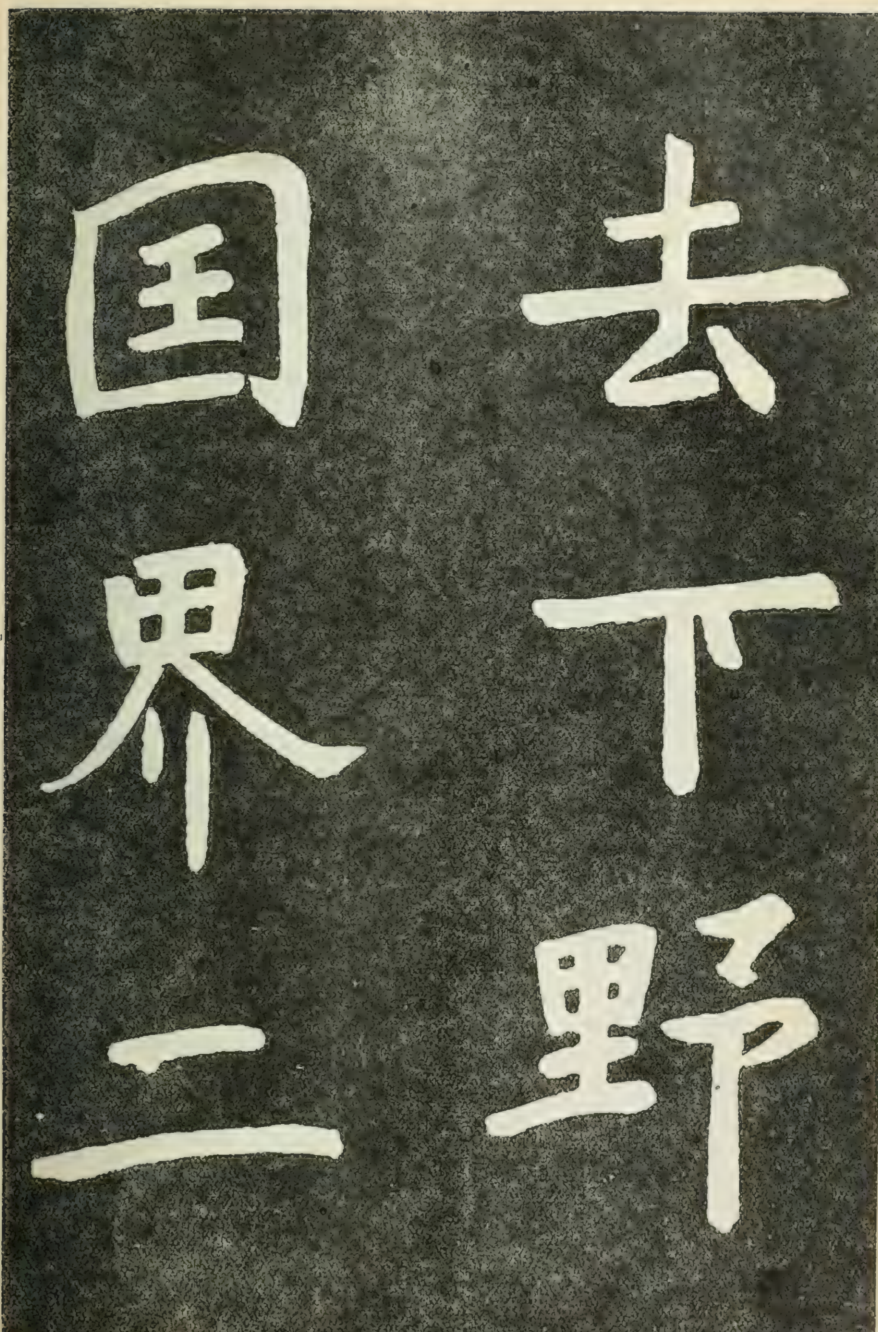
里

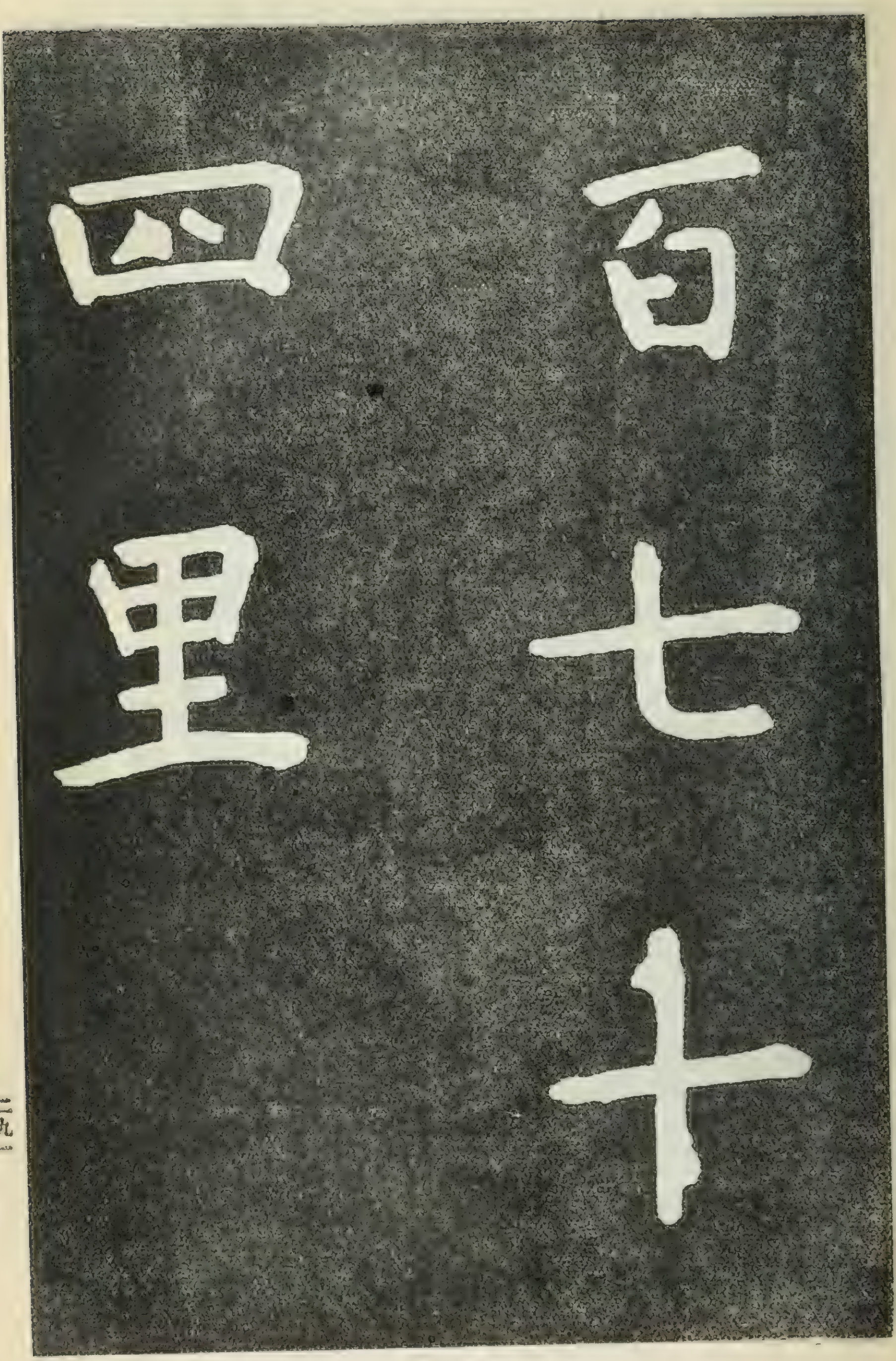
去蝦夷


囯界一
百廿里


去常陸
国界四

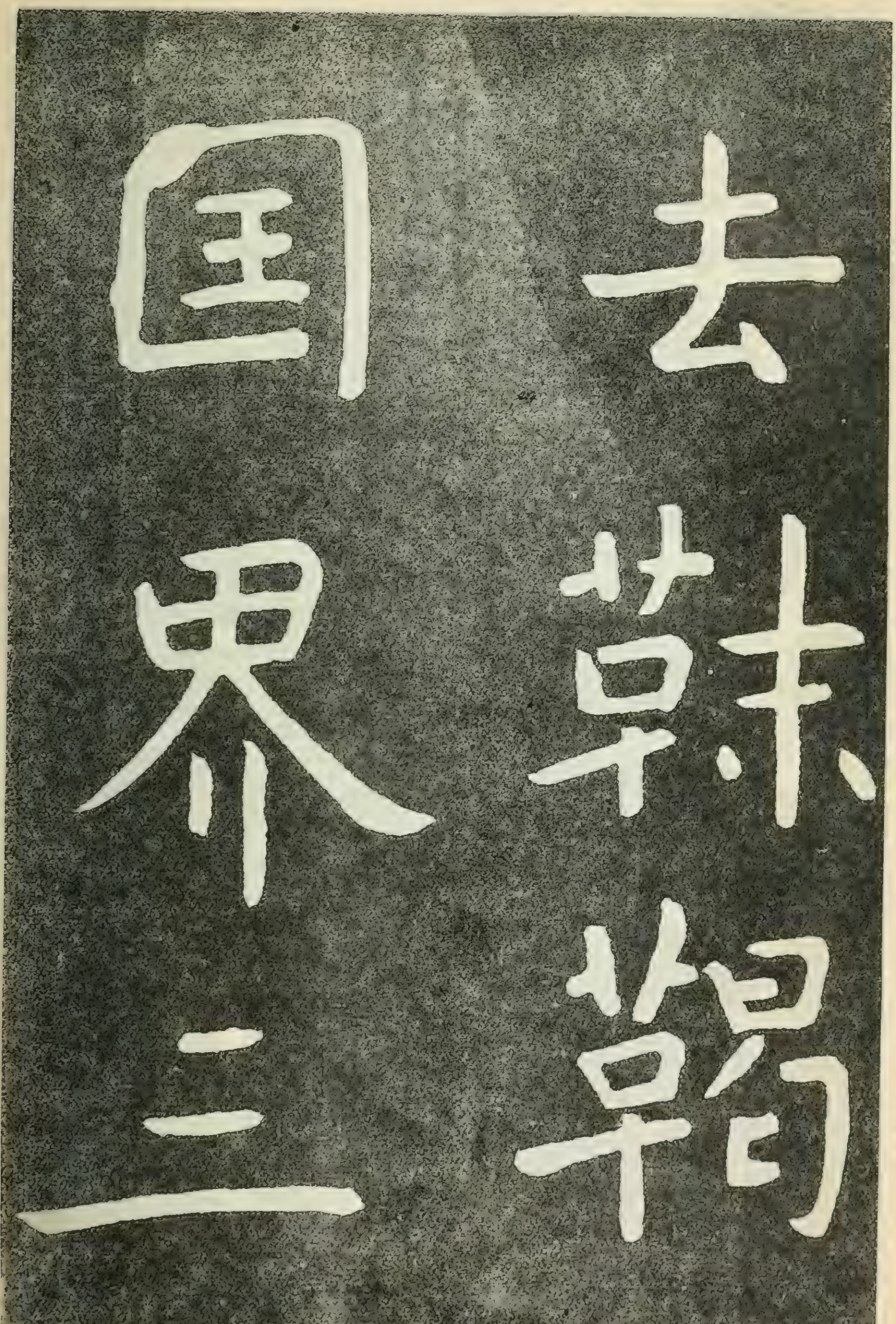

百十二
里


去下野
国界二



百七十

四里

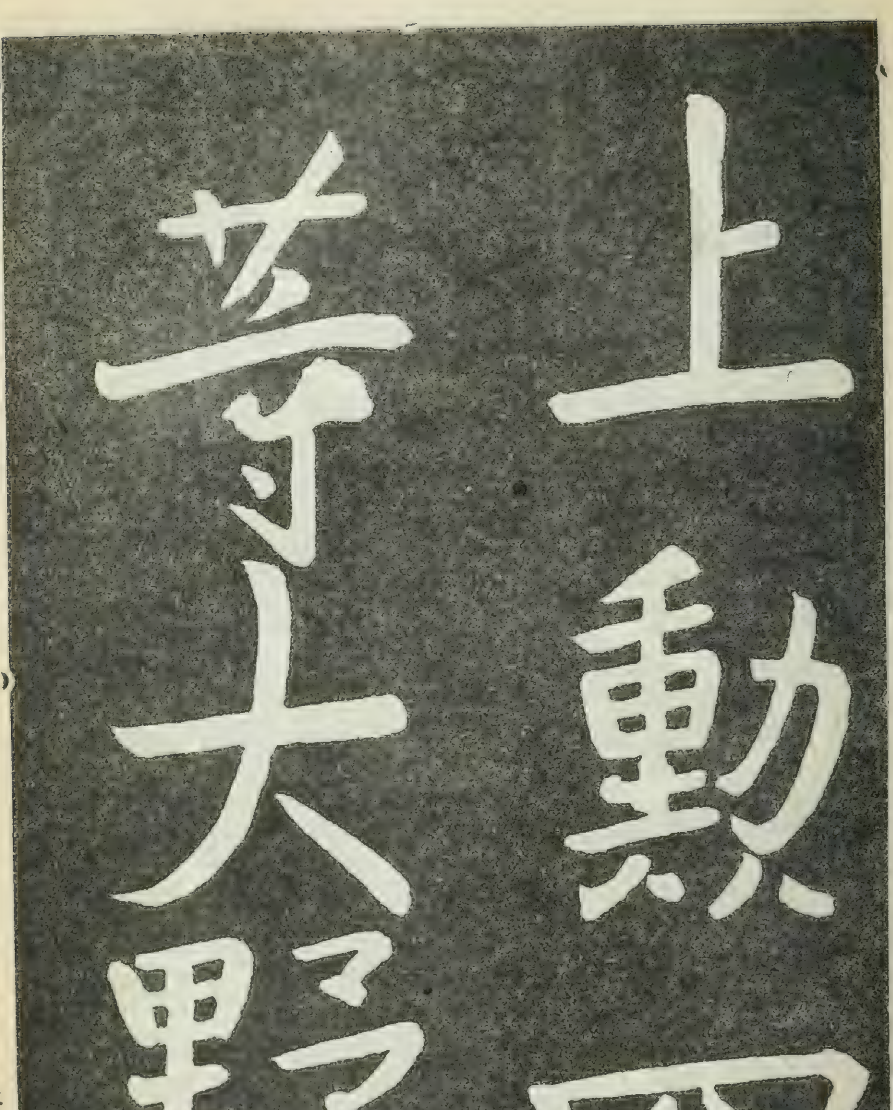

去
国界三

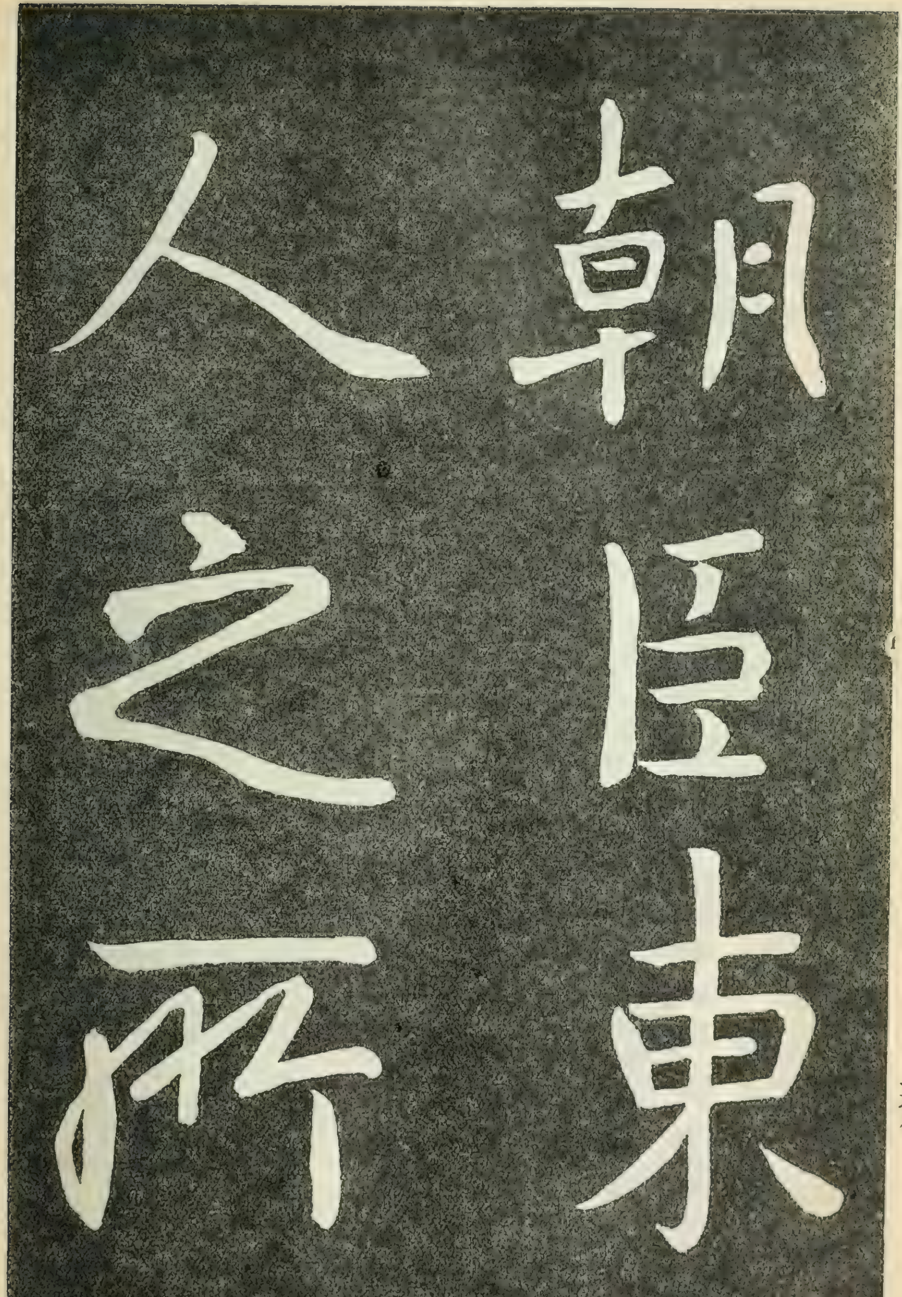
千里
此城神

龜元年
歲次甲

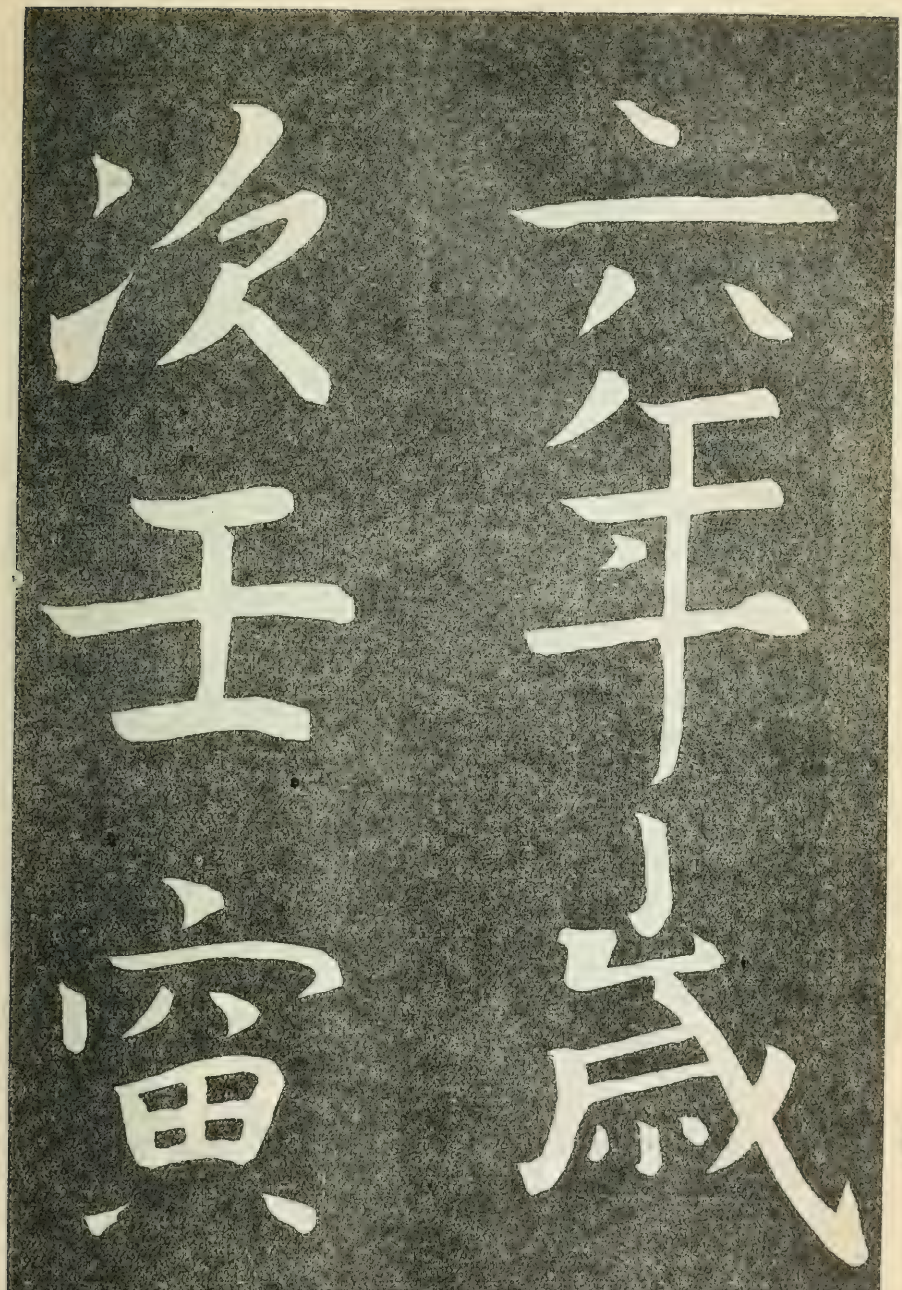
子按察
使會鎮

守將軍
從四位

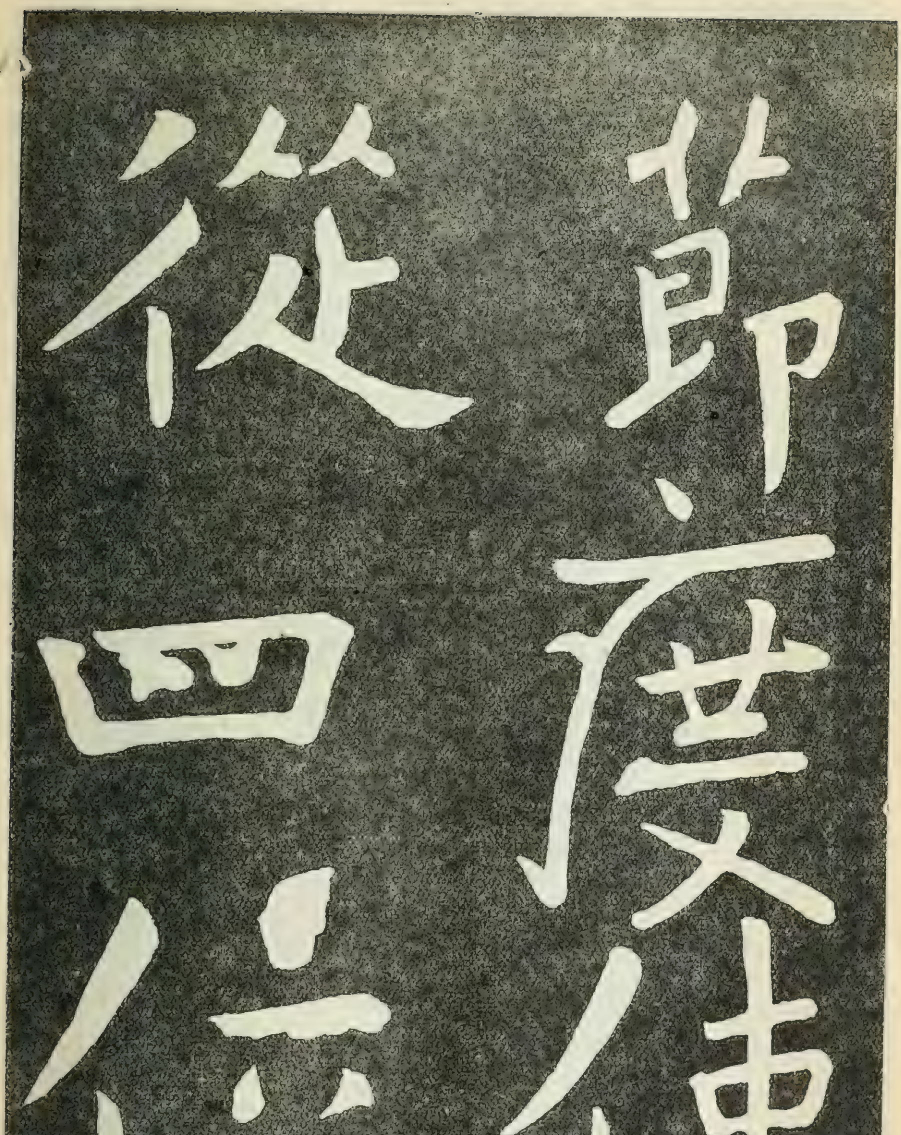

上勳四
等大野

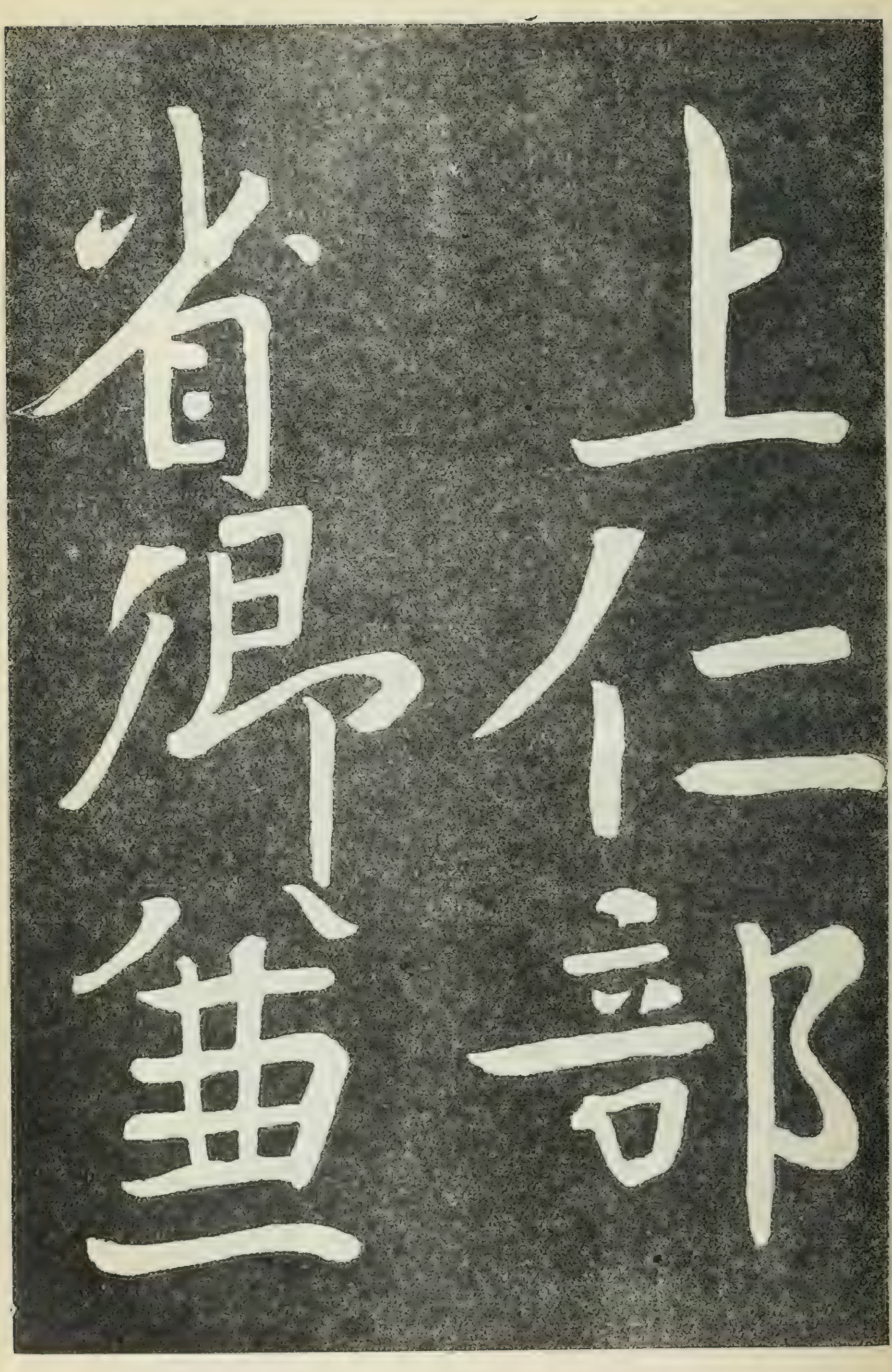

朝臣東
人之所

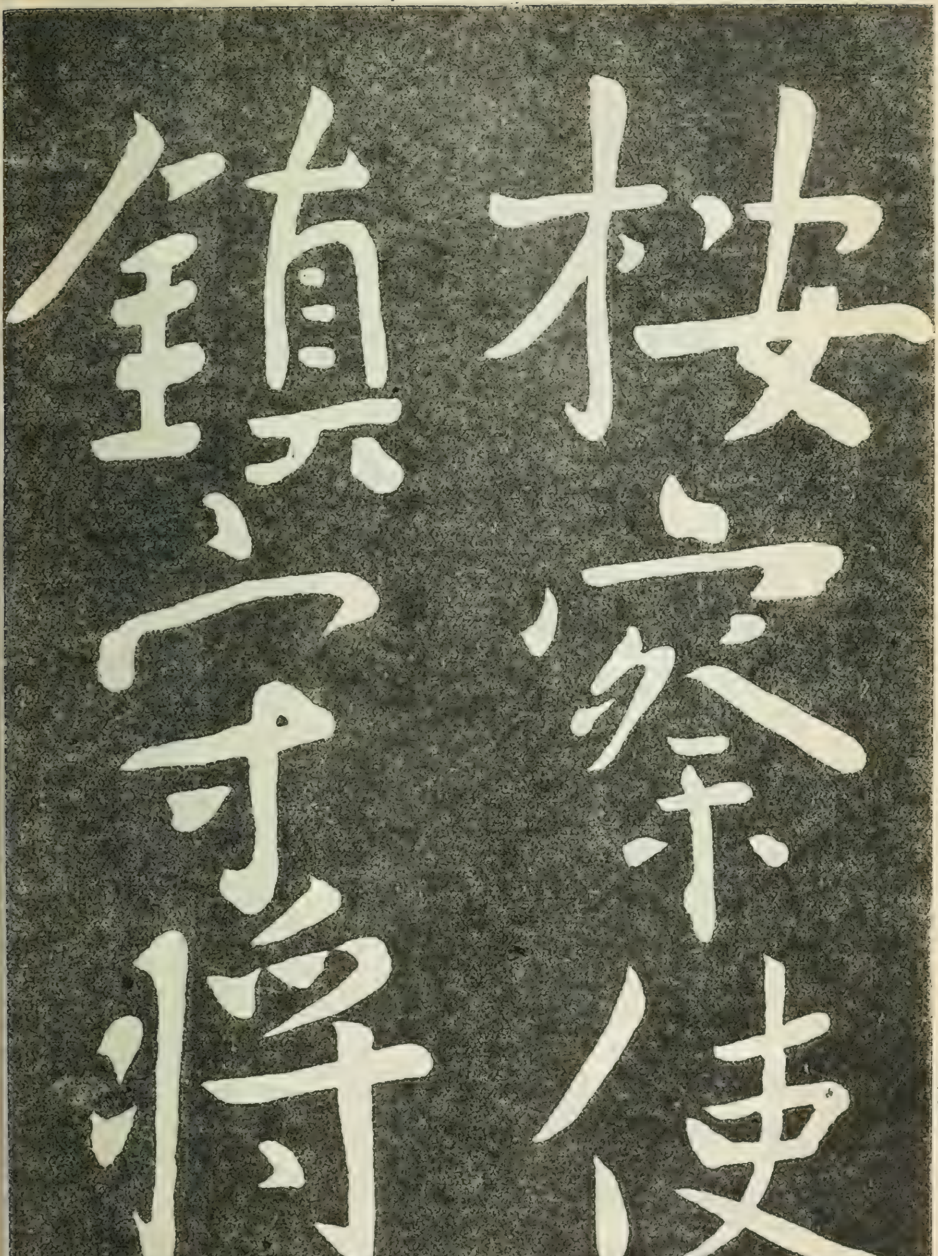
量也天
平寳字


六年歲
次壬寅

叅議東
海東山


節度使
從四位


上仁部
省御畫


按察使
鎮守將

軍藤原
惠美朝

臣朝猶
修造也

天平寶
字六年

十二月一日

多賀城。去京一千五百里。

去蝦夷國界一百廿里。

去常陸國界四百十二里。

去下野國界二百七十四里。

去靺鞨國界三千里。

此城。神龜元年。歲次甲子。按察使兼鎭守將軍。從四位上勳四等。大野朝臣東人之所置也。天平寶字六年。歲次壬寅。參議東海東山節度使。從四位上。仁部省卿兼按察使。鎭守將軍。藤原惠美朝臣朝獵修造也。

天平寶字六年十二月一日

藤塚子章 驛路鈴圖說曰。參東記曰。寬仁元年十二月二日早旦。畿內七道。並給。大宰宇佐嶽官符仁和署令、渡外記驛鈴。東海道伊勢國多度社。尾張國熱田社。駿河國淺間社。伊豆國三島社。下總國香取社。常陸國鹿島社。東山道近江國日吉社。美濃國不破社。信濃國須波社。上野國貫前社。下野國二荒社。陸奧國鹽竈社。出羽國大物忌社。以下留。以此記考之。東海東山諸社雖許多。至此限省社何不崇敬哉。驛鈴者。王命威令器故記其設。延喜太政官式曰。其國守位姓名。赴任日所給若干。勅傳符一枚。右驛鈴一口。傳符一枚。某日小納言。某請進訖。飛驒國。長一尺六分。廣三寸四分。公式令曰。凡諸國給鈴者。計其道數者依式處分也。三關及陸奧國。各四口大。上國(恐此間脫一字二)口中下國二口。其三關國。各給關契二枚。凡驛傳馬。皆依鈴傳符剋數。事速者一日十驛以上。事緩者八驛還日。事緩者六驛以下。廐牧令曰。凡諸道須置驛者。每三十里置一驛云云。

余風日得參東記讀焉。參議經賴卿之錄也。記中載驛鈴給於當社事。此事乃雖日碑中可參。未見文獻足徵者久矣。初得閱此記。幸知其說不妄而已。故以文獻足徵者與所祠家口碑。併附其圖說。使世人知所以徵。彼奧州古社也。常

州正等寺藏。有古驛鈴。圖贊弘于世。其爲形如天茄子。顆頭八面。具眼鼻口之象。口中噛音古奇亦可愛。雖異我所傳之物乎。蓋器之制造。有沿革而然邪。若詳究。則竢博宏士而已。

一宮鹽釜二社禰宜　藤塚知明謹記

西湖志

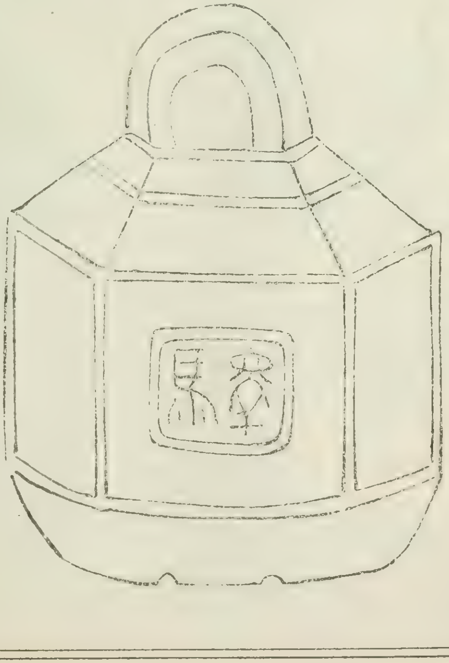
西溪梵隱士序。

天地之靈奇洩於山水。山水之最靈奇者。天地又若靳秘焉。而不輕以畀人間。有扱其局而發其藏者。大都息心稿形鶉居殺食之侶。而持粱刺肥者不與焉

西溪百詠序

於五十里間。梵剎琳宮。冢祠橋渡。山房別野。嶺嶠林泉奇勝全收。班々可考。詩雖不工。誌其山水紀事。實甚明核。使稽古觀風者。每有所採。可作溪山一冊志略。故爲好事者珍惜之。溪人獨能記誦傳錄不衰。使先民勝事猶不至與斷碑破壁同滅沒於荒煙蔓草中也。則溪之人實有功焉。

寛仁元年給于鹽廟驛鈴圖



鹽松勝譜卷之十五畢

鹽松勝譜卷之十六目次

碑碣之部中附鐘鼎扁額者缺

南宮慈雲寺碑（卷之八ヲ見合スヘシ）

志田小太郎館迹碑二（同上。）

巖截村關口碑二（同上。）

東光寺碑三（同上）

燕澤碑考。及碑字考。並譯文私注　藤塚知明　同叙

呂中太沖

同碑文考。志村五城佐藤知賢

新井田村碑缺（卷八之二見合スヘシ）

福室村西光寺碑（卷之八二同上。）

神谷澤村碑缺。

赤沼傳曲庵趾碑缺。

鹽松勝譜卷之十六

仙臺　舟山光萬年著

仙臺　佐澤廣胖校訂

碑碣之部。

燕澤碑考。

藤塚知明。

自序曰。奧州宮城郡燕澤部落。有古碑。弘安五年所建也。長六尺餘。徑三尺。右面刻行。其古文體或離合。殆不易讀焉。安永壬辰秋。中山仲延者。探奧中之勝。則臨此碑。還府之後。乞打文。告以攝藝園堂好古之求。予令子弟打碑。且添私考譯文以贈之。然其來由。無可得而考據。故闕焉。僩迺者。書生河成允者。話予曰。傳聞此碑文。唐僧祖元和尚自書。而所使托空門子清俊樹奧僻不毛地也。故其文難解了。實如說歟。予曰街巷之談。亦不可捐之。傳說有必以矣。竊想釋祖元者。元人也。弘安二年。依北條時宗遐招東航。同五年。相

州開瑞鹿山圓覺寺。後諡佛光禪師。先是元主世祖襲基和。弘安四年辛巳發艨艟三千兵士十萬。來寇於九州二島。胡塵如充覆載。京畿之騷擾。貴賤之憂懼。假無所措手足也。於此上下所祈。唯有負神祇之保祐而已。神感不虛。一夜颶風覆艦。元兵溺死。殲十萬。積尸如島嶼可踐而行。海門爲之止潮汐矣。嗚呼神明不護此羣兇。吾邦之人忽爲忽必烈之奴婢。危哉危哉。即今予百世下。看此記。執筆戰慄喪膽也。偏蒙神明之賴恩。銘心刻骨。相傳而不可忘。誠神國之稱不忘哉。元寇雖可憎。十萬沈屍見聞之者。誰不發怵惕仁憫之情。祖元本生寇賊之地。雖異緇素。同邦同鄉。何無斷腸悲心邪。然察背憎肩語腹非之。隱諱不能無恐懼。敢窃欲濟憤齒入溟之苦。而手裁古文離合書。處于邊陲幽僻之地者。嘗有所忌于上也。今茲弘安五年仲秋。丁覆溺之小祥。因以彼岸功德之佛日。樹浮圖。吊群類者。可察焉。

予就河戍元之一言。而著述者。恐有臆斷附會之所悖本來面目歟。然叢中拂理苔。打碑以傳海寓者。此陵谷不朽之學焉。冥漠若有知。予嘗吊古稱揚之志哉。以有領於九原之下云爾。天明癸卯秋八月

品中太傳

叙

黃絹之言近諧哉。雖則近諧乎。逸韻之徒口而不措。蓋雅馴也。吾藩燕澤。唯是一丸墳。固無韓陵片石足觀焉。特其側有古碑。無沒數十百年。不辨何等物。滴輪軒之使。蠹之客。探奇之餘。拂蘚而打之。字樣最怪譎。不可得而讀焉。若能譯之。亦唯侏離而已。諧乃不可得。何爲望雅馴也。果乎不能上口。顰額曰是石鼓之籀歟。嶁峋之篆歟。何不近人情者。遂棄而去矣。吾黨源子章。博洽好古。邇摹一本。譯以典據。閱之。則字之與義俱下不啻嚼蔗也。祖禪師之事。確乎文獻。實何物易之。於是乎碑辭雅馴。傳之四方而以口於逸韻之

宮城縣宮城郡岩切村燕澤蒙古供養碑

仙臺 清水東四郎氏藏

松島瑞巖寺第七世天嶺書

宮城縣宮城郡岩切村燕澤蒙古碑背面一字一石供養塔

仙臺　清水東四郎氏藏

徒者。寧減曹娥氏之蹤耶。請余撿故題。

天明三年秋九月。

碑字考

邑　隷文以字。

ノ　瞥也。人字左邊離合成人。八陽經日。ノ乀成人。字典毎無所見。效于此。

㗊　古文道字。

叵　古文正字。

乀　弗也。人字右傍效于上。

丩　糺糾通又舉也。

効　下文有予名敦字。缺一脚以此例。諳則効知爲敎之古文省畫也。蓋人敎敦二字。不全成。按　後字多天皇大父。帝在世御諱久仁。皇大后葭子。此諱文中。見人久葭三字。同其礫畫。仁者人。而久亦具其體。敎敦之支畫。入葭字。則爲國諱乎。唐六典所謂有國諱者。皆爲字不成。誠識法者。懼離斷省文。不得止

而所作之歟。碑面一體。放此。集字據古者。可奇賞。

ゆ　篆文云字。

乂　與刈同。

㐀　古文丘字。

刂　切也。斷也。

囟　古文囟字。囟者腦蓋頂中也。由者古文塊字。而从土。猶彷彿于由。不可混。

歬　古文前字。

𠨬　古文死字。

乇　相次也。

殞　歿也。落也。史記云。不戰而坛。注隕直坛相通。

兲　古文天字。

五　古文五字。

𢪏　古文拜字。

譯文私注。

夫以（發語辭以意也。）　人直宜從道。（人直者不

邪曲。則宜從道也。並者相從也。）人正益學敎。（人正者從道敎令益學揚也。自就有道而正焉。可思。蓋聰明正直者。神之德。以所補歸人之化乎。正直敎道之假諾。回照前死後隕也。此文雖不雅訓。亦有意。）云（言辭。）刈丘斷囟祇（刈丘者芟土毛。除荊蘇也。斷囟祇者。丘頂之祇石。如腦蓋。斷底而聳墳樹碑也。今之兆域。非舊隴五十年前。鄉民請釋天嶺。於此碑背銘大乘妙典之數字。刺而爲今碑面。舊隴在今地之以北。此說親聞村老。附于此。）弔亡魂（追悼死亡之魂魄也。）元前死。（元或國名。本前死者元寇之戰死。）有前後也。大日本史卷六十三日。弘安四年六月四日。元兵侵太宰府。十三日大破元兵。殺獲千餘人。是可謂元前死也。又國名隱語爲辭意。許逍顯露之忌諱也。）次後須矣。（元史卷二百八日。八月一日。風破舟。五日文虎等諸將。各自擇堅好船乘之棄士卒十餘萬于山下。衆議推張百戶爲主帥。號之日張總官。聽其約束。方伐木作舟。欲還。七日々本人來戰盡死。餘二三萬爲其虜去。九日至八角島。盡殺蒙古高麗漢人。謂新附軍。爲唐人。不殺而奴之。閶輩是也。蓋行省官議事不相下。故皆棄軍歸。久之莫靑與吳萬五者。亦逃還。十萬之衆得還者三人而耳。）弘安第五天（皇朝後宇多天皇統御。當元世祖至元十九年。）玄黓敦牂（爾雅云。大歲在壬曰玄黓。在午日敦牂。）俾秋彼岸（梵語波羅蜜。此翻云到彼岸。論曰。依彼岸作小善。一切群類。自然成佛云々。里末清俊謹拜。（五家爲鄰。五鄰爲里。末者端也。草野里端之細廬。對叢林之大刹。則爲謙辭。）

碑額刻梵文羅字。以代小浮圖。大日經九字秘譯云。羅字金剛火。大威日輪觀。復次譯。若觀日月輪。凡夫成佛。救迷途枉魄者。要有此一字矣。

燕澤碑文考　志村五城

佐藤知賢補

臣（離也。於五纏爲火。火爲魂。置諸圓相中而弔亡魂且修其冥福矣。

夫（有所指之辭。）吕（古文以字。）乀（ノ以至初至也。或加乀點爲入字乎。）直宜（適理也當也。）幷（併也。語讀連要於鬼神。註拜也。廣韻比也。〇賢按拜與幷通用。字彙合也。並也。）衟（古文道字。譜前。）乀（良傑切。至也。或加ノ點。入字乎。賢案ノ乀二字至之意是也。）正（古文正字。）益丩（居周切起也。）敎（古文敎字。敎韻。）云（古文云字。今按連上文讀爲助語者。非也。試讀爲下文。發語者穩也。〇賢按。自此上文蓋引神道語。然則如謂云云。宜接上文。）乂（魚幾切。止歸也。作刈。）业（正字彙也。上高曰业。）刖（忽混切。以刀切斷也。）由（先進切。古文囟字。人頭會腦蓋也。正字通。囟乃漸合。神明升降之道也。）砥（音昏致也。）弔亡魂（元韻）元（始也。）嵜（古文前字。）歺（古文死字。）乍（布道切相次也。）後殞（音允殁也。軫韻。）〇賢按。志村翁每句。村韻。然是不必韻文）矣。

弘安第五元。（後宇多帝八年。元古文天字。）玄默（壬也。）敦牂（午也。）仲秋（八月也。）二十日彼岸終。（彼岸梵言。波羅密多也。〇賢按彼岸者在于春秋。二月中者分前三日註之其間七日也。又八月中秋分前三日註之其間七日也。此時節陰陽無過不及。故天竺號時正。中華名彼岸。於本朝亦然。）里未清倭（名。）謹撰、（古文拜字。）

蕪澤碑。蓋塵詰讓之文也。而不可知其爲何人。然斯人在世負世必正直。能守其道立其教。不幸遭難而死。里未清倭者。護其骷髏以從之築其樹碑。初義承於此。事悉于碑面矣。夫邦人宗神道。設神教也施矣。其訓曰。神也者含正直之人顱膵矣。請倭蓋有取焉。故謂。人苟至直。則宜併于道。道也者何曰神道也。又曰。人苟至正則益興起其教。教者何曰神教也。某刈革於郎隅。脈刀斷顱膵。此所謂正直之人。而今如斯。且其於顱膵。即是神明所舍也。

豈忍棄之草莽哉。故瘞之。築塚建碑以弔之。亦掩骼埋胔之仁。而祭冥漠君之遺意也。因又言。其於前死之人既掩之。庶幾其於後殞亦如之。蓋勸仁於來者也。淸俊亦不知何人。然據其所爲。則可以見其兼信神佛之教。而爲博愛之人也。恐亦有子雲癖。或有所隱諱歟。文字奇古辭義晦澁。讀者往々誤解。余因爲之解云爾。志村五城撰。

余遊城東。到燕澤邑。草莽中見一古碑。長六尺徑三尺許。文字僅二十有八。其文奇古。其義隱晦。不可得而讀也。頃日得志村翁所著燕澤碑文考。而讀之。爰始得意義通曉。余亦不自量。加校訂公于世。以示好古之士云。文政十年丁亥春三月。佐藤知賢識。

鹽松勝譜卷之十六畢

鹽松勝譜卷之十七

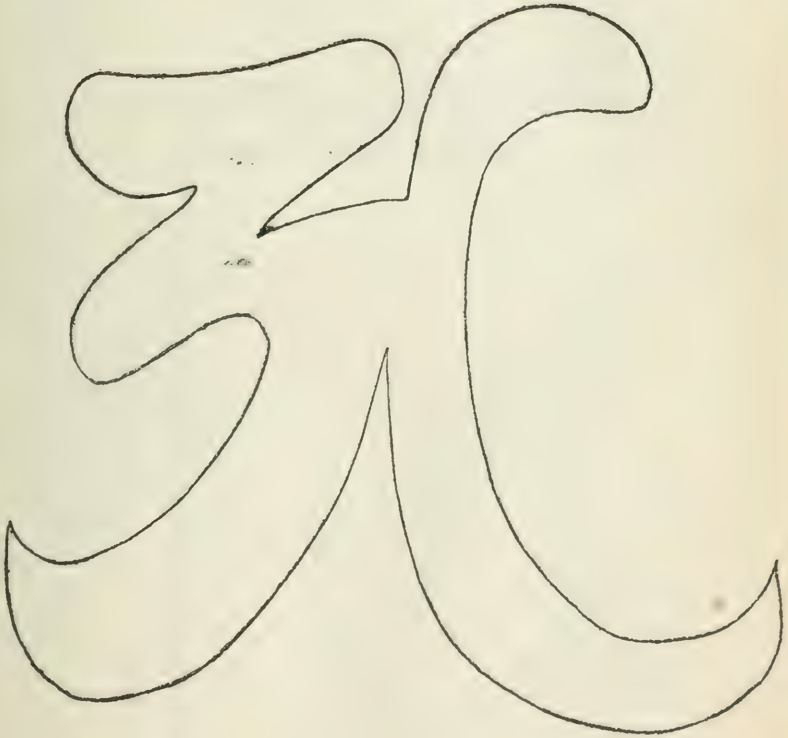
仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

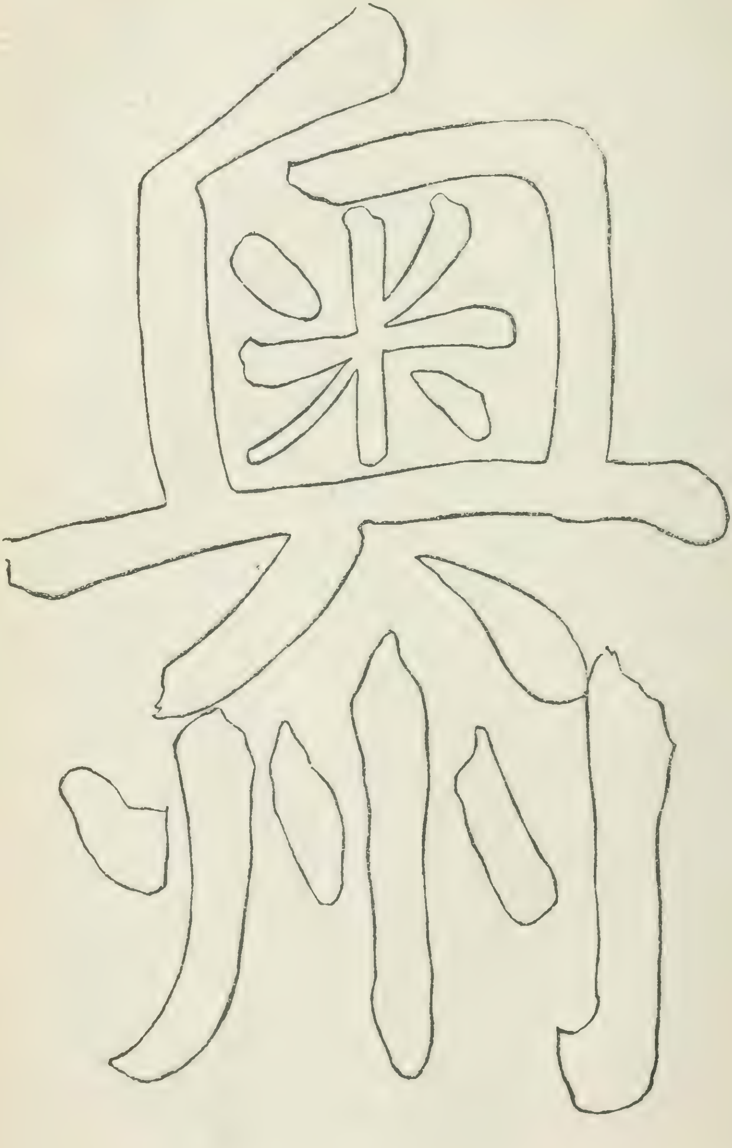
目　次

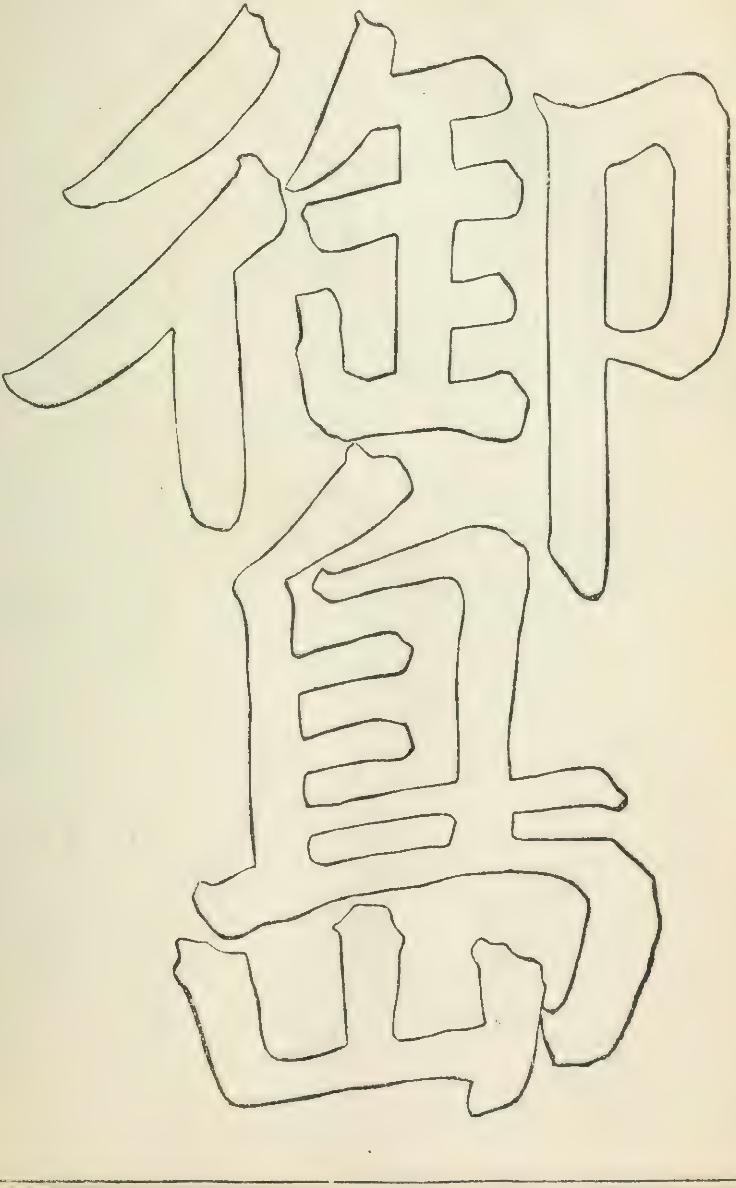
賴賢之碑

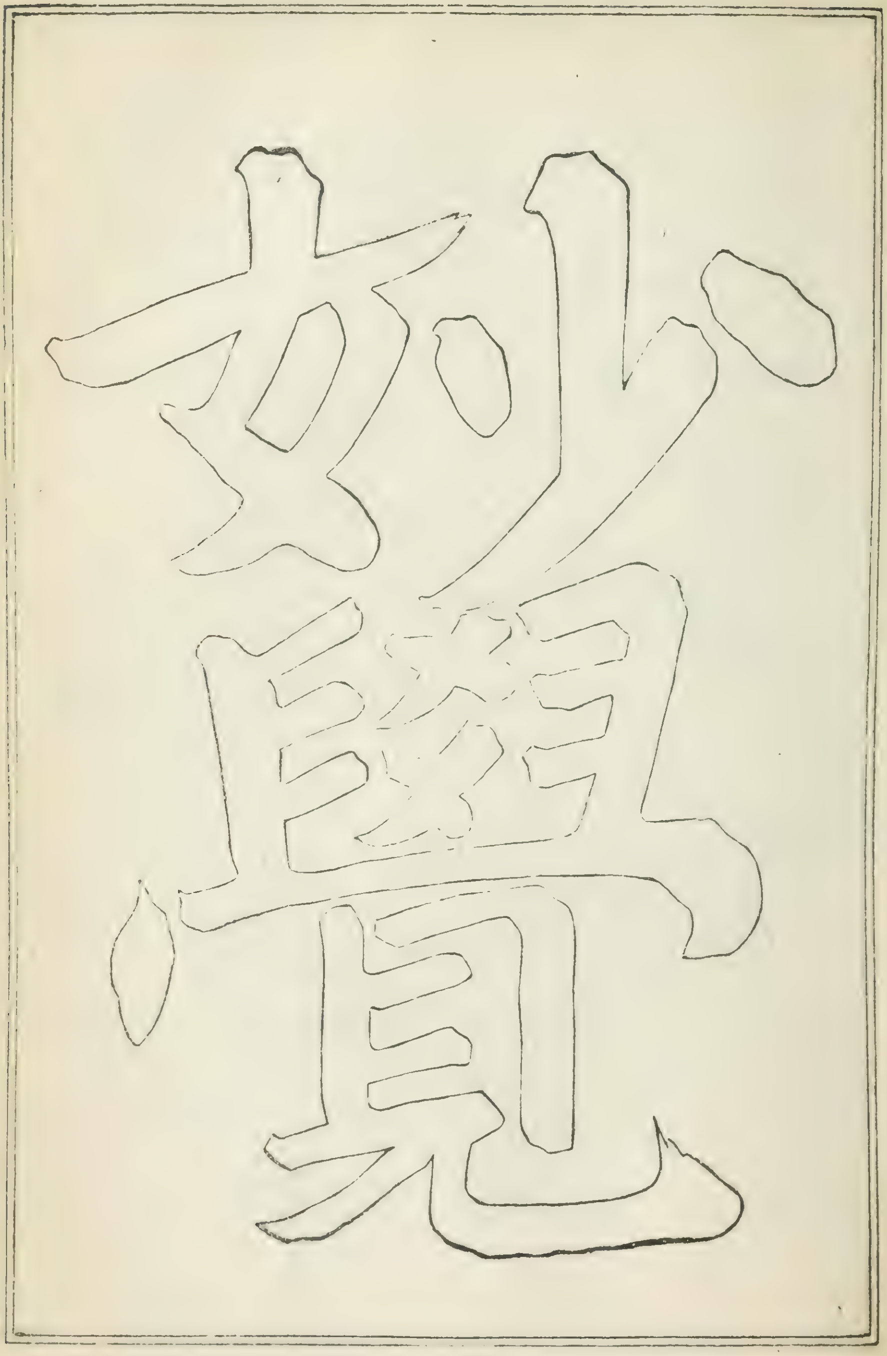
一、碑面全体之圖
二、梵　字
三、奧州御島妙覺菴賴賢菴主行實碑
　　幷序
四、双龍之圖
五、碑　文
六、淸敬基跋

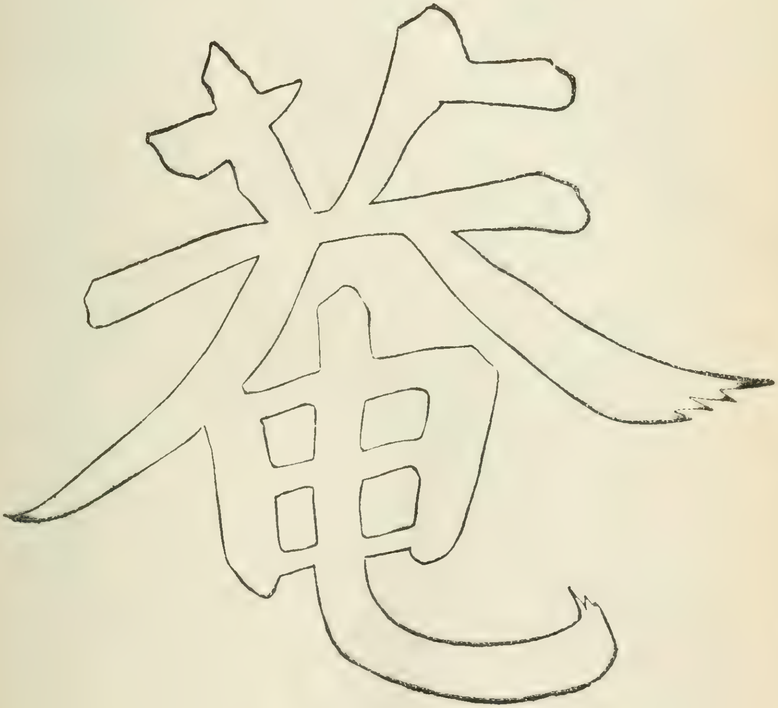
以　上






御島


妙覺

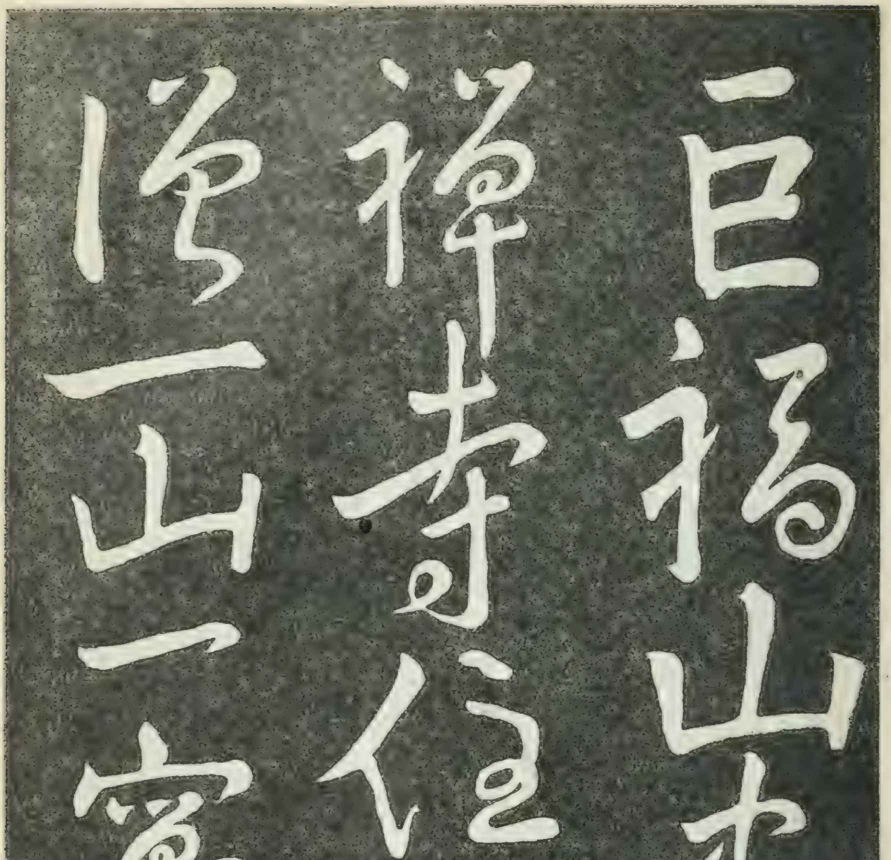


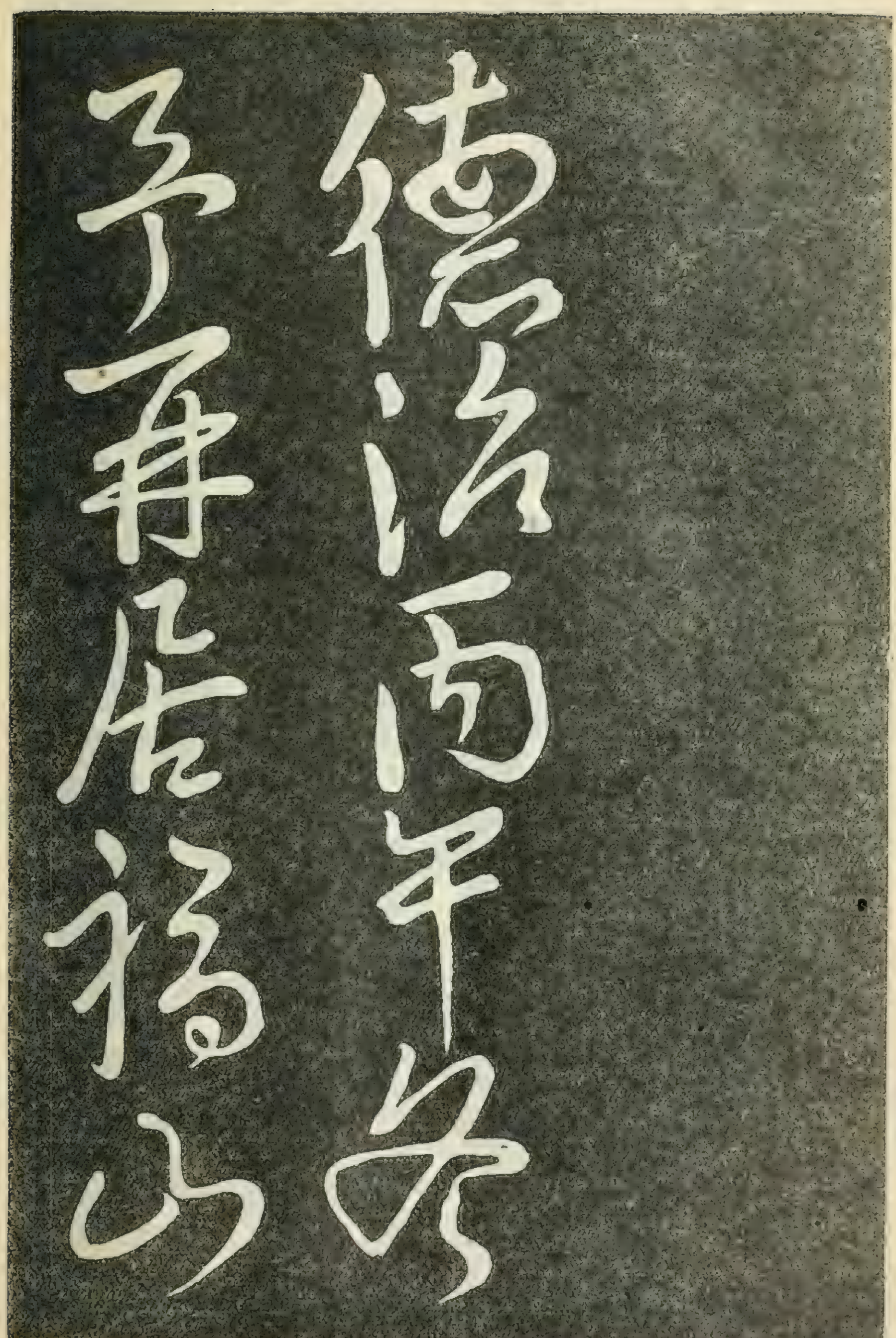
頼賢

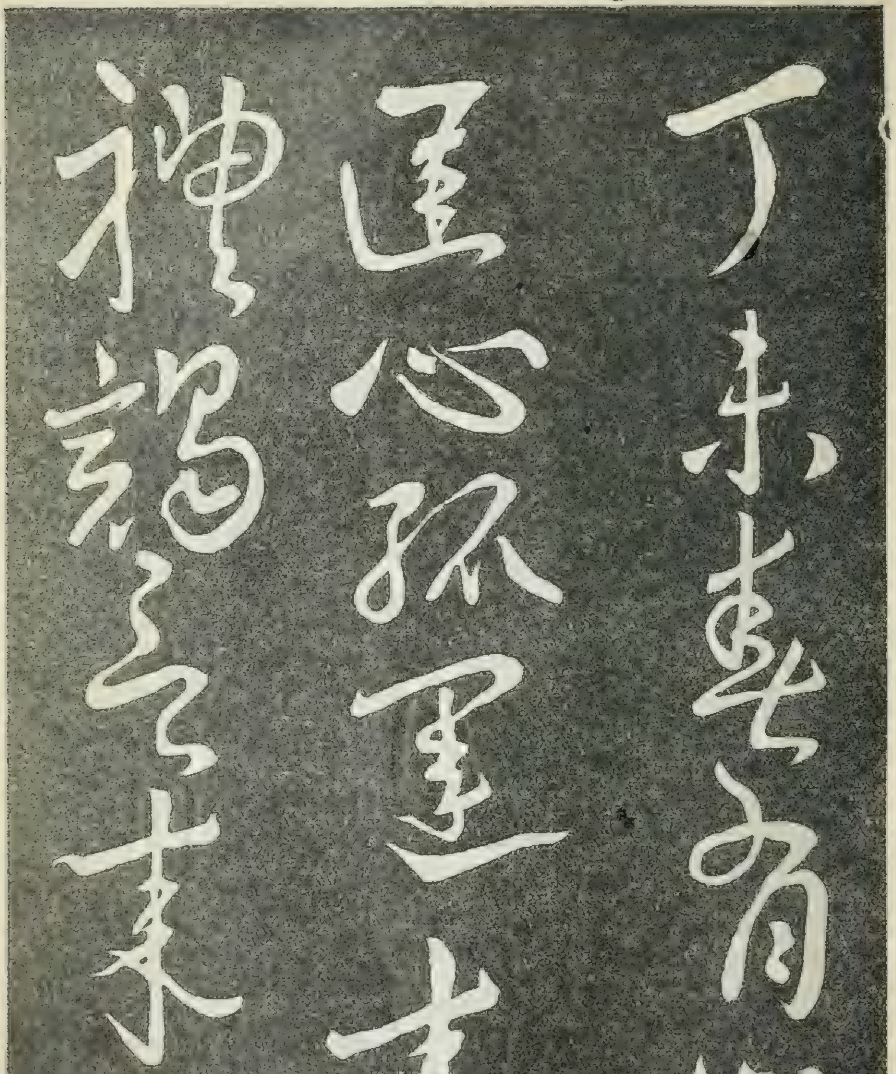
菴主

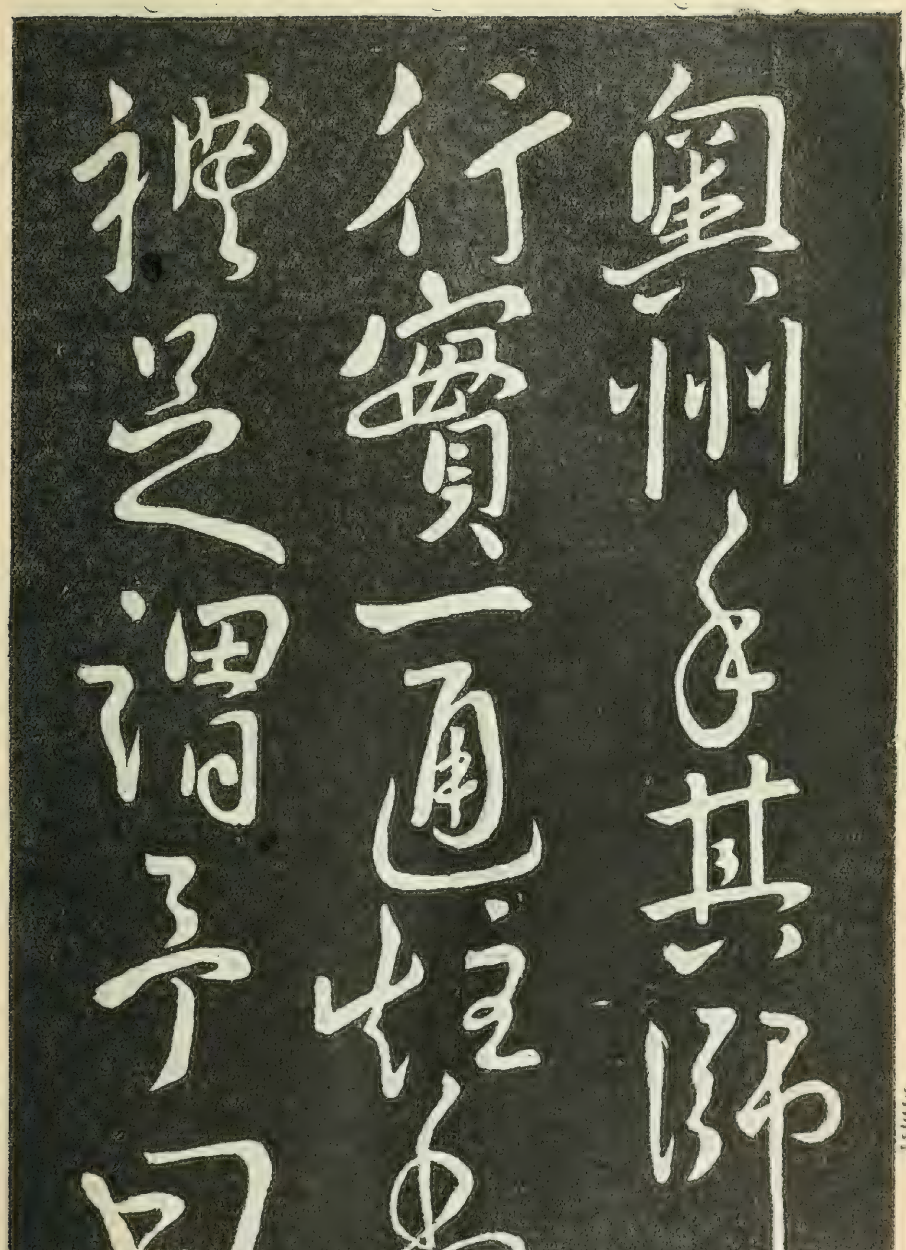
行實

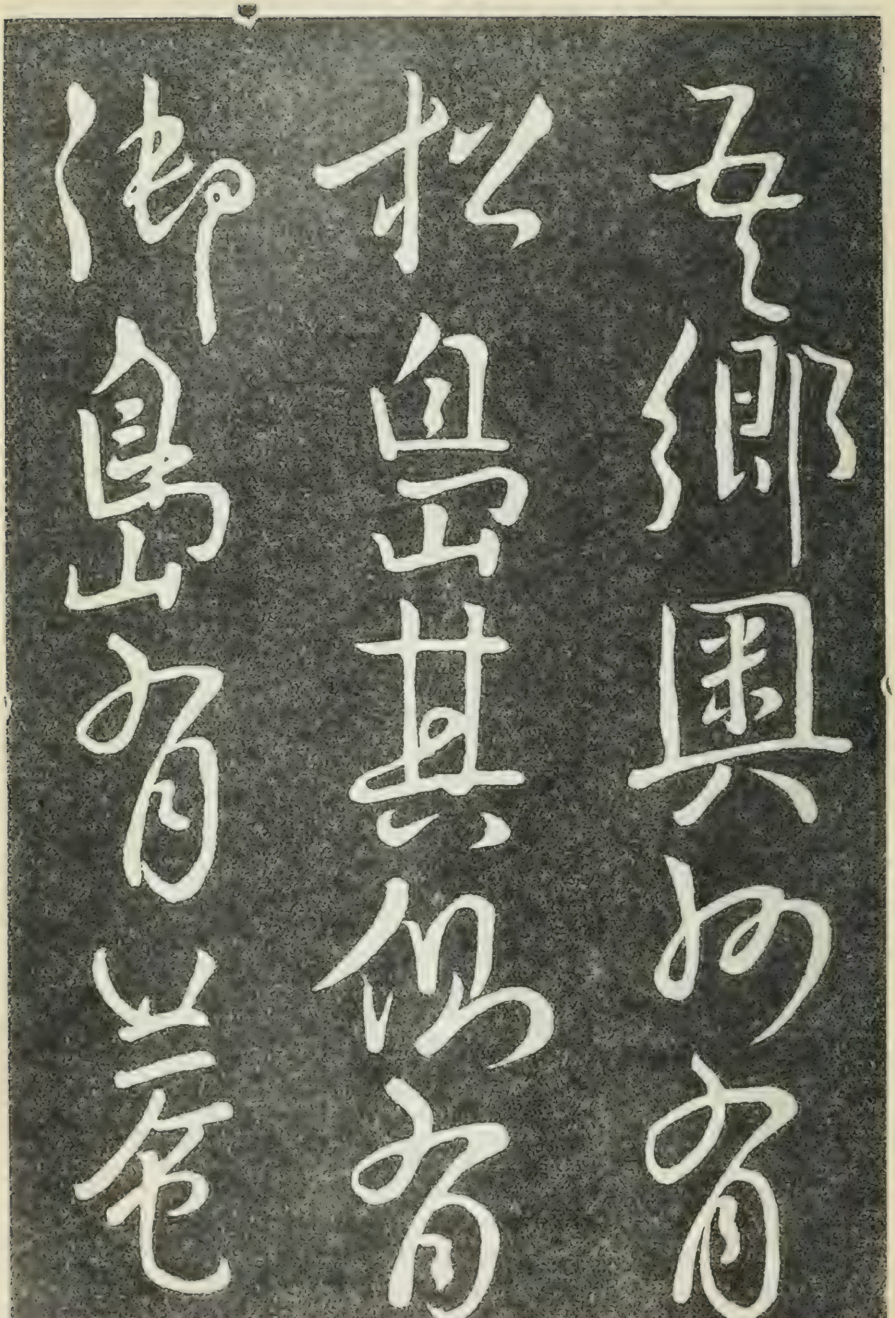
銘并序

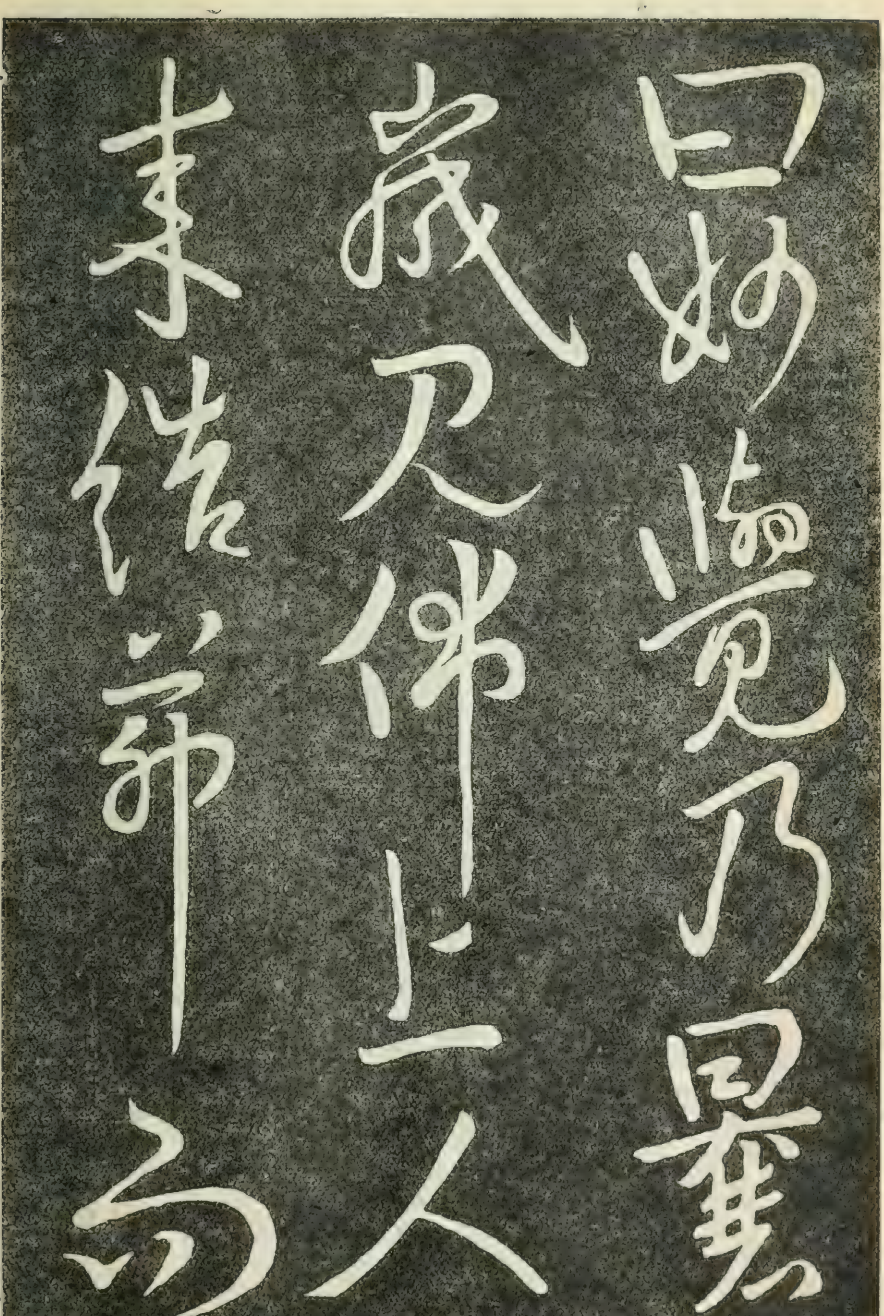

巨福山建長
禪寺住山
一山一寧撰

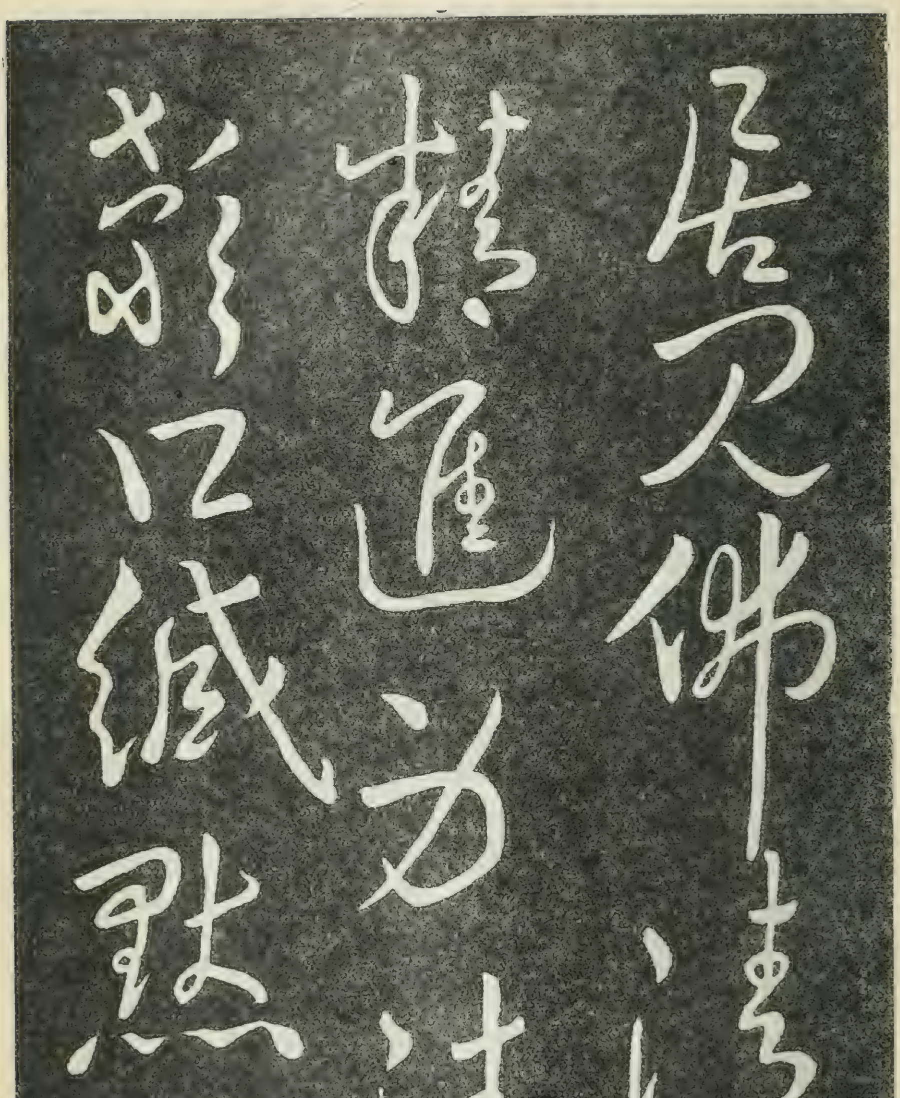


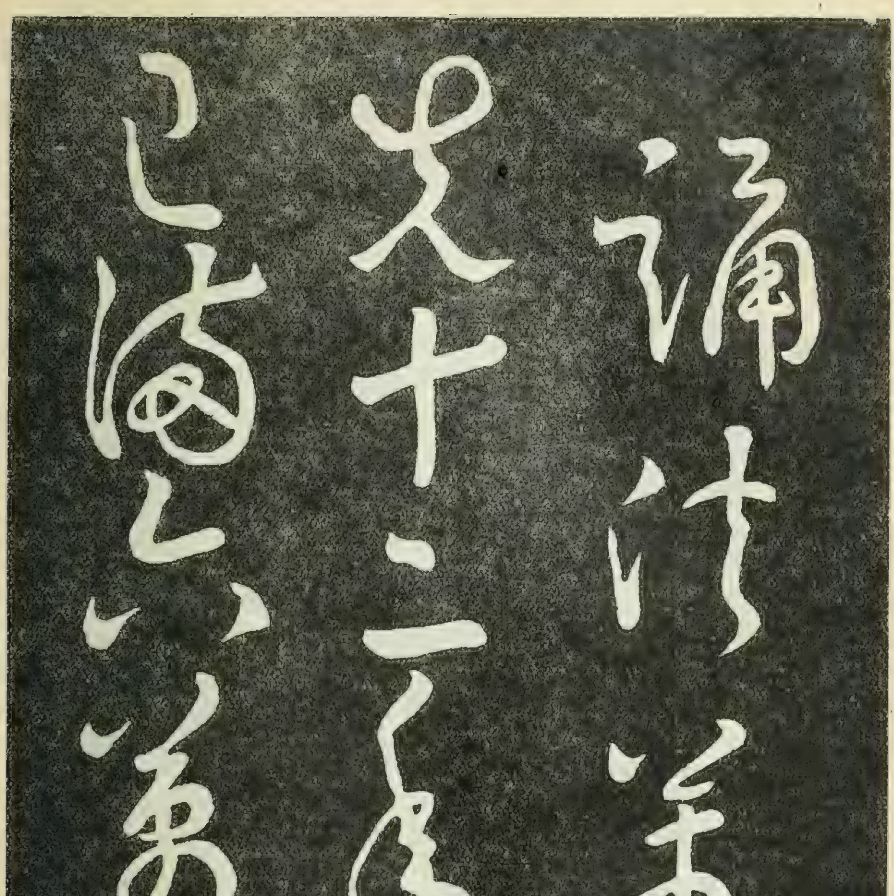


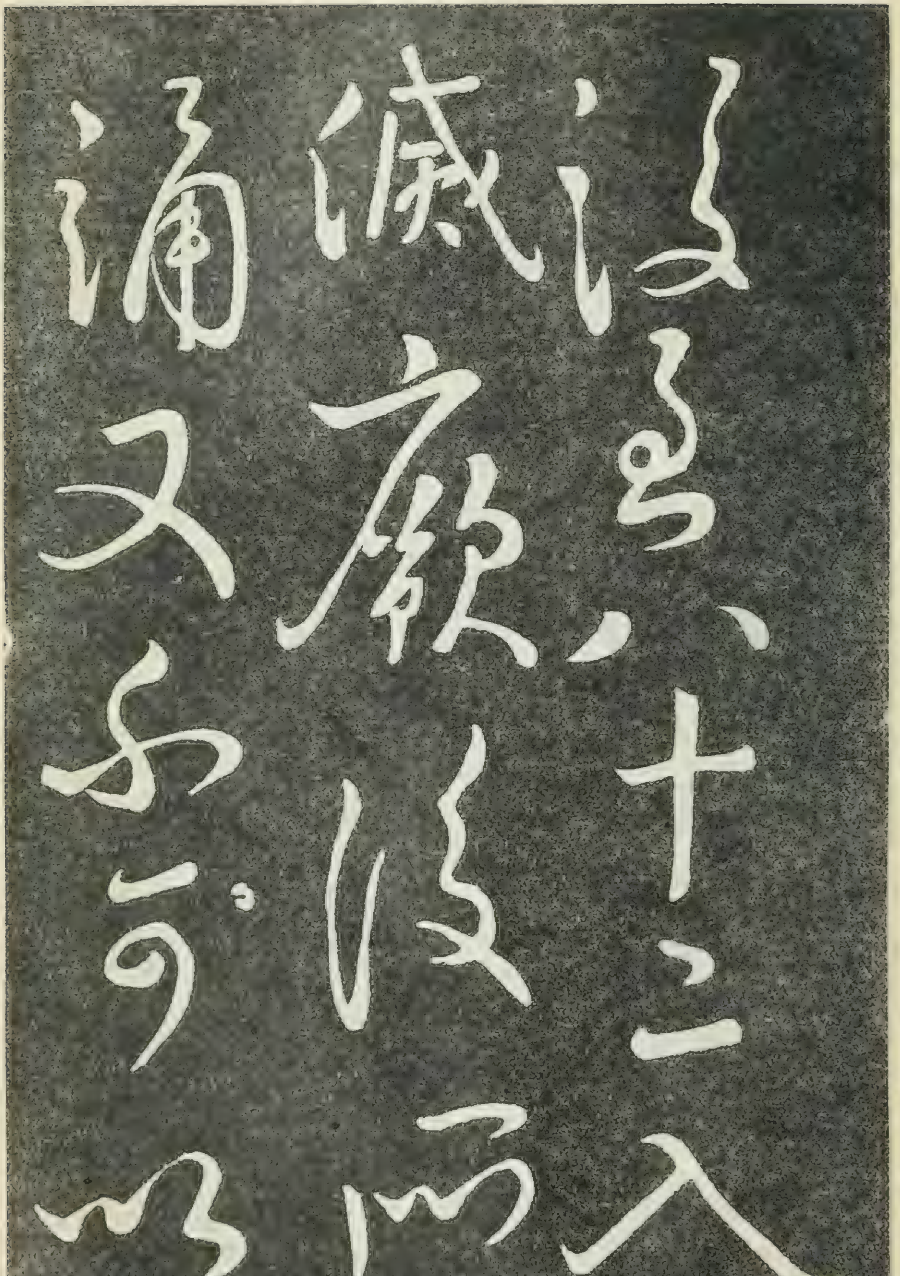

奧州手其師
行實一通以與

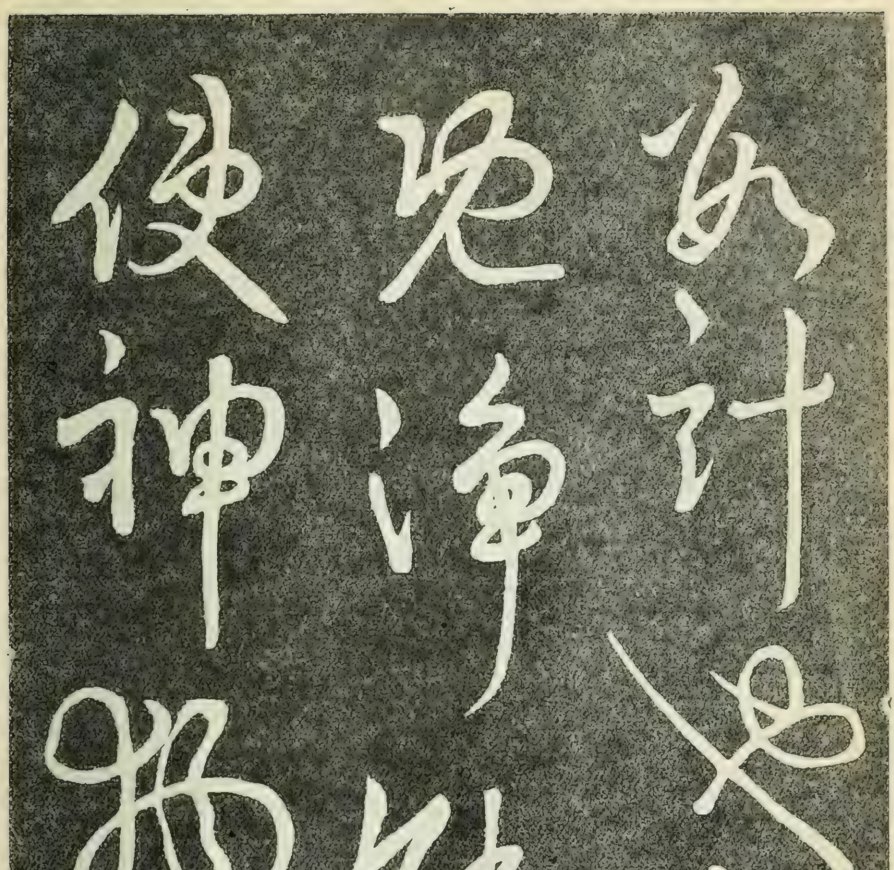

吾鄉興如有
松島其似有
御島山有之

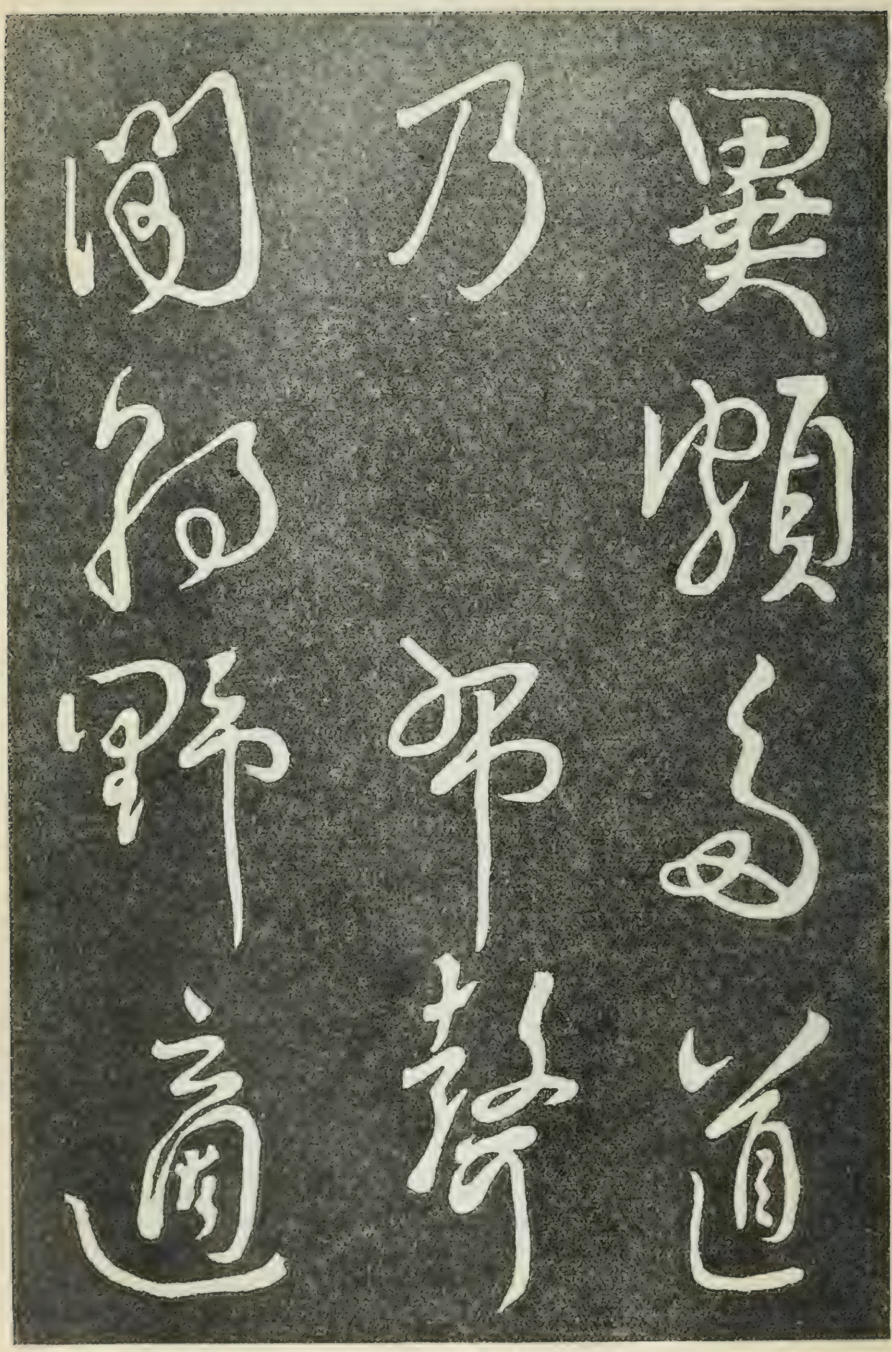


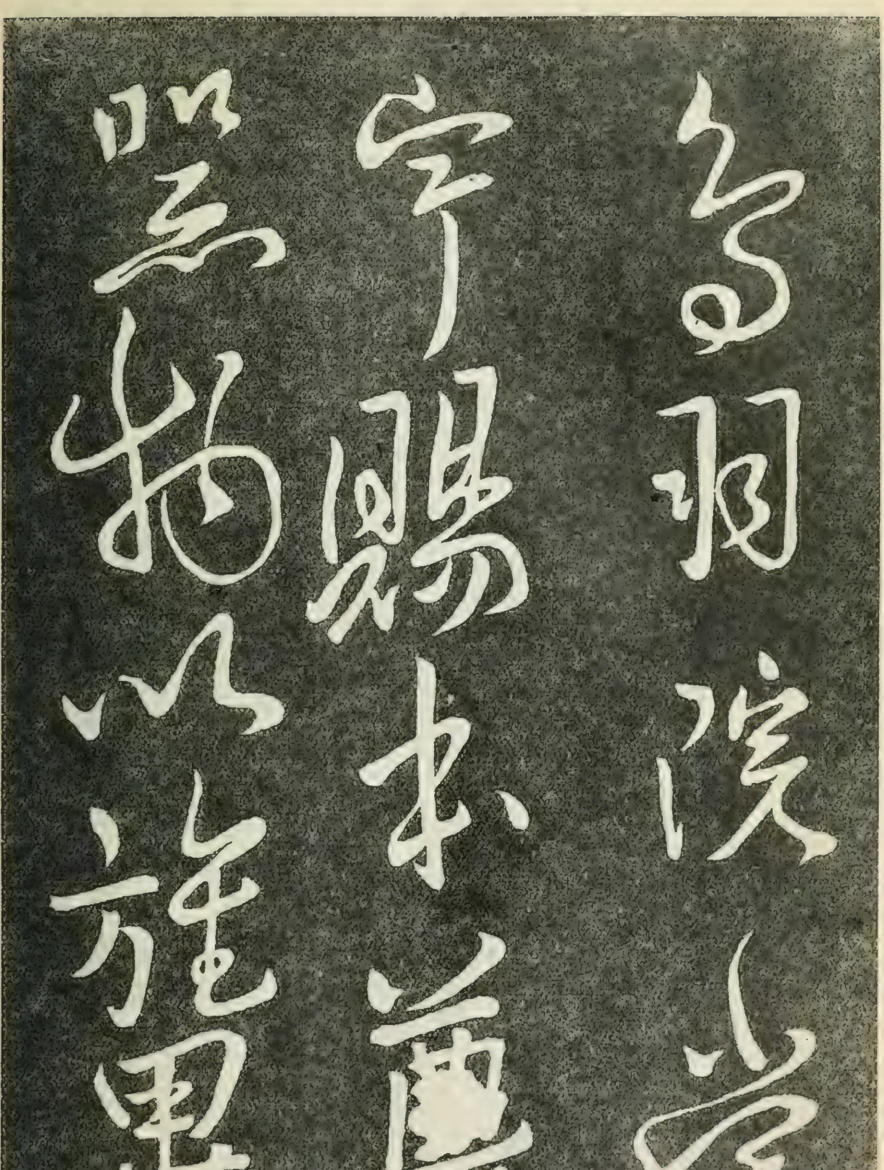


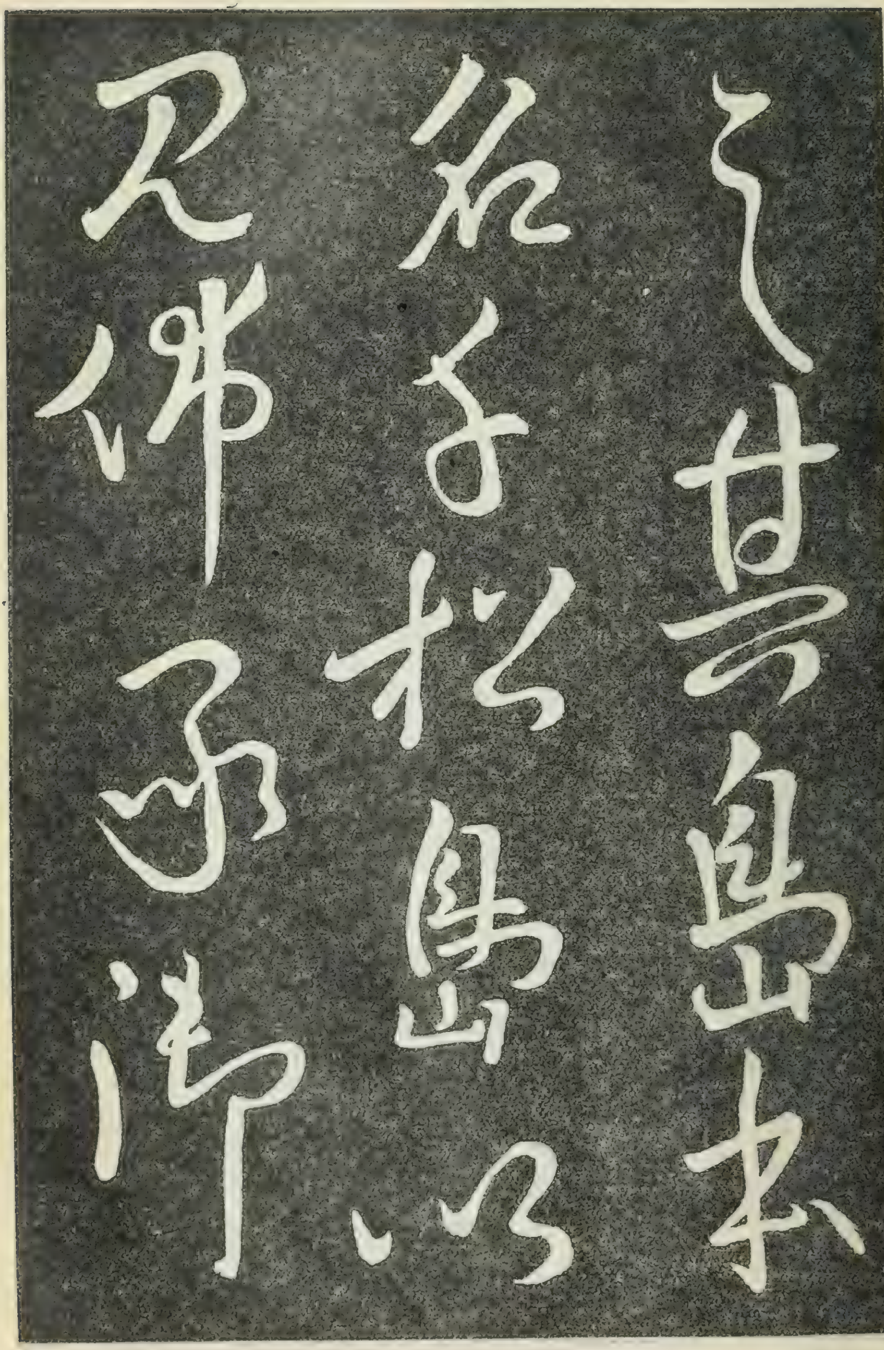


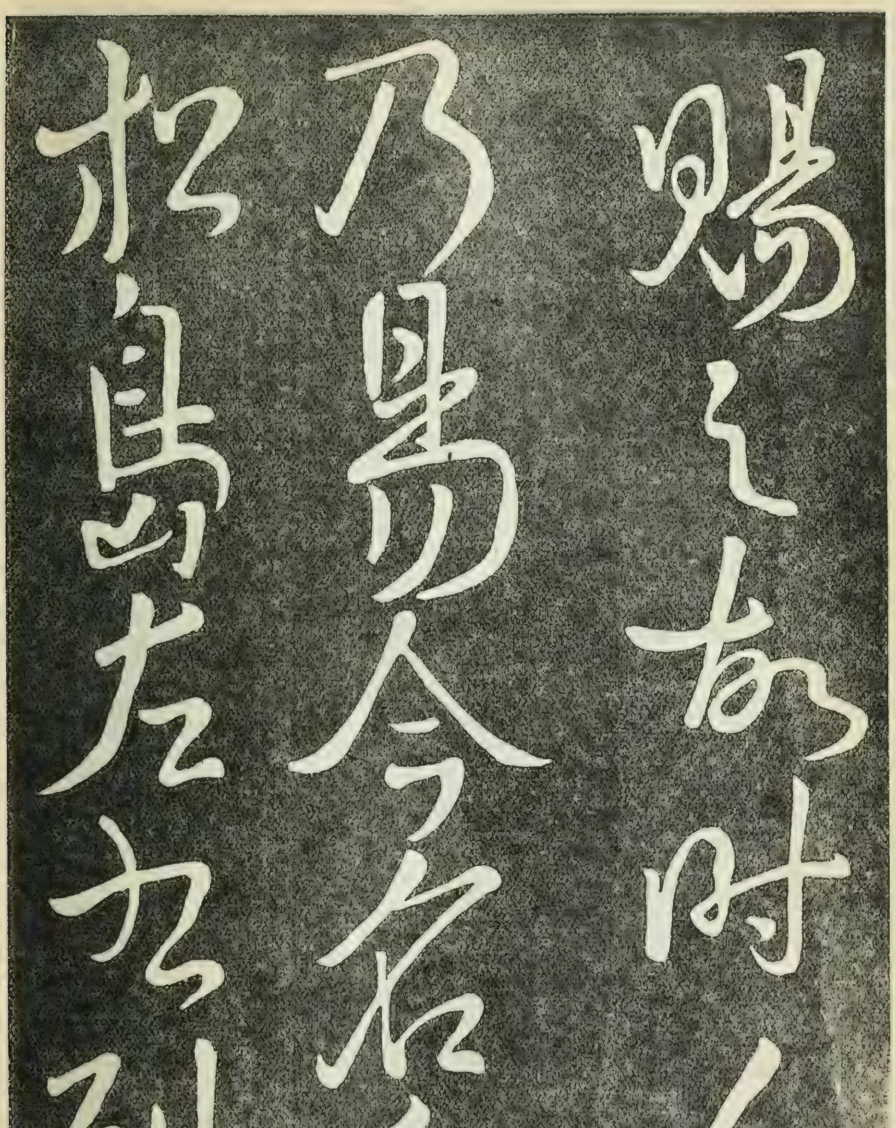


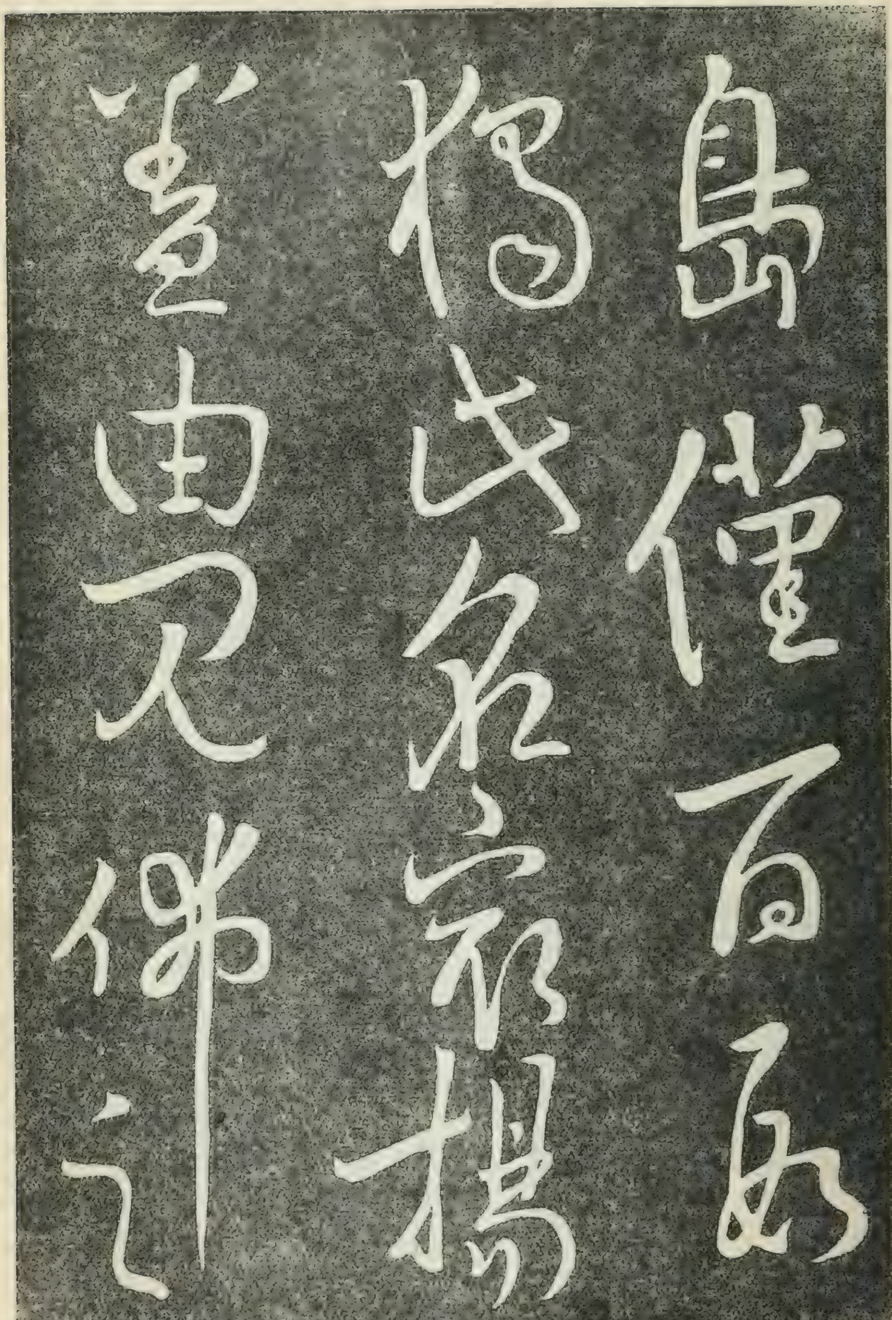


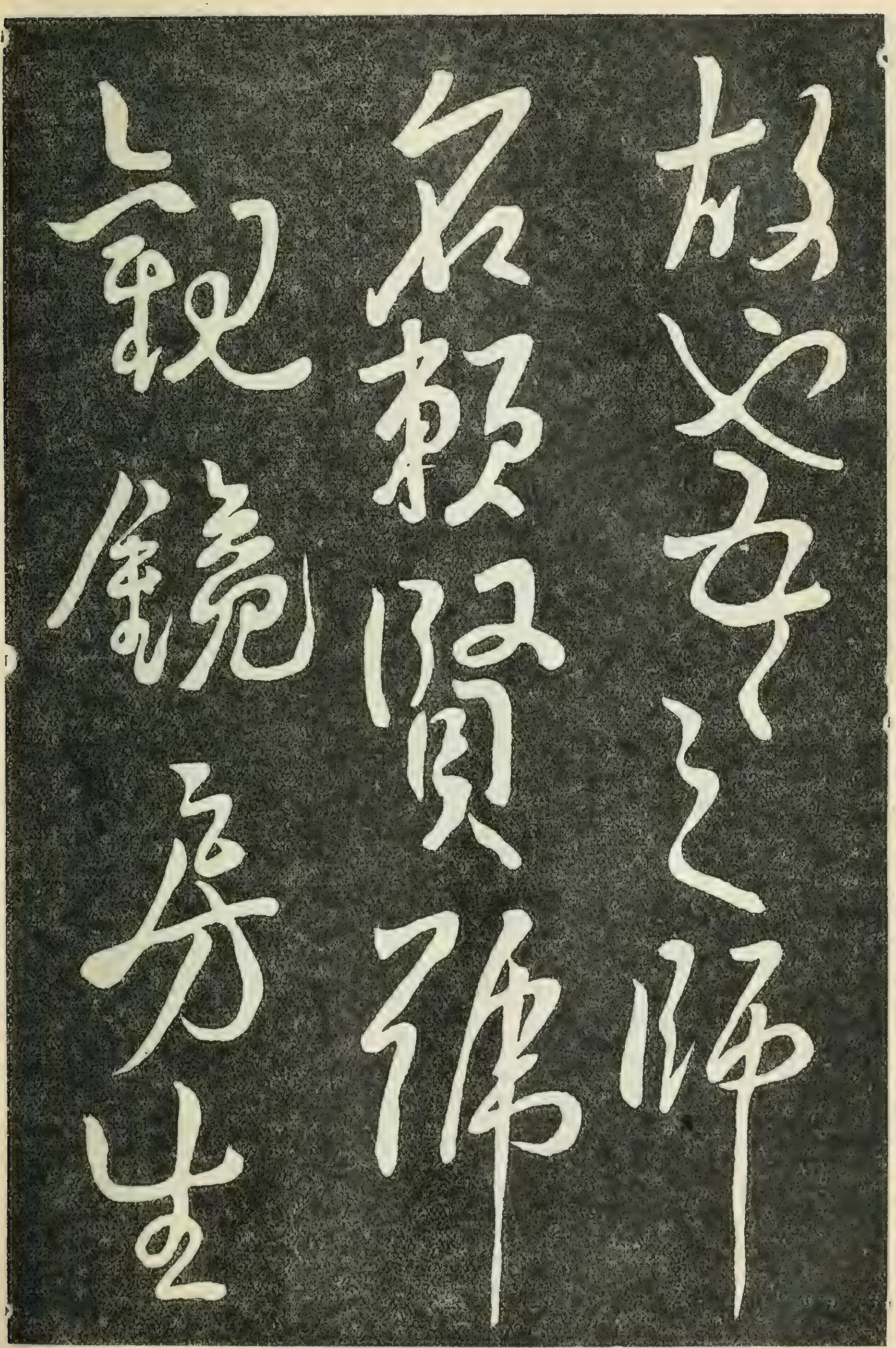


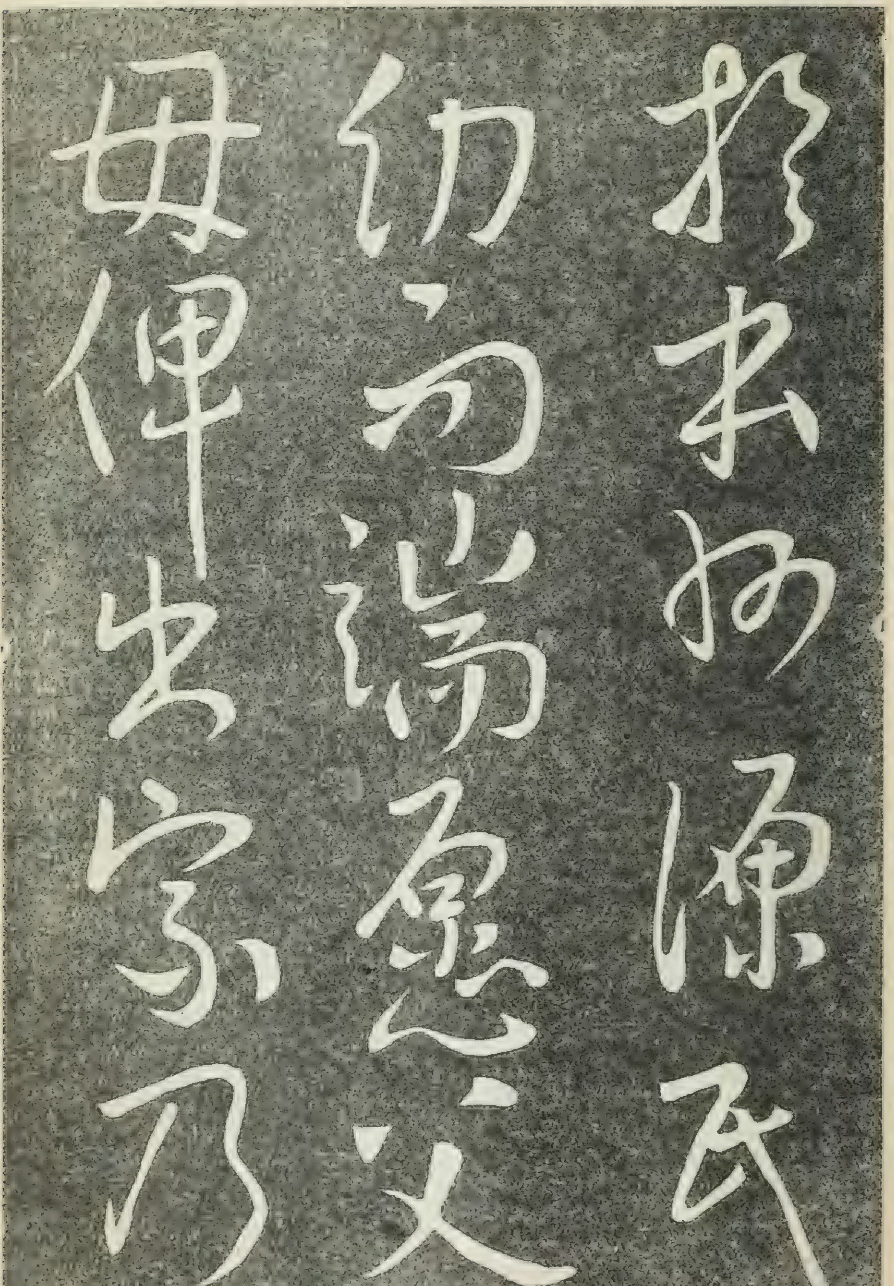


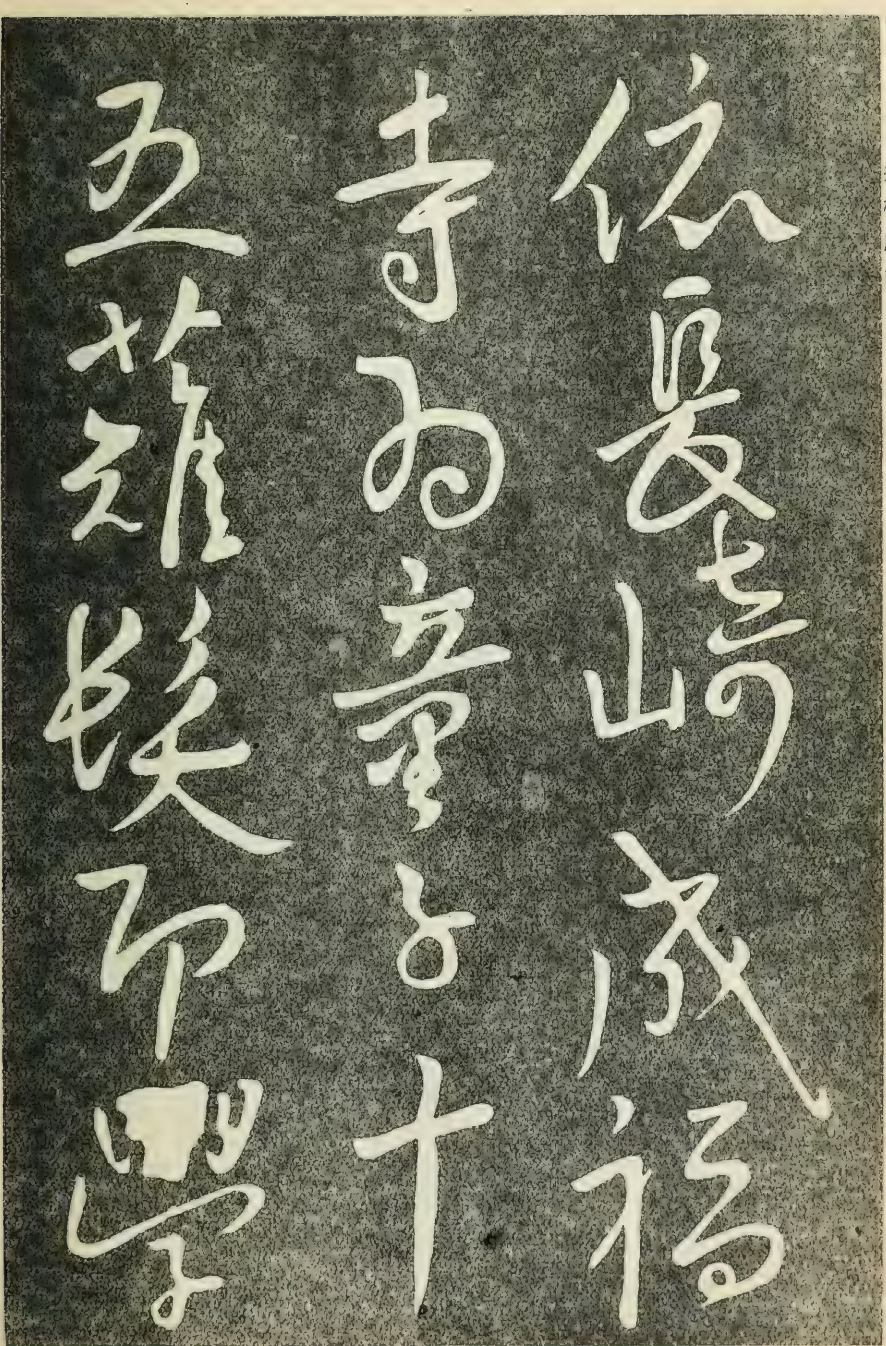

名予松島以

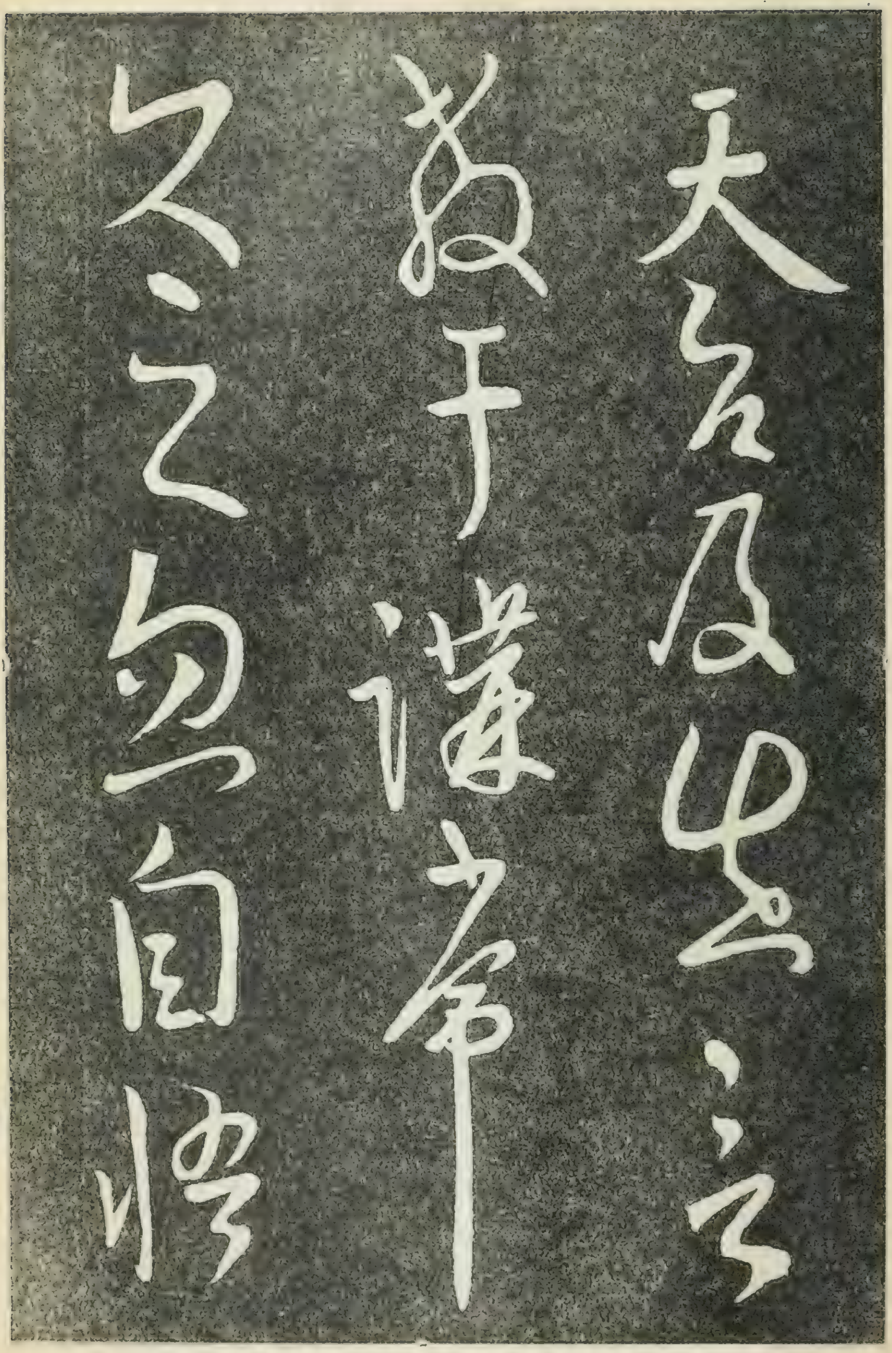

賜之故時人
乃號今名爲
松島左右別

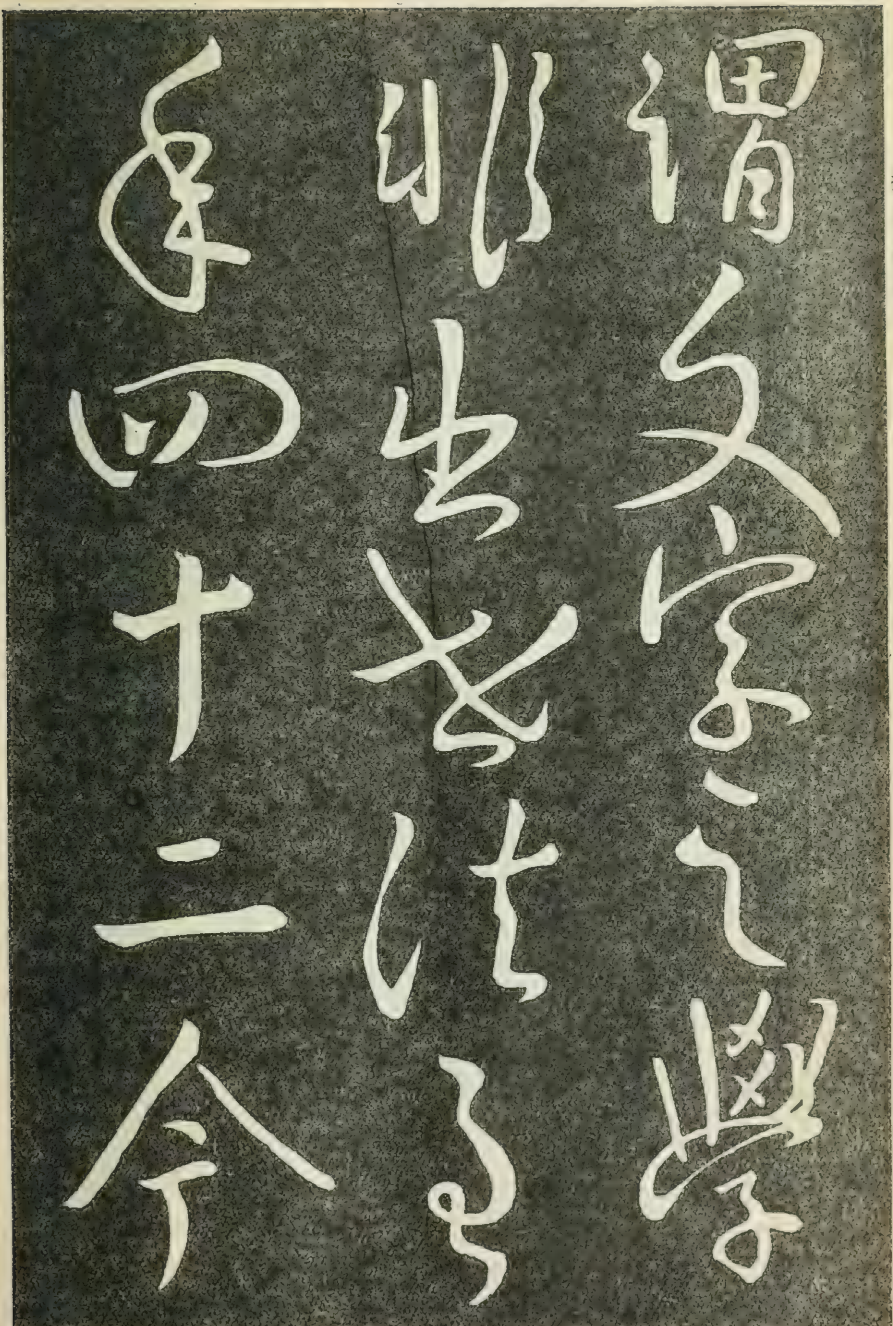

島僅百畝

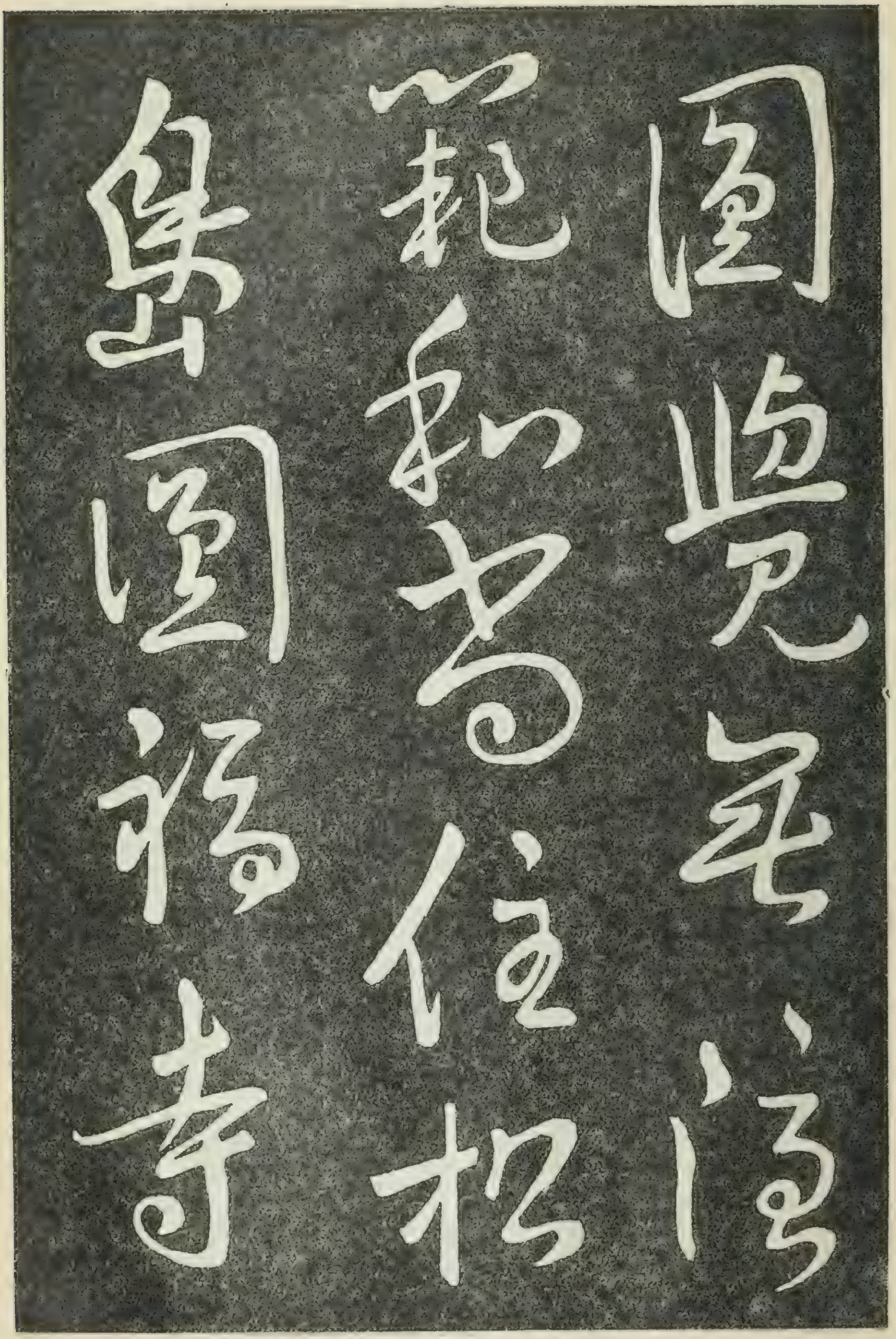


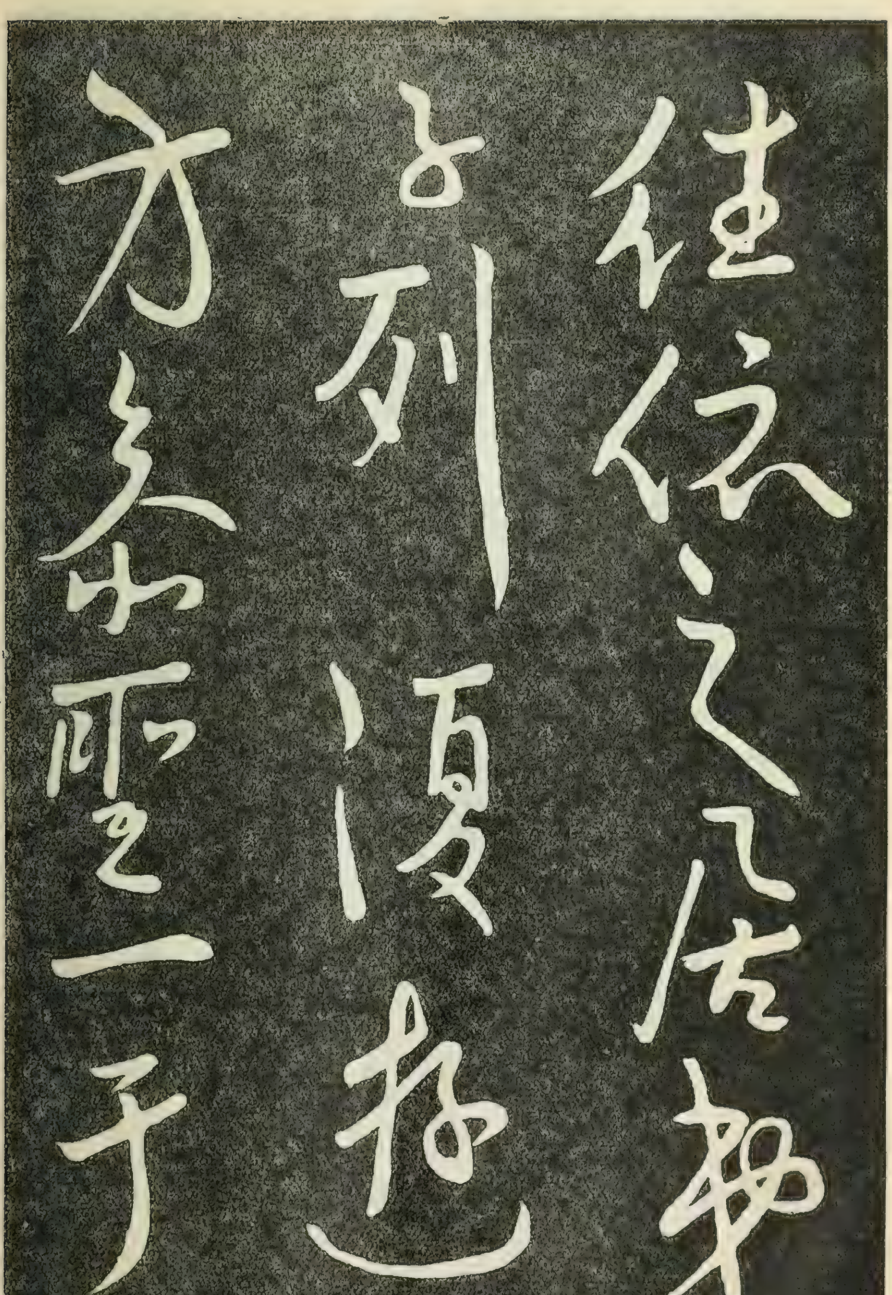


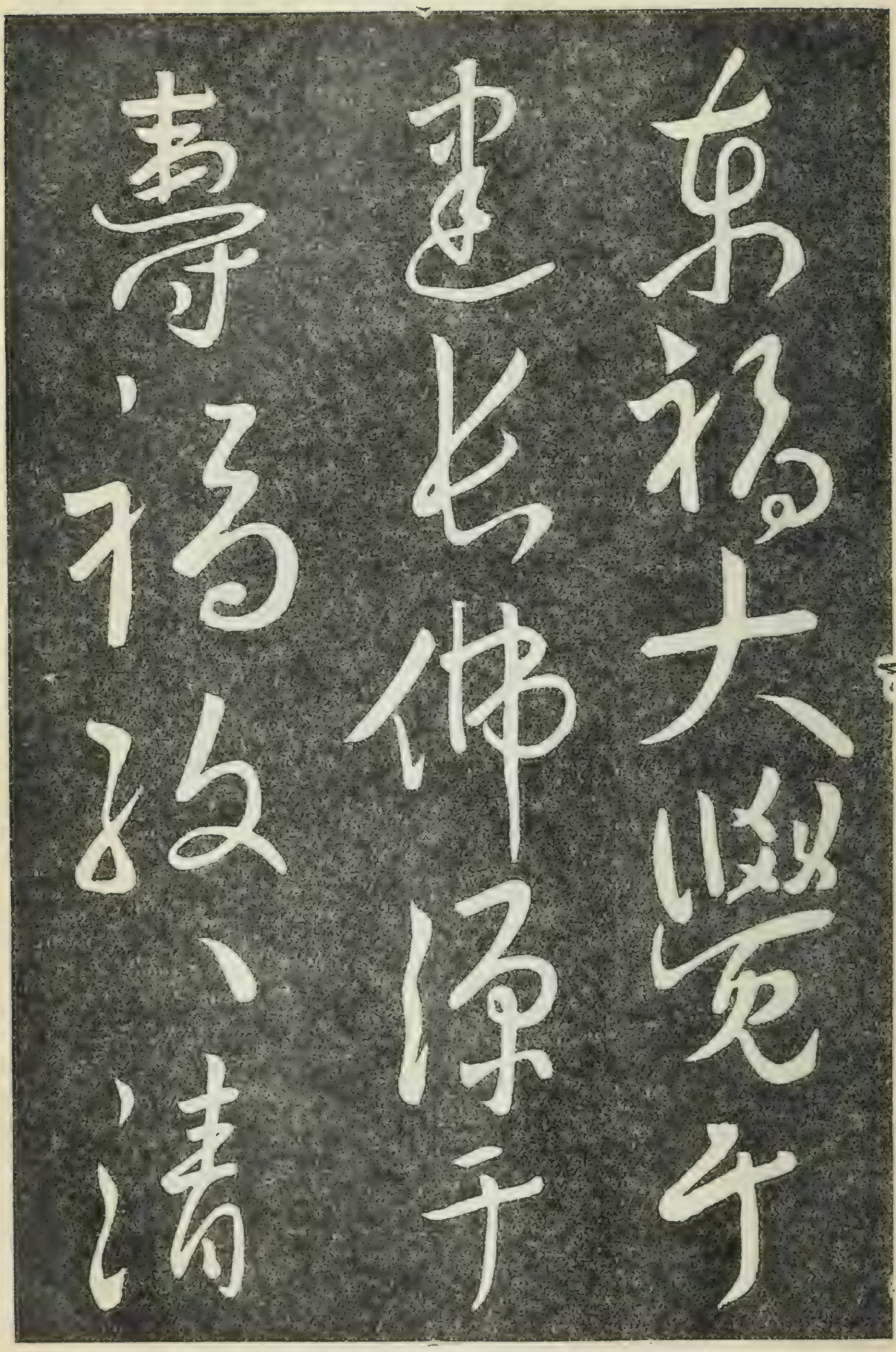


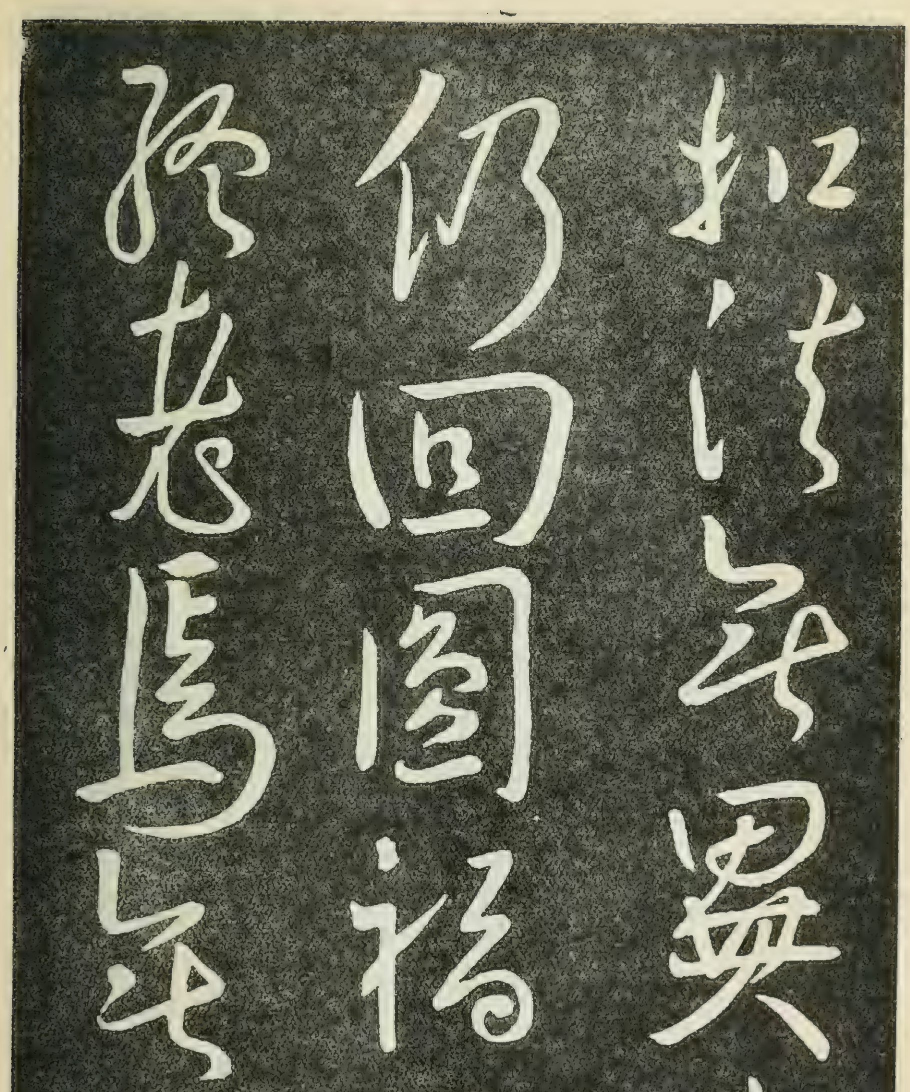


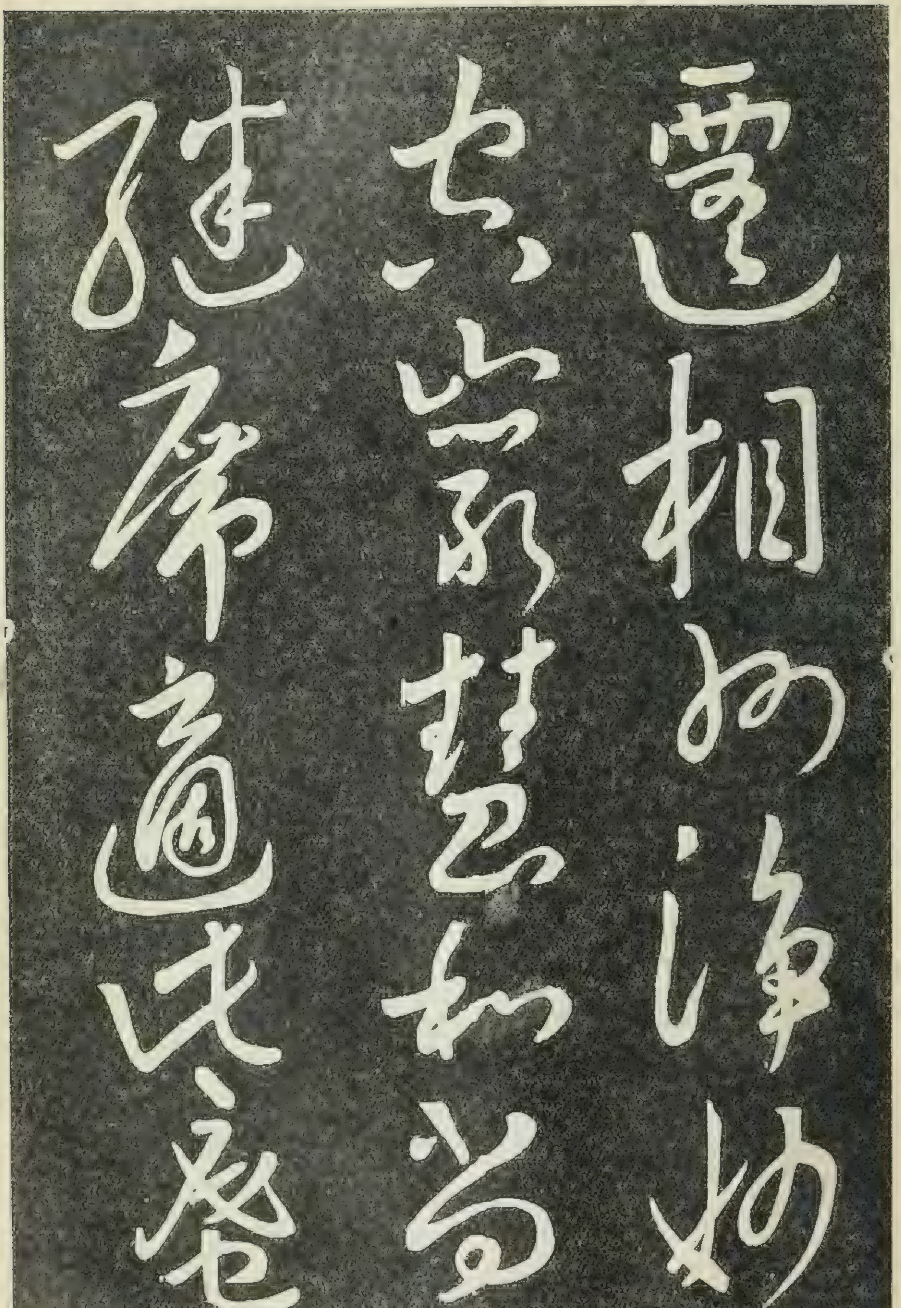


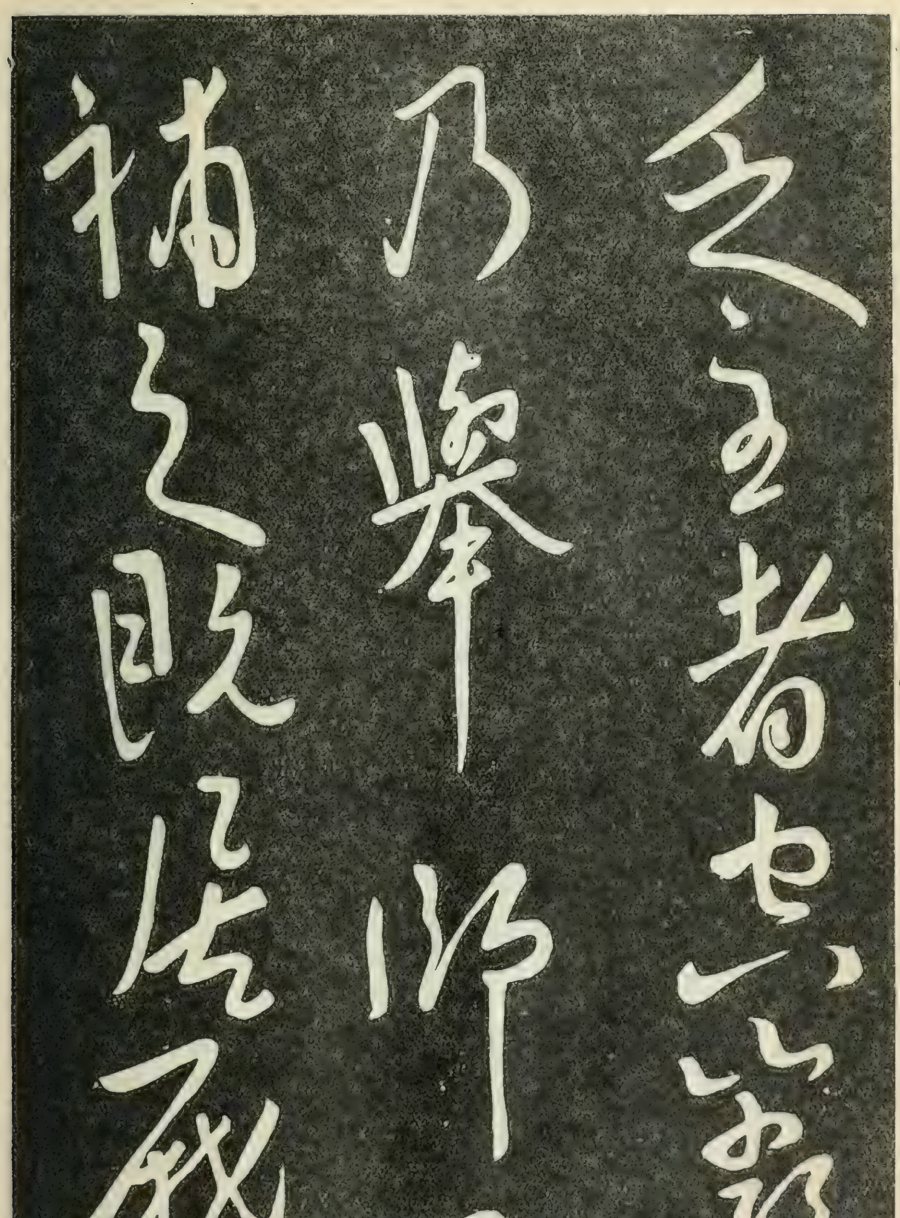


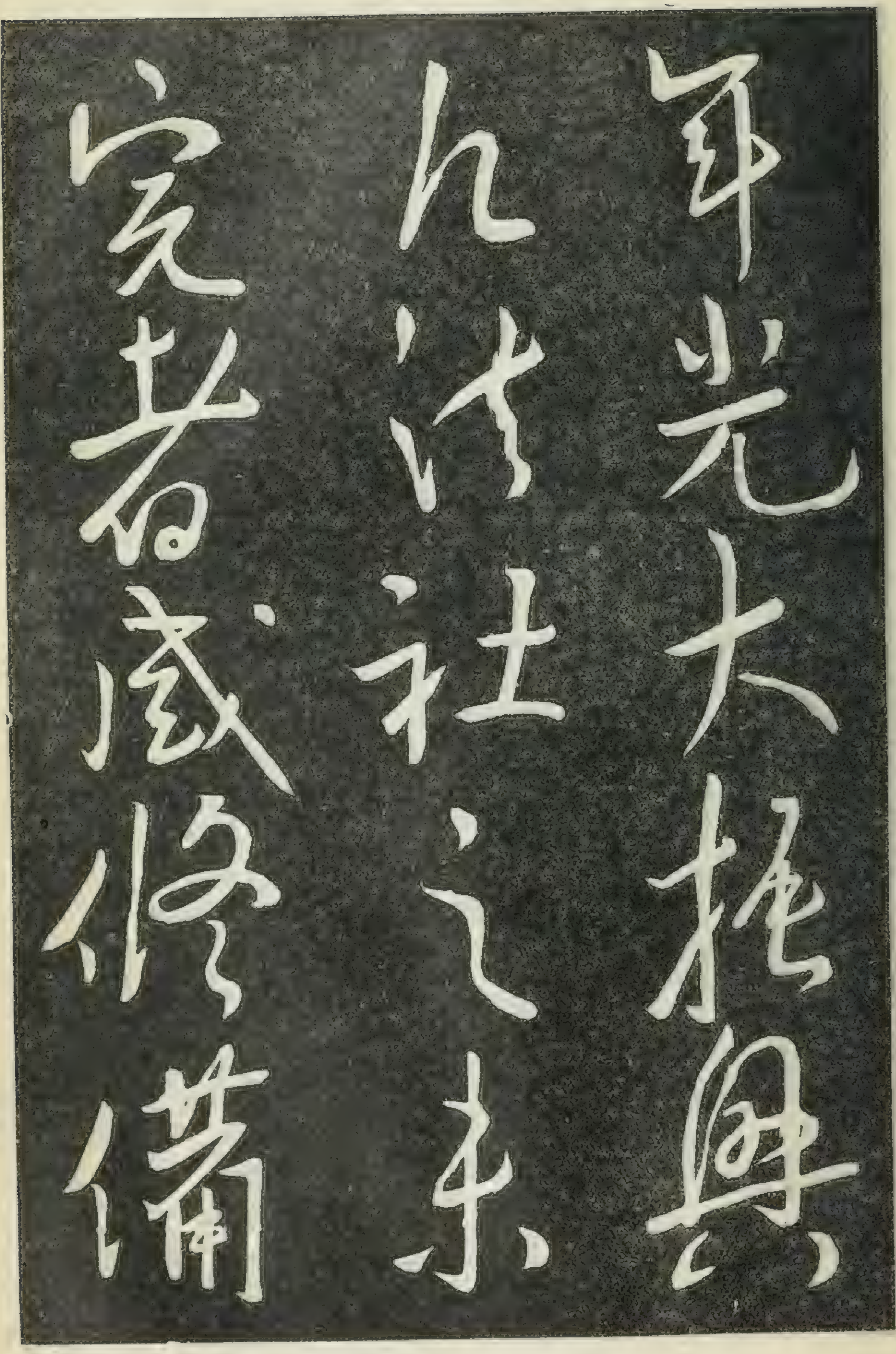


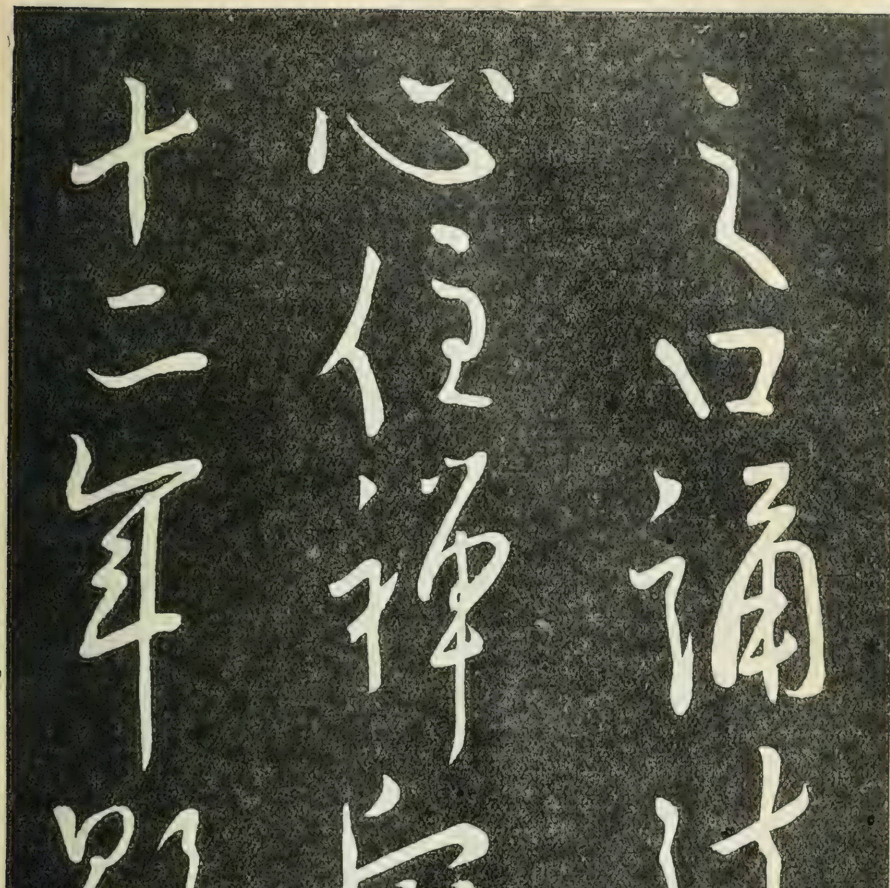


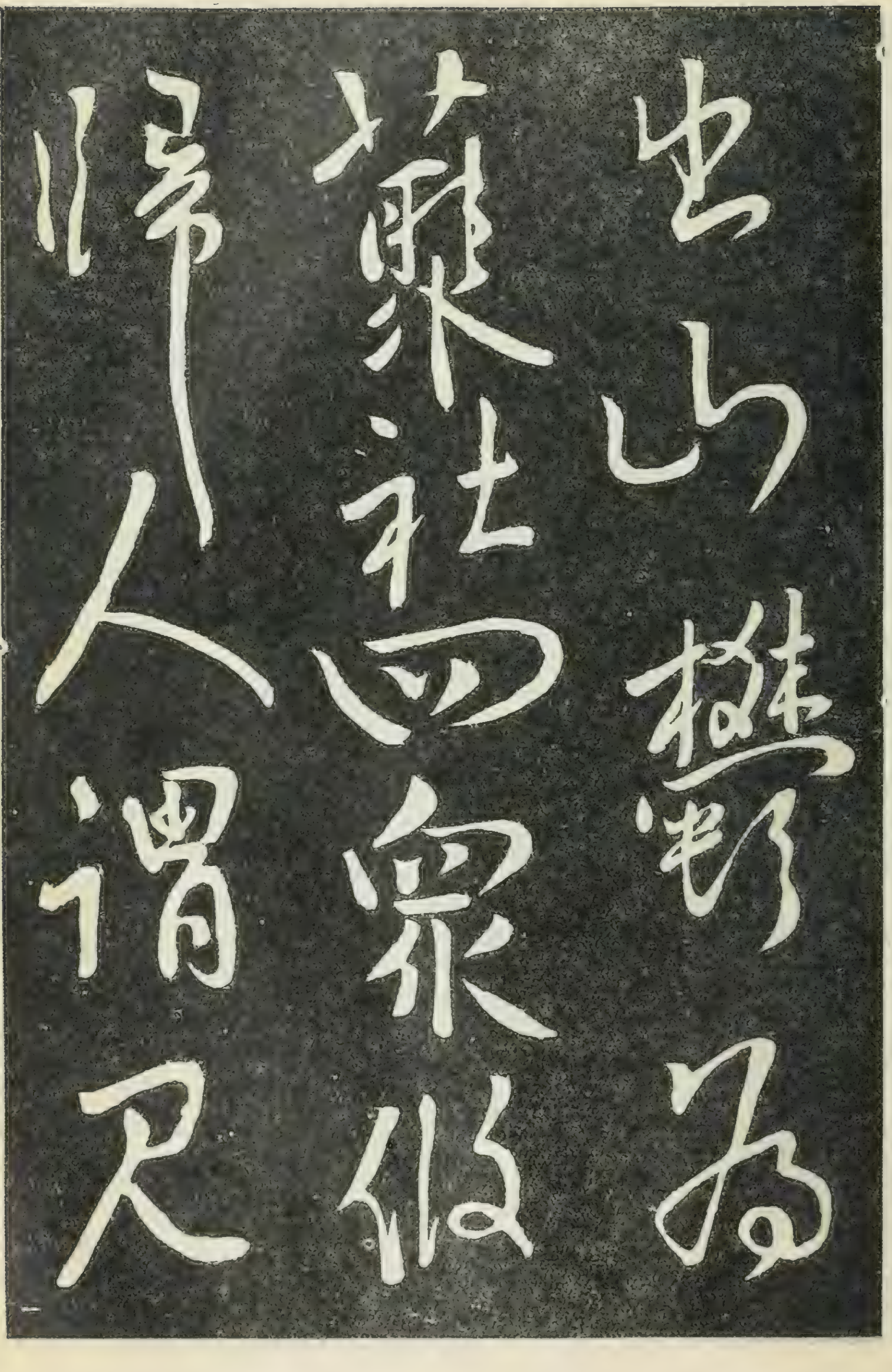




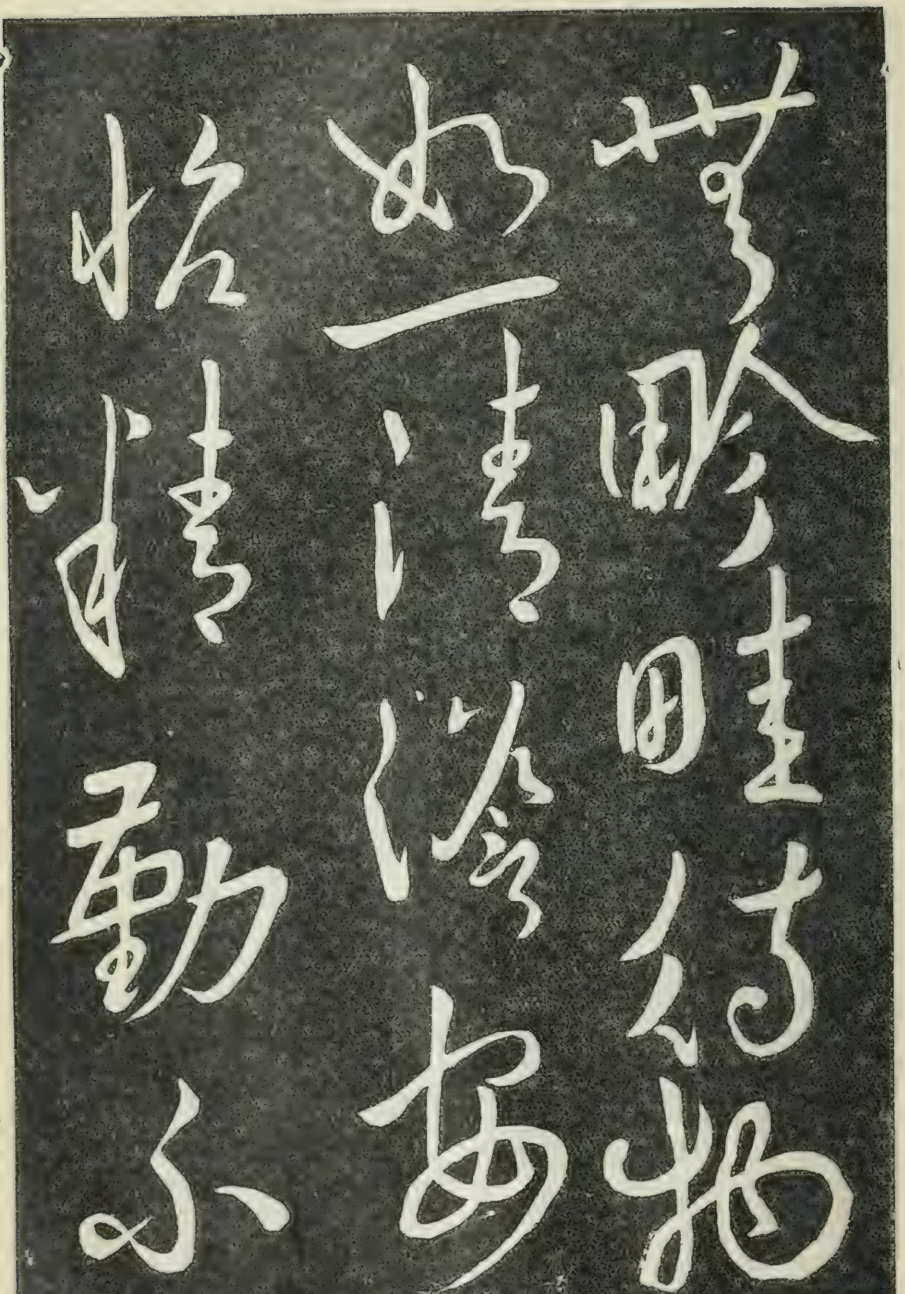





之口誦
心住禪解一
十二年

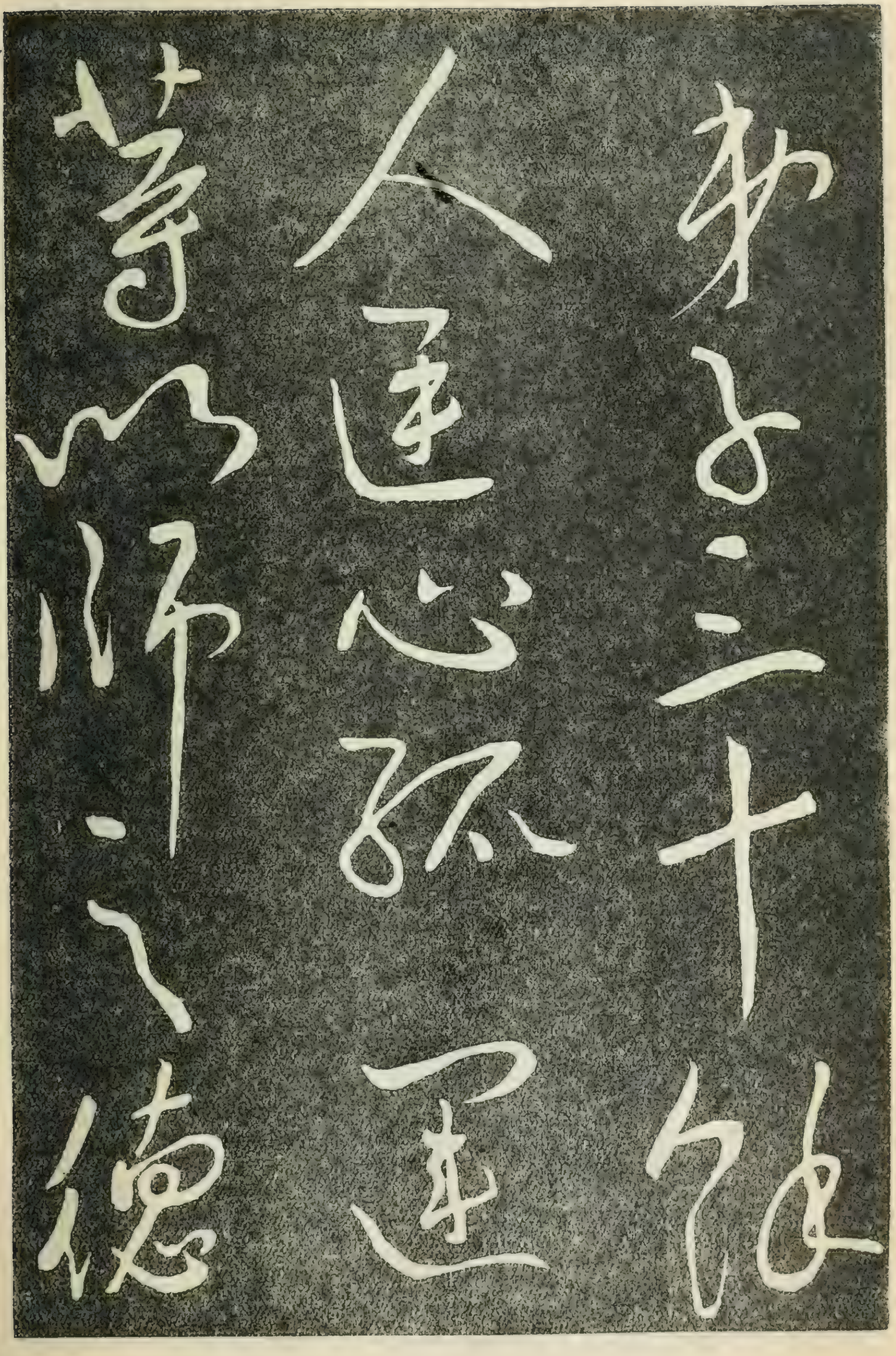


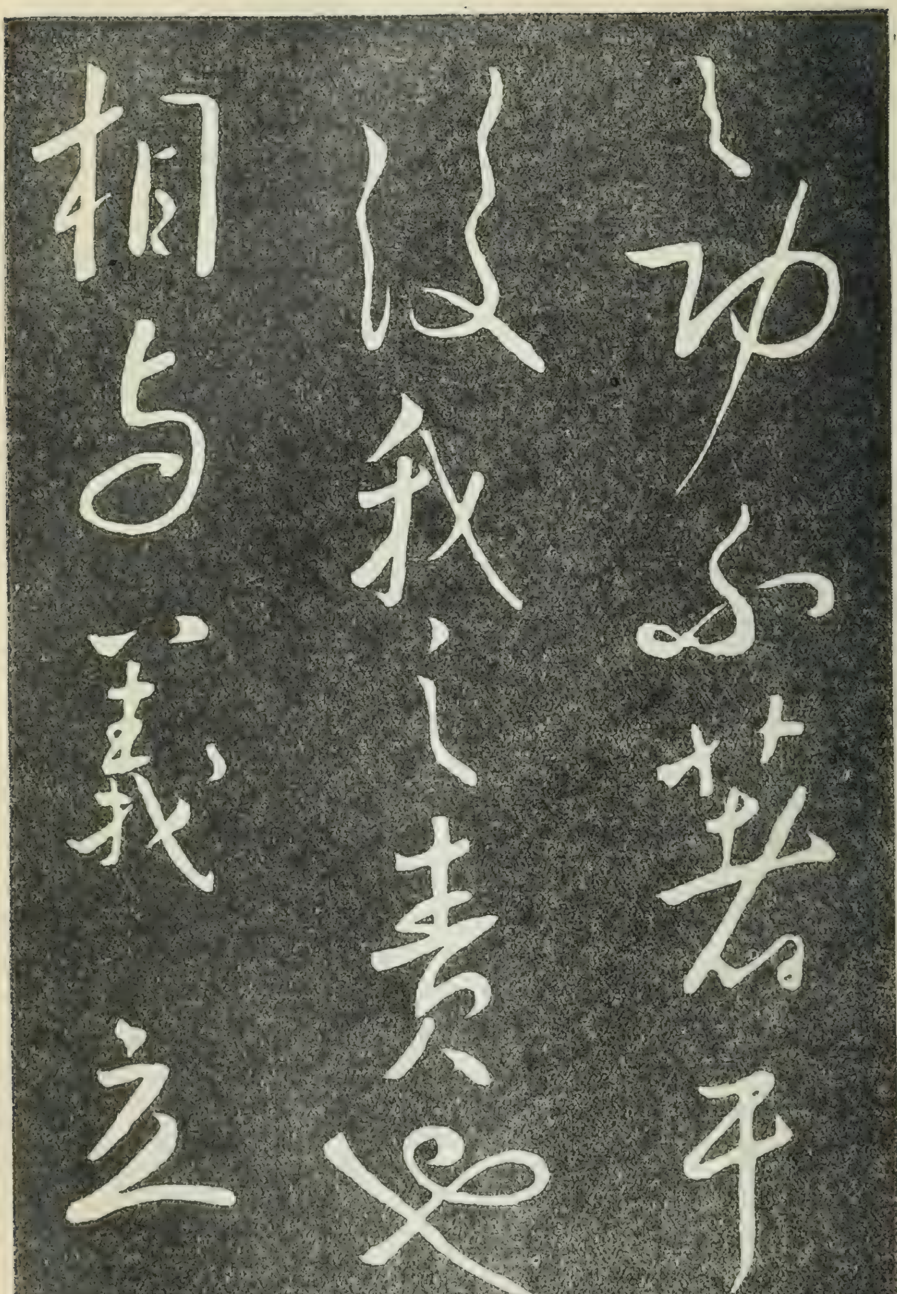
佛上人今已再
世矣則其
天性慈和明

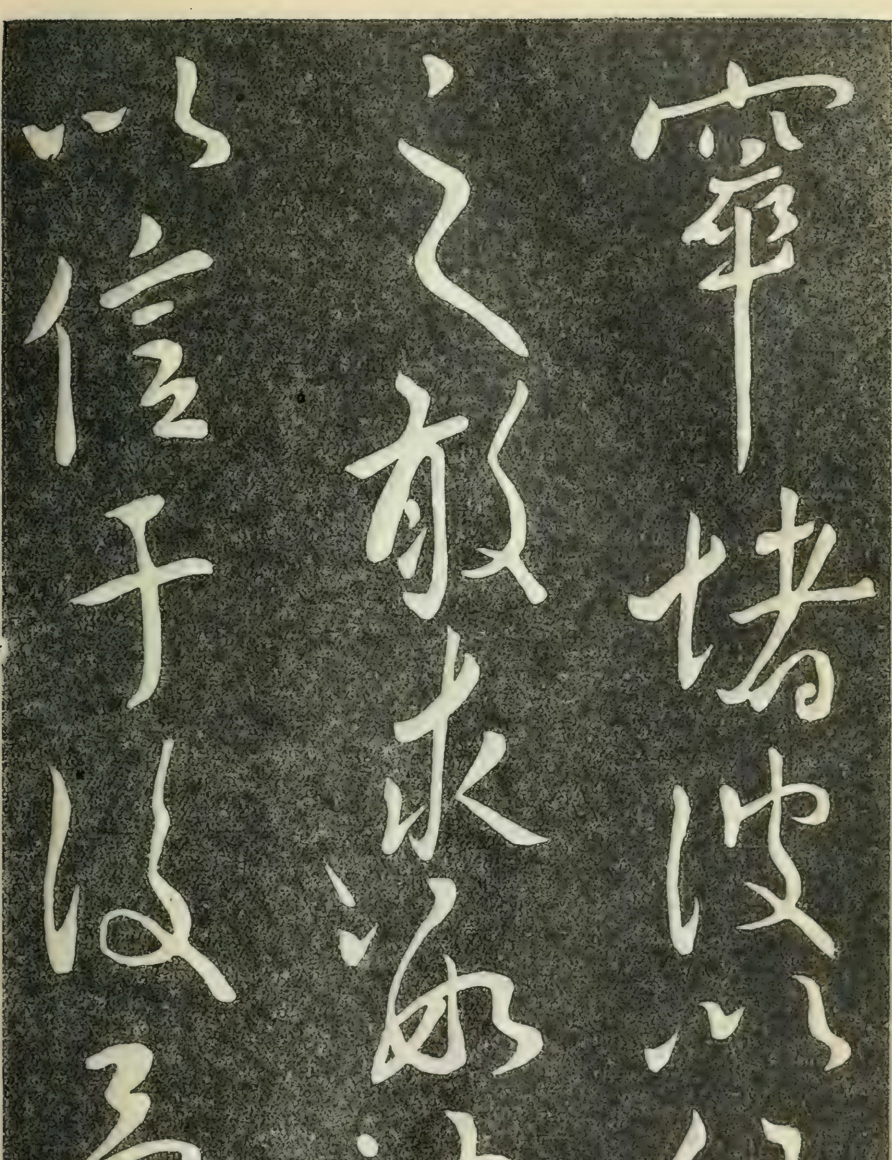


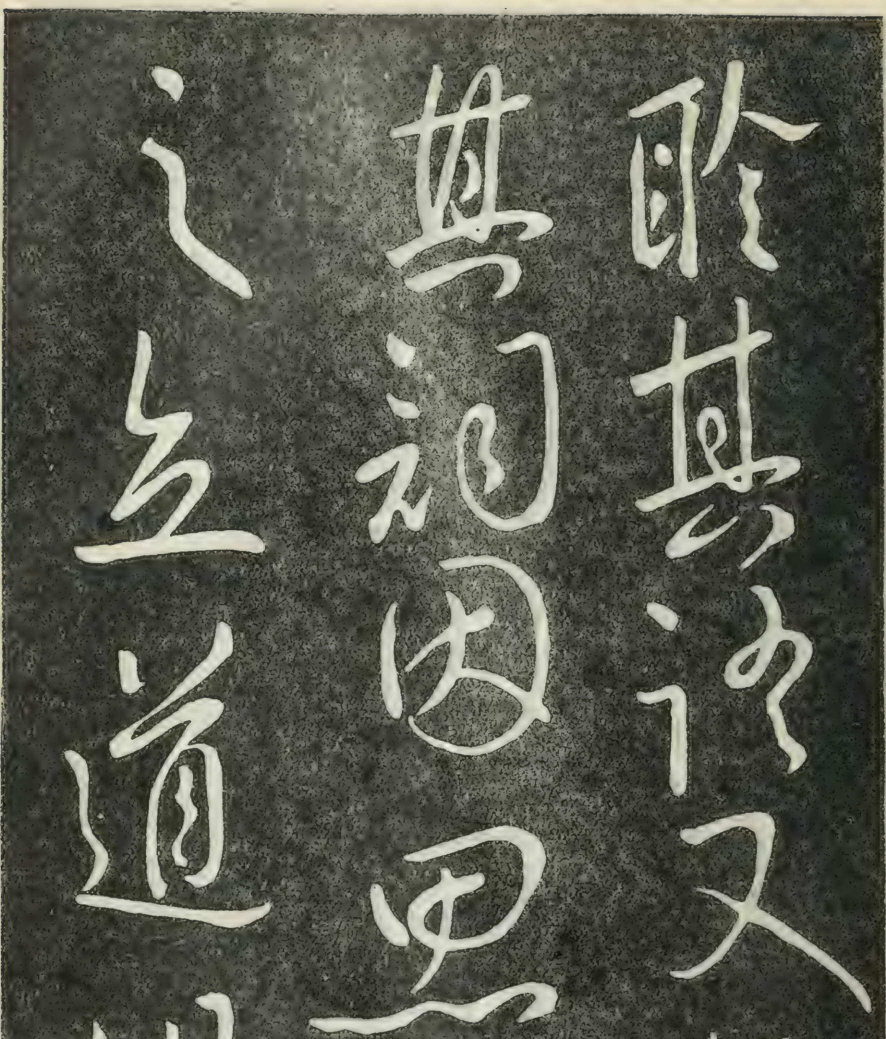
急識法化
物之儀軌文
世壽今八十

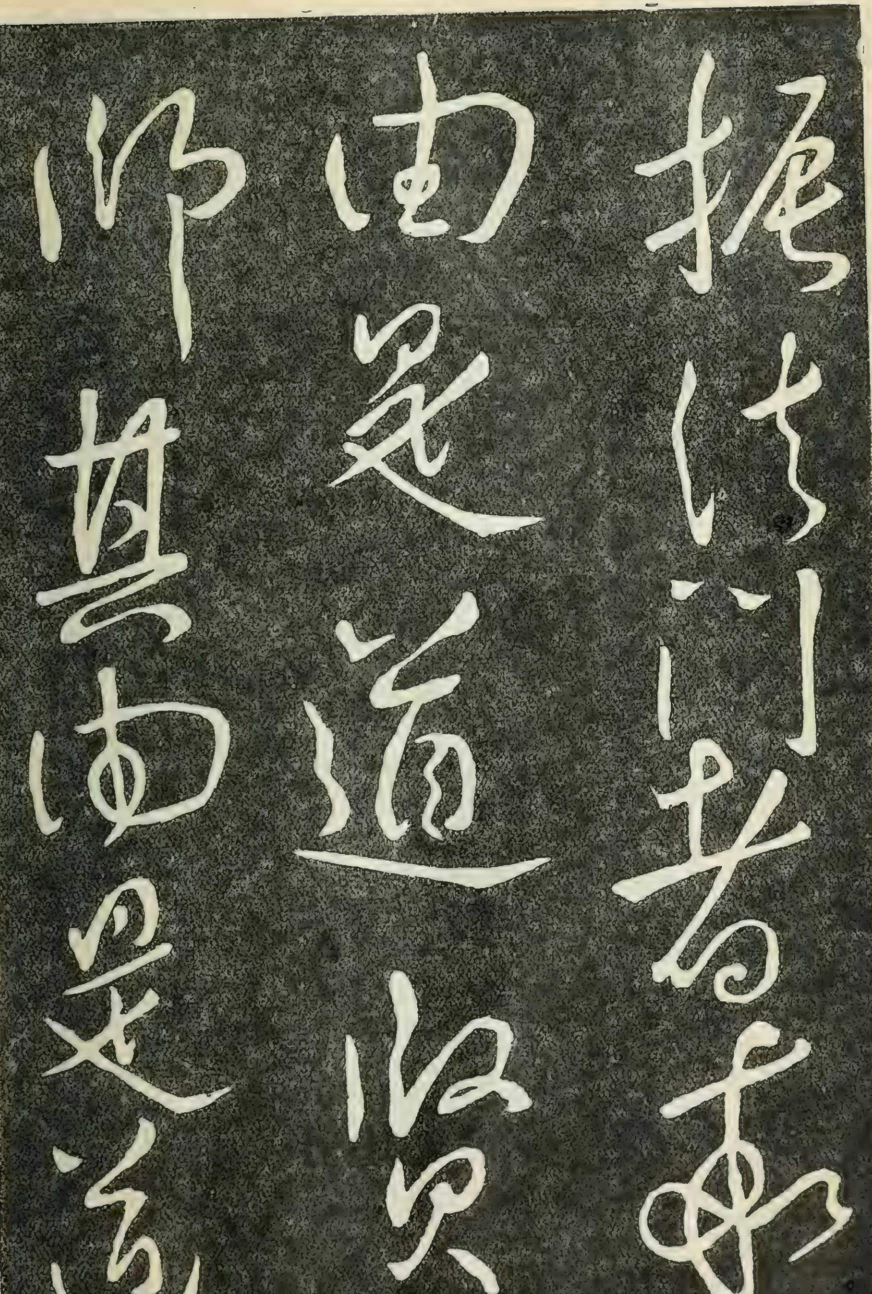
二傳臘六十
七居處如
平居時夜

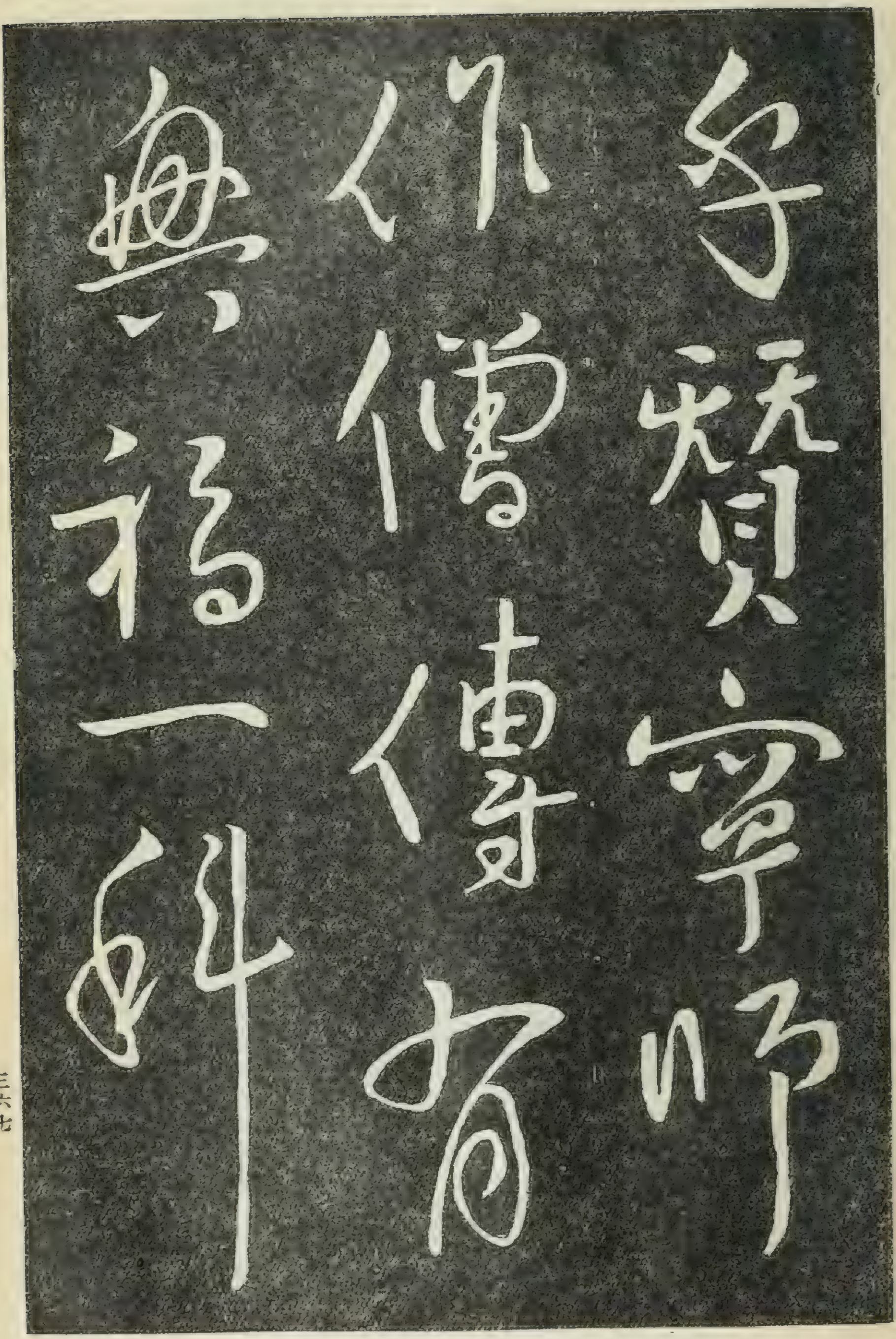


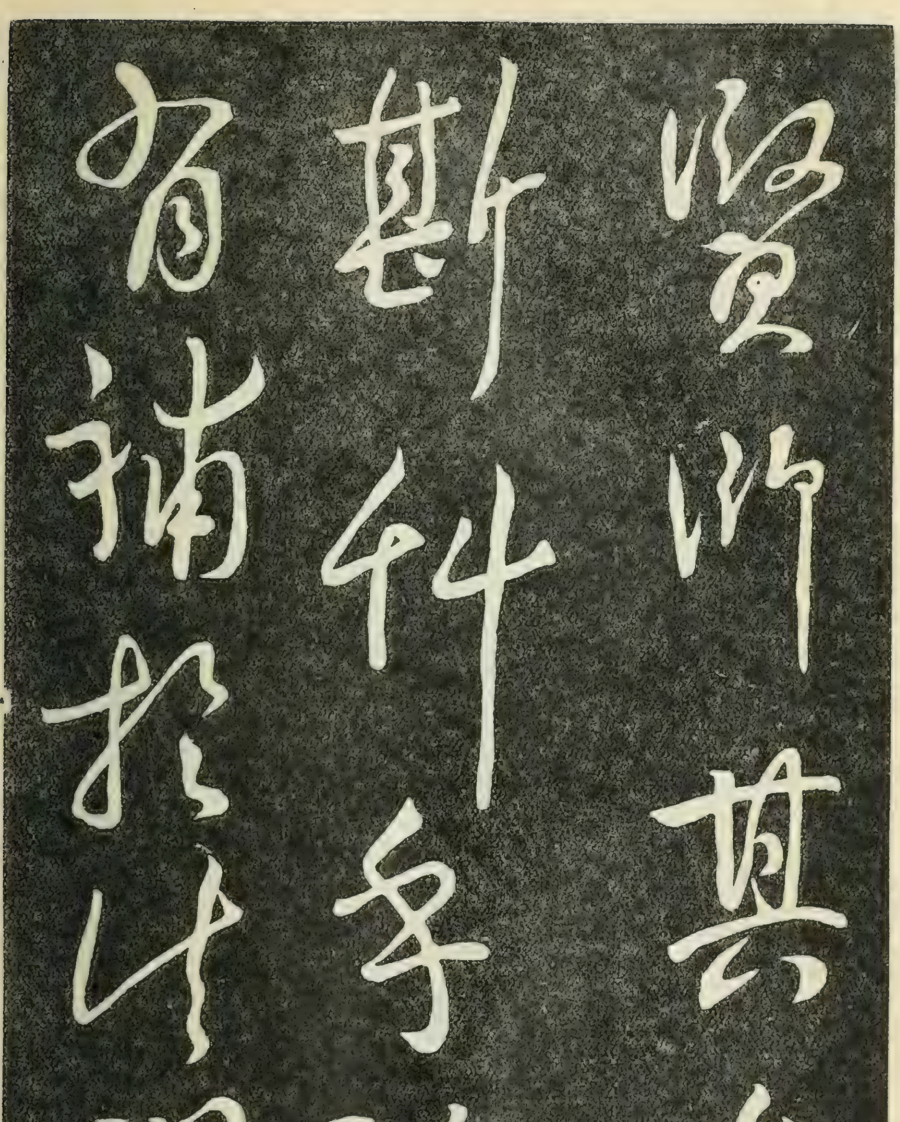


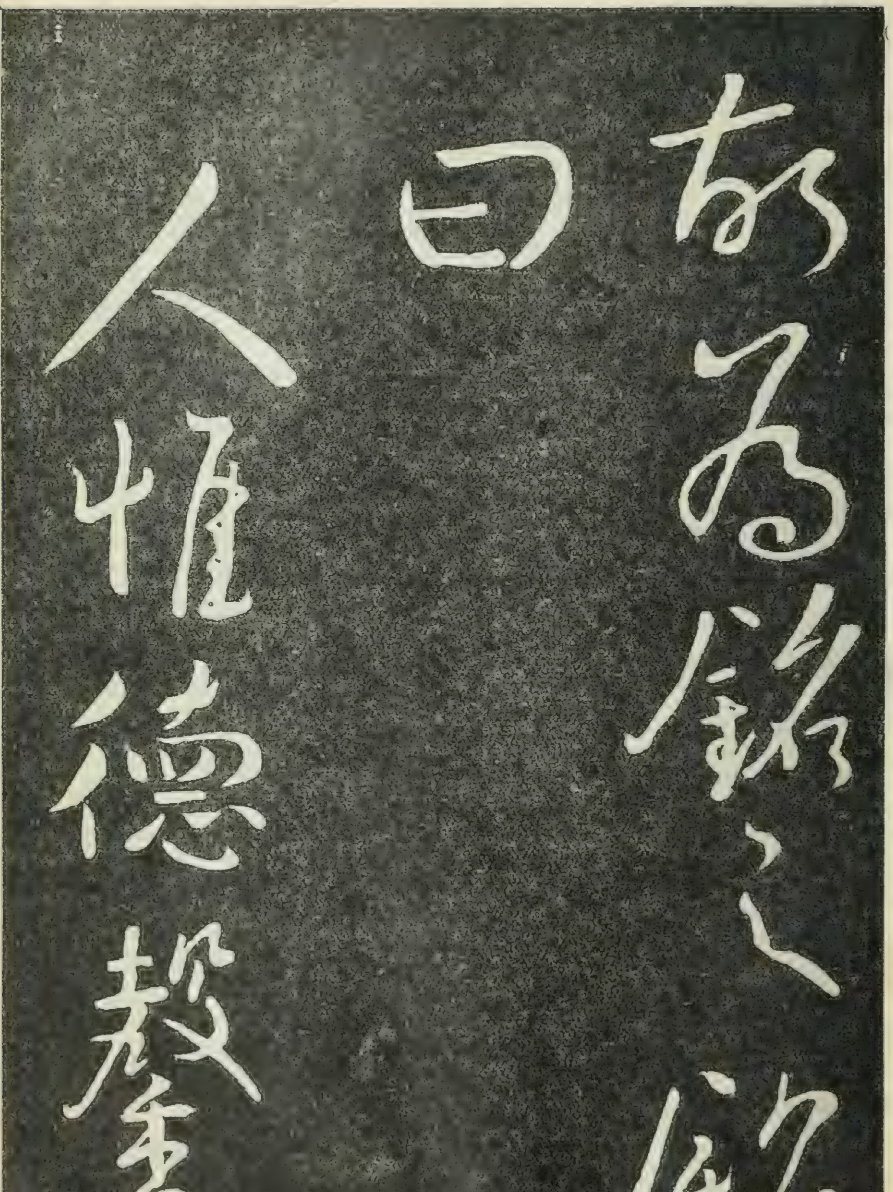


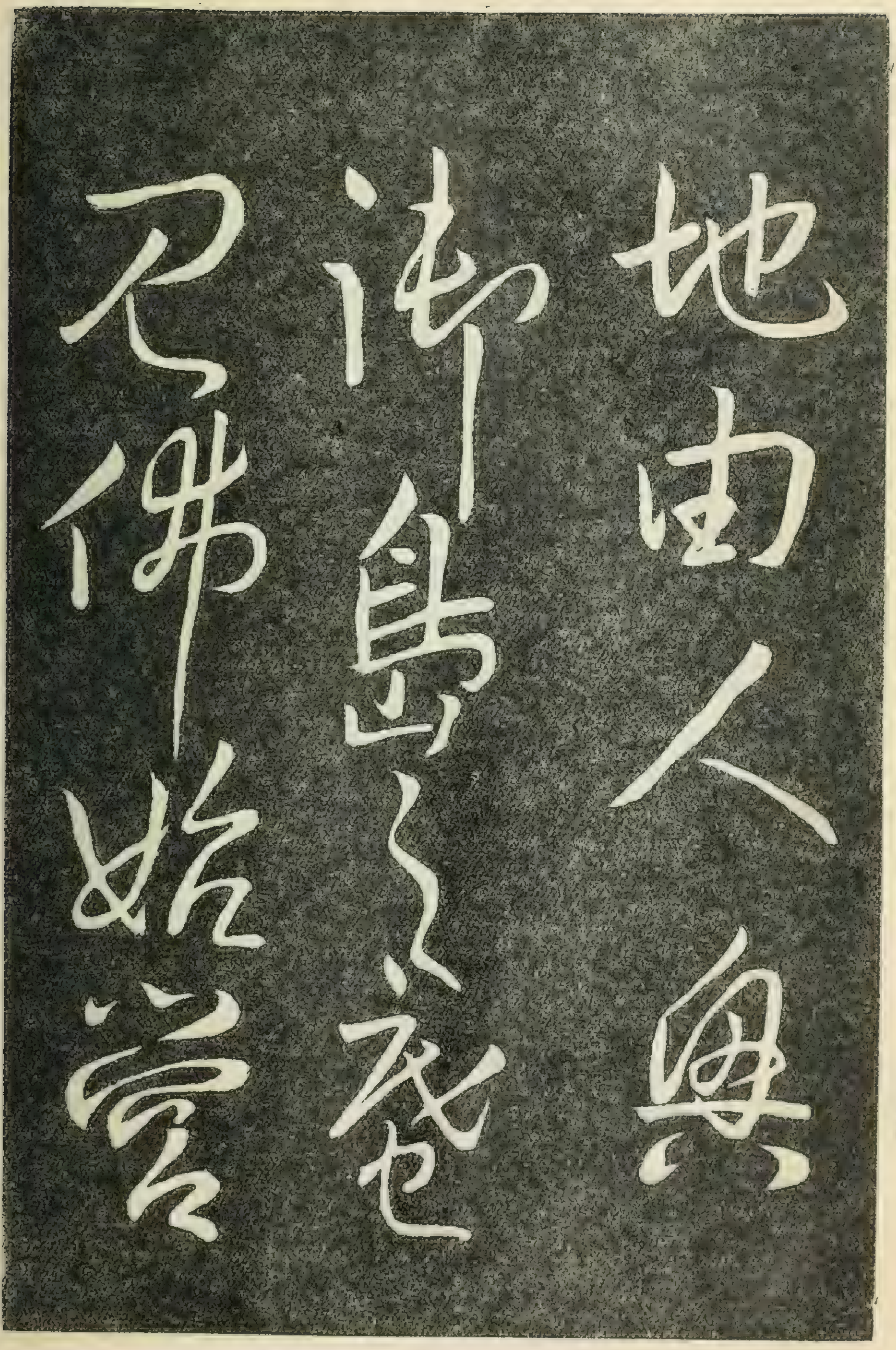


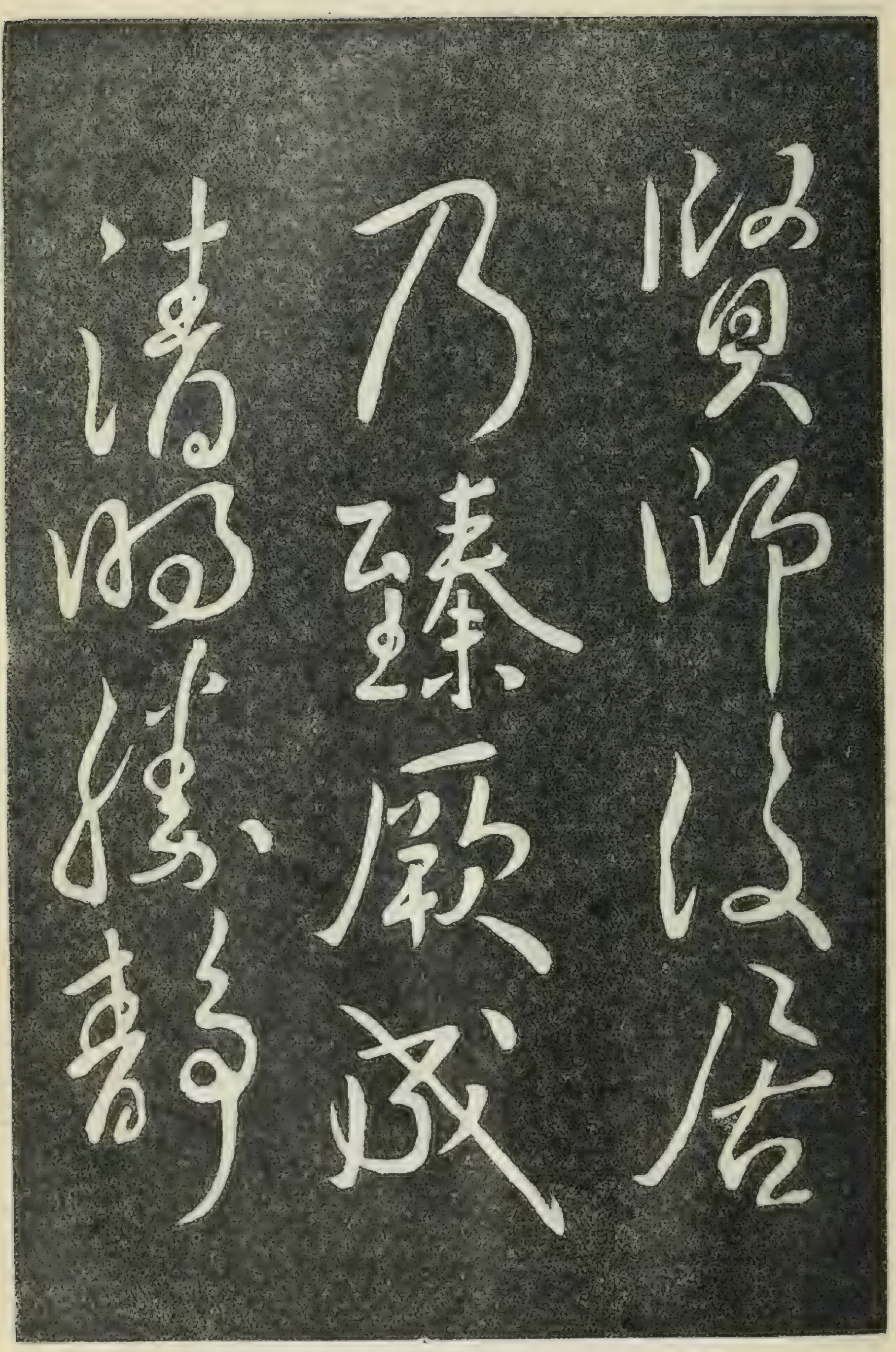


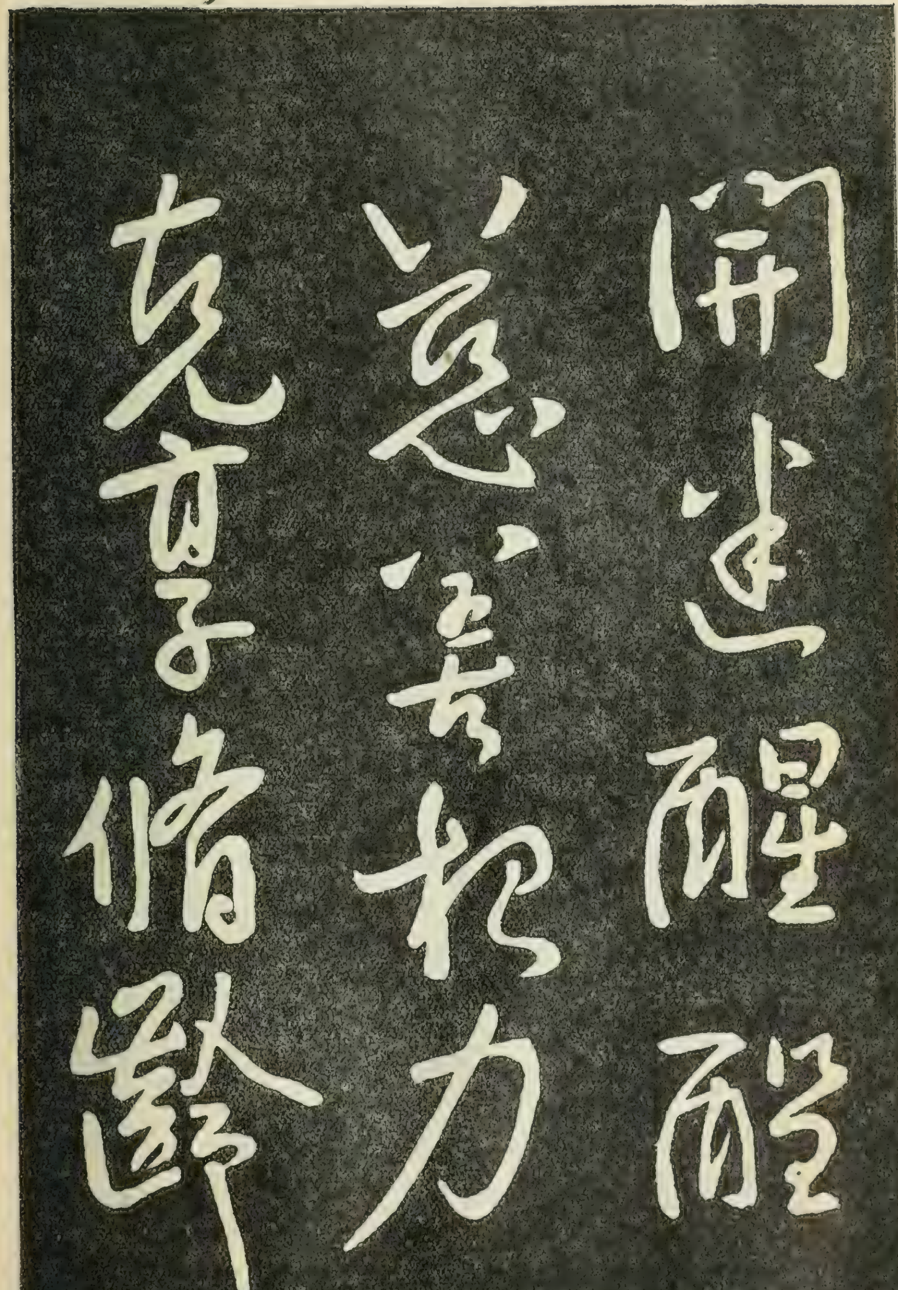


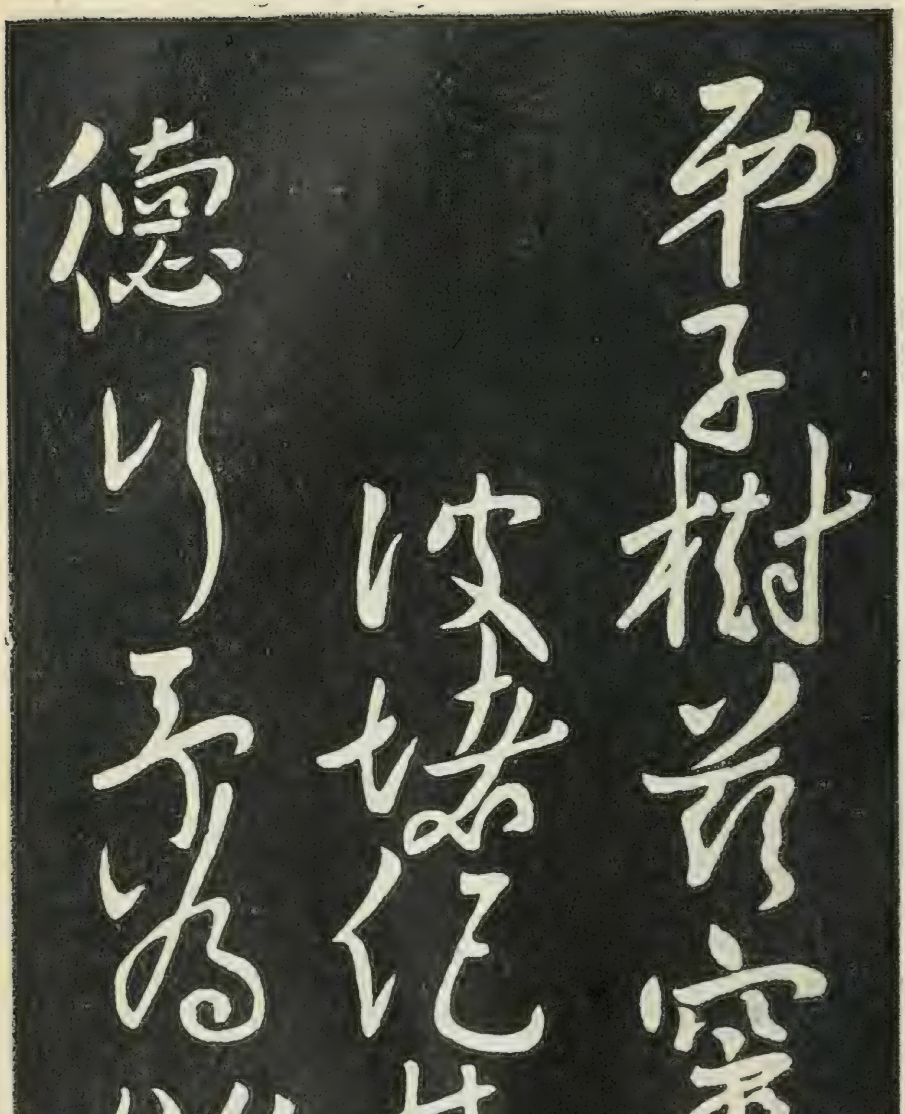



故為銘之銘
曰
人惟德馨

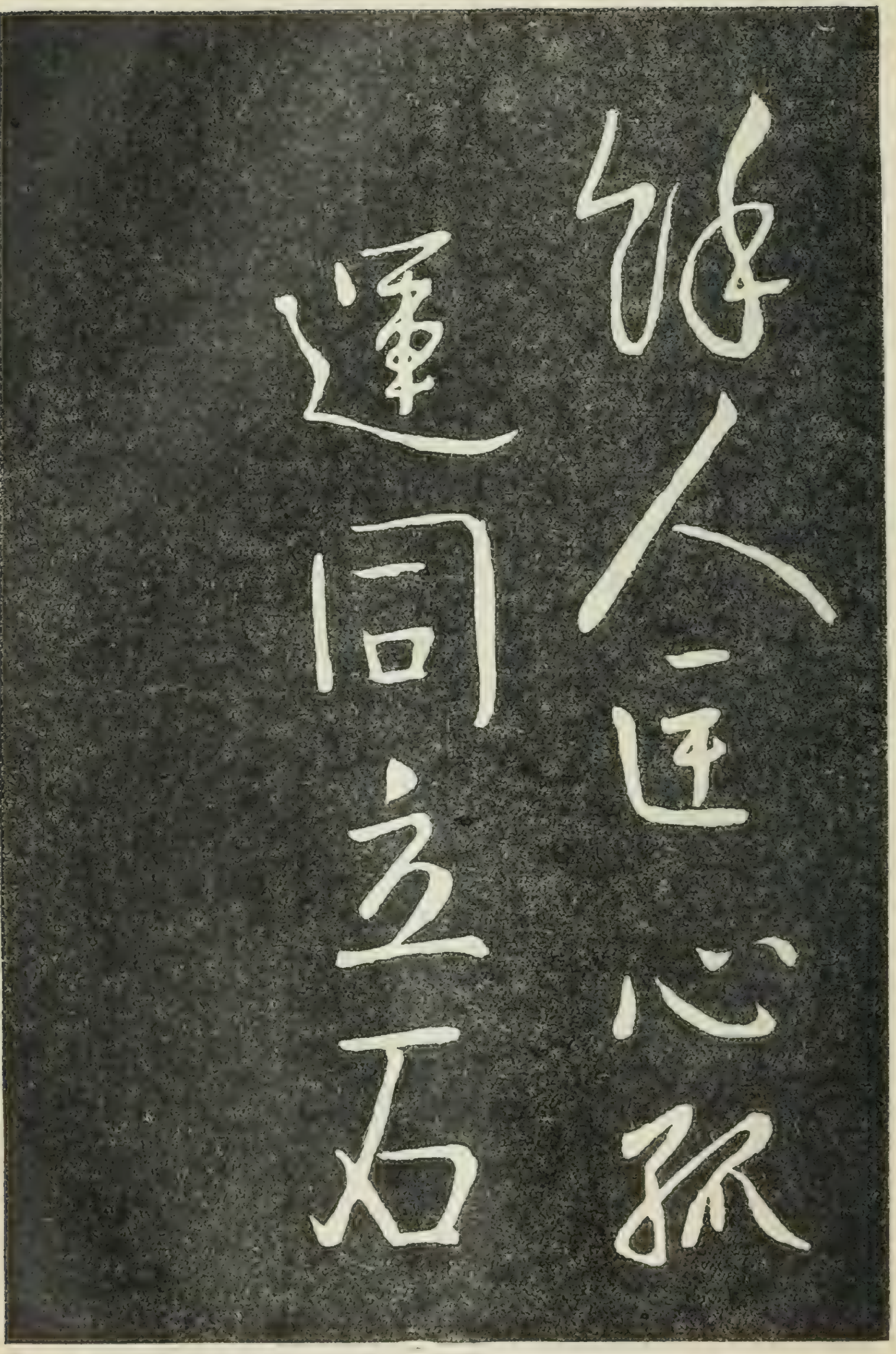

地由人興
御馬之處
凡佛始營


乃臻厥成





是歲三月十五日書小師三十


運同立石

在昔逸小遊名山。始改本師于衆碑。今也東方文明。學書者汲々晉唐。而接踵名山石室古碣殘碑。搨打之以爲珍。則翻家塾刻書肆於此名山石室。古碣殘碑。神鬼所閟莫不悉是視于人間也。獨吾州御島之古碣識于世者鮮矣。蓋碑者。爲賴賢庵主行實。唐僧寧一山撰所并書也。從來五百餘年。海氣剝突。山嵐磨骨。更失潤色。雖不可論。多力豐筋。書體宛然。驚蛇入草之形勢。煙飛結露之緩急。心慕手追猶效弘福懷仁集平遺迹所罕見。堪嗟其出羣矣。余先考燕澤碑。偶讀元史及類編。初知寧一山僧中之傑。元主甞寇于我。失水軍十萬。其愾不止宿志。欲復征不可。如何避而賢恃以我俗。尙佛遺僧誘欲使歸俗其選當寧々密啣命來諜于我。不遂却終伏 皇化住相之呂福。其道譽見文保勅文。卓然獨立。勝可稱哉。敬基好雅。搜索名山石室。古碣殘碑。神鬼所閟。一日與余。同臨御島燕澤。尋思元寇之往諭。亦感神皇之化德。烏乎二碑而存終始者。誠可謂奇遇而已。敬基曰。奥中稱碑者。唯以多賀。未草御島者。遺憾不爲少焉。故摹勒以欲貽同好之徒。於此不日卒業立。余言凡於多賀之楷。御島之草。燕澤奇古。皆書家之模楷也。當改本師于衆碑者。於此在焉。觀者莫恐風燭不及云。時寛政五年一陽來復日。

鹽亭源知明題

碑文發題。以唐僧一寧不稱元者所人疑也。余攷史。昔年元寇于我。我盡殺彼蒙古・高麗・漢人。惟謂新附軍爲唐人。而不殺奴之由是觀此。皇和於唐通信尤舊矣。故稱唐而忌諱元者可辨

清　敬　基

鹽松勝譜卷之十七畢

鹽松勝譜卷之十八目次

藝文上

遊記

遊松島記　田　省
遊富山記　同
東奧紀行　長玄珠

鹽松勝譜卷之十八

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

藝文部上

遊松島記　田　省

余幼抱山水之癖。每遇壁上或屏風中。畫山水容木媚之趣。恍然自失、直視傍觀。不覺目勸體麻焉。奈爲塵務所纏。不能遐舉高踏。而書劍半染煙霞之色。齡及不惑。遂得初志。吹簫草堂。採藥東山。然親戚朋友。憐余多病。相謀與議不許遠遊。是以纔獲到於目可計而足可畫之地而已。比諸從前勞擾豈不可樂乎。今茲會偕方外人訪知己於東奧。許多青碧。跋涉殆盡。更促二三同遊人謁鹽竈神祠。而後泛舟。探盡洲島灣曲。駐櫂離巖下平沙處。登松島。讀宋僧寧一山撰賴賢庵主之碑。有感韓山一片石。舊事徐而經過。萬嶽松風。斜陽照人。鳥囀樹頭。

既出市廛投宿。樓上倚欄放眸則蒼々洋々。惟恨暑之逼西。夙興踰五大堂。雲梯忽疑通霄之路。再歸樓上啜茗粥數椀。遊瑞巖寺。攀富山。富山絕勝。叙人發狂。歸途下馬見壺碑在草莽荒烟中。古昔屋瓦碎落。微露傍泥上。俯拾數片。不堪感慨。午後宿雲洞院。住持寂光亦同游也。闘棋酌茶。頗有風致。余將有松島之遊。先宿此院。此日亦得曲肱伸足於院之東軒。寂老戲攢雙眉曰吾有悵了半日之嘆。由僧業已過之矣。一座絕倒。余兩日之遊。處々有詩吟賞將欲作文以記名勝。以草々歷覽。脫落亦多。姑俟再遊之日已。嗚呼壁屏圖畫之流。城邑咫尺之觀遂爲一場春夢於是始識小僧之言眞不余欺也。

遊富山記　同

擔瓢詩訪海門東。蓬鬢鬖髿如御風。渺々水天帆島外。雲房蟠谷一壺中。是老夫初遊富山時詩也。去年再遊富山。恍然感舊。又作詩記之。

是歲己亥晚春。松島泰叟。誘老夫以探勝。春山處々。從遊三人。容貌氣象。亦各以異。敏修行年十六。神澄骨清。動止閑雅。解詩善楷。頗似成人。師事泰叟而出入不離左右。小敦形軀肥大。雖在少年場而不好華侈。不溺聲色。惟愛古書古器。古之奇士。來明清癯鬢秝々。惟耽風騷。而自謂宇宙間無可代之者。遂以十九日己時。出松島。踏遍隴頭之雲。坐樹下落花如雪處。傾瓢醺々。泰叟及來明。曰盃面所描湖水洗金。青山環岸。風帆沙鳥。出沒翱翔。實眼前景色也。不知實景入於盃中。虛景見於湖上。醉眼茫々。不可以分。敏修小敦說曰畢竟。泰叟曰唐虞。所謂日長學少年者。假爲先生設也。曰綽年將游富山不亦可乎。於是携手同行。放歌者林泉。路傍有老樹。土缺露根。輪囷蟠結。老夫坐其上而與焉有村童吹笛而過者。雖劉亮可聽而無腔無調亦可笑也。直行里許。左右皆田。萬樹櫻花。芬馨襲衣。左仰而視一花。枝掛破草鞋。蓋馬卒所戲也。李義山有花上晒褌語。褌且殺風景。況鞋哉。相視大笑。右

折入山。則山犬咆哮如虎。老夫乘醉追之。以逞狂態。忽聞村舍彈琴聲。倚杖傾耳。久之覺膚冷肅。偶逢武人菊地某。入里正家。服温湯一椀。立得爽然。而後斜行可百步。右有井。圍徑六七尺。激淸可鑑鬚眉。老藤枝蔓相纏。蜿蜒離於井上者丈餘。土人相傳。水月大士淨瓶中。所流瀉。距井十步乃寺門也。扁富山二字。扁書黃華草書。同游皆凝臏。泰叟以健自負。所躡石忽轉而顚。猝起。身後顧曰。非脚力弱也。而石背於脚也。又笑入門。小敦爲老夫推腰。敏修曳杖。來明在後。泰叟獨導而先老夫者數步。石磴急峻數容百級。級盡而小徑紆遠。怪松幽竹蒼翠可掬。異禽囀於奇葩叢裡。時山主邀接曰。今日何幸。煙雲竹樹。以供巨目。遂修伊蒲瀹雲芽。相共憑欄。則千里江山。畢集眉睫。俛仰回顧。逸興頓還。七年前游。由時殆乎發狂。僅賦一絕。勉強曳杖。下山而今再感。去年所作詩中。素稱富山人之句。上梵音堂。本鐘奇鎖。及歸風烈來明貪看光景。似吾喪我焉者。所載葦笠。脫然而舞。努力追之。蹶而仆者三四度。笠隨風而就谿。展雙手攫之。不得俱落。衣裳沾濡。下領與手脚泥土。小敦敏修欲扶來明。掉頭匍匐而上。且曰。諸君非識兵者。風敵搞笠。余追而不及。此時不同事。而使余至此極。竟哉歸於松島。已黃昏矣。

東奧紀行　　長　玄　珠

柴邦彥序曰。凡紀遊文。鑿洞之怪奇。雲烟之變幻。好奇者皆言焉。至于山之向背水之源委。與夫道里之遠近迂直。與封疆之廣狹因革之詳。乃非眼瞻。存代胸領萬里上。則不繆者尠矣。奧之松島天下名勝也。記者皆極力出奇。欲以鬪其勝。其文非不斐然可喜也。但總而遊者。欲茲之求道。則茫乎猶嚌棚雲。其文雖奇。亦何用之中。水藩赤水翁長子玉有東奧北越紀行。其言雖質。井然秩然。爾數方罫而進步。大異于向闘奇者之爲矣。翁年踰七旬。學究萬卷。其於方輿。最所篤好。嘗以二十年之力。改

正輿地圖。又嘗奉藩公命。著大清輿圖及歷代沿革地圖。又志大日本史地理。其談萬里之外百代之前。猶如指諸家園方隅。況與越彈丸之地。其道里山川。宜乎井然于胸中。而秩然于紙上也。後之欲探勝二邦者。其舍此而更何乎求。其姪中行校錄而注之。將以上木。來以翁意徵序。余既文翁輿圖。以問世者二。今雖病矣。可不奉師成言而副其意乎。寬政三年十一月

輞方序曰。海內號稱三景。丹之謝浦。藝之嚴島。與之松島。是皆勝覽之宗。而其儷鮮焉云。矧東奧接壤吾土。闔閭浮游者。幸無虛歲。余每耳其譚。未嘗不恍然心馳也。然而羈絆于官途。遊履安得。殆宛繫馬耳余友長子玉性愛遠遊。一丘一壑。不遠千里。寶曆庚辰之秋。携同好三四。贏縢履蹻往遊與之域。與大邦焉。彌多和歌者流之遺蹤。姑亡論松島之大者。而其經塗之所且。甌足乃名區。子玉妙能搜抉其秘。百不漏一也。筆硏以備遺忘。言詠或寫其懷。謝在杭所謂一境在旁。便勿錯過。子玉實獲其意。已而繙松島之與於赫蹄風颿沙鳥怪松奇石佛宇巖戶卓詭絕勝之觀。細入毫芒。而囊括無遺。俾人宛乎置身島嶼之間。是文之不可已也如斯。嚮子玉齋遊記一篇見示。余讚賞之餘。手不忍釋。荏苒三閱月而不還。姑書簡端。以償瀆其磧礫之怨云。

予有山水之癖。欲探東奧之勝。舊與門生田氏之子謀焉。寶曆庚辰七月起程。以初五日。侵曉跨馬而出。過矢指村。拜鹽竈明神華表前。親友送者皆還。斯時少覺黯然過足洗磯原。望天妃山。旭日當礁出。紅霞如畫。奇觀也。至神岡。日已三竿。下馬入佐藤氏家。約同行者未至。主人懇々延於堂上。爲設酒茶。有頃田氏之子。及伴者數輩至。余戲責之曰。孺子來何後。田大重乃笑而答曰。不意先生爲黃石公矣。相笑而出。連騎驟々抵勿來關。坂不甚險。斬鑿岩山而通路。俗謂之斫通。昏々如入洞中。仰而則兩壁之上頭。斷闕纔咫尺。如以管窺天。唯恐崩壓也。相戒曰。知命者

不立岩巒之下。勿敢蹈叱。其路屈曲。櫻樹側
列海風送涼。余有感。即賦詩。題國田浦云。大島村
距家四十里而遠。於是欲還。僕與馬、乃聞行甘日
正亭午。炎暑難堪。暫納涼而出。渡鰹川。歷植田。有山
諸驛。抵油長非。入酒肆而借飲。有一人曰。此家主人
佐二兵衛者。頗有馬癖。畜良馬數匹。同行者皆道與
觀之。余亦從之。唯相驪黃牝牡耳。不能識其神駿
矣。蟬蛻雨集。擬衣而去。繞至湯本。國風所謂二箱湯
是也。入作兵者宅。脫草鞋。就浴解濯。足升東堂而
息。暑氣頓消。日猶晡時也。同輩皆遨于平府。余少憩
樓。馬爲是。馬甚捷快。下春而至尼子橋。府城自雄。返
照射屋瓦。自衙町。左上西折一里許。謁八幡宮。由節
藻梲輪奐可觀矣。下於城南。投宿第一街。已黃昏也。
六日蓐食而發。欲詣山崎專稱寺。聞道士人云。南折
行徑二里許即寺也。馮舊河。出於正路。不太迂。同行皆
忌。朝涉。余獨念。專稱寺則東奧還魁也。不往觀可
恨。然距我百里而近。失之東隅。桑楡非晚。直行四倉

多漁家。去驛衙。人掩鼻而過。取道海岸礁石之間。出
人洞門二三。漸抵波立藥師堂。住持僧曰。此山上有菜
黃。四時常結實。又有五月花蔘。共是珍品。藥師應化
所爲也。其他神怪象諸詞。厭聞。即辭去。蔘今已枯。菜
黃在山顛。皆不可得見矣。至日佐濱。已過午乃食。
歟饌。飲間少時爲廣生之遊。自是至廣野二十五里
中間有汀。凡十五里。曰長沙。余與二田生騎馬。海風
颯々。頓忘炎熱。漸至木戶。黑雲起西南。雨驟至。被襆而
行。雖路少濘。頗勝暑中之行。透迤跋山谷。疎松落々
夾路。榦幹輪囷。枝葉可愛矣。一行之人停立引領。歎曰
美哉。余曰凡生巖山磽确者。皆能美其姿。猶人才之
成於困苦也。時蝦蟆在東。喜其霽候。抵富岡投宿。
閒主人姓名。曰文一。年可三十。手揮刀擊鮮。措辭閒
語吾輩云。我聞水戶有木皿田氏。赤濱長氏。田氏者
闔國之大農。好學聚書。長氏者。博學善詩文。吾與
五十四郡。未聞民間有若人。水戶則西山公之文化
浹洽封內。兒童走卒學文字。尤堪景仰。子等知木皿

海濱否。牛衛者答曰。居處相隔。唯聞其名耳。未識其人也。余田生在側。爽然自失。私語曰。何物曹丘生游揚吾輩。使虛名至於此。可不懼哉。乃就寢。檐外雨聲甚。

七日雨歇。欲觀猪狩氏園亭。北折行百步許。地少高。詣踏入門。經營不太壯麗。內外多懸曝葛子魚肺。惡臭掩鼻。余掛欲視假山。不許。辭以有賓客。失望而去。至熊川驛。自是相馬之封疆也。長塚驛田太重先至。備馬欲使余騎。余不欲。田重藏騎焉。馬甚駑駘。叱之不進。太重為之執轡。排撻太勞。流汗如雨。騎者催眠欲墮數矣。余誇言曰。初我不騎。非不欲也。知其不可也。閧然相笑。漸入高野驛。而餞。余亦騎馬。過滑津。東望有瀦。縱橫十里許。通海。海瀦之間。有一帶疎松林。口僅百步許、形似天橋立。余怪舟不見。問馬卒。乃云海波送砂。口甚淺。舟不能出入也。余曰鷄肋哉。行二里。至小高驛。詣妙見堂。老杉鬱葱。乃今藩主祖先之城墟也。壘隍據守之跡。依稀如見。堂前有數百步空地。歲五月中申。驅野馬於牧。轉於海濱。集於此。捕之。即其陸也。行十五里許。為渦之野。兩接高嶺。東抵海濱。三四十里。漠々坦々。絕無林藪荊棘。望之如一大青氈也。此乃祭時國君作八陣驅馬處也。行十里許宿原町。

八日早發。往々回首。東有海老浦。殆似滑津浦。有鹽田。如畫井字。土人曰。中村之東。亦有原釜浦。灣口通舟。雖非大港。府下之豪富立谷氏之商船所出入也。自熊川迄原釜。百七十里。村々產鹽。其賦居國租稅半云。踰鹿島驛。抵中村府。西望城堞如一匹練。進渡橋入店喫冷飯。比居稠密。署氣如蒸。速去過街衢中。肆廛排布。其賑稍兄于小府。欲逼覘城之經營。禁他邦人入郭門。以故不得觀焉。北折行二十里。至駒峯驛。乃仙臺之封疆也。抱關者誰何。余跪陳姓名鄉貫。請繻以為出時之信。驛舍前懸標。署五有司姓名花押。儼然大國之表也。至山下驛而宿。

九日蚤起。遙看東北海中有突兀者。問之。金華山也。余夙癖又發。欲必探焉。中心藏之而行。左山右田

坦且直。以上埋杭。阿武隈河。河水滾々來。自西南遠山如黛色。風景可觀矣。作一絶上於岸頭。行可一里。入岩沼驛。有城。仙臺之臣岩沼主膳所居也。凡仙臺提封之中。有十八城。萬石以上之臣。分守焉。此其一云。謁竹駒祠。蓋武隈神以方言誤乎。北行二百步許。民家庭中有赤松。曰武隈松。又名二木松。木圍可四五尺。爲二榦。枝葉頗秀。傳能因歌。古松已枯。後人更種以存其名。此過房之子也。雖則過房之子。樹幹古色。蓋五百年外之物也。尋東平王冢。土人不知焉。復出於驛中。借一店而午飯。是日是驛市。交易雜沓。里長蟻集。喧囂甚。啓戶而出。道坦々如砥。東奧諸侯。朝覲於江都之孔道也。行五里許。左有道祖神路。余謂同行者曰。自是至中田驛。僅十五里。取道祖神路而探諸勝。則迂遠甚矣。各從其所好也。於是喜衞幸衞進曰。吾二人直至中田。可儼宿而竢也。乃相別。斜經田間徑。行十里許。謁道祖神。祠後北下。爲伏文山。有古墳。中郎實方馬所斃也。少下則鹽藥師堂也。所謂鏡橋。鹽手山。戸崎。野田清水。掛笠松。皆在眼前。尋中郎墟。東北而行一里許。過橋行禾黍之間。入民家。使童子鄉導。竹裡雜遝。徑荊棘之中。有冢如者。中郎之墳也。使人不覺鼻酸。小徑降而行五里許。舊田中三株杉。不越橋迹也。橋則亡矣。少行則有康衢。謂之五交衢。踞茶店吹烟。剖瓜。店主曰。自千貫松泛爲此。乃古之東道也。往々多名勝。從是五里許熊野堂。老杉夾路。幽邃可愛。東折可一里。出於名取川。行南堤上八九里。日暮而至中田。先至者喜而相迎。

十日。晨興盥而飯。辨色而發。渡橋。即名取川也。不遠懷舊。過長町驛。亦橋於廣瀨川。橋北則仙臺府口也。不渡橋西折而行。抵大年寺。經門側登。凡下一長石石階數百級。中間有樓門。安金剛神。扁兩是二字。即山號也。佛殿回廊諸堂。僧寮悉備。輪奐鉅麗。一堤横於莵道黄檗。此麻布公經始。招鐵牛禪師爲開祖。山內有公及開山師墓。造營甚壯矣。下自寺後懸路由也。入茶店而息。南則愛宕山。陟數百步。其巓有神祠。取

縲經測之。街坊皆當東千門萬家。隱見綠樹翠煙之間也。復下而行。登瑞鳳寺。請執鑰僧。謁藩祖正宗祠堂。彫繢丹楹之美。方弗於　日光神廟。足以觀大國之富矣。扁額皆佐文山所書也。歷代祠堂不悉拜謝僧而去。東過諸士居宅間。渡橋入南街。至芭蕉辻市廛皆瓦屋。繁華似東都。入國分街小幡屋。寄囊裝脫草鞋而飯。又躡屐而出　自一番街西北行可十里許。詣大崎八幡廟。其經營不減鳩峯廟。南下航川陟龜岡是亦八幡也。自此過城門前。出松樹岡。還芭蕉衢捷路也。然不許他邦人過之。我陽爲封內人而去。城門前。皆上大夫第宅也。渡橋上坂熟覽城之形勢。巍然青葉山。巖壁如削成。右則瑞鳳。愛宕兩足之諸山。爲三重南郭。左則龜岡大崎之山爲二重北郭。谷深水流　一夫守險。萬夫難當。實金城鐵郭。海內無雙也。可謂天府矣。復出于芭蕉街。雷雨暴至。入一酒家竢晴。少焉雨歇開　東照廟在府之艮隅。又行可五里。已入華表則日之夕矣。門鎖不入。企予望之。有人曰。此宮經營壯麗不讓瑞鳳之祠堂。予等來晚。不亦遺憾乎。明日可復詣。悵然還國分街。既秉燭。

十一日朝雨日晏而發。東向而行可二里。市廛屋舍漸疎。步躑躅岡。詣釋迦堂。落々喬木。清風拂塵。南出則有調馬埒。垂櫻繞列。右顧有戲場。店舍比比寂而無人。逢農夫問之。云此地傀儡優俳角力之觀。平日開場今倚盂蘭盆。故皆休。謁菅神祠。南行二里許。抵國分寺。入自寺後。藥師堂甚古矣。張三李四。題名柱楹戶扇無餘白。出於端門。力士像頗蛀。境內廣衍。如行馳道。南有流鏑馬場。足以覽古。復出自堂後。右行一里許。即宮城野也。吾輩七人。如出襄城之野。問道牧童。平原二里許。胡枝子稍著花。露滴如雨。金鐘虫頻鳴自此有二途。歷陟小鶴池。野田玉川。渡絕橋。末松山千引石之諸勝。謂之八幡通也。路甚迂回。若取道原町。觀壺碑直至鹽釜。則爲捷徑也。由八幡則不可是日至松島。議之同遊人。皆惡其迂。且懲於宮城野之寥々。余亦謂不見壺碑。大欠事也。凡事難兩得。不

如取便路也。於是出於原町。至今市。則日既午。頭店喫鐸鑼。渡轟橋。過奥細道。問土人十符菅薦處。乃曰。在山陰。以泥不往。有岐路甚小。誤就大路。傍叢中有石。題曰壺碑路。南都畢匠古梅園所建也。余賦曰奥人之不好古也。可知矣。徽宗樂人。吾甞幾乎迷路矣。右折入野徑。有一室。方九尺許。瓦屋面四面隔子、中有多賀城碑。高六尺有奇。幅三尺餘。記諸國道程。雖經千餘年。字不摩滅。楷正可觀矣。俗謂之壺碑。余按壺碑。本在南部。見于袖中鈔。今以多賀城修造碑。目曰壺碑。蓋風土記誤也。諸國風土記。已亡。今存十世者。多出後人附會。不足信矣。古歌皆詠南部之碑也碑在北郡七戸壺村。今南部北郡之地。古嶋君子部碑面題日本中央四字。相傳田村將軍所爲也。後人埋之。祭以爲石文明神。碑今亡矣。元祿年中吾藩之士。丸山可澄。遠遊東奥。因使尋南部壺碑。士人所傳亦如是。事見其紀行。又按。多賀城碑文曰。去常陸國界四百十二里。去下野國界二百七十四里。常陸界勿來關。下

野界白河關。今去多賀城。道程稍相似。而碑所記里數之差殆倍矣。可疑之甚也。或考歌枕名寄。引萬葉歌云常陸本陸奥之分國也。然則天平之時。陸奥之界。蓋今那珂港也。以六町爲一里。則去多賀城四百十二里此時仲久自高三縣。猶屬奥州。可知矣。後世或謂之奥郡。亦此之由乎〔仲。久自。高。今曰那珂。久自。多珂。〕行出於大道。經比丘尼坂。抵鹽竈。自多賀城碑至此十五里。邑口有是有肆。剪綵如花。奇品也。昔或人賦之。武者小路黃門。黃門賜名曰淺綠。蓋取諸古歌矣、步行則有石華表。北向陟磴。々甚急。陵入隨身門。謁鹽竈祠。結構鉅麗。廡四繚銅燈籠。累々盈庭。實亦大國之總祠也。門右有鐵燈。文治中泉三郎所奉也。有款識字細。文長。摩滅難讀。東少下即法蓮寺。乃奉祀者也。又出于市中。渡橋面南行。街中有小祠。側置古釜四。祝奴來語曰。此往古明神所煮鹽物也。釜中之水。大旱不涸。尤妙眼疾。人皆洗眼。余笑曰無患之目。何以試其靈乎。東向至寺崎步頭。艤舟而上。舟師二人。解纜而張之。左右青巒灣曲

碧波如江。所謂千賀浦是也。初篙後擢舟搖々以輕颺。風飄々而吹衣。思陶潛辭。鶴汀鳧渚。窮州嶼之縈迴。此非王勃句乎。舟往島來。今不堪箝口。賦一絕。舟師在艫。每逢一島。指點問名。左之如屏風。尤大者爲籬島。右則裸島。小而如落帽爲帽子島。被甲也。冑也。此伊勢也。小町也。其餘爲布袋爲辨天。是沙門。大黑。夷等。皆因形而命焉。惜哉名之不雅也。東之諸島。連接如一帶長堤。其間一里許。號者泊門也。自此至大塚島。海口都四。皆通船所出入也。隨移隨廣。眼界漸豁。夕陽照波。松島寺觀瀕崎人家。隱忽杳靄橫雲之間。乃賦一律。時清風來。自後舟歸。欣然懸帆。傾走如飛。左右勝景不遑應接。恍忽著瀕崎。下舟投宿水邊樓。自嚮登至此。二十里日猶下舂。倩老奴爲鄉導。遊瑞巖寺。總門左右窟。扁曰無相。所謂北條禪門寄宿法心師窟者。即此乎。左右有子院若干。進入中門。升佛殿。輪奐太麗。老僧邀引歷覽堂上。中間安置藩祖戎衣像。障子丹青。絢然奪眼。雪舟及狩野左京筆也。南出則圓通院。有羽林之世子光宗影堂。開龕觀像。東帶據鞍。莊嚴美麗。殆如傀儡子。復出於瑞巖寺前。至陽德院。有田村夫人影堂。枕晚。故不請開。東出北折。則有國主藏舟屋。樓船若干。或朱或黑皆新也。東有五大堂島。斗絕海中。架橋而通。橋高去水二丈許。結構異常。板狹間豁如梯桄子。下視清水如藍。闔遊人皆趦趄。余笑曰。心定者能渡天台石梁。況此小橋乎。着足之條。昔無用地。間豁何畏哉。皆戰兢而過。獨伴衛者終不能渡。此亦橋也。左右疎松。參差臨水。藤蔓蒙茸之。是非戸部忠敎所詠乎。只恨非花時也。蓋松島以松得名。凡託根於岩石。爲海風所困。屈曲偃蹇。如龍如蛇。就中此島之松爲奇觀矣。過橋則五大堂巍然於岩頭。南對雄島。東顧浦島。如鼎足然。眺望之美。欲絕倒。鐘燈吹煙。昏月清障。乃誦謝靈運忠歸句一頓之。還逆旅喫餐。主人慇懃。談國祖因革。開祖舊事。慮實新牛。聞者欠伸。既而登樓憑欄放眸。松風吟羣雲霽月則。水面流金。五大堂之橋如虹。見月礁。雄島崎。蜿蜒

於南。遠之二子島。點々比肩。猶如對假山盆池。景光勝於晝日。坐觀立觀賞心可知。余多年之癖疾。於是霍然。已至深更。同人皆憊睡旁午。睡鼾如雷。獨半衛者與余俱不寢假。深樂焉者也。恐妨明日早發。故與未盡而寢息。

十二日早起。憾昔不遊雄島。於是南出。經　藩主消宮之後。經大麟院前。過田町竹浦之東。陟小松崎緣步巖側奇峭。曲折逶迤渡橋至雄島。歷觀坐禪堂。松吟庵。凡架橋於海者。五大堂與此島也。相對如雌雄。而五大堂則小矣。猶雌也。獨此島宛在水中央。形如島之張翼。實諸島之雄也。此其所以命名乎。四顧奇絕。殆欲擲筆。傍有一小碣。面刻芭蕉朝夕之句。好事之徒所爲也。其他石佛碑碣。率堵波之類。纍々乎相列。自小松崎至此。路傍樹間。廻岸巖窟。無處不安有佛焉。遠望之。猶如白鷺群樹間也。余曰噫。豈別無地哉。洒落神仙境。方弗北邙山。而如花眼裨。非殺風景乎。我若當路於此國。不下車而先一掃之。同輩皆笑余戲言。少退斜行。有骨塔。亦余所惡唾而去。有賴賢庵主碑銘。元僧寧一山所撰也。草書之碑文。可謂奇矣。文甚長。爲同輩所促。半讀而去。返於田町。欲陟西行坂。然而同人。先歸淵崎。遲我。不可迂回。唯謁山王祠。倉皇還客舍。諺云松島之景。悉在富山乃欲探之。各負擔囊裝。經水手街。北行二里許。多有井字鹽場。旁埋水桶。余臨窺之。鹵丁噴々。嚇鹽價之賤。余見鹽不清白。有矣賤也。歷高木村。而行里許左有青闇道。蹤銀山趣羽山者自此道云。直行一里餘。問路人得富山路。斜入野徑。盤紆陟降行五六里喬木幽邃。異禽嚶々。道狹坂峻。行步甚難。同輩素有勝景。余獨軟弱蹩躠而陟。日已近午。暑炎如蒸。渙然汗出。茂重者從後。褫余包袱。合有之。跳躍而進。以賈餘勇者也。漸進。有寺門。扁富山二字。稱唐曇華草書也。凝眸少時不入門。倉皇前陟磴。大悲閣於巔。大可三楹。扁額僧大顛所書。彫刻維新。金字光映綠樹。側有小龕。安擐甲騎馬像。此寺則坂將軍所剏也。即是田

村廨呂乎。同輩相謂曰。自麓至頂。喬木隱蔽無窮。日處。大異所聞。余亦失望矣。復下於寺。入厨問之。有行者笑曰客始來者乎。松島之景。悉縮於此庭中。余請觀焉。行者輒令我輩立門外。門眉榜篆大仰二字。即寺號也。步焉行者。自內排扉。同行者皆擊折揖面人。一望爽快。濶然窮千里目。取磁針測之。寺向正南。眼前諸島可坐而摘焉。大者。小者。圓者。隨者。尖者。有傍者。有峙者。有曲者。有扁者。人立獸走。龍蟠虎踞。龜眠鯨出如倒如傾如仰如俯。千狀萬態。遠近異色。沙鳥出沒。布帆往來。昨日舟中所見。與未及見者。畢集於眉睫。西則靑山綠樹。一帶烟霞。東則大海。漫々焉。蒼々焉。其秋天一色一行之人。抵掌歎曰。天下之奇觀也。惜不使手筆如椽者賦焉。余茫然心醉似。吾喪我者。同輩邀而引袂。即賦一絶。徐々而去。復踰椒而下。由陰北行十里許。至小野驛而餘。東行二十五里。航川經矢元驛。又二十五里。至石卷。市舍千餘戶。傍河櫛比於南北。河曰北加美。自南部來。南入于海。千里之長流也。幅雖不太廣。水深耐泛大舶。數百之船相續。雁行於上下一里許。實與海一都會也。登日和山。跳望。島山亦佳景也。日已下舂。投宿河邊舍。問金華路。主人曰。陸行蓋百里而遠。先航河取道桶葉。抵鮎川之山島。而航於金華山。其間海上纔五六里。路狹草塞。舟降急峻。石牙嚙足。意當往出三日外也。從此直本道。則今日解纜而可。翌日早歸。余議之同遊人。皆惡陸欲舟。余畏海欲陸。議兩不成。予悵然即賦詩。欲從此取道古川。踰嶠兒倒。赴羽山矣。下里重繭。勞倦日加。懶擲筆紀止是

寶曆十年七月十二日夜記於石卷逆旅

鹽松勝譜卷之十八畢

鹽松勝譜卷之十九目次

藝文中

遊記

遊松嶋記　紀德民
遊奥勝記　澤元愷
遊千賀記　澤元愷
遊松島記　澤元愷
遊鹽浦記　舟山泰
松島紀行　平井行藏
遊囊叙錄　倉成奚

畢

鹽松勝譜卷之十九

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

藝文部中

遊松島記　紀德民

瀧井子章云。松嶋之勝。甲天下。見此記。益欲遊焉。文之增其奇也。見此記。止不欲遊焉。景之與勝想無過此文也。

南宮喬卿云。松島之勝。得世聲益奇。世聲之文。得松島益妙。

中井子慶云。松島在遐陬。以其絕勝也遊者不爲少。然皆知焉而不能言。啞子夢金耳。今讀此記。其奇歷々如目睹。若此乎。文之不可以已也。

德民年十八。遊紫海三年。將復南北。會先師元子敎授東都。召民助業未幾。元子卒。諸同志佐民修盟。既逆先考於尾。且有室。則不出都城二十

年。今茲明和辛卯。偶應招。適米澤。米澤距仙臺三四日行。是以宿志復奮。乃謀遊松島。學生栗裕卿。江畾卿 登君軌 隱子金子龍從焉。二僕。曰虎曰文。共七人 推江生爲導。以嘗至其地也。侯觴賜詩。士大夫能詩者。亦各有贈。八月九日雨。出郭里餘而橋曰芳漬。日出而霽。謝送者還。自此。至丹泉正北行三十里。條路如髮。右衆嶺南綴吾妻。北走數十里。如濤。其足距大路六七里如千餘里。睨石山曰一年厉。有異僧。修法石窟中一年。因名。又睨松山曰朝河。其東北曰龜岡文珠。又其東北紺碧橫天。曰藏王。奧之巨鎭也。左又抗高吾妻 伏而西南大荒澤。出其背。益秀正西曰飯豐。西南諸山宗焉。西北隅如鋒鋭曰尖山。其背柱天。曰朝日。奧羽之山是先受旭 故名 西北諸山朝焉。諸山足距此十二三里。如十七八里。馬首又得一翠。曰瀧野虛空藏也。一瞬環回望天缺中。斷長補短。方百里而大。是爲米澤封域矣 曰中田。曰萑田 曰糠目驛。驛畫橋架曰

松川。川發源吾妻。自此左轉。入最上。爲最上河。曰簗茂村曰丹泉驛。驛亦負大阜 有温泉。東北里餘得民舍。有民久左者年一百。侯養浴此就見之。余入其家。覩其揮斧斫薪。猶五六十之人。見余誦侯之德。留茶菓行。右大沼 上坂曰川樋驛。々北林中。得曰不老泉。清冷無比。側立諏方祠。曰小岩澤。曰中山驛。有關。登生合符過。度橋得怪石曰懸。可高二三丈。周二三十步。其下成窟可避風雨。江生曰。前路大馬者多。是其兒孫。右阜樹蓁々。左山石磊々。曰川口驛。上山南界也 曰石曾根得岐。右爲公迂 左爲私捷。取私沿水穿村。邪涉田入上山府。乃宿市居頗富。亦有温泉。多倡歌笑徹夜。益增我痛。

十日遶府西北里餘。曰四屋。茅店尚閉。藏王曉翠。近來染衣。右阜左原而上。西北一翠。曰月山。行數里。東折行拜藏王自其麓。距此可十里。雲破村出水白。宛然畫之中物也。半下茅店兩三家。曰黑澤。東北

數峯。如削。西北平田如海。下極曰松原驛。山形南界也。曰片野地。曰須河橋。曰芳原。曰南楯。而山形府。府草昧之時。最上氏之所都。市井殷富。遺俗尚存。有原田仲豹者。上山人。曾學余於東都。近聞其業醫。於此使虎索之。得之逆旅巷。聞聲驚喜。倒屣出迎。沽酒割鮮。笑語如狂。歡飲而行。生送至千年山。在府東南七八里。高數十仭。周六七里。東藏王龍山。西斤上。北愛宕。北陲之寺。曰萬松寺。方奥羽未分刺史居焉。有女阿姑射美而早夭。刺史造寺求冥福。娶雲中事也。有女阿像。樹其生髮。阿姑射松。蓋其墓木也。枯已久。又有中郎將藤實方菜。實方謫于奥。而來觀此松。埋寶島死。其女不堪哀剃髮爲尼廬松下。終身焉。卽蓋尼之宅也。說傳。仲豹齎酒菜辭而別。曰妙見寺村。如藏王西北陲。行行漸險曰釋迦堂村。左崖上有閣曰唐松觀音。其地可想。村之半左取幽篁。篁蔭溪流架棧橋。橋經幹緯枝形如織之筬故名。危甚。遶崖壁下。壁長二三十步。高十餘仭。一石所謂石翁也。刻其左稜如階。階皆垂索於梯縋上。不見人獨木夫。上兀坐閣方二丈。面臥其隨步動。歸無所觸及。抱掖而傳所見樹頭眞急瀨。目暈踪痒。俯縋下丈數十步而闕之。巖垂懸閣鶩如將崩者。益使人悸。有水源東南里餘得上高馬夫飲。馬金生抱膝而眠。余曰獨金老護諸客。苦大笑。曰滑澤村。曰新山驛。山形東界也。又有曰關根驛。篠谷嶺。西麓也。宿鈴木氏。其居取石畔水。爲幽邃主人年七十三。請余詩之。頃讀前時古忠雅十一日。主人兒從五六里。誡馬夫護。山民數十往往有若人。既有販食馬而步險甚。上八九里。扶杖而顧。唯白雲矣。虛空藏六七十里于西南焉。小朝日百二三十里于正西焉。長月山百四五十里于西北焉大。須臾雲合其雲涯如烟海。其中三峯如島瞭然接睫。坂窮廣平如原。記石曰奥羽之界。所謂有耶無耶關也。或曰。在蚶潟左右。每步而穢雪中逐之以行。霧深風寒覺腹背粟起。走投茶菼曰千壽寺。與

之所以憩行旅也。屋破扃穿一僧飼佛。衆隷環火而食。見客走讓火煖酒以進。問所為生則採藥於山中云。因語。此中有仙人瀑。險惡至難。一石數十丈為橋子澗。又有石柱數枚。徑四五尺長二三丈。如四五丈。其積之如橋材。固非蹤跡之所及也。又非人力之所能也、偶有得至者。怖不敢近。將指其處雲霧大起。寺有鐘、曰大雲撞以警迷者。出寺上下尚在霧中。聞水淙々。與諸子相失。虎馱余與老以下行。語曰少壯使登陟嘗登天台。自四明望橫川寺。懸巖緣壁直達其處。四十以後日月覺衰。答曰。唯猶此山歟。少長如升衰老如降。余善其言約。下極曰篠谷驛。曰野上驛。曰川崎驛。得岐右為相馬路。左取曰小野驛。曰中里。得水曰碁石川。名取川之上流也。徒涉右山邪行、樹鬱々鹿呦々。得碁石驛而宿。夜雨主人貧甚、上漏下濕、且夕榮枯亦猶金老之言。

十二日、曰赤石峯。天竺花遮路如爛錦。且排且行紅露染衣。國風花摺之語不虛也。躑躅久之。江生曰。來路有宮城野。乃行曰赤石驛。得水名取川也。徒涉水清見底。山氣早霜紅葉魚梁滿、益聞波響多。使人懷源重之。曰茂庭驛漸覺夷坦。云鍵取驛云茂崎村。得大年寺奥侯之福田也、石階二百餘級、自背下。下又上云愛宕山。俯臨仙臺城市在一瞬之中崖下之水云廣瀨。旋下、下窮云鹿落。得瑞鳳寺與宗廟所在也。宿國分街。

十三日。東南數里云躑躅岡。左云玉田橫野。里餘得茂林。云國分寺。天平九年所建也。林樹茂密露滴如雨。國風詠樹底露信矣。其東云宮城野。以天竺花顯。今墾成田。花雖數畝。不如赤石峰遠矣。東涉云安內村。左折云善應寺。右出云比丘尼坂。問小鶴池。曰池廢已久不可知也、君亦何不問燕澤村碑乎。披榛迂行二三里得村。村舍之間觀音堂側則是如其言得之。碑可高五尺廣二尺厚一尺。形太質。而刀法極巧、字畫叉股不盡刀鏤。奇古多省文思

之後得。蓋祭古墳之文。弘安五年八月二十日。里未清俊者撰。欲搨無墨。粟生取茄子以搨不成。有人傍觀問之曰。此間有村名小田原。傳道有安養寺。碑舊在其跡。享保中。松島僧移之斯焉。其背刻大乘妙典等數字可陋。問其姓曰江浪氏。從入其家蹇甚。童子五六人對案臨字。則村書師也。授之搨法。則日而別。曰今市驛。驛盡得流曰冠川。度橋左瀾曰都府浦。浦古產菅名。尙見遺種。自橋右與細路。今曰岩切村。村中小渠架片板曰度斷橋。愈行曰南宮村。曰市川村。村右高平處爲多賀城墟。有壺碑。天平寶字六年所製。千秋儼存。使人慨然。見眞人可謂死而不朽矣。古庭謂之壺以在府庭。得此名。左出有是社。似是總社訛。及鹽竈浦田中有松。茂如島。曰浮島松。宿鹽竈浦。携老步月市如串。貢長者。蓋埠頭饒魚鹽之利。比屋咸待謁鹽神者食焉。息焉以爲生。市盡而廣斥小艇掩港。水月相映。秋禽鳴悲。立久之乃返。

十四日。欲出値雨。江生害飲不得行。雇人爲導襪以出。過華表。踏石階。門內松杉之中。三宮一壇塀如也。爲鹽竈廟壇。右鐵燈以石爲足。如牖有窓。其蓋如笠。曰和泉三郎所奉也。匣頭鐫文。而秀衡和泉三郎。文治三年等字僅可讀。廟左法蓮寺。曰晴則島嶼可數。又下下極度橋。橋邊小祠有四釜。各徑五六尺。曰神煮鹽之物也。出祠左折如取來由上。上又下一二里得一小渠。曰野田玉川。鴫莃夏玉川無淺瀨者。今雨無涓流。度橋曰思湧橋。西行丹楓不忍踐者。右阜楓樹藩侯惜其無徵使植者。又行曰八幡村。得寶國寺。寺後林中。累々成墓。曰末松山也。舊斥鹵故古有波踰誓。今也四近萊蕪桑海可歎。出寺而右農家前有池。曰沖井。小町燒身於沖井者。沖井之詠曰都島者。蓋亦在此左右連闔。距村一二里得田中村。村背叢祠前石陷也。曰源右將之詠所。取以此千引石者。可得千人以搖曳也。而尙大焉者多。何獨得此名。如取北貢而返于

浦。蓋往還二十餘里矣。比返天霽江生。戒舟而待。未
時登舟于潟。潟以外曰浦七。曰崎。曰島。各八。通。
謂之千賀浦。回浦而出過山而松。漸入佳境。浦左
右畔相距里。如里餘波織綺魚鳥戲。左得一灣。曰
阿母懐可就取安也。右得島曰尾。左曰離著乎
國風。踰離則水天碧仙嶋七十。嗎然齊笑宛轉爭
迎。不覺正襟改容焉。青干舟首曰金華秀色可
摘。右盼衆灣々々漸々遠乎。西南曰東宮濱。漁人里
焉。曰與賀崎。牡丁居焉。左亦灣々口參差。鵠之髯駝
之背樹如栽水如畜。千奇百態不可名狀。過一
灣竹樹之靡微露茅屋。灕下。舴艋如不繫者。何人
居其致可想。過之曰釜淵。盤回不測。舟子語曰。神
欲煮海徵竈于龍。乃我浦所祀之物。出自此淵。得
崎曰腕如名。其拾島左右如鍼縫。歡於前則妬於
後。徐於彼則急於此。一身四應目眩意迷。自千賀
至松島。十五里。而得島五十餘。綠衣者十而七八。
有裘以涉。有袒以沐。披襟對風攘臂就澣。如舞

如蹴。如坐如臥。瓊姫雲娘。仙姿百露。曰二王怒。
曰地藏低眉。曰孿難兄弟。曰后嬪嬙御待。曰駒。
曰龜。曰蛇。曰鷹。曰犬。曰雀。曰石凹。曰上航。曰
大皷。曰鏡。曰鍋。曰鞍。曰帽。曰胄。曰甲。曰屋。
曰材。以形名。鏡帽甲胄逼眞。屋如蜃之噓氣。材
有穴通南濱。又有墻壁就壞。屏風半摺。産芝之石
植松水者焉。東至富山。西至千賀。南至唐那。北
至雄島。方二十四五里。而海如秤。島如碁。而舟首
穿之。東奉晲之石乍綴聯障。起乎水乍解散珠脫乎
貫離也。戶開合也。扇闔內者戾我。外者競我。得競
於戾。失競於戾。內外交互來往絡繹。交語去十五六。
默揖去十五六。我狂彼蕩。我靜彼正。圓乎儉方。屈乎
條伸沈浮低昂變換無常。天與之工其妙尙多。我之力
不能之盡矣。晡後達于松島浦。浦頭旅舍有樓。樓
其宜月者寓。諸浦負山箕踞。五大堂爲左臂。雄島
爲右臂。趾々相距二里。而抱比樓。々前長西東皆
逆旅之舍也。是曰洲前。洲前潮淺商旅不通。地亦不

便農桑。而瑞巖寺下禁漁者。其民唯仰濟勝之流。或者水陸貫傭無勞不爲焉、俗頗質少欺詐。比之鹽釜則淳漓大殊矣。是日向暮又陰。愁雲黯默孝姬失色。把苦相澆、引枕相慰。皆有幸晴之情不敢即寢。比五更江生已起云。咄々月來其下樓如隧余亦衣帶從之。度橋二則五大堂也。諸子來獨文未至。既携筆硯至。余笑曰。是以謂之文乎。晴漢欲流皎月如灌、頓變且晝之相。爲金銀瑠琉世界矣。衆皆悅然如有所喪、無有出言久之。去島道雄島而還。來往數里。斜月送我風松和我。比返月又暈。

十五日薄陰。來遊者皆曰先遠後近。乃如富山。遣舟待于雄島。辰時出舍。再踏曉路。右轉曰內巷。左折則見磯背曰横巷。々窮右則出長老坂。可至仙臺。乃左轉曰竹浦。右寺曰法性院。左島曰屛風。愈左云小松崎。崎盡度橋則雄島。或云御島。見佛修道之地也。右同得御島建寺碑。々高丈餘廣四尺奇。兩邊彫龍極巧。德治丙午冬至。鎌倉建長寺住。元僧一山所撰也。字皆食不可讀。左回云骨堂。云坐禪堂。云松吟庵。々藩祖之時僧雲居所居。庵前一瞬群仙盡來。登舟于南巖之下。左右取島東行。云引通。云德浦。云翁。云鶯。云繪。云燒。云鳥羽。其他不必名擧。其最大者云福浦。其寺云德立庵。僧洞水所開。島上老杉修竹。葉樵亦足不待他求。其受名有以矣。古人買山尙爲費多曰經。見佛葬法華六萬通于此故名。比過翁。左睨一浦曰高木。鹽戸所里。霍烟裊々隨風委靡。古風所言意興宛然。曰猿林。曰鍋。漁家蕭條又盼一村曰手樽。不知其姓劉。畢行可十二三里。得一灣而往。潮退不得遂港、一人前導、人皆臨、踐沙及山。山是逼地荊棘。而無一兎蹊可由。匍匐而行手穿足步。衣鈎膚刺苦楚極得巔。一徑如絲掛傍數步。乃責導曰以乃公爲鹿家耶。又手曰舟子泳、山亦人之所也。不服松間迂行。徑僅受趾、但天竺花盛開如赤石峯。前者排几進、後者承

且排。如遊水狀。少忘疲漸下田而村。而路可二里。得富山。磴道三成杉檜晝晦。入門曰大仰寺。安大士坂將軍利仁所建。戎服騎馬其像也。亦自出離一境矣。使文請院不得。使江生由後得聽院俯臨汪々哉。海洪然盤水如甕。予未由欲蹴海走相馬之山也。其東南則唯鵬圖焉。西拘者如我左腕也。爲唐那。其嶺左右樹最鬱翠如髪。兩髻曰雙森。其尾陵遲。入海望之如馳道長極。乃又高。終爲我肩矣東拘者如我右腕也。爲鹽竈以南諸灣競態爭妍。其狀不極而群仙蠢在抱中。或四五如逝去者。其雄島以東綠于八裳下。舟如葉帆如羽人如蠅。遠可招近可呼。先遊皆曰。得松島而不得富山。譬猶虛瑤池而不見王母也。信哉言也。信哉言也。初寺僧爲凡遊推之。既階有出塵之想。則跪進茶。余時得一絕爲吳音。僧宣且驚且悅。爭進通名。請筆之。遂語云。院之觀無時。而秋爲最秋之觀。無雨晴面薄陰爲適。天甚朗島甚明。甚明甚近。少減幽今得陰雲。松加翠島加遠。豈諸天歡喜賢者之遊耶。金生聽之泣餘皆哂。然含諮良久。雲益黑風益吟。雨將霏々乃辭去。出門從山里餘。雨益鳴。初下舟時。不從雨具。天笠花中不得疾步。行折以哉。淋漓益滴。不知導者之所往。交號交答。從則響也。得灣上下者者三。而後至舟所。舟子與導者。狼狽理苦席又讓曰。來往寄人何答曰雨急留者一人恐沾衣裳。且諸公已慣之。於是冷氣襲人。傾櫑敵之。忍指。諸姬而歸。益自發羽特則今宵。今宵而雨宿興殊甚。唯酒以遣悶。乃命酌主人曰。比舖酒盡使人取于仙府。未還衆益撫然。

十六日。水鏡照映島嶼鮮美。比之頃日轉益絕妙人々魂飛。知貫月之槎在今夕。姑且探遺境。再翻五大堂少登如堵度橋三十丈許。其版間闊脈滑殷而行。謂之洗橋。國風曰松島橋。伊部忠敬詠紫藤花者。度橋則島。國風曰小黑崎二小島者。有鐘樓有骨堂有橋如前者。橋小島大。有五大堂。其像慈覺大

陣所觀也。今猶在于此而已。故名三陣。水魚洋々。不異弱水。亦知有蓬島。右陽德院。有滿願之配田村夫人墓。出院右折瑞巖寺也。入門左排順之穴可容數十人。日無知窟。開山法身禪師、法身雖眞壁。守平四郎、如其傳道而歸、受其庇時賴所敬。寺舊日松島寺。法身再興之。改日圓福寺。至藩祖。令修之。使雲居主之。佛殿堂廡屏障悉以金。其中一處。有虎負竹。應成之。其狀殊異。庭有臥龍松。紅白梅各一株。藩祖自朝鮮所持來云。寺右有二寺。曰圓通院。曰天麟院。其南曰觀月樓。々上茅茨曰觀瀾亭。藩侯請客也。扁曰雨奇晴好。其觀一覽無遺。亭之前後皆紅花。々月出之光故名。既返宿舍前街而去。與老倚欄飲酒。召主人問四時。日無時不佳。然莫若晴雪之日。別生一世界。若終月出、從諸予于舟。二僕助棹離洲。左嶺之樹、株々可數。右島之樹、微々含黃。少焉月吐溶金。一道燿々穿眸。既凌數十島。沖融沆瀁。渺瀰淡漫。飄然騰冷然揭。瑤京可居。而何可卑。一望之外目無隻影耳無片音。達々悽々神清意寂。人々忘出自塵中。傳玉杯而酬襟。妄言笑仰。幾疑得仙骨焉。及至風波發動回棹過一島。島上樹林鬱蒼。舟子曰是何也。相顧如雲之圖風雨而後集者。怪而其名。舟子曰君不夜明既還。人々與君思之。酒人華首。余意未已抱其而歸。斯須有順其左右。漁火點々出沒。島間星流營叢金氣盛晴月谷開。賓主相伴謝盡頃悲。忘風拂霜冷露。彼。耳目之所。觸無物不悽然。蓋自余之好遊。夜水行亦多。其舟中望月往々得奇觀。而十月於松海之洋、九月於伊王之島、最為選異。嗚時豈知復有今日乎。此哉。夫人生于一世。誰不欲富貴而惡貧賤者。其富貴者好爵紆身而務縱心。豈能得一囊然輕蹈羽翰、日夜于名勝之區乎哉。予之無行也。資師于千乘之國、而暢曠達之懷于東西之極。我竟不以我貧賤易彼富貴矣。而其致此者。父母師友之訓之賴也。念之又念。泣下不已。

十七日。比日出回舟千賀浦。反顧而望如離家鄉。藤三位苦屋之詠。豫爲我言。卒姫鬱々佇立乎霧中。亦如惜三日之歡也。如罪根未滅復向流俗而歸何。蓋此遊多造化之助矣。其發千賀浦烟雨新開一也。至松島曉月暫晴二也。登富山薄陰適望三也。及回舟雨景荒涼四也。翌探浦晴景明媚五也。及浮舟月明風清六也。今朝霧境轉景換七也。七助七奇。均賜七人。不知後世吏又有誰。彼諸天歡喜。似非誕言矣。巳時至鹽竈浦舍。舍子尚幼學書。請余余書富山詩與之。有祝藤塚氏。亦因主人相見。贄硯曰沖非石片。舍主亦贐古瓦。曰得于多賀城墟。粟生先行。取燕澤碑。暮至仙臺舍。生已在。樹亦好。

十八日。欲取路名取熊野。爲藤實方之墓也。自仙府行五六里渡廣瀨川。得村曰中田。又橋名取河也。得茅屋三數家曰前田。其前有小祠曰名取老女宅。老女不詳何人。云每歲詣紀熊野。至老且病造祠擬之。終列祀典。即名取祠也。登生走至曰諸子造熊野祠。店嫗曰無傷自店後行亦近。乃遣文。監馬直行與虎三八從嫗所指入。八九里得熊野。諸子已在。祠廟嚴肅老女配焉。鎌倉以後官參尚存。常以七月七日發康云。自祠西南取莽野十數里。得一村曰鹽手。民舍傍篁中可一弓。張繩爲限而不見片石。曰中郎將藤君之宅也。一條帝時。實方笏擊藤行成于朝落其冠。上怒謫實方於奧。久之會赦。欲過羽觀阿姑射松。騎馬經笠島神。土人諫曰。祖道之神也宜下。不聽比過神馬斃乃墮而卒。長德四年之事也。其後西行過其墓。詠故物唯黃茅。々遂名。傍見一嫗問之。曰墓不宜茅。惜其就稿移之我舍後。乃指示僅數莖耳。江生曰。嫗蓋藤婆之後身。又行曰笠島祠。或曰八峯祠。倭武東征祀猿田彥爲祖神也。出祠南。田間十數里。得岩沼驛。々古奧刺史之府。所謂武隈舘也。驛半右折曰武隈祠。扁曰竹駒大明神。祠前左回曰雙幹松。著乎國風。刺史藤元良者所栽。後爲野火所燒。時刺史橘道貞別栽

存其名。僧能因見刺史孝義代爲橋柱作和歌諱之。今松蓋能因以後物也。余生益遲、有

十九日。出驛左可往相馬右取堤而上。即大隈河也。光俊詠曰稻葉渡。蓋在此左右。曰槻木驛。曰白石川右藏王白石二山而行。國風曰憚田。蓋亦在此左右。曰舟廻驛々左名舟岡山。正治中柴田三郎所據。右名韮髮山。曰大河原驛。曰金瀨驛。曰松川。曰葛田驛。有葛田宮。曰祀用明天皇也。十八日神化白鳥。其敬之猶神。觸之即病。曰棄子川。昔王國有棄妻者。妻追至此而不及。棄赤子川上而自沈。故名。曰白石驛。得坂曰鐙越。源右將征奥兵多死焉曰鞍碎阪。灌亦在此左右。曰越河驛。仙臺西界也

二十日。雨出驛得坂曰嶽碎。左山曰厚樫。文治五年錦戸太郎所保也。過茂林中國風下紐關也。曰貝田驛。曰大門村。得坂曰國見。右山曰圓山。如名。即伊達大門之墟也。下坂得小祠曰國見祠。祠傍得怪松。偃蓋縱横數十步。其下可庇數十人。幹高丈餘。其枝屈蟠見約轉結不可狀。源義經所憩云。曰藤田驛。曰桑折驛々盡得岐。左爲正路。右可至鯖野。鯖野有佐藤莊司之故居。欲見之。右細流曰善兵渠。善兵姓古川。米澤先大夫。其宰于福島也。鑿此渠民至今賴其利。歲時享祭不絕。馬夫曰。雖年頻旱。唯渠之所灌無害。土民懷德不已。相與謀改修其碑於水上。左大隈河信夫山。北行曰成田村。得松原寺。保元中僧都覺英。至此臨終掛衣于松作和歌而逝。其詞所稱葛松原是也。問其松曰柴松者相踵隴畝爲之荒。田主惡而伐之者彈指。余曰。亦是師之後身。江生詰焉。答曰。師素避名而以松顯。非其志也。神有知心當憑人以伐之。生笑。余江曰湯村。曰鶴上村。々窮曰鶴上渡。馬夫指石尾上曰即善兵公之碑也。曰飯坂村。有溫泉。自村左野徑數里得鯖野村。曰醫王寺。有莊司其子二信碑。碑字滅不知是非。寺蓋其南莊也。有南天櫻枯。蓋南殿櫻之種也誤傳。有夜星井。蓋井底晝見星云。今廢。寺後

曰大鳥城墟。其所據也。出村南度田八九里。暮福島府。

二十一日。曉與江生叱虎出。欲觀文字石也。驛北東行數里。一里曰墳右折入桑田。徼行如蛛網。無知所向。見芻者從之。至大隈渡野航如遺。大號數聲。舟子拭目且來。已渡過二三村達山。側得一茅廡。々前落一陷石。可長一丈廣二尺。即文字石也。蓋石理成文。可與齒齒以捫取。々者不已無麻麥隨手與以取田疇爲荒。里人憂之。使轉而覆不得復捫。無情片石。徜且以其文自殃。可以爲警。比之掛衣松爲幸已。取向路返。午時發驛。過佐々木野庭坂二驛。自此至板谷驛三十里。山路奇險。名曰板谷越。余已有記不復狀。漸上至霧幸。老樹怪巖熊羆所伏。壯士猶難單行。栗子正熟。山民爭拾。或有婦女男妝負簣出入險惡中者。余危之。馬夫曰。舍之。無生我婦昨出遇熊。今又往。余不覺嚬蹙曰。世唯謂蠶婦苦。豈知亦有山婦乎。人爲一生不避危殆。不啻此輩。過李平村踰鬼倒。昔轉。垂藤諸險。及昏達板谷驛。我米澤東南界也。栗生告關尸而後入。

二十二日。雨巓頭寒甚。過大澤驛至羽黑堂而寄及白旆原。學生盡來迎。益文之報也。暮歸館。使都講藤子廉謁至。

子章云。此文是世馨半生之叙傳。心事亦具于其中。

喬卿云。遊記之作。多失瑣碎。山水無色態人欠伸而已。此記簡而詳悉。泉石皆動。可以爲記勝之最矣。

子慶云。松島。嚴島。天橋立稱爲天下三勝。孰能記藝丹之遊與紀君謀鼎足者。昔許玄度有勝情又有濟勝之具。時歎其能兼焉。殊不知其難兼者爲之勝筆也。華域名區未聞許有一字。則媿我世馨者多矣。

遊奥曆　　澤元愷

余之東也有三願焉。登富士之巓而瞰萬古之雪。慨然小天下、不亦樂乎。一願已遂矣。昔者水戸義公大修國史、可謂大偉事矣。然以一家之蔵、閟而不出。欲一涉獵亦難哉。二願已遂矣。山水之勝。西極瓊浦、人以爲壯焉。惟奥之松島。號稱海内第一。其距東都一千里外。孤劍弊裘不遂志者今且十年矣。今茲安永戊戌春。得所借而遊焉。乃紀其行。名曰遊奥暦。亦以記吾春儔。

穆卜三月二十六日。發江戸、而宿越谷驛。先是余寓于甫叔。輔氏主人與綿谷山人、伯和遠公。及鈴生、向生、送余於千住。乃與二生分手于河梁。四子倘逐來、已微雨、伯和遠公乃歸。叔輔拉綿谷子、抵草加驛。途飮于千住。又飮于草加。醉而別。

十二(四月)在仙臺、訪章生、田生。二生乃仲高陽所識也。二生引余二人同遊愛宕之丘。丘在城南。其名取諸山城白雲山矣。目之所極、田埒千里、東北無山。山則七擬泉嶽。二山在乾位而隱然。治城萬家、定東奥之大都會也。田生開行厨以供獻酬一再。下丘而遊國分寺。其林乃古風所詠。樹下森云者即此。遂登躑躅之岡。岡有馬埒。左右皆花樹。演劇士女沓々可以觀土風矣。田生哥呼厨。日夕醉而歸。田因出觀藏地志以示。盼余遊趣、頗蓋之故哉。章名有容。田名貞甫。

十三尚在仙臺。午下訪田生、則章亦來晤。酒間譚稱劇。二生慇留、勸日之行。爲青甫故、不得從其請也。

十四日復來晤、留行。章亦至于書。然卒不留。已牌發仙臺、而數十里得市川村、乃壺碑所在也。嗚乎不朽者文。千有餘載之久。見雲氏筆痕尚淋漓乎今日。多賀城趾礎石尚存。其瓦作研、好事所愛也。青甫穿地而得一小片。但經火者不堪用也。遂謁鹽竈祠。睹神釜者。果神世所傳耶。孰記其年歲。訪祠司藤塚生。生引余書齋。々曰金華。其可以望故也。有

酒有詩。又登勝畫樓。々在法蓮寺。此夕作遊記一篇。以贈藤生。

十五有雨、故不發。生來晤、初余欲以是夕浮舟松島、而雨尚不休、寢而不寐。作詩祈晴。

十六將辭逆旅。而主人餉我墨書。其兒所造云。地僻業鄙。妙年能書。何其奇乎。買水次、時潮退而膠。乃舍而步。至雄洲。雲霧復晴、上舟東風拒我。寒氣勝人。徒被覆子舟中。造物者果何意、下舟入瑞巖寺。頗巨麗。御嶋在竹浦。距寺可二里。島中有古碑。宋僧一山所撰。碑制頗異、其稱御島據日本武尊東征所駐云。吉甫亦何意、實由客手匆々先行。余獨不可久留。遲々引錨抵高城村。自艤而歸、比至富山雨復降。乃抵大仰寺乞宿。住持僧臥病作小詩以贈。

十七尚未霽。聽島僧引余眺望。美則美矣。雲烟濛朧不能盡其美。吉甫請行余固執不動。午後果晴洲嶼百千錯落其間、天造之妙。寔蓋壤間巨觀哉。余出鬟髻以試。鬱結之松・突兀之石、變化倏忽。終不得盡其美。嗚呼美矣。乃作記。

十八。出富春至石卷。

游千賀記

澤元愷

維昔創開煮海之利。以厚民生、其神日鹽竈。我先王之制。社以稷焉。其祠千賀。儼然廣貞、維山巖々。礎道一百餘級。門廡相聯翠宇彫檻。紫軒文楹。神光顯々。作威作福、其民以敬焉。祝司僧巫並置以守焉。皆邦君之祀典也、余今遠來而謁祠。因瞻神釜者凡四口。其三徑四尺有咫。其一除八寸。高可八九寸。厚三寸強。其色深綠。振古露而不蝕。釜側有護神小祠。土人云。其邦有變釜中水色爲變矣。此是神聖之世。煮鹽之器夏彝周鼎乎哉、孰復記其歲乎。亦惟萬古往而萬古來。余今睹此神物。亦復一時哉。慨然之思、悚然之敬、久而不行。乃命卸行李。遂訪祠司藤塚生。生則好古之士、素聞其名矣。一識如故。延余於望華之亭。且望且觴。雲烟之間。屹然于東洋之上者金

華耶。如是下物。胡辭一醉。主人乞言於余。然不朽今日余豈敢當。又携余於勝畫之樓。樓乃邦君之所命以扁也。其寺曰法蓮。凭闌則滿目青松。繞山之足赤崖。白砂纍々而出。松島之磊塊獨開。籬之洲對我。獻勝。眞如碧玉盤上置一青螺哉。余聞我東方之國。陸奥爲之上首。奥之爲首者松嶋也。其浦千賀。從古煮海于此。煙霧島々。乃國歌所詠吟也。河原源公夢寐其風光而不措。廼造別莊於京東六條。以擬此土勝景。其見賞于海內可以見矣。爾後變遷。亦姑置其爲一大勝區亡論已。距京一千五百里。是以游者不多。故有藤生之求歟。其人善待客。夜間爲予指祠前鐵燈籠銘。以驗明日之行。其雅致如此。燈籠藤原忠衡文治二年所造。距今五百年所。亦令人慨然。遂並記。亦惟萬古往而萬古來。予豈敢曰不朽今日乎。業已不遠千里而來游。安得恝乎。已乃不遑期他日。亦不遑讓。我拙引筆作記。生名知明。于時安永戊戌夏四月望前一日也。

遊松島記

澤元愷

發鹽竈村。舟行十餘里。乃抵松嶋。松島在海之灣。々之幅員十有二里。總名曰松島。棊布星列。洲嶼之麗不億。鬱々然磊落其間者。蓋八十洲云。民家作村里者十數洲。名號最著者爲雄嶋。爲御島。爲寒澤潭。爲宮戸。爲揚柳洲。爲冠子洲。若夫蟾蜍。小碣。舞鶴。浮龜。以形得名者也。其餘似鼻。似耳。似利似囷。種々不遑枚擧。壹皆松樹。楚々茂立。是其所以得名也。右接左應。此對彼往。名號且能悉記々之鄙陋不足擧錄也。御嶋有橋而通嶋中。有古碑。宋僧一山所筆也。相傳日本武尊。東征之日。次于此島。故其名最著。與御島相對。峙于水次者曰落雁峯。挂鐘島。藤秀衡治水軍之處。觀月墩有邦君遊息之居。名曰觀瀾。舍舟而登。則有佛寺瑞巖禪寺。最巨麗。三都所罕見也。行而登富春之山。々距松島村可有十五里。有寺曰大仰寺。記云。大同年田村藤公所創也。既至日已西落。因請宿。翌復烟霞晦塞曽

之淵瞑明滅。若存若亡。悵然多時。俯仰一室間亦已甚。日已亭午。寺僧告曰可望矣。遂登佛殿。以觀焉。烟繚雲開。一覽萬狀。嗚呼海內之巨觀。天造之妙境哉。並東方日月精華所凝。抑亦羣卓耶。上古神聖所宅。抑是耶。前日所見碧玉盤之上。今則點々錯落如碁勢相爭。然其間魚龍出沒。鬼怪翺翔。兩曜晦明。陰陽晝夜。變化倏忽不可端倪者耶。宮戶寒澤諸大洲之外。渺々無際。海潮來湊。以通有無。則若生之利。亦有焉。富乎此山。士大夫鮮稱松島風光。咸聚于此山矣。信矣近職林麓。懸崖萬仞。索度芽摘有時乎施焉。亦實外之想耳。若夫風伯怒號。海若蕩滷。波浪如山。洶々然與松濤相答。夜破旅客之夢。亦令人夢寐不忘哉。余宿富山。僅記其萬一者如此。是日四月十有七日。

遊鹽浦記　　井山森

正賀師者東都人也。其爲人倜儻。專玩風月。好樂八音偏通。苟有山水之美。必遊。遊必寓興於絲竹。嘗慷慨歎曰。今余求我鍾子期於蘆葦之中。實不易得也。縱令得之。豈無絕絃之憂乎。不如以天下之勝地佳境之適余意者。友之對之。而發洋洋之音也。其若是焉。則足終一生矣。遂下我東奧千賀之浦。而居江後山之精舍。今茲寬政癸丑八月望日。將欲張樂於彼浦。而賞月。自來要予。予欣然應之。期而將行。於乎若何秋雨滂沱。浦側之質不堪衝泥。終日吟賦。空悲失雅會。遺憾再旬。然不可止矣。九月十有一日。復欲遂前志。冀星出。一奴與糧以從。草露徑行。膝曉寒頻侵。比到燕澤。旭日杲々出。寒稍々錯矣。緩心步行。道目乎左右。農夫腰鎌驅馬負乘田間來往。雁鴻有集有飛。或啼亢或唼喋。百態爲群。奴行戲拾砂礫擲之。辰時謁鹽竈廟。而到江後山。到則正賀師與僧隨嶺待東窓。請見。予且驚且喜。開窓設席。予則上席北望千賀風景。含笑露其半。若處女其人闖々乎出半面也。不啻須臾。壽正賀師曰。得其處哉。得其處乎。而後序寒暖。且謝背約之罪。問隨嶺曰。師之至何日暑。日晴昔。予聞

余道而至乎。何相會如是乎。秦答曰。中秋雅會。天奪其時。今日之遊。天與良緣。興奪在天。子苦何知之者笑。正賀師延隨嶺與秦也至櫻井氏之亭。設日饌曰。精舍午可肉食。然予輩遠尋余海濱。食堂無魚乎。飯畢見櫻井氏。相與還于精舍。暖茗而張樂。隨嶺吹笙。櫻井氏吹笛。正賀師簫。秦也箏。宮商互起。律呂相和。海氣徐來。松籟入曲。日暖。予賀之佳景。耳靜大雅之音。每奏一曲。興愈益動。三曲則閑。櫻井氏指前山曰。那之稻荷山。頗佳境也。予輩欲探之。吾乃為導。仰之捩然疊嶂蜒蜿。蔽乎無樹木。其義未定。心先飛。相要携酒肴蹇裳而行。々數百歩至其山足。迤邐陟之。眺望而闊。踞其頂。四顧飄乎如在雲漢。西連山蟠于南北。太白嶺々青于目前。北鹽竈神之山。磐礴蓊鬱南嚮吐里。東五島羅立。翠色不當出藍。金華最遠。若白紗者覆焉。山下有田。蒼海之變也。夫天地之變。猶如此也。而況於人間乎。吾儕生數千歳之下。妄慕古人三代禮樂。冀

可行今日也矣。是非其力相天地者。誰堪此任也。嗟乎何思也。思則思矣。而性好不可乖也。又相催張樂。一曲一杯不覺樽盡。櫻井氏又指一山曰。是嗣大之墟也。昔時留守氏在新嚴城時。其家臣之所居也云。風景不減也。昔葉山路。迂回而行。到則蒼海之望漸豁焉。日下睹々杯葉浮。櫻井氏曰。彼漁舟也甚樂。予時昔携妻孥棹扁舟釣魚。舟中烹之以下酒。又此浦之一樂事也。比日天晴風和直能食鮮。故漁舟者比石矣。聞之意動詢其首尖。僦人催舟棄去。入一松林。曰權現崎。其皆入海益清麗。左盻北屋佪港。小舟繫顛不繫。汎々北濤盱然對。予曰阿母懷。五六奇石轉于海中。似小兒匍匐出阿母之懷者。故命名爾。右盻夕陽鐘。燧海水流。錦日擁所窮。使人思松島不異也。擇茂樹之下又一奏。樹下覺聲音之善。正賀師曰。北松林中。有松蕈。有紫蕈。子不欲采之邪。曰不也。日傾西山。歸路三十里。曰彼有二樓。曰勝畫。曰金華。興未盡以歸路之

遠何廢彼遊邪。子惟一宿曰不也。樂不可極也。豈無再遊乎。遂與隨嶺俱辭去。正賀師送里外。曰今日之遊子記之。領而別。及比丘尼坂。見月到宮城野。與隨嶺別。歸家旣五更云。

松島紀行　（發仙臺遊松島記）

半井行藏

海內之勝爲與之松島。去東都千里而遠。以故游者不甚多。余性喜遊。家夫人尚童視余而不行。余亦持夫子所謂不遠遊之義而不敢往。然有時思心馳不輟矣。會五月三日。家君因公事而將抵仙臺。則從余也。喜而不寐。抵仙臺後三日早發。舍館而行十里餘。右顧綠草蓴々遠粘靑天。無田且無人。宮城之野也。行訪燕澤之碑。左過多賀之墟。有石在丘隅。而方而黑。大如門闔。西嚮立。所謂壺碑也。東至于鹽竈。鹽竈在千賀。去松島十里。聞之上古之時。創煮鹽乎玆以視民其用。鹽竈即其神也。山勢峌峴面開石磴爲三十仭。仰躋數十等。五彩之雲。來着杖頭。身如飄乎欲仙。然等盡上得雙門。有侁紫軒。將々神威嚴然。迺提迺敬迺步迺止。迺舉首東望。浦口漏兩三之洲者松島也。山腰聯瓦甍之室者祝巫之居也。喬木之隙見樓閣者。士人待旅客之處也。嘗聞祠前鐵燈籠藤忠衡所供焉。而其背鐫銘與名也。今也觀之字無有也。余甚疑之。欲問無人矣。其側有杉幹可二十圍。直然蒼然森々然落々然。云是忠衡所手植。考之六百有餘歲。慨然賦五言古。探畢斗而書。其幹人突而讀余名號。余卒然問曰。燈籠異于余所聞焉也。曰祝鼈恐經霜露之久。而竟蠡敗移而藏于祠中。余意始暸焉。突至者曰。子嘗爲童以書見于邦君于東都之朝者非歟。曰然。而何爲者曰。僕處於鹽陵而鬻酒者也。聞子名久矣。其舖號曰福田。其名則吾忘之矣。夫我不圖知吾者在乎斯。故錄之焉。以余神促松嶋不得久留。立問祝藤塚生而去。拜見神釜者其數四。徑五尺高尺許皆相似矣。所謂創煮鹽之釜也。露之幾千年矣。而不少

腐。士人敎甚。急浮舟放于松嶋。島麗八十有六。而其海滿縱可十里。衡倍焉。總名曰松嶋。其以各有松樹也。其水多魚多藻。多海月多奇麗之石。停舟而回看。則島嶼之形。或曲或直或峻或平。或圓或方或憑或隆。或波齧而爲奇隙。或足引綠苔參差。或巃嵸閒藻濤。或爲象或爲龜。爲鷺鶴爲獸身殆奇矣。各有名。我不能盡知。々不可殫記。最著者曰御島（雄島）曰離島。曰旭島。曰翁島。曰夢島。曰揚[illegible]島。曰桂樹島。曰貯島。曰鐙島。曰福浦島。曰逆鐘島。若乃雄島崎。塞鶴崎。琵琶崎。龍觀崎。則別號奇不休。掛齋島藩秀衡所置水軍之處也。福浦島有小室竹樹繞焉。劇舟到見入道之士居焉。余謂上曰。島中有異。曰無。有它奇。昔有翟二四。無晝無夜狎舞坐上。若畜猫背則足。繼寂寥焉。舞去不來三年不知其故。又之島名於竹以竅細也。余嘗試伐之。可穿以一毛。御島橋而度余甚厭小碑歸鱗。忽見一大古碑大可丈。宋僧一山之書也。右廻而下。白石偶爾松樹悉與。嵯巖上東西南北無岡而不島其松則亦爭爲奇狀。其鱗々蜿々。伏而臨水者若蟠龍之歸。其躊々蹲々。立而帶雲者若仙鶴之翻。清風驟展至則絕似乎瑟琴之彈。當是時也。縣駒驊爲歌伯牙絕絃耳。又有兩島去人家咫尺。跨如坐兩拳其間架兩橋上置小祠曰五大堂。嘗聞時有亭峙眈枕水曰觀瀾是國君放觀之所也。行而登。高矣。美矣。眺望好矣。過守亭者之所。其庭有物。碑硯豎立。色或白。或若蒼。額有口吐一雛松。問之其人。曰檜化爲石。余珍撫久之。主人出小々者二體余曰此嘗彼之與得者也。予予於一。予觀之色翠而覆。其一體備如象牙欲化不化。皮則尚木也。攜之謝去。入瑞巖寺。鉅麗可觀。出午後之鐘自後襲余。乃行舟洲嶼之交五里七里。反顧島形頗變矣。俄而雲氣泱々起。洲嶼靈變。乍近乍遠如往如來。既而朦々沒焉。余謂曰。嚮所看來而島盡乎。舟人曰否。子覺其

半而未見其全也。且不間。松島風景在富春山。曰今也黯雲妬我爲之何若。曰行而登富春。霧且晴。遂皷楫北走十里。到斷岸下。舍舟陟路如羊腸。而下上五里。得富春。茂樹陰蔚磴道晝暗。陟者三百級餘。路益險苦益厚。去人益遠嶺有寺。曰大仰。夕陽薦在下。飛鳥覗其背。遠無不見。于時也雄風驟至。扇黯雲忽顯數十島。其狀如寒熊如橐它。如嬰兒如嘯虎。如壺。如桴。如人將來而未起。須臾八十島殫出聚於門睫。余大稱快哉。銜輕雲嚮所看來者大盡變矣。蓋以其因山勢之崇與海潮之漲夫。殆不可狀也。其略若洪濤洶天來而無聲也。若窮島爲群也。乃奇乃妙矣。於是碧水涇淪流。萬鬟渙渺兮飛鳥聯翩若烟。游魚踊躍爲文。嗚呼天工之妙造難傳之口。又況乎易筆之哉。夫子長所未見。道子當奪其筆。信天下之壯觀也哉。此山也。玄聖之所遊哉。抑又羽客之所棲哉。又烏識帝負諸玆以備松島之觀也矣。東南有山峯兀刺天。其色削瓜而鮮。余不問而知金華。隣金華大而卑曰日和山。聞日和在石卷去金華六十里。其聚一所所遠望之致也。自富至金華海里可二百里。其他則天與海蒼々洋々然不可得而知已矣。

六月三日。已歸東都。爲記以僅言其狀如斯。若夫善子雪曰。善月夜雨亦宜焉則所未覽也。於余恨嘗徒聞其名而未見其處。今也見其處而遊之。不早既游焉。而後不能工其言也云爾。是歲寛政之八年也。

遊囊序錄　　倉成寛

享和壬戌年己亥朔。越四日壬寅。拂曉發潮橋邸。與同侶肥南土子懷・米澤保純甫會板橋驛。米澤侯之侍臣樺石梁之。門生及弊熟生餞送別。此獨西澤生導經二驛（蕨・浦和）。投宿世野村。生村人也。其父子邦。兄子光皆有雅致。善武川氏詠歌。五日。由大宮驛西捷出上尾驛。飯于山口氏。泉石有趣主人子邦之弟。經桶川驛宿鴻巣。

六日。小雨經箕田村。源綱之所誕。經忍城驛行田。踰川股關。濟刀禰河飯子驛店。驛亦名川股。河所以得股名也。武毛界于河。欲觀足利學校不果。余之此遊併平洲之米澤松島石梁之髩髮。霞湖。往還將三百里。前期不可緩。又多爲雨泥阻。不遑窮詩詳記。沿境觸景詩成。貯囊還都之後。叙錄所存以充他日臥遊之具。故與弱取諸平洲。毛常取諸石梁。抄記所經及所聞之處以見遊之概。如其詳則有二記在。又何贅焉霞崖有負劍錄又兼取之。二記里數用古制。余從時制。經舘林城宿佐野驛。

七日大風雨經四驛宿金崎驛。（行纔七里。）

八日。晴經左驛。楡木虎沼文挾。板橋。今市。抵日光山宿市上。

九日到背觀瀑。路於巖巒之間迴觀瀑之背。陟竟華嚴瀑。又陟上中禪寺。臨湖賦湖濶可方二三里。自麓至此三里。所嶺之最高者曰男體。又上三里士俗窮其頂者謂之戒行。其次者曰女體。總稱曰髩髮山。羅山詩曰。山靈亦有安仁感。黑髮山頭見二毛。

十日晨。拜大廟。雨經三驛。（今市。大澤。德次郎。）宿宇都宮城下。是爲自東都詣日光官道。自日光東下者不取路宇津宮徑出于太田原。此行恐橋梁不完迂七里。

十一日晴。經四驛。（白澤氏江喜連川。作山也。）喜連川足利公之邑治。宿大田原城下。

十二日。經二驛。（鍋掛。越堀。）抵蘆野驛。々蘆野君之邑也作山福原君之邑。皆那須族也。那須之邑在路西。此左右多原野。所謂那須野也。自此北行駛牝爲聲。曰白阪驛。々南有小祠二焉。曰界明神。毛陸界此。經白河關跡。憶權世儀初與世儀約此遊。俄而世儀奉主命西歸。宿白河城下。寄府文學廣瀨某爾。

十三日。經十三驛。（根田。小田川。大田川。婦滿瀨。大

和久・新田・藪木・久々志・笠石・須賀川・作山・日出山・小原田。）宿郡山。過淺香山有沼及山井。淺香又作安積。

十四日。經六驛。（福原・比和田・高倉・本宮・杉田・及二本柳。）一城（二本松城。在杉田二本柳間。藩鎭而村邑也。）宿八丁目。八丁目古稱東雲莊大日里也。（私語橋在此邊。片葉蘆 瀧櫻亦此邊。比和田有松浦小夜姫堂。）

十五日。經二驛。（若宮・猫町。）抵福島城。（信夫文石近此。歷瀨上泊桑折逆旅。中秋佳辰月出又陰。肆有米澤酒雖非其醇者。猶勝於沿途所沽。井手玉川不記在何間。姑錄詩于此。

十六日晴。歷二驛。（藤田・貝田。）抵越河。有仙臺郊關焉。濟川驛有阪焉。仙臺險要也。白石仙臺大夫片倉子之城邑也。又歷二驛。（宮・金ケ瀨。）泊大河原。

十七日歷五驛。（舟迫・槻木・岩沼・益田・中田。）抵仙臺外郭長街。又行里餘宿國分街。長街國分街。共鎭下之驛次。國分街在國中。直城正門距東都九十一里。（仙臺封內三百六十步爲一里。與時制並行。蓋古制存也。鑄錢三當一亦與公錢並行。道程有行樹。舟梁不病行旅。禁旅亭賣娼。凡奧道中馬多脚夫少。籃輿尤不可賃。賣娼較東海道尙多。獨仙臺・米澤禁之。以鹽竈浦非驛傳也非禁限。）

十八日。觀燕澤碑歷今市觀多賀城碑。宿鹽竈浦。

十九日。阻雨。

二十日。拜祠觀釜。雨霽巳牌上舟。（聞之舟人。曰島之近者八十餘。遠而接近金華山者凡五百餘島云。）午後到松島舍于樓尤宜眺望者。命僮弛擔。遊五大堂。急取早路二里餘。上富山。山邊路通於石卷。涉於金華島者。路由石卷云。望金華山忽有詩。薄暮還舍。飧而待月。月出皎兮。海天無纖塵。亭人云。今月〻陰今夕始十分晴光。栗山先生以百錢餞余。曰昔圖南紀夫子送我如斯。固實不可不從。題詩扇面曰。大錢一百字。聊贈君東遊。持去松洲月。

醉吟獨領秋。奚已荷先生高情。又如親承紀夫子之嬉。是夜探囊中沽酒。又與同侶會。餞纔之對月弄笛。醉到戊夜鐘聲。步栗山先生高礎。
廿一日早晨。遊雄島。取路今市。反國分街舊宿。
廿二日經山驛三(愛子・長袋・馬場。)宿野尻。是日也行空山荒村間。涉一水十有餘里。店酒味敗廢日與。
廿三日踰二口嶺。有郊關。與羽界焉。

鹽松勝譜卷之十九畢

鹽松勝譜卷之二十目次

藝文部下

遊記 釋古梁
鹽松紀行 松崎復
遊東陬錄 安井衡
讀書餘適 源君美
松島記 釋古梁
松島文庫序 野田逢浦
送後藤子文遊松島序 林子平
題坪碑圖 清程赤城
跋坪碑圖 田省
跋松島平泉二編 賴春水
題松島圖後 釋古梁
書東齋富山全圖之上 釋古梁
書田竹亭松島圖上 釋古梁
大窪天民松島詩序 釋古梁

復海雲麟師　田省
寄海雲麟師　田省
答白河勝子直　釋古梁
跋

鹽松勝譜卷之二十

仙臺　舟山光萬年著
仙臺　佐澤廣胖校訂

藝文部下

鹽松紀行

釋古梁

天下之奇山川。在偏郡下邑者。振古慨惜焉。以余觀之豈必然也哉。其嘅之者自遊者而嘅。其遠已以遠而難於遊者概非奇士也。非奇士而嘅若貶乎於山川也。爰傷焉。其開於畿服中區者。或夾薦紳貴遊。或資巍樓隆榭甲刹鉅觀。而歌詩賦詠鼓軒焉碑版圖畫揚張焉。然後其名籍々聞乎埏寓。蓋耳觀而影說者恒半焉。安得鴻文正議折衝四方者以一洗其寃耶。雖然不熟其勝島識其辨矣。余於松島前後凡五六遊。愈觀愈奇心目惝怳。文思爲格者數矣。因謂局觀弗周孤論難持。況固陋朽才且非業之所與乎。即論之至當安爭於世哉。文化乙丑秋。

與邊黃芙。浦世傑・松文壽・菅智義諸子謀遊松島。諸子皆無逆而及訂期。依違不決久之。越八月壬戌。移書諸子。將翫望夜會於鹽浦。諸子無復差池者。蓋以月之故也。癸亥解后藤大夫于滄閣。因誘之。辭以他故。請送於郊。諾而別矣。甲子臨發有細故。稍過期刻。竹轎輕齎僧偉六七人。出郊日既二竿。忽憶大夫送於郊之約。遲至安內驛。闃無雙影投一店息。徒問主人曰。頗不見人之似俟人者乎。曰有君子頎秀而皙。從僕五六人昒爽至。此瞻望若有待。既誦曰。何其久也。必有以也。遂去。無酒是耶。余悵然店隅。有人被酒而臥。聞衆語而覺。文壽也。曰過藤大夫于是。同飲待師。久而不至。屬余而歸。余喜惝惘久之。出驛過燕澤。文壽醉而後裂傍峇丁於路樹而行可四里。至今市驛命炊。文壽亦及。乃舍轎而意行。過冠水橋。抵都府浦。地古近鎮府。故有此名。產菅。編之爲薦。々廣三尺。而經縷十縷。古之遺製也。巖截村・南宮村。而曰市河村。古鎮府之墟也。地中往々出古瓦。壓紋可覩。村中一部婁上有立石一所。謂壺碑也。縱六尺許。衡半之。天平寶字中所樹。距今千有餘歲。貞石無恙。楷法遒健。文之不朽信可徵焉。亭以防圍掩所。傳于世。多屬修本也。行里許。有一神廟。曰奏社。土人言。詣鹽神者先謁此。待奏可。而後行。否則鹽神不享焉。神皆待介者乎。從此以東。爽塏明秀。知近海也。高松夾路。漸陵陁而下。入鹽浦之市。々樓相接。絃歌相聞。休於觀官之宅。茶頃而出。則黃芙・世傑・智義俱來俟門。出門金華之山突峙海雲。神秀刺眸。負之望也。乃詣神廟。石級危峻。若緣堵睽。喘足积。左右石纍々。級窮廟門有伉。龍桷虹梁暉映雲樾。繚垣形樣廟宇赫々。山臨于江灣。宮負山而墳焉。神曰鹽彥。蓋上古畢神。養海瀕民者。得母東方漁鹽之饒。以此爲始哉。乃天朝祀典所載。崇奉及都國者宜矣。取捷徑而下。卽巖爲級。械坦天然有趣。遂尋士人池子翼家而宿焉。日已三商。燈至嚾飲。頃之亮月在天。光射檽軒。余

謂諸子陰晴無常明夕難期。盍趁霽翫月而徒爲峯谷之遊耶、諸子翕然掀眉竦襟曰。願哉。乃命一小艇縱櫂谷與洲嶼之間風恬波澄空明無際。浮遊醉詠夜艾興餘。廻棹將上岸。文壽甞醉蹈虛而顚。腰下淋漓槃散行罵曰。胡爲乎泥中。且笑且扶歸。乙丑黎明將適松島遊艇未艤因登法蓮寺。々在山之腰。主神廟祈穰祝釐之事。諸祝皆隸焉、有勝畫之樓。洗眸之閣。前對曲江下臨無地。碧嶂蒼波與朝暉相艷發。疇昔所經聚在目下。扁榜不迋人哉。寺主之朝公與余同班以故茶菓芳潔禮接頗敬焉。下而過市。々之南隅有古釜四祠而祀之。相傳古有十餘釜今僅存矣、此地也遼古神人之墟、而所煮鹽教民之處。所謂千家浦者。神廟亦在是焉。觀應中僧宗久東遊所記亦指此地。以爲廟矣。藩祖貞公以其湫隘囂塵。背宇於今地遷而祀焉 四釜配方位。歲七月一改水。々各異色。土民以卜歲穰歉云。方抵步下子翼既在舟餠薦厨。是日也淸風微扇爽氣襲人。發櫂安流如坐適室。舟徐進勝漸迎。浦負山々抱灣。々之首曰阿母懷。舟子所就而避風也。島之首曰尾首而名尾自松而呼之鹽松相接綺繡無端倪何首何尾若擊率然名亦巧哉。左者曰雞。蓋一巨巖而當潮汐之衝故名歟、松篠幽娟叢翠欲流。踰之則烟波縹緲羣島點綴。若視衆影於鏡中也。遠之則金華。而東宮之濱嶼珂之碕。滷丁瓶戶灶烟相屬。諸灣之間島受而瀰縫焉。傍視一淵水色如監醎旋洄可畏曰神釜淵。相傳神之煮鹽龍伯獻釜之處。既而衆島蹣錯左右旁午。艇夫歷指喋々稱名。名皆由狀。怒乎曰金剛。俯乎曰蘧篨。僊々者黃冠。稜々者應眞。而神僊騰蛇蒼鷹靈龜。若翔而集。若下而飲。若逸而搏。若蹲而踞。象人者則端委而立。幞頭而坐。岑牟而鼓。干戚而舞。或高或隨。或髻無樹或髡似髦。豊下而鋭上。斗拔而削成。皆宛然不待名焉、其樹皆松。幽蓼屈盤。偃蓋莖巖。坑根抱石、映日鑒水。呈奇彩於常翠之外。巖崖嵔嵬鬼劖神削。蒼璧白虎黃琮玄圭。各天染而

非竊色也。顧眄異勢。背面易象。更獻迭趺。若嘆若應。一奇未了一勝輒儳。心目劣綫數觀倏遷。譬諸釋帝受五欲於歡園。左睨忘右。前接爽後焉。情悅之際鐘聲殷雲中。知近松島也。既而蒼翠鬱盤迎接者爲雄島。爲福浦島。爲五大堂。松樹翳虧堂宇隱見。嶄然雄視諸島。乃停船陟雄島。崩岸峭壁巘路縈回。乃天仁中高僧見佛棲禪之地。道聲上聞。帝賜寶器以旌異之。古碑藂植徑路。其最古而隆者。曰賴賢之碑。崇一丈許。廣居其阞。四周雷文上標彫雙龍。製極精好。文則建長一山國師所撰併書々出大王老硬可觀也。賴賢者德治中籍跡于此。蓋飽參老衲也。籍草憇觀江山一矚。清颸夾蠅。浩思盈襟。架橋深溪。窄而長。俯瞰洶湧。諰々發悸。不涉而還舟。延緣嶼間焉。福浦一島。修竹千箇。密翠團欒。此竹堅厚不蛀。土人多以釘刀眼。地既以松爲名。而此君獨爾。孤婞可愛也。石壁上嘉卉灌叢。遂宇耽々。爲觀月磯。公之渚宮也。往歲余造瑞巖。請守吏得一寓目。宮扁曰觀瀾。曰雨奇晴好。文山氏所署也。障壁皆貼金丹碧如新。史云。神祖賜貞公以伏水行殿。舶致二千里以建焉。右轉一島見鐘樓。架雙橋以接陸者五大堂也。東則梅花潭・德浦・藏經・旭日・翠柳・彩帶・九子。北則寶珠・通珂・龍首之諸島。是其大厤也。目眩筆稿不復枚記。前達津口。遊舫商舸蜂午塡港。比樓百許待客爲生。擇一店乾淨者。取炊飲。忽聽鋃然於頭上。問之瑞巖之鐘也。恍似有一瞥之雅。適識嚮至舟中者也。時瑞巖主新進山。余將兼賀之。因留諸子於此。隨兩僧一僕入寺。則日且下晡。賀禮既竣。就丈室語。室在殿後。步欄十數間。一步高一步。直出殿屋上。時薄陰滃濛。瓦色不辨。如俯臨山上。語頃月色明翳。時々映虛牕。香饌芳茗。與境相適。辭將就寢。忽謂此行業在翫月。雖亦非清夜。不可以已。因拉儐僧出門臨海篷。夜且參半。陰翳霍然四除。幽寂邃覓西顥沆湯金波熒煌。清興勃々神思欲飛。乃上虛舟令僧操棹。沿岸低回。若眞身於琉璃寶瓶中。纖芥不

相侵慨然有賓陀海岸之思也。雖少頃遊矚、亦足以償夙志耳。將還過店、諸子方寢鼾聲達外。獨黃美攬衣闔戶。云待至二更、既無月矣。悵然而寢。微師之盤以纔指此良夜。輒速呼曰。起々。月々。終徹飲少選。察導僧有倦色而還寺矣。丙寅諸子詣寺。同歷觀殿堂。壯規宏敞泥金眩目。畫則俗史所作設色漫漶可惜。而殿後障壁水墨者。古色隱々有趣、諸祖像位不別設影堂。皆寓奉殿之東廟。其佗禮。庖湢則鑿崖匪設之。不慣人者惴々不自安。出殿門右崖有無相窟可坐十數人。法身禪師、既得法於雙徑。歸而遁居。平時賴微行遇于此。遂相之佐宏興寺宇延而尸之。寺本名松島。籍天台。革爲禪剎、更名圓福大振佛鑑之道。爾來多歷年所。法幢頽廢。元和中貞公一新之。亦易以今名。請圓滿國師爲中興祖。鐘鼓鍠鏜江山適答蔚爲東奧之望剎焉。列剎則陽德・天麟・圓通・天童・林泉映帶合匝羽翼焉、辭寺還店。諸子久渴纔坐輒飲、海蘊豆乳以下酒。此行省與余俱。則來往四日。蔬茹簞羹蒼然有菜色焉。諸子將上富山。余獨適南部便道得一登眺、且還期在明日。則此夜當宿鹽浦。因辭諸子。黃美曰。業已偕遊盍俱歸。衆議終格矣。語頃薄午。乃命舟子俟于雄島之下。陸行經濱宮之後。過鑿道之衢。沙路高低一前一却。盤窩布路如躡瀨版。郭索橫戈避趁遂蟄。此地渚疇相錯。斥鹵不受播。土人多以海藻代蔬。與彼菜色者一間耳、涉橋入雄島前賞未央。矚詠騰々既上舟、余猶欲拾遺勝於歸程。皆默而不答。蓋自鄙以下無譏焉歟、余聞扇谿之勝亞松島將往。衆曰、勿觀止矣。若有他勝不敢請已。余目舟子轉舵、名薦少頃過一山。舟子曰。扇谿也。余揖衆而上。榛莽箐薈才通一徑。衆曰。道路不除山梁若棄、有勝何見。上數百步得寺。曰海無量。巖樹岑寂堂廡古僕。使人肅懷。右折上數十級。山石漸々長松落々。山椒忽敞彌望無際、一矚萬頃岑嶂紛錯。峽勢近迫天形遂開。宛若展摺扇。得名也宜矣。蓋松島以

南之美極矣。於是乎俯仰山水。嘯咏風雲。景邇思遐。晷縮興羸。鹺丁蜒戸釣艇漕艄。生業異料各適其適。噫四體弗勤優遊卒歲。吾何人哉。余不與寺主識。主察其爲。余要於道。延於堂。瀹茗供果。賓曰寺已古矣。得無藏古物乎。主曰。苟有胡不請覽焉。乃出一筐十八應眞及白華大士。以碼碯雕造者也。梵相淸癯劉製殊絶。一如龍眠居士之畫者。神通游戲每各異狀。搔癢者。支頤者。製龍。調虎。撫獅。役鬼者。對之使人興雁蕩赤城之想焉。辭而至舟。日已晚矣。鹽之勝古物之奇。皆出議外。猶延陵觀樂之後亦有縞紵之奇遇也。於是乎。與松島訣矣。皆相顧悽然。雲愁海思煙波慘澹。入鹽浦之阡。則曛黃弗辨色。少焉孤月漸上。海天鎔金。諸子觴詠神興再王。甲夜抵子翼之宅宿焉。既而屬諸子。品藻宇內之諸勝。諸子足跡未嘗出藩之提封。則相視睆々而已。余曰。非曰能之。嘗試論之。夫赤縣神州。若存若亡。疇得而辨之。獨以我神明之邦靈秀之所鍾毓。名山大川何限焉。其傑然乎吾寓目中者。則琶湖。嚴島。橋立。金洲。象潟。縮島。而松島各據一方面。旗鼓相當。俾其治兵於中原。未知疇爲辟三舍焉。然而松之於嚴。僅或秦晉之匹與。文壽曰。然。獨不有所謂天王者哉。請論一於斯矣。曰王者家天下四海一勝。概豈論偏安於至治之世乎。然綜而論之。松島也者庶所弗有焉。集而大成者非與。世傑曰。麟弗偕行。鳳弗羣集。奇者一而足矣。奚以千百之多爲也。曰固然。獨不云濟々多士文王以寧乎。夫文王生乎偏地而不害爲聖人也。天下之於勝區。奚亦問中偏耶。以偏若遐。而難其遊者。談々都人士之心哉。今夫昇平二百年。恇怯靡俗士君子之所尙。鮮車駑馬都服而綺食。冶飾嫺遊慣眂窄解。禾莠弗分。金錠可食。蹬伏都城紛囂中。耳目所觀聞。未嘗接山川紹秀之氣。假令一步洞天福地。廼處懾凌辟之所茅塞。猶之蹐而膺黼黻。嘿而享太牢。安知喬嶽洪流足以鼓舞元氣哉。故志士不圖宴安。惰肢體拙驕欲。宦學千

里閲歷風壤。修嘗艱酸。盡天地之偉觀。以裨吾氣停蓄蘊養寓諸性情。發諸文章。故一揆翰則渾々浩々。峡決而河潰焉。記曰。志之所至。詩亦至焉。詩之所至樂亦至焉。以此爲樂々如何也。跋渉東西。足跡印破天下。僥而後已。顧弗優乎。與其坐而老及也。諸子眠而觸。屏笑而疑焉。丁卯冒中辭鹽浦。取意而行數里。衆皆慫慂余上轎。余有愧於疇昔之言。雖強爲年少風生之態乎。邇者濟勝具漸酢勞分不及遠。顧妨一行之步。因翻身就轎。則轎夫如飛。衆皆如食狌々。蓋前路既爲陳跡。歸心爲之羽翰也。轎中颺々猶疑在舫庭。一夢纔覺恍若隕虛間之爲安內驛。乃命炊觴諸子於驛店。至府之東門而別矣。蓋鹽浦松島之舊事。其可疑者居多。如風土記殘編大成經等。源白石既斥。其係妄作不足以爲徵焉。有清氏松島記者。余嘗疑其非眞。近得勢人本宣長之書。讀之亦辨其妄焉。其他訛傳夸說極多。以余之寡陋乎。奚能質焉。

游東陬錄　　松崎復

慊堂漫士淺中弱植。學乏漆雕之志。仕無季路之勇。但尚平長逝之意未衰耳。退休以來名山在眼。然一貧入骨係累未謝。既少千里磨鏡之技。亦切東道困資之恥。是以一出旬日輿未艾。而糧已告竭矣。唯東陬鹽松之勝未忘於懷。拮据營辦包數月糧。以戊寅歲五月四日。與家秦弟上途。時宿雨始晴。路多泥濘。晩宿草加驛。是日改元文政。(以下截至仙臺宿國分街十八日。廿三。游鹽竈浦。士繩伯謙陪行。自芭蕉辻東行半里至原町。仙臺東郊也。憩安內驛。右折入村路過燕澤。拓弘安碑々舊在鹽松左右。享保時某僧移立於此。文多省畫不可曉。筆法奇健可喜。天陰雨至溽熱甚。飲今市驛。左行可往本松山十府。(自註曰。十府一日都府。今曰利府。地出菅席。十府蓋經之訛。)勿來關右行可赴末松山。沖井。千引石。紅葉山。野田玉川。伯謙歷舉請所向。余曰。靈元上皇。勅仙臺國主。條上奥中名所。時人之

審。多取傍近之地附會了事。且末松山千引石。在南部地方。勿來關在磐城西境。府城謂之青葉山。則紅葉山意當是隆阜。今則不然。至本松山無謂甚矣。其他恐亦是類。余不欲往。遂渡冠川直詣多賀城碑。々在市川村。正書遒勁固不待贅。碑石完堅經千歲如新。聞石卷港距此八里。山多佳石。碑材蓋取於此。石卷大港。海運達都甚便。求碑板者所須知也。未刻至鹽竈祠下。祠負西山。拾磴百餘級。左右二祠。合宮南向。別祠西向配焉。廟貌輝赫松杉環擁摩霄。庭多鐵燈。西南一座。募藤忠衡所置。鐵善朽蝕。眞者藏祠庫云。祝司藤塚東卿。(元吉)使子知能迎於路。北下鑿巉巖開道。同入法蓮寺登勝畫樓。亦在巖上。俯瞰海上。左山右洲滄波渺然如髮。島嶼棊置夕陽射之。刻露明淨信爲佳矚。余顧伯謙曰。謂之天開畫圖勝畫之名爾不稱也。洗眸閣又巍其上。眺益佳。東下行市。市窮北折游尾島崎。崎對雄島。鹽中尤佳處。比之勝畫更勝。顧秦甫取韻不齋。遂疊湯泉韻。夜宿藤塚氏。東卿吾友前野頤菴之胞弟。而鹽亭翁知明之季子也。姪守雌(知雄)葛西因是之弟子。余嘗知之。頤庵宅今主祝事。偶赴仙府不在。東卿待余甚厚。醫者山本隆甫棊來陪。東卿曰。鄉人荒熊以角抵著稱。年四十退居崎山。崎山在鹽松間。以釣魚爲生。所獲託里人售之鹽松之肆。身不復一出村以死。今十餘年矣。嗚呼彼以搏擊雄一時。其徒崇敬如君父。優游都邑以享安飽之奉。豈不樂哉。而退居幽僻窮約自終。豈有所得於中邪。抑亦有樂於江山而然邪。奇男子也。爲一表出。

廿四。請觀集王書聖敎序碑。々鹽亭翁珍玩。今夢想二十年。展玩乃摹本之佳者。又出示書畫極夥。中多佳者。但精神所注。既在活畫圖中。皆不及記也。東卿懇留。以俟知雄還。余遊意既急不可留。東卿乃命游舫俱出。門外一庫署曰名山藏書。亦鹽亭所遺。不能留玩。東卿導至市中。觀鹽竈釜。用鐵造。凡四口。

其三皆徑四尺八寸。其一徑四尺。相傳爲鹽土翁煮海之釜。或曰。田村公軍中炊器。非是。地與祠得名。皆由鼎釜。類聚國史舒明帝四年奉幣於陸奧國鹽竈神社。則當時是釜既屬祀典。而二百年後田村公。取爲炊器乎。慢褻亦甚。必無是理也。又按佐久間洞巖觀迹聞老志。祠祭鹽土老翁。釜則翁煮海之所須。後以寄神。及元祿中。綱村中將用神祇伯卜部兼連之說。左宮祀武甕槌命。右宮祀經津主命。別宮祀岐神猿田彦命。又創法蓮寺。以宰巫祀。於是本祠之名遂屬三神。而寄神之釜降爲祠中褻器。其辨覈有確據。洞巖名茱。與白石先生交善者。聊又摘錄。遂觀其市。々頗豐盛。凡五百餘家。々置娼以娛客。仙臺封中。唯此置娼。亦屬私竊。借古梁記中十家九酒樓非誕筆。至寺崎上船。東卿使知能。隆甫陪接面別。一棹至籬島。島長四十步橫半之。高可四丈。石身松髮。間以綠篠。翠黃與波相射。謂之籬者。或云以當潮汐之衝。恐非是。鹽神祠距此僅一牛吼。潮退土見。前對尾島碕。後負崎山。東西不過二三百步。古海波未蝕時。蓋以爲祠門外壇也。是浦古又稱千賀。千賀之島一十有八。而籬島尤大。籬外海天空濶。東西一里若二三里。波面澄平如磨銅鏡。右眺東宮濱。餘賀崎。左挹芳津大澤。雁嶺之山。灣崎相代島嶼奔會。聯綴解駁。倏忽變幻。不可方物。亦皆石身松髮之儔。於西山下爲多。餘賀絕處洪波沸白放馬島受之如門。曰追門。門外島嶼數十。絡繹往來如相語如相招以去。放馬島頗大。桂島承之又大。居人百餘家。大氐桂島以北。諸島透迤如連山。南北四五里。外捍溟渤。內抱鹽松。以成一大園池。此其大勢也。初與伯謙。隆甫約。每過佳處。必賞一盞。下物夥多。至是大醉。繫舟乾附島。々近桂島。々腹空洞成石門。伯謙爲余題壁間。以歲月。時風意方好。船行如飛。島嶼山峯一時皆搖。有相從者。有相辭者。有從而不及。遂辭而去者。忽視佛宮比樓於雁嶺下。是爲松島。亦遂辭

而去者。益北。經十餘島。高森山遙峙我右。唐那崎亦引我左。其間滄波吐納。遙見額黃於天末者爲金華山。是松島東北境也。西折傍呼子崎而入富山。老翠穹然當前。泊舟一灣而下。取意上山。得徑路而行小半里。取岐北下曰小泉村。又西行得大路。遵而北。即富山山門也。門內杉檜莽蓊。仰不覩天日。阪道峻急。小半里。渴極得井。汲飲甘洌。余戲目曰雲居井。井上即大仰禪寺。寺雲居禪師所創。扁曰富春山。伯謙導至佛堂。堂前老樹皆伐。其巔俯視一碧萬頃。島嶼可拾。唐那磯青松離々。自山左南出。忽又爲一山。以斗入海。隔海高森山。島中最高處。盤根數里。尤大西曰寶島。西南曰寒澤島。曰納野島。皆島中鉅落。以南接桂島。參錯湧現滄波之所噴噏。脈絡之所起伏。堆岥蹴摺丹壁繡峙。夕陽陸離雲錦萬疊。恍如坐良風臨瑤池觀羣玉之圃也。但鹽釜松島縮在一方。衆美皆伏不見。先遊皆云。松島之奇悉在富山。談何容易也。天晚割愛而下。西行大半里。憩阿寺阪。

南行一里。至高木驛。則天瞑矣。初更投松島道旅。命酌勞三子。伯謙見戸田伯義信所贈詩紡索和。載三子去。

廿五。早起倚樓。望所居正據松島中央。直大堂近峙其左。雄島稍遠峙吾右。中間諸島。曰鷗浦。杉竹交翠。亦近曰德浦。曰經島。曰桂。漸遠亦皆有身松髮。引十餘雛便娟獻秀。沐浴霧露以出。大島大松。小島小松。一一勻稱。朝陽方動萬松皆纏紫金色。丹碧晃耀遠近映發。早潮漸上灣坳浦澱腰脚皆活。眞極造化布置渲染之妙哉。伯義來導余循圃上水莊觀瀾亭。西行小半里。經渡月橋游雄島。島長百餘步廣半之。松島以南二十餘島。是島尤大。以曾見佛故居。四方來葬死者牙骨。島身爲之穿鑿大半。獨有僧賴賢一碑可俱語耳。碑宋僧一山撰。行草書。筆致淸勁鐵法特妙。余行天下。未睹其比。僻地無良工。拓本之行世者。皆模糊不副其眞。可惜也。把不住軒圃茅一間。僧膺坐禪處。與碑相對是間獨無葬塔。松風謖瑟

江山縹渺。極有出塵之想。取舊路東行。游五大堂。島距陸三十餘步。中峙一巖。接以二橋。前橋五步。後橋微短。架上排板。板廣五寸。間亦如之。名曰䉺橋。間豁如䉺然。拾步極危。平洲紀行。謂之洗橋。讀如洗竹之洗。問之伯義不知也。島可二畝餘。中構一殿。即五大堂也。南對福浦島。甚近。潮退船擱不可往。島身比雄島微大。松嶋以北十餘島。以福浦為魁。返北行入瑞巖寺。相傳寺創於承和中。後僧佛身歸自宋居之。今為國主香火院。伯義極稱其中結搆宏麗。余不入。唯探無相窟。窟廣豁三丈。穿石壁而設。蓋佛身定坐處云。與伯義別。取昨路行。自作鹽松游概一篇。

鹽松間七十餘島。離奇變幻其狀不可以一面而定。鹽浦所見如望萬雉麗譙於郭東西。唯見其側列而已。松島則正面矣。所見不大。富山則大矣。然鹽松之奇。蹴入一隅。而松島以北。別闢一境。皆不可兼操並覽也。吾欲建百層樓於桂島上而登眺焉。鹽松之奇富山之大可以並按。擇松島後山最高處。搆十層樓亦可。皆妄想也。放一葉萬頃舟徐進而不覺。左右島嶼奔走緊會。或大乍小或廣乍狹。圓方不定。離合倏忽。此足以驚心悚目娛吾神。而舟子。篙工。確執故常。不從人意。苟能旬月淹留。使人尤老於景物者驅使舟子篙工分日專探。吾願粗畢矣。然鹽松之景四時皆佳。雪時尤勝。此又至妙之妙。俱不可併。則吾之願無了時耳。但顧宇內之大億兆之衆何限。聞鹽松之勝矣。自里閭而至一鄉。自一鄉而至一國。其來游者不過數十人。或至闔國無一人。則余之三日游。亦固優矣。則吾之忘願亦可以已矣。昔會鮮客於津島。吾舉琵湖以告彼。彼乃曰。琵湖之勝吾未得睹。唯以一碧萬頃為勾當法印而已。鹽松之奇吉詩亦云青松蒙丹壁。千百散澄鏡。此亦勾當法印矣。舉以告世之游者及欲游而不能者。

到阿寺坂。鹽松之境皆伏。右行經小野驛石卷可

赴金華山。路險惡往來在五六日外。風潮失候經數日。遂不往左行入山。登頓里餘曰八瀬村。澤行里餘曰鹿島臺。熱甚。又行里餘。頓松山。地頭茂庭周防居之。松山見東鏡文治之役。蓋舊墟也。天熱步困命馬。農事殷不給渡邑角水。蹣跚行二里宿小々田。有山神祠。香火頗盛。奧中處々有山神碑。即延祀是神也。是日行小路廿六里。仙臺以北。三百六十步爲小路一里。小路六里爲大路一里。大路官程也。越河以北用仙臺通寶。肉孔皆方謂之角錢。角讀爲方圓之方。三錢當小錢一。小錢謂之圓錢。酒一升分爲八椀。二椀曰杯。一升當漢量一斗。酒恬力微。擧二椀就眠。戲作韻語。

　客程大路小路。鄉貨方錢圓錢。一斗村醪八椀。三升堪博一眠。

二十六。騎行渡江合川。古風玉造江經流也。經中埣。田尻二驛。三里抵高淸水驛。則官道也。始聞蟬聲。驛今地頭石母田氏居之。山行三里而近。曰築館驛。平行半里。下宮野驛。山行二里澤邊驛。平行半里金成驛。山行一里曰末野。八幡公東征時。賊伏挽强兵十萬處。曰十萬阪。其弓木强少來體。今猶散藏民家。阪北半里有壁驛。一里鬼死骸村。相傳田村公誅賊首處。一里宿一關。田村侯治焉。是日行十二里。自高淸水至此。山行居三之二。山皆東行。山間必有川。田皆膏腴。曰一間。曰二間。曰三間。以達一關。是藤淸衡之所以六郡而雄霸一方也。濟後青招故人佐々木潜菴。々々以本年春月死。是夕宿此者特爲斯人。一別二紀。惟期今夕。而幽明道乖。感悵何言。潜菴名某。別號三折。少游江戶。貧無貲以備書。自給學醫。尤長產科。爲人疎快無畦畝。年五十。

　能書不費紙。善醫不費人。良工刀剖竹。折肱三苦辛。別來經兩紀。寂寞隔音塵。吾來仲夏晚。君逝梅巷晨。踟躕君不見。四更山月新。淸影時明滅。風度如見君。

二十七日早起。渡磐井川。半里抵山目驛。訪磐井郡

正大槻汝弼清臣子縄之兄也。於老友玄澤翁族孫。翁之次子士廣清崇。汝弼壻。佐々木仲澤知芳先在。同飯。與汝弼及二生同游五串溪。々在西山二里。其水出栗駒山。東行十里至此。兩峽側立萬石束之。水勢奔激臨危則瀑。瀑下渟泳洄則潭。々色紺碧。行石間一止一激。小半里始廣。爲磐井水。東流與北上川合。玄澤翁號磐水取於此。文化初。汝弼架飛橋於中以度人。結構特巧。橋以上石壁直竦。如倚萬笏人不可行。橋以下峻巉奇絶。如層巒如疊嶂如屋如象水流其間潭々相接。方者圓者長而橢者屈律者。諸從石勢以成坎止之形。人行石上始能盡其妙。措步極艱或捫壁或據嶺。蝸行蟹步蛙躍而過。南厓崭絶十餘仞。架一閣。亦汝弼所造。地屬猪岡村。渡橋左折十餘步。坐閣以眺。五串之奇在吾一矚。其曰五串者上下五瀑。如串珠然也。時天旱水縮。所見不如數。雨過潦盛激怒旁衝。豈止五串而已。或曰巖石邦語與五串相近故也。置酒里正家以賞餘興。瀑

下獲鱒作鱠甚美。可償龍崎之闕。北行入山。時聞殷雷在地。小半里水涌山間。汝弼云。鑿山潛引五串上流。以溉達谷田。僻地之民能成是鉅功。而上國却無是事者何也。達谷洞高十餘丈。架樓其中。上安毘沙門天數十軀。其一極奇古。樓左石壁上彫釋迦像高二丈。如壁書隱々可觀。洞賊窟田村公殲之。因造是樓或然。洞東有寺。藏古物中有蛇齒極大。値主僧出不及觀東行半里平泉村飲里正家。酒方發酷温藉不甚醉。秉燭山行又半里。同三子宿寂淨坊。坊主名賴通。山繞坊清宜。千光坊秀剛。櫻岡坊義寬來皆火宅僧。濁酒枯魚說平泉盛時娓々可聽。酒闌爲余發路舞歌。路舞僧慈覺於清涼山所見。歸朝後傳於此古調也。別有弱女差女延年京殿四舞。賴通寫路舞譜相送。平泉有中尊毛越二寺。各隸子院十八。毛越久廢。惟存子院。賴通輩皆是。二十八晏起。汝弼有公事與二子還。余與清宜秀剛義寬俱東行。觀毛越廢址閣圓隆寺。即毛越金

堂也。亦廢就一小堂拓文和鐵塔銘。塔唯存其基一層。高二尺五寸圍六尺。銘八十八字。陋不堪讀。以五百年物聊存之。經金鷄山。山高八九仭。相傳藤基衡所築成。用漆萬盞銅黄金一億。藏其中埋金造雞、双鎮之。蓋子孫謀也。童謠云。朝日輝夕日赫。漆萬盞黄金億。

朝日煌々夕日輝。金雞築成小匣巖。連天樓閣黯然沒。緑樹陰森哭子規。

高舘址一名判官舘。與金雞對峙在驛道東。所謂衣川舘也。地高敞。北上川經其東下。水東一里曰東稻山。一名長部山。高可一里。安倍賴時植櫻滿山後百餘年。僧圓位以吉野為比。其盛可想。今否也。謁源豫州祠堂。々在高舘北隅。天和中。郡宮河東田定恒所建極小、中置豫州塑像。亦寶曆中造。是公狼狽來依秀衡。秀衡居之於此。其將死戒五子以奉公。泰衡不肯逹命殘之。忽取滅亡可歎也。義宣嚢布荆開對酒肉雜陳連飲數蝶。頓醉得數詩。

蓋也英難兄弟難。恩情豈是比曹瞞。頭顱苟識行千里。不向他人託膽肝。

遼東千里公孫展。睥睨袁劉漢季時。乃公當日無相似。但作源公行覇資。

銀盤棒出淋漓血。老將貽謀全一州。五子不能當璧拜。民人猶自恨遺籌。

秀衡五子獨忠衡為材。餘皆豚犬耳。渠能廢泰衡立忠衡。必能不墜遺業。是所以有遺籌之嘆也。三衡之據此皆為柳御所。淸衡。基衡居之。曰加羅樂御所。秀衡居之。俱在高舘東南。今皆不可的知。

何事雄心擬帝宸。九十九年洲乾坤　野花淵草不知際。猶是當年佳麗魂。

與淸宣、義寛分路。秀剛送至中尊寺東谷坊而去。官道如髪。衣關古址在高舘北下。櫻川自西而來。中尊寺在官道左。距高舘小半里。東谷坊名秀榮。澤翁記中所云。火宅僧某孫也。迎入辨慶堂。立像長六尺擐甲戴烏帽杖偃月刀。面灰色悲壯如生。堂藏盔

井六郎笈一。高三尺深減三之一。三層六扇。彫山茶花竹鶴。古色可掬。兩邊菱紋中貼金木瓜各三片。閣八郎笈一。六扇皆彫雷紋。紅薔薇二枝極巧。俱所謂鎌倉彫也。出就鐘樓。掛康永銘。凡鐘龍首鈕。此唯以鐵鉤接架。銘陽文左近將監平親家。及大將沙彌義慶所置。金色堂即光堂也。方一丈八尺。內置三木壇。々下葬清衡基衡秀衡。上羅列佛像。猥多可厭。堂內皆塗金錯用鈿玉。所謂七寶莊嚴者。今皆剝落。唯時見鈿螺耳。堂覆以茅屋。四面用板擁之。永應年中北條貞時所為。中雖剝落外搆完全。至六百年之久者以此。余嘗謂碑用亭者耐久。古祠廟如菟道鳳凰堂金澤藥堂。皆可依此法。作複屋覆之。藏經堂東北十餘步。宏深粗同。藏一切經二部。其一紺紙金銀交行書。清衡集衆僧以八年功成。其一紺紙銀書。基衡造。為宋板。皆不全。相傳關白秀次征南部日。借每部各數百卷去。無幾罪死。其本遂散不還。守者不謹。又往々為人竊去。今所存僅々百一。守僧吹

塵今不復肯示人。取每部一卷示首五六行耳。池中天姥祠在經藏東。藏最勝王經曼多羅十幅。紺紙蠅頭金書寫。每卷全文。作十層塔勢。每幅四邊悉圖其卷中事。衆彩合成超妙不可思議。間以行筆文能稱之。平生所見。唯覺天王寺細字法華經。可相伯仲耳。吾眼福蓋未艾也。東北行百餘步。觀樞杉圍四丈八尺。今存其株。有異香。靈元上皇賜名千世云。俯見琵琶柵衣川柵。衣川自西而來注北上川。豫州部下戰沒處。皆在此左右。衣川村延曆時。撻伐之師駐此。爾後安倍氏據此上流。及亘理權太藤清衡。受荒川氏後領六郡。(伊澤。加美。江刺。志波。稗枝。磐手凡六郡)移居平泉。祖孫三世承襲。開拓遂併吞二州。兵馬十七萬。屹為東方大鎮。今則荊榛蕪沒。欲求當年舊蹤茫不可辨。傷古之感係之。與秀榮飲別衣川酒家。是行止此矣。直路二里。昏黑歸宿汝弼氏。

二十九小盡。曉雨。汝弼見留。余以歸期告乃設酒。々間求余字。漫揮平泉詩。義寬師來謝昨游。汝弼又

請五串溪橋記。諾而別。雨歇。沿路閱正法寺研。皆拙彫不用。距此七里不能往。歸至一關。書悲潜庵詩託逆旅致之其家。畧路被酒倦甚。秦輔扶之。乃行到鬼死骸村。戲詩揆眠

吾身墜荒裔耳目官擕驚。蛇齒長過咫。（用廿七日事）鬼骸村有名客子面置苦。畏途難爲情吾轅今可返西月傍東瀛。

又眠。到十萬坂。秦轉求詩又覺。

將軍受詔明光殿旌旆悠々屯木幡。十萬健兒挽強弩。天才一閃雨雲奔。

思詩以行。又得二首。

奥東六月杜鵑花。花落杜鵑日夜悲。汝自無家猶勸客不如歸去信良規。

連山幾隊東趨海。列樹兩行西上天。霸府超々千里外歸家幸及月方圓

日入。至金成驛。忽憶安藤子溫之言。謁驛八幡宮。々八幡公所建。扣主祀淸淨院。院主許出示舊藏諸物。中有八幡公甲冑。昏黑路遠謝去。

六月丁卯朔。發金成驛至高淸水驛。自此至仙臺皆生路也。憩荒家驛。々以南地勢坦平。水田數十里。東西不知其際。暑熱如焚。四面插秧如上國五月時。風土之異可想。渡江合川。雨至、古川驛極繁盛。北方未見其比。雨晴渡中瀨川。乃松山驛中官角渡上流也。比江合大二倍。二流皆有運舟以達石卷縣。晚宿吉岡驛。地頭伊木某居之。此日行大路十四里。

二日微雨。䭾馬而行七森左右。一名七疑峯。々々特起。舒縮隱見數步異狀。山皆老樹遠望如畫所謂九疑繽兮並迎。靈之來兮。如雲惠亦是領。二里而近富谷驛一名新町。又二里七北田驛。昨自荒家南望天如漆黑。雷殷々然是間凍雨傾注。疾風折樹雷震仙府。由行經宮令原仙府刑場也。至堤町仙府北鄙也。西行入府牢里。折而南又半里餘。投國分街舊僑。子繩使姪眞夫迎。日暮往逐宿。剪燭對牀。回憶與

子繩在學時。今二十五年恍如隔世。子繩顯拔道行一方。余則退休放浪。以遂麋鹿之性。趣向雖異。惟老蒼之態則同耳。夜漏將盡。假寐一覺。則辰刻矣。

三日。天黯欲雨。伯謙來。與子繩語修學事。子繩登庸權府學頭。上議修學。八年而成。事異舊貫。其號雖修實則創建也。新置學田壹萬二千石。屬員百餘人。事皆決取於子繩云。過月子繩具劄白予來。國主命允觀新學。是日子繩入學延余。學地凡一萬區。門西向極壯。入門演武場在南。北行則學也。延入東序從子繩遍觀學中。中室容五十席。取象四面一室各容四十席。取象四時。四維有室以引天明。外面々各三室。每室容三十席。取象十二月。月各卅日。四隅一室。室各容十八席。取象土王。繞以四序。每方深九尺長二十五步。各容七十二席。外緣以木闌。凡為室二十有五。為席九百四十有二。方二十七步。積七百二十九區。深沈明達取象河洛。無一處無法象。而學校庠序之制備矣。又別創二宇。々各容百席。為子弟臨書處。學頭之居・學房府庫。又各有方所。不能徧歷也。觀畢復東序坐定。府侯命子繩賜宴頗優渥。子繩曰。東序寡君養老處。今學新成。宴子於此。是亦東序養老之始也。諸學官交來侑余。盡醉而退。秦輔亦沽醉歸僑。作札謝恩子繩。雨益至。伯謙為整行李。附驛遞。辭去。

四日。雨發仙臺。踰至巖沼。舊路也。增田驛有岐實方墓路。以雨故亦止。謁竹駒祠。逢隈古讀為阿武隈。後人去隈讀為猛熊。展轉失訛。遂為竹駒也。祠在驛南西入處。祠前北行。西折觀武隈松。如五六十年物。據寶曆中赤水記行。以為五百年外物。可疑自祠前就東道。所謂相馬路也。左折小半里。渡阿隈川。雨後水漲。川身渺然。底皆平沙。用竹竿行舟。深處僅及丈耳。河上烏帽山積翠欲滴。今就東道來時所見。以是山為限。行至亘理。猶時隱見如送余行者。南行二里。經宰坊。凡三。仙臺封中坊隨在皆有。或三家。或三四十家。以一宰長領之。蓋亦古

農兵之道。亘理驛仙臺宗室伊達藤五所居。仙臺封中有十八地頭。是其魁首。又有小地頭三十餘首云。驛長半里而遠。又二里山下驛。々前後栽楮滿野。仙臺至岩沼沿大道如弦。五里而近。左右皆水田。逢隈以南至山下驛亦然。自此入山間。一里而遠。曰坂本驛。僅二十餘家。蕭淡如窮山。始食麥飯。亘理以南畜鷹以爲娛云。

五日雨。上大森坂。海波茫々。晴日可望金華山。方晴望之甚遠。將雨甚近。土人以候雨陽云。二里新地驛雨晴。騎行路由空。今泉浦鹽田頗有畫致。頓駒峯驛仙臺南境也。驛前蓮塘方華。紅白相映。赤水記行云。有關誰何今否也。驛南小屋有架一鍾於簷端者豈此耶。海上之觀富佳。山行纔推木。大坪二村。一里而遠曰富井驛。推木以南屬中村城主相馬侯封。半里而近曰中村。即侯所治。々下修整小半里。關邑東有腹竈浦。往境也。不能往。三里而近曰鹿島驛。登降時望海山。又一里餘宿原町驛。所謂相馬牧北口也。

六日晴。驛南有門。出則平野。東西二里餘。南二十八町。四面築防以禦風逸。牧南曰太田。又有門道貫牧而行。牧馬二三千。予所睹一群三四百。蒼黃彤白淺斑駁。或吃或踶或奔逸。或隨逐或臥或起。爛如雲霞絕觀也。每歲五月仲中侯新校士馬。戎服結陳。擊部曲節旗鼓。一東西分隊驅牧馬。南赴小高驛妙見祠下。捕其往者以充神馭。明日復放之舊處。名曰放生。聞侯之先曰平良兼。居總之相馬郡。郡有金原牧。子孫徙居小高故城。驅牧馬畜於此。數百年未嘗捕一馬供國用。曰是妙見神使也。執用必祟寔譴。守養惟謹。然牧地空濶。看防不及。往々爲豺狼所食。故不甚蕃息云。夫馬生於野。用於人。華夏蠻貊古今以爲不可易。而鬼神無形。未嘗聞以馬爲馭者。且神禍人故人事之甚謹。今人爲神養馬荷神。神人何不自取其一二以爲己馭。而以其餘與人以報其看防之德乎。然則神不吝於馬。而

人以神咎之者。非妄則惑也。神果咎之。彼豺狼者。有何德於神而穫食神之所咎而神不之責也堂々列國與華夏列辟。同其會朝而鎮々算頭爲鏝鎔所不爲者何也。一里小高驛々東老杉爲林所出妙見祠而侯之先居之祠中有往泉能治打撲傷亦不及往。由行眺望甚快二里餘浪江驛々舊名高野以其屢罹火改今名是十四五年前事。然亦屢焚云。二里而遠曰長家驛。無宿頓處驛外新山村得小店食道旁所饋摶飯。由行里餘半行一里熊川驛。出驛小半里有一水々北相馬氏南境也水南寺西代官所管由行里餘富岡驛可頓宿。秦輔欲宿木戶驛遂行由行一里益上益急顧望相馬封內南北十六七里瞭在目中。其封西愈遠由入仙道。東邊一帶繞海北自推木村。（東西二里）其在山西者不可概見。熊川。亦然）南至熊川。（東西五六里）幅幀大小可知也地荒蕪人理鮮少頃段井竈儼然皆爲墟落。所在相望天明初年東北荐饑封君往々不能振救而相馬氏爲尤甚老弱轉死少壯散亡戶口失其大半二十餘年猶未能復也路東出忽又西折日重岡村。由路益險此行未曾有也由下村日北田有釀家以爲木戶則未也。又經小山有川清驛。舟之昏暮始達是日行十二里餘余騎行二里而遙秦轉皆步又且代余持雄刀。其健可驚

七日晴發木戶驛踰一山々南觀音嵓甚奇高八九丈中成五横紋々如彈壽有瀑懸焉嵓前又有一嵓高五六丈淵十之中亦有一横紋有池滴焉一里廣野驛出驛遵海而行。東南一碧。西北則奇嵓爭峙洪濤捲雪沙磧皆成錦文。途窮入山踰一石門其村曰末續。又踰一山其驛曰久野濱々海之村曰横打曰江網皆間以山山盡則四倉驛人家四百餘烟漁鹽之利爲近郡最焉訪鈴木某仲遷弟也。値出託與仲遷書而去。門外遙見西山斗入海曰野間內。殆如生麥村望本牧岬佳矚也右折經仁井田細谷二村。見擔松魚者。士人以爲新味。赤

井山在西南二里外。山頂有寺。夜見陰火發海渡
夏井川。朝山陸續數十炷火不太明。唯在寺前燒香
上見之 亦不及往。歷壁原村渡夏井川 平城東
郭也。距四倉三里而遠 平城係岩城侯舊封。後移
封於羽之龜田。後數易主 今則安藤侯治焉 郭門有
尼子橋。長百步。架水田上。下詳其田。或曰暴雨暴
集。行旅不通 有德尼者創造之 德尼相傳八幡公
孌女。嫁岩城氏者 平行二里宿湯本驛。驛無井水
發地皆湯 故家々設槽待容 湯淺而微熱 有硫氣
色清徹 浴數次戲寢 是日行九里而遠
八日晴 曉來又浴 湯根於驛西湯岳 岳降然如覆
舟。上有三大石。其狀類箱 國風三箱湯即此 出驛
左行二里可至古那。古那寺爾代官所治也 右行
里歷湯長谷。內藤侯治焉 踰八板坂 坂嶮石開道
頗爲險要 阪以南係本多侯封 經新田驛。遙見叢
杉於道左。曰泉 本田侯治焉 是間野關田治 豈故相
澤猶在耶 驛南登松坂 路犖确 所眺差濶丘阜間多

梯田。曰野添村二一里頃植田驛 川田鮫水一里關田
驛 驛盡浦田。菊田 左海右山半里餘 潮退處沙痕演
漾自然成文 頗甚寥寂 山水特妙 北望古那小濱
一石開諸落 崎□錯落如綺繡 南則平瀉之背 峠壁屛
顏甚松蘿奇 隔浦相峙雲霞腰縺 頃刻百變亦是行所
希觀焉。買導游勿來關趾。自浦南就山入 有門
々內尺天丈地 三十餘丈。兩壁高五十尺。以爲古關
存也 門西亂山簇擁 右取一徑北上數百步 海天一
碧左右所眺 其浦中益妙 吾所居亂山起伏 皆茅
榛 海風披拂不能超秀 地往々破裂 黃白色審視皆
石也 左右方斜隨手成片 片皆成木理 蓋櫻樹所
化 中含玉氣 是關古多櫻樹 八幡公東征之詠可
徵 吹風毛勿來乃關豈思志耳道毛勢佐久山櫻哉
歲久山漸生金玉氣木氣漸衰遂化爲石 凡天下有
鑛處 其山大氐皆童 土石多黃白色 如半田銀山 是
也 此亦無然耶。導者指山陰曰是關趾也 向者石門
以其路崩塞而改開耳。還復出石門。南行數百步。忽

入一洞深四十弓。出則古古津羅村。山間自成聚落。属奥州境。有棚倉城主税商所。又一洞如前洞。有長窪赤水洞門碑。立原翠軒書。前宍戸領主太玄老侯題額。銘後倣多賀城碑。記遠近路程。地曰里浦。属常州境内。比前頗富。其庫藏皆鑿石壁而成。更入一洞。々中望見臨海樓閣。人物往來服飾都雅殆似別境。三洞高二十尺濶稱之。入逆旅坐樓而眺。前港可碇海舶百餘艘。蓋東海佳境也。右崖二山黄壁戴松。左崖二山亦同。右見正面左側面。々々嶄絶如破緑沈瓜。側立狀高各十餘丈。神佛閣其上。前浦所眺古那岩間諸岬。遙崎其間。海色深紺。洲渚捲雪。比之松嶋細潤則不足。至其壯觀亦彼所無也。夜飲市樓。酒醇魚鮮。亦足慰旅况。

九日晴。朝起觀出日於樓正面。所謂日升扶桑也。又登後山。爲第三洞之嶺。寺曰華藏。一埠内外悉見。右崖斗海曰八大叢。左崖在洞北曰秋葉。置八幡祠。頗宏麗。正南一山中峙。人家環之。凡五百戸。賦亦五百碇舶之税不與焉。辰刻發西行坊間。又有棚倉税所。坊盡而石門。如勿來關趾。小山簇擁亦似。半里栗野村。自勿來石門直路至此。爲官程。其自平潟者間道而遠。但趁利者探勝者故意來耳。一里神岡驛。傍海而行。右山聯絡。似播之一谷。海面一石孤山似相之繪嶋而小。自此以西属水戸府境。過磯原・臼庭二村。渡大北川。川西小站栽松。遶屋稠密而秀。海風櫛之。自磯原望之。狀類石門。經櫻井村・足洗驛・小野・矢指一村・赤濱村。赤濱赤水翁郷里也。里人云。翁死其子不構。圖書皆散。悵惋而過。經高戸村。見麗譙於北山下。曰松岡城。國老中山君所居。高萩・荒川二驛相接。自神岡以西。往々沙路。至此忽行高地一里。伊師町驛。經川尻・折笠二村。水田百頃。山擁三面。滄波渺然入之二里。小木津驛。歷田尻・滑川・宮田三村。宿助川驛。是間一登一降。雖極勞頓。比於高萩以東。沙路兩歩退一歩。良適。是日暑路不能記行程也。新月奇明。涼飈滿檐。一快也。

十日曉發。騎行經成澤・油繩子二村。一里下孫驛。始觀海日。驛西山腹斷巖陸續如女墻。一里森山驛。驛西大美加村有石神祠。巨石磊起壯甚。祠東南數百步伏水迸湧出。泉川佳處也。不及往。降石那坂。西南曠平千里。山圍始解。心目暢然。抵大橋驛。取岐西北行。經杉目・岡田・渡多三村。憩太田。太田水府下邑也。東行經馬場・小里二村。一里登瑞龍山。私謁府公七世陵墓。墓一世一域。云夫人同域異壙。凡公墓馬鬣封。凡夫人土壇頭。封俱堊土塗。歲修之。云夫人皆書爵官謚號。域方六七步。繚以石欄。古不修墓。今皆堊土塗。歲修之。不詳所據。豈明季之制。而朱文恭從之耶。文恭墓在公墓間。亦土壇頭封。碣面題明徵士朱子墓。環刻墓誌。門人安積澹泊撰文。舊例墓誌納之壙中。五品以上用碑。以下用碣。又其下用墓也。澹泊以擴文揭之墓道。豈亦有所尋乎。守墓一員。用士大夫致仕者任之。勤番士七人。守門十四人。皆士著。陵墓皆在松林中。翠陰交加。頓忘溽暑。

歸路又淸駛。迎人快甚。

檀香一辦為徵君。客裏無由薦藻蘋。一路淸風似流水。瑞龍山下謁歸人。

還至太田。欲觀西山。取意西北。從田隴而行。經一圯。曰桃源橋。橋西桃樹滿村。巨碑樹路左。田中水戶支封黃龍原公所建。西山碑也。人家布置參差有趣。曰新宿。蓋所謂桃原村也。休路傍民屋。老嫗二三人對話桑麻。視余輩進茶。茶頗佳。指示西山。猶能道義公時事。頓忘旅困。夾村南北有山。山不甚高。南山連絡為數岑。北山一條。有如大防。兩山間田數百畝。稻菽如罫。皆公當日所耕處云。緣北山而行。山窮處有下馬牌。又入十餘步。喬木離立。淸颸騷屑。間徒下乘牌。二牌蓋後來所建。恐公不必為也。牌後有一衡門。々內十步。地勢稍高。橫木為磴。上構草門。此公菟裘地。所謂西山隱居也。其西山者。以北山繼續與南山相接。而是居適在南北間也。門內廣不滿千步。殿宇約居二十之一。客歲八月誤罹災。今

唯遺柱礎耳。寢室方一丈二尺。內庫在西。女侍房在北。俱與寢室同度。書齋在南。長九尺。濶減三分之一。正寢長二丈四尺。濶半之。在寢室東三步。以廊接之。廳事下以竹爲縣門。不屋。門下有池。々上之山紅楓櫻松間錯。皆十圍以上。安排之巧不妨風月。正寢之南有流渠。源自前山西。其來甚微。傍渠而西。有一小庫。以堊塗。故免災。庫前銀杏樹頗大。庫北踰山有茶園。亦公所親採也。公之致位肅公而老於此也。躬耕山田。意欲與凡民伍也。其歲小祲。封內不登。民皆請吏檢稻。公亦引吏檢其熟。吏欲媚公。曰田大熟。科如常歲。公怒曰。民之請吏。欲以歲儉薄其租耳。今吏科如常歲。何以堪焉。吏恐惶。是歲封內三十萬石。減科數等。仁人之言其利溥哉。然以宗藩大老下與凡民伍。固非小人所能知。而儉薄己甚。不可訓。此或賢者之過也耶。出門踰南山。松杉蓊蔚三四百步。入山之寺。其伽藍結構雄傑可驚。蓋公爲大夫人造。又有日蓮宗講學所。以藩主優給香積。四方來萃者甚衆。北行有榜長署曰開會道場。是爲山之大門。還休太田。太田戶千餘頗殷盛。有東西坊。各三衢。經礒部川井二村。渡久慈川。二里宿額田驛。距府城三里而遙

十一日晴。二里抵田彥驛。與官道自大橋驛者合。一里渡那珂河。常中亘淺也。水戶府城佐竹侯舊築也。有上下二道。上道自府城西北。下道自東南。商賈皆居下道。余從下道。坊衢齊整。百貨皆集。府城北帶那珂河。南阻仙波湖。高敞博大。信佳城也。二里長岡驛。與上道合。坦途著行。倦甚。屢爲叅輔所先。路傍一店老姥交蔭。淳三杯。假寐快極。醒則叅輔去遠。追及驛亭。歷小幡奥谷西鄉地數驛。水府封疆盡此。至片倉驛。足痛甚。驛長平本某授一法。旅行將發用鹽一匕塗鞋面。晚又塗鹽脚板。向火烘乾極効。余有治兩股摩傷方。飲沙糖湯一杯即愈。舉以謝驛長。騎行抵竹原驛。日暝矣。入夜月色甚佳。初更宿府中驛。水戶支封播摩侯邑焉。古城趾在邑北小

半里。宿曰江原。

十二陰。主人晏起。日出方發。二里有吉驛。一里中貫驛。驛距築波麓五里。紫翠衆鬟。八一里土浦沿。沿東間部坂俯視霞浦湖於林際渺瀰無際舟行十八里可抵鹿嶋祠。是行欲兼履築波嶺。汎霞浦。謁佐倉以歸以心期旣迫遂止土浦沿東西可半里地卑濕以漕運通便頗亦殷富一里中貫驛一里荒川驛驛西地高野荒。不知其際。西望墨雲如立壁。灰雲行雨傾注河漢壯觀也二里牛久驛山口侯邑焉。一里若芝驛田野忽開曠藤代驛驛隷土浦。涌米田。小泉二村。常總界於是。此間水田無際溝渠交通以雨故渠流盈溢稻田平滿道之不沒者尺寸耳今加一尺寸。則淹沒矣稻田之仰甘雨猶飢渴於食飲。天下皆是此則不然是亦富貴溺人之猶耳經吉田村。地微高。有大防是爲刀禰虹堤。雨愈甚雨衣透濕渾身濕徹昏宿取手驛。是日行十二里。

十三東南風又雨黎明渡刀禰河。々身濶大太郎之稱不虛。青山村水府放鷹地墟落頗大二里而近曰安孫子驛騎行歷小金牧觀群馬二里而遠曰小金驛。歷二次。馬橋。中根。本郷。花嶋。竹花。根本七村。二里而近。曰松戸驛渡刀禰經流有關。歷新田金町二村。一里而遠曰新宿驛至世繼村買小舟。行溝中一里而近曰長浦。松戸以西皆近郊余始經之日晡飲吾妻酒樓以自勞也醉後坐舟而下黃昏抵家

讀書餘適　　飫肥　安井衡著

明人謝肇淛云、讀未曾見之書。歷未曾到之山水。如獲至寶嘗異味。一段奇快難以語人。是先獲我心矣。予生長西鄙。山水其素也。自後居於都五年。足跡未嘗出郊門。於未見之書粗窺一斑。而湫隘之巷日無寸碧。不能無籠鳥想雲之戀。今茲壬寅四月。忽思鹽松之遊。上請不允。六月念五。公告暇就國。又申前請賜六十日暇。藩人河添原泉。學於古賀氏。舊與予往來。聞之請俱。遂約同行。七月朔。諸友來別。原泉就予而宿。以路便也。

二日晴。蓐食而發。衣物文具。裝爲裲襠。戴笠伏使出門。便有登仙之概。發江戶。歷會津米澤。從山形至仙臺。文略。

二十五日。發川崎驛。歷數驛。渡廣瀨川圯橋。是爲仙臺南郭。始見瓦屋。行一里宿國分街。始食海鮮。

二十六日。遊愛宕郎及瑞鳳寺。文略

二十七日。雨。文略。

二十八日、余早起。疾呼曰晴矣、松島可遊。皆蹶然而起、蓐食而發。少焉雲自北靄然四合、雨復從而至矣。千里之行惟爲此遊。夙志將償、而天又厄之、可恨也。然勢不可已。決意而前、便路過躑躅岡。櫻樹百餘章、皆七八十年物、花晨可想。東十餘町曰宮城野。古者以胡子花名。國風所詠。粗本萩者是也。至則杳無影響。惟亂草間虫聽唧々。聊洗我耳而已。又東曰燕澤。有碑文四行。字多省畫。篆籀雜出。土人謂之蒙古碑。按、史元世祖忽必烈、已蕩平海西。狡焉思闚東垓。數修聘於我。不報。文永十一年冬、元人寇邊。擊却之。餌而諜知我俗信浮屠教、遣禪僧來間。而終不能得要領。弘安四年、忽必烈遣其將范文虎等大舉侵筑紫。神風簸蕩賊軍覆沒。我兵乘機奮擊大敗之平戶島。捕獲三萬人。赦于閩、莫青、吳萬三人遣歸。是碑之建在明年陽中陰以弔其敗也。然恐我覺其間。故模糊其辭、闕略其字。而又置之僻遠之境。其志可憫。而其情可憎矣。謙倉圓覺寺開祖

曰佛光胡僧也　世傳以爲是碑戒師。不知所云里末淸俊者豈其徒弟耶　抑佛光俗姓里末。因追記之以避禍且以寓其志也　文獻不足書以質後人。多賀城址在燕澤東一里。其碑西向　額題一西字。東不背京師也。首置多賀城三字。其文則記京與四至里數。及城所築修寶字六年十二月一日。惠美朝獦建焉。朝獦押勝二子。天平寶字四年爲東海節度使。任終歸京。八年押勝與弓削道鏡爭寵、欲陷上皇而誅道鏡。事露伏誅。其人蓋不足言也。然是碑所記　當時形勢制度略可得而尋　文之不可以已也如此　水戸赤水氏求之里數而不得其說。強生疑竇曰。多賀城在膽澤郡。今所稱鎭守府是也、其蓋碑埋於北郡千引明神祠土中。此則多賀城內碑耳。不知何年移此、於此昧者不察　從而和之　遂謂此其西門碑亦當有東門內碑而今亡之。不知當時邊壤負海起桃生郡（天平寶字元年詔曰。　其有不孝不恭。不友、不順者。配陸奧桃生郡。出羽小勝。以

淸風俗亦捍邊防西經玉造。紀古佐美上書曰。從玉造塞至衣川營行程四日。既謂之塞爲壘可知矣　以達出羽小勝。今作雄勝。　天平九年丁丑春正月廿二日　詔遣持節大使藤原麻呂　副使佐伯豐人等於陸奧征男勝村通路於出羽柵。及寶字元年詔既見於上。　按小男雄邦蓋並通。從是以北棄爲夷境。至延曆二十年詔遣坂上將軍討田谷窟蝦夷。大戰神樂岡。射殺其酋高麻呂。斬惡路王。膽澤道在田谷窟北。是以明年始能城之　配丁壯四千人以戍之。其外爲鎭守府。蓋在弘仁三年　源顯家上書。弘仁三年特下勅符建鎭守府藤原淸商傳任鎭守府將軍自江刺豐田移岩井郡平泉。按江刺在膽澤郡之東。蓋古者以北神河爲郡界。故鎭守府在膽澤。是時江刺既跨在河西。因屬江刺郡乎再考　當時膽澤正爲賊巢。安得有多賀城哉。其尤昭々者。延曆八年。坂東兵會多賀城北征蝦夷。數月始能渡衣川。在膽澤之南。多賀果在膽澤北行會師於是。然後南渡

衣川而所討之蝦夷則仍在北邊。有此理乎。如里數不吻合。余於制度得之。是時押勝決朝政。官名紀年盡效唐制。(天下勝寶七年改年爲載。天平寶字二年改易官制。)則度量權衡亦必改之。今據唐尺推之。其一里當我四丁四十八歩弱。則去京一千五百里。即今二百里弱。(時都寧樂。)去常陸國界四百十二里。即今五十四里二十町強。去蝦夷國界百二十里。即今十六里弱。(蝦夷國指玉造以北而言。)大低與今程合。其有小出入者。乃州境盈縮。道路變遷所致。可以勿論矣。獨去下毛國界二百七十四里。當今三十六里十五町強。爲道太近。然是時廢石城國。併之陸奥。廢石背國。併之下毛。(延暦四年大伴家持上書。名取以南一十四郡。僻在山野。去塞懸遠。屬有徵發。不及機會。由是權置多賀。階上二郡。募集百姓。充實於國府。防禦於東西。然徒有開設之名。未命統領之官。衆願望無所繫心。請建爲郡。備置官員。則民知統攝。賊絶窺覦。許之。按一十四郡。雖不擧其名。然據是碑及承和七年陸奥國岩城雄公有功軍事之言。當時岩城國既廢。名取以南率海以達勿來關。其郡數適十四。則併之本州也。)石城國既廢。則石背國之廢。亦必在是時矣。而家持疏不計其郡。是碑亦云々。則當時併之下毛也。雖史無明文。亦理之可得而推者。毛與之界。蓋有安積信夫之間。則亦無不吻合矣。赤水專考地理而不求之史乘。故謬誤至此耳。所可疑弘仁三年始置鎮守府。故先是鎮奥士者。皆稱鎮守將軍。而碑斷則東人。朝獦並有府字。豈押勝改官制時。亦加府字。而朝臣推及之東人耶。碑云。城築於神龜元年。蝦夷反殺大掾佐伯小屋麻呂。詔遣藤原宇合將兵三萬討之。東人從焉。本傳云。東人建議。築多賀城防遏蝦夷。乃其事也。時東人未爲鎮守將軍。碑則擧其極官耳。碑文世多有。今不贅焉。至鹽竈市約略三百戸。妓館居半。神居小丘上。祠宇宏麗。祭用雅樂。巫祝雚方肄五常樂。響鏘可聽。下觀鹽釜。凡

四口、經四尺八寸、深五寸餘。紫黑色。每年七夕前夜祭而易水、相傳神所用以烹鹽也。土人則云、初有七口、其三沈于海、釜淵是也。或云、凡六、一沈于釜淵。一埋釜田。要之蘋人皷說。無足辨論。然今所存寶爲古物。惟黃赤色者、制質皆異、恐屬後人贗造。也。未牌乘舟於鹽灶之浦、天亦適晴、鼎面六七町。兩山起伏、灣巒互出、赤松生焉、海風所盪、皆爲異體。隨東隨灟境亦隨途焉。凡半里左得漁島、鹽灶在此隔千賀浦也。左大臣融之觀風也、設宴於漁島、以賞月、以故其名特顯。島以東爲松島、有濱始斷。遙見外洋、爲羽柴崎、其東則南海島、外洋諸島走於其間。巨者、小者、丘者、聳者、穹隆者、凹而廣者、凸而狹者、巨細相提攜者、倏忽轉換、如觀過門之客、凡十有五。舟子一々指名之、而蘭不具、文人可恨也。舟途進外島皆伏而不見、前面忽得一奇島、如日本昂首而顧、日裸島。凡松島東西五里、南北半之。有三大島、以限外洋、其內小島有八十有八。其處外者幾倍之。皆

石身而松衣、獨是島不生寸草。故冒是名。遂有不孝爲裸之諺可笑也。又一奇島偃臥于右、有巨孔軌、闊丈、其上穹隆爲輪者、宛然架橋、日架橋島。青海島亦斷復見、外島前者居半。而勢面又變。或先見而後伏、或後出而先退、遠近交錯紛如、并凡員一大活畫哉。衆島復伏海面、途淵無足觀者、名日海原。時應接既繁、口饑欲食、傍八絕叫。曰奇島出於左矣。吁府而視、前第一島爲笠輪形、如其名、有特怪麗、次爲青島、高而平、乃有山枝、上者淺草上松樹扶疎、那君遊覽矣、無於此、次則鞍架、次則籠。皆因胃得名、形亦粗肖。既而衆島群湧、不可名狀。左右互出、前後相映。乃與中最勝處也。一轉達岸投宿、時日將沒。遠呼自登樓、至瞑無所見而後休。夜海鳴、雨兆也。廿九日陰、游瑞巖寺、入門、行杉一町餘、子院夾之左右各六、堂宇壯麗、楹彫桷丹。多名書畫。又有藩祖貞山公之肖。開之即一日勝者、前日觀月崎、有邦君觀瀾之亭。貴公賜宴樂之觀、以作之麗不可言。皆

以無導不觀焉、牽諸而西渡一橋曰雄島。（或作御島。）有廟庵三字。碑尤多。牽誹歌者流所為、唯賴賢一碑書法遒美、文亦雅淡可誦、聊為雄島吐氣、宋僧一山所書也。惜為海風潮雨所剝蝕。字畫漸漫又數年則沒字碑矣。或依蕭碑法作屋以覆之、猶可其無保護悠々世路、誰為此閒事以惠後世者可慨也已、還觀五大堂。連架二橋。橫五寸板於梁上空亦如之、俯見海潮使人發悸、堂不甚壯。相傳藤原秀衡所創。以祈五子之福也。豈前知其敗。而不可奈何。姑俟外鬼以冀萬一邪、然秀衡之豪富祈寵子之福、而其規模止此、古今奢儉之度可以概見矣、亦多碑人之好名往々乃爾、然石猶未若身之與名同歸乎盡、無復終讀其文者、則亦何所益哉、松島赴富山舟行尤便、是日陰、慮蓬底無所見。遂取旱路行一里餘右折達麓、寺在山胸入門南面群島聚於下。長者龍臥、高者虎踞、簇々乎群羊之相將、奮乎兩猊之相鬪。或父坐而兒拜、或主顧而奴走、昨日所覩以為一丘島者、渙然四散、峙而為數島。奇態異狀不可勝數。而山嘴斗入於奥者分為數枝水灣。其間如鏡如玦如菱芡其半。布置之妙、有巧畫不能狀者。既而乍晴、則甲滅而乙生、丙濃而丁淡、呼吸之間變幻萬狀。少焉風蓬然而起、濕雲離飛則全然復出、松島之勝蓋盡於此矣、雨之功亦偉哉、或曰月更勝、乃又曰未如雪之為最可賞、是二者固不能無望焉、然余滋矣、西土之人求之吾州。其能與是觀者其與有幾、余獨何人冐此盛寵而雨奇晴好又兩收之、則雪日之念亦可以已矣、忽憶先君子性好游、尤眷々於松島。然少孤貧長為微官所羈、嘗一役江戶一學京師。療日於筑而洗痾於隅。此外未嘗出州境。凡有事涉松島者。陋記俗乘必終讀之、暇則撒米於盆聚而為形、曰此為某島。此為某灣。未知能相肖否也、今世天幸得略窮其勝。筆雖不能文而心能記之手畫口陳悉其梗概。其歡必有如目觀者。而皇天罔極無所歸訴悽

然久之自山後復出官道。沿鳴瀨河而東 多丘木塔高丈餘 面書佛語尾云爲中西饑死。見一老父而問之 曰饑死如何 甕額曰 此至津頭只三町至二日有倒者尸三十五。其存者亦皆氣息淹々 於是比村建議議五大穴而叢埋之。穴二百五十人 皆良民也 嗚呼悖 宿小野驛。去松島三十里

三十日晴 北風凄其 經數驛至石卷。是爲奥中第一馬頭也 乃北神河之委也 海舶百余隻依岸而泊。

松島記 甘雨亭叢書作鹽竈松島圖誌序

源 君美

天下名山水世之所稱可勝數哉 而號爲神奇靈秀者多在東西焉 萬物之生發育於東 摯成乎西。蓋天地英靈之氣所鍾。不在乎此 必在乎彼。理或然也。司馬遷曰 禹本紀言河出崑崙。崑崙其高二千五百餘里 日月所相避隱爲光明也 其上有醴泉。瑤池 今自張塞使大夏之後也窮河源惡睹本紀所謂崑崙者乎 故言九州山川尚書近之矣 至禹本紀山海經所有怪物 余不敢言之也 美於蓬萊言之亦然。其物禽獸皆白 黃金銀爲宮闕 皆是燕齊怪迂之士夸誕虛妄之言 今夫我東方國於萬國之東 去此巳東寸土尺壤。似稊米粟粒之不在。則知古之所謂日下暘谷。幡木扶桑太平之人 君子之國 及神仙之居皆是我式國之中 或今古異稱 或方言殊譯 不可得而考 乃者文明之世 美奉明旨 屢遇西洋喎蘭地人 以訪四方風俗 喎蘭地人者以善游布地名天下焉 且觀其國所鏤萬國地形員毬等圖 略聞其說 我在東方 則大地上下極際 而我東方之東 一邊地轉出於彼所 謂地平線下 蓋東陸瀕海之處 古人以爲天地奧藏是已 美竊以謂 是則陰陽晝夜之所分 而衣被月日之精華 最爲萬國之先 易曰 元者善之長也 天地之至美 必其在乎此 乃觀夫鹽竈松島等圖誌 則知其果然矣 但其地名 古來之冊 大朝

地志散亡久矣、無由考詳。已今據闔誌、其地則在大海之濱。曲岸回渚連抱四合、隱若大環。獨缺其東十二鹽竈之浦在其南隩。而有左右二社。蓋是太古神聖、始作魚鹽之利以贍民用。後世尸而祝之社而稷之、舊稱曰志波日子神社。方言志波即鹽也　日子古之尊稱。皇家祀典亦與焉　郡名宮城。蓋神聖之墟也。去此水行一十二里。而到松島在其西灣。海中洲嶼大小凡百　赤崖白沙碁布星列　登高望之則鬱々蒼々　皆是青松之所蟠根也、故名云、若夫雲烟開斂、濤瀾起伏　鳧雁飛鳴於其下。而四時朝暮。雨暘晦明　變化倏忽不可盡狀。古之所謂蓬瀛之洲、其奇如此耳　而前人之述亦備矣　余復何言　雖然有一焉、東陸之州　古稱其俗勇悍、好相殺略　美嘗聞東方之人仁也　其俗尚如此　何其反也。古者是州爲毛人所據久矣　漸染之弊或其然也。仁者必有勇豈是其天性歟　昔岐豐之地周人用之以興起二南之化秦人用之、有併吞八州之氣。顧其導之之術如何耳。況州之人士出乎其性者哉　孔子曰　齊一變至於魯々一變至於道。安知其風俗之變因俾其山水專美於天下哉　若其登臨遊覽之勝　以此自多而已　非美之所望也。於是乎言

松島文庫序

釋　古梁

名區之於天下也。譬諸才子之於世焉。人既定矣論既定矣　如處於聖賢之域者　唯三勝爲爾矣　三勝也者蓋我松島、藝之嚴島、灘之天橋也、其目不知防於何時。定於何人。而其優劣之辨未易適從焉　或貶松島以鄙陋嚴灘天橋以中州、是安在論隲勝槩乎　湖杭山水未開以邊所斥也　且濟勝探奇四美二難。亦曷爭寸長尺短於天開神造之地乎　若夫風流之所感逸興之所觸　叩谷響於寂濱、挹淸風於天表。芙蓉一撮雪赤石半規月　可以傳諸天下後世也、余來斯邦一住十年矣、金華峯出門剌目

松嶋之濤側首沃耳而不能蔵遊。必文之詩之既
經四五遊未能窮其奇也 竊自論之松嶋似宜
居二勝之右焉 自夜丈人東都人也。來遊松嶋既
其靈秀之冠。歌詩之。富而莫編輯之。以傳者。今製
一方策首藏古人之詠繼以當時之諸作從此以往
將墜金玉於無窮矣。嗣遊君子若綴篇於方冊勒
名於勝域則庶幾使江霞不虛映山鶴不抓唳遊
懷有歸芳躅得託耳。若其濫巾竊吹徒方山水之都
部論風俗之研蚩則不翅貽嘅於風流抑亦名區之
屋澤也而已矣

送後藤子文遊松島序　野田笛浦

後藤子文任學積年嘗其所書 今茲八月將遊奥
之松島屬余文以寵其行。乃告曰 甚矣哉 海與嶽
之爲師也宜矣 學人之僕々焉 不能已於遊也 曰
海嶽者海嶽而已 疑而問海嶽 海嶽不言也 惑而質
之海嶽 海嶽不答也 彼巍然峙且流者 果何所師也
曰造物者我師也。造物之尤者爲海嶽 海嶽師之尤者
也蓋人有所疑有惑物然鬱於中。鬱而不暢積而
不散。達人先覺費歳月之力巧論善導。而遂無啓發。
於是乎不得已而亦浪於彼海與嶽之間觀而娛
娛而形開。形開而神開疑不期釋而自釋惑不期解
而自釋。鬱者暢且散莫之致而然 則不言不答豈
々乎賜人於光明之域使其惶然有悟者非海與
嶽耳師而不敢之海與嶽人將孰取焉。余之持斯
說也久矣未敢告人也 夫世之游海嶽者滿天
下矣而不其告何哉 曰無可告之人耳 不疑不
惑非可告之人 不悱不憤非可告之人 可告之人
而能游者吾子文松島之行歟 斯人而有斯游孰不
欲舉其說以告 今夫松島之爲勝萬嶼一碧 無復
異義 蓋海嶽之宗師也 波瀾峯巒立其德度也。烟雲變幻。
潮汐吞吐其文章也 濤拗浦激自當得所者其才能
也 峻崖削壁巍然屹然 嶷々然者其威儀也 倒之而
言八十八洲 枝者備焉之觀 莫往而非子文之宗師
也 仰以觀於高俯以察於深 一俯一仰 形神開朗。

疑不待問而自釋然。不待質而自解。鬱者暢而積者散。達人先覺發歲月之力。乃喩善道而不及者知有啓發於斯游矣。壯哉游乎。吾將觀其歸也。挾天下之宗師以往東海之表矣。鳴呼游之爲道不能已。而吾亦不能已於告之矣。

題坪碑圖　　林子平

坪讀作壼俗作壺者誤也。（坪蒲兵切。音平地平處。壼苦本切。音悃。宮中衢。亦爾雅宮中衖。郭璞曰。衖閤間道也。亦詩大雅。其類維何。室家之壼。）此碑也在陸奥州宮城郡多賀城址。（址本作北。）陸奥國宮城郡風土記云。坪碑在鴻之池。爲故鎭守府門碑。惠美朝獦立之。見雲眞人請書也。記異域本邦之行程。令旅人不迷途也。此碑作坪碑。亦作壼碑。其是可謂道路之碑之義也。雖然稱壼碑者。不知始于何人也。唯因風土記爲坪碑者。可爲是也。而因爲鎭府門碑之文。則建于碑於城門外而大道。令人知四方之行程者也。此碑記五方之行程。謂去蝦夷國界一百二十里也。方謂一百二十里者。准于今法二十里。（六尺爲步。六十步爲一町。古以六町爲一里。今則三十六町爲一里也。故謂古之一百二十里者。乃准于今之二十里也。）則知桃生郡以北。盡沒于夷地也。其桃生郡者。在陸奥州中央以南之地也。考之國史。往昔夷人侵凌陸奥北邊。而動乃入寇奥南野總之諸州也。故東征之役無已者千有余年矣。而桓武帝延曆中。征東將軍坂上大宿禰田村麻呂。驅夷人而悉收陸奥開地者。九百里。（自桃生郡至于南部大間濱。其行程則今法之一百七十余里。乃古之九百里也。）因海爲塞。則陸奥無征伐之事者六百余年也。可謂實是征東將軍之大功也。其後後花園帝嘉吉三年。武田太郎源信廣。越海而入于松前。遂得地者七百里。（自大間濱隔一條海水。而以北乃松前之地境也。自松前南界。東北行。今法之一百里。計乃古之六百里也。是乃今之蝦夷國界也。）自是子孫世世據守其地。迄于今也。　松前地方雖絶海

乎。猶様陸奥也。因是觀之、方今宮城郡、鎮府吉城者。去蝦夷國界爲一千六百二十里也、田村麻呂之所開九百里、源信廣之所得六百里、加以書吉之一百二十里、則爲一千六百二十里也。今世立碑者、因其碑文而不知、有蝦夷國界之道法、古今近遠之差也。故新記附、觀者詳焉。

壺碑圖　　清　僧　赤　城

攷、壺碑在陸奥州之多賀城、相傳惠美朝獦立之道。今年已千計、撰立碑之意、不過使四方行程者適所從來、余本華人、安能詳焉。今仙臺林子、特碑見示、觀其筆法、古勁專倣古人。若論其精細、則豈敢離。然絶海東方唯見有此書耳、且至於道里之詳近、山川之志異、恐非余所能審稽者、是爲跋。大清乾隆四十三年、歳次戊戌重陽前三日。書於崎陽客館、與超伏學釋赤城。

跋松島平泉二編　　田　省

詩之爲清物也、達人之論盡矣、是以古来高僧往々不廢吟咏。杖舄所至、篇章亦多。山溜之音、松篁之聲。給納麗藻、自然渾成、不減於風騷之士。日鍛月煉苦心所得也。名家精撰。收入其作、以爲後昆模範。大年香大師、幼齡脱白歸華、闘中堂大師、究明祖宗閫奧、蘊藏、精熟楷草、善解華音、旁及青詩之集。黄檗之禪莫不洞曉、剖析通審、其無暇、宜乎奇趣妙致、隨時而異。古體近律逐興而出。丙申之秋、探勝松島、丁酉之夏、遊平泉。再至松島、外逢佳境、内發雅思、隨地而有、因物而形、詩集已定。偏囑愚大師作序。更兼約里跋其後尾。嗚呼夏之山川聞乎天下、而助清韻者尚矣。然相像之所由。有假而不直焉者、而令此編所載、鉅細疎密、宛在几案、前使有古之負而走、而來而獻之、亦何異於是乎。自此神遊靈境、寄托依憑幻出四方、快使大觀、而忽脱纏縛、超然會心者、何限。窃廣詩出於僧而愈清、僧得於詩而益高、況道眼圓明、玲瓏洞達、遊戲自在、出入無礙、則於大師不可以詩之爲清物論之也歟。享保二年孟冬

之月。桐江釣叟。援管于苦竹叢處

題松島圖後　　賴春水

距今二十年。余從家嚴爲松島之遊。其泛湖嶼之間。篙手爲余指點。舍舟陟巖。旁探勝區。導者又爲指點。今對斯圖。恍然興發不能自已。當日篙手導者之言。土音啅㗲。詰應數四。竟不能了者。展閲輙皆了然。文晁之妙于造圖。使人得斯一快。文晁一家風流好事。乃翁嗜詩好山水。文晁躬往其地。圖而樂之。乃與乃翁游。又與弟妹品賞愛玩。則又與諸眷游。今亦梓而廣其傳。則亦能使世之好事者得游焉。余亦因以得爲再游想。豈不欣荷哉

書東齋富山全圖之上　　釋古梁

相傳自富山西望。見富岳于雲間千餘里之外。因以名之。或云富于勝之謂也。夫松島與富山唇齒也。松島之圖久布天下。可富山而獨無乎。探勝之士多慨焉。今玆山主請東齋主人圖之。刻以藏於本寺。有就而求者贈之。欲播其美於海內。以爲山水之善知識。奇哉此圖。刷稿數本。更請于數人。而始得彷彿其真焉。俗稱松島之勝全在富山。非夸言也。

文化庚午初夏之吉。

書田竹亭松嶋圖上　　釋古梁

近則玩。玩則厭。人之常情也。山水不亦然乎。近於通邑名都者。必所近而玩。亦山水之辱哉。世或以遐僻病松嶋。而不知其爲之一大幸也。島距府亦不邇。雖藩之士庶不得常遊。況天下之人乎。今圖而傳諸四方。亦縮萬頃於尺寸。以爲几案之玩。則辱江山之罪。其將誰之歸與。辛未初秋望。卒題於新々亭。

大窪天民松島詩序。　　同

先生松島之遊。勝與詩映發。如奇遇相得者。脫口肆意。初無停輟。前後得詩數十章。流離滿翰。彙而爲編。觀者誦之不足。將繡梓傳之。屬余以一言。蓋其詩中已言。松島無一詩。今斯有此詩。而亦無一辭可以贊焉。其亦何言也乎

復海雲麟師　　　田　省

松島雲師寄書招余。是由茂陵眉老尋約探幽也。遂本月十二日。跨驢而行遇眉老於途。眉老下與老夫繫驢挂長劍。相對而譚。而後眉老異途。赴龍藏。老夫直至鹽竈而待。酒猶未發。醉眉老亦至。於是買舟道遙漸覺耳熱。中流爲風所醒。却成清冷。眉老命童子出茶飲之數椀。轉覺慶快。及至岸眉老往天麟。老夫欲投是於天童。而携東發及僕右仰左臺。斜穿石徑。遂拾洞戶。應聲而出者。乃雪道人也。老夫驚喜不已。問所以在此。道人曰。秦老特教不肯出。漸令待先生。笑語而入秦老喜甚。特道人出寶函恍如對玉。長途之勞。立地消釋。俱以高坐不至抱慊許多。側聞爲宿疾欲浴白石温泉。爾時取路僊臺。想良期在於夏五之前。高坐受針法於鳳城意齋之門。老夫肚裡痞塞。或時漉々有聲。願下妙手計日而瘥之。松嶋之遊有過於去年之勝。而缺々不樂。眉老去後。猶留十餘日。與諸老倡和。有文有詩香不滿懷。夜深就枕必發腹痛。若小敦搜遊而來陪。待老夫由行舟行。及松院竹舍道入小敦莫不追隨東發纏綿三日。倦遊而歸。是以客館惟三人日晏而眠。不見忽忙之態。亦爲天幸也已。老夫今日將歸艸々布復。艱難舉筆。故教道人代書伏冀恕宥。

寄海雲麟師　　　田　省

三處西湖併與兩處赤壁而有吟遊忘返者。景之與人圖書以傳。而今四海昇平無有不可遊處。吾國名勝不減諸夏者比々。則我輩風月生涯守株一方。所謂自成癡獃者也歟。雖然家貧身老。而由要頑兒一賴代耕之力。故有志未果。豈勝長太息哉。奥有松嶋。而四時佳勝。檀美今古。就中最明於秋而教人發往者。萬古之月也。遂跨蹇驢而投天童者。自中秋前一日至二十日。藹々濛々。纔見玉蟾者兩夜而已。隨我而遊者。雲濤一人也。而濃水亦爲塵事所遮掩。不能同入廣寒宮裡。今日將欲還

家雪子忽解纜出。師舊作詩文以求題畫、而以
晝夜日不交睫昏困已極。揮手屏斥曰。吾子此去。海
雲日昇露降時。當爲老夫報知師晚秋初。竣事無
澤直訪老隱於市隱高臥處。親求指摘若質疑難。乃
扶杖而出。安臥船底。雪子日送一葦出沒於嶋嶼中
而去。老夫夢醒。中流却回。烟棹更入天章。磨墨舐
筆塗抹一度與雪子。時有童號笑月。爲老人酌酒
且吟。一詩曰、蘇軾赤壁。林逋西湖　君遊松嶋。併爲
書圖。

答白河藤子直　　釋古梁

自定交簡牘數年于玆。雖二百里之不甚遠、而河
漢之。每西客至、聞樂誦高義艶說雅尚、愈增瞻
依焉。春間接教書、辭懇到、感喜曷罄。所貺雁皮牋、
始得見巨幅如此者。滑瑩發墨。橋腕得靈。若其東
都名勝圖。則纖密而瞭晰　奇工幾過西洋之技。余離
東都已十年矣。揭諸壁間、日神遊於佳麗豪華之間。
豈足下得之化人。而穆滿余乎。第能致人於千里。

而不能借以揚前尺之地。爲可恨耳、覺所託研匣
及部銘。因循至今。松嶋之新村。該備不中製。有藏
未松山之枯斷者。請以代之。製已竣、雖工亦陋、何
任供君子之清玩哉。重以部辭、所謂奇醜。而捧心
者多見其不知羞也。請咲而擲置諸。拙詩一章。以
解綬報之非貳。併謝書貺之辱。詩筆草々何能罄
蘊。統特炤諒。

鹽松勝譜卷之二十　畢

鹽松勝譜引證書目

一觀跡聞老志　洞巖
一封內名跡志　田邊希文
一松島諸勝記　夢庵和尙
一同附言同追加　象外和尙
一松島巡覽記　相原三畏
一松島夜話　天嶺和尙
一木齋記年錄　游佐好生
一松嶋記　白石先生
一東奥紀行　赤水
一鹽浦松島名勝考並洞巖圖　京師梓行
一松島紀行　紀平洲
一東遊紀行　丸山可澄
一同和文　丸山可澄
一漫遊文章　澤村元凱
一鹽松紀行　南山禪師

一遊東陬錄　松崎慊堂
一東海漫遊草　富春叟
一松島記行　和氣行藏
一遊囊叙錄　倉成善司
一鹽松記行　廣瀨大八
一草廬雜談　青木就丸
一好古小錄　藤貞幹
一柳菴隨筆　源信充
一年山打聞　安藤爲章
一東牖子　田宮有
一先哲叢談　東條耕
一俗說辨　井澤長秀
一換鵞百譚　廣澤
一閑田耕筆　伴高蹊
一新佐手簡　工藤鞏卿
一蘭洲瑣語
一輶軒小錄　東涯

一青梧園漫筆　河村榮壽
一梅村載筆　林道春
一金銀譜　松島小判
一燕南紀譚　釋天嶺
一松島天台記　松島瑞巖寺藏
一都土產　釋宗久
一南留別志　物徂徠
一松島記行　只野氏室眞葛子
一七濱巡　同上
一田子雜錄　柏樹翁
一甕塵錄　大內好夾
一壺碑考　洞巖
一壺碑考　藤塚鹽亭
一燕澤碑考　藤塚鹽亭
一嚶鳴館集　紀平洲
一燕澤碑文考　志村五城
一松島日記　清少納言

一滄洲集　新井義質
一徂徠集　物徂徠
一春臺集　太宰春臺
一王屋文集　富田充
一東涯集　伊藤東涯
一扶桑名勝詩集　吉田玄俊
一和漢三才圖會
一霞崖遊記　賴千秋
一霞崖文集　賴千秋
一元亨釋書　虎關
一扶桑禪林僧寶傳　高泉撰
一延寶傳燈錄
一日本天台先德記　定珍撰
一雲居年譜　釋西山
一百八要歌　雲居禪師
一本朝高僧傳　高泉
一松島平泉二集　大年寺主香國

一奥細道　芭蕉庵
一行脚集　三千風
一神社啓蒙　白井宗因
一神社考　林道春
一公事根元　林道春
一清悦物語
一藻考　白石先生
一古事記　太安麻呂
一古語拾遺　忌部廣成
一日本書記　舎人親王
一日本後記　春澄善繩
一續日本後記　藤原良香
一文德實錄　藤原基經
一三代實錄　藤原時平
一和名抄　源順
一延喜式　藤原時平
一盛衰記　葉室時長大納言

一義經記
一太閤記
一關原記
一新編東國太平記
一本朝隱逸傳　深草元政
一仙臺間語　林笠翁
一東海談　篠崎子文
一擁書漫筆　高田與清
一源氏物語　紫女
一伊勢物語　伊勢
一春曙抄　清女
一撰集抄　西行
一沙石集　無住法師
一袖中抄　釋顯昭
一藻鹽草　月村齊宗碩
一八雲御抄　順德院
一歌枕　能因

一夫木和歌抄　藤原長清
一童蒙抄　範兼
一山家集　西行
一歌林良材集　一條良兼
一奥儀抄　藤原淸輔
一東遊奇談　一無散人著
一一夜花　僧海量
一仙臺武鑑　佐藤東藏撰
一譚海　藍川世恭撰
一似雲奥州記行
一蝦夷志　白石先生
一可成譚　物徂徠
一近世畸人傳　伴蒿蹊
一獨語　太宰春臺
一金華山記行　朱桃
一平泉實記　相原友直三畏
一東路土產　宗長
一雲遊前錄　關赤城
一鹽竈神社非祭辨　洞巖
一同非々祭辨　游佐好生
一坤齋日抄　西島蘭溪
一東海行　僧法忍
一松島日記注　伊勢安齊
一東游雜記　古川辰古號松軒
一漫遊記　建部凌岱
一領內風土記　眞山淸成
一桂林漫錄　中良著
一行脚集　三千風
一奥州名所圖會　大場山城
一二十四輩順拜圖會　河州專敎寺了貞撰
一封內玉露　犬飼某撰
一一齋文集
一類聚國史
一和漢辨續篇　福王信近

一燈前新話　虎岩道說

一東遊行囊鈔　江間氏親編

一私案鈔　武藏深大寺僧長辨著

一師門物語　高田與淸藏

一簪纓武鑑　夏月定房撰

一白川故事考　廣瀨氏典撰

一蓮壁集　藤荷澤父子詩

一醫王山東光寺記　釋覺天撰

一燕澤碑考　西村文中字熊通撰

一黃葉夕陽村舍詩　菅茶山

一古河辰東游記

一紳書　白石先生

一鹽竈舊祠宮東鹽氏傳

一太宰春臺紫芝園漫筆

一市隱草堂集　安修

一蘭亭詩集　高子式字維馨

一草廬集　龍玄美

一閒居遺稿　宇鼎

一崑玉集　湯淺元禎

一小草初篇　合離

一玄圃集　大江資衡

一芰荷集　石正猗

一生駒集　孔文雄

一一雨餘稿　僧元明

一琴所稿刪　澤維顯

一嵊州遺稿　罔孝先

一獅公松浦島記行

一南畝莠言

一居行子

一珍奇日新

一短知雜聞

一藝苑日抄

一仙臺人物史　虎岩道說著

一達鑑

一春日古記
一法身禪師傳略　松島桃源比丘撰
一日本文鈔
一本朝文粹　河原院賦藤原明衡撰
一續日本記　菅原眞道　藤原繼綱
一風土記殘篇
一和漢雜箋或問　水府鵜飼信興著
一和漢合運
一舊事本記　聖德太子曾我馬子
一坤齋日鈔　西島長孫元齡號蘭溪
一前九年記　一後三年記
一二十一代集　一色葉和難集
一貞公年譜　一德川御年譜
一天遊館記　一鎌倉實記
一東國名勝志　一奧州里諺抄
一風土萬葉　一山陽詩鈔
一東乃記行　一一齋文集

一田村麻呂傳　一宴曲集
一北國記行　一東路裏
一梅花無盡藏　一東海遊囊
一本朝語園　一虛實雜譚
一陸奧話記　一封内古城錄
一怪異辨斷
一北海游簿　美濃長丘讓士讓著又有松島記行
一東鑑
一阿古耶松　藍川貞正恭奧州紀行此人潭海撰者
一夢窓傳

仙臺叢書別集第四卷　畢

大正十五年七月八日印刷
大正十五年七月十日發行

仙臺叢書別集卷四

（非賣品）

編輯兼發行者　宮城縣名取郡岩沼町南館下三番地
鈴木省三

印刷者　宮城縣仙臺市教樂院丁六番地
山本晃

印刷所　宮城縣仙臺市教樂院丁六番地
東北印刷株式會社
電話二八七・八六〇

發行所　宮城縣仙臺市勾當臺通二十八番地
仙臺叢書刊行會

GANNAN-DO
巖南堂書店
TEL.(261)0.396
東京·神田神保町二ノ二

UNIVERSITY OF TORONTO
LIBRARY

WILLIAM H. DONNER
COLLECTION

purchased from
a gift by

THE DONNER CANADIAN
FOUNDATION

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03084 4039